FUJI Xerox

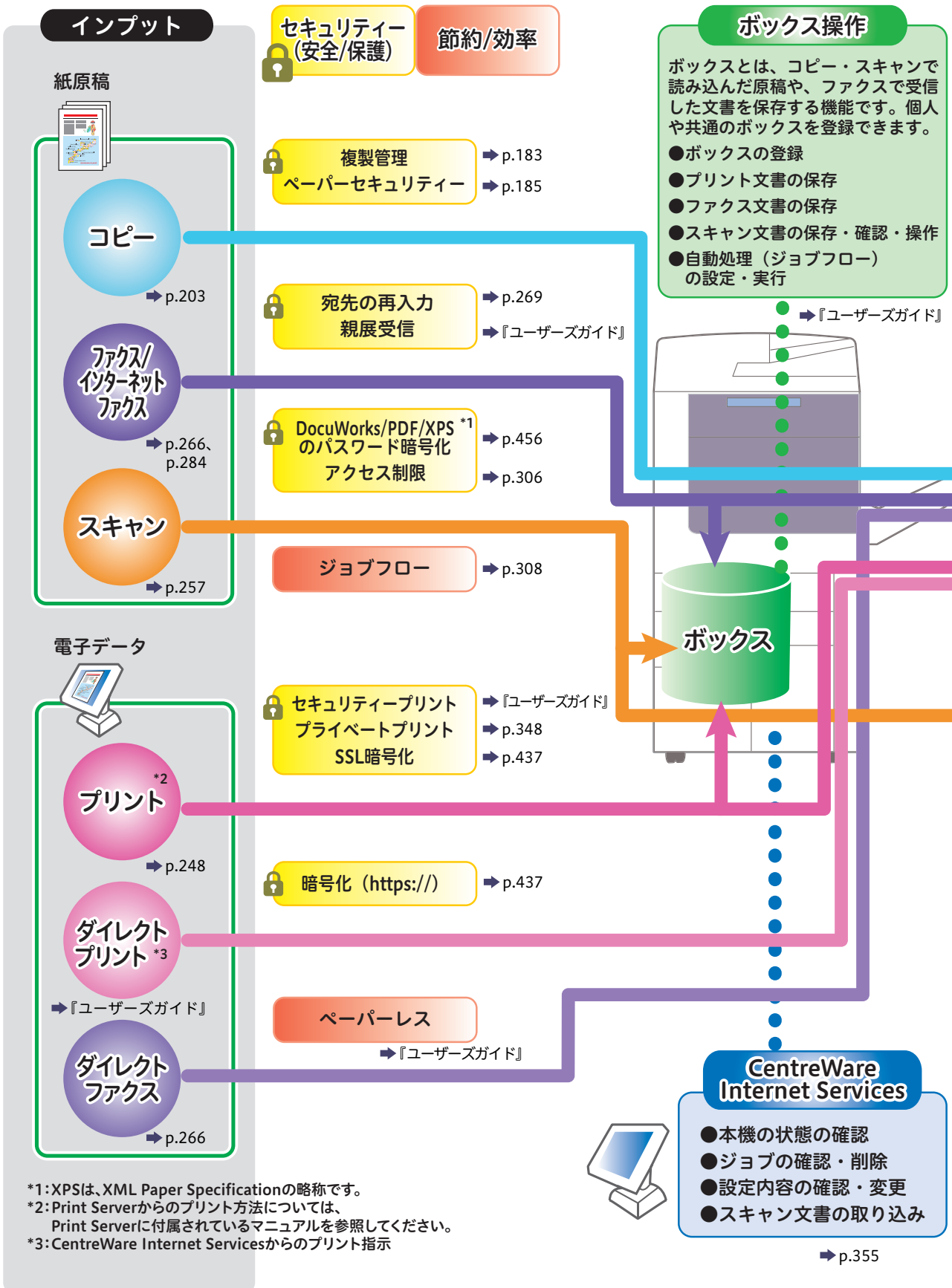
ApeosPort®-V 7080 N
ApeosPort®-V 6080 N
ApeosPort®-V 5080 N
DocuCentre-V 7080 N
DocuCentre-V 6080 N
DocuCentre-V 5080 N

管理者ガイド

管理者の操作について説明しています。
コピー操作、スキャン操作などは
ユーザーズガイドをご覧ください。

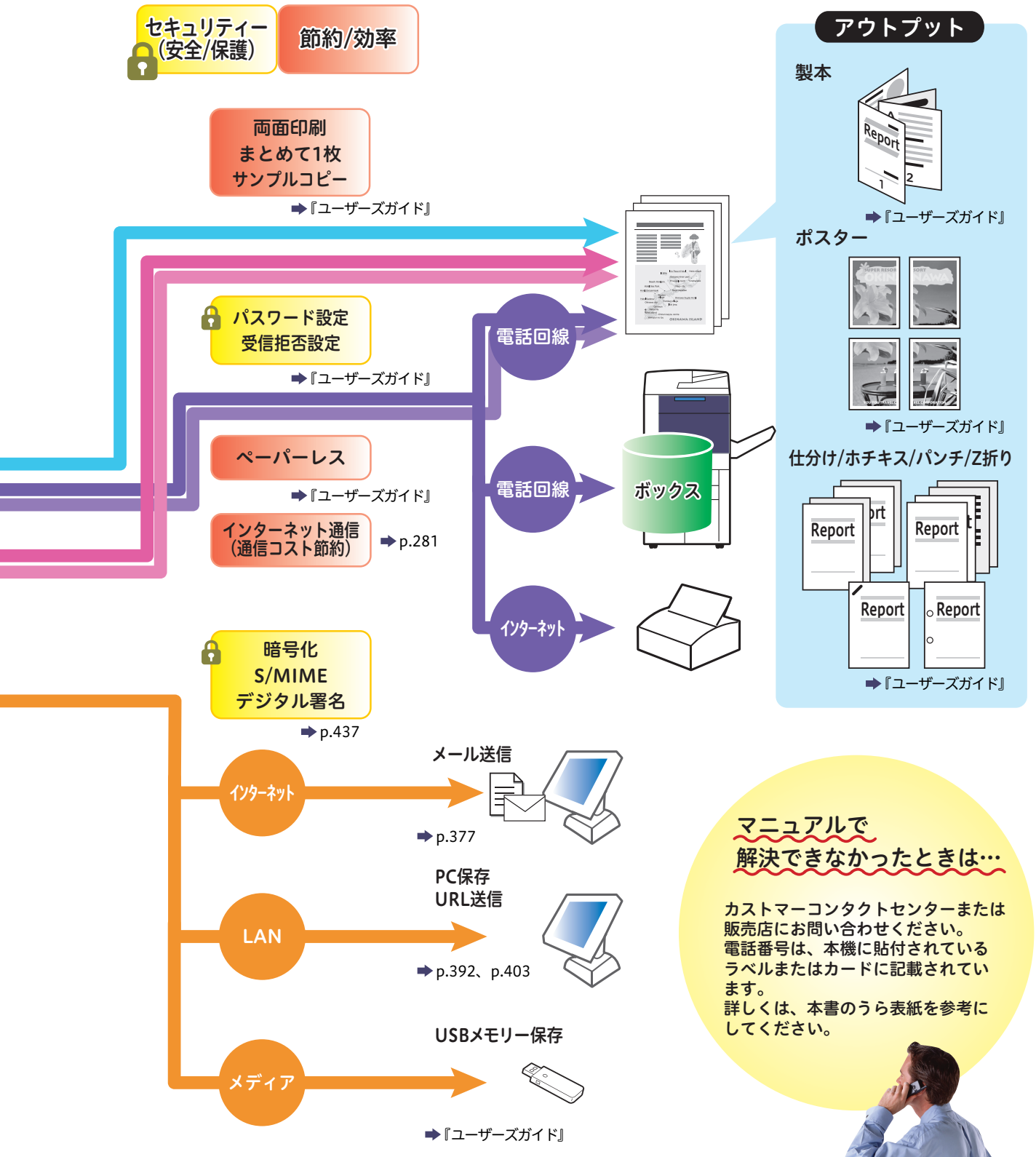
こんな機能があります

ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N は、オフィス内のドキュメント出力や活用を、安全で効果的に実現するために、さまざまな機能を用意しています。
機種によっては、オプションが必要な機能があります。オプションについては、弊社の営業担当者にお尋ねください。



*1：XPSは、XML Paper Specificationの略称です。
*2：Print Serverからのプリント方法については、
Print Serverに付属されているマニュアルを参照してください。
*3：CentreWare Internet Servicesからのプリント指示

ページ番号を記載している機能は、この「管理者ガイド」で説明している機能です。今まで使わなかった機能など、是非ご利用ください。



マニュアルで解決できなかったときは…

カストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
電話番号は、本機に貼付されているラベルまたはカードに記載されています。
詳しくは、本書のうら表紙を参考にしてください。

本書の中で、商品提供者として「富士ゼロックス株式会社」が使われている場合は、
「富士フイルムビジネスイノベーション株式会社」と読み替えてください。

Microsoft、Windows、Windows NT、Microsoft Network、Windows Server および Internet Explorer は、
マイクロソフト グループの企業の商標です。
Adobe、Acrobat、Reader、PostScript、PostScript 3 および PostScript ロゴは、
米国ならびに他の国における Adobe の登録商標または商標です。
Macintosh、OS X および macOS は、Apple Inc. の商標です。
HP、HP-GL、HP-GL/2 は、日本ヒューレット・パッカード社の登録商標です。
BMLinkS は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）の商標です。
Unicode は、Unicode, Inc. の商標または登録商標です。
RSA および BSAFE は、EMC コーポレーションの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Cisco は、米国およびその他の地域における Cisco Systems, Inc. の登録商標です。
ThinPrint は、ThinPrint GmbH のドイツおよびその他の国における商標または登録商標です。
FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。
FeliCa は、ソニー株式会社の登録商標です。
MIFARE は、NXP セミコンダクターズの登録商標です。
SSFC は、大日本印刷（株）の登録商標です。
Google Cloud Print、Gmail、Google ドキュメント、Android は、Google Inc. の登録商標または商標です。
その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。
Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

ライセンスについては、『ユーザーズガイド』の「ライセンスについて」に記載しています。

万一本体の記憶媒体（ハードディスク等）に不具合が発生した場合、受信したデータ、蓄積されたデータ、設定登録されたデータ等が消失することがあります。データの消失による損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

コンピューターウイルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

この取扱説明書のなかで⚠と表記されている事項は、安全にご利用いただくための注意事項です。必ず操作を行う前にお読みいただき、指示をお守りください。

本機には偽造防止機能が搭載されているため、まれに原稿によっては適切なコピーやスキャンデータが得られないことがあります。

本機を輸出（又は非居住者との間で役務取引）する場合は我が国の外国為替及び外国貿易法及びこれに付随する法令等ならびに米国輸出管理規制を遵守してください。

平成明朝体™W3、平成角ゴシック体™W5 は、財団法人日本規格協会を中心に制作グループが共同開発したものです。なお、フォントの一部には、弊社でデザインした外字を含みます。許可なく複製することはできません。

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
④ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。
万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
⑤ 本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。

Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。
ApeosPort、ApeosWare、DocuLyzer、および DocuWorks は、
富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

目次

1 お使いいただく前に

はじめに 18
マニュアル体系 19
本書の使い方 21
本書の構成 21
本書の表記 22
インターフェイスケーブルの接続 24
USB インターフェイスでの接続 24
Ethernet インターフェイスでの接続 26
節電機能について 28
節電モード移行時間を変更する 28
操作パネルの設定変更について 31
初期表示画面を変更する 31
自動リセット後の画面を変更する 33
機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する 35
〈登録〉ボタンに機能を割り当てる 41
画面の明るさを調整する 42
タッチパネルの使い方 44
本機を安全にご利用いただくために 47
文字の入力方法について 48

2 用紙のセット

用紙について 50
使用できる用紙の質量と枚数 50
使用できる用紙の種類 52
用紙をセットする 60
用紙トレイ 1、2 に用紙をセットする 61
用紙トレイ 1、2 にインデックス用紙をセットする 62
用紙トレイ 3 に用紙をセットする 63
用紙トレイ 4 に用紙をセットする 64
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする 66
用紙トレイ 5（手差し）にインデックス用紙をセットする 67
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））（オプション）に用紙をセットする 69
用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ（2 段））（オプション）に用紙をセットする 70
用紙トレイ T1（インターポーザー）（オプション）に用紙をセットする 71
用紙トレイ T1（インターポーザー）（オプション）にインデックス用紙をセットする 72
用紙サイズを変更する 73
用紙トレイ 1、2 の用紙サイズを変更する 73
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）（オプション）の用紙サイズを変更する 74
用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ（2 段））（オプション）の用紙サイズを変更する 77
用紙の設定を変更する 80

3 日常の管理

消耗品を交換する 84
トナーカートリッジを交換する 86
トナー回収ボトルを交換する 89
平とじ用ホチキス針を交換する（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時） 92
ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー D2 、中とじフィニッシャー D2 装着時） 94
中とじ用ホチキス針を交換する（中とじフィニッシャー C3 装着時） 96
中とじホチキスカートリッジを交換する（中とじフィニッシャー D2 装着時） 99
パンチダストボックスの切りくずを捨てる（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3、フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 装着時） 101
ホチキスダストボックスを交換する（フィニッシャー D2 、中とじフィニッシャー D2 装着時） 102
本体を清掃する 105
本体外部の清掃 105
タッチパネルの清掃 106
原稿カバー、原稿ガラスの清掃 106
原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃 107
原稿送り装置のローラー部の清掃 108
レポート / リストをプリントする 109
誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する 110
設定復元ツール 111

4 機械確認

機械確認の概要 114
機械状態 / レポート出力 115
機械情報 115
用紙トレイ 117
レポート / リストの出力 117
自動的にプリントするレポート / リストについて 129
HDD の上書き消去 130
プリンターモード 130
ファクス受信モード 134
エラー情報 135
消耗品確認 136
メーター確認 137
メーター確認 137
ユーザー別メーター確認 138
機能別カウンターのリセット 139

5 仕様設定

仕様設定の流れ 142
Step1 機械管理者モードに入る 142
Step2 機械管理者の User ID、パスワードを入力する 142
Step3 ［仕様設定 / 登録］を選択する 143

Step4 ［仕様設定 / 登録］画面から項目を選択する 143
Step5 機能を設定する 146
Step6 機械管理者モードを終了する 146
仕様設定メニュー一覧 147
仕様設定メニュー一覧 147
登録 / 変更 160
集計管理 161
認証 / セキュリティ設定 162
共通設定 163
システム時計 / タイマー設定 163
節電モードの設定 166
音の設定 168
画面 / ボタンの設定 169
用紙 / トレイの設定 175
画質の設定 178
レポート設定 178
保守 180
複製管理 183
ペーパーセキュリティー 185
強制アノテーション 188
UUID 印字 190
イメージログ管理（ApeosPort シリーズのみ） 190
ジョブ終了時のメール通知設定 193
プラグイン設定 194
その他の設定 194
コピー設定 203
基本コピー画面の表示機能 203
プリセットボタンの設定 204
コピー機能設定初期値 204
コピー動作制御 209
原稿サイズボタン 211
固定倍率ボタン 212
アノテーションスタンプ登録 212
ネットワーク設定 213
ポート設定 213
無線 LAN 設定 220
プロトコル設定 220
本体メールアドレス / ホスト名 226
プロキシサーバー設定 226
EP プロキシサーバー設定 228
次世代ネットワーク（NGN）設定 229
SIP 設定 229
T.38 設定 233
メール送受信設定 234
外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定 235
セキュリティ設定 241
その他の設定 246
プリンター設定 248
メモリー設定 248

フォーム削除 251
Google クラウドプリント登録 252
その他の設定 252
スキャナー設定 257
スキャナー画面表示設定 257
スキャナー機能設定初期値 258
PC 保存機能設定初期値 261
読み取りサイズボタン 262
出力サイズボタン 262
固定倍率ボタン 263
その他の設定 263
ファクス設定 266
ファクス画面表示設定 266
ファクス機能設定初期値 267
ファクス動作制御 269
受信文書の保存先 / 排出先 276
固定倍率ボタン 278
読み取りサイズボタン 279
自局情報 279
インターネットファクス動作制御 281
メール / インターネットファクス設定 284
メール送信動作制御 284
宛先表設定 288
ボックス設定 289
ジョブフロー設定（ApeosPort シリーズのみ） 291
メディアプリント設定 293
保存文書設定 294
外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ） 297
サーバー証明書の検証を行う場合の設定 297
接続先の登録 299
その他の設定 301
Web ブラウザー設定 302
BMLinkS 設定 304
登録 / 変更 305
ボックス登録 305
ジョブメモリー登録 308
ジョブフロー登録 308
ジョブフロー検索キーワード登録 318
宛先表登録（短縮宛先登録） 318
宛先グループ登録 328
コメント登録 329
用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定 329
集計管理 330
ユーザー登録 / 集計確認 330
登録内容の削除 / 集計リセット 334
機械管理者のコピー集計確認 335
集計管理機能の運用 335

集計管理情報の設定 336
ファクス課金データ設定 338
認証 / セキュリティ設定 339
機械管理者情報の設定 339
認証の設定 341
強制印字の一時解除 351
ジョブ操作の設定 352
ハードディスクの上書き消去設定 352

6 CentreWare Internet Services の設定

CentreWare Internet Services を使うための設置 356
事前準備 356
本体側の設定 356
CentreWare Internet Services を起動する 358
CentreWare Internet Services を使って設定する 359

7 プリント機能の設定

プリント機能の概要 364
USB での設置 367
Step1 事前準備 367
Step2 本体側の設定 367
Step3 コンピューター側の設定 368
CentreWare Internet Services で設定できる項目 368
TCP/IP （LPD/Port9100）での設置 369
Step1 事前準備 369
Step2 本体側の設定 369
Step3 コンピューター側の設定 371
CentreWare Internet Services で設定できる項目 371
インターネット印刷（IPP）での設置 373
Step1 事前準備 373
Step2 本体側の設定 373
Step3 コンピューター側の設定 374
CentreWare Internet Services で設定できる項目 374

8 メール機能の設定

メール機能の概要 378
事前準備 380
設定手順 382
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 382
Step2 メール環境の設定 383
CentreWare Internet Services で設定できる項目 385

9 スキャン機能の設定

スキャン機能の概要.....388
スキャナー（ボックス保存）の設定.....390
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....390
Step2 親展ボックスの登録.....391
Step3 コンピューター側の設定.....391
スキャナー（PC 保存）の設定.....392
Step1 事前準備.....392
Step2 ポートの起動と TCP/IP の設定.....392
Step3 コンピューター側の設定.....394
スキャナー（マイフォルダ保存）の設定.....395
Step1 事前準備.....395
Step2 SMB ポートの起動と TCP/IP の設定.....395
Step3 外部認証の設定.....396
Step4 スキャナー（マイフォルダ保存）の設定.....397
Step5 コンピューター側の設定.....399
スキャナー（USB メモリー保存）の設定.....400
使用できる USB メモリーの条件.....400
CentreWare Internet Services で設定できる項目.....400
ジョブフローの設定.....401
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....401
Step2 SNMP ポートの設定.....402
Step3 コンピューター側の設定.....402
スキャナー（URL 送信）の設定.....403
Step1 メールの設定.....403
Step2 認証の設定.....403
Step3 その他の設定.....403
CentreWare Internet Services で設定できる本体側の項目.....404
スキャナー（WSD）の設定.....405
Step1 事前準備.....405
Step2 ポートの起動.....405
Step3 コンピューター側での確認.....406

10 BMLinkS 機能の設定

BMLinkS 機能の概要.....408
BMLinkS の設定.....409
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....409
Step2 SSDP プロトコルの設定.....410
Step3 仕様設定.....411

11 IP ファクス（SIP）の設定

IP ファクス（SIP）の概要.....414
企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を利用する.....414
必要な条件.....414
システム構成ごとの設定内容.....414
イントラネットを利用するための設定.....416

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定....416
Step2 SIP 本体アドレスの設定....417
Step3 ファクス環境の設定....418
Step4 SIP サーバーの設定....419
Step5 VoIP ゲートウェイの登録....420
次世代ネットワーク（NGN）を利用する....422
必要な条件....422
設定内容....422
NGN を利用するための設定....423
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定....423
Step2 次世代ネットワーク（NGN）設定....424
Step3 SIP サーバーの設定....425
Step4 ファクス環境の設定....426

12 インターネットファクスの設定

インターネットファクスの概要....430
事前準備....430
本機側に必要な条件....430
メール環境について....430
設定手順....432
Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定....432
Step2 メール環境の設定....433
Step3 インターネットファクステスト....435

13 暗号化と署名機能の設定

暗号化と署名機能の概要....438
証明書の種類....438
通信の暗号化機能....439
スキャン文書の暗号化と署名機能....440
HTTP の通信を暗号化するための設定....441
設置手順の概要....441
Step1 本体側の設定....441
Step2 コンピューター側の設定....444
IPsec を使用して暗号化するための設定....445
設置手順の概要....445
Step1 本体側の設定（証明書の設定）....446
Step2 本体側の設定（IPsec の設定）....447
Step3 コンピューター側の設定....447
メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定....448
設置手順の概要....448
Step1 本体側の設定....448
Step2 送信元と送信先の設定....454
PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名をするための設定（ApeosPort シリーズのみ）....456
設置手順の概要....456
Step1 本体側の設定....457

Step2 コンピューター側の設定 461

14 認証と集計管理機能について

認証機能と集計管理機能の概要 464
ユーザーの種類について 464
管理の権限と権限グループについて 464
利用制限について 466
認証の種類について 466
集計管理機能について 468
認証機能を使ったサービスの利用制限 472
利用制限できるサービス 472
認証モードと集計管理モードの組み合わせ 472
ジョブフローと親展ボックスの認証 474
ジョブフローの作成 / 利用について 474
親展ボックスの作成 / 利用について 476
認証するための設定 478
設置手順の概要 478
認証の設定 478
デフォルト権限グループの変更 481
権限グループの追加 482
IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定 483
Step1 事前準備 483
Step2 IC カード使用時の認証解除の設定 484
Step3 IC カード情報を登録 484
集計管理するための設定 485
Step1 集計管理モードの設定 485
Step2 ユーザー情報の登録 485
ユーザー認証の操作 487
登録ユーザーの認証 487
パスワードの変更 488

15 トラブル対処

トラブルと思ったら 492
機械本体のトラブル 494
画質のトラブル 501
コピーのトラブル 507
コピーできない 507
思ったとおりのコピー結果にならない 508
プリンターのトラブル 511
プリントできない 511
思ったとおりのプリント結果にならない 512
ファクスのトラブル 514
送信時のトラブル 514
受信時のトラブル 519

スキャナーのトラブル.....524
本機でスキャンできない.....524
スキャン文書をコンピューターに取り込めない.....525
スキャン文書をネットワーク転送（FTP/SMB）できない.....526
メール送信できない.....527
イメージが思ったとおりの結果にならない.....527
ネットワークのトラブル.....530
SMB を使用したときのトラブル.....530
TCP/IP を使用したときのトラブル.....531
CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル.....532
メール機能のトラブル.....533
インターネット / イントラネット接続のトラブル.....534
IPv4 または IPv6 接続のトラブル.....535
文書プリントのトラブル.....538
メールプリントのトラブル.....539
エラーコード.....540
その他のエラーについて.....669
用紙が詰まった場合.....670
用紙トレイ 1、2 での紙づまり.....671
用紙トレイ 3 での紙づまり.....672
用紙トレイ 4 での紙づまり.....672
用紙トレイ 5（手差し）での紙づまり.....673
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）での紙づまり.....675
用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ 2 段）（オプション）での紙づまり.....678
用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ 2 段）（オプション）の正面カバー内部での紙づまり.678
転写ユニットでの紙づまり.....682
左側面部での紙づまり.....688
排出口での紙づまり.....689
フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 での紙づまり.....690
紙折りユニット CD1 での紙づまり.....697
フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 での紙づまり.....701
原稿が詰まった場合.....717
ホチキスがうまく留められないとき.....720
平とじホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時）.....722
中とじホチキスカートリッジの針づまり（中とじフィニッシャー C3 装着時）.....724
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 の場合）.....726
中とじホチキスカートリッジの針づまり（中とじフィニッシャー D2 の場合）.....728
ホチキスカートリッジが外れたら（中とじフィニッシャー D2 の場合）.....731
用紙がカールして排出されたら（中とじフィニッシャー D2 の場合）.....733
カール補正機能の動作と機能について.....734

16 付録

主な仕様.....736

基本機能 / コピー機能 736
プリント機能 740
スキャン機能 742
ファクス機能（オプション）....744
ダイレクトファクス機能（オプション）....745
インターネットファクス機能（オプション）....746
IP ファクス（SIP）機能（オプション）....746
両面出力機能 747
自動両面原稿送り装置 747
オフセットキャッチトレイ（オプション）....747
フィニッシャー C3（オプション）....748
中とじフィニッシャー C3（オプション）....750
紙折りユニット CD1（オプション）....753
フィニッシャー D2（オプション）....753
中とじフィニッシャー D2（オプション）....755
大容量給紙トレイ（1 段）（オプション）....758
大容量給紙トレイ（2 段）（オプション）....758
プリント可能領域 760
標準印字領域 760
拡張印字領域 760
操作パネルで表示できる漢字一覧 761
漢字一覧表（第一水準）....762
漢字一覧表（第二水準）....765
内蔵フォント 766
オプション製品一覧 768
紙折り位置の調整 773
紙折り位置の調整 773
二つ折りの位置調整 774
製本の位置調整 776
内三つ折りの位置調整 778
外三つ折りの位置調整 779
Z 折りの位置調整 781
ESC/P エミュレーションを使用するには 783
エミュレーションについて 783
フォントについて 784
排出機能について 784
ESC/P エミュレーションモードでのプリント機能 785
ESC/P エミュレーションモード設定項目 786
倍率値一覧表 792
用紙サイズと印字可能桁数 796
PDF ダイレクトプリントを使用するには 799
PDF ダイレクトプリント機能の設定項目 799
DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには 801
DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目 801
PC-PR201H エミュレーションを使用するには 803
エミュレーションについて 803
フォントについて 803
排出機能について 804

PC-PR201H エミュレーションモードでのプリント機能 804
PC-PR201H エミュレーションのモード設定項目 805
倍率値一覧表 813
用紙サイズと印字可能桁数 817
国別コード表 820
PCL エミュレーションを使用するには 821
エミュレーションについて 821
フォントについて 821
排出機能について 823
PCL エミュレーションのモード設定項目 824
HP-GL/2 エミュレーションを使用するには 830
エミュレーションについて 830
フォントについて 830
排出機能について 831
工場出荷時の設定 832
HP-GL/2 エミュレーションのモード設定項目 833
ハードクリップエリア 840
印字可能エリア 841
オートレイアウト 842
Google クラウドプリントを使用するには 849
Google クラウドプリントについて 849
使用環境の設定 849
プリントする 857
トラブル対処 858
注意 / 制限事項について 861
本機使用上の注意 / 制限 861
コピー機能使用上の注意 / 制限 867
プリント機能使用上の注意 / 制限 867
スキャン機能使用上の注意 / 制限 870
ファクス機能使用上の注意 / 制限 877
メール / インターネットファクス機能使用上の注意 / 制限 879
IP ファクス（SIP）の注意 / 制限 884
次世代ネットワーク（NGN）の注意 / 制限 886
インターネットサービスプロバイダーに接続する場合の注意 / 制限 886
割り込み時の注意 / 制限 889
親展ボックスの注意 / 制限 890
インターネット / イントラネット接続の注意 / 制限 891
コンピューターから操作する場合の注意 / 制限 891
ジョブフローの注意 / 制限 893
セキュリティー機能使用上の注意 / 制限 894
認証 / 集計管理機能使用上の注意 / 制限 894
関連商品に関する注意 / 制限 895
SMB の注意 / 制限 896
TCP/IP の注意 / 制限 897
Bonjour の注意 / 制限 898
IPv6 接続の注意 / 制限 898
GS1-128（旧 UCC/EAN128）バーコード（コンビニバーコード）出力についての注意 / 制限 900
メールプリント機能使用上の注意 / 制限 900
Google クラウドプリントの注意 / 制限 901

拡張機能の設定について 902
利用できる拡張機能とパスワード 902
電話のかけ方 / 取り方 905
電話のかけ方 905
電話の取り方 907
通信管理レポート 909
保守サービスについて 912
トータルサービス契約 912
スポット保守サービス方式 912
補修用性能部品の保有期間について 912
EP システムについて 913
索引 915

1　お使いいただく前に

この章では、本書の構成や表記などについて説明しています。

- はじめに 18
- マニュアル体系 19
- 本書の使い方 21
- インターフェイスケーブルの接続 24
- 節電機能について 28
- 操作パネルの設定変更について 31
- タッチパネルの使い方 44
- 本機を安全にご利用いただくために 47
- 文字の入力方法について 48

はじめに

このたびは ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N（以降、本機と呼びます）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本機を管理するかたを対象に、用紙や消耗品の交換方法、本機をネットワークで使用する場合の各種設定方法、トラブル対処などについて記載しています。

本書の内容は、お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピューター、オペレーティングシステム、ネットワークシステムなどに付属の説明書をお読みください。

本書は、読んだあとも必ず保管してください。本機をご使用中に、操作でわからないことや不具合が出たときに読み直してご活用いただけます。

コピー、プリント、スキャン、ファクス機能の操作方法などについては、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）をご覧ください。プリント機能のオプション製品については、それぞれのオプション製品に同梱されているマニュアルも併せてご覧ください。

富士ゼロックス株式会社

弊社は、製品の研究開発から廃棄にいたる事業活動全般において、地球環境の保全を経営の重要課題のひとつに位置づけております。これまでも環境負荷を低減するために、生産施設におけるフロンの全廃など、さまざまな活動を展開してまいりました。
また、お客様の身近なところでは、複写機やプリンターで使用した用紙、消耗品のカートリッジやパーツなどのリサイクルを推進することにより、今後も資源の保護に積極的に取り組んでまいります。

マニュアル体系

本機には、次のマニュアルを用意しています。

本機同梱マニュアル

■はじめにお読みください

安全にお使いいただくための注意事項や、操作中に気をつけていただきたい注意制限事項などについて説明しています。必ずお読みください。

■使い方がわかる本

本機での主な機能や、操作方法、トラブルの対処方法、問い合わせの多い項目などについて説明しています。

本書だけで、コピー、プリント、ファクス、スキャンの基本的な操作ができます。

■設定がわかる本を活用しよう

『設定がわかる本』の便利な機能の設定のしかたを探せます。

■設定がわかる本（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル））

ファクス、スキャン、プリント、認証など、本機やコンピューターで事前に設定が必要な項目などについて説明しています。

『設定がわかる本を活用しよう』の設定メニューを見ると、設定したい項目を簡単に見つけることができます。

■ユーザーズガイド、管理者ガイド＜本書＞（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル））

『ユーザーズガイド』では、コピー / プリント / ファクス / スキャン機能の操作方法などについて説明しています。

『管理者ガイド』では、用紙のセット方法、日常の管理、仕様設定、トラブル対処、ネットワークの設定方法などについて、管理者向けに説明しています。

■セキュリティ機能補足ガイド（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル））

本機を管理するシステム管理者を対象に、セキュリティー機能に関する設定手順と環境条件を説明しています。

データ上書き消去キット（オプション）を装着し、セキュリティー機能を利用する場合にお読みください。

■マニュアル（HTML）

プリンタードライバーのインストール手順、プリンターの環境設定方法などについて説明しています。本機に同梱されているメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っています。

■プリンタードライバーのヘルプ

プリントの操作方法や、機能などについて説明しています。

■CentreWare Internet Services のヘルプ

コンピューターのブラウザーから本機への各種設定や、スキャン文書を取り込む操作などについて説明しています。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

オプション製品マニュアル

本機ではオプション製品を用意しています。オプション製品には、取扱説明書が同梱されているものがあります。

オプション製品マニュアルでは、オプション製品の操作方法、ソフトウエアのインストール手順などについて説明しています。

本書の使い方

本書は、本機を管理するかたを対象に、用紙や消耗品の交換方法、本機をネットワークで使用する場合の各種設定方法、トラブル対処などについて記載しています。

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

■1 お使いいただく前に

本書の構成や表記などについて説明しています。

■2 用紙のセット

本機で使用できる用紙の種類や、用紙をセットする方法について説明しています。

■3 日常の管理

消耗品を交換する方法や、本体を清掃する方法について説明しています。

■4 機械確認

本機のエラー情報を確認する方法や、レポート / リストをプリントする方法について説明しています。

■5 仕様設定

仕様設定の方法について説明しています。

■6 CentreWare Internet Services の設定

CentreWare Internet Services を利用する方法について説明しています。

■7 プリント機能の設定

プリント機能を利用するための設定方法について説明しています。

■8 メール機能の設定

メール機能を利用するための設定方法について説明しています。

■9 スキャン機能の設定

スキャン機能を利用するための設定方法について説明しています。

■10 BMLinkS 機能の設定

BMLinkS® 機能を利用するための設定方法について説明しています。

■11 IP ファクス（SIP）の設定

IP ファクス（SIP）機能を利用するための設定方法について説明しています。

■12 インターネットファクスの設定

インターネットファクス機能を利用するための設定方法について説明しています。

■13 暗号化と署名機能の設定

本機で暗号化と署名機能を利用するための設定方法について説明しています。

■14 認証と集計管理機能について

各機能を利用するときに利用に制限をかける認証機能と、認証機能を元にして、各機能の利用状況を管理する集計管理機能について説明しています。

■15 トラブル対処

本機に何らかのトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

■16 付録

本機の主な仕様、オプション製品、保守サービスなどについて説明しています。

本書の表記

- 本書に記載している画面や本体のイラストは、各種オプション製品が装着された状態のものです。使用している機械の構成によっては、表示されない項目や使用できない機能があります。
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウエアのバージョンアップによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。
- 本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。
- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記
- 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足
- 補足事項を記述しています。

参照
- 参照先を記述しています。

- 本文中では、次の記号を使用しています。

「　　」:	• 本書内にある参照先を表しています。 • 機能の名称やタッチパネルディスプレイのメッセージ、入力文字列などを表しています。
『　　』:	• 参照するマニュアルを表しています。
[　　]:	• 本機のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。 • コンピューターの画面に表示されるメニュー、ウインドウ、ダイアログボックスなどの名称と、それらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。
〈　　〉ボタン:	• 操作パネル上のハードウエアボタンを表しています。
〈　　〉キー:	• コンピューターのキーボード上のキーを表しています。

＞：

- 操作パネルで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。
  例：「［仕様設定 / 登録］＞［登録 / 変更］＞［ボックス登録］を選択します。」は、「［仕様設定 / 登録］を押して、［登録 / 変更］を押したあと、［ボックス登録］を選択します。」という手順を省略して記載したものです。
- コンピューターで順に項目をクリックする手順を、省略して表しています。
  例：「［スタート］＞［検索］＞［他のコンピュータ］で検索します。」は、「［スタート］ボタンをクリックして、［検索］、［他のコンピュータ］を順にクリックして検索します。」という手順を省略して記載したものです。
- 参照先は、次のように表しています。
  例：「『管理者ガイド』の「5 仕様設定」＞「共通設定」＞「音の設定」を参照してください。」は、管理者ガイドの「5 章 仕様設定」内の、「共通設定」での「音の設定」を参照することを表しています。

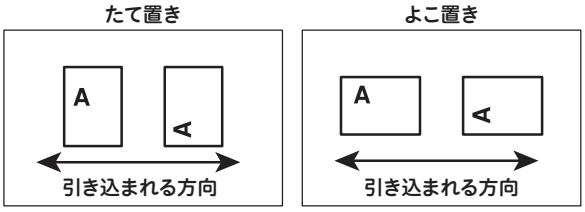
- 本文中では、原稿または用紙の向きを、次のように表しています。

、、たて置き：

- 本機の正面から見て、原稿や用紙をたて長にセットした状態を表しています。

、、よこ置き：

- 本機の正面から見て、原稿や用紙をよこ長にセットした状態を表しています。



インターフェイスケーブルの接続

コンピューターと本機を直接接続する場合は、USB インターフェイスを使います。
ネットワークに接続する場合は、Ethernet インターフェイスを使います。

USB インターフェイスでの接続

USB インターフェイスを使用するときの設置手順について説明します。

補足
- USB インターフェイスは、USB2.0 に対応しています。

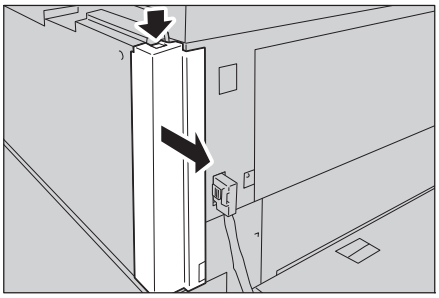
1 電源スイッチを押して、電源を切ります。

2 タッチパネルディスプレイ画面が消えていることと、〈節電〉ボタンが消灯していることを確認します。

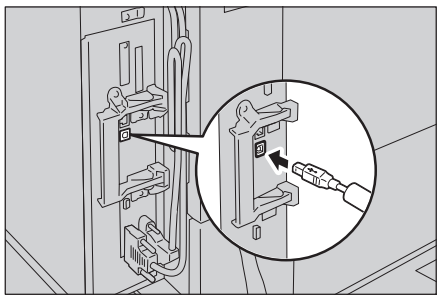
3 フロントカバーを開けます。

4 主電源スイッチの［○］側を押して、主電源を切ります。

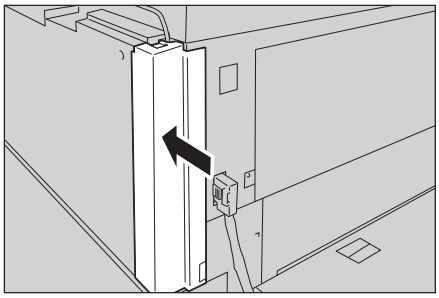
5 本機の左奥カバーを外します。



6 USB2.0 インターフェイスコネクターに、USB インターフェイスケーブルを接続します。



7 本機の左奥カバーを取り付けます。



8 コンピューターに、USB インターフェイスケーブルのもう一方のコネクターを接続します。

9 主電源スイッチの［｜］側を押して、主電源を入れます。

10 フロントカバーを閉じます。

11 電源スイッチを押して、電源を入れます。

12 コンピューターを再起動します。

参照

- 設定項目の詳細は、「プリント機能の設定」(P.363) を参照してください。

Ethernet インターフェイスでの接続

Ethernet インターフェイスは、次の 3 種類に対応しています。

- 1000BASE-T
- 100BASE-TX
- 10BASE-T

補足

- 本機は、IEEE802.3az（データ送受信が行われていないときに、イーサネット機器の電力消費を低減する有線 LAN 準拠規格）に対応しています。この規格で節電効果を得るには、接続する機器同士が IEEE802.3az に対応している必要があります。

Ethernet インターフェイスを使用するときの設置手順について説明します。

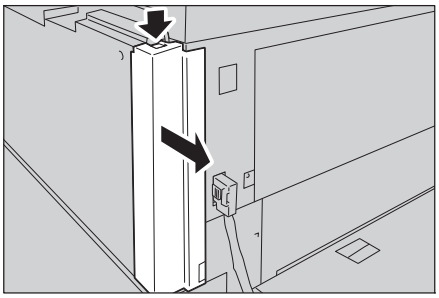
1 電源スイッチを押して、電源を切ります。

2 タッチパネルディスプレイ画面が消えていることと、〈節電〉ボタンが消灯していることを確認します。

3 フロントカバーを開けます。

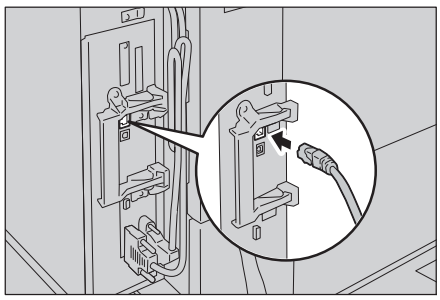
4 主電源スイッチの［○］側を押して、主電源を切ります。

5 本機の左奥カバーを外します。



6 Ethernet インターフェイスのコネクターに、ネットワークケーブルを接続します。

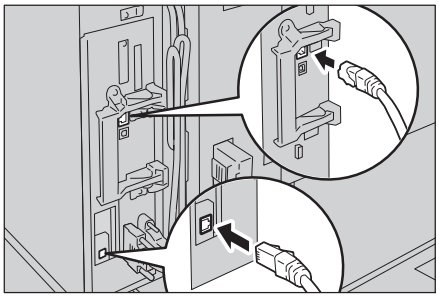
■セカンダリーイーサネット（オプション）を装着していない場合



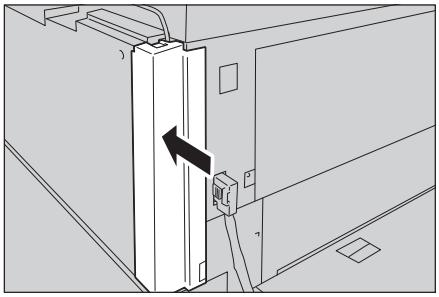
補足

- お使いのネットワークの接続形態に合ったネットワークケーブルをご用意ください。また、ネットワークケーブルを交換する場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。

■セカンダリーイーサネット（オプション）を装着している場合



7 本機の左奥カバーを取り付けます。



8 主電源スイッチの［｜］側を押して、主電源を入れます。

9 フロントカバーを閉じます。

10 電源スイッチを押して、電源を入れます。

参照

- 設定項目の詳細は、「プリント機能の設定」（P.363）を参照してください。

節電機能について

本機には、しばらくの間コピーやプリントデータを受け付けないときに、機械の消費電力量を下げて電力を節約する、「節電機能」が搭載されています。

節電機能には、「低電力モード」と「スリープモード」があります。

本機を一定時間使用しないと、「低電力モード」に入り、そのあと、設定時間が経過すると、「スリープモード」に移行します。

節電モード移行時間を変更する

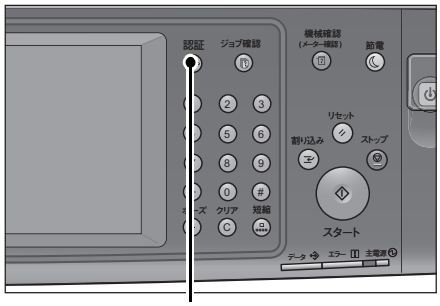
節電機能を設定する手順について説明します。

低電力モードに移行するまでの時間とスリープモードに移行するまでの時間は、1 ～ 240 分の範囲で、それぞれ 1 分単位で指定できます。

補足

- 低電力モードに移行するまでの時間と、スリープモードに移行するまでの時間を同じ設定にしている場合、低電力モードには移行せずにスリープモードに移行します。
- 操作パネルのディスプレイが消灯している状態で本機が節電中のとき、プリントやサンプルプリント、ファクス受信プリントをすると、出力部のみ節電状態から復帰します。この場合、15 秒後にスリープモードに移行します。

1 〈認証〉ボタンを押します。



〈認証〉ボタン

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

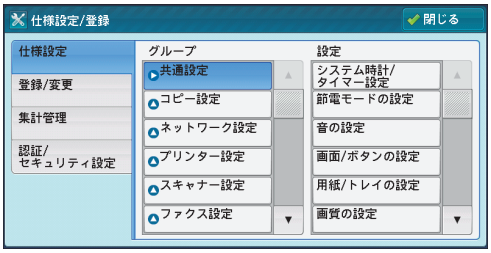
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

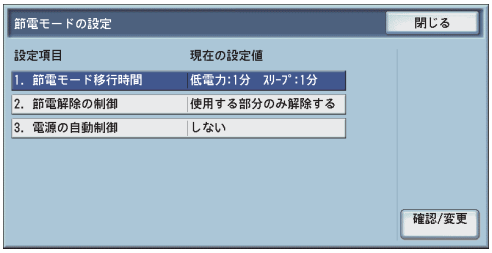
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

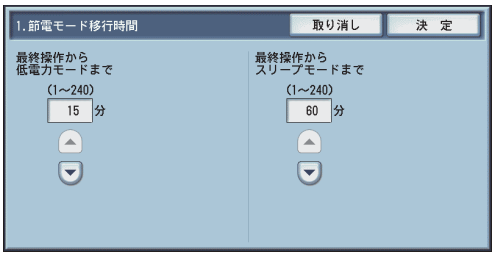
4 ［仕様設定］>［共通設定］>［節電モードの設定］を押します。



5 ［節電モード移行時間］を選択し、［確認 / 変更］を押します。



6 節電モードの移行時間を、［▲］［▼］を使って、1 分単位で設定します。



■最終操作から低電力モードまで

最終操作から低電力モードに移行するまでの時間を設定します。

補足

- ［最終操作から低電力モードまで］の初期値は、［1］分です。低電力モードに移行しないように設定することはできません。

■最終操作からスリープモードまで

最終操作からスリープモードに移行するまでの時間を設定します。

補足

- ［最終操作からスリープモードまで］の初期値は、［1］分です。低電力モードに移行させたい場合は、［最終操作からスリープモードまで］の時間を、［最終操作から低電力モードまで］の時間より大きくなるように設定してください。

7 ［決定］を押します。

8 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

9 ［閉じる］を押します。

操作パネルの設定変更について

本機を有効にお使いいただけるように、操作パネルの画面表示やボタンへの機能割り当てを変更できます。

ここでは、初期表示画面の変更、自動リセット後に表示される画面、メニュー画面に表示させる機能、〈登録〉ボタンに割り当てる機能などの変更方法および画面の明るさの調整方法について説明します。

参照

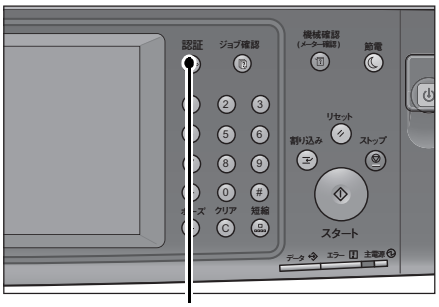
- そのほかの設定変更は、「画面 / ボタンの設定」(P.169) を参照してください。

初期表示画面を変更する

電源を入れたときや、節電状態から復帰したときに表示する画面を変更できます。

工場出荷時には、メニュー画面が設定されています。

1 〈認証〉ボタンを押します。



〈認証〉ボタン

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

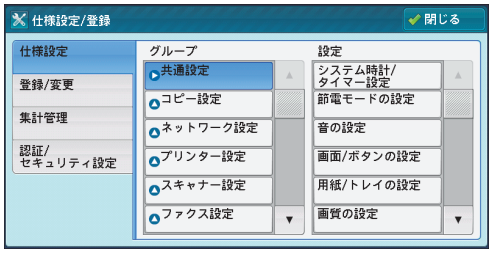
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

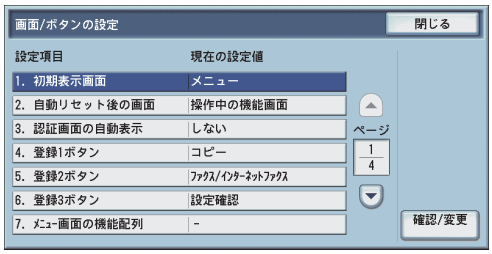
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］ > ［共通設定］ > ［画面 / ボタンの設定］を押します。



5 ［初期表示画面］を押し、［確認 / 変更］を押します。



6 表示させる機能を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。

7 ［決定］を押します。

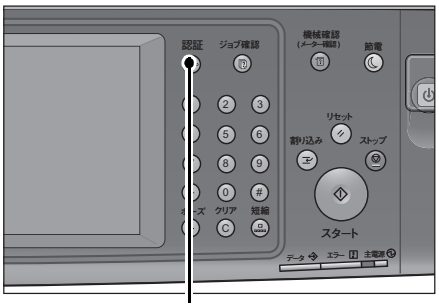
自動リセット後の画面を変更する

自動リセット後の画面を操作中の機能画面にするか、メニュー画面にするかを設定できます。

参照

- 自動リセットについては、「自動リセット」(P.165) を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。



〈認証〉ボタン

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

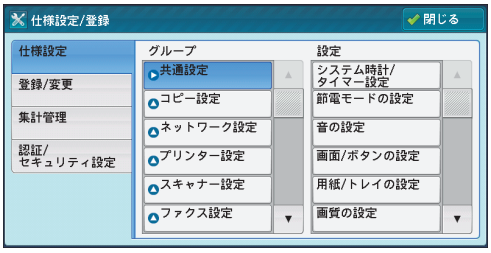
パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3 メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

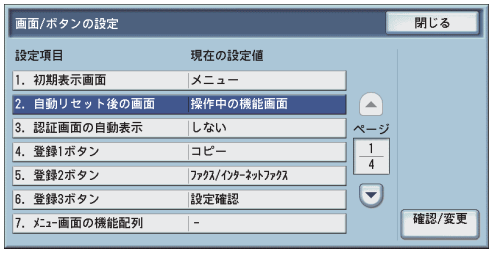
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

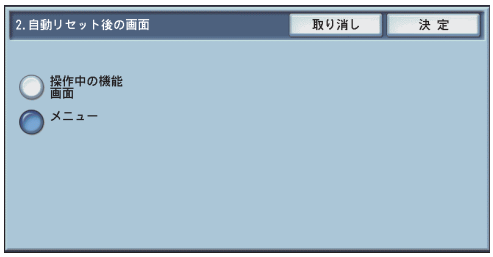
4 [仕様設定] > [共通設定] > [画面 / ボタンの設定] を押します。



5 ［自動リセット後の画面］を押し、［確認 / 変更］を押します。



6 ［操作中の機能画面］または［メニュー］を押します。



7 ［決定］を押します。

機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する

操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押したとき、メニュー画面に表示する機能ボタンや補助機能ボタンの種類や配列を変更できます。

補足

- 機能が使用できない場合は、ボタンは表示されません。また、故障中で使用できない機能はグレー表示になります。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

機能ボタンに表示できる機能は以下のとおりです。

補足

- 表示できる機能は装着されているオプションによって異なります。

- コピー
- らくらくコピー
- ファクス / インターネットファクス
- らくらくファクス
- スキャナー（メール送信）
- スキャナー（ボックス保存）
- スキャナー（PC 保存）
- スキャナー（USB メモリー保存）
- スキャナー（URL 送信）

補足

- この機能は、ユーザー認証機能を使用している場合に表示されます。

- スキャナー（WSD）

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

- 文書プリント
- セキュリティープリント
- サンプルプリント

- 時刻指定プリント
- 認証プリント
- プライベートプリント
- ボックス操作
- 受信回線 1 の保存先 - （親展ボックス NNN）
- 受信回線 2 の保存先 - （親展ボックス NNN）
- 受信回線 3 の保存先 - （親展ボックス NNN）
- 受信回線 SIP の保存先 - （親展ボックス NNN）

補足
- NNNには受信回線別ボックスセレクターで指定した親展ボックス番号が表示されます。親展ボックス番号が設定されていない場合は、（親展ボックス未設定）と表示されます。

- ジョブメモリー
- ジョブフロー（ApeosPort シリーズのみ）
- 外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）
- 外部アクセスサーバー（ApeosPort シリーズのみ）
- BMLinkS
- カスタムサービス

補足
- お使いの機械にカスタムサービスをインストールしている場合に設定できます。詳しくは、弊社営業担当までお尋ねください。

機能補助ボタンに表示できる機能は以下のとおりです。

- 言語切り替え Language
- 登録 / 変更
- 画面輝度調整
- ファクス受信モード
- 通信管理レポート
- プリンターモード
- 自動プリントを禁止する

補足
- この機能は工場出荷時は表示されません。表示させるには、[共通設定] > [システム時計 / タイマー設定] > [プリント禁止の設定] で [手動で禁止する] を選択したあと、[メニュー画面の補助機能配列] で配置してください。

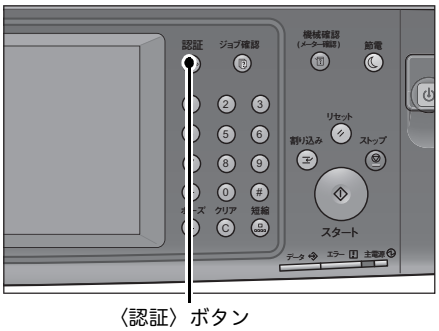
- セキュリティープリント
- サンプルプリント
- 時刻指定プリント
- 認証プリント

メニュー画面の機能配列

メニュー画面に表示させる機能ボタンを選択できます。

［(未設定)］を選択すると、選択したボタンの場所は空欄になります。

1 〈認証〉ボタンを押します。



〈認証〉ボタン

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

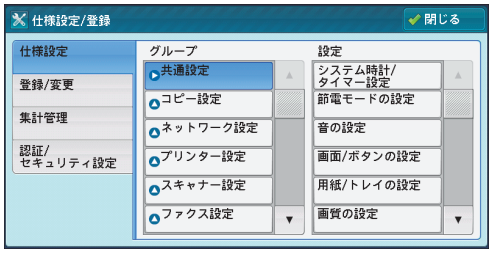
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

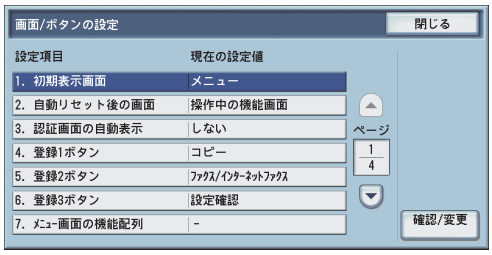
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［画面 / ボタンの設定］を押します。



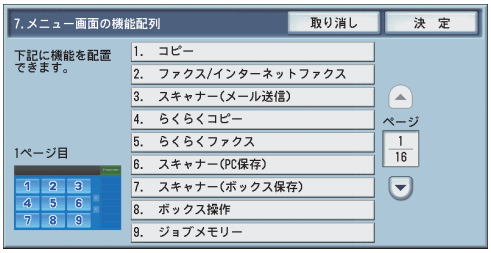
5 ［メニュー画面の機能配列］を押し、［確認 / 変更］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 変更する機能（配置したい場所）を選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ［メニュー画面の機能配列］画面に表示されているボタンの位置は、メニュー画面に表示される機能のボタンの位置を表しています。

7 メニュー画面に表示させる機能を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 同じ機能を複数のボタンに登録できません。

8 ［閉じる］を押します。

9 ［決定］を押します。

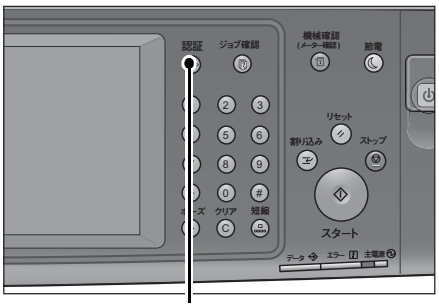
メニュー画面の補助機能配列

メニュー画面に表示させる補助機能ボタンを選択できます。

［(未設定)］を選択すると、選択したボタンの場所は空欄になります。

［登録 / 変更］には、［(未設定)］を選択できません。［登録 / 変更］を表示させないときは、［機械管理者のみ表示］にチェックを付けます。

1 〈認証〉ボタンを押します。



〈認証〉ボタン

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

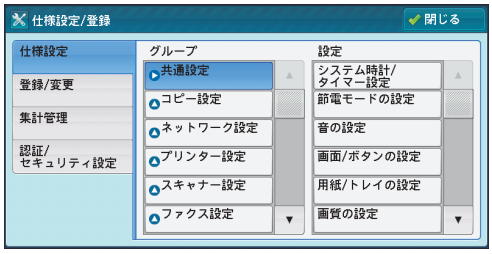
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

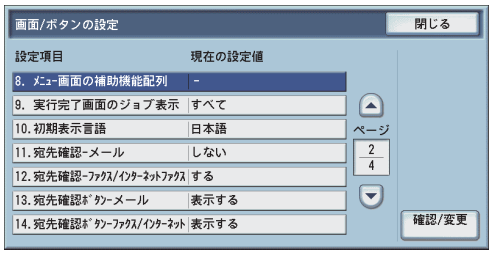
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［画面 / ボタンの設定］を押します。



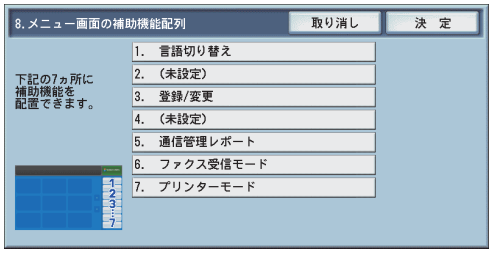
5 ［メニュー画面の補助機能配列］を押し、［確認 / 変更］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 変更する補助機能（配置したい場所）を選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ［メニュー画面の補助機能配列］画面に表示されているボタンの位置は、メニュー画面に表示される補助機能のボタンの位置を表しています。

7 メニュー画面に表示させる補助機能を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 同じ機能を複数のボタンに登録できません。

8 ［閉じる］を押します。

9 ［決定］を押します。

〈登録〉ボタンに機能を割り当てる

操作パネルの登録ボタン「登録 1」～「登録 3」に、機能を割り当てることができます。

〈登録〉ボタンに機能を登録しておくと、機能を切り替えるときに、メニュー画面に戻らなくても、直接機能の画面を表示できます。機能を割り当てない場合は、[(未設定)]を選択します。

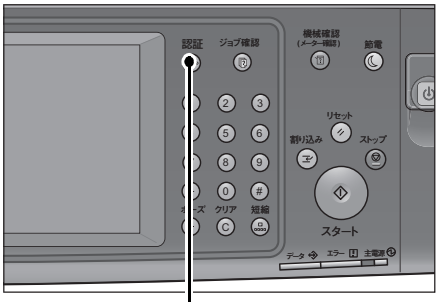
工場出荷時は、1 番めのボタンには「コピー」が、3 番めのボタンには「設定確認」が登録されていて、2 番めのボタンは未登録になっています。

ここでは、「登録 2」に［ボックス操作］を割り当てる場合を例に説明します。

補足

- 登録内容を変更したときは、本体同梱の「操作パネル　機能名称貼り替えラベル」を貼ってください。ラベルにない機能を登録した場合は、未記入のラベルに油性ペンで機能を記入してご利用ください。なお、ラベルには、本機に搭載されていない機能やオプションで提供される機能も含まれています。

1 〈認証〉ボタンを押します。



〈認証〉ボタン

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

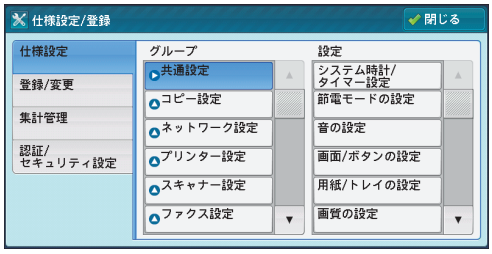
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

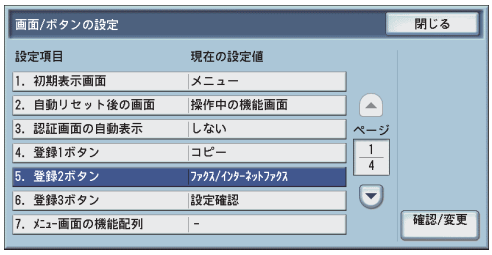
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

4 ［仕様設定］＞［共通設定］＞［画面 / ボタンの設定］を押します。



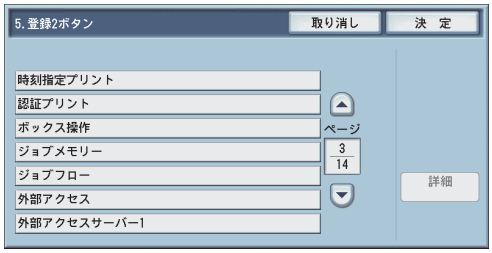
5 ［登録 2 ボタン］を押し、［確認 / 変更］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 ［ボックス操作］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

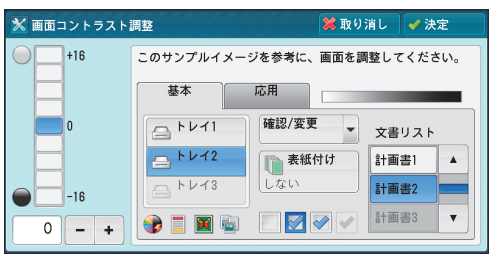
7 ［決定］を押します。

画面の明るさを調整する

操作パネルの表示画面の明るさを調整できます。

1 メニュー画面で［画面輝度調整］を押します。

2 ［+］、［－］を押して、明るさを調整します。



3 ［決定］を押します。

参照

- 仕様設定メニューからの調整方法は、「画面輝度調整」(P.171) を参照してください。

タッチパネルの使い方

本機のタッチパネルディスプレイでは、［▲］［▼］ボタンを押して操作する以外に、次のような操作でページの切り替えやリストのスクロールなどができます。

補足

- 本機の操作パネルは、画面を押す力に反応する感圧式タッチパネルです。画面に触れる力を加減して操作してください。
- フリック / ダブルタップ操作の有効 / 無効を切り替えることができます。詳しくは、「画面 / ボタンの設定」(P.169) を参照してください。

■ドラッグ

タッチパネルディスプレイに軽く触れたままで、目的の位置まで指を移動させます。

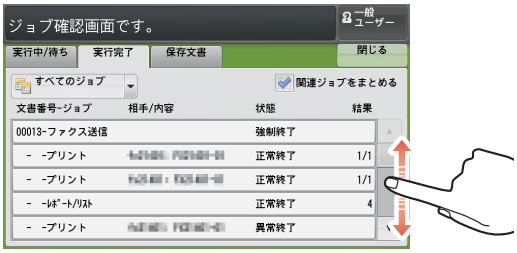
メニュー画面では、左右にドラッグするとページの切り替えができます。

リスト表示画面では、上下にドラッグするとリストのスクロールができます。

機能選択画面やボックス操作画面では、上下にドラッグまたはフリック操作するとページの切り替えができます。

補足

- ドラッグ操作中に指を離すとスクロールが止まります。
- メニュー画面では、ドラッグの動作が十分でないと、ページが切り替わらない場合があります。
- リスト表示画面では、リスト上、またはスクロールバーのドラッグによるリストのスクロールができます。



■フリック

タッチパネルディスプレイをはらうように指を動かします。

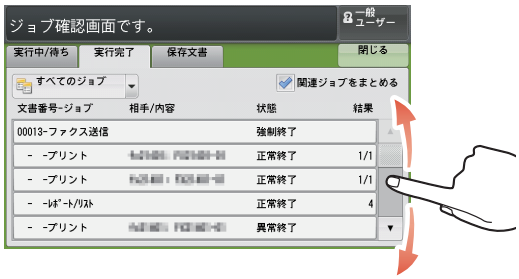
メニュー画面では、左右にフリック操作するとページの切り替えができます。

リスト表示画面では、上下にフリック操作するとリストのスクロールができます。

機能選択画面やボックス操作画面では、上下にドラッグまたはフリック操作するとページの切り替えができます。

補足

- フリック操作の場合は、指を離した後でも少しの間スクロールが継続します。



■タップ / ダブルタップ

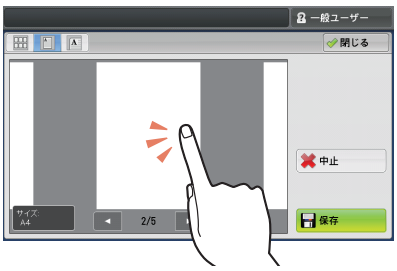
タッチパネルディスプレイに軽く触れ、すぐに指を離します。2 回連続で同じ位置をタップする操作をダブルタップと呼びます。

プレビュー画像をダブルタップすると、画像サイズの拡大表示ができます。

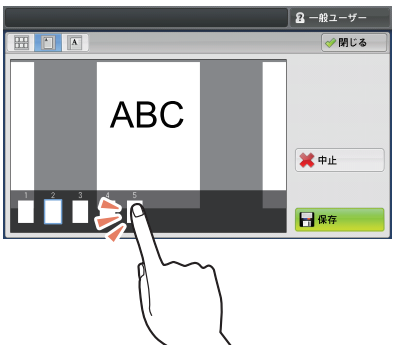
プレビューエリアをタップすると、サムネールバーの表示 / 非表示の切り替えができます。

補足

- ピンチアウト / ピンチイン（2 本の指で画面をつまむように動かす操作）による画面サイズの拡大 / 縮小はできません。



サムネールバーの任意のサムネールをタップすると、選択したサムネールが表示されます。



本機を安全にご利用いただくために

本機の設定が以下のいずれかを満たす状態で機械管理者モードに入ると、メニュー画面の前にセキュリティ警告画面が表示されます。本機をより安全にご利用いただくために、本機を設置したあと、すぐに設定を変更することをお勧めします。

- 機械管理者の UserID とパスワードが初期値
- SNMP プロトコルの設定でコミュニティ名や認証用パスワードが初期値
- グローバル IP アドレスが設定され、かつ［認証方式の設定］が［認証しない］に設定されている

機械管理者の UserID とパスワードおよび、SNMP プロトコルのコミュニティ名や認証用パスワードの設定を初期値から変更することをお勧めします。これらの初期値を変更することで、悪意のある第三者による攻撃（設定変更や情報搾取など）を防ぐことができます。

補足

- 機械管理者のUserIDとパスワード、SNMPプロトコルのコミュニティ名や認証用パスワードを初期値から変更すると、複合機と連携するソフトウェアやユーティリティーに動作に影響が出る場合があります。影響を確認の上、実施して下さい。

また、本機にグローバル IP アドレスを設定する場合、受付 IP アドレス制限の設定を行うことにより、本機を外部ネットワークからの不正アクセス（ジョブ履歴の閲覧、親展ボックスへのアクセス）から防ぐことができます。

さらに、［認証方式の設定］を［本体認証］または［外部認証］に設定することをお勧めします。［本体認証］の場合、本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理を行います。認証が成功したユーザーのみに機械の使用を制限できます。

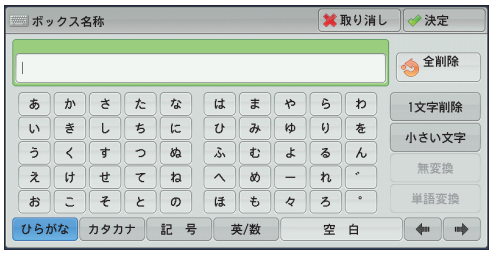
ただし、使用時には操作パネルからユーザー ID を入力するか、IC カードの利用が必要となります。［外部認証］の場合、外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を使用して認証管理を行います。

補足

- 機械管理者の UserID とパスワードの変更については、「機械管理者情報の設定」（P.339）を参照してください。
- SNMP 認証データの変更については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 受付 IP アドレス制限の設定については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 認証方式の設定については、「認証方式の設定」（P.341）を参照してください。詳細は弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。

文字の入力方法について

操作中に、文字を入力する画面が表示されることがあります。ここでは、文字を入力する方法について説明します。



入力できる文字は、ひらがな、カタカナ、漢字、数字、英字、記号です。

項　　目	説　　明
ひらがなの入力	［ひらがな］を押します。 小さいひらがな（っ、ゃ、ゅ、ょなど）を入力するときは、［小さい文字］を押します。元に戻すときは、もう一度［小さい文字］を押します。
カタカナの入力	［カタカナ］を押します。 小さいカタカナ（ッ、ャ、ュ、ョなど）を入力するときは、［小さい文字］を押します。元に戻すときは、もう一度［小さい文字］を押します。 カタカナの半角文字を入力するときは、［半角］を押します。元に戻すときは、もう一度［半角］を押します。
漢字の入力	ひらがなを入力したあと、［単語変換］を押します。［漢字変換］画面に該当する漢字が表示されるので、目的の漢字を選択します。 ［▼］で次の候補の漢字に進み、［▲］で前に表示した漢字に戻ります。 変換しない場合は、［無変換］を押します。
アルファベットや数字の入力	［英 / 数］を押します。 アルファベットの大文字を入力するときは、［シフト］を押します。元に戻すときは、もう一度［シフト］を押します。 アルファベットや数字の半角文字を入力するときは、［半角］を押します。元に戻すときは、もう一度［半角］を押します。
記号の入力	［記号］を押します。
スペースの入力	［空白］を押します。
濁点、半濁点の入力	[゛]、[゜] を押します。
文字の消去	1 文字ずつ消去するときは、［1 文字削除］を押します。 全文字を消去するときは、［全削除］を押します。

注記

- 設定項目によって、入力できない文字やキーは表示されません。
- 「・」（中黒）は入力できません。

参照

- 入力できる漢字は、「操作パネルで表示できる漢字一覧」（P.761）を参照してください。

2　用紙のセット

この章では、本機で使用できる用紙の種類、用紙の取り扱いに関する注意事項、用紙の補給方法などについて説明します。

- 用紙について 50
- 用紙をセットする 60
- 用紙サイズを変更する 73
- 用紙の設定を変更する 80

用紙について

本機で使用できる用紙について説明します。

適正でない用紙を使用した場合、紙づまりや印字品質の低下、故障、および装置破損の原因になることがあります。本機の性能を効果的に活用するために、弊社推奨の紙をご利用いただくことをお勧めします。

なお、推奨の用紙以外を使用するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

⚠警告

電気を通しやすい紙(折り紙 / カーボン紙 / 導電性コーティングを施された紙など)を使用しないでください。ショートして火災の原因となるおそれがあります。

注記

- 水、雨、蒸気などの水分により、印刷面の画像がはがれることがあります。詳しくは弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

使用できる用紙の質量と枚数

用紙トレイ	規格（メートル坪量 / 連量）	セット可能枚数 *1	用紙の種類
用紙トレイ 1 ～ 2	メートル坪量：52 ～ 200g/m^2 連量：45 ～ 171kg	54mmまで 560 枚	普通紙（64 ～ 105g/m^2） 再生紙（64 ～ 105g/m^2） うら紙（64 ～ 105g/m^2） 穴あき紙（64 ～ 105g/m^2） うす紙（52 ～ 63g/m^2） 厚紙 1（106 ～ 200g/m^2） インデックス紙 1（106 ～ 200g/m^2） ユーザー用紙 1 ～ 5（64 ～ 105g/m^2）
用紙トレイ 3		162.5mmまで 1710 枚	普通紙（64 ～ 105g/m^2） 再生紙（64 ～ 105g/m^2） うら紙（64 ～ 105g/m^2） 穴あき紙（64 ～ 105g/m^2） うす紙（52 ～ 63g/m^2） 厚紙 1（106 ～ 200g/m^2） ユーザー用紙 1 ～ 5（64 ～ 105g/m^2）
用紙トレイ 4		204mm まで 2140 枚	

用紙トレイ	規格（メートル坪量 / 連量）	セット可能枚数 *1	用紙の種類
用紙トレイ 5（手差し）	メートル坪量：52 ～ 250g/m^2 連量：45 ～ 215kg	10mmまで 100 枚	普通紙（64 ～ 105g/m^2） 再生紙（64 ～ 105g/m^2） うら紙（64 ～ 105g/m^2） 穴あき紙（64 ～ 105g/m^2） OHP フィルム うす紙（52 ～ 63g/m^2） 厚紙 1（106 ～ 200g/m^2） 厚紙 2（201 ～ 250g/m^2） ラベル紙 インデックス紙 1（106 ～ 200g/m^2） インデックス紙 2（201 ～ 250g/m^2） ユーザー用紙 1 ～ 5（64 ～ 105g/m^2）
用紙トレイ 5（手差し）（大容量給紙トレイ（2 段）装着時）		10mmまで 250 枚	
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））（オプション）	メートル坪量：52 ～ 200g/m^2 連量：45 ～ 171kg	220mm まで 2,300 枚	普通紙（64 ～ 105g/m^2） 再生紙（64 ～ 105g/m^2） うら紙（64 ～ 105g/m^2） 穴あき紙（64 ～ 105g/m^2） うす紙（52 ～ 63g/m^2） 厚紙 1（106 ～ 200g/m^2） ユーザー用紙 1 ～ 5（64 ～ 105g/m^2）
用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ（2 段））（オプション）		220mm まで 2,300 枚 x2	
用紙トレイ T1（インターポーザー）（オプション）	メートル坪量：64 ～ 200g/m^2 連量：55 ～ 171kg	200 枚	普通紙（64 ～ 105g/m^2） 再生紙（64 ～ 105g/m^2） うら紙（64 ～ 105g/m^2） 穴あき紙（64 ～ 105g/m^2） 厚紙 1（106 ～ 200g/m^2） うす紙（52 ～ 63g/m^2） インデックス紙 1（106 ～ 200g/m^2） ユーザー用紙 1 ～ 5（64 ～ 105g/m^2）

*1 弊社 P 紙の場合

注記

- プリンタードライバーで選択した用紙サイズや用紙種類と異なる用紙でプリントしたり、適応していない用紙トレイにセットしてプリントしたりすると、紙づまりの原因になります。適正なプリントをするために、正しい用紙サイズ、用紙種類、用紙トレイを選択してください。

補足

- メートル坪量とは、1m^2 の用紙 1 枚の質量をいいます。
- 連量とは、四六判（788×1,091mm）の用紙 1,000 枚の質量をいいます。
- 用紙トレイ 5（手差し）で、非定形サイズの用紙にコピーする場合は、用紙サイズを入力する必要があります。また、非定形サイズの用紙を頻繁にコピーする場合は、あらかじめ数値を設定しておくと、［トレイ 5（手差し）］画面の［定形サイズ］に、設定したサイズが表示されます。設定方法については、「トレイ 5（手差し）定形サイズボタン」(P.177) を参照してください。

使用できる用紙の種類

標準紙

一般に使用されている用紙（一般紙と呼びます）にコピーやプリントをする場合は、規格に合った用紙を使用してください。より鮮明にコピーやプリントするためには弊社では次の標準紙を推奨しています。

用紙名	メートル坪量（単位：g/m²）	用紙トレイに設定する用紙種類 *1	用紙の特長と使用上の注意
P 紙	64	普通紙	社内配布資料や一般のオフィス用の中厚口用紙
V-Paper	64	普通紙	上質紙としての白色度を維持し、古紙パルプを配合した用紙。画質保証はしません。
C²	70	普通紙	一般のオフィス用で、裏写りの少ない用紙

*1 用紙を用紙トレイにセットするときには、セットした用紙に合わせて、用紙種類を設定してください。詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

準標準紙

標準紙以外にも、次の用紙を使用できます。

用紙名	メートル坪量（単位：g/m²）	用紙トレイに設定する用紙種類 *1	用紙の特長と使用上の注意
C²ʳ	70	普通紙	古紙パルプ 70% 配合の再生紙
W-Paper	64	普通紙	高白色モノクロコピー / プリンター用紙
SG	67	普通紙 *2	古紙パルプ 50% 配合のリサイクルコピー / プリンター用紙
FR（環境バランス用紙）	64	普通紙	環境配慮型パルプ（植林木パルプ 50% ＋古紙パルプ 50%）を原料とした用紙
G70	67	普通紙 *2	古紙パルプを 70% と多く配合したリサイクルコピー / プリンター用紙
GR70-W	67	普通紙	リサイクルコピー / プリンター用紙 ISO 白色度 80% のグリーン購入法適合用紙
GR100	67	普通紙	リサイクルコピー / プリンター用紙 ISO 白色度 70% のグリーン購入法適合用紙

*1 用紙を用紙トレイにセットするときには、セットした用紙に合わせて、用紙種類を設定してください。詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。
*2 厚紙は用紙にたわみのない新しい紙を使用してください。

使用可能紙

標準紙以外にも、次の用紙を使用できます。

用紙名	メートル坪量（単位：g/m²）	用紙トレイに設定する用紙種類 *1	用紙の特長と使用上の注意
J	82	普通紙	白色度が高く発色性に優れ、幅広く活用できる用紙。
V-Paper MG	67	普通紙	上質紙としての白色度を維持し、古紙パルプを配合した用紙
SP	60	普通紙	モノクロコピー / プリンター用紙 省資源対応用紙
P（厚口）	78	普通紙	裏写りが少なく両面プリントに適した厚口モノクロコピー / プリンター用紙
Ncolor081	81	普通紙	J、JD 紙よりも高白色の、植林木 100% で環境に配慮した用紙です。
Ncolor104	104	厚紙 1	
Ncolor127	127	厚紙 1	
Ncolor157	157	厚紙 2	
Ncolor209	209	普通紙	
EP	65	普通紙	高速コンピュータープリンティング適性をもたせた上質紙
CP	64	普通紙	ソーター収容性と高速安定性に優れた、目にやさしいクリーム色系のコピー / プリンター用紙
JW	81	普通紙	白色度が高いため、鮮やかなコントラストが得られるカラー用紙です。 白黒のプリンターで使われます。
カラーペーパー（クリーム）	64	普通紙	中・低速から高速機まで、幅広い適正をもつカラーペーパーです。
カラーペーパー(ライトブルー)	64	普通紙	
カラーペーパー（ピンク）	64	普通紙	
カラーペーパー（グリーン）	64	普通紙	
OK プリンス上質	104.7	普通紙	適度な白色度と不透明度がある上質紙
	127.9	厚紙 1	
	157	厚紙 1	
	209.3	厚紙 2	

*1 用紙を用紙トレイにセットするときには、セットした用紙に合わせて、用紙種類を設定してください。詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

特殊用紙

郵便はがきや封筒など、次の特殊紙を使用できます。

分類	用紙名	用紙トレイに設定する用紙種類 *1	用紙の特長と使用上の注意
はがき	FX郵便はがき往復 (133g/m^2) (V424/Z478)	厚紙 1 *2	ミシン目入りの往復はがき用紙です。A4 サイズに、2 枚の往復はがきが面付けされています。 **注記** • 用紙をよくさばいてからセットしてください。 **補足** • コピーする場合は操作パネルで、手差しトレイを選択し、［用紙サイズ］を［自動サイズ検知］に、［用紙種類］を［厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）］に設定してください。*3 • プリントする場合は、プリンタードライバーで次のように設定してください。*3 •［原稿サイズ］と［出力用紙サイズ］を、［A4（210 × 297mm）］に設定します。 •「用紙トレイ選択］で［トレイ 5（手差し）］を選択します。 •［手差し用紙種類］で［厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）］を選択します。
	FX はがき用紙４連 (133g/m^2) (V423/Z325)	厚紙 1 *2	ミシン目入りのはがき用紙です。A4 サイズに、4 枚のはがきが面付けされています。 **注記** • 用紙はたて置きにはセットできません。 • 設定方法は、FX はがき用紙往復と同じです。
	郵便はがき	厚紙 1 *2	通常の郵便はがきです。 **注記** • 故障の原因になりますので、インクジェット用郵便はがきは、使用しないでください。 • 用紙をよくさばいてからセットしてください。 **補足** • コピーする場合は操作パネルで、手差しトレイを選択し、［用紙サイズ］を［自動サイズ検知］に、［用紙種類］を［厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）］に設定してください。 • プリントする場合は、プリンタードライバーで、［原稿サイズ］と［出力用紙サイズ］を［はがき（100×148mm）］に設定してください。［用紙トレイ選択］と［手差し用紙種類］は自動で設定されます。*3

分類	用紙名	用紙トレイに設定する用紙種類 *1	用紙の特長と使用上の注意
はがき	郵便はがき往復	厚紙 1 *2	郵便往復はがきです。 **注記** • 故障の原因になりますので、インクジェット用郵便はがきは、使用しないでください。 **補足** • コピーする場合は操作パネルで、手差しトレイを選択し、［用紙サイズ］を［定形サイズ］に、［用紙種類］を［厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）］に設定してください。*3 • プリントする場合はプリンタードライバーで、［原稿サイズ］と［出力用紙サイズ］を［往復はがき（148×200mm）］に設定してください。［用紙トレイ選択］と［手差し用紙種類］は自動で設定されます。*3
	郵便はがき 4 連	厚紙 1*2	ミシン目入りの郵便はがき用紙です。 A4 サイズに、4 枚のはがきが面付けされています。 **注記** • 用紙をよくさばいてからセットしてください。 • コピーする場合は操作パネルで、手差しトレイを選択し、次のように設定してください。*3 •［用紙サイズ］で［非定形サイズ（サイズ入力）］を選択します。 •X 方向は 200mm、Y 方向は 296mm に設定します。 •［用紙種類］で［厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）］を選択します。 • プリントする場合は、プリンタードライバーで次のように設定してください。*3 •プロパティで［ユーザー定義用紙］を設定しておく必要があります。200mm×296mm に設定してください。 •［原稿サイズ］と［出力用紙サイズ］で、プロパティで設定したユーザー定義用紙を選択します。 •［用紙トレイ選択］で［トレイ 5（手差し）］を選択します。 •［手差し用紙種類］で［厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）］を選択します。
OHP	PPC/ レーザー用 OHP フィルム A4 枠あり（GAAA5179）	OHP	• 用紙をさばいてからたて置きにセットしてください。 • 高温高湿下では 1 枚ずつ、手差しトレイを使用してください。1 枚ずつ取り出してください。

分類	用紙名	用紙トレイに設定する用紙種類 *1	用紙の特長と使用上の注意
ラベル	HG（20 面） （GAAA4436）	ラベル紙	シール用紙です。1 面のタイプと 20 面（A4）の 2 種類あります。 • 用紙をさばいてからセットしてください。 • 手差しトレイを使用してください。 **注記** • 故障の原因になりますので、弊社指定以外のラベル用紙は、使用しないでください。 • 両面プリントまたは両面コピーをしないでください。 **補足** • コピーする場合は操作パネル上で、プリントする場合はプリンタードライバーで、[手差し用紙種類] を [ラベル紙] に指定してください。
	HG （ノーカット） （GAAA4435）	ラベル紙	• 用紙をさばいてからたて置きにセットしてください。 • 手差しトレイを使用してください。
穴開き用紙	P 紙 （2/4/30 穴）	普通紙	トレイにセットする場合は、穴を右側にセットしてください。手差しトレイにセットする場合は、穴の部分を機械側にしてセットしてください。

*1 用紙を用紙トレイにセットするときには、セットした用紙に合わせて、用紙種類を設定してください。詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

*2 厚紙は用紙にたわみのない新しい紙を使用してください。

*3 お使いのはがきによって、[厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）] または [厚紙 2（201 ～ 250g/m^2）] を選択してください。コピーする場合は『ユーザーズガイド』の「3 コピー」、プリントする場合はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

補足

- 制限の欄で、「高温高湿」は 28 ℃、85% の環境を、「低温低湿」は 10 ℃、15% の環境を意味します。
- そのほかの厚紙などの特殊紙については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

制限紙

次の紙を使用する場合は、制限があります。

分類	用紙名	用紙トレイに設定する用紙種類 *1	制限
ラベル	EP ラベル用紙（中厚口）（20 面カット）（GAAA3876）	ラベル紙	• 用紙をさばいてからセットしてください。 • 手差しトレイから走行時、高温高湿下では、1 枚ずつセットしてください。
	EP ラベル用紙（厚口）（20 面カット）（GAAA3877）	ラベル紙	• 用紙をさばいてからたて置きにセットしてください。
	ラベル用紙（20 面カット）（V860）	ラベル紙	• 用紙をさばいてからセットしてください。 • 手差しトレイを使用してください。
	ラベル用紙（ノーカット）（V862）	ラベル紙	• 用紙をさばいてからたて置きにセットしてください。 • 手差しトレイを使用してください。

*1 用紙を用紙トレイにセットするときには、セットした用紙に合わせて、用紙種類を設定してください。詳しくは、「用紙の設定を変更する」（P.80）を参照してください。

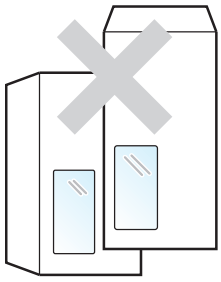
補足

- 制限の欄で、「高温高湿」は 28 ℃、85% の環境を、「低温低湿」は 10 ℃、15% の環境を意味します。

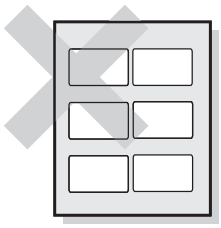
使用できない用紙

弊社が推奨していない用紙 /OHP フィルムを使用された場合、故障や用紙づまりの原因になります。本製品には、弊社が推奨する用紙 /OHP フィルムをご使用ください。

- FUJI XEROX フルカラーOHP フィルムのように白い枠付きの OHP フィルム（V558、V556）、257×257mm（V302）
- 電飾フィルム
- 弊社推奨以外の OHP フィルム
- 105g/m^2 以下のコート紙
- デジタルコート紙（光沢タイプ）
- 色地用布地転写用紙
- 布地転写用紙
- インクジェット専用紙
- 水転写紙
- インクジェット用郵便はがき
- インクジェット用OHPフィルム
- 黒い折り紙（全サイズ）
- 感熱紙 / 熱転写用紙
- 一度プリントしたラベル紙
- ゼログラフィックフォトペーパー
- 155 ℃の熱で変質するインクを使った用紙
- ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いた用紙
- 貼り合わせた用紙、のりが付いた用紙
- 窓付きの封筒
- のり付け部分がのりでベタついている封筒
- 湿っている用紙、ぬれている用紙
- 本機以外のプリンターやコピー機で一度プリントした用紙
- 台紙全体がラベルなどで覆われてないもの
- しわや折れ、破れのある用紙
- 凹凸や留め金のある封筒
- 厚すぎる用紙、薄すぎる用紙
- 表面加工したカラー用紙
- 静電気で密着している用紙
- カーボン紙
- 表面に特殊コーティングされた用紙
- ざら紙や繊維質の用紙など、表面が滑らかでない用紙
- 酸性紙を使用した場合は、文字がぼやけることがあります。そのときは中性紙に替えてください。
- タックフィルム（透明白色、金色、銀色、強粘着白色）
- OK トップコート N（128g/m^2）
- 第二原図用紙 TX（ターミネート）、MX
- アートフラックス
- 装丁紙ソーテル（210g/m^2）
- 一度プリントした用紙がベタ黒の場合
- ノンカーボン紙



窓付きの封筒



台紙全体がラベルに覆われていない

用紙の保管と取り扱い

■用紙を保管するときは、次のことに気を付けてください。

- 用紙はキャビネットの中や、湿気が少ない場所に保管してください。用紙が湿気を含むと、用紙づまりや画質不良の原因になります。
- 開封後、用紙の残りは包装紙に包んで保管してください。このとき、防湿剤を入れることをお勧めします。
- 用紙は、折れや曲がりを防ぐために、立てかけずに水平に保管してください。

■用紙をトレイにセットする前に、次の事項を守ってください。

- 用紙の束は、きちんとそろえてからセットしてください。
- 折り目、しわが入った用紙は使用しないでください。
- 波をうったような用紙や、カールした用紙は、使用しないでください。
- サイズの異なる用紙を重ねてセットしないでください。
- OHP フィルムやラベル用紙は、紙づまりを起こしたり複数枚が同時に送られたりすることがあるので、よくさばいてからご使用ください。
- 連続して OHP フィルムに出力する場合、OHP フィルムどうしが貼り付いてしまうおそれがあります。約 20 枚を目安に排出トレイから取り出し、よくさばいて温度を下げてください。

用紙をセットする

ここでは、用紙トレイに用紙をセットする方法について説明します。

■用紙トレイにセットする用紙の種類について

用紙トレイにセットした用紙のサイズと向きは、機械が自動的に検知しますが、用紙の種類は、設定が必要です。通常、各トレイは、普通紙が設定されています。ほかの種類の用紙をセットする場合は、設定を変更してください。また、用紙に名前を付けて、ユーザー定義用紙として設定することもできます。ユーザー定義用紙は 5 種類まで設定できます。

参照

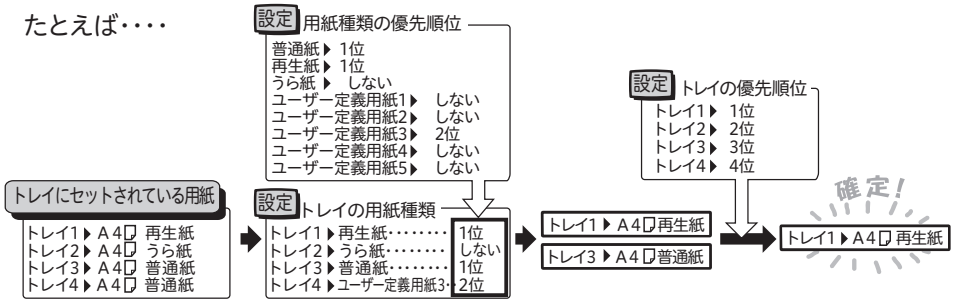
- 用紙トレイの用紙種類を変更する場合は、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

■自動トレイ選択について

プリントの場合は、ART EX プリンタードライバーのプロパティ画面で、［トレイ / 排出］タブの［用紙トレイ選択］を［自動］にしてプリントを指示すると、機械はプリントする原稿のサイズと向きから、該当する用紙トレイを選択します。これを、「自動トレイ選択」と呼びます。

コピーの場合は、［用紙選択］で［自動］を選択した場合に、自動トレイ選択が働きます。

この自動トレイ選択で、該当する用紙トレイが複数ある場合は、用紙トレイの［用紙種類］に設定している用紙種類の、［用紙種類の優先順位］が高いトレイを選択します。このとき、［用紙種類の優先順位］の設定を［自動トレイ選択しない］に設定しているトレイは、自動トレイ選択の対象にはなりません。また、［用紙種類の優先順位］がまったく同じ場合は、［用紙トレイの優先順位］で決定されます。



補足

- トレイ 5（手差し）は、自動トレイ選択の対象外です。
- コピーまたはプリント中に用紙がなくなったときは、コピーまたはプリントしていた用紙と同じサイズで同じ向きの用紙が入ったトレイを選択して、コピーまたはプリントを続けます（自動トレイ切り替え機能）。このとき、［用紙種類の優先順位］を［自動トレイ選択しない］に設定している種類の用紙が入ったトレイには、切り替えません。

■用紙補給について

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

補足

- 紙づまりを起こしたり複数枚が同時に送られたりすることがあるので、用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。

用紙トレイ 1、2 に用紙をセットする

用紙トレイ 1、2 に用紙をセットする手順について説明します。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

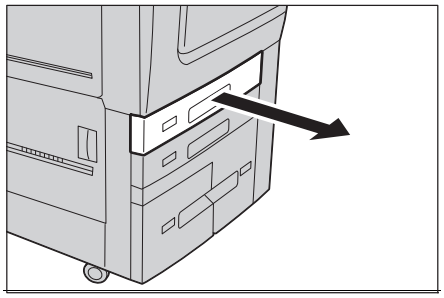
補足

- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙をさばくことで、紙づまりを起こしにくくします。

参照

- 用紙サイズや向きを変更する場合は、「用紙トレイ 1、2 の用紙サイズを変更する」(P.73) を参照してください。

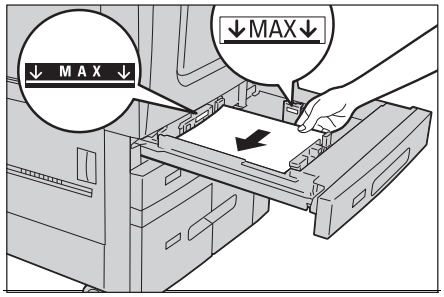
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



注記

- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いを防ぐために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 コピー、またはプリントする面を下にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記

- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。
- 用紙トレイ 1、2 の右側空きスペースには、用紙や物を置かないでください。紙づまりや故障の原因になります。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記

- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

用紙トレイ 1、2 にインデックス用紙をセットする

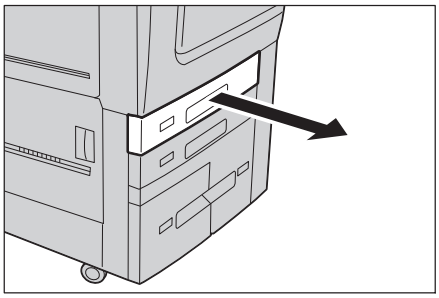
用紙トレイ 1、2 にインデックス用紙をセットする手順について説明します。

注記
- インデックス用紙をセットできるのは、用紙トレイ 1、2 と用紙トレイ 5（手差しトレイ）だけです。
- インデックス用紙は、［インデックス紙コピー］機能、または表紙 / 合紙用にだけ使用できます。

補足
- 紙づまりを起こしたり複数枚が同時に送られたりすることがあるので、用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。

参照
- 用紙サイズや向きを変更する場合は、「用紙トレイ 1、2 の用紙サイズを変更する」（P.73）を参照してください。

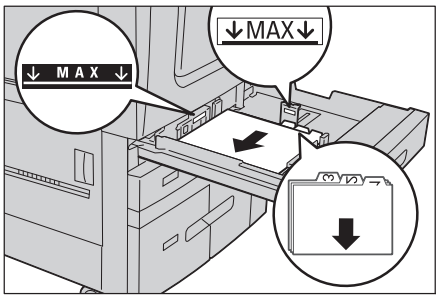
1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



> ⚠注意
> 用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いを防ぐために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 コピー、またはプリントする面を下にして、タブ位置を右側にそろえてセットします。



3 右側の横ガイドクリップを指でつまみながら、タブが折れないように、インデックス用紙のサイズまで移動します。

注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。
- インデックス紙をセットするときは、図のようにタブのついている方を右側にしてセットします。

補足
- タブ位置が異なる複数枚のインデックス用紙にコピーまたはプリントする場合は、コピーまたはプリントする面を下にして、1 枚めの用紙が 1 番上になるように、1 枚ずつセットする必要があります。

4 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

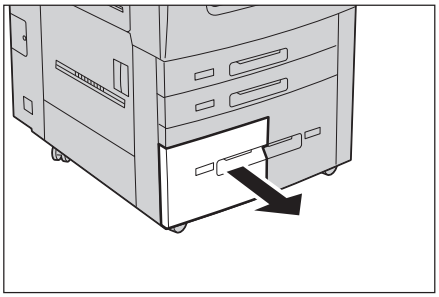
用紙トレイ 3 に用紙をセットする

用紙トレイ 3 に用紙をセットする手順について説明します。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

補足
- 用紙トレイ 3 は、A4 サイズに固定されています。用紙サイズの変更については、弊社のカストマーサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。
- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙をさばくことで、紙づまりを起こしにくくします。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。

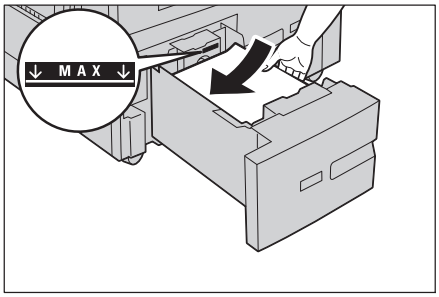


⚠注 意

用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

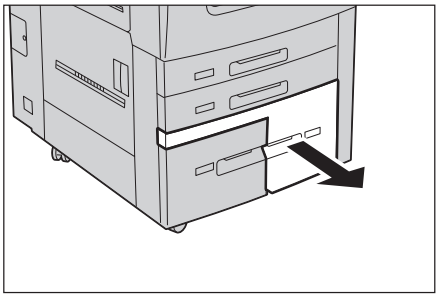
用紙トレイ 4 に用紙をセットする

用紙トレイ 4 に用紙をセットする手順について説明します。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

補足
- 用紙トレイ 3 は、A4□サイズに固定されています。用紙サイズの変更については、弊社のカストマーサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。
- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙をさばくことで、紙づまりを起こしにくくします。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



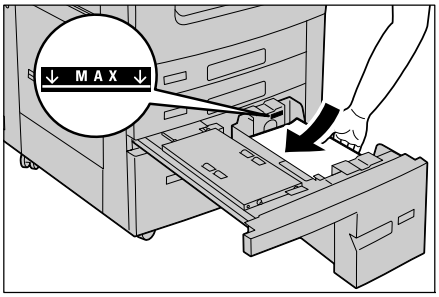
⚠注 意

用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

注記

- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記

- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記

- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする

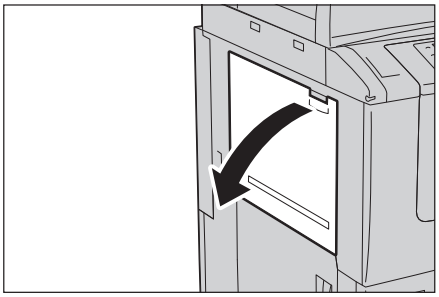
用紙トレイ 1 ～ 4、6、7 にセットできないサイズや種類の用紙に、コピー、またはプリントする場合は、用紙トレイ 5（手差し）を使用します。ここでは、用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする方法について説明します。

プリントする場合は、プリンタードライバーの［トレイ / 排出］タブで設定します。そのときに、セットする用紙の種類も設定します。

注記
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙がなくなるまで包装紙から用紙を取り出さないでください。

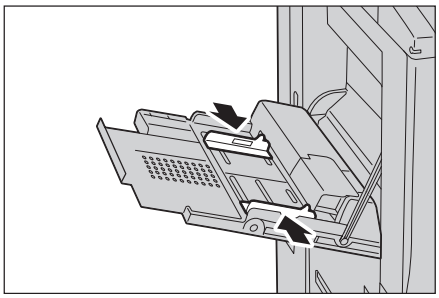
補足
- 紙づまりを起こしたり複数枚が同時に送られたりすることがあるので、用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。

1 用紙トレイ 5（手差し）を開きます。

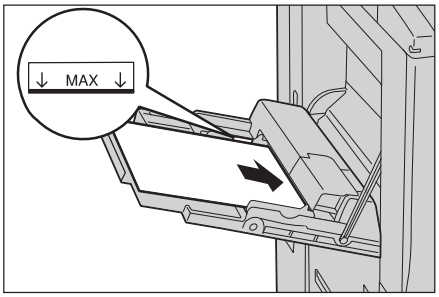


補足
- 必要に応じて、延長トレイを引き出します。延長トレイは、2 段階に引き出せます。延長トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。

2 用紙ガイドレバーの中央部を持ち、セットする用紙のサイズに合わせます。

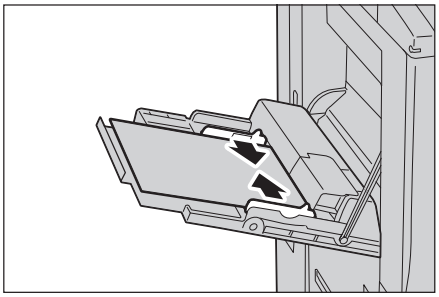


3 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙をそろえた状態で先端を軽く突き当たるまで差し込みます。



注記
- 種類が異なる用紙を一緒にセットしないでください。
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

4 用紙サイズ合わせガイドを、セットした用紙に軽く合わせます。



5 コピー、またはプリントを指示します。

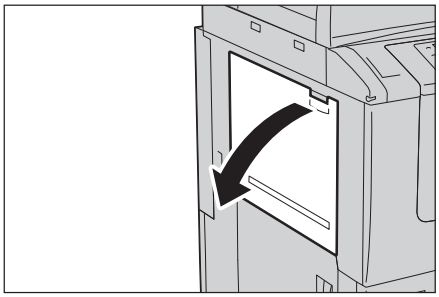
用紙トレイ 5（手差し）にインデックス用紙をセットする

用紙トレイ 5（インデックス用紙）をセットする方法について説明します。

注記
- インデックス用紙をセットできるのは、用紙トレイ 1、2 と用紙トレイ 5（手差しトレイ）だけです。
- インデックス用紙は、［インデックス紙コピー］機能、または表紙 / 合紙用にだけ使用できます。

補足
- 紙づまりを起こしたり複数枚が同時に送られたりすることがあるので、用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。

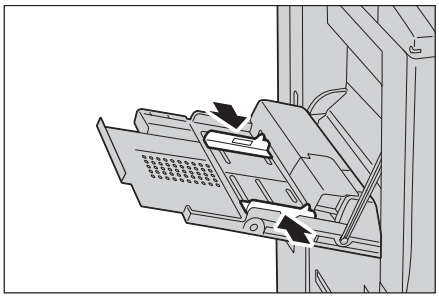
1 用紙トレイ 5（手差し）を開きます。



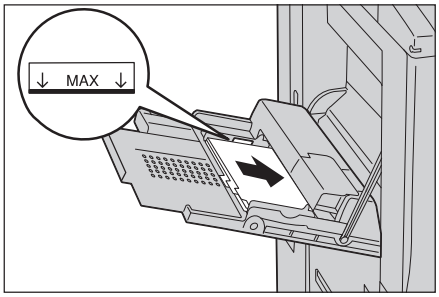
補足

- 必要に応じて、延長トレイを引き出します。延長トレイは、2 段階に引き出せます。延長トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。

2 用紙ガイドレバーの中央部を持ち、セットする用紙のサイズに合わせます。



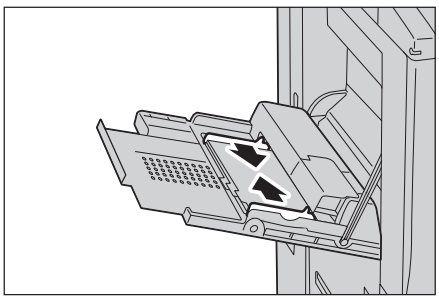
3 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙をそろえた状態で先端を軽く突き当たるまで差し込みます。



注記

- 種類が異なる用紙を一緒にセットしないでください。
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。
- インデックス紙をセットするときは、図のようにタブのついている方を左側にしてセットします。

4 用紙サイズ合わせガイドを、セットした用紙に軽く合わせます。



5 コピー、またはプリントを指示します。

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））（オプション）に用紙をセットする

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）（オプション）に用紙をセットする手順について説明します。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

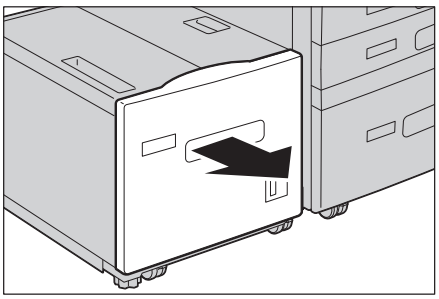
補足

- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙をさばくことで、紙づまりを起こしにくくします。

参照

- 用紙サイズや向きを変更する場合は、「用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）（オプション）の用紙サイズを変更する」（P.74）を参照してください。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



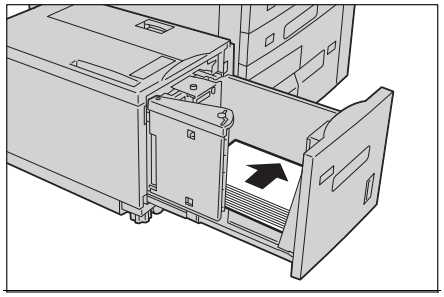
⚠注 意

用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

注記

- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。

2 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を右側にそろえてセットします。



注記

- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ（2 段））（オプション）に用紙をセットする

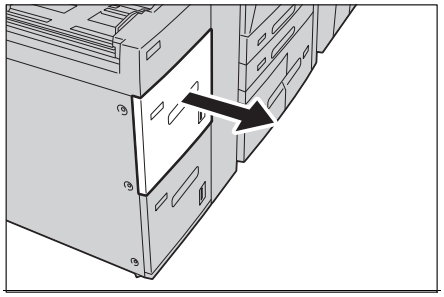
用紙トレイ 6、または 7（大容量給紙トレイ（2 段））（オプション）に用紙をセットする手順について説明します。

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給すると自動的にコピーやプリントが再開されます。

補足
- 用紙を用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。用紙をさばくことで、紙づまりを起こしにくくします。

参照
- 用紙サイズや向きを変更する場合は、「用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ（2 段））（オプション）の用紙サイズを変更する」（P.77）を参照してください。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。

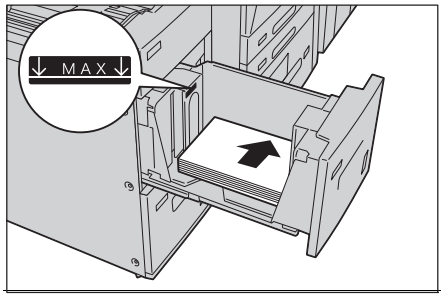


⚠注 意

用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いを防ぐために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を右側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

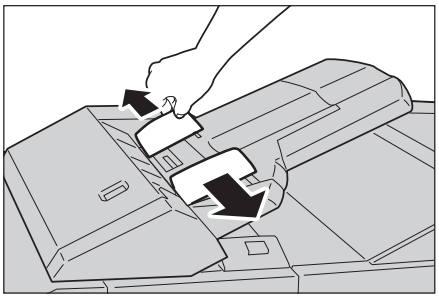
用紙トレイ T1（インターポーザー）（オプション）に用紙をセットする

フィニッシャー D2（オプション）、または中とじフィニッシャー D2（オプション）を装着している場合に、用紙トレイ T1（インターポーザー）に用紙をセットする手順について説明します。

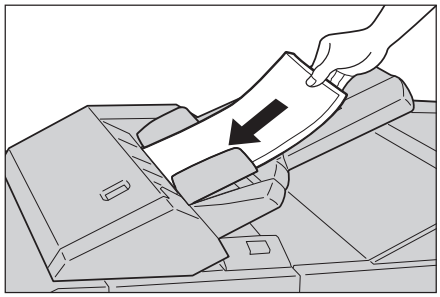
用紙トレイ T1（インターポーザー）は、合紙や表紙に使用する用紙（白紙やコピーした用紙など）をセットするためのトレイで、コピーはできません。

補足
- 用紙トレイ T1（インターポーザー）に残っている用紙はすべて取り出してから、追加する用紙と合わせてセットしてください。

1 用紙ガイドレバーの中央部を持ち、セットする用紙のサイズに合わせます。



2 用紙をそろえてセットします。



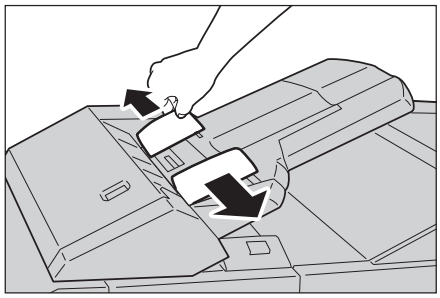
注記
- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

用紙トレイ T1（インターポーザー）（オプション）にインデックス用紙をセットする

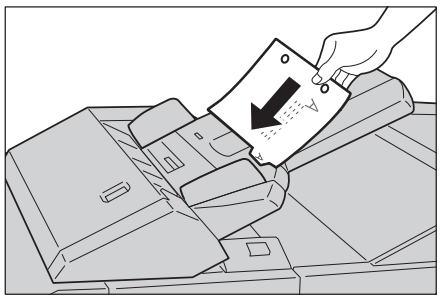
フィニッシャー D2（オプション）、または中とじフィニッシャー D2（オプション）を装着している場合に、用紙トレイ T1（インターポーザー）にインデックス用紙をセットする手順について説明します。

補足
- 用紙トレイ T1（インターポーザー）に残っている用紙はすべて取り出してから、追加する用紙と合わせてセットしてください。

1 用紙ガイドレバーの中央部を持ち、セットする用紙のサイズに合わせます。



2 インデックス用紙にすでにプリントされている場合は、プリント面を上にして、タブ側を左側、穴が開いている方を右側に向けて、用紙をセットします。



注記
- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

用紙サイズを変更する

用紙トレイ 1、2、6、7 の用紙サイズを変更する方法について説明します。

注記

- 1 つのトレイに異なるサイズの用紙を重ねてセットしないでください。

補足

- 用紙トレイ 3、4 の用紙サイズは、A4 ⊐サイズに固定されています。用紙トレイ 3、4 の用紙サイズの変更については、弊社のカストマーサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。
- 用紙トレイ 1 ～ 4 、6、7 には、用紙の紙質が設定されています。通常は、普通紙が設定されています。異なる紙質の用紙に変える場合は、印字品質を保つため、セットする用紙に合わせて、紙質の設定を変更してください。
  紙質の設定については、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。
- 用紙トレイ 1、2 には、非定形サイズの用紙をセットできます。非定形サイズの用紙をセットする場合は、用紙サイズの登録が必要です。登録方法については、「用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定」(P.329) を参照してください。

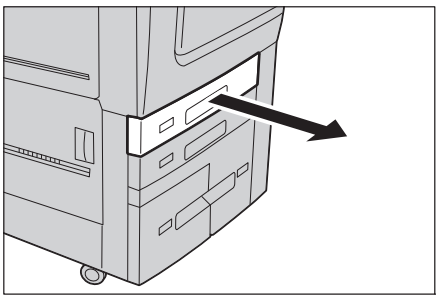
参照

- 対応する用紙サイズについては、「サイズ検知切り替え」(P.196) を参照してください。
- 非定形サイズの用紙にコピーする方法は、『ユーザーズガイド』の「3　コピー」>「コピー」>「用紙選択（コピーする用紙を選択する）」を参照してください。非定形サイズの用紙にプリントする方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

用紙トレイ 1、2 の用紙サイズを変更する

用紙トレイ 1、2 の用紙サイズを変更する方法について説明します。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。

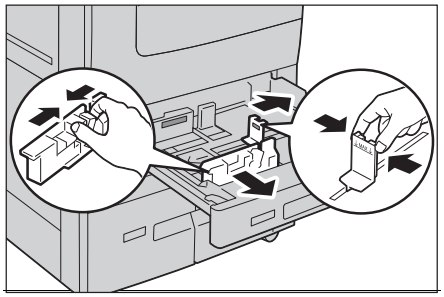


注記

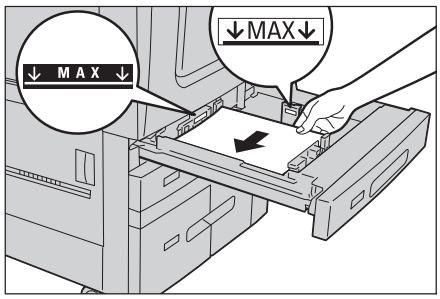
- 本機がジョブを処理しているあいだは、用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

3 2 か所の用紙ガイドレバーをつまみながら、ガイドをそれぞれ用紙サイズに合った位置まで移動します。



4 コピー、またはプリントする面を下にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。
- 用紙トレイ 1、2 の右側空きスペースには、用紙や物を置かないでください。紙づまりや故障の原因になります。

5 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

補足
- 用紙トレイには、用紙サイズに応じて、ラベルを貼ります。

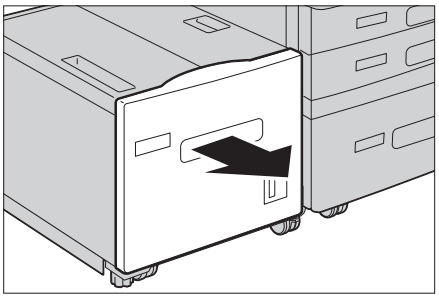
6 用紙の種類を変更した場合は、用紙トレイに、用紙種類を設定します。

参照
- 用紙の種類の設定は、「用紙の設定を変更する」（P.80）を参照してください。

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）（オプション）の用紙サイズを変更する

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）（オプション）の用紙サイズを変更する手順について説明します。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。

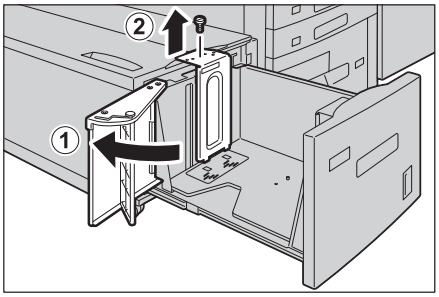


⚠注意
用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

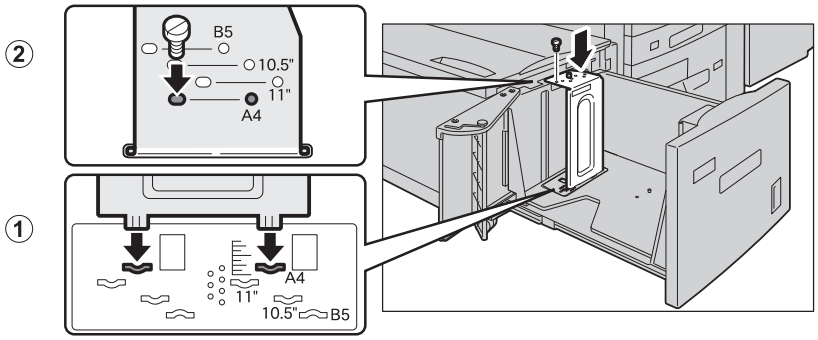
注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

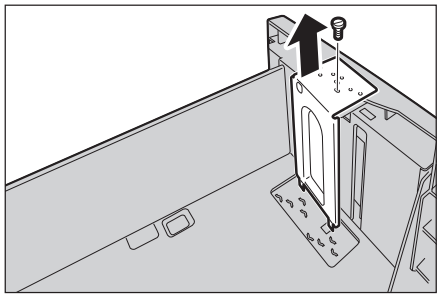
3 エンドガイドを開いて（①）、奥のガイドのネジを外し（②）、ガイドを用紙トレイから外します。



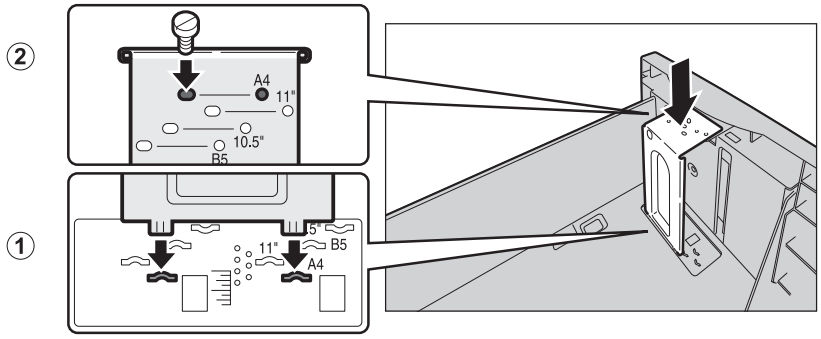
4 ガイドの下部にある突起を、用紙サイズの穴に差し込み（①）、ガイドの上面にある用紙サイズの穴に、用紙トレイの突起を差し込んで、ネジを締めます（②）。



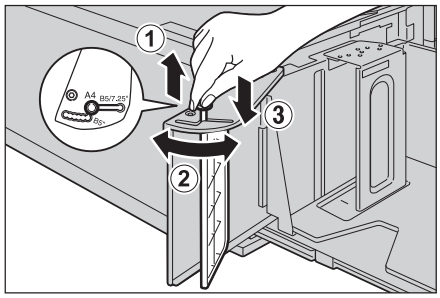
5 手前のガイドのネジを外し、ガイドを用紙トレイから外します。



6 ガイドの下部にある突起を、用紙サイズの穴に差し込み（①）、ガイドの上面にある用紙サイズの穴に、用紙トレイの突起を差し込んで、ネジを締めます（②）。



7 図のようにエンドガイドのレバーを引き上げ（①）、レバーを溝に沿って移動させながら用紙サイズに合わせて（②）、レバーを下ろします（③）。



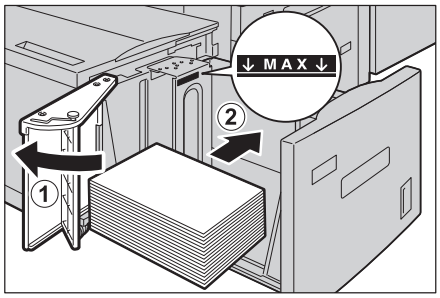
注記

- ガイドは、用紙の幅に正しく合わせてください。ガイドの位置がずれていると、用紙が正常に搬送されず、紙づまりの原因になることがあります。

補足

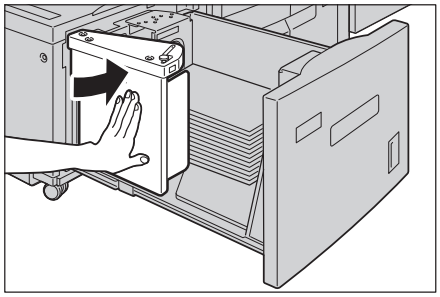
- エンドガイドの 8.5" の左側の溝は使用しません。

8 エンドガイドを開き（①）、コピーまたはプリントする面を上にして、用紙の先端を右側にそろえてセットします（②）。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

9 エンドガイドをしっかり閉じます。



10 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

11 用紙の種類を変更した場合は、用紙トレイに、用紙種類を設定します。

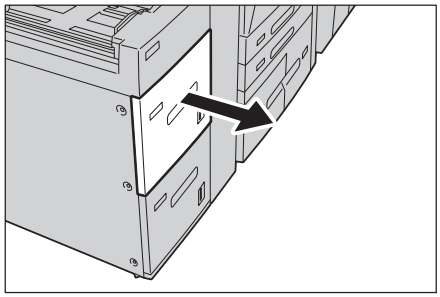
参照
- 用紙の種類の設定は、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ（2 段））（オプション）の用紙サイズを変更する

用紙トレイ 6、または 7（大容量給紙トレイ（2 段））（オプション）の用紙サイズを変更する手順について説明します。

補足
- 用紙トレイ 6、7 に非定形サイズの用紙をセットする場合は、弊社のカストマーサポートセンターまたは販売店までご連絡ください。非定形サイズに変更すると、元に戻せません。

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。

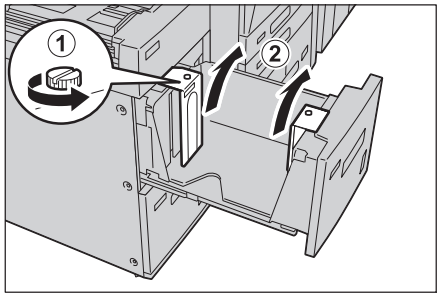


> ⚠注意
> 用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

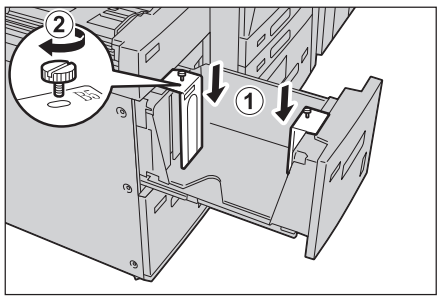
注記
- 本機がジョブを処理しているあいだは、ジョブで使用している用紙トレイを引き出さないでください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いを防ぐために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。残っている用紙は、取り除いたあと、新しくセットした用紙の上に重ねてください。

2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

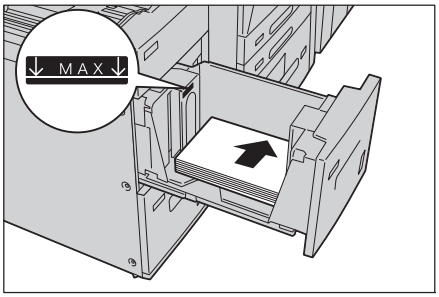
3 ネジを回し（①）、手前と奥のガイドを取り外します（②）。



4 ガイドを､変更する用紙のサイズの穴に合わせて取り付け（①）、ネジを回して固定します（②）。



5 コピーまたはプリントする面を上にして、用紙を右側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

6 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

7 用紙の種類を変更した場合は、用紙トレイに、用紙種類を設定します。

参照
- 用紙の種類の設定は、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

用紙の設定を変更する

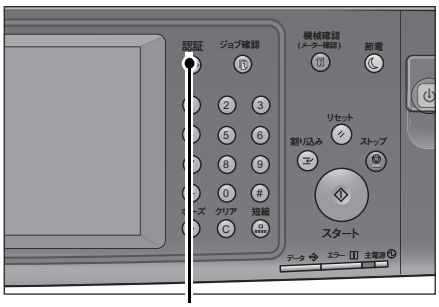
用紙トレイの用紙種類を変更する方法について説明します。

用紙を用紙トレイにセットしたら、セットした用紙の種類を設定します。

補足

- 用紙種類に表示されるユーザー用紙 1 ～ 5 は、ユーザーが任意で名称を付けられる用紙です。ユーザー用紙 1 ～ 5 の名称の設定方法は、「ユーザー用紙属性の名称設定」(P.175) を参照してください。
- 用紙種類の設定は、あらかじめ設定しておけば、機械管理者モードに入らなくても、メニュー画面の［登録 / 変更］を押して表示される［登録 / 変更］画面で変更できます。［登録 / 変更］画面で用紙種類を変更するための設定は、「登録 / 変更画面からのトレイ設定変更」(P.176) を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。



〈認証〉ボタン

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

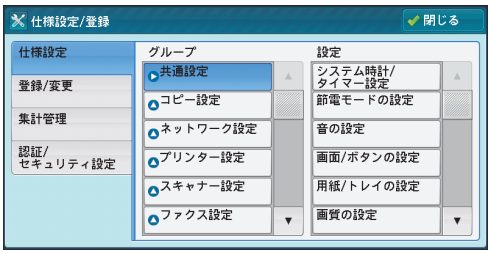
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

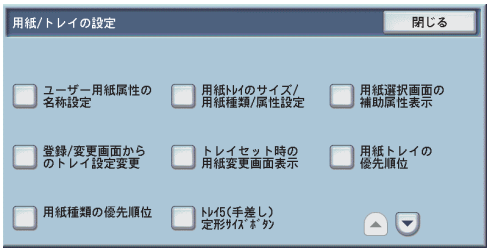
補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

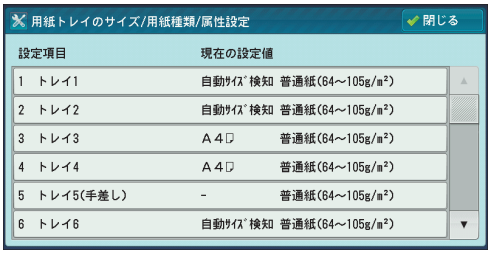
4 ［仕様設定］>［共通設定］>［用紙 / トレイの設定］を押します。



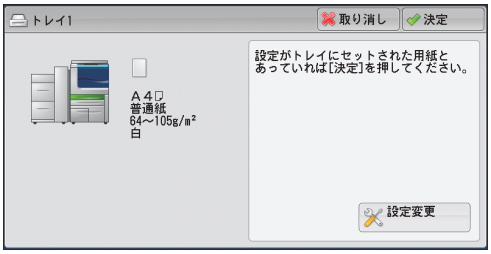
5 ［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］を押します。



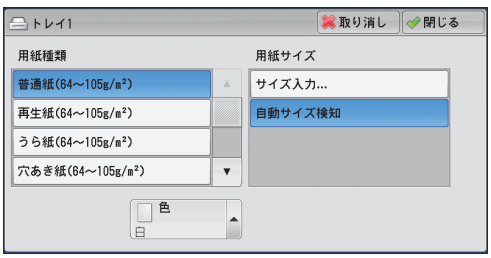
6 ［設定項目］で、用紙種類を変更する用紙トレイを選択します。



7 ［設定変更］を押します。



8 ［用紙種類］、［用紙サイズ］、［色］をそれぞれ設定します。



9 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

10 ［閉じる］を押します。

3 日常の管理

この章では、消耗品の交換、本機の清掃、レポート / リストのプリント、誤った User ID を付けたプライベート・プリントジョブの削除方法、設定復元ツールについて説明します。

- 消耗品を交換する.....84
- 本体を清掃する.....105
- レポート / リストをプリントする.....109
- 誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する.....110
- 設定復元ツール.....111

消耗品を交換する

本機には、消耗品、および定期交換部品が用意されています。本機に適した規格で作られていますので、次の消耗品 / 定期交換部品の使用をお勧めします。

消耗品 / 定期交換部品の種類	商品コード	形態
トナーカートリッジ	CT201826	1 個 /1 箱
ドラムカートリッジ	CT350945	1 個 /1 箱
トナー回収ボトル	CWAA0554	1 個 /1 箱
ホチキス針 タイプ XH（3PCS）*1	CWAA0855	5000 針 ×3 セット /1 箱
ホチキス針 タイプ XE（2PCS）*2	CWAA0856	5000 針 ×2 セット /1 箱
ホチキス針 タイプ XF（4PCS）*3	CWAA0671	5000 針 ×4 セット + ホチキスダストボックス ×1 個 /1 箱
ホチキス針 中とじ用タイプ XC（4PCS）*4	CWAA0501	5000 針 ×4 セット /1 箱

*1: フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 用。(65 枚ステープル)
*2: フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 用。(50 枚ステープル)
*3: フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 用。
*4: 中とじフィニッシャー D2 用。

⚠警告

- こぼれたトナーを電気掃除機で吸い取らないでください。本製品内およびトナーカートリッジ、トナー回収ボトル等に付着したトナーを電気掃除機で吸引することもおやめください。掃除機を用いると、掃除機内部のトナーが、電気接点の火花などにより、発火または爆発するおそれがあります。床などにこぼしたトナーは、ほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布などで拭き取ってください。大量にこぼれた場合、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナーカートリッジは、絶対に火中に投じないでください。トナーカートリッジに残っているトナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナー回収ボトルは、絶対に火中に投じないでください。トナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナー回収ボトルは、弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

⚠注意

- ドラムカートリッジやトナーカートリッジは幼児の手が届かないところに保管してください。幼児がトナーを飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談し指示を受けてください。
- ドラムカートリッジやトナーカートリッジを交換する際は、トナーが飛散しないように注意してください。また、トナーが飛散した場合は、トナーが皮膚や衣服に付いたり、トナーを吸引したり、または目や口に入らないように注意してください。
- 次の事項に従って、応急処置をしてください。
  - トナーが皮膚や衣服に付着した場合は、石けんを使って水でよく洗い流してください。
  - トナーが目に入った場合は、目に痛みがなくなるまで15分以上多量の水でよく洗い、必要に応じて医師の診断を受けてください。
  - トナーを吸引した場合は、新鮮な空気のところへ移動し、多量の水でよくうがいをしてください。
  - トナーを飲み込んだ場合は、飲み込んだトナーを吐き出し、水でよく口の中をすすぎ、多量の水を飲んでください。すみやかに医師に相談し指示を受けてください。

■消耗品 / 定期交換部品の取り扱いについて

- 消耗品 / 定期交換部品の箱は、立てた状態で保管しないでください。
- 消耗品 / 定期交換部品は、使用するまでは開封しないで、次のような場所を避けて保管してください。
  - 高温多湿の場所
  - 火気がある場所
  - 直射日光が当たる場所
  - ほこりが多い場所
- 消耗品 / 定期交換部品を使用するときは、取り扱い上の注意をよく読んでから使用してください。取り扱い上の注意は、消耗品 / 定期交換部品に同梱されているか、消耗品 / 定期交換部品の箱や容器に記載されています。
- 消耗品 / 定期交換部品は、予備を用意することをお勧めします。
- 消耗品 / 定期交換部品を発注するときは、商品コードを確認のうえ、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご注文ください。
- 弊社が推奨していない消耗品 / 定期交換部品を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨する消耗品 / 定期交換部品をご使用ください。

■消耗品の状態確認

消耗品の状態は、［消耗品確認］画面で参照できます。

参照
- 消耗品確認については、「消耗品確認」(P.136) を参照してください。

参照先は次のとおりです。

トナーカートリッジを交換する 86
トナー回収ボトルを交換する 89
平とじ用ホチキス針を交換する （フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時）... 92
ホチキスカートリッジを交換する （フィニッシャー D2 、中とじフィニッシャー D2 装着時).. 94
中とじ用ホチキス針を交換する（中とじフィニッシャー C3 装着時) 96

中とじホチキスカートリッジを交換する（中とじフィニッシャー D2 装着時）.....99
パンチダストボックスの切りくずを捨てる（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3、フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 装着時）.....101
ホチキスダストボックスを交換する （フィニッシャー D2 、中とじフィニッシャー D2 装着時）.....102

トナーカートリッジを交換する

トナーの残量によって、次のようなメッセージが操作パネルのディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

メッセージ	処置
トナーカートリッジ交換時期です。	表示されたトナーカートリッジを交換してください。 **補足** • メッセージが表示されてから、コピーまたはプリントできる残りページ数は約 1,500 ページです。*
トナーカートリッジを交換してください。	本機が停止します。 表示されたトナーカートリッジを交換してください。

* コピーまたはプリントできる残りページ数は、A4（□）の用紙を使用した場合の枚数です。コピーまたはプリントできる残りページ数は、印字内容、用紙のサイズ、種類、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。

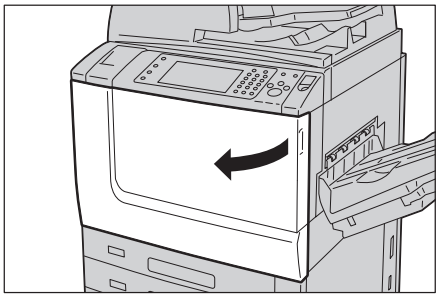
⚠警告

- こぼれたトナーを電気掃除機で吸い取らないでください。本製品内およびトナーカートリッジ、トナー回収ボトル等に付着したトナーを電気掃除機で吸引することもおやめください。掃除機を用いると、掃除機内部のトナーが、電気接点の火花などにより、発火または爆発するおそれがあります。床などにこぼしたトナーは、ほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布などで拭き取ってください。大量にこぼれた場合、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナーカートリッジは、絶対に火中に投じないでください。トナーカートリッジに残っているトナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

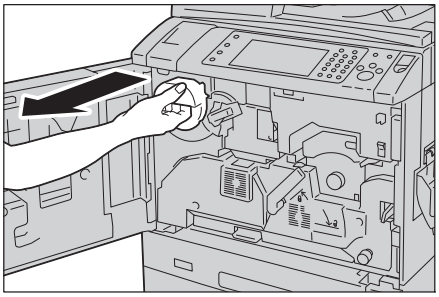
注記

- トナーカートリッジを交換するとき、トナーがこぼれて床面などを汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。
- 弊社が推奨していないトナーカートリッジを使用した場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するトナーカートリッジをご使用ください。
- トナー残量が少なくなってきている場合、プリント中に機械が停止してメッセージが表示されることがあります。その場合は、トナーカートリッジを交換すると、コピー、またはプリントは継続されます。
- トナーカートリッジを交換するときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。
- 本機が節電状態になっている場合は、トナーカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- トナーカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合も＜機械確認＞ボタンを押して正確なトナーカートリッジの状態を確認してから、交換してください。
- 操作パネルのディスプレイに、「予備のトナーカートリッジを用意してください。」とメッセージが表示されたあとは、コピー、またはプリント濃度が若干低下することがあります。
- 使いかけのトナーカートリッジを使用すると、「予備のトナーカートリッジを用意してください。」とメッセージが表示されたあとに、コピー、またはプリントできる枚数が大きく異なることがあります。

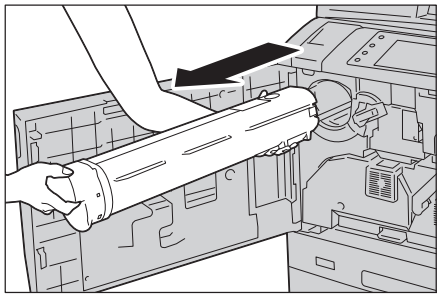
1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。



2 トナーカートリッジのハンドルに手をかけて、ゆっくり手前に引き出します。



3 トナーカートリッジをゆっくり引き出しながら、トナーカートリッジ下部にもう一方の手を添えて、取り出します。



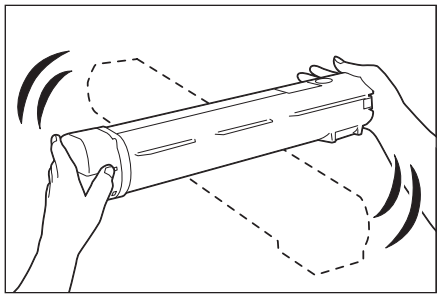
⚠警告

トナーカートリッジは、絶対に火中に投じないでください。トナーカートリッジに残っているトナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

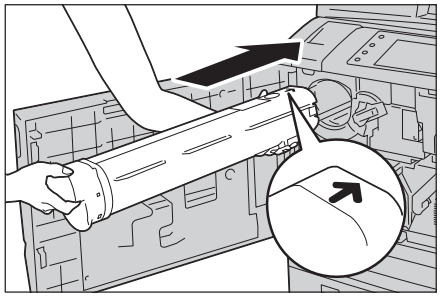
注記

- トナーカートリッジはゆっくり引き出してください。トナーが飛び散ることがあります。
- 使用済みのトナーカートリッジは、弊社の営業担当者または販売店にお渡しください。

4 新しいトナーカートリッジを用意し、 5 ～ 6 回軽く上下左右に振ります。



5 新しいトナーカートリッジを挿入し、止まるまで押し込みます。



6 正面カバーを閉じます。

補足

- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

トナー回収ボトルを交換する

トナー回収ボトルとは、使用済みのトナーを回収するボトルです。トナー回収ボトルの状態によって、次のメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置を行ってください。

メッセージ	処置
予備のトナー回収ボトルを用意してください。	トナー回収ボトルを用意してください。 **補足** • メッセージが表示されてから、コピーまたはプリントできる残りページ数は約 3,000 ページです。*
トナー回収ボトルを交換してください。	本機が停止します。トナー回収ボトルを交換してください。

* コピーまたはプリントできる残りページ数は、A4（▯）の用紙を使用した場合の枚数です。コピーまたはプリントできる残りページ数は、印字内容、用紙のサイズ、種類、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。

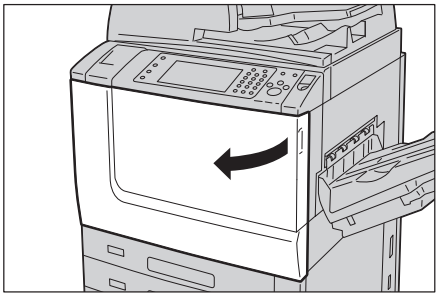
⚠警告

- こぼれたトナーを電気掃除機で吸い取らないでください。本製品内およびトナーカートリッジ、トナー回収ボトル等に付着したトナーを電気掃除機で吸引することもおやめください。掃除機を用いると、掃除機内部のトナーが、電気接点の火花などにより、発火または爆発するおそれがあります。床などにこぼしたトナーは、ほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布などで拭き取ってください。大量にこぼれた場合、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナー回収ボトルは、絶対に火中に投じないでください。トナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナー回収ボトルは、弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

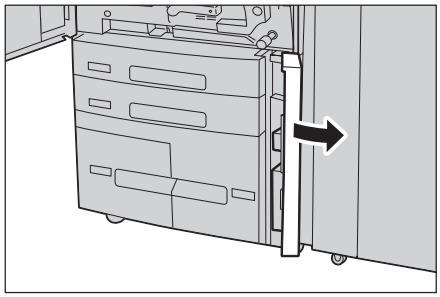
注記

- トナー回収ボトルを交換するとき、回収されたトナーがこぼれて床面を汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。
- 使用済みのトナー回収ボトルは、処理が必要です。弊社の営業担当者または販売店にお渡しください。
- 弊社が推奨していないトナー回収ボトルを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するトナー回収ボトルをご使用ください。
- トナー回収ボトルを交換するときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。

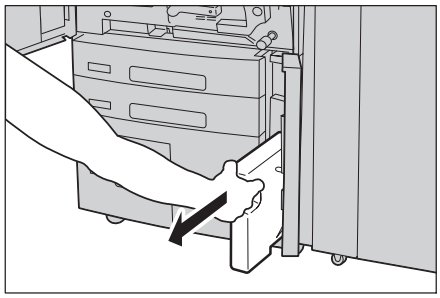
1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。



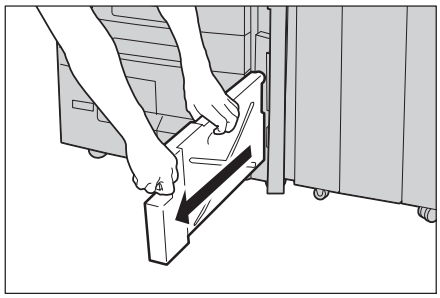
2 トナー回収ボトルカバーを開けます。



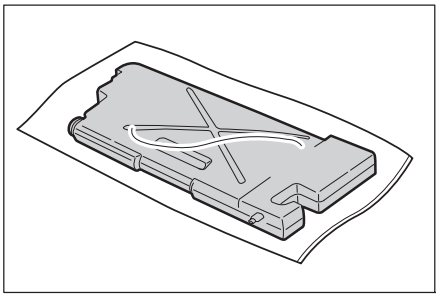
3 トナー回収ボトルを半分ほど引き出します。



4 ボトル上部の中央部分を持ち、トナー回収ボトルを取り出します。



5 使用済みのトナー回収ボトルを、両手でしっかり持って、交換用のトナー回収ボトルに同梱されているビニール袋に入れます。



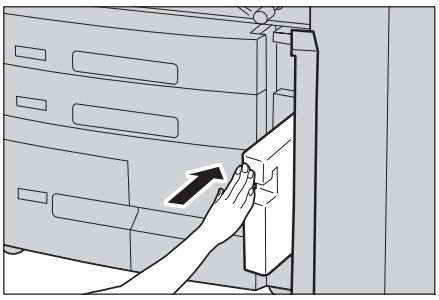
⚠警告

トナー回収ボトルは、絶対に火中に投じないでください。トナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナー回収ボトルは、弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

注記

- 使用済みのトナー回収ボトルは、弊社の営業担当者または販売店にお渡しください。
- 使用済みのトナー回収ボトルは、交換用のトナー回収ボトルが入っていた、専用のビニール袋に必ず入れてください。

6 新しいトナー回収ボトル上部の中央部を持ち、図のように奥に突き当たるまで差し込みます。



注記

- トナー回収ボトルを差し込むときには、トナー回収ボトルの取っ手を握らないでください。

7 トナー回収ボトルカバーを閉じます。

8 正面カバーを閉じます。

補足

- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

平とじ用ホチキス針を交換する（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時）

オプションのフィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合、ホチキス針の残量によって、次のようなメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

メッセージ	処置
ホチキスの針がもうすぐなくなります。ホチキスカートリッジ［R1］を確認し、予備の針を用意してください。	ホチキス針の予備を用意してください。 **補足** • ホチキス針の交換はできません。
ホチキスカートリッジ［R1］を確認し、ホチキスの針を補給するか、カートリッジをセットしなおしてください。	ホチキス針を交換してください。

注記

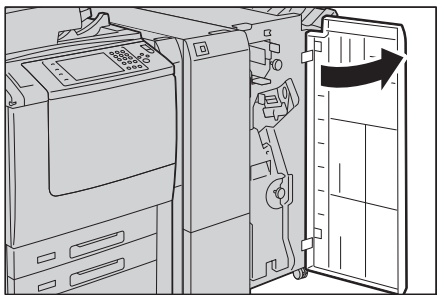
• 弊社が推奨していないホチキス針を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキス針をご使用ください。

補足

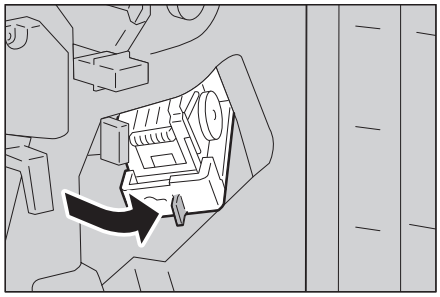
• 交換がうまくいっていない場合、ディスプレイに交換を促すメッセージが表示されたままになります。その場合は、もう一度手順に従ってカートリッジをセットし直してください。

• ホチキス針を注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

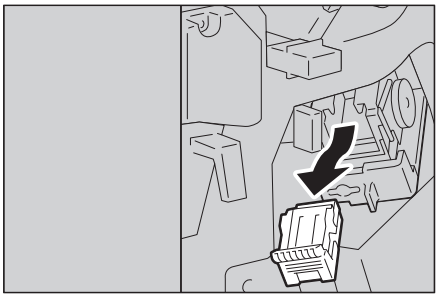
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



2 ホチキスカートリッジホルダーのレバー［R1］を持って、ホチキスカートリッジホルダーを右端（手前）へ引き寄せます。

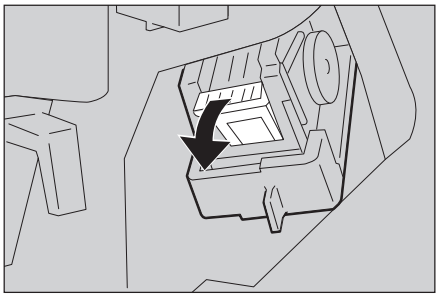


3 オレンジ色のレバーを持って、ホチキスカートリッジを取り出します。

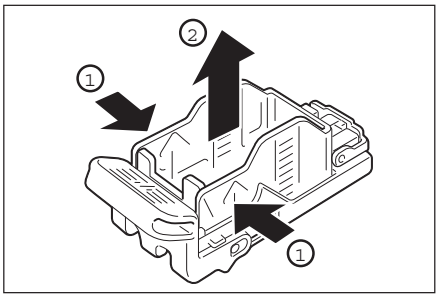


補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。
- 65 枚用ホチキスカートリッジを装着している場合は、オレンジ色のレバーを下方向に倒して、ホチキスカートリッジを引き出してください。



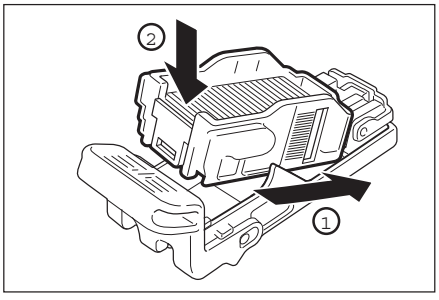
4 空になった針ケースの左右をつまみ（①）、カートリッジから取り出します（②）。



注記

- 針ケースにホチキス針が残っている場合は、針ケースを取り出すことはできません。無理に針ケースを取り出そうとすると故障の原因になります。

5 ホチキスカートリッジに新しい針ケースを挿入し（①）、後方を押してセットします（②）。



6 ホチキスカートリッジのオレンジ色のレバーを持って、元の位置に戻し、カチッと音がするまで押し込みます。

7 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー D2 、中とじフィニッシャー D2 装着時）

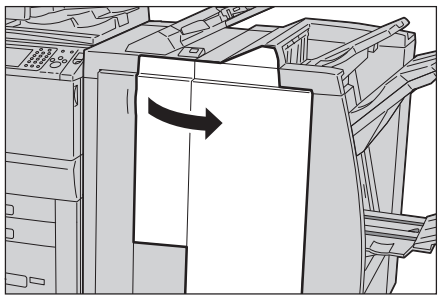
オプションのフィニッシャー D2 または中とじフィニッシャー D2 を装着している場合、ホチキスの針が無くなると、ディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、新しいホチキスカートリッジと交換してください。

ここでは、中とじフィニッシャー D2 を例に説明します。フィニッシャー D2 も手順は同様です。

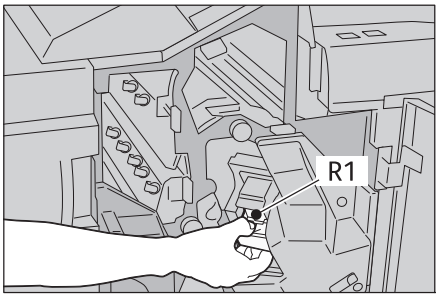
注記
- 弊社が推奨していないホチキス針を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキス針をご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、ホチキスカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- ホチキスカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合も＜機械確認＞ボタンを押して正確なホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

補足
- ホチキスカートリッジを注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

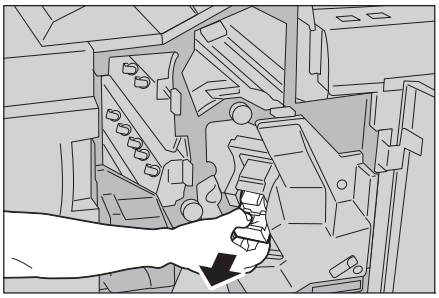
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。



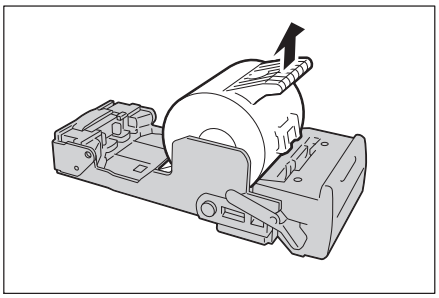
2 図の位置にある「R1」を持ちます。



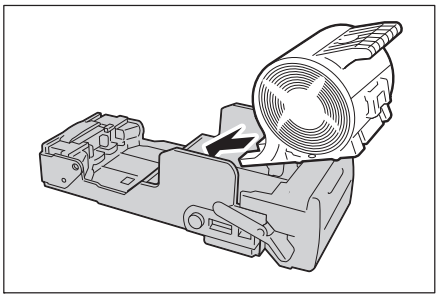
3 ユニットを引き出します。



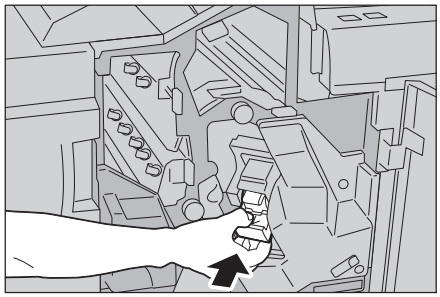
4 矢印で示した位置を持ち、ユニットからホチキスカートリッジを取り出します。



5 新しいホチキスカートリッジを、ユニットに差し込みます。



6 取り出したユニットを、元の位置に差し込みます。



7 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

中とじ用ホチキス針を交換する（中とじフィニッシャー C3 装着時）

オプションの中とじフィニッシャー C3 を装着している場合、ホチキス針の残量によって、次のようなメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

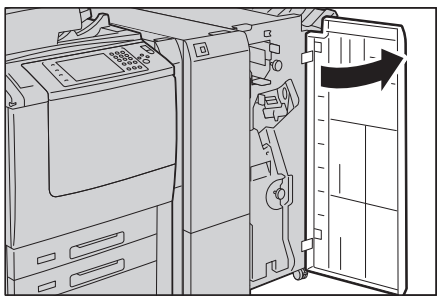
メッセージ *	処置
中とじ用のホチキス（手前側）の針がもうすぐなくなります。 予備のホチキスカートリッジ［R2］を用意してください。	ホチキス針の予備を用意してください。 **補足** • ホチキス針の交換はできません。
中とじ用ホチキスカートリッジ［R2］（手前）を確認し、ホチキスカートリッジを交換するか、カートリッジをセットしなおしてください。	ホチキス針を交換してください。

* 上記のメッセージは、中とじ用ホチキスの手前側（R2）が対象の場合です。奥側の場合は、「手前」が「奥」、「R2」が「R3」と表示されます。

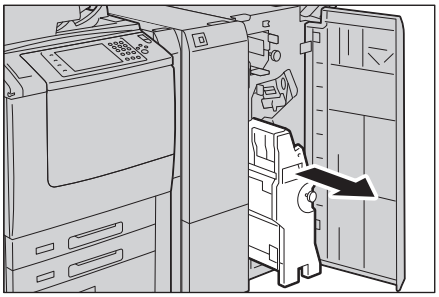
注記
- 弊社が推奨していないホチキスカートリッジを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキスカートリッジをご使用ください。

補足
- 交換がうまくいっていない場合、ディスプレイに交換を促すメッセージが表示されたままになります。その場合は、もう一度手順に従ってカートリッジをセットし直してください。
- ホチキス針を注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

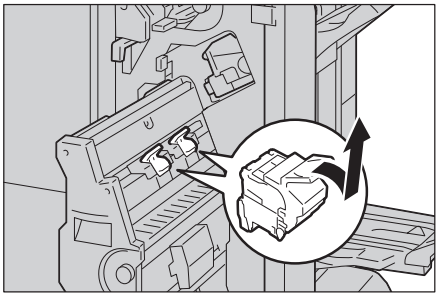
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



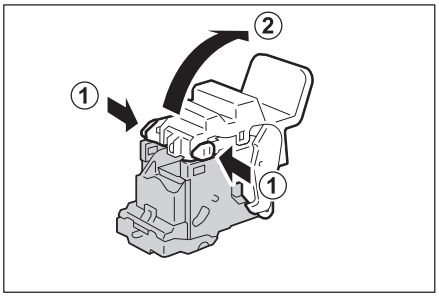
2 中とじユニットを引き出します。



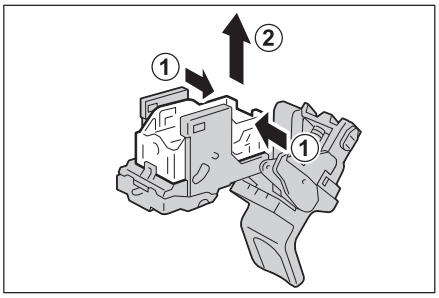
3 中とじホチキスカートリッジのレバーを持ち、下方向に倒してから、上に引いて取り出します。



4 中とじホチキスカートリッジの左右にあるオレンジ色のボタンを押して（①）、カバーを開きます（②）。



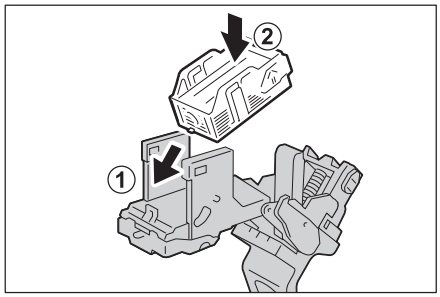
5 空になった針ケースの左右をつまみ（①）、カートリッジから取り出します（②）。



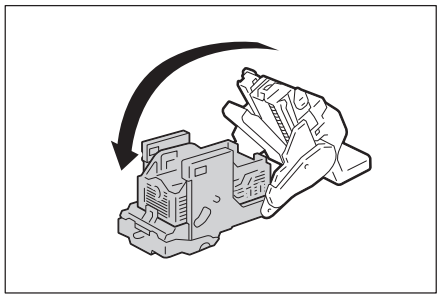
注記

- 針ケースにホチキス針が残っている場合は、針ケースを取り出すことはできません。無理に針ケースを取り出そうとすると故障の原因となります。

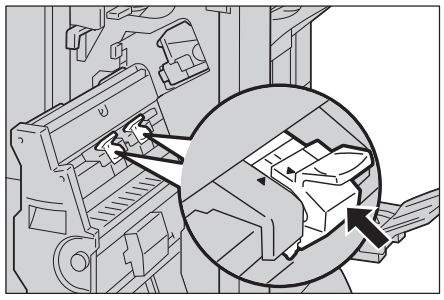
6 新しい針ケースを挿入し（①）、後方を押してセットします（②）。



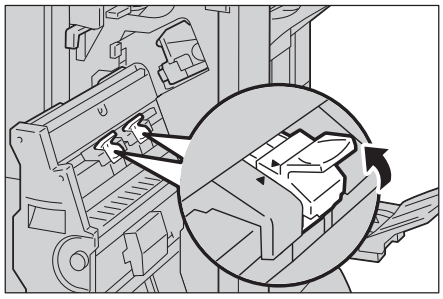
7 カバーを閉じます。



8 中とじホチキスカートリッジを元の位置に戻します。



9 軽く押し上げて、カチッと音がするのを確認します。



補足

- 中とじホチキスカートリッジの（▶）と中とじユニットの（◀）が合うように戻してください。

10 中とじユニットを元の位置に戻します。

11 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

補足

- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

中とじホチキスカートリッジを交換する（中とじフィニッシャー D2 装着時）

中とじフィニッシャー D2 を装着している場合、ホチキスの針が無くなると、ディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、新しいホチキスカートリッジと交換してください。

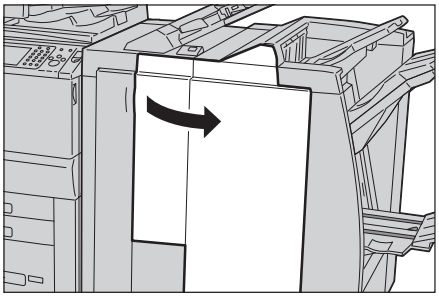
注記

- 弊社が推奨していないホ中とじチキスカートリッジを使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨するホチキスカートリッジをご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、中とじホチキスカートリッジを交換する前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- 中とじホチキスカートリッジを交換するときは、操作パネルが点灯している場合も＜機械確認＞ボタンを押して正確なホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

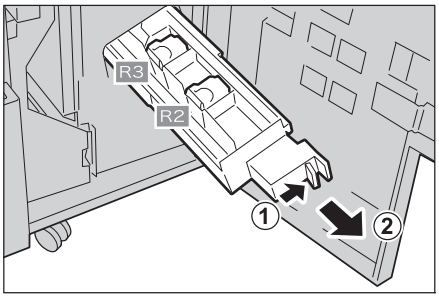
補足

- ホチキスカートリッジを注文するときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。

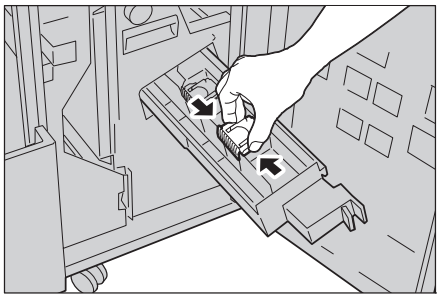
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。



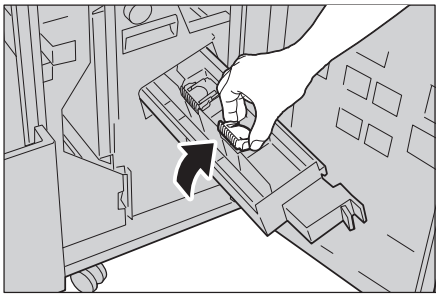
2 レバーを右側に押しながら（①）、ユニットを引き出します（②）。



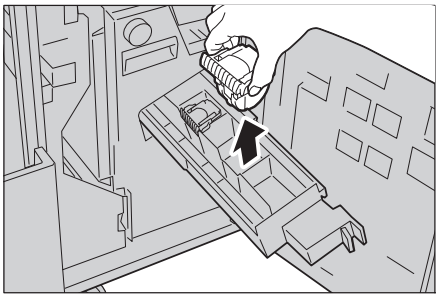
3 中とじホチキスカートリッジの左右にあるツメを持ちます。



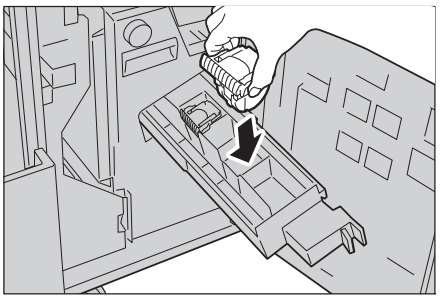
4 斜め方向に回転させます。



5 上に引きながら取り出します。

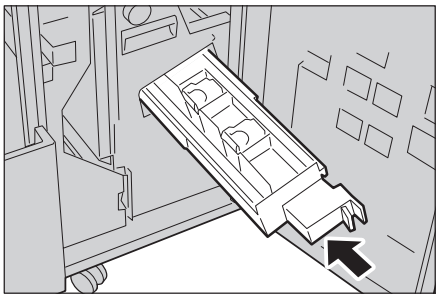


6 新しい中とじホチキスカートリッジの、左右にあるツメを持ちながら元の位置に戻し、上から軽く押して、「カチッ」と音がするのを確認します。



7 もう一方も同じように交換します。

8 ユニットを元の位置に戻します。



9 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

補足

- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

パンチダストボックスの切りくずを捨てる（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3、フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 装着時）

オプションのフィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3、フィニッシャー D2、または中とじフィニッシャー D2 を装着している場合、パンチダストボックスのパンチくずがいっぱいになると、ディスプレイにはメッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、切りくずを捨ててください。

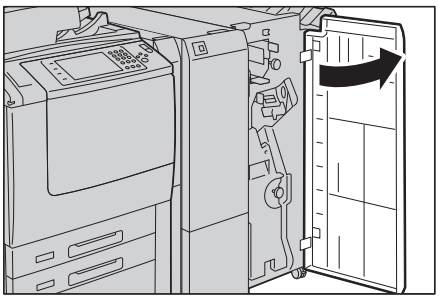
パンチダストボックスを引き抜いたときは、必ず切りくずが残らないように捨ててください。切りくずが残っていると、次の交換メッセージが表示される前に切りくずがいっぱいになり、機械の故障の原因になります。

ここでは、フィニッシャー C3 を例に説明します。中とじフィニッシャー C3、フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 も手順は同様です。

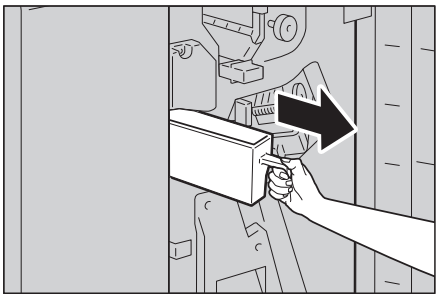
注記

- パンチダストボックスの切りくずを捨てるときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、切りくずを捨てたことを本機が認識できません。
- パンチダストボックスの切りくずは、メッセージが表示されてから捨ててください。メッセージが表示される前に捨てると、正確な切りくずの量を本機が認識できなくなります。
- 本機が節電状態になっている場合は、パンチダストボックスの切りくずを捨てる前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- パンチダストボックスの切りくずを捨てるときは、操作パネルが点灯している場合も〈機械確認〉ボタンを押して正確なパンチダストボックスの状態を確認してから、切りくずを捨ててください。

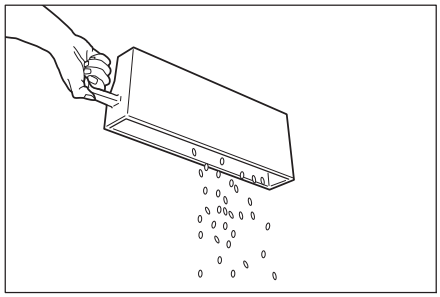
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



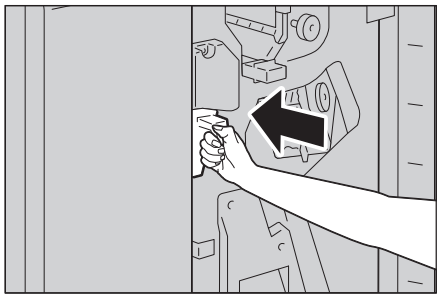
2 パンチダストボックス［R4］を手前へ引き抜きます。



3 パンチくずを、すべて捨てます。



4 空になったパンチダストボックスを、奥まで差し込みます。



5 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

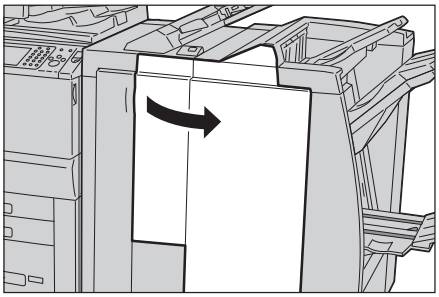
ホチキスダストボックスを交換する（フィニッシャー D2 、中とじフィニッシャー D2 装着時）

オプションのフィニッシャー D2 または中とじフィニッシャー D2 を装着している場合、ホチキスダストボックスがいっぱいになると、ディスプレイにはメッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、ホチキスダストボックスを交換してください。

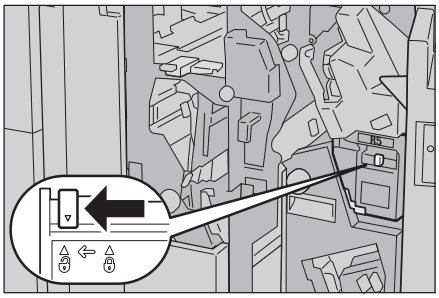
注記
- ホチキスダストボックスを交換するときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。
- 本機が節電状態になっている場合は、ホチキスダストボックスの切りくずを捨てる前に操作パネルで〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認〉ボタンを押して節電状態を解除してください。
- ホチキスダストボックスを交換するときは、操作パネルが点灯している場合も＜機械確認＞ボタンを押して正確なホチキスダストボックスの状態を確認してから、交換してください。

補足
- ホチキスダストボックスは、ホチキス針に付属しています。

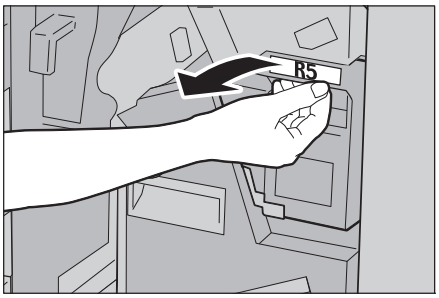
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。



2 矢印のレバーを図の位置まで左方向に移動します。

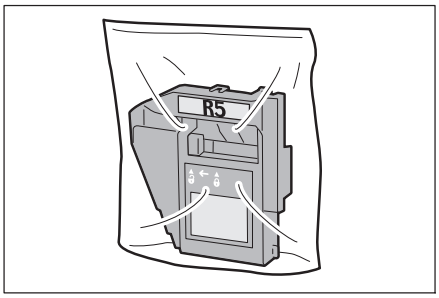


3 ［R5］をしっかりと持ち、ホチキスダストボックスを取り外します。



> ⚠注意
> ホチキスダストボックスを取り外すときは、針くずにより指などにケガをしないように十分にご注意ください。

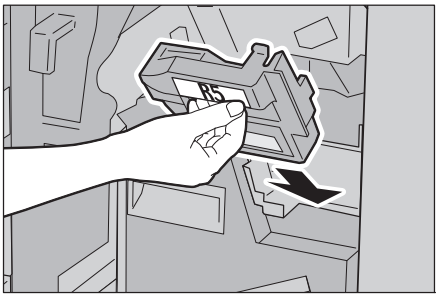
4 使用済みのホチキスダストボックスは、同梱のビニール袋に収納します。



注記

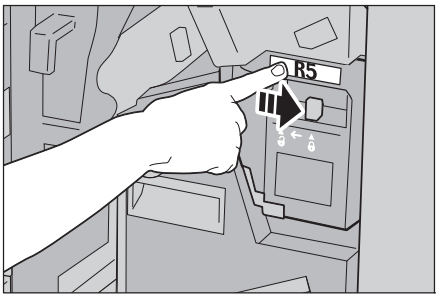
- 不要になったホチキスダストボックスは、適切な処理が必要です。ホチキスダストボックスの容器は、無理に開けたりせず、必ず弊社または販売店にお渡しください。

5 新しいホチキスダストボックスの［R5］を持ち、下部から差し込みます。



注記
- ホチキスダストボックスを差し込むときは、ホチキスダストボックスの上面に指を置かないでください。

6 レバーが図の位置に移動するまで［R5］を押します。



7 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

注記
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

本体を清掃する

ここでは、本機の清掃方法を説明します。

> ⚠警告
> 機械の性能の劣化を防ぎ安全を確保するため、清掃には指定されたものをご使用ください。スプレータイプのクリーナーは、引火や爆発の危険がありますので、絶対に使用しないでください。

> ⚠注意
> 機械の清掃を行う場合は、電源スイッチを切り、本体フロントカバー内にある主電源スイッチを切ってから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずに機械の清掃を行うと、感電の原因となるおそれがあります。

参照先は次のとおりです。

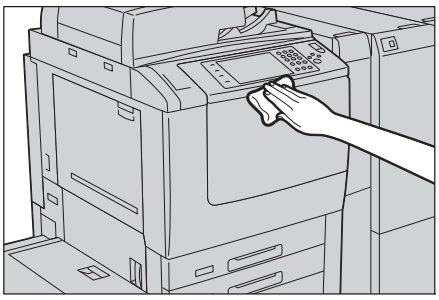
本体外部の清掃.....105
タッチパネルの清掃.....106
原稿カバー、原稿ガラスの清掃.....106
原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃.....107
原稿送り装置のローラー部の清掃.....108

本体外部の清掃

本体外部の清掃について説明します。

注記
- ベンジン、シンナーなどの揮発性のものを使用したり、殺虫剤をかけたりすると、カバー類の変色、変形、ひび割れの原因になります。
- 水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピーするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

1 水でぬらして固く絞った柔らかい布で、本体の外側をふきます。



注記
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

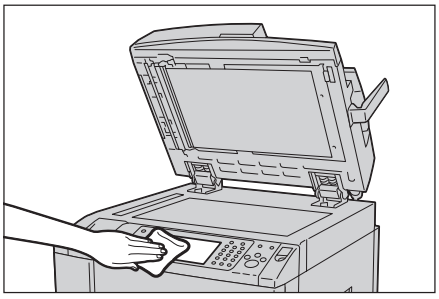
補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

2 柔らかい布で、水分をふき取ります。

タッチパネルの清掃

タッチパネルの清掃について説明します。

1 中性洗剤またはアルコールを染み込ませた柔らかい布で、液晶部だけを軽く拭きます。



注記
- 中性洗剤またはアルコールを布に染み込ませる量は、液垂れしない程度にしてください。染み込ませる量が多すぎた場合は軽く絞ってから拭いてください。
- ベンジン、シンナーなどの揮発性のものを使用したり、殺虫剤をかけたりすると、カバー類の変色、変形、ひび割れの原因になります。
- パネル部分を強い力でふくと損傷のおそれがあります。軽くふいてください。

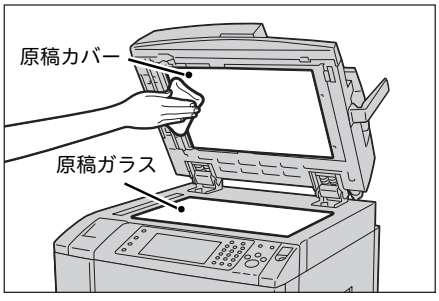
原稿カバー、原稿ガラスの清掃

原稿カバー、原稿ガラスが汚れていると、コピー、ファクス、スキャン文書に汚れが出たり、原稿サイズを正しく検知しないことがあります。

いつもきれいなコピーなどをするために、1 か月に 1 回をめどに清掃してください。

注記
- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピー、ファクス、スキャンするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

1 水で湿らせた柔らかい布で、原稿カバーと原稿ガラスの汚れをふき取り、乾いた柔らかい布でからぶきします。



注記
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

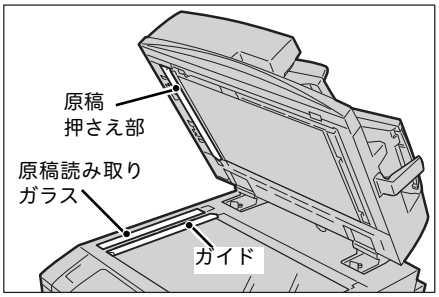
補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃

原稿送り装置の原稿押さえ部、原稿読み取りガラスが汚れていると、コピー、ファックス、スキャン文書に汚れが出たり、原稿サイズを正しく検知しないことがあります。
いつもきれいなコピーをするために、1 か月に 1 回をめどに、清掃してください。

注記
- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピー、ファクス、スキャンするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

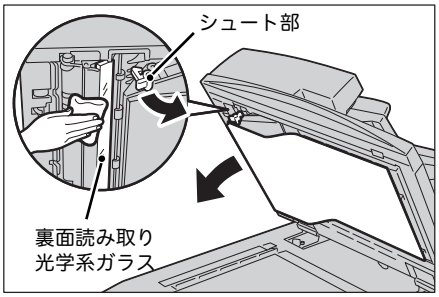
1 水で湿らせた柔らかい布で、原稿押さえ部、原稿読み取りガラス、ガイドの汚れをふき取り、乾いた柔らかい布でからぶきします。



注記
- 原稿押さえ部のフィルムは破損しやすいので、強く押しすぎないでください。
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

2 緑色のレバーをつまんでシュート部を開け、水で湿らせた柔らかい布で、裏面読み取り光学系ガラス表面の汚れをふき取り、乾いた柔らかい布でからぶきします。



注記
- 裏面読み取り光学系ガラス表面周辺のフィルムは破損しやすいので、強く押しすぎないでください。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

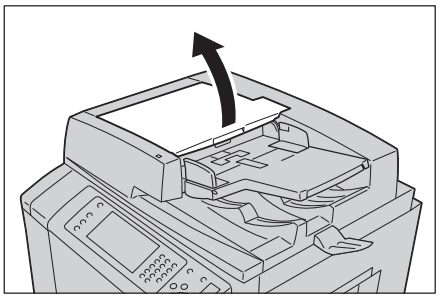
3 原稿カバーの左端中央を押して、「カチッ」と音がするまで閉じます。

原稿送り装置のローラー部の清掃

原稿送り装置のローラーが汚れていると、コピー、ファクス、スキャン文書に汚れが出たり、原稿づまりの原因になることがあります。いつもきれいなコピーなどをするために、1 か月に 1 回をめどに清掃してください。

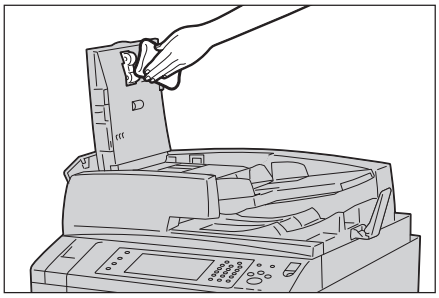
注記
- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 水でぬらしすぎると、機械が故障したりコピー、ファクス、スキャンやプリントするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

1 原稿送り装置の上面カバーの取っ手を引き上げて、止まるところまで開けます。



補足
- カバーを十分に開くと、固定される位置があります。カバーは、ゆっくりと開けてください。

2 ローラーを回しながら、少し水で湿らせた柔らかい布で清掃します。



注記
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。
- 布は水滴が落ちない程度に固く絞ってご使用ください。内部に水滴が落ちると、誤動作を起こす場合があります。

補足
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

3 原稿送り装置の上面カバーを「カチッ」と音がするまで閉じます。

4 左カバーを「カチッ」と音がするまで閉じます。

レポート / リストをプリントする

レポート / リストをプリントして、設定内容や通信状況を確認できます。
ここでは、レポート / リストをプリントする方法について説明します。

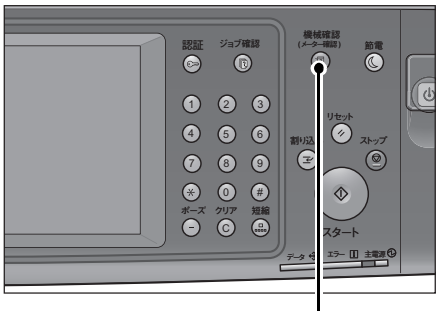
補足

- 〈データ〉ランプが点灯していないときは、［蓄積文書リスト］はプリントできません。

参照

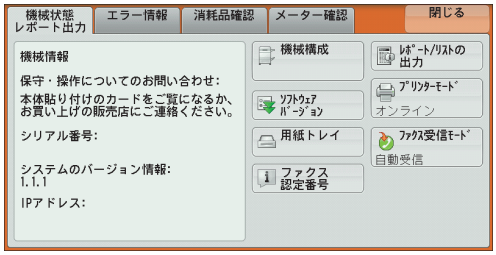
- レポート / リストの種類は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。



〈機械確認(メーター確認)〉ボタン

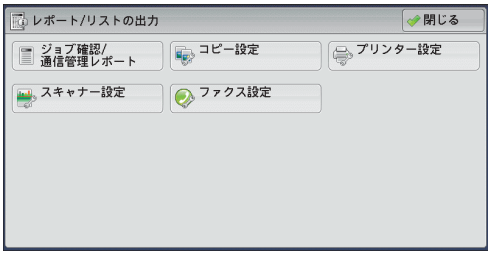
2 ［レポート / リストの出力］を押します。



補足

- ［レポート / リストの出力］は、［レポート設定］の［レポート出力ボタンの表示］を［しない］に設定している場合は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示されます。レポート設定については、「レポート設定」(P.178) を参照してください。
- ［課金データリスト］、および［ファクス集計管理レポート］をプリントするときは、操作前にカードをセットしてください。

3 プリントするレポート / リストを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。



補足

- 表示される項目は、搭載している機能によって異なります。

誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する

プライベートプリント機能を使用している場合は、誤った User ID を付けてプリント指示した文書もすべて、プライベートプリントに保存されます。機械管理者は、手動で削除するか、保存期間を設定して保存期間を過ぎたジョブが自動的に削除されるように設定してください。

ここでは、誤った User ID を付けて保存されたプリント文書を削除する方法を説明します。

参照

- プライベートプリントについては、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」、および『ユーザーズガイド』の「13 コンピューターからの操作」>「プリント」を参照してください。
- プリント文書の保存期間を設定する方法は、「保存文書設定」(P.294) を参照してください。

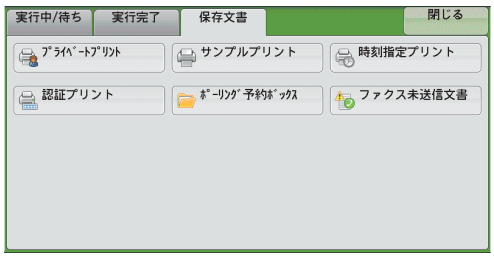
1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。

4 ［保存文書］タブを押します。



5 ［プライベートプリント］を押します。

6 削除する文書の User ID を選択して、［文書確認 / プリント］を押します。

7 文書を選択して、［削除］を押します。

設定復元ツール

設定復元ツールとは、本機のハードディスクの故障によるデータ消失に備えて、ネットワークで接続されたコンピューターに、設定データなどをバックアップする機能です。

ハードディスクの交換後に、データを復元することを目的としています。

設定復元ツールは、弊社公式サイトからダウンロードしてください。URL は次のとおりです。

http://www.fujixerox.co.jp/download/

補足

- 本機にハードディスク、Ethernet インターフェイスが装着されている場合に、バックアップできます。

次のデータがコンピューターにバックアップされます。

- 宛先表
- 親展ボックス（文書データを除く）
- ユーザー登録リスト
- ジョブフロー
- ジョブメモリー
- ジョブログ
- エラーログ
- 監査ログ
- その他、お客様が設定した情報など

ハードディスクの交換はお客様ではできませんので、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

4　機械確認

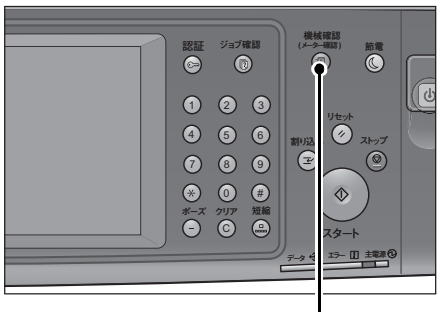
この章では、機械確認の機能について説明します。

- 機械確認の概要.....114
- 機械状態 / レポート出力.....115
- エラー情報.....135
- 消耗品確認.....136
- メーター確認.....137

機械確認の概要

機械の状態やプリントページ数を、画面で確認できます。また、レポート / リストをプリントして、ジョブの履歴や設定 / 登録内容などを確認できます。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。



〈機械確認（メーター確認）〉ボタン

［機械確認］画面でできることは、次のとおりです。

■機械状態の確認 / レポート出力

本機の構成、用紙トレイの状態、ハードディスクの上書き消去の状態を確認できます。また、プリンターモードの設定を変更したり登録したりできます。メーター別、ユーザー別にプリントページ数を確認できます。また、レポート / リストをプリントして、ジョブの履歴や設定 / 登録内容などを確認できます。

参照
- 詳しくは、「機械状態 / レポート出力」（P.115）を参照してください。

■エラー情報の確認

本機で発生したエラーに関する情報を確認できます。

参照
- 詳しくは、「エラー情報」（P.135）を参照してください。

■消耗品の確認

消耗品の状態を確認できます。

参照
- 詳しくは、「消耗品確認」（P.136）を参照してください。

■メーターの確認

メーター１のカウントを表示します。

参照
- 詳しくは、「メーター確認」（P.137）を参照してください。

機械状態 / レポート出力

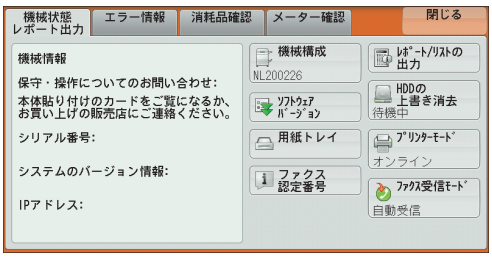
［機械状態 レポート出力］画面では、本機の構成や用紙トレイの状態を確認したり、レポート / リストを出力したり、各プリンターモードの設定を変更 / 登録したりできます。

各機能の詳細と参照先は、次のとおりです。

機械情報 115
用紙トレイ 117
レポート / リストの出力 117
自動的にプリントするレポート / リストについて 129
HDD の上書き消去 130
プリンターモード 130
ファクス受信モード 134

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 表示された［機械状態 レポート出力］画面で、機械状態を確認できます。



機械情報

［機械情報］では、シリアル番号、機械構成、ソフトウェアバージョンを確認できます。

1 機械情報を確認します。

■保守・操作についてのお問い合わせ

保守・操作についてのお問い合わせ方法が記載されています。

■シリアル番号

本機のシリアル番号を確認できます。

■システムのバージョン情報

本機のシステムのバージョンを確認できます。

■IP アドレス

本機の IP アドレスを確認できます。

■機械構成

［機械構成］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［機械構成］画面」（P.116）を参照してください。

■ソフトウェアバージョン

［ソフトウェアバージョン］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［ソフトウェアバージョン］画面」(P.117) を参照してください。

■ファクス認定番号

［**ファクス**認定番号］画面が表示されます。

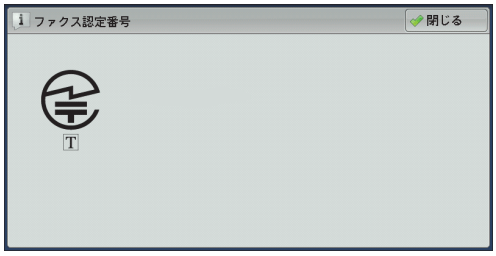
参照
- ファクス機能を搭載した機種をご使用の場合に表示されます。
- 詳しくは、「［ファクス認定番号］画面」(P.116) を参照してください。

［ファクス認定番号］画面

本機の**ファクス**認定番号（電気通信端末機器の技術基準適合認定番号等）を確認できます。

1 ［**ファクス**認定番号］を押します。

2 表示された画面で、ファクス認定番号を確認します。



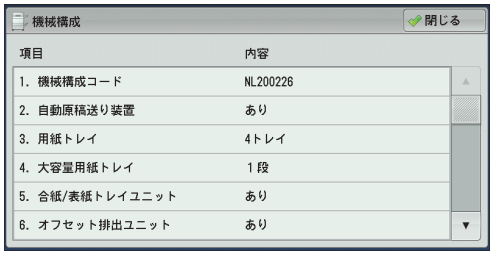
補足
- ファクス機能を搭載した機種をご使用の場合に表示されます。

［機械構成］画面

本機の構成を確認できます。

1 ［機械構成］を押します。

2 表示された画面で、機械構成を確認します。



補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.44) を参照してください。

［ソフトウェアバージョン］画面

ソフトウェアのバージョンを確認できます。

1 ［ソフトウェアバージョン］を押します。

2 表示された画面で、各ソフトウェアのバージョンを確認します。

用紙トレイ

本機に設定されている用紙トレイを、一覧で確認できます。

1 ［用紙トレイ］を押します。

2 表示された画面で、各用紙トレイの状態を確認します。

レポート / リストの出力

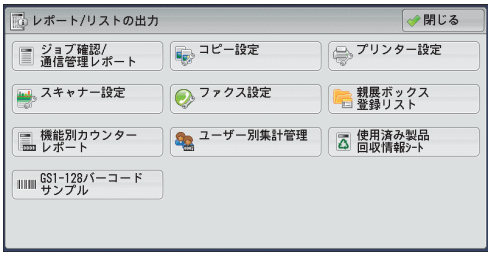
レポート / リストをプリントする方法について説明します。

補足

- 表示される項目は、搭載している機能によって異なります。

1 ［レポート / リストの出力］を押します。

2 プリントするレポート / リストの種類を選択します。



補足

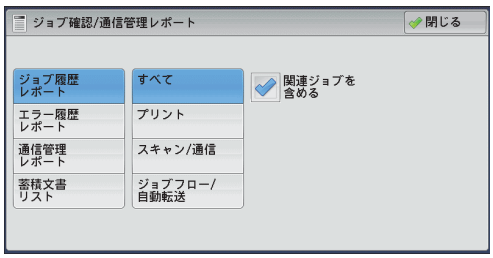
- 上の画面は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときのものです。

ジョブ確認 / 通信管理レポート

1 ［ジョブ確認 / 通信管理レポート］を押します。

補足
- ［ジョブ確認 / 通信管理レポート］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン>［機械状態 レポート出力］>［レポート / リストの出力］>［ジョブ確認 / 通信管理レポート］を押してください。

2 プリントするレポート / リストを選択します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

■ジョブ履歴レポート

ジョブの実行結果について確認できます。最新の 200 件までのジョブについてプリントされます。プリントするレポートを、［すべて］、［プリント］、［スキャン / 通信］、［自動転送ジョブ］、または［ジョブフロー / 自動転送］から選択します。

［関連ジョブを含める］チェックボックスのチェックを付けると、関連ジョブそれぞれを 1 行ずつプリントします。チェックを外すと、複数の関連ジョブ（ジョブフローのジョブなど）を 1 行にまとめてプリントします。

［ジョブ履歴レポート］は、50 件を超えるごとに自動的にプリントさせることもできます。

参照
- 自動プリントについては、「レポート設定」(P.178）を参照してください。自動プリントの場合は、すべてのジョブの実行結果が印字されます。

■エラー履歴レポート

本機に発生したエラーに関する情報がプリントされます。最新の 50 件までのエラーについてプリントされます。

■通信管理レポート

送受信が正常に終了したかどうかを確認できます。相手局名や通信結果 / 状態が発信と着信に分けて記録されます。

次の場合は、［通信管理レポート］に掲載されません。
- リダイヤルされる送信やポーリングの場合
- 送信待機中やリダイヤル待機中に、送信待ちの文書を削除した場合
- 通信中に電源が切断された場合やシステムエラーが発生した場合

通信結果の合計が 100 件になるごとに、自動的にレポートをプリントさせることができます。

補足
- ApeosWare Management Suite（別売）を使用すると、通信管理レポートの内容をコンピューターに取り込めます。ApeosWare Management Suite については、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。

参照
- 設定については、「レポート設定」(P.178) を参照してください。
- 通信管理レポートの項目は、「通信管理レポート」(P.909) を参照してください。

■蓄積文書リスト

親展ボックスに保存されている未完了ジョブ（送受信が完了していない文書、ポーリング予約文書）のリストがプリントされます。

コピー設定

1 ［コピー設定］を押します。

補足
- ［コピー設定］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態 レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［コピー設定］を押します。

2 ［機能設定リスト（共通項目)］を押します。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

■機能設定リスト（共通項目）

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足
- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

プリンター設定

1 ［プリンター設定］を押します。

補足
- ［プリンター設定］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態 レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［プリンター設定］を押します。

2 プリントするリストを選択します。

補足
- 装着しているオプションによって、表示される項目は異なります。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

次のリストは、プリンター関連のオプションを装着したときに、プリントできます。

- Adobe® PostScript® 3™ キット装着時
  - PCL 設定リスト
  - PCL マクロ登録リスト
  - PostScript 論理プリンター登録リスト
  - HP-GL/2® 設定リスト
  - HP-GL/2 メモリー登録リスト
  - PC-PR201H 設定リスト
  - PC-PR201H メモリー登録リスト
  - PCL フォントリスト
  - PostScript フォントリスト

- エミュレーションキット装着時
  - PCL 設定リスト
  - PCL マクロ登録リスト
  - HP-GL/2 設定リスト
  - HP-GL/2 メモリー登録リスト
  - PC-PR201H 設定リスト
  - PC-PR201H メモリー登録リスト
  - PCL フォントリスト

補足
- Adobe PostScript 3 キットとエミュレーションキットは、同時に装着できません。

参照
- 設定項目については、「付録」(P.735) を参照してください。

■機能設定リスト（共通項目）

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足
- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

■ART EX フォーム登録リスト

オーバーレイ印字機能で、フォームとして登録した文書の一覧がプリントされます。

参照
- ART EX フォーム登録については、ART EX プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

■PCL 設定リスト

PCL の各設定がプリントされます。

■PCL マクロ登録リスト

PCL 用に登録したフォームの一覧がプリントされます。

■PDF 設定リスト

PDF プリンターモードでの各設定がプリントされます。

■TIFF/JPEG 設定リスト

TIFF および JPEG プリンターモードでの各設定がプリントされます。

■TIFF/JPEG 論理プリンター登録リスト

TIFF および JPEG プリンターモードで作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。

参照
- TIFF および JPEG 論理プリンターの設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■PostScript 論理プリンター登録リスト

PostScript® で作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。

参照
- PostScript 論理プリンターの設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■ESC/P 設定リスト

ESC/P エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■ESC/P メモリー登録リスト

ESC/P エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト

ART IV、ESC/P、PC-PR201H で利用できるフォーム、ロゴ、パターンの登録内容がプリントされます。

参照
- ART IV のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（ART IV 対応）』を、ESC/P のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』を、PC-PR201H のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（PC-PR201H 対応）』を、それぞれ参照してください。

■HP-GL/2 設定リスト

HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■HP-GL/2 メモリー登録リスト

HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■PC-PR201H 設定リスト

PR201H エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■PC-PR201H メモリー登録リスト

PR201H エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■フォントリスト

本機で使用できるフォントの一覧がプリントされます。

補足
- プリントされる内容は、装着されているオプションによって異なります。

■PCL フォントリスト

PCL で使用できるフォントがプリントされます。

■PostScript フォントリスト

PostScript で使用できるフォントがプリントされます。

■DocuWorks プリント設定リスト

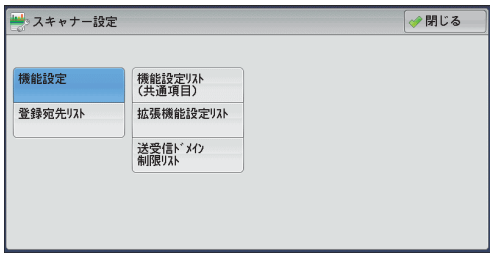
DocuWorks ダイレクトプリントのための設定がプリントされます。

スキャナー設定

1 ［スキャナー設定］を押します。

補足
- ［スキャナー設定］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態 レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［スキャナー設定］を押します。

2 プリントするリストを選択します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

■機能設定

機能設定リスト（共通項目）、拡張機能設定リスト、送受信ドメイン制限リストをプリントします。プリントするリストを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

- 機能設定リスト（共通項目）

  本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足
- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

- 拡張機能設定リスト

  スキャナー機能やファクス機能に関する設定状態が確認できます。

- 送受信ドメイン制限リスト

  送受信を制限するドメインの設定状況が確認できます。

■登録宛先リスト

宛先の登録内容を確認できます。宛先番号の範囲を指定すると、指定した番号の登録宛先設定表がプリントされます。1 ページに 50 個の宛先番号の情報がプリントされます。

1 ［登録宛先リスト］を押します。

2 プリントする宛先番号の範囲を選択します。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

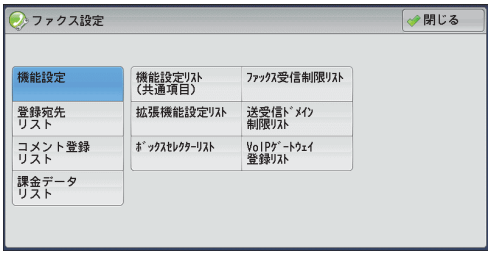
ファクス設定

1 ［ファクス設定］を押します。

補足

- ［ファクス設定］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン> ［機械状態 レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［ファクス設定］を押します。

2 プリントするリストを選択します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

■機能設定

機能設定リスト（共通項目）、拡張機能設定リスト、ボックスセレクターリスト、ファクス受信制限リスト、送受信ドメイン制限リスト、VoIP ゲートウェイ登録リストをプリントします。プリントするリストを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

- 機能設定リスト（共通項目）

  本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足

- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

- 拡張機能設定リスト

  ファクス機能やスキャナー機能に関する設定状態が確認できます。

補足

- 拡張機能設定リストは、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどちらからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

- ボックスセレクターリスト

  親展ボックスへの振り分け機能の設定状況が確認できます。

- ファクス受信制限リスト

  ファクス受信を禁止している G3-ID（電話番号）の設定状況が確認できます。

- 送受信ドメイン制限リスト

  送受信を制限するドメインの設定状況が確認できます。

- VoIP ゲートウェイ登録リスト

  VoIP ゲートウェイの登録状況が確認できます。

■登録宛先リスト

短縮宛先番号と宛先グループ番号の登録内容、中継指示局設定を確認できます。

短縮宛先番号の範囲を指定すると、指定した番号の登録宛先設定表と中継指示局設定表がプリントされます。1 ページに 50 個の短縮宛先番号の情報がプリントされます。

参照

- 短縮宛先番号と宛先グループ番号の登録方法は、「宛先表登録（短縮宛先登録）」(P.318)、「宛先グループ登録」(P.328) を参照してください。

［登録宛先リスト］を押すと、短縮宛先番号の範囲を指定する画面が表示されます。番号を選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

- 宛先グループ

  宛先グループ設定表をプリントできます。

- すべて選択

  全短縮宛先番号についての登録宛先設定表、中継指示局設定表、宛先グループ設定表をプリントできます。

■コメント登録リスト

送信シートで使用するコメントの登録内容が確認できます。

■課金データリスト

課金データの登録状況が確認できます。

参照

- ［集計管理］>［集計管理機能の運用］>［本体集計管理］で、［各機能の集計］の［ファクス / インターネットファクス］を［集計する］に設定すると表示されます。有効にする方法は、「各機能の集計」(P.336) を参照してください。

［課金データリスト］を押すと、短縮宛先番号の範囲を指定する画面が表示されます。番号を選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

- すべて選択

  全課金データリストをプリントできます。

親展ボックス登録リスト

親展ボックスに設定されている内容と、ボックス保存時の処理方法を表形式でプリントします。

補足

- ［親展ボックス登録リスト］は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示できます。

参照

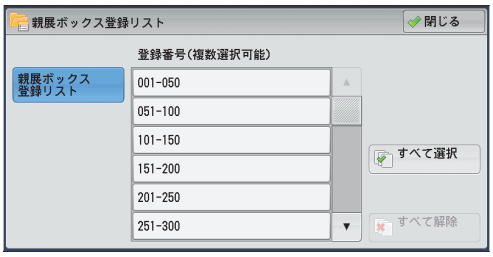
- 親展ボックスの登録方法は、「ボックス登録」(P.305) を参照してください。

1 ［親展ボックス登録リスト］を押します。

補足

- ［親展ボックス登録リスト］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン>［機械状態 レポート出力］>［レポート / リストの出力］>［親展ボックス登録リスト］を押します。

2 プリントする親展ボックスの番号の範囲を選択します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

機能別カウンターレポート

機能別のカウンターレポートをプリントします。機能別のカウンターレポートでは、各機能別に実際に利用した内訳（プリント枚数や使用回数など）や利用していない時間（待機時間、低電力モード時間、スリープモード時間、電源オフ時間など）の累計を分単位で確認することができます。

補足

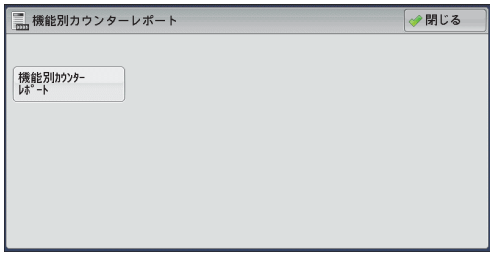
- ［機能別カウンターレポート］は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示できます。

1 ［機能別カウンターレポート］を押します。

補足

- ［機能別カウンターレポート］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン> ［機械状態 レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［機能別カウンターレポート］を押します。

2 ［機能別カウンターレポート］を押します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

ユーザー別集計管理

ユーザー別の集計管理レポートをプリントできます。なお、ユーザー別集計管理レポートは、集計管理機能を有効にしているかどうかで、表示される画面が異なります。

補足

- ［ユーザー別集計管理］は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示できます。
- レポートはファイルに出力できません。レポートをファイルに出力するには、ApeosWare Management Suite（別売）をご利用ください。

［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］以外に設定されている場合

［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］以外に設定されている場合は、次の画面が表示され、プリンター集計レポートをプリントできます。

1 ［ユーザー別集計管理］を押します。

補足

- ［ユーザー別集計管理］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン> ［機械状態 レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［ユーザー別集計管理］を押します。

2 ［プリンター集計レポート］を押します。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

■プリンター集計レポート

クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。［プリンター集計レポート］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］に設定されている場合

［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］に設定されている場合は、［ユーザー別集計管理］画面が表示されます。集計管理機能を［する］に設定している機能の、ユーザー別の集計管理レポートを、機能ごとにプリントできます。

参照

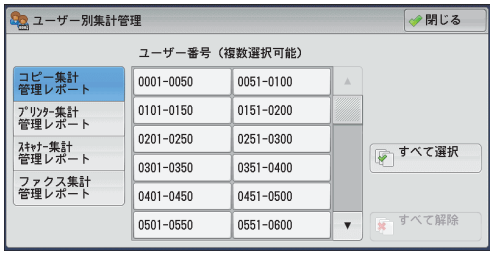
- 各機能の集計管理機能の設定は、「集計管理」(P.161) を参照してください。

1 ［ユーザー別集計管理］を押します。

補足

- ［ユーザー別集計管理］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン> ［機械状態 レポート出力］ > ［レポート / リストの出力］ > ［ユーザー別集計管理］を押します。

2 プリントする集計管理レポートを選択します。



3 プリントするユーザー番号の範囲を選択します。

補足

- ［すべて選択］を押すと、すべてのユーザーが選択されます。

4 〈スタート〉ボタンを押します。

■コピー集計管理レポート

本機でコピーした総ページ数、プリントページ数を確認できます。また、ページ数の制限を設定している場合は、それらの制限値を表示します。［コピー集計管理レポート］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

補足

- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証 / セキュリティ設定］で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

■プリンター集計管理レポート

クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。［プリンター集計管理レポート］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

注記
- ［集計管理機能の運用］の［各機能の集計］で［プリンター］を［集計しない］に設定している場合は、［プリンター集計管理レポート］ではなく、［プリンター集計レポート］が表示されます。プリンター集計レポートについては、「プリンター集計レポート」(P.127) を参照してください。

補足
- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証 / セキュリティ設定］で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

■スキャナー集計管理レポート

本機でスキャンした総ページ数を機能別に確認できます。また、ページ数の制限を設定している場合は、それらの制限値を表示します。［スキャナー集計管理レポート］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

補足
- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証 / セキュリティ設定］で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

■ファクス集計管理レポート

通信回数、送信原稿枚数などのデータをユーザー別に確認できます。

補足
- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証 / セキュリティ設定］で、ユーザー登録したNo.（ユーザー管理番号）です。

使用済み製品回収情報シート

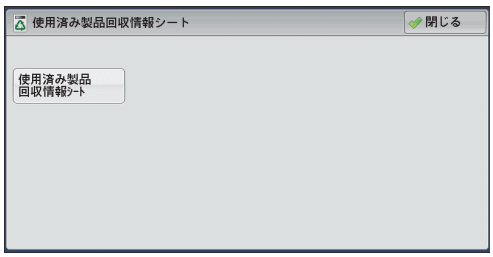
使用済みの本機の回収を依頼する場合に、情報シートをプリントできます。お客様から弊社のカストマーコンタクトセンターに本機の情報を通知していただくことにより、本機の回収経路が決定します。

補足
- ［使用済み製品回収情報シート］は、メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに表示できます。

1 ［使用済み製品回収情報シート］を押します。

補足
- ［使用済み製品回収情報シート］画面を表示するには、〈機械確認（メーター確認）〉ボタン > ［機械状態 レポート出力］> ［レポート / リストの出力］> ［使用済み製品回収情報シート］を押します。

2 ［使用済み製品回収情報シート］を押します。



3 〈スタート〉ボタンを押します。

GS1-128 バーコードサンプル

GS1-128 バーコードサンプルを出力できます。

バーコードモードを有効にした場合と無効にした場合のバーコードの印刷状態を確かめることができます。

参照

- バーコード出力の注意事項は、「GS1-128（旧 UCC/EAN128）バーコード（コンビニバーコード）出力についての注意 / 制限」(P.900) を参照してください。

自動的にプリントするレポート / リストについて

ファクスやスキャン機能に関するレポート / リストには、手動ではプリントできないレポート / リストがあります。ここでは、自動的にプリントできるレポート / リストについて説明します。

未送信レポート

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送するときや、スキャンしたデータをメール送信するときに、データの送信に失敗するとプリントされます。また、ファクス送信に失敗したときにプリントされます。読み取った原稿の縮小イメージと、その送信結果を確認できます。

未送信レポートを、自動的にプリントしないように設定することもできます。

参照

- メール送信の未送信レポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「転送モニターレポート」(P.179) を参照してください。
- ファクス送信の未送信レポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「未送信レポート」(P.179) を参照してください。

モニターレポート

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送するときや、スキャンしたデータをメール送信するときに、データの送信に成功するとプリントされます。また、ファクス送信に成功したときにプリントされます。読み取った原稿の縮小イメージと、その送信結果を確認できます。

モニターレポートを、自動的にプリントしないように設定することもできます。

参照

- メール送信のモニターレポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「転送モニターレポート」(P.179) を参照してください。
- ファクス送信のモニターレポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「モニターレポート」(P.268) を参照してください。

親展受信レポート

親展ボックスに文書が蓄積されたことを確認できます。

参照

- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「親展受信レポート」(P.179) を参照してください。

同報レポート

同報送信の送信結果を確認できます。宛先や通信結果 / 状態が記録されます。

自動的にプリントするように設定していると、同報の通信終了後に自動的にプリントされます。

参照

- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「同報 / 集信レポート」(P.179) を参照してください。

集信レポート

集信（複数の宛先からポーリング受信すること）の通信結果を確認できます。相手局名や通信結果 / 状態が記録されます。

自動的にプリントするように設定していると、集信の通信終了後に自動的にプリントされます。

参照

- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「同報 / 集信レポート」(P.179) を参照してください。

ジョブフローエラーレポート（ApeosPort シリーズのみ）

ジョブフローでエラーが発生したことを通知するためのレポートです。エラーの発生日時やエラーコードなどがプリントされます。

ジョブフローエラーレポートを、自動的にプリントしないように設定することもできます。

参照

- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「ジョブフローエラーレポート」(P.180) を参照してください。

HDD の上書き消去

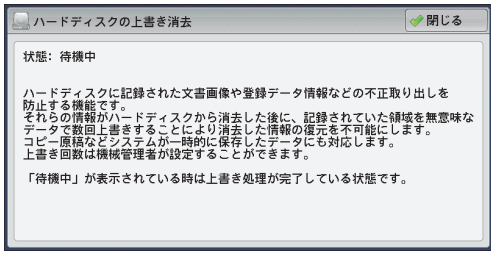
ハードディスクの上書き処理の状態を確認できます。「実行中」が表示されている場合は、上書き処理が行われている状態です。「待機中」が表示されている場合は、上書き処理が終了している状態です。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ［HDD の上書き消去］は、［認証 / セキュリティ設定］で［ハードディスクの上書き消去設定］が設定されている場合に表示されます。詳しくは、「ハードディスクの上書き消去設定」(P.352) を参照してください。

1 ［HDD の上書き消去］を押します。

2 表示された画面で、ハードディスクの上書き処理の状態を確認します。



プリンターモード

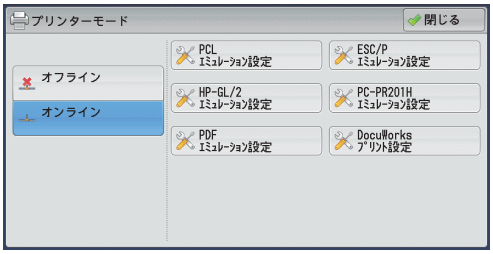
ESC/P などのメモリーの登録、登録したメモリーの呼び出しなどができます。

装着しているオプションによって、表示される項目は異なります。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します

2 ［プリンターモード］を押します。

3 ［オフライン］または［オンライン］を選択します。



■オフライン

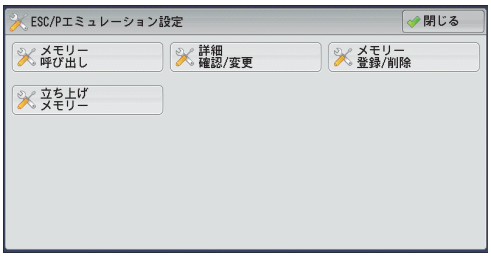
コンピューターからのデータ受信ができなくなります。受信中のデータは中断され、プリントされません。

■オンライン

コンピューターからのデータ受信をします。

4 プリンターモードを設定するプリント言語を選択します。

5 項目をそれぞれ設定します。



補足

- プリント言語により、設定項目は異なります。

メモリー呼び出し

メモリーに登録した設定を呼び出して使用できます。

1 ［メモリー呼び出し］を押します。

2 使用するメモリー番号を選択します。

■工場出荷時の設定

工場出荷時の設定を使用できます。

■ユーザー登録メモリー

メモリーに登録してある番号が表示されます。

詳細確認 / 変更

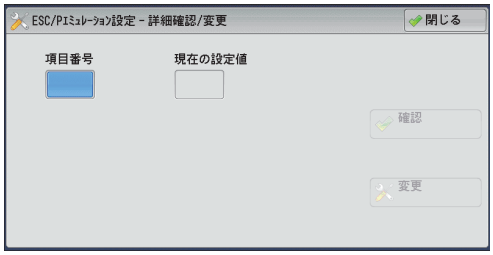
プリンターモードの項目番号に設定されている値を確認 / 変更できます。

参照

- 各モードメニューで設定できる項目番号は、「ESC/P エミュレーションモード設定項目」(P.786)、「PDF ダイレクトプリント機能の設定項目」(P.799)、「DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目」(P.801)、「PC-PR201H エミュレーションのモード設定項目」(P.805)、「PCL エミュレーションのモード設定項目」(P.824)、「HP-GL/2 エミュレーションのモード設定項目」(P.833) を参照してください。

1 ［詳細確認 / 変更］を押します。

2 設定する機能の［項目番号］を、〈数字〉ボタンで入力します。



3 ［確認］を押すと、現在の設定値が表示されます。

4 ［変更］を押します。

5 ［変更値］を、〈数字〉ボタンで入力します。

6 ［決定］を押します。

メモリー登録 / 削除

ESC/P、HP-GL/2、PC-PR201H では、設定した内容をメモリーに登録できます。

ESC/P エミュレーション、HP-GL/2 エミュレーションでは 20 件、PC-PR201H エミュレーションでは、5 件まで登録できます。

1 ［メモリー登録 / 削除］を押します。

2 ［現在の設定を登録］または［削除］を選択します。

■現在の設定を登録

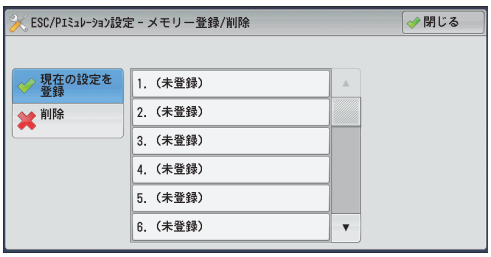
現在の設定を登録します。登録済みの番号を選択すると、上書きします。登録 / 上書きした番号は、元に戻すことはできません。

■削除

［削除］を押して、削除する番号を選択すると、登録されている番号が削除されます。

注記
- 削除した番号は、元に戻すことはできません。

3 登録または削除するメモリー番号を選択します。

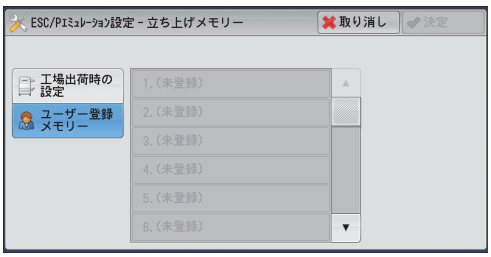


立ち上げメモリー

メモリーに登録した設定内容を初期値として、プリンターを起動できます。

1 ［立ち上げメモリー］を押します。

2 ［工場出荷時の設定］または［ユーザー登録メモリー］を選択します。



■工場出荷時の設定

工場出荷時の設定を使用できます。

■ユーザー登録メモリー

メモリーに登録してある番号が表示されます。

3 ［ユーザー登録メモリー］を選択した場合は、使用するメモリー番号を選択します。

4 ［決定］を押します。

パスワード

PDF ダイレクトプリントおよび DocuWorks ダイレクトプリントで、ファイルにパスワードが設定されている場合は、あらかじめ、そのパスワードを設定しておきます。プリントするファイルと、ここに設定されているパスワードが一致した場合にだけプリントできます。

設定できる文字は、半角英数字 32 文字までです。

1 ［パスワード］を押します。

2 表示されるキーボードでパスワードを 32 文字以内で入力して、［決定］を押します。

ファクス受信モード

ファクスの受信モードを設定できます。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合は、本設定に関係なく、自動受信になります。

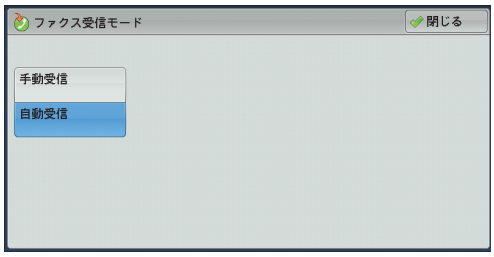
参照

- 自動受信、および手動受信については、『ユーザーズガイド』の「4　ファクス」>「受信について」を参照してください。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［ファクス受信モード］を押します。

3 受信モードを選択します。



■手動受信

相手からの送信を手動で受信します。相手先を確認したり、オプションの受話器（ハンドセット）を使って通話してから受信する場合に便利です。

■自動受信

相手からの送信に対して、自動的に受信を開始します。

4 ［閉じる］を押します。

エラー情報

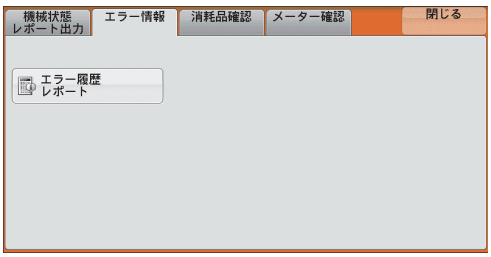
本機に発生したエラーに関する情報を確認する方法について説明します。

エラー履歴レポートには、最新の 50 件までのエラーがプリントされます。プリントされる項目は、日付、時刻、エラーコード、エラー分類です。

エラー履歴レポートをプリントする方法について説明します。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［エラー情報］タブを押します。



3 ［エラー履歴レポート］を押します。

4 〈スタート〉ボタンを押します。

補足

- ［エラー履歴レポート］は、［レポート / リストの出力］画面の［ジョブ確認 / 通信管理レポート］からも指示できます。
- ［レポート設定］の［レポート出力ボタンの表示］を［しない］に設定している場合は、［エラー履歴レポート］は表示されません。詳しくは、「レポート設定」(P.178) を参照してください。

消耗品確認

消耗品の状態は、［消耗品確認］画面で確認できます。消耗品の状態は、「良好」、「良好（予備を用意）」、「要交換」などで表示されます。

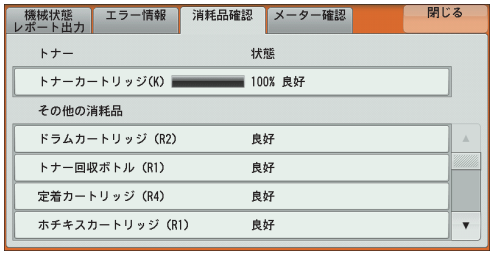
ここでは、消耗品の状態を確認する手順について説明します。

参照

- 消耗品の交換方法は、「消耗品を交換する」(P.84) を参照してください。

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［消耗品確認］タブを押して、トナーやそのほかの消耗品の状態を確認します。



補足

- 各消耗品を選択すると、その状態に応じて、補足情報の画面が表示されます。

注記

- 使いかけのトナーカートリッジ（ほかの ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N の本体から取り出したトナーカートリッジなど）を使用した場合、残量表示と実際の残量が合わないことがあります。トナーカートリッジを交換するときは、なるべく新品を使用することをお勧めします。

補足

- 装着しているオプションによって、表示される項目が異なります。
- 消耗品の数によっては、［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.44) を参照してください。

メーター確認

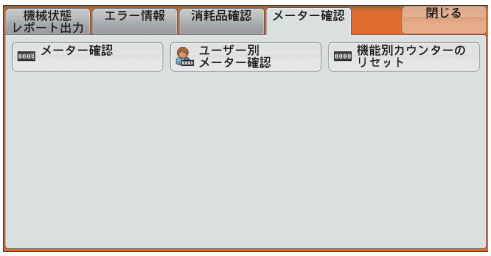
［メーター確認］画面では、メーター別、ユーザー別にプリントページ数を確認できます。

各機能の詳細と参照先は、次のとおりです。

メーター確認 137
ユーザー別メーター確認 138
機能別カウンターのリセット 139

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［メーター確認］タブを押します。



メーター確認

メーター別に、コピー / プリントページ数を確認できます。

1 ［メーター確認］を押します。

2 表示された画面で、各メーターを確認します。

補足

- ［締め時カウント］は、EP システムを使用している場合に表示できます。詳しくは、「EP システムについて」(P.913) を参照してください。

■シリアル番号

本機のシリアル番号が表示されます。

■メーター 1

コピー、ファクス、プリントの合計ページ数が表示されます。

ユーザー別メーター確認

ユーザー別のページ数を確認できます。

集計管理機能が有効に設定されている場合に、現在認証されている User ID のメーターを確認できます。

補足

- ［ユーザー別メーター確認］は、［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］のときだけ表示されます。

参照

- 集計管理機能については、「集計管理」（P.161）を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。

■現在登録されている User ID のメーターを確認する場合

1) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、メーターを確認するユーザーの User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、ユーザーのパスワードを入力し［確定］を押します。

2) 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

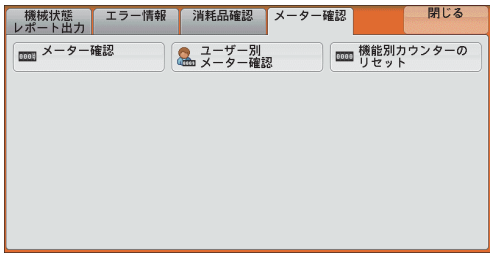
■機械管理者のメーターを確認する場合

1) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

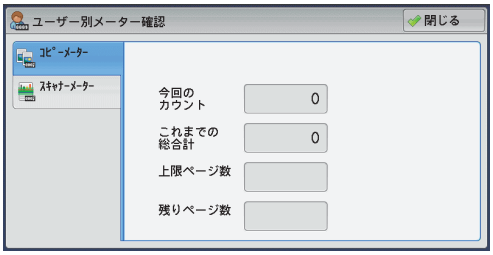
2) 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［メーター確認］タブを押します。



3 ［ユーザー別 メーター確認］を押します。

4 確認するメーターを選択します。



補足
- 集計管理機能で［集計する］に設定しているサービスのメーターを確認できます。

■コピーメーター

コピーをしたページ数が表示されます。

■スキャナーメーター

スキャンをしたページ数が表示されます。

■プリンターメーター

プリントをしたページ数が表示されます。

補足
- 機械管理者のときには、プリンターメーターは表示されません。

機能別カウンターのリセット

機能別に集計したスキャン、プリント数や稼動状況の累積時間などのカウントをリセットできます。

メニュー画面に［仕様設定 / 登録］が表示されているときに、操作できます。

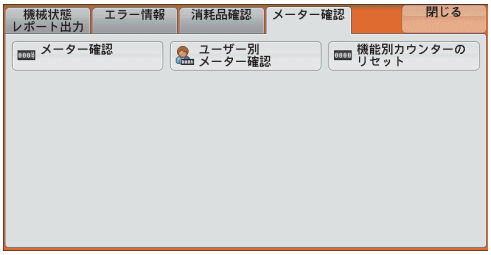
1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

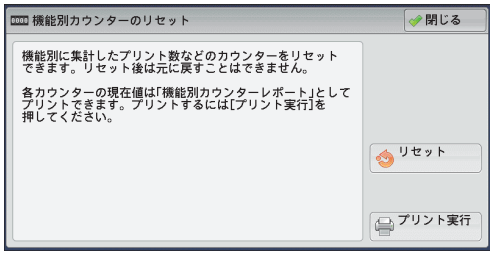
3 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

4 ［メーター確認］タブを押します。



5 ［機能別カウンターのリセット］を押します。

6 ［リセット］または［プリント実行］を押します。



■リセット

機能別に集計した値をリセットできます。リセットする場合は、表示された確認画面で、［はい（リセットする）］を選択します。

注記

- リセットすると元に戻すことはできません。

■プリント実行

各カウンターの現在の値を、機能別カウンターレポートとしてプリントできます。

5 仕様設定

本機の各機能には、工場出荷時の値（初期値）が設定されていますが、使用環境に合わせて設定値を変更できます。設定値の変更は、機械管理者モードに入って、［仕様設定 / 登録］画面で行います。

この章では、設定値を変更できる機能と設定手順について説明します。

- 仕様設定の流れ.....142
- 仕様設定メニュー一覧.....147
- 共通設定.....163
- コピー設定.....203
- ネットワーク設定.....213
- プリンター設定.....248
- スキャナー設定.....257
- ファクス設定.....266
- メール / インターネットファクス設定.....284
- 宛先表設定.....288
- ボックス設定.....289
- ジョブフロー設定（ApeosPort シリーズのみ）.....291
- メディアプリント設定.....293
- 保存文書設定.....294
- 外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）.....297
- Web ブラウザー設定.....302
- BMLinkS 設定.....304
- 登録 / 変更.....305
- 集計管理.....330
- 認証 / セキュリティ設定.....339

仕様設定の流れ

仕様を設定 / 変更するには、機械管理者モードに入る必要があります。

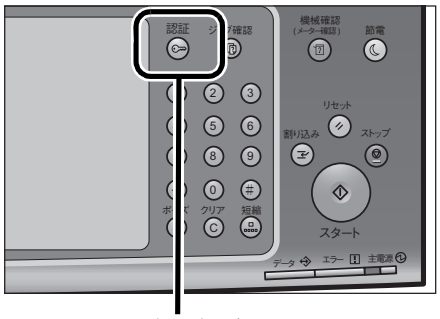
ここでは、仕様設定の基本的な操作について説明します。

仕様設定の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 機械管理者モードに入る.....142
Step2 機械管理者の User ID、パスワードを入力する.....142
Step3 ［仕様設定 / 登録］を選択する.....143
Step4 ［仕様設定 / 登録］画面から項目を選択する.....143
Step5 機能を設定する.....146
Step6 機械管理者モードを終了する.....146

Step1 機械管理者モードに入る

1 〈認証〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押します。



〈認証〉ボタン

Step2 機械管理者の User ID、パスワードを入力する

機械管理者モードに入るために、機械管理者の User ID を入力します。また、［認証 / セキュリティ設定］の［認証の設定］の［パスワードの運用］で、［パスワード使用 - パネル入力時］を［する］に設定している場合は、パスワードの入力が必要です。

機械管理者の User ID およびパスワードは、本機を設置したあと、すぐに変更することをお勧めします。

参照

- 詳しくは、「機械管理者情報の設定」(P.339) を参照してください。

1 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

補足

- 本機の設定によっては、表示内容が異なることがあります。
- 機械管理者モードに入ると、〈認証〉ボタンは点灯します。

Step3 ［仕様設定 / 登録］を選択する

1 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

補足

- メニュー画面が表示されていないときは、〈メニュー〉ボタンを押して、表示してください。

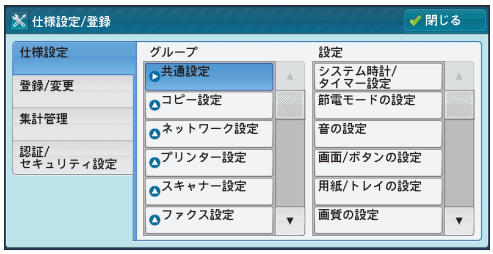
Step4 ［仕様設定 / 登録］画面から項目を選択する

［仕様設定 / 登録］画面で、設定する項目を選択します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面で設定できる項目は、「仕様設定メニュー一覧」(P.147) を参照してください。

1 設定するタブを選択します。



仕様設定

各機能の初期値などを設定 / 変更できます。

■共通設定

機械本体の共通機能に関連した項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「共通設定」(P.163) を参照してください。

■コピー設定

コピー機能の初期値、コピー動作の制御、ボタンの表示方法などの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「コピー設定」(P.203) を参照してください。

■ネットワーク設定

ポートやプロトコルなどの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「ネットワーク設定」(P.213) を参照してください。

■プリンター設定

メモリーの設定やプリント時の動作などの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「プリンター設定」(P.248) を参照してください。

■スキャナー設定

スキャナー機能の初期値、ボタンの表示方法などの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「スキャナー設定」(P.257) を参照してください。

■ファクス設定

ファクス機能の初期値、ファクス動作の制御、ボタンの表示方法などの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「ファクス設定」(P.266) を参照してください。

■メール / インターネットファクス設定

メールやインターネットファクスを送受信するときの仕様に関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「メール / インターネットファクス設定」(P.284) を参照してください。

■宛先表設定

宛先表に関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表設定」(P.288) を参照してください。

■ボックス設定

親展ボックスに関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「ボックス設定」(P.289) を参照してください。

■ジョブフロー設定（ApeosPort シリーズのみ）

ジョブフローに関する設定ができます。

ジョブフローとは、登録された一連の作業内容を実行する機能です。

参照
- 詳しくは、「ジョブフロー設定（ApeosPort シリーズのみ）」（P.291）を参照してください。

■メディアプリント設定

文書プリントに関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「メディアプリント設定」（P.293）を参照してください。

■保存文書設定

親展ボックスに保存されている文書と、本機内に保存されているプリント文書の削除方法について設定します。

参照
- 詳しくは、「保存文書設定」（P.294）を参照してください。

■外部アクセス設定（ApeosPort シリーズのみ）

外部アクセスに関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）」（P.297）を参照してください。

■Web ブラウザー設定

外部アクセスのときの Web ブラウザーに関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「Web ブラウザー設定」（P.302）を参照してください。

■BMLinkS 設定

BMLinkS® に関する設定ができます。

参照
- 詳しくは、「BMLinkS 設定」（P.304）を参照してください。

登録 / 変更

親展ボックス、ジョブフロー、宛先表（短縮宛先登録）などの登録や変更ができます。

参照
- 詳しくは、「登録 / 変更」（P.305）を参照してください。

集計管理

本機を利用するユーザーの登録や、集計管理機能の運用設定ができます。

参照
- 詳しくは、「集計管理」（P.330）を参照してください。

認証 / セキュリティ設定

認証の設定やセキュリティーの設定ができます。

参照
- 詳しくは、「認証 / セキュリティ設定」(P.339) を参照してください。

Step5 機能を設定する

1 任意の機能を選択します。

補足
- ［グループ］を選択してから、［設定］を選択してください。
- 必要に応じて、［▲］、［▼］を押してください。

2 設定する項目を選択します。

3 機能を設定したら、［決定］を押します。

4 メニュー画面に戻るまで、［閉じる］を押します。

補足
- 設定を有効にするための再起動が必要な場合は、［仕様設定 / 登録］画面で［閉じる］を押すと、［再起動］画面が表示されます。［はい（再起動する）］を押してください。再起動すると機械管理者モードは自動的に終了し、〈認証〉ボタンは消灯します。
- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

Step6 機械管理者モードを終了する

1 〈認証〉ボタンを押します。

補足
- タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押して、［認証解除］を選択しても機械管理者モードを終了できます。
- 機械管理者モードを終了すると、〈認証〉ボタンは消灯します。

仕様設定メニュー一覧

次の表は、設定できる項目の一覧です。表示される項目は、機械の構成によって異なります。

仕様設定メニュー一覧

■共通設定

システム時計 / タイマー設定（P.163）	• 日付（P.163） • 時刻（P.164） • 時刻サーバー（NTP）と同期（P.164） • 時刻サーバーの接続間隔（P.164） • 時刻サーバーアドレス（P.164） • 自動リセット（P.165） • ジョブ自動解除（P.165） • プリント起動（P.165） • プリント禁止の設定（P.165） • タイムゾーン（P.165） • サマータイム（P.166） • オンデマンド印刷の有効時間（ApeosPortシリーズのみ）（P.166）
節電モードの設定（P.166）	• 節電モード移行時間（P.166） • 自動プリント後の節電モード移行（P.167） • 節電解除の制御（P.167） • 電源の自動制御（P.167）
音の設定（P.168）	• 正常入力音（P.168） • 異常入力音（P.168） • 基点音（P.168） • 準備完了音（P.168） • 正常終了音 1 、2（P.168） • 異常終了音（P.168） • 自動リセット事前通知音（P.168） • 異常警告音（P.169） • 用紙切れ警告音（P.169） • トナー残量警告音（P.169） • トナー残量警告音（P.169） • ジョブメモリー登録音（P.169） • ジョブメモリー呼び出し完了音（P.169） • ラインモニター音（P.169） • 呼び出しベル音（P.169）

画面 / ボタンの設定（P.169）	• 初期表示画面（P.169） • 自動リセット後の画面（P.170） • 認証画面の自動表示（P.170） • 登録 1 ～ 3 ボタン（P.170） • ワンタッチボタンの割り当て（P.170） • メニュー画面の機能配列（P.170） • メニュー画面の補助機能配列（P.170） • 実行完了画面のジョブ表示（P.171） • 初期表示言語（P.171） • 画面輝度調整（P.171） • 宛先確認 - メール（P.171） • 宛先確認 - ファクス / インターネットファクス（P.171） • 宛先確認ボタン - メール（P.172） • 宛先確認ボタン - ファクス / インターネット（P.172） • USB メモリー検出時の画面表示（P.172） • 消耗品情報画面の表示（P.172） • キーボード入力制限（P.172） • アップダウンボタンの操作（P.172） • フリック / ダブルタップ操作（P.173） • ダブルタップの間隔（P.174） • セキュリティ警告 - 機械管理者設定（P.174） • セキュリティ警告 -SNMP 設定（P.174） • セキュリティ警告 - グローバル IP アドレス（P.174）
用紙 / トレイの設定（P.175）	• ユーザー用紙属性の名称設定（P.175） • 用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定（P.175） • 用紙選択画面の補助属性表示（P.176） • 登録 / 変更画面からのトレイ設定変更（P.176） • トレイセット時の用紙変更画面表示（P.176） • 用紙トレイの優先順位（P.176） • 用紙種類の優先順位（P.176） • トレイ 5（手差し）定形サイズボタン（P.177） • 自動トレイ動作制御（P.177）
画質の設定（P.178）	• 画質の設定（P.178） • レポート出力ボタンの表示（P.178） • 画質の設定（P.178）
レポート設定（P.178）	• レポート出力ボタンの表示（P.178） • ジョブ履歴レポート（P.179） • 通信管理レポート（P.179） • 未送信レポート（P.179） • 取消し文書の未送信レポート（P.179） • 親展受信レポート（P.179） • 同報 / 集信レポート（P.179） • 転送モニターレポート（P.179） • レポートの両面プリント（P.180） • 通信管理レポート - 相手表示（P.180） • 未送信レポート（P.179） • 取消し文書の未送信レポート（P.179） • 親展受信レポート（P.179） • 同報 / 集信レポート（P.179） • 転送モニターレポート（P.179） • レポートの両面プリント（P.180） • 通信管理レポート - 相手表示（P.180） • 通信管理レポート - カード番号（P.180） • ジョブフローエラーレポート（P.180）

保守（P.180）	• 点検 / 修理依頼（P.180） • EP 診断 / 修理依頼（P.181） • EP 通信確認（P.181） • ハードディスク初期化（P.181） • データの一括削除（P.181） • ソフトウェアオプションの設定（P.181） • ソフトウェアバージョンアップ（P.182） • 機械起動時のプログラム診断（P.182） • IC カード情報の確認（P.182） • フィニッシャーの調整（P.182） • 証明書の一括削除 / 初期化（P.183） • 初期設定項目（P.183）
複製管理（P.183）	• 印字する日付の形式（P.183） • 隠し印刷初期値（P.183） • 文字列初期値（P.184） • 文字列の大きさ（P.184） • 背景パターン（P.184） • 印刷の濃度（P.184） • 文字 / 背景コントラスト（P.184） • 強制複製管理 - コピー（P.184） • 強制複製管理 - クライアントプリント（P.185） • 強制複製管理 - ボックスプリント（P.185） • 強制複製管理 - メディアプリント（P.185） • 文字列登録 1 ～ 3（P.185） • サンプルリストの出力（P.185）
ペーパーセキュリティー（P.185）	• ペーパーセキュリティーの動作制御（P.186） • デジタルコードの設定（P.186） • 強制ペーパーセキュリティー（P.186） • ペーパーセキュリティーの初期値（P.187） • 隠し印字の設定（P.187）
強制アノテーション（P.188）	• レイアウトテンプレートの関連付け（P.189） • レイアウトテンプレートの削除（P.189） • 文字列の登録（P.189）
UUID 印字（P.190）	• UUID 印字（P.190） • 印字位置（P.190） • 印字位置の微調整（P.190） • うら面の印字位置（P.190）
イメージログ管理（ApeosPort シリーズのみ）（P.190）	• イメージログ管理（P.192） • イメージログ作成対象（P.192） • イメージログ作成（P.192） • イメージログ転送（P.193）
ジョブ終了時のメール通知設定（P.193）	• 通知対象ジョブ（P.193） • メールアドレス 1 ～ 5（P.194） • メール本文（P.194）
プラグイン設定（P.194）	• 組み込みプラグイン機能（P.194） • 組み込みプラグイン一覧（P.194）

その他の設定（P.194）	• オフセット排出（センタートレイ）（P.194） • オフセット排出（フィニッシャートレイ）（P.194） • 折り目あり分割製本のオフセット（P.195） • プリントジョブの追い越し（P.195） • プリント用紙サイズ初期値（P.195） • 奇数ページ文書の両面処理（P.195） • サイズ検知切り替え（P.196） • ミリ / インチ切り替え（P.197） • データの暗号化（P.198） • 秘密情報の暗号化キー（P.199） • カストマーエンジニアの操作制限（P.199） • ソフトウェアダウンロード（P.200） • 原稿送りトレイの上昇（P.200） • 原稿ガイド位置の確認（P.200） • 宛先指示方法の制限（P.201） • 宛先表登録 / 変更の制限（P.201） • 短縮番号入力の自動確定（P.201） • データランプの点灯パターン（P.201） • ジョブ一時停止後の処理（P.201）

■コピー設定

基本コピー画面の表示機能（P.203）	–
プリセットボタンの設定（P.204）	• 用紙トレイボタン - 2 ～ 5 段目（P.204） • 倍率ボタン - 3、4 段目（P.204） • おもて表紙トレイ - 1 ～ 3 段目（P.204） • うら表紙トレイ - 1 ～ 3 段目（P.204） • OHP トレイ - 1 ～ 3 段目（P.204） • 合紙 / 配布用トレイ - 1 ～ 3 段目（P.204）

コピー機能設定初期値（P.204）	• 用紙選択（P.205） • 倍率選択（P.205） • 原稿の画質（P.205） • コピー濃度（P.205） • シャープネス（P.205） • 地色除去（P.205） • 両面 / 片面選択（P.205） • ミックスサイズ原稿送り（P.205） • わく消し量 - 上（P.206） • わく消し量 - 下（P.206） • わく消し量 - 左（P.206） • わく消し量 - 右（P.206） • わく消し量 - 中（P.207） • わく消し - 原稿うら面（P.207） • コピー位置 - おもて面（P.207） • コピー位置 - うら面（P.207） • 自動画像回転（P.207） • 自動画像回転 - 回転方向（P.207） • 原稿セット向き指定（P.207） • まとめて 1 枚（N アップ）（P.207） • 仕分け（P.207） • 仕分け - 仕切り合紙用トレイ（P.207） • 排出先（P.208） • 排出先（らくらくコピー）（P.208） • 排出面（P.208） • サンプルコピー（P.208） • アノテーション - スタンプ - 種類（P.208） • アノテーション - スタンプ - 位置（表）、アノテーション - スタンプ - 位置（裏）（P.208） • アノテーション - スタンプ - 大きさ（P.208） • アノテーション - 日付 - 位置（表）、アノテーション - 日付 - 位置（裏）（P.208） • アノテーション - 日付 - 大きさ（P.208） • アノテーション - ページ - 種類（P.208） • アノテーション - ページ - 位置（表）、アノテーション - ページ - 位置（裏）（P.209） • アノテーション - ページ - 大きさ（P.209） • - 文字付ページ - ページ桁数（P.209） • - 文字付ページ - 位置（表）、- 文字付ページ - 位置（裏）（P.209） • - 文字付ページ - 大きさ（P.209） • インデックス紙コピー　-　イメージシフト量（P.209） • 製本 - 表紙トレイ（P.209） • 表紙付け - おもて表紙トレイ、表紙付け - うら表紙トレイ（P.209） • 合紙挿入 - 合紙用トレイ（P.209）

コピー動作制御（P.209）	• メモリーオーバーフローの処理（P.209） • 最大蓄積ページ数（P.210） • 自動解除時のトレイ（P.210） • 異サイズ原稿の裏面コピー（P.210） • 等倍微調整（P.210） • ID カードコピー選択時の倍率（P.210） • 原稿の画質 - うす紙原稿（P.211） • 排出面 - 自動（1 枚）の設定（P.211） • 排出面 - 逆順排出の表示（P.211） • アノテーション - スタンプの透過度（P.211） • スタンプ位置微調整 - 左上、中央上、右上、左中央、中央、右中央、左下、中央下、右下（P.211） • 日付位置微調整 - 左上、中央上、右上、左下、中央下、右下（P.211） • ページ位置微調整 - 左上、中央上、右上、左下、中央下、右下（P.211） • 文字付ページ位置調整 - 左上、中上、右上、左下、中下、右下（P.211） • カウンタ表示切り替え（P.211） • コピー部数の制限（P.211）
原稿サイズボタン（P.211）	–
固定倍率ボタン（P.212）	–
アノテーションスタンプ登録（P.212）	–

■ネットワーク設定

ポート設定（P.213）	• USB（P.214） • LPD（P.214） • SMB クライアント（P.215） • IPP（P.215） • Bonjour（P.215） • Port9100（P.216） • SNMP（P.216） • SIP（P.216） • FTP クライアント（P.216） • メール受信（P.216） • メール送信（P.217） • メール通知サービス（P.217） • UPnP ディスカバリー（P.217） • WSD（P.217）*1 • BMLinkS（P.218） • インターネットサービス（HTTP）（P.218） • SOAP（P.219） • WebDAV（P.219） • ThinPrint（P.219）
プロトコル設定（P.220）	• Ethernet 設定（P.220） • TCP/IP - 共通設定（P.221） • TCP/IP - ネットワーク設定 /TCP/IP 設定（Ethernet1）、TCP/IP 設定（Ethernet2）（P.222）
本体メールアドレス / ホスト名（P.226）	• メールアドレス（P.226） • 名前（P.226） • ホスト名（P.226） • ドメイン名（P.226）

プロキシサーバー設定（P.226）	• プロキシサーバーの使用（P.226） • プロキシサーバー指定方法（P.227） • プロキシを使用しないアドレス（P.227） • HTTP プロキシサーバー - サーバー名（P.227） • HTTP プロキシサーバー - ポート番号（P.227） • HTTP プロキシサーバー - 認証（P.227） • HTTP プロキシサーバー - ログイン名（P.227） • HTTP プロキシサーバー - パスワード（P.227） • HTTPS プロキシサーバー - サーバー名（P.227） • HTTPS プロキシサーバー - ポート番号（P.227） • HTTPS プロキシサーバー - 認証（P.227） • HTTPS プロキシサーバー - ログイン名（P.227） • HTTPS プロキシサーバー - パスワード（P.227）
EP プロキシサーバー設定（P.228）	• プロキシサーバー指定方法（P.228） • HTTPS プロキシサーバー - サーバー名（P.228） • HTTPS プロキシサーバー - ポート番号（P.228） • HTTPS プロキシサーバー - 認証（P.228） • HTTPS プロキシサーバー - ログイン名（P.228） • HTTPS プロキシサーバー - パスワード（P.228） • HTTP プロキシサーバー - サーバー名（P.228） • HTTP プロキシサーバー - ポート番号（P.228） • HTTP プロキシサーバー - 認証（P.229） • HTTP プロキシサーバー - ログイン名（P.229） • HTTP プロキシサーバー - パスワード（P.229）
次世代ネットワーク（NGN）設定（P.229）	• 次世代ネットワーク（NGN）接続（P.229） • 発信者 ID 通知（P.229） • 発信者 ID（P.229） • IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅（P.229） • ファクスによる自動再送信（P.229）
SIP 設定（P.229）	• SIP 本体アドレス（P.230） • SIP トランスポートプロトコル設定（P.230） • SIP サーバーの使用（P.230） • SIP サーバーアドレス取得方法（P.230） • SIP プロキシサーバー設定（P.231） • SIP レジストラサーバー設定（P.231） • VoIP ゲートウェイ登録（P.232）
T.38 設定（P.233）	• T.38 トランスポートプロトコル設定（P.233） • UDPTL 受信ポート番号（P.233） • TCP 受信ポート番号（P.233） • RTP 受信ポート番号（P.233） • IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）（P.233）
メール送受信設定（P.234）	• POP3 サーバー設定（P.234） • SMTP サーバー設定（P.234）
外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定（P.235）	• 認証システムの設定（P.235） • Kerberos サーバー設定（P.236） • LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定（P.236） • SMB サーバー設定（P.241）

セキュリティ設定（P.241）	• SSL/TLS 設定（P.241） • S/MIME 設定（ApeosPort シリーズのみ）（P.242） • PDF/DocuWorks/XPS の署名設定（ApeosPort シリーズのみ）（P.243）*2 • IPsec（P.244） • IEEE 802.1x 設定 /IEEE 802.1x 設定（Ethernet1）、IEEE 802.1x 設定（Ethernet2）（P.245） • 証明書失効確認の設定（P.246）
その他の設定（P.246）	• メール受信プロトコル（P.246） • 認証ユーザー名へのドメイン付加（P.247） • メールプリントの排出先（P.247） • 送受信ドメインの制限（P.247）

*1「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
*2「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■プリンター設定

メモリー設定（P.248）	• PostScript 使用メモリー（P.248） • ART EX フォームメモリー（P.249） • ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー（P.249） • ART IV ユーザー定義用メモリー（P.249） • HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー（P.249） • ジョブチケット用メモリー（P.249） • 受信バッファ - USB（P.249） • 受信バッファ - LPD（P.249） • 受信バッファ - IPP（P.250） • 受信バッファ - Port9100（P.250）
フォーム削除（P.251）	–
Google クラウドプリント登録（P.252）	–
その他の設定（P.252）	• プリント可能領域（P.252） • 用紙の置き換え（P.252） • 用紙種類不一致時の処理（P.252） • 未登録フォーム指定時の処理（P.253） • 異常終了後のプリント処理（P.253） • 紙づまり発生時のプリント処理（P.253） • ID 印字（P.254） • バナーシート出力（P.254） • バナーシートのオフセット出力（P.254） • バナーシートトレイ（P.255） • PostScript の用紙選択（P.255） • PS フォント未搭載時の処理（P.255） • PostScript のフォント置き換え（P.255） • XPS PrintTicket 処理（P.255）* • LPD のプリント順序（P.256） • OCR フォントのグリフ（0x5C）（P.256）

*「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■スキャナー設定

スキャナー画面表示設定（P.257）	• メール送信初期表示画面（P.257） • PC 保存初期表示画面（P.257） • 基本画面の表示機能（P.258） • 倍率ボタン - 2 ～ 5 段目（P.258）

スキャナー機能設定初期値（P.258）	• カラーモード（P.258） • 原稿の画質（P.258） • 出力ファイル形式（P.258） • PDF の Web 表示用最適化（P.258） • サムネール - メール送信（P.258） • サムネール - PC 保存（P.259） • プレビュー（P.259） • 読み込み濃度（P.259） • コントラスト（P.259） • シャープネス（P.259） • 地色除去（P.259） • 裏写り防止（P.259） • 色空間（P.259） • 原稿セット向き指定（P.259） • 読み取り解像度（P.259） • ミックスサイズ原稿送り（P.259） • わく消し（P.260） • 上下わく消し量（P.260） • 左右わく消し量（P.260） • 中消し量（P.260） • 画質 / ファイルサイズ（P.260） • メールの件名（P.260） • URL 送信の件名（P.260） • メールの暗号化（P.260） • 文字認識（OCR）（P.260） • 文字認識する言語（P.261） • 文字認識時の文字部分圧縮（P.261） • Microsoft® Office 形式設定（P.261）
PC 保存機能設定初期値（P.261）	• 転送プロトコル（P.261） • 保存時の認証ユーザー（P.261） • FTP 時のユーザー名（P.262）
読み取りサイズボタン（P.262）	–
出力サイズボタン（P.262）	–
固定倍率ボタン（P.263）	–
その他の設定（P.263）	• メモリーオーバーフローの処理（P.263） • 最大蓄積ページ数（P.263） • 彩度（P.263） • 地色除去レベル（P.263） • 裏写り防止レベル（P.263） • 色空間機能の表示（P.264） • TIFF の形式（P.264） • 読み込み終了後の画面表示（P.264） • 文字認識時のページ向き（P.265） • URL 送信の文書保存期間（P.265） • URL 送信の URL 生成方法（P.265） • URL 送信の最大蓄積サイズ（P.265） • 認証ユーザー名の記載（PDF）（P.265）

■ファクス設定

ファクス画面表示設定（P.266）	• ファクス初期表示画面（P.266） • 基本画面の表示機能（P.266） • 倍率ボタン -3 ～ 5 段目（P.266） • 送信中画面表示（P.267） • ファクス回線選択の表示（P.267）

ファクス機能設定初期値（P.267）	• 送信画質（P.267） • 原稿の画質（P.267） • 送信濃度（P.267） • ミックスサイズ原稿送り（P.267） • プレビュー（P.268） • 白紙スキップ（P.268） • 通信モード（P.268） • 通信開始時刻（P.268） • 発信元記録（P.268） • モニターレポート（P.268） • 配送 / 開封確認（P.268） • インターネットファクスプロファイル（P.268） • インターネットファクスの件名（P.268） • インターネットファクスの暗号化（P.268）

ファクス動作制御（P.269）	• 内線設定（P.269） • 宛先の再入力（P.269） • 再入力時の同報指示（P.269） • 再入力時の短縮指示（P.269） • 再入力時のグループ宛先指示（P.269） • 同報切り替えボタンの表示（P.270） • チェーンダイヤル（P.270） • 手動リダイヤル宛先保存数（P.270） • 手動リダイヤル対象宛先（P.270） • ポーリング予約の発信元記録（P.270） • ポーリング予約文書の自動削除（P.270） • 自動回転送信（P.270） • G3-ID の送出 - ファクス（P.270） • G3-ID の送出 -IP ファクス（SIP）（P.270） • リダイヤル回数（P.271） • リダイヤル間隔（P.271） • ファクス未送信時の文書保存（P.271） • ファクス送信強制終了時の文書（P.271） • ファクス保存文書の自動削除（P.271） • 通信インターバル（P.271） • 同一宛先一括送信（P.271） • 手動送受信初期値（P.271） • ファクス自動受信時の受信方式（P.272） • ファクス受信モード（P.272） • ページ分割しきい値（P.272） • 自動縮小受信（P.272） • 受信紙宣言（P.272） • ページ合成受信（P.273） • 両面プリント（P.273） • 上下わく消し量（P.273） • 左右わく消し量（P.273） • 8.5×11" 原稿の A4 縮小（P.273） • 写真画質の擬似階調方式（P.273） • 回線 1 ～ 3 付加サービス（P.273） • 回線 SIP 付加サービス（P.274） • 電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター（P.274） • ボックスセレクター優先度（P.274） • 受信回線別ボックスセレクター（P.274） • ボックス保存時のファイル名の形式（P.274） • メモリオーバフローの処理（P.274） • 最大蓄積ページ数（P.275） • ミックスサイズ原稿読み取りモード（P.275） • 白紙スキップ機能（P.275） • 親展受信情報の表示優先順 1 ～ 5（P.275） • ダイレクトファクスの使用（P.275） • 受信制限番号（P.275） • 非通知番号の受信制限（P.275） • 1300Hz 無鳴動受信（P.276）
受信文書の保存先 / 排出先（P.276）	• 電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター（P.276） • 受信回線別ボックスセレクター（P.277） • 受信回線別排出先（P.278）
固定倍率ボタン（P.278）	–
読み取りサイズボタン（P.279）	–

自局情報（P.279）	• 自局名（P.279） • 発信元名（P.279） • 受信パスワード（P.280） • 回線 1 ～ 3 発信元名（P.280） • 回線 1 ～ 3 G3 ID（ファクス番号）（P.280） • 回線 1 ～ 3 G3 ダイヤル種別（P.280） • 回線 1 ～ 3 G3 回線種別（P.280） • 回線 SIP 発信元名（P.280） • 回線 SIP G3 ID（P.281）
インターネットファクス動作制御（P.281）	• 送信経路（P.281） • 同報時のプロファイル（P.281） • 同報時の通信モード（P.282） • 送達確認方式（P.282） • 受信メールシートのプリント（P.282） • 受信文書の排出先（P.282） • 宛先表によるファクス転送制限（P.283） • ファクス転送時の発信元記録（P.283） • ファクス転送時の上限データサイズ（P.283）

■メール / インターネットファクス設定

メール送信動作制御（P.284）	• 指定可能な最大送信先数（P.284） • 受信メールシートのプリント（P.284） • エラー通知メールの自動プリント（P.285） • 開封確認（MDN）要求への応答（P.285） • 開封確認（MDN）機能の使用（P.285） • 送達確認メールの自動プリント（P.285） • メールの分割方式（P.285） • 1 通ごとのデータサイズ上限（P.286） • 合計データサイズ上限（P.286） • 分割送信時の分割数上限（P.286） • 未認証者の送信者アドレス（P.286） • ゲストの送信者アドレス（P.286） • 取得成功時の送信者アドレス（P.286） • 取得失敗時の送信者アドレス（P.286） • 取得失敗時のメール送信制限（P.286） • ユーザーのアドレスを宛先に追加（P.286） • ユーザーのアドレスを CC に追加（P.286） • メール送信先の編集（P.287）

■宛先表設定

宛先表設定（P.288）	• 宛先表タイプ（P.288） • ディレクトリサービス（P.288） • 宛先表の初期表示 - スキャナー（P.288） • 宛先表の初期表示 - ファクス（P.288） • 宛先表検索の初期表示（P.288） • 表示開始番号 - ファクス（P.288）

■ボックス設定

ボックス設定（P.289）	• 外部取り出し後の文書削除（P.289） • 親展ボックス文書の初期表示（P.289） • プリント文書保存時の向き指定（P.289） • プリント時の削除確認画面表示（P.289） • 非定形文書転送時の定形化（P.289） • 定形化時のサイズしきい値（P.289） • インターネットファクス受信文書転送 -1（P.290） • インターネットファクス受信文書転送 -2（P.290） • 取り出し時の画質 / ファイルサイズ（P.290）

■ジョブフロー設定

ジョブフロー設定（ApeosPort シリーズのみ）（P.291）	• プールサーバーの使用（P.291） • プールサーバーのログイン方法（P.291） • 表示するジョブフローの初期値（P.291） • カラー文書ファクス転送時の解像度（P.292）

■メディアプリント設定

メディアプリント設定（P.293）	• 文書プリント - 用紙トレイ 2 ～ 5 段目（P.293）

■保存文書設定

保存文書設定（P.294）	• ボックス文書の保存期間（P.294） • 蓄積プリント文書の保存設定（P.294） • プリント文書一覧の詳細表示（P.295） • プリント時の確認画面表示（P.295） • 蓄積時の暗証番号最小桁数（P.296） • 全文書選択時のプリント順（P.296）

■外部アクセス設定

接続先の登録（P.299）	• URL（P.299） • 接続先名（P.300） • 説明（P.300） • 接続用ユーザー ID の使用（P.300） • 接続用ユーザー ID（P.300） • 接続用ユーザー ID のパスワード（P.300） • 本体 / 認証情報の通知（P.301） • ユーザー権限情報の通知（P.301） • すべての登録内容を削除（P.301）
その他の設定（P.301）	• 認証情報送信時の確認画面（P.301）

■Web ブラウザー設定

Web ブラウザー設定（P.302）	• 外部アクセスバージョンの選択（P.302） • 終了時の永続 Cookie 削除（P.302） • 終了時のキャッシュ削除（P.302） • キャッシュの使用（P.302） • Cookie の使用（P.302） • TLS1.0 の使用（P.302） • SSL3.0 の使用（P.303） • SSL 証明書検証失敗時の動作（P.303） • ファイルプリント機能の使用（P.303）

■BMLinkS 設定

BMLinkS 設定（P.304）	• 表示するファイルの種類（P.304） • 検索パケット有効期限（TTL）（P.304） • 検索時間の上限（P.304）

登録 / 変更

ボックス登録（P.305）	• ボックス名称（P.306） • アクセス制限 / パスワード（P.306） • 文書取り出し後の削除（P.307） • 保存期間経過文書の削除（P.307） • ジョブフローの関連付け（P.307） •［ボックス削除］ボタンを選択した場合（P.308）
ジョブメモリー登録（P.308）	–
ジョブフロー登録（P.308）	• ジョブフローの利用制限について（P.309） • プールサーバーへのログインについて（ApeosPort シリーズのみ）（P.311） • ジョブフローの新規作成（P.311） • 名称（P.311） • 説明（P.311） • 検索キーワード（P.312） • ファクス送信（P.312） • IP ファクス（SIP）送信（P.312） • インターネットファクス送信（P.313） • メール送信（P.314） •「FTP 転送 1、FTP 転送 2」（P.315） •「SMB 転送 1、SMB 転送 2」（P.316） • プリント（P.317） • メール通知（P.317） • 内容確認（変更 / 削除）（P.318）
ジョブフロー検索キーワード登録（P.318）	–

宛先表登録（短縮宛先登録）（P.318）	• 宛先種別（P.321） • 宛先（メールアドレス）（P.321） • 宛先名（P.321） • 索引文字（P.321） • 姓（P.322） • 名（P.322） • 補助項目 1（P.322） • 補助項目 2（P.322） • 補助項目 3（P.322） • S/MIME 用証明書（ApeosPort シリーズのみ）（P.322） • 転送プロトコル（P.323） • サーバー名 /IP アドレス（P.323） • 共有名（SMB のみ）（P.323） • 保存場所（P.323） • ユーザー名（P.323） • パスワード（P.323） • ポート番号（P.324） • 宛先（ファクス番号）（P.324） • 索引文字（P.324） • 通信モード（P.324） • 送信画質（P.324） • 送信シート（P.324） • 最大蓄積サイズ（P.325） • 時刻指定（P.325） • 親展通信（P.325） • F コード通信（P.326） • 中継同報（P.326） • 課金情報 - 昼間料金、課金情報 - 夜間料金、課金情報 - 深夜料金（P.327） • インターネットファクスプロファイル（P.327）
宛先グループ登録（P.328）	–
コメント登録（P.329）	–
用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定（P.329）	–

集計管理

ユーザー登録 / 集計確認（P.330）	• User ID（P.331） • ユーザー名（P.331） • パスワード（P.331） • メールアドレス（P.332） • デバイス利用許可（P.332） • サービスの利用制限（P.332） • ユーザーの権限（P.333） • カード番号（P.333） • すべての登録内容を削除（P.333） • 累積ページ数のリセット（P.334）
登録内容の削除 / 集計リセット（P.334）	–
機械管理者のコピー集計確認（P.335）	–

集計管理機能の運用（P.335）	• 運用しない（P.335） • 本体集計管理（P.335） • ネット集計管理（P.335） • 各機能の集計（P.336） • 入力情報の照合（P.336） • ユーザー入力項目（P.336）
集計管理情報の設定（P.336）	• User ID の代替表記（P.336） • User ID の入力表示（P.337） • Account ID の代替表記（P.337） • Account ID の入力表示（P.337） • 認証時の集計情報表示（P.337）
ファクス課金データ設定（P.338）	–

認証 / セキュリティ設定

機械管理者情報の設定（P.339）	• 機械管理者 ID（P.339） • 機械管理者パスワード（P.340）
認証の設定（P.341）認証 / プライベートプリントの設定（P.348）	• 認証方式の設定（P.341） • アクセス制御（P.341） • ユーザー登録 / 集計確認（P.343） • 登録内容の削除 / 集計リセット（P.343） • 権限グループ登録（P.344） • 認証情報の設定（P.344） • 機械管理ユーザーの認証失敗アクセス拒否（P.347） • パスワードの運用（P.347） • 認証 / プライベートプリントの設定（P.348） • 受信時の PJL 命令制御（P.348） • 出力時の PJL 命令制御（P.348） • 受信制御（P.349）
強制印字の一時解除（P.351）	–
ジョブ操作の設定（P.352）	• 実行中 / 待ちジョブの表示設定（P.352） • 実行完了ジョブの表示設定（P.352）
ハードディスクの上書き消去設定（P.352）	• 上書き回数の設定（P.352）

共通設定

［共通設定］では、機械本体の共通機能に関連した項目を設定します。
各項目の詳細と参照先は、次のとおりです。

システム時計 / タイマー設定 163
節電モードの設定 166
音の設定 168
画面 / ボタンの設定 169
用紙 / トレイの設定 175
画質の設定 178
レポート設定 178
保守 180
複製管理 183
ペーパーセキュリティー 185
強制アノテーション 188
UUID 印字 190
イメージログ管理（ApeosPort シリーズのみ） 190
ジョブ終了時のメール通知設定 193
プラグイン設定 194
その他の設定 194

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［共通設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

システム時計 / タイマー設定

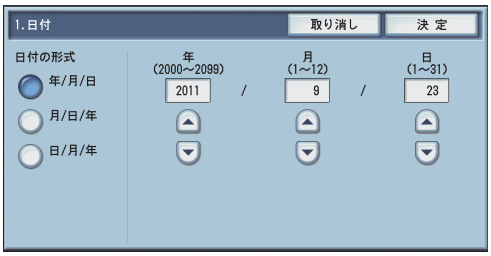
時刻をセットしたり、リセットなどの機能が働くまでの時間（タイマー）を設定します。

日付

本機のシステム時計の日付を指定します。ここで設定された日付が、リストやレポートにプリントされます。

1 ［日付］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

2 日付の形式を選択します。



3 ［年］、［月］、［日］を指定します。

4 ［決定］を押します。

時刻

本機のシステム時計の時刻を、12 時間制表示または 24 時間制表示で指定します。
ここで指定された時刻がリストやレポートにプリントされます。

1 ［時刻］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

2 表示形式を選択します。

3 ［12 時間制表示］を選択した場合は、［午前 (AM)］または［午後 (PM)］を選択します。

4 ［時］、［分］を指定します。

5 ［決定］を押します。

時刻サーバー（NTP）と同期

時刻サーバー（NTP:Network Time Protocol）の時刻と同じになるように、サーバーから時刻を取得し、本機の時間を合わせることができます。

時刻サーバーに接続する場合は、［時刻サーバー（NTP）と同期］で［する］を選択し、［時刻サーバーアドレス］でサーバーの IP アドレスを指定します。

時刻サーバーの接続間隔

時刻サーバーに何時間ごとに接続するかを指定します。

1 ～ 500 時間の範囲で 1 時間単位で指定します。

時刻サーバーアドレス

時刻サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足

- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

自動リセット

何も操作をしない状態で一定の時間が経過したとき、自動的にリセットする時間を指定します。

［する］を選択した場合は、10 ～ 900 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。［しない］を選択した場合は、自動リセットされません。

補足

- ［しない］を選択しても、原稿を読み込んでジョブに対する操作待ちになっている画面の状態で、操作を 1 分間しないと、操作待ちを解除し、読み込み済みの原稿の処理を開始します。

ジョブ自動解除

コピーやスキャン中に、エラー（用紙の補給、原稿づまり、用紙づまりなど）が発生したとき、現在のジョブを解除して、次のジョブを実行できるまでの時間を指定します。このとき、実行できるジョブは機械のエラーが発生している部分を使用しないものに限ります。

［する］を選択した場合は、 1 分単位で指定します。指定しない場合は、［しない］を選択します。

プリント起動

操作パネル（〈スタート〉ボタンと〈リセット〉ボタンは除きます）の操作後、何秒でプリントができるようになるかを設定します。

［する］を選択した場合は、1 ～ 240 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。［しない］を

選択すると、本機の準備ができたら、すぐにプリントします。

プリント禁止の設定

一時的にプリントを禁止させる設定ができます。

この機能を使用するには、メニュー画面の補助機能ボタンに［自動プリントを禁止する］を表示させる必要があります。

参照

- メニュー画面に［自動プリントを禁止する］を表示させる方法は、「メニュー画面の補助機能配列」（P.170）を参照してください。
- CentreWare Internet Services を使うと、さらに詳細な設定ができます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■手動で禁止する

メニュー画面の［自動プリントを禁止する］を押して、一時的にプリントを禁止できます。プリント禁止状態では、［自動プリントを許可する］が表示され、このボタンを押すとプリントが可能になります。

補足

- 電源スイッチを切 / 入したり、節電状態（低電力モード、スリープモード）のときに〈節電〉ボタンを押しただけでは、プリント禁止状態は解除されません。
- ［自動プリントを許可する］を押したときのプリント開始は、［プリント起動］の設定に従って動作するため、すぐにプリントされない場合があります。
- ［手動で禁止する］のチェックを外すと、［メニュー画面の補助機能配列］の［自動プリントを禁止する］が［(未設定)］になります。

タイムゾーン

GMT を基準に、-12 時間から +12 時間の範囲で設定できます。

補足

- GMT とは、Greenwich Mean Time（グリニッジ標準時）の略称です。

サマータイム

夏時間（サマータイム）を設定できます。夏時間（サマータイム）として設定した期間は、現在の時間に 1 時間加えた時刻になります。

［調整しない］、［月 / 日 / 時刻で指定して調整］または［月 / 週 / 曜日 / 時刻で指定して調整］から選択します。

［月 / 日 / 時刻で指定して調整］を選択した場合、［開始日］と［終了日］の月、日、時刻を設定します。

［月 / 週 / 曜日 / 時刻で指定して調整］を選択した場合、［開始日］と［終了日］の月、週、曜日、時刻を設定します。

補足

- ［開始日］と［終了日］に同じ月は設定しないでください。同じ月を設定すると、夏時間（サマータイム）の設定が正しく動作しません。

オンデマンド印刷の有効時間（ApeosPort シリーズのみ）

外部アクセスを使用してプリントする場合の有効時間を設定します。印刷を指示したあと、ここで設定した時間以内に外部接続先からプリントデータを受信しないと、プリント指示が無効になります。

0 ～ 255 分までの範囲で 1 分単位で設定します。［0］に設定した場合は、タイムアウトしません。

補足

- 一度に大量の文書をプリント指示した場合や、処理に時間がかかる複雑な文書が含まれる場合、最後のページを受け付ける前にタイムアウトすることがあります。タイムアウトすると、受信したプリントデータはキャンセルされるので、使用状況を考慮して時間を設定してください。

節電モードの設定

節電モードに関する設定を行います。

節電モード移行時間

節電モードには、「低電力モード」と「スリープモード」があり、設定時間が経過すると次のように移行し、消費電力を下げます。

「本機を最後に操作」→「低電力モード」→「スリープモード」

補足

- 低電力モードおよびスリープモードに移行しないように設定することはできません。

参照

- 節電モード移行時間の設定方法は、「節電モード移行時間を変更する」（P.28）を参照してください。

■最終操作から低電力モードまで

最終操作から低電力モードに移行するまでの時間を、1 ～ 240 分の範囲で 1 分単位で設定します。

■最終操作からスリープモードまで

最終操作からスリープモードまでに移行するまでの時間を 1 ～ 240 分の範囲で 1 分単位で設定します。

補足

- ［最終操作からスリープモードまで］の時間は、［最終操作から低電力モードまで］の時間と同じか、それより大きくなるように指定してください。
- ［最終操作からスリープモードまで］の時間が［最終操作から低電力モードまで］の時間と同じ場合、低電力モードには移行せずにスリープモードに移行します。

自動プリント後の節電モード移行

プリントジョブやファクス / インターネットファクスのプリントが完了したあとの節電モードへの移行方法を設定します。

■15 秒後に移行する

15 秒後にスリープモードへ移行します。

■節電モード移行時間に従う

［節電モード移行時間］で設定した時間に従い、低電力モードまたはスリープモードへ移行します。

参照
- 節電モード移行時間の設定方法は、「節電モード移行時間を変更する」(P.28) を参照してください。

節電解除の制御

節電状態を解除するときに、使用する部分のみを解除するかどうかを設定します。

■すべて解除する

すべての節電状態を解除します。

■使用する部分のみ解除する

作業で使用する部分のみ節電状態を解除します。

［常に有効］、［プリント時 / ジョブ自動処理時のみ有効］から選択します。

電源の自動制御

本機では、設定した時刻になると電源が自動的に切れるように設定できます。

■しない

本機の電源は自動的に切れません。

■自動的に電源を切る

ここで設定した時刻になると、本機の電源が自動的に切れます。

補足
- 工場出荷時には、［ しない ］が設定されています。
- ［自動的に電源を切る］が設定されていても、本機に紙づまりなどの異常が発生している場合や、ジョブや割り込みなどの処理を行っている場合には、電源は自動的に切れません。

音の設定

ジョブの終了や機械の異常などを知らせる音を、鳴らすかどうかを設定します。

正常入力音

操作パネル上のボタンを正しく選択したときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

異常入力音

選択できないボタンを選択したときや、エラーが発生しているときに操作をしたときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

基点音

トグル動作するボタン（繰り返し押すことで設定を切り替えることができるボタン）の、基準となる音量を設定します。本機では、〈割り込み〉ボタンの解除を受け付けたときに鳴ります。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

準備完了音

電源を入れたときなど、本機がコピーやプリントできる状態になったときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

正常終了音 1、2

ジョブが正常に終了したときに鳴る音量および音程を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

対象ジョブを選択できます。

また、音程を選択できます。

異常終了音

ジョブが異常終了したときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。対象ジョブを選択できます。

自動リセット事前通知音

自動リセット機能を設定している場合に、自動的に初期画面に戻る 5 秒前に鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

参照

- 自動リセットについては、「自動リセット」(P.165) を参照してください。

異常警告音

原稿や用紙が詰まるなどの異常が発生し、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

用紙切れ警告音

用紙トレイの用紙切れによって、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

トナー残量警告音

トナーカートリッジが交換時期になったときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

ジョブメモリー登録音

ジョブメモリーの登録中に鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない設定はできません。

ジョブメモリー呼び出し完了音

登録したジョブメモリーの呼び出しが完了したときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択します。

ラインモニター音

ファクス送信時にダイヤルしてから、相手先に接続されるまでの間、電話回線上の音を本機のスピーカーから聞けるように設定できます。FAX 情報サービスを受話器を使用しないで利用するときなどに便利です。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択してください。

呼び出しベル音

本機にファクスが着信したときに鳴る音量を設定します。

音量は、[大]、[中]、[小] から選択できます。音を鳴らさない場合は、[なし] を選択してください。

画面 / ボタンの設定

画面やボタンを設定します。

初期表示画面

電源を入れたり、節電状態を解除したときに表示する画面を設定します。

参照

- 詳しくは、「初期表示画面を変更する」(P.31) を参照してください。

自動リセット後の画面

自動リセット後の画面を設定します。

参照
- 詳しくは、「自動リセット後の画面を変更する」(P.33) を参照してください。

認証画面の自動表示

認証機能を利用している場合、電源を入れたり、節電状態を解除したときに、認証画面を自動的に表示するかどうかを設定します。

登録 1 ～ 3 ボタン

操作パネルの登録ボタン「登録 1」～「登録 3」に、コピーやボックス操作などの機能を割り当てることができます。

機能を割り当てない場合は、[未設定] を選択します。

補足
- 工場出荷時は、「登録 1」には「コピー」が、「登録 2」には「ファクス / インターネットファクス」が、「登録 3」には「設定確認」が登録されています。

参照
- 詳しくは、「〈登録〉ボタンに機能を割り当てる」(P.41) を参照してください。

ワンタッチボタンの割り当て

ワンタッチボタンへの短縮宛先番号の割り当て数を設定します。

■タイプ 1

1 ～ 70 を短縮宛先番号（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）に、M01 と M02 をジョブメモリー（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）に設定します。

■タイプ 2

1 ～ 60 を短縮宛先番号（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）に、61 ～ 70、M01、M02 をジョブメモリー（登録したジョブメモリーの 1 番～ 12 番に対応）に設定します。

補足
- 工場出荷時は、[タイプ 1] が設定されています。

メニュー画面の機能配列

操作パネルのメニュー画面に表示する機能ボタンの配列を設定します。

参照
- 詳しくは、「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」(P.35) を参照してください。

メニュー画面の補助機能配列

操作パネルのメニュー画面に表示する補助機能ボタンの配列を設定します。

補足
- 補助機能ボタンに [登録 / 変更] を表示させないときは、[機械管理者のみ表示] にチェックを付けます。機械管理者モード以外では、本機の登録、変更ができなくなります。

参照
- 詳しくは、「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」(P.35) を参照してください。

実行完了画面のジョブ表示

操作パネルの〈ジョブ確認〉ボタンを押したときに表示される、［ジョブ確認］画面の［実行完了］画面に表示するジョブの種類の初期値を設定します。

［すべて］、［プリント］、［スキャン / 通信］、［ジョブフロー / 自動転送］から選択します。

初期表示言語

本機で表示する言語を切り替えることができます。

言語の切り替え操作には、機械管理者モードから設定する方法と、一般ユーザーが設定する方法の 2 つがあります。

- 機械管理者モードから設定する

  本機の電源を入れたときの標準言語になり、電源を切って、入れ直しても設定は保持されます。

- 一般ユーザーが設定する

  メニュー画面の［言語切り替え Language］で言語を設定します。本機の電源を切って、入れ直すと、設定は無効になります。

注記

- 英語に設定する場合は、ASCII 文字以外の文字は入力しないでください。
- メニュー画面の［言語切り替え Language］で英語に切り替えた場合、宛先名やジョブフローの［内容確認］などが日本語で作成されていると正しく表示されないことがあります。
- 日本語以外に設定しているときに、CentreWare Internet Services を使って、日本語を含んだ CSV ファイル*をインポートすると、文字化けが発生したり、正しくインポートできない場合があります。

* 表計算ソフトやデータベースソフトがデータを保存するときに使う、カンマ（,）で区切ったファイル形式

画面輝度調整

操作パネルの画面の明るさを、-16 ～ +16 の範囲で調整できます。

宛先確認 - メール

メール送信時に宛先を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

［しない］、［常にする］、［複数宛先時のみする］から選択します。

宛先確認 - ファクス / インターネットファクス

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）の宛先指定時や送信時に、宛先を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

■基本画面での宛先確認

［しない］、［常にする］、［複数宛先時のみする］から選択します。

■基本画面以外でのスタート動作

［スタート禁止］、［スタート許可］から選択します。

補足

- ［スタート禁止］を選択した場合、基本画面以外では宛先確認を利用できません。

■基本画面以外での宛先確認

［しない］、［常にする］、［複数宛先時のみする］から選択します。

補足
- ［基本画面以外でのスタート動作］で［スタート禁止］を選択した場合、この項目は表示されません。
- ［基本画面での宛先確認］で［複数宛先時のみする］を選択した場合、この項目で［しない］は選択できません。［基本画面での宛先確認］で［常にする］を選択した場合、この項目で［しない］、［複数宛先時のみする］は選択できません。

宛先確認ボタン - メール

メール送信時にメモリー残量を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

［表示しない（メモリー残量を表示）］、［表示する］から選択します。

宛先確認ボタン - ファクス / インターネット

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）の送信時にメモリー残量を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

［表示しない（メモリー残量を表示）］、［表示する］から選択します。

USB メモリー検出時の画面表示

USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入したときに、画面表示を切り替えるかどうかと、切り替える場合の画面を設定できます。

［しない］、［スキャナー（USB メモリー保存）］、［文書プリント］、［機能選択画面］から選択します。

補足
- ［機能選択画面］を選択すると、USB メモリー挿入時に［USB メモリー検出］画面が表示され、［スキャナー（USB メモリー保存）］、［文書プリント］のいずれかを選択できます。
- 本機の電源が入っていないときに USB メモリーを挿入した状態で、電源を入れた場合は、メニュー画面が表示されます。
- 節電中は、USB メモリー差込口に USB メモリーを差し込んでも、タッチパネルディスプレイは点灯しません。〈節電〉ボタンを押して節電状態を解除してから、USB メモリーを差し込みなおすか、メニュー画面から利用する機能を選択してください。
- 市販のメモリーカードリーダーをお使いで、本機の USB メモリー差込口に常時差し込んである場合、そのメモリーカードリーダーにメディアを挿入しても、画面は切り替わりません。

消耗品情報画面の表示

交換が必要な消耗品がある場合に、消耗品の状態を自動的に表示させるかどうかを設定します。

キーボード入力制限

本機で表示される仮想キーボードの表示方法を制限するかどうかを設定します。異なる文字セット間での言語切り替え時に、文字化けと誤動作を防止するために、入力範囲を ASCII だけに制限できます。［する（ASCII のみ）］を選択すると、表示されるキーボードは ASCII 文字だけになります。

アップダウンボタンの操作

スクロールボタンを押し続けたときに、スクロール動作を実施するかどうかを設定します。

■しない

消耗品情報画面を表示しません。

■電源投入時

電源を入れたときに表示します。

■自動リセット時

自動リセットされたときに表示します。

フリック / ダブルタップ操作

本機のタッチパネルディスプレイでフリックやダブルタップ操作などを有効にするかどうかを設定します。［無効］、［有効］から選択します。

本機能の設定によりフリック / ダブルタップ操作のほか、メニュー画面のデザインや画面効果が異なります。［無効］、［有効］により異なる操作や画面効果は以下の通りです。

アイコンスタイル

ボタンスタイル

画面		操作 / 画面効果	有効	無効
メニュー		画面デザイン	アイコンスタイル	ボタンスタイル
		画面のスクロール方向	横方向	縦方向
		フリックによるページ切り替え	○	×
		ドラッグによるページ切り替え	○	×
プレビュー	サムネールビュー	タップによるページビューの表示	○	○
		フリックによるページ切り替え	○	×
		ドラッグによるページ切り替え	○	○
	ページビュー	フリックによるページ切り替え	○	×
		ドラッグによるページ切り替え	○	×
		前後プレビューイメージのタップによるページ切り替え	○	○
		タップによるページ切り替えボタンとサムネールバーの表示切り替え	○	×
		ダブルタップによる拡大ビューの表示	○	×

○：できる、×：できない

画面		操作 / 画面効果	有効	無効
プレビュー	拡大ビュー	フリックによる拡大画像の表示位置の移動	○	×
		ドラッグによる拡大画像の表示位置の移動	○	○
		スライダーのドラッグによる画面サイズの拡大 / 縮小	○	○
		ダブルタップによる画面サイズの拡大 / 縮小	○	×
		タップによるスライダーとサムネールバーの表示切り替え	○	×
		ドラッグによるページ切り替え	○	×

○：できる、×：できない

ダブルタップの間隔

本機の操作パネルでダブルタップ操作をしたときに、ダブルタップとして認識される間隔を設定できます。

［短め］、［標準］、［長め］から選択します。

セキュリティ警告 - 機械管理者設定

機械管理者の User ID とパスワードが初期値のまま、本機または CentreWare Internet Services に機械管理者モードで入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

［警告画面を表示しない］、［警告画面を表示する］から選択します。

セキュリティ警告 -SNMP 設定

SNMP プロトコルの設定で、コミュニティ名や認証用パスワードが初期値のまま、本機または CentreWare Internet Services に機械管理者モードで入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

［警告画面を表示しない］、［警告画面を表示する］から選択します。

補足

- SNMP プロトコルの設定は、CentreWare Internet Services で設定します。詳しくは、CentreWareInternet Services のヘルプを参照してください。

セキュリティ警告 - グローバル IP アドレス

本機にグローバル IP アドレスが設定され、かつ［認証方式の設定］が［認証しない］に設定されている状態で、本機または CentreWare Internet Services に機械管理者モードで入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

［警告画面を表示しない］、［警告画面を表示する］から選択します。

用紙 / トレイの設定

トレイにセットする用紙の種類や優先順位の設定など、用紙やトレイに関連する項目を設定します。

ユーザー用紙属性の名称設定

［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］の［用紙種類］で選択できるユーザー用紙 1 ～ 5、［色］で選択できるユーザー色 1 ～ 5 に名称を付けられます。

名称はひらがな、カタカナ、漢字、英数字、記号を使って、全角 12 文字（半角 24 文字）まで設定できます。

たとえば、色付きの用紙に「色紙」と付けたり、上質紙に「表紙用」と付けるなど、用途に応じた名称を付けることもできます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定

用紙トレイにセットする用紙のサイズや種類などを設定します。

参照
- 詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。

■設定変更

用紙トレイにセットする用紙のサイズを変更するときは、このボタンを押して変更します。

用紙トレイに非定形サイズの用紙をセットする場合は、［サイズ入力］を選択して、たてよこのサイズを指定します。

注記
- 紙づまりやエラーの原因になることがあるので、ガイドを用紙サイズに合わせてください。また、トレイを検知できないことがあります。そのような場合は、トレイ 5（手差し）を使用してください。

- 用紙種類

  用紙トレイにセットする用紙の種類を選択します。

参照
- 詳しくは、「使用できる用紙の種類」(P.52) を参照してください。

- 用紙サイズ

  トレイ 1，2 は、定形サイズの用紙と非定形サイズの用紙をセットできます。非定形サイズの用紙は［サイズ入力］を選択し、用紙サイズのたてとよこをそれぞれ入力します。

  X 方向（よこ）を 182 ～ 432mm、Y 方向（たて）を 140 ～ 297mm の範囲で 1mm 刻みに指定します。

  トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））は定形サイズの用紙だけをセットできます。

  ［自動サイズ検知］を選択します。

補足
- トレイ 3、4 の用紙サイズは、A4 サイズに固定されています。用紙トレイ 3、4 の用紙サイズの変更については、弊社のカストマーサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。

- 色

  用紙の色を設定できます。ここで設定した色は、［用紙選択］画面の［用紙の色］に表示されます。

用紙選択画面の補助属性表示

［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］の［用紙サイズ］で設定した内容を、用紙選択の画面に表示するかどうかを設定します。

■表示しない

設定した内容を表示しません。

■用紙サイズの設定方法

［用紙サイズ］で設定した内容を表示します。

登録 / 変更画面からのトレイ設定変更

［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］を、［登録 / 変更］画面に表示するかどうかを設定します。

機械管理者モードに入らなくても、用紙トレイの用紙サイズや用紙種類を設定できるようになります。

トレイセット時の用紙変更画面表示

用紙トレイを出し入れしたときに、対象トレイの設定変更画面（［用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定］画面）を表示するかどうかを設定します。

設定できるのは、用紙トレイ 1 ～ 4、6 ～ 7（オプション）です。トレイ 5（手差し）は設定できません。

用紙トレイの優先順位

自動トレイ選択時に同一サイズ、同一方向の用紙が複数セットされている場合、およびプリントデータに用紙サイズ、用紙トレイの指定がない場合に、使用する用紙トレイの優先順位を設定します。

自動トレイ選択とは、適切な用紙がセットされたトレイを、機械が自動的に選択してコピーやプリントすることです。

設定できるのは、用紙トレイ 1 ～ 4、6 ～ 7（オプション）です。トレイ 5（手差し）は設定できません。

補足
- 論理プリンターの使用時、プリンタードライバーで用紙トレイを指定した場合、本設定は、無視されます。

用紙種類の優先順位

自動トレイ選択時に同一サイズ、同一方向の用紙が複数セットされている場合に、使用する用紙種類がセットされた用紙トレイの優先順位を設定します。

自動トレイ選択とは、適切な用紙がセットされたトレイを、機械が自動的に選択してコピーやプリントすることです。

設定できるのは、普通紙、再生紙、うら紙、ユーザー用紙 1 ～ 5 です。

用紙トレイの優先順位よりも、用紙種類の設定が優先されます。

ただし、異なる用紙種類に同じ優先順位を設定した場合は、トレイの優先順位によって、選択される用紙が決まります。また、［自動トレイ選択しない］に設定した用紙種類がセットされているトレイは、自動トレイ選択の対象にはなりません。

参照
- 詳しくは、「用紙トレイの優先順位」（P.176）を参照してください。

トレイ 5（手差し）定形サイズボタン

トレイ 5（手差し）でコピーする場合、［用紙選択］の［トレイ 5（手差し）］画面に表示する用紙サイズを設定します。

［定形サイズ］ボタンに、ここで設定した用紙サイズを割り当てることができます。

非定形サイズの用紙に頻繁にコピーする場合など、あらかじめ設定しておくと、コピーのたびに用紙サイズを入力する手間が省けます。また、よく使う用紙サイズを上の方に設定しておくことで、より使いやすくなります。

■A 系 B 系表示

A 系、B 系のサイズから選択できます。

■インチサイズ表示

インチ系のサイズから選択できます。

■その他

そのほかのサイズから選択できます。

■サイズ入力

任意のサイズを入力できます。X（よこ）方向が 148 ～ 457mm、Y（たて）方向が 100 ～ 305mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

自動トレイ動作制御

選択しているトレイの用紙がなくなったときに、切り替えるトレイを設定したり、対象用紙を設定します。

■自動トレイ切り替え

［常に切り替える］、［［自動］選択時切り替える］、［同一用紙種類 / 色で切り替える］から選択します。

［［自動］選択時切り替える］は、［コピー］画面やプリンタードライバーの［用紙トレイ選択］で［自動］を選択しているときに切り替えます。

補足

- 次の場合、自動的にトレイは切り替わりません。
  - 用紙トレイ 5（手差し）を選択している場合
  - ［用紙トレイ優先順位］で、［自動トレイ切り替え対象外］に設定されているトレイを選択している場合

■対象用紙種類（コピー）

用紙種類を選択できます。

［優先順位に従う］を選択すると、［用紙種類の優先順位］に従って動作します。［指定用紙種類のみ］を選択すると、用紙の種類が指定できます。

■対象用紙色（コピー）

対象をすべての用紙色にするか、または指定できます。

画質の設定

画質に関する設定を行います。

画質の設定

機械が原稿を読み取るときの、画質の処理方法について設定できます。

■文字 / 写真分離レベル

［画質調整］画面にある、［原稿の画質］の［文字 / 写真］でコピーする場合、機械が原稿を読み取るときに、文字か写真かを判別するレベルを変更できます。

［文字より］を選択すると、極細文字などが文字と認識しやすくなります。

［写真より］を選択すると、新聞やチラシなどの網点画像を写真と認識しやすくなります。

■地色除去方式（白黒コピー）

白黒でコピーするときの地色除去の方式を設定します。

地色除去とは、色紙などの原稿で背景に色がある場合、自動的に色の濃度を検出し、背景の色の読み取りを抑える機能です。

［速度優先］を選択すると、原稿の一部分をサンプリングして地色レベルを検出します。

［画質優先］を選択すると、プリスキャンを行い、原稿全体をサンプリングして地色レベルを検出します。

注記
- ［画質優先］に設定した場合、［コピー位置 / とじしろ］で［コーナー移動］を設定し、［倍率選択］で 60% 以下の倍率を設定した場合、像欠けや白紙コピーが発生することがあります。

■地色除去方式（スキャナー）

スキャンするときの地色除去の方式を設定します。

機械が原稿の背景の色の濃度を検出し、地色として除去するときの処理方法を設定します。

［速度優先］を選択すると、原稿の一部分をサンプリングして地色レベルを検出します。

［画質優先］を選択すると、プリスキャンを行い、原稿全体をサンプリングして地色レベルを検出します。

■イメージエンハンス

イメージエンハンスをするかどうかを設定できます。［する］に設定すると、コピーデータにスムージング処理をして、滑らかに見せます。

レポート設定

レポートのプリントに関する設定をします。

レポート出力ボタンの表示

〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押して、表示される［機械状態 レポート出力］画面の［レポート / リストの出力］と、［エラー情報］画面の［エラー履歴レポー

ト］の表示方法を設定します。［しない］に設定すると、機械管理者モードのときだけ表示します。［する］に設定すると、機械管理者モード以外でも表示します。

参照
- レポート/リストの出力については、「レポート/リストの出力」(P.117)を参照してください。エラー履歴レポートについては、「エラー情報」(P.135) を参照してください。

ジョブ履歴レポート

処理を行ったジョブの合計が 50 件になったときに、ジョブ履歴レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。自動的にプリントされるレポートは、すべてのジョブが印字されます。

参照
- ジョブ履歴レポートを手動でプリントする方法は、「レポート/リストの出力」(P.117)を参照してください。

通信管理レポート

通信結果の合計が 100 件になったときに、通信管理レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

参照
- 通信管理レポートについては、「通信管理レポート」(P.909) を参照してください。
- 通信管理レポートを手動でプリントする方法は、「ジョブ確認/通信管理レポート」(P.118)を参照してください。

未送信レポート

未送信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

取消し文書の未送信レポート

通信を中止した文書の未送信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

親展受信レポート

親展受信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

同報 / 集信レポート

同報レポート、集信レポートをプリントするかどうかを設定できます。

■自動出力しない

送信が成功したか失敗したかにかかわらず、レポートをプリントしません。

■自動出力する

送信が成功したか失敗したかにかかわらず、レポートを自動的にプリントします。

■通信エラー時のみ自動出力

通信エラーが発生した場合のみ、レポートをプリントします。レポートの記載内容を［すべての通信］、［エラーが発生した通信のみ］から選択します。

転送モニターレポート

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送したときや、スキャンしたデータをメール送信したときの、データの送信結果をプリントするかどうかを設定できます。

■自動出力しない

データの送信が成功したか失敗したかにかかわらず、レポートをプリントしません。

■自動出力する

データの送信に成功したときにはモニターレポートを、データの送信に失敗したときには未送信レポートを、それぞれ自動的に出力します。

■未送信レポートのみ出力

データの送信に失敗したときに、未送信レポートをプリントします。

レポートの両面プリント

レポート / リストをプリントするときに、片面でプリントするか両面でプリントするかを設定します。

通信管理レポート - 相手表示

通信管理レポートに印字される相手先の情報を、先端から 40 桁まで印字するか、後端から 40 桁まで印字するかを設定します。

通信管理レポート - カード番号

通信管理レポートにカード番号を表示させるかどうかを設定します。カード番号が 1 ～ 9999999 の場合に印字されます。

補足

- この項目は、DocuLyzer（別売）を装着している場合に表示されます。

ジョブフローエラーレポート

ジョブフローエラーレポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

保守

点検 / 修理の依頼やハードディスクの初期化ができます。

点検 / 修理依頼

EP システムを利用している場合、機械の点検や修理が必要になったときに、本機が弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡します。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。

補足

- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照

- 詳しくは、「EP システムについて」(P.913) を参照してください。

EP 診断 / 修理依頼

インターネットを使った EP システムを利用している場合、本機の点検や修理が必要になったときに、本機が弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡します。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。

補足
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.913) を参照してください。

EP 通信確認

インターネットを使った EP システムを利用している場合、本機と弊社の間で通信が正常に行われるかを確認できます。

補足
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.913) を参照してください。

ハードディスク初期化

ハードディスクにあるデータを初期化します。

初期化によって消去されるデータは、追加フォント、ART EX、ART IV、PC-PR201H（オプション）、ESC/P、HP-GL/2（オプション）の各フォーム、ART IV ユーザー定義データです。

補足
- セキュリティープリント文書やログは、消去されません。

データの一括削除

本機に登録 / 設定されているデータをすべて削除します。十分ご確認のうえ、機能を実行してください。

注記
- データの一括削除には、数十分～数時間の時間がかかる場合があります（お使いの機械の構成やハードディスクの容量などにより異なります）。

ソフトウェアオプションの設定

この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアバージョンアップ

インターネットを使った EP システムを利用している場合、本機のソフトウエアのバージョンアップが必要になったときに、ソフトウエアを更新するための機能です。

注記
- ソフトウエアがダウンロードされると、自動的に再起動して、ソフトウエアの更新を行います。そのあと再起動し、メニュー画面が表示されたらソフトウエアバージョンアップは終了です。ソフトウエアバージョンアップが終了するまで、電源は切らないでください。

補足
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.913) を参照してください。

1 ［ソフトウェアバージョンアップ］を押します。

2 ［バージョンアップ実行］を押します。

3 ［はい（実行する)］を押すと、ソフトウエアのダウンロードを開始します。

機械起動時のプログラム診断

本機の電源を入れ、起動させたときに、プログラム診断をするかどうかを設定します。

プログラム診断で意図的なプログラムの書き換えなどの異常が見つかった場合は、起動を停止し、監査ログに記録します。

補足
- プログラム異常の状態によっては、監査ログに記録されない場合があります。
- 本機が起動しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

IC カード情報の確認

［IC カード情報の確認］を選択し、ご利用の IC カードを IC カードリーダーにタッチすると、IC カードの情報がタッチパネルディスプレイに表示されます。

補足
- 認証に使用する情報は、CentreWare Internet Services で設定します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

フィニッシャーの調整

オプションのフィニッシャー C3、中とじユニットやパンチユニット装着時に表示されます。

■パンチユニットの設定

2/4 穴パンチユニットか 2/3 穴パンチユニット（US 規格）かを設定します。

■紙折り位置の調整

用紙の種類ごとに紙折りの位置を調整し、10 種類のタイプに設定できます。設定したタイプは各トレイに割り当てます。

- 紙折り位置タイプの設定

二つ折り、製本、内三つ折り、外三つ折り、Z 折りの折りの位置を調整します。

参照
- 手順については、「紙折り位置の調整」(P.773) を参照してください。

- トレイ 1 ～ 4、6

  設定したタイプをトレイに割り当てます。

■折りを補助する筋

中とじ製本時、冊子が開いて排出しないように、折り位置の上下に入れる筋の本数を設定します。

[片側 1 本]、[片側 2 本]、[片側 3 本]、[しない] から選択します。

補足
- 筋の本数が少ないほど、筋が強く入ります。筋の本数が多いほど、製本速度が遅くなります。
- 用紙サイズ、用紙種類によっては、折りを補助する筋を入れても冊子が開いてしまう場合があります。

証明書の一括削除 / 初期化

証明書を一括削除し、初期化します。[ネットワーク設定] > [セキュリティ設定] の [SSL/TLS 設定] で証明書を使用するように設定しているにもかかわらず、証明書ファイルの異常などが原因で、証明書データが使用できなくなった場合に使用します。

初期設定項目

本機の設置時に必要な設定をするためのインストールウィザード画面が表示されます。画面 / ボタンや、ネットワーク、ファクスの設定をすることができます。

参照
- 設定項目については、「画面 / ボタンの設定」(P.169)、「ネットワーク設定」(P.213)、「ファクス設定」(P.266) を参照してください。

複製管理

複製管理とは、書類の複製を抑制するために、用紙の背景全体に文字列や背景パターンを印字する機能です。

ここでは、複製管理機能で印字する日付や文字列、背景パターン、隠し印刷に関する設定をします。

印字する日付の形式

印字する日付の形式を設定します。ここで設定した値は、アノテーション、複製管理、強制アノテーションで共通になります。

[20yy/mm/dd]、[mm/dd/20yy]、[dd/mm/20yy]、[20yy 年 mm 月 dd 日] の 4 種類から選択できます。

[20yy 年 mm 月 dd 日] は、初期表示言語が [日本語] のときだけ表示されます。

隠し印刷初期値

複製管理の隠し印刷の初期値を設定します。

■しない（スタンプ印刷）

隠し印刷をしません。

■浮き出し

隠し印刷を設定してコピーした文書を再度コピーすると、埋め込まれた文字列が、背景パターンに浮き出して印字されます。

■白抜き

隠し印刷を設定してコピーした文書を再度コピーすると、埋め込まれた文字列が、背景パターンに白抜きで印字されます。

文字列初期値

複製管理で印字される文字列を設定します。

[禁複写]、[コピー]、[複写] と [文字列登録 1 ～ 3] で登録した文字列から選択できます。

参照
- ユーザー登録文字列は、「文字列登録 1 ～ 3」(P.188) を参照してください。

文字列の大きさ

複製管理で印字される文字の大きさを設定します。

24 ～ 80 ポイントの範囲で 1 ポイント単位で設定できます。

背景パターン

隠し印刷で使用する文字列を埋め込むための、背景パターンを設定します。

[ウェーブ]、[サークル]、[ストライプ]、[チェーン]、[ビーム]、[ひし形]、[ひまわり]、[扇] の 8 種類のパターンから選択できます。

印刷の濃度

複製管理で印字される文字の濃度を設定します。

[うすく]、[ふつう]、[こく] から選択できます。

文字 / 背景コントラスト

複製管理で印字される文字 / 背景のコントラストを設定します。

コントラスト 1 ～ 9 から選択できます。[サンプルリストの出力] でプリントしたサンプルを参考にして設定してください。

強制複製管理 - コピー

コピーをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。[する] に設定すると、コピー機能の [出力形式] 画面にある [複製管理] が [する] に固定され、変更できなくなります。

印字される文字列は、ユーザー ID、本機の ID、印刷日時です。

補足
- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ登録」(P.344) を参照してください。

強制複製管理 - クライアントプリント

コンピューターからプリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

本機の設定を優先する場合は［本体の設定を優先］を、TrustMarkingBasic（別売）などのソフトウエアやプリントサーバーの設定を優先する場合は、［クライアントの設定を優先］を選択します。

［本体の設定を優先］を選択した場合は、ユーザー ID、本機の ID、印刷日時が印字されます。

補足

- この設定は、複製管理とペーパーセキュリティーで共通です。

強制複製管理 - ボックスプリント

親展ボックスからプリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

印字される文字列は、ユーザー ID、本機の ID、印刷日時です。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ登録」(P.344) を参照してください。

強制複製管理 - メディアプリント

文書プリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

印字される文字列は、ユーザー ID、本機の ID、印刷日時です。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ登録」(P.344) を参照してください。

文字列登録 1 ～ 3

複製管理で印字される文字列を登録します。全角 16 文字（半角 32 文字）まで入力できます。登録した文字列は、［文字列初期値］に表示されます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

サンプルリストの出力

背景のコントラストが異なる複数のサンプルをプリントします。プリントサンプルをもとに、［文字 / 背景コントラスト］を設定してください。

ペーパーセキュリティー

原稿に埋め込まれている複製制限コードを、検出できるようにするかどうかを設定します。

検出できるように設定すると、複製制限コードが埋め込まれた原稿を読み込むとジョブは強制的に中止されます。

注記

- 検出する設定の場合、原稿によっては複製制限コードなしの原稿を複製制限コードとして検出してしまうことがあります。こうした原稿が多い場合にはユーザーが属する権限グループの設定により、検出時に機械を一時停止させて読み込みを継続するかどうかを選択させる動作モードに変更することができます。機械管理者は常にこのモードで動作します。この権限グループの設定は、「権限グループ」(P.465) を参照してください。

- ペーパーセキュリティー機能による文書の複製制限は、常に機能することを保証するものではありません。原稿や設定条件によっては、機能が有効に働かない場合があります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ペーパーセキュリティー機能を使用または使用できなかったことによって発生した損害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

補足
- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- この機能は、弊社のペーパーセキュリティー機能搭載機でのみ動作します。

ペーパーセキュリティーの動作制御

原稿に埋め込まれている複製制限コードを、検出できるようにするかどうかを設定します。

■ペーパーセキュリティーの検出

［する］に設定して、複製制限コードが埋め込まれた文書をコピーやスキャンすると、ジョブは強制的に中止されます。

デジタルコードの設定

文書に埋め込むデジタルコードの解析パスワードと文字列を設定します。デジタルコードを解析することにより、「いつ」、「誰が」、「どの機器から出力したか」などの情報を確認できるため、情報漏えいの抑止に効果があります。

■解析パスワード

文書に埋め込むデジタルコードに、解析パスワードを半角 4 ～ 12 文字の範囲で設定します。解析パスワードを設定すると、文書のデジタルコードを解析するアプリケーション使用者を限定できます。

注記
- 設定した解析パスワードを忘れた場合や、PaperSecurity Analyzer の解析パスワードと不一致の場合は、PaperSecurity Analyzer で解析することができなくなります。解析パスワードは、厳重に管理するようにお願いします。

補足
- デジタルコードの解析には、弊社アプリケーションの PaperSecurity Analyzer（別売）が必要です。PaperSecurity Analyzer の操作方法は、アプリケーション付属のマニュアルを参照してください。
- パスワードなしに設定する場合は、空欄にして［決定］を押します。

■ユーザー定義文字列

紙文書に埋め込むデジタルコードとして、文字列を設定します。全角 16 文字（半角 32 文字）まで入力できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

強制ペーパーセキュリティー

ジョブの種類ごとに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

補足
- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ登録」(P.344) を参照してください。

■コピー

コピーをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。［する］に設定すると、コピー機能の［出力形式］画面にある［ペーパーセキュリティー］が［する］に固定され、変更できなくなります。

■クライアントプリント

クライアント側のコンピューターからプリントをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

本機の設定を優先する場合は［本体の設定を優先］を、TrustMarkingBasic（別売）などのソフトウエアやプリントサーバーの設定を優先する場合は、［クライアントの設定を優先］を選択します。

補足

- この設定は、複製管理とペーパーセキュリティーで共通です。

■ボックスプリント

親展ボックスからプリントをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

■メディアプリント

文書プリントをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

■ファクス受信プリント

受信したファクスをプリントをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

■レポート / リスト

レポート / リストをプリントをするときに、強制的にペーパーセキュリティー機能を実行するかどうかを設定します。

補足

- 強制的にペーパーセキュリティー機能を実行する設定にしても、フォントリストなど、一部のレポートには印字されません。

ペーパーセキュリティーの初期値

ペーパーセキュリティー機能の初期値を設定します。

■複製制限コード

複製制限コードを紙文書に埋め込むかどうかを設定します。

隠し印字の設定

隠し文字を設定すると、コピー / プリントされた文書に隠し文字が埋め込まれます。隠し文字が埋め込まれた文書をコピーすると、埋め込まれた隠し文字が白抜きになります。

■文字列初期値

ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字列を設定します。

隠し文字を埋め込む場合は、［禁複写］、［コピー］、［複写］、［登録文字列 1 ～ 3］で登録した文字列から選択できます。

■背景パターン

ペーパーセキュリティーの隠し印字の背景パターンを設定します。

［なし］、［ウェーブ］、［サークル］、［ストライプ］、［チェーン］、［ビーム］、［ひし形］、［ひまわり］、［扇］の 9 種類のパターンから選択できます。

■文字 / 背景コントラスト

ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字 / 背景のコントラストを設定します。

コントラスト 1 ～ 9 から選択できます。［サンプルリストの出力］でプリントしたサンプルを参考にして設定してください。

注記

- 隠し印字の文字の濃度を変更することによって、文字と背景のコントラストを設定します。背景の濃度は調整できません。

■文字列登録 1 ～ 3

ペーパーセキュリティーの隠し印字の文字列を登録します。全角 16 文字（半角 32 文字）まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.48）を参照してください。

■サンプルリストの出力

背景のコントラストが異なる複数のサンプルをプリントします。プリントサンプルをもとに、［文字 / 背景コントラスト］を設定してください。

強制アノテーション

ジョブの種類ごとに関連づけられたレイアウトテンプレートに従い、ユーザー名や日付などの文字列（アノテーション）が強制印字されます。

補足

- 複製管理、ペーパーセキュリティー、UUID 印字が指定されている場合は、それらと重なって印字されます。

本機にはあらかじめ［preset1］～［preset4］のレイアウトテンプレートが用意されています。これらのテンプレートで印字される項目は次のとおりです。

- ［preset1］、［preset2］

  ［文字列登録 1］で登録した文字が、用紙中央に透かし文字で斜めに印字されます。

  用紙の右下（［preset1］の場合）、または左下（［preset2］の場合）に、次の項目が印字されます。

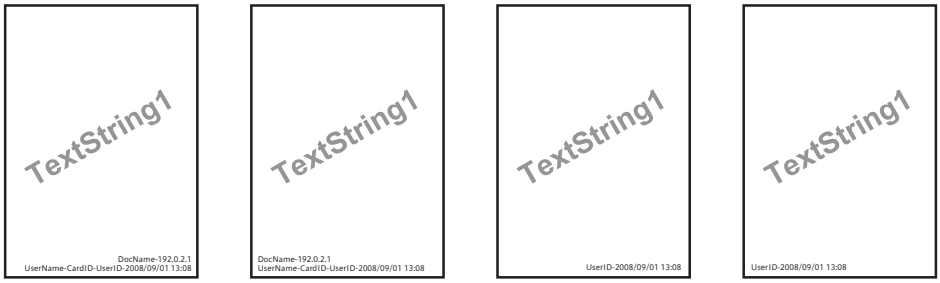
  - 上段：文書名、印字を指示したコンピューターの IP アドレス
  - 下段：ユーザー名、カード ID、User ID、年月日時

- ［preset3］、［preset4］

  ［文字列登録 1］で登録した文字が、用紙中央に透かし文字で斜めに印字されます。

  用紙の右下（［preset3］の場合）、または左下（［preset4］の場合）に、次の項目が印字されます。

- User ID、年月日時



補足

- ジョブの種類や実行形態によっては、印字されない項目があります。
- 機械が作成した白紙ページには、強制アノテーションは印字されません。
- 強制アノテーションを印字する設定にしているときは、トレイ 5（手差し）の自動サイズ検知機能は使用できません。
- 強制アノテーションで印字される時刻は、本機の状況や設定、出力内容によって、出力を指示した時刻と異なる場合があります。印字される時刻は、出力を開始した時刻になります。

参照

- 文字列の登録は、「文字列の登録」（P.189）を参照してください。

レイアウトテンプレートの関連付け

レイアウトテンプレートとの関連づけを設定します。関連づけを設定できるのは、次のジョブです。

- コピー
- クライアントプリント
- ボックスプリント
- メディアプリント
- ファクス受信プリント
- メール受信プリント
- レポート / リスト

補足

- クライアントプリントは、コンピューターからプリント指示をした場合です。
- ボックスプリントは、親展ボックス内の文書をプリント指示した場合です。

レイアウトテンプレートの削除

レイアウトテンプレートを削除します。

注記

- あらかじめ用意されているテンプレート［preset1］～［preset4］は削除できません。

文字列の登録

強制アノテーションで使用する文字列を登録します。文字列登録 1 ～ 8 の 8 種類の文字列を登録できます。全角 32 文字（半角 64 文字）まで入力できます。

注記

- あらかじめ用意されているテンプレート［preset1］～［preset4］で使用できる文字列は、［文字列登録 1］だけです。

UUID 印字

印刷ジョブごとにジョブを特定できるように、識別 ID（UUID）を印字できます。

ApeosWare Management Suite（別売）やイメージログ管理機能を利用すると、UUID をキーとしてログを検索し、ジョブごとに「いつ」、「誰が」、「コピー、プリント、スキャンしたか」などの情報を確認できるため、情報漏えいの抑止に効果があります。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」（P.465）を参照してください。
- ［強制アノテーション］の［レイアウトテンプレートの関連付け］でレイアウトテンプレートを設定している場合は、設定しているテンプレートの上に、ここで設定する文字が印字されます。

参照

- イメージログについては、「イメージログ管理（ApeosPort シリーズのみ）」（P.190）を参照してください。
- 強制アノテーションについては、「強制アノテーション」（P.188）を参照してください。

UUID 印字

UUID 印字をするかどうかを設定します。

注記

- UUID 印字を［する］に設定すると、トレイ 5（手差し）の自動サイズ検知機能は使用できません。

印字位置

UUID を印字する位置を［左上］、［左下］、［中央上］、［中央下］、［右上］、［右下］の 6 種類から選択します。

印字位置の微調整

たて方向を 0 ～ 100mm、よこ方向を 0 ～ 200mm の範囲で 0.5mm 単位で指定します。

補足

- 微調整値は、用紙の端を 0mm として、値を大きくすると用紙中央方向に移動します。ただし、印字位置で［中央上］または［中央下］を選択した場合、よこ方向の調整値は用紙の中央を 100mm としています。印字位置で［中央上］または［中央下］を選択する場合は、微調整値をいったん 100mm に設定してから調整をしてください。

うら面の印字位置

両面にプリントするときに、うら面に印字する UUID の位置を［おもて面と同じ］、［おもて面と対称］から選択します。

イメージログ管理（ApeosPort シリーズのみ）

イメージログ管理は、本機で実行されたジョブの文書を画像データとして保存し、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのデータと共に、ログとして蓄積 / 管理する

機能です。文書が漏えいしたときに、対象文書に対してジョブを実行したユーザーを特定するための情報を保存します。

注記

- イメージログ管理の設定で、［作成保証レベル］を［高］、または［転送保証レベル］を［高］に設定すると、イメージログの作成や転送処理が行われてから印刷されるため、印刷開始が遅くなる場合があります。
- ジョブの文書イメージ、データの容量、イメージログ管理機能以外の複数ジョブの処理の有無、［作成保証レベル］の設定、または［転送保証レベル］の設定によっては、イメージログ管理機能が優先して処理されます。
- イメージログ管理機能は、文書に対するセキュリティー機能を補う目的があるため、イメージログの作成に時間がかかったり、イメージログ管理機能以外のジョブの処理に時間がかかったりすることがあります。
- セキュリティー機能の観点から、機械はデータを蓄積保存することを優先するため、イメージログの作成を中止（強制終了）できません。
- イメージや印刷ジョブのログ（ジョブログ）を検索することによって、システム管理者などが出力者の「識別情報」を把握することになります。イメージログ管理機能を使用したことによる出力者個人のプライバシー保護に関しては、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 停電などで強制的に電源が切れた場合や、ハードディスクに異常が発生した場合などは、イメージログの作成・転送が必ず実施されるとは限りません。
- イメージログ管理機能の起動後に実行されたジョブだけが、イメージログ管理機能の対象になります。
- 管理するイメージは、入力イメージを元に作成するため、出力イメージと同じになるとは限りません。次に記載する情報は、出力時に加えられたり、編集されたりする情報のため、イメージには反映されません。
  - 出力時のレイアウト変更 ●ペーパーセキュリティー •イメージ合成（コピー） •合紙 •バナー
  - 製本(コピー) •アノテーション •送信シート(ファクス) •フォームオーバーレイ(プリント) •複製管理
- イメージとして作成される PDF ファイルに対しては、［PDF セキュリティ］、［PDF 署名］の機能は使用できません。
- ［イメージログ作成］の［解像度］の設定にかかわらず、入力イメージよりも解像度が高いイメージは作成されません。入力イメージの解像度が、［イメージログ作成］の［解像度］よりも低い場合は、入力イメージと同じ解像度でイメージが作成されます。
- ファクス送受信のジョブは、［イメージログ作成］の［作成保証レベル］の設定にかかわらず、常に［作成保証レベル］を［低］として動作します。
- イメージは、最大 8,191 ページまで作成できます。本機への入力イメージが 8,191 ページ以上の場合は、［イメージログ作成］の［作成範囲］に［全ページ］を設定しても、8,191 ページまでのイメージが作成されます。

- ハードディスク内のイメージ格納領域が不足した場合、［イメージログ作成］の［作成保証レベル］の設定によって、本機は次のように動作します。
  - ［高］の場合：ジョブは中止されます。
  - ［低］の場合：ジョブは実行されます。ただし、ジョブ終了時に警告が表示され、イメージ作成が失敗したことを知らせます。
- 本機に格納できるイメージログの最大数は、2000 です。
- ［イメージログ作成］の［解像度］の設定によって、読み取り可能な文字のサイズが異なります。解像度を設定する場合は、次の表を参考にしてください。
- イメージ作成中にエラーが発生した場合、[イメージログ作成]の[作成保証レベル]の設定によって、本機は次のように動作します。
  - [高]の場合:イメージをエラーイメージ(1x1ピクセル)と置き換え、システムエラーが発生します。システムエラーが発生した場合は、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
  - [低]の場合: イメージをエラーイメージ(1x1ピクセル)と置き換え、ジョブ終了時にエラー情報が記録されます。

解像度	読み取り可能な文字サイズ	一般文書でのめやす
200dpi	6pt	一般文書では問題ないレベルです。
100dpi	14pt	大きめの文字がわかるレベルです。
72dpi (初期値)	18pt	タイトルの文字がわかるレベルです。
50dpi	24pt	文字はわかりません。プレビュー用に適しています。
25dpi	32pt	文字はわかりません。サムネール用に適しています。

補足
- この機能を利用するにはオプションおよび別売のアプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ［カストマーエンジニアの操作制限］を［する］に設定していると、カストマーエンジニアは［イメージログ管理］の設定ができなくなります。カストマーエンジニアの操作制限は、「カストマーエンジニアの操作制限」(P.199) を参照してください。

イメージログ管理

イメージログ管理を利用するかどうかを設定します。

イメージログ作成対象

ジョブの種類（コピー、プリンター、スキャナー、ファクス）ごとに、イメージログを作成するかどうかを設定します。

イメージログ作成

ログとして管理する画像データについて設定します。画像データは、ジョブひとつに対して、1 ファイル（PDF 形式）作成されます。

■作成保証レベル

ログとして管理する画像データを確実に作成するかどうかの保証レベルを、［低］、［高］から選択します。

補足
- ［低］に設定した場合、状況によっては、画像データが作成されないことがあります。

■解像度

ログとして管理する画像データの解像度を、[25dpi]、[50dpi]、[72dpi]、[100dpi]、[200dpi] から選択します。

■作成範囲

ログとして管理する画像データを作成する範囲を、[1 ページ目のみ]、[1 ～ 2 ページ]、[1 ～ 3 ページ]、[1 ～ 4 ページ]、[1 ～ 5 ページ]、[全ページ] から選択します。

イメージログ転送

本機で作成したイメージログは、ログ管理サーバーに転送して、保存 / 管理できます。

イメージログの転送方法について設定します。

■転送機能

転送機能を使用して、イメージログをログ管理サーバーに転送するかどうかを設定します。[使用しない]、[使用する] から選択します。

■転送保証レベル

作成したイメージログが、ログ管理サーバーに確実に転送されるかどうかを保証するレベルを、[高]、[低] から選択します。[高] に設定すると、イメージログが転送できなかった場合、本体に 200 件まで未送信ログとして保存され、200 件を超えると次のジョブは実行できなくなります。[低] に設定すると、次のジョブは実行され、200 件を超えた古いジョブから削除されます。

■転送動作

本機からログ管理サーバーに、イメージログを自動転送するかどうかを設定します。

[一時停止]、[ジョブ単位で転送]、[まとめて転送] から選択します。

[まとめて転送] を選択すると、[転送タイミング] で転送するタイミングを選択できます。

■転送タイミング

[転送動作] で [まとめて転送] を選択すると表示されます。

本機からログ管理サーバーに、イメージログを転送するタイミングを指定します。

[時刻指定転送]、[ジョブ終了時]、[最終操作後]、[電源投入時]、[一定数保存された時] から選択します。

ジョブ終了時のメール通知設定

本機で実行されたジョブの結果をメールで通知させて、確認できます。

通知対象ジョブ

ジョブの実行結果を通知するサービスを選択します。通知対象ジョブが 1 つ以上設定されている場合は、[設定あり] が表示されます。

通知対象ジョブは、[コピー]、[ファクス]、[スキャナー]、「プリンター]、[レポート] から複数選択できます。

また、ジョブ終了時のメール通知を [終了時は常に通知する]、[異常終了時のみ通知する] から選択します。

［ファクス］を通知対象ジョブとして選択した場合、［ファクス送信原稿の送付］を設定できます。ここで選択されたページ数に応じて、PDF 化されたファクス送信原稿が通知メールに添付されます。［添付しない］、［先頭 1 ページのみ］、［先頭 2 ページ］、または［全ページ］が選択できます。

メールアドレス 1 ～ 5

ジョブ終了時のメールの通知先を設定します。

補足

- メールの通知先がすべて［(未設定)］のままで［決定］を押すと、［通知対象ジョブ］および［メール本文］の設定が削除されます。

メール本文

メールに付加されるコメントを入力できます。

プラグイン設定

本機に弊社関連商品（カードリーダー）以外の機器を取り付けて使用する場合に、利用できるプラグインの一覧を表示したり、切り替えの設定をしたりできます。

補足

- この項目は、カスタマイズ拡張機能をご利用されている場合に表示されます。

組み込みプラグイン機能

組み込まれているプラグイン機能を使用するかどうかを設定します。［有効］、［無効］から選択します。

組み込みプラグイン一覧

本機に組み込まれているプラグインの名称、および状態を一覧表示します。

その他の設定

本機の、そのほかの設定をします。

オフセット排出（センタートレイ）

用紙を排出するときに、位置をずらして用紙を排出することを、「オフセット」といいます。直前の用紙の排出位置が手前ならば、次は奥にずらして排出します。センタートレイのオフセット機能の動作を設定します。

［しない］、［セット単位］、［ジョブ単位］から選択します。［セット単位］を選択すると部数単位で、［ジョブ単位］を選択するとジョブ（プリント指示）単位で、位置をずらして用紙を排出します。

オフセット排出（フィニッシャートレイ）

用紙を排出するときに、位置をずらして用紙を排出することを、「オフセット」といいます。直前の用紙の排出位置が手前ならば、次は奥にずらして排出します。フィニッシャートレイのオフセット機能の動作を設定します。

［しない］、［セット単位］、［ジョブ単位］から選択します。［セット単位］を選択すると部数単位で、［ジョブ単位］を選択するとジョブ（プリント指示）単位で、位置をずらして用紙を排出します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

折り目あり分割製本のオフセット

［オフセット排出 （フィニッシャートレイ）］ で ［セット単位］ を選択するとオフセットで排出します。 ただし、 製本の設定で ［折り / ホチキス］ を選択した場合は、 オフセットしません。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

プリントジョブの追い越し

本機が何らかの原因で実行開始できない（コピーやプリントを開始しようとしたときに、用紙トレイの用紙がなくなったなど）場合、ほかに実行開始できるジョブがあるときに、ジョブの追い越しを許可するかどうかを設定します。

［禁止］、［許可］のどちらかを選択します。［許可］を選択すると、追い越されたジョブを自動解除するかどうかを選択できます。［する］を選択すると、自動解除までの時間を 1 分～ 120 時間の範囲で指定できます。

補足

- セキュリティープリントやサンプルプリントなどの蓄積文書は、追い越し許可の対象外です。
- ［許可］に設定しているときに、用紙切れなどで実行されずに追い越されたジョブが発生すると、実行できなかった原因を示す詳細画面が表示されます。指示に従って用紙などを補給するとジョブが実行されます。また、〈クリア〉ボタンを押して、ジョブを中止することもできます。複数の追い越されたジョブが発生すると、追い越されたジョブの一覧画面が表示されます。その場合もジョブを選択して、詳細画面を表示させたり、ジョブを中止できます。
- プリントを禁止する時間帯を設定している場合、禁止時間帯に受信したジョブは、［追い越されたジョブの自動解除］を［する］に設定していても自動解除されません。

参照

- プリント禁止の設定については、「プリント禁止の設定」(P.165) を参照してください。

プリント用紙サイズ初期値

レポート / リストをプリントをするときに使う用紙サイズを設定します。

［A4］、［8.5×11"］から選択できます。

奇数ページ文書の両面処理

奇数ページの文書を両面印刷する場合に、片面にのみ印刷される用紙に対して、両面印刷をするかどうかを選択できます。

サイズ検知切り替え

定形サイズの原稿、および用紙を自動的に検知するときの、用紙サイズを設定します。

[AB 系（8×13"）]、[AB 系]、[AB 系（八開 / 十六開）]、[AB 系（8×13"/ 8×14"）]、[インチ系] の 5 種類から選択できます。

自動検知できるサイズの組み合わせについては、次の表を参考にしてください。

用紙サイズグループ	AB 系（8×13"）							AB 系							AB 系（八開 / 十六開）						
セットする場所 / サイズ / 向き	原稿ガラス	原稿送り装置（250枚）	原稿送り装置（150枚）	トレイ 1 ～ 2	トレイ 3 ～ 4	トレイ 5（手差し）	トレイ 6 ～ 7	原稿ガラス	原稿送り装置（250枚）	原稿送り装置（150枚）	トレイ 1 ～ 2	トレイ 3 ～ 4	トレイ 5（手差し）	トレイ 6 ～ 7	原稿ガラス	原稿送り装置（250枚）	原稿送り装置（150枚）	トレイ 1 ～ 2	トレイ 3 ～ 4	トレイ 5（手差し）	トレイ 6 ～ 7
A6⏍	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
A5⏍	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
A5⏍	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
A4⏍	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
A4⏍	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
A3⏍	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
B6⏍	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
B6⏍	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
B5⏍	×	×	×	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
B5⏍	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
B4⏍	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
5.5×8.5"⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5.5×8.5"⏍	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
7.25×10.5"⏍	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
8×10"⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
8×10"⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
8.5×11"⏍	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
8.5×11"⏍	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	○
8.5×13"⏍	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
8.5×14"⏍	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
11×17"⏍	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×
十六開⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
十六開⏍	×	×	×	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×
八開⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×
郵便はがき⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
定形長 3 号封筒⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
角形 6 号封筒⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
角形 20 封筒⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
写真 2L⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
写真 2L⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4×6"⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4×6"⏍	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

用紙サイズグループ	AB 系（8×13"/ 8×14"）							インチ系						
セットする場所 / サイズ / 向き	原稿ガラス	原稿送り装置（２５０枚用）	原稿送り装置（１５０枚用）	トレイ１～２	トレイ３～４	トレイ５（手差し）	トレイ６～７	原稿ガラス	原稿送り装置（２５０枚用）	原稿送り装置（１５０枚用）	トレイ１～２	トレイ３～４	トレイ５（手差し）	トレイ６～７
A6⬭	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
A5⬭	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
A5⬯	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
A4⬭	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
A4⬯	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○
A3⬭	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	×	×
B6⬭	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
B6⬯	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
B5⬭	○	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	×	○	×
B5⬯	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×	×	×	×
B4⬭	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	×	×	×
5.5×8.5"⬭	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	○	×
5.5×8.5"⬯	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
7.25×10.5"⬯	×	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×
8×10"⬭	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
8×10"⬯	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
8.5×11"⬭	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	○	×
8.5×11"⬯	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○
8.5×13"⬭	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×
8.5×14"⬭	×	×	×	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×
11×17"⬭	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	○	×
十六開⬭	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
十六開⬯	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
八開⬭	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
郵便はがき⬭	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
定形長 3 号封筒⬭	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
角形 6 号封筒⬭	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
角形 20 号封筒⬭	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
写真 2L⬭	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
写真 2L⬯	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4×6"⬭	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
4×6"⬯	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

○：検知できる　×：検知できない

ミリ / インチ切り替え

画面に表示される単位を［ミリ］または［インチ］に切り替えます。

データの暗号化

本機のハードディスクに記録されるデータを暗号化するかどうかを設定します。

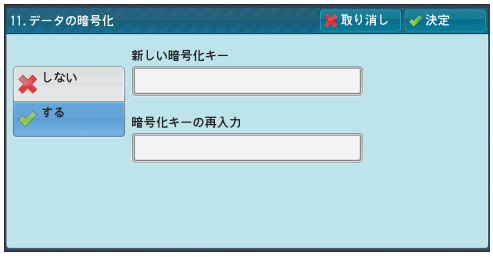
データの暗号化を設定すると、コピー、スキャン、プリントの処理で、ハードディスクにデータを書き込むときに自動的に暗号化されます。機能ごとに暗号化をするかしないかを設定することはできません。暗号化することにより、保存データへの不正なアクセスなどを防ぎます。設定する場合は、暗号化キーの設定をします。

補足

- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［データの暗号化］を選択して［確認 / 変更］を押します。

2 ［する］を押します。



3 ［新しい暗号化キー］を選択して、半角 1 ～ 12 文字までの暗号化キーを入力し、［決定］を押します。

4 ［暗号化キーの再入力］を選択して、同じ暗号化キーを入力し、［決定］を押します。

5 ［決定］を押して確認画面が表示されたら、［はい（変更する）］を押します。

暗号化されたデータは、次の場合は復旧できません。

- ハードディスクに障害が発生したとき
- 暗号化キーを忘れたとき
- ［カストマーエンジニアの操作制限］を［する］に設定して、機械管理者の User ID、およびパスワードを忘れたとき

データ暗号化機能の利用開始と設定変更について

データの暗号化の設定 / 解除、および暗号化キーを変更した場合、本機を再起動する必要があります。対応する記憶領域（ハードディスク）は、再起動時に初期化されます。このとき、切り替え前のデータは保証されません。

記憶領域には、次のようなデータが保存されます。

- スプールされるプリントデータ
- セキュリティープリント、サンプルプリントなどのプリントデータ
- フォームオーバーレイ機能のフォーム
- 親展ボックスやジョブフローの設定（ボックス名、暗証番号など）
- 親展ボックス内の文書
- 宛先表のデータ

注記

- データの暗号化機能の利用開始と設定変更は、必ず、必要な設定や文書を保存してから行ってください。
- 現在接続されているハードディスクが、暗号化の設定と一致しない場合は、エラーとなります。エラーメッセージと処置は、「その他のエラーについて」(P.669) を参照してください。
- ［ハードディスクの上書き消去設定］の［上書き回数の設定］を［1 回］または［3 回］に設定し、親展ボックスに大量のデータ（100 ジョブ以上）が残っている状態で、暗号化の設定を変更する場合は、次の手順で行うことをお勧めします。
  1. ［仕様設定 / 登録］>［登録 / 変更］>［ボックス登録］で、［ボックス登録］画面を表示します。
  2. 親展ボックスを選択して［登録 / 変更］>［ボックス削除］ですべての親展ボックスを削除します。
  3. ［閉じる］を押します。
  4. 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押し、［HDD の上書き消去］が「待機中」に表示されたことを確認します。
  5. 機械管理者モードに入り、データの暗号化の設定を変更します。機械管理者モードへの入りかたは、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。
- カストマーエンジニアでも暗号化キーの参照や復元はできません。
- カストマーエンジニアが電子基板を交換すると、暗号化キーは初期化されます。暗号化キーの内容を忘れないようにしてください。

秘密情報の暗号化キー

機械管理者のパスワードや親展ボックスのパスワードなどの秘密情報を暗号化するための暗号化キーを設定します。秘密情報を暗号化することで、ネットワーク上の盗聴や秘密情報の所有者以外からの参照を抑止します。

暗号化キーは、半角英数字 4 ～ 12 文字の範囲で指定します。

注記

- 暗号化キーを変更すると、バックアップした秘密情報を復元できなくなる可能性があります。

補足

- 暗号化キーは、工場出荷時には機械管理者のパスワードの初期値に設定されています。

1 ［秘密情報の暗号化キー］を選択して［確認 / 変更］を押します。

2 ［新しい暗号化キー］を選択して、暗号化キーを入力し、［決定］を押します。

3 ［暗号化キーの再入力］を選択して、同じ暗号化キーを入力し、［決定］を押します。

4 ［決定］を押して確認画面が表示されたら、［はい（変更 / 削除)］を押します。

カストマーエンジニアの操作制限

カストマーエンジニアのなりすましによって、本機のセキュリティーの設定が変更されないように、カストマーエンジニアの操作を制限するかどうかを設定します。

■しない

カストマーエンジニアの操作を制限しません。

■する

カストマーエンジニアは、次の項目が変更できなくなります。

- 「データの一括削除」(P.181)
- 「ペーパーセキュリティー」(P.185)
- 「イメージログ管理（ApeosPort シリーズのみ)」(P.190)

- 「その他の設定」(P.194)
- 「データの暗号化」(P.198)
- 「秘密情報の暗号化キー」(P.199)
- 「カストマーエンジニアの操作制限」(P.199)
- 「SSL/TLS 設定」(P.241)
- 「S/MIME 設定（ApeosPort シリーズのみ)」(P.242)
- 「IPsec」(P.244)
- 「機械管理者情報の設定」(P.339)
- 「機械管理ユーザーの認証失敗アクセス拒否」(P.347)
- 「ハードディスクの上書き消去設定」(P.352)
- 機械管理の権限を与えられたユーザーの作成 / 変更
- SNMP v 3 の設定変更

カストマーエンジニアが本機の保守作業をするときには、保守パスワードの入力が必要になります。保守パスワードを 4 ～ 12 桁の英数字で設定してください。

注記
- ［する］に設定した場合、次のことにご注意ください。
  - 機械管理者の User ID とパスワードを忘れると、カストマーエンジニアに制限されている項目の変更ができなくなります。
  - 保守パスワードを忘れると、本機でトラブルが発生したときにカストマーエンジニアによる保守作業ができなくなります。

  制限項目の変更や保守作業をするには、電子基板の交換が必要になります。電子基板の交換には、代金ならびに交換手数料が必要になりますので、機械管理者の User ID とパスワード、および保守パスワードは忘れないようにご注意ください。

補足
- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照
- 機械管理の権限は、「管理の権限」(P.464) を参照してください。

ソフトウェアダウンロード

ソフトウエアダウンロードを許可するかどうかを設定します。この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

原稿送りトレイの上昇

原稿送り装置に原稿をセットしたときに、どのタイミングで原稿送りトレイを上昇させるかの設定ができます。［原稿セット時］または［スタート時］から選択できます。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。

原稿ガイド位置の確認

原稿送り装置のガイド位置を 8.5" にセットして読み込みを開始したときに、確認画面を表示させるかの設定ができます。［しない］または［する］を選択できます。

宛先指示方法の制限

ファクス / インターネットファクス、またはスキャナー（メール送信）で、宛先表に登録されていない宛先への送信を制限するかどうかを設定します。

［登録宛先のみ許可］に設定すると、キーボードや数字ボタンからは、宛先を入力できなくなります。送信できるのは、宛先表に登録された宛先に制限されます。

補足

- ユーザーに［宛先指示方法の制限］を解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」(P.465) を参照してください。

宛先表登録 / 変更の制限

一般ユーザーによる宛先表の登録、変更を制限するかどうかを設定します。［する］に設定すると、一般ユーザーは宛先表の登録 / 変更ができなくなります。

補足

- ユーザーに［宛先表登録 / 変更の制限］を解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」(P.465) を参照してください。

短縮番号入力の自動確定

短縮番号入力時に、番号を自動確定するかどうかを設定します。［一定時間経過後に確定する］を選択すると、自動確定までの時間を［短め］、［標準］、［長め］から選択できます。

補足

- ファクス機能を利用するにはオプションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

データランプの点灯パターン

〈データ〉ランプの点灯パターンを設定します。

■パターン 1

本機のハードディスクに文書が保存されているときに点灯します。

■パターン 2

ファクス受信文書のプリント待ち、またはファクス親展受信文書が親展ボックス内に蓄積されているときに点灯します。

■パターン 3

プリントジョブの終了時に 30 秒間点灯します。

ジョブ一時停止後の処理

起動したジョブの操作を途中で止め、［自動リセット］で指定した時間が経過するまで放置した場合に、そのジョブを自動的に継続するか、自動的に中止するか、ユーザーが操作を再開するまで一時停止したままにするかどうかを設定します。

参照

- 自動リセットについては、「自動リセット」(P.165) を参照してください。

■自動的に再開する

ジョブが放置されたまま、［自動リセット］で設定した時間が経過すると、そのジョブは自動的に継続されます。

■自動的に中止する

ジョブが放置されたまま、［自動リセット］で設定した時間が経過すると、そのジョブは自動的に中止されます。

■ユーザー操作で再開 / 中止する

ジョブが放置されたまま、［自動リセット］で設定した時間が経過しても、そのジョブはユーザーが操作を再開するまで一時停止したままになります。

コピー設定

［コピー設定］では、コピー機能に関する仕様を設定します。
各項目の詳細と参照先は、次のとおりです。

基本コピー画面の表示機能.....203
プリセットボタンの設定.....204
コピー機能設定初期値.....204
コピー動作制御.....209
原稿サイズボタン.....211
固定倍率ボタン.....212
アノテーションスタンプ登録.....212

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［コピー設定］を押します。

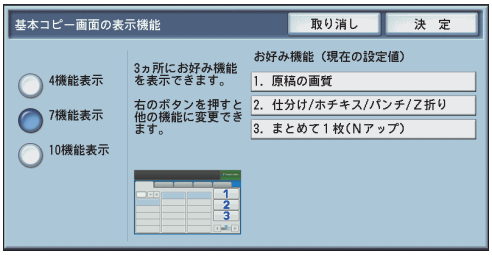
参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

基本コピー画面の表示機能

［コピー］画面に表示する機能をカスタマイズできます。よく使う機能を設定しておくと、そのほかのタブを押す操作などが省けます。

1 表示する機能の数を選択します。



■4 機能表示

［倍率選択］、［用紙選択］、［両面 / 片面選択］、［仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り］の 4 機能が表示されます。表示する機能と配置は変更できません。

■7 機能表示

［コピー］画面の左から 4 列めの機能を設定できます。

補足
- ［倍率選択］、［用紙選択］は、設定できません。

■10 機能表示

［コピー］画面の左から 3 列めと 4 列めの機能を設定できます。

補足
- ［倍率選択］、［用紙選択］は、設定できません。

2 右側に表示されているボタンから、設定したい位置を選択します。

補足
- 画面の右側の各ボタンの位置は、［コピー］画面のボタンの位置を表しています。

3 表示する機能を選択し、［閉じる］を押します。

補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

4 必要に応じて、手順 2、3 を繰り返します。

5 ［決定］を押します。

プリセットボタンの設定

用紙トレイボタン - 2 ～ 5 段目

［コピー］画面の［用紙選択］の 2 ～ 5 段めに表示される用紙トレイを設定します。

倍率ボタン - 3、4 段目

［コピー］画面の［倍率選択］の 3、4 段めに表示される倍率を設定します。

倍率は固定倍率ボタンに登録した中から選択します。

おもて表紙トレイ - 1 ～ 3 段目

［出力形式］画面の［表紙付け］で、おもて表紙にコピーするとき、［トレイ設定］の選択時に表示されるトレイの初期値を設定します。

うら表紙トレイ - 1 ～ 3 段目

［出力形式］画面の［表紙付け］で、うら表紙にコピーするとき、［トレイ設定］の選択時に表示されるトレイの初期値を設定します。

OHP トレイ - 1 ～ 3 段目

［出力形式］画面の［OHP 合紙］に表示される OHP トレイの初期値を設定します。

合紙 / 配布用トレイ - 1 ～ 3 段目

［出力形式］画面の［OHP 合紙］に表示される合紙 / 配布用トレイの初期値を設定します。

コピー機能設定初期値

コピー機能の初期値を設定します。電源を入れたときや節電状態から復帰したとき、また〈リセット〉ボタンを押したときに、ここで設定されている初期値の状態に戻ります。よく使う機能や値を初期値に設定しておくと、操作のたびに設定する操作が省けます。

参照
- 設定項目の説明は、『ユーザーズガイド』の「3 コピー」を参照してください。

用紙選択

［コピー］画面にある、［用紙選択］の初期値を設定します。

［倍率選択］の初期値を［自動 %］に設定している場合、［用紙選択］では［自動］を設定できません。

倍率選択

［コピー］画面にある、［倍率選択］の初期値を設定します。

倍率は、固定倍率ボタンに登録したボタンと、［100%］、［自動 %］の定形倍率から設定します。

［用紙選択］の初期値を［自動］に設定している場合、［倍率選択］では［自動 %］を設定できません。

参照

- 固定倍率ボタンの設定方法は、「固定倍率ボタン」(P.212) を参照してください。

原稿の画質

［画質調整］画面にある、［原稿の画質］の初期値を設定します。

コピー濃度

［画質調整］画面にある、［コピー濃度 / シャープネス］の［コピー濃度］の初期値を設定します。

シャープネス

［画質調整］画面にある、［コピー濃度 / シャープネス］の［シャープネス］の初期値を設定します。

地色除去

原稿の背景にある色を除去してコピーするときに設定します。

［画質調整］画面にある、［地色除去］の［地色除去］の初期

値を設定します。

［地色除去］は、［原稿の画質］で、［文字 / 写真］、［文字］、［鉛筆原稿］、［うす紙原稿］が選択されているときに有効です。

両面 / 片面選択

［コピー］、［読み取り方法］および［出力形式］画面にある、［両面 / 片面選択］の初期値を設定します。

ミックスサイズ原稿送り

［読み取り方法］画面にある、［ミックスサイズ原稿送り］の初期値を設定します。

わく消し量 - 上

原稿カバーを開けたままコピーしたときや、冊子原稿をコピーしたときに、原稿の上部に黒い影ができることがあります。

その上部の影を消してコピーできます。(わく消し)

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の上方向の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足

- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」(P.760) を参照してください。

わく消し量 - 下

原稿カバーを開けたままコピーしたときや、冊子原稿をコピーしたときに、原稿の下部に黒い影ができることがあります。

その下部の影を消してコピーできます。(わく消し)

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の下方向の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足

- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」(P.760) を参照してください。

わく消し量 - 左

原稿カバーを開けたままコピーしたときや、冊子原稿をコピーしたときに、原稿の左側に黒い影ができることがあります。

その左側の影を消してコピーできます。(わく消し)

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の左方向の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足

- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」(P.760) を参照してください。

わく消し量 - 右

原稿カバーを開けたままコピーしたときや、冊子原稿をコピーしたときに、原稿の右側に黒い影ができることがあります。

その右側の影を消してコピーできます。(わく消し)

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の右方向の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足

- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」(P.760) を参照してください。

わく消し量 - 中

原稿カバーを開けたままコピーしたときや、冊子原稿をコピーしたときに、原稿の中央部に黒い影ができることがあります。

その中央部の影を消してコピーできます。(わく消し)

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、原稿わく消し量の［中消し］の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

補足

- わく消し量を［0］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域は、「プリント可能領域」(P.760) を参照してください。

わく消し - 原稿うら面

わく消し量を設定して両面原稿をコピーするときに、わく消し量をおもて面と同じにするか、またはおもて面と対称にするかを設定します。

コピー位置 - おもて面

［読み取り方法］画面にある、［コピー位置 / とじしろ］の［おもて面］の初期値を設定します。

コピー位置 - うら面

［読み取り方法］画面にある、［コピー位置 / とじしろ］の［うら面］の初期値を設定します。

自動画像回転

［読み取り方法］画面にある、［自動画像回転］の初期値を設定します。

自動画像回転 - 回転方向

［読み取り方法］画面の［自動画像回転］にある、［自動画像回転 - 回転方向］の初期値を設定します。

原稿セット向き指定

［読み取り方法］画面にある、［原稿セット向き指定］の初期値を設定します。

まとめて 1 枚（N アップ）

［コピー］画面と［出力形式］画面にある、［まとめて 1 枚（N アップ)］の初期値を設定します。

仕分け

複数枚の原稿をコピーしたとき、用紙をどのような方法で仕分けして排出するかを設定します。用紙の仕分け方法は［自動仕分け］、［ソート（1 部ごと)］、［スタック (ページごと)］、［スタック + 仕切り合紙］から選択します。

［コピー］画面と［出力形式］画面にある、［仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り］の初期値を設定します。

仕分け - 仕切り合紙用トレイ

［コピー］画面と［出力形式］画面にある、［仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り］を押すと表示される、［スタック + 仕切り合紙］の［仕切り合紙トレイ］の初期値を設定します。

排出先

［コピー］画面と［出力形式］画面にある、［仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り］を押すと表示される、［排出先］の初期値を設定します。

補足

- 設定された排出先から排出できないときは、排出先が自動的に変更される場合があります。

排出先（らくらくコピー）

［らくらくコピー］画面からコピーするときの排出先を設定します。

補足

- 設定された排出先から排出できないときは、排出先が自動的に変更される場合があります。
- ［らくらくコピー］画面で、排出先の設定を確認したいときは、操作パネルの〈設定確認〉ボタンを押して表示される、［設定確認］画面で確認できます。〈設定確認〉ボタンについては、『ユーザーズガイド』の「2 機械の構成」>「操作パネル」を参照してください。

排出面

［出力形式］画面にある、［排出面指定］の初期値を設定します。

サンプルコピー

［ジョブ編集］画面にある、［サンプルコピー］の初期値を設定します。

アノテーション - スタンプ - 種類

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［スタンプ］を［付ける］に設定すると表示される、［種類］の初期値を設定します。

スタンプの種類は、あらかじめ登録されている 8 種類とユーザー登録された文字列から選択できます。

参照

- ユーザー登録の方法は、「アノテーションスタンプ登録」(P.212) を参照してください。

アノテーション - スタンプ - 位置（表）、アノテーション - スタンプ - 位置（裏）

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［スタンプ］を［付ける］に設定すると表示される、［位置］の初期値を設定します。

アノテーション - スタンプ - 大きさ

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［スタンプ］を［付ける］に設定すると表示される、［大きさ］の初期値を設定します。

アノテーション - 日付 - 位置（表）、アノテーション - 日付 - 位置（裏）

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［日付］を［付ける］に設定すると表示される、［位置］の初期値を設定します。

アノテーション - 日付 - 大きさ

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［日付］を［付ける］に設定すると表示される、［大きさ］の初期値を設定します。

アノテーション - ページ - 種類

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［ページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［種類］の初期値を設定します。

アノテーション - ページ - 位置（表）、アノテーション - ページ - 位置（裏）

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［ページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［位置］の初期値を設定します。

アノテーション - ページ - 大きさ

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［ページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［大きさ］の初期値を設定します。

- 文字付ページ - ページ桁数

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［文字付きページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［ページ桁数］の初期値を設定します。

- 文字付ページ - 位置（表）、- 文字付ページ - 位置（裏）

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［文字付きページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［位置］の初期値を設定します。

- 文字付ページ - 大きさ

［出力形式］画面にある、［アノテーション］の［文字付きページ番号］を［付ける］に設定すると表示される、［大きさ］の初期値を設定します。

インデックス紙コピー - イメージシフト量

［出力形式］画面にある、［インデックス紙コピー］の［イメージシフト量］の初期値を設定します。

製本 - 表紙トレイ

［出力形式］画面にある、［製本］で表紙を使用する設定のときに表示される、［トレイ設定］の初期値を設定します。

表紙付け - おもて表紙トレイ、表紙付け - うら表紙トレイ

［出力形式］画面にある、［表紙付け］で表紙を使用する設定のときに表示される、［トレイ設定］の初期値を設定します。

合紙挿入 - 合紙用トレイ

［ジョブ編集］画面にある、［ビルドジョブ］を［する］に設定すると表示される、［合紙挿入］で［合紙に使用するトレイ］の初期値を設定します。

コピー動作制御

コピー動作の制御に関連する設定をします。

メモリーオーバーフローの処理

原稿の読み込み中に、ハードディスクの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするか確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したあとの処理方法を設定します。

参照

- メモリーオーバーフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「ジョブ自動解除」（P.165）を参照してください。

■ジョブ中止

蓄積されたデータは破棄されます。

■読み込み原稿でジョブ実行

途中まで蓄積されたデータを有効にしてコピーします。

最大蓄積ページ数

コピーの原稿最大蓄積ページ数を指定します。1 ～ 999 ページまで指定できます。

自動解除時のトレイ

［コピー］画面にある、［用紙選択］の［自動］が解除されたときに選択されるトレイを設定します。倍率に［自動%］を選択したり、［たてよこ独立変倍］の［自動］、［自動（ちょっと小さめ）］を選択すると［用紙選択］の［自動］が解除されます。

異サイズ原稿の裏面コピー

両面コピーでおもて面とうら面の原稿サイズが異なる場合に、自動用紙選択でおもて面とうら面で異なるサイズの用紙が選択されたときのうら面をコピーする用紙を設定します。

注記
- おもて面とうら面の原稿サイズが異なる場合に、おもて面と同じ用紙にうら面をコピーすると、像欠けが発生することがあります。

■しない（新しい用紙にコピー）

自動的に選択された新しい用紙のおもて面にコピーします。

■する

用紙サイズを変更しないで、そのままおもて面と同じ用紙のうら面にコピーします。

等倍微調整

等倍（100%）でコピーするときの倍率を微調整できます。設定値は、［コピー］画面の倍率［100%］に反映されます。

X/Y 方向を 98 ～ 102% の範囲で 0.1% 単位で指定します。

注記
- この機能は、原稿ガラスでコピーする場合だけ適用されます。また［たてよこ独立変倍］、［寸法指定変倍］で設定した等倍（100%）には反映されません。

補足
- 値を指定しても、倍率は［100%］で表示されます。

ID カードコピー選択時の倍率

ID カードコピーをするときの倍率を設定します。［変更する］を選択すると、25 ～ 400%の範囲で 1%単位で指定できます。

補足
- 縮小率によっては、原稿のセット向きと異なる向きにコピーされる場合があります。

写真画質の擬似階調方式

写真原稿の階調表現方式が設定できます。写真の画質に近づけるために、中間の明るさ（グレー）部分の処理方式を切り替えます。［誤差拡散］または［ディザ］から選択できます。

原稿の画質 - うす紙原稿

［画質調整］画面にある、［原稿の画質］で［文字］を選択したときに、［うす紙原稿］を表示するかどうかを設定します。

排出面 - 逆順排出の表示

［出力形式］画面の［排出面指定］に、［おもて向き（逆順)］を表示するかどうかを設定します。

排出面 - 自動（1 枚）の設定

［出力形式］画面の［排出面指定］で［自動］を選択している場合に、排出される用紙が 1 枚のときの動作を設定します。

アノテーション - スタンプの透過度

アノテーションで印字されるスタンプの透過度を設定します。

［0%（ベタ)］、［25%］、［50%］の 3 種類の透過度から選択できます。0% は透過しない状態です。

補足
- ［0%（ベタ)］は、文字の上に重なると文字を確認できなくなる場合があります。

スタンプ位置微調整 - 左上、中央上、右上、左中央、中央、右中央、左下、中央下、右下

アノテーションのスタンプをプリントする位置を調整できます。

日付位置微調整 - 左上、中央上、右上、左下、中央下、右下

アノテーションの日付をプリントする位置を調整できます。

ページ位置微調整 - 左上、中央上、右上、左下、中央下、右下

アノテーションのページ番号をプリントする位置を調整できます。

文字付ページ位置調整 - 左上、中上、右上、左下、中下、右下

アノテーションの文字付きページ番号をプリントする位置を調整できます。

カウンタ表示切り替え

コピー機能で表示されるカウンターの表示方法を設定します。

［セット部数]、［セット部数 + メモリー残量]、［セット部数 + 原稿カウント］から選択します。

コピー部数の制限

コピー部数の上限を 1 ～ 9999 の範囲で設定します。ここで設定した数を超える部数は、指定できなくなります。

原稿サイズボタン

［読み取り方法］画面の［原稿サイズ入力］に表示する原稿サイズを設定します。

［自動検知］以外のボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁にコピーするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、コピーのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

■A 系 B 系表示

A 系、B 系のサイズから選択できます。

■インチサイズ表示

インチ系のサイズから選択できます。

■その他

そのほかのサイズから選択できます。

■サイズ入力

任意のサイズを入力できます。X（よこ）方向が 15 ～ 432mm、Y（たて）方向が 15 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

固定倍率ボタン

［コピー］画面の［倍率選択］で、［定形変倍 / ズーム］の［プリセット%］に表示する倍率を設定します。

［100%］と［自動%］以外のボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

アノテーションスタンプ登録

［アノテーション - スタンプ］で印字される文字列を登録します。全角 32 文字（半角 64 文字）まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.48）を参照してください。

ネットワーク設定

［ネットワーク設定］では、ネットワークに関する仕様を設定します。

参照
- ネットワーク設定については、「プリント機能の設定」（P.363）、「メール機能の設定」（P.377）を参照してください。
- CentreWare Internet Services を使うと、さらに詳細な設定ができます。詳しくは、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。

各設定の詳細と参照先は、次のとおりです。

ポート設定 213
プロトコル設定 220
本体メールアドレス / ホスト名 226
プロキシサーバー設定 226
EP プロキシサーバー設定 228
次世代ネットワーク（NGN）設定 229
SIP 設定 229
T.38 設定 233
メール送受信設定 234
外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定 235
セキュリティ設定 241
その他の設定 246

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［ネットワーク設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.142）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ポート設定

クライアントに接続されている本機のインターフェイスの設定をします。［ポート設定］では、次の項目を設定できます。

注記
- LPD、Port9100、HTTP - SSL/TLS 通信、SIP は、ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。
  HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、LPD、Port9100、HTTP - SSL/TLS 通信のポート番号と同じ番号を使用しないでください。
  また上記いずれも、次のポート番号を設定した場合、ポートの設定状況によっては正常に動作しなくなることがあります。
  25、139、427、445、631、15000
- Ethernet インターフェース回線が 2 回線のとき、セカンダリーネットワーク（オプション）は LPD、Port9100、SNMP、インターネットサービス（HTTP）のみ通信できます。それ以外のポートは通信できません。
- セカンダリーイーサネット（オプション）は IPP と Google クラウドプリントポートに対応していません。このため Ethernet2 で AirPrint と Google クラウドプリントのジョブをプリントできません。

参照

- HTTP - SSL/TLS 通信ポートについては、「HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号」(P.241) を参照してください。
- Google クラウドプリントポートの設定は、CentreWare Internet Services で行います。設定については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

USB

■USB - ポート

USB を使用するときは［起動］に設定します。

■USB - プリントモード指定

使用するプリント言語の種類を選択します。［自動］を選択すると、ホスト装置から受信したデータが、どの言語で記述されているかを自動的に判断し、データに合わせて適切なプリント処理を行います。

■USB - JCL

JCL（Job Control Language）コマンドとは、実際のプリントジョブの先頭に付加されたデータです。通常は、［有効］のままで使用します。

■USB - 自動排出時間

本機にデータが送られなくなってから、用紙を自動的に排出するまでの時間を 5 ～ 1275 秒の範囲で 5 秒単位で設定します。

■USB - Adobe 通信プロトコル

- 標準

  プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式のときに設定します。
- バイナリー

  プリンタードライバーの出力プロトコルが BCP 形式のときに設定します。
- TBCP

  プリンタードライバーの出力プロトコルが TBCP 形式のときに設定します。
- RAW

  プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式またはバイナリ形式のときに設定します。

  Adobe 通信プロトコルの制御を受けないで、データをそのまま出力します。

■PS 印刷待ちタイムアウト

本機ではデータを一定時間受信しないと、接続を自動的に切断します。［USB- Adobe 通信プロトコル］で［RAW］を選択して、データを印刷しているときに、接続を切断するまでの時間を［USB- 自動排出時間］に従う場合は［無効］、PostScript のタイムアウトに従う場合は［有効］に設定します。

LPD

■LPD - ポート

LPD を使用するときは［起動］に設定します。

■LPD - ポート番号

LPD のポート番号を 1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、515 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■LPD - セッション数

本機に LPD で同時に接続できるクライアントの最大数を、1 ～ 10 の範囲で 1 単位で設定します。

初期値は、5 です。

SMB クライアント

■SMB クライアント - ポート

スキャナー（PC 保存）で SMB 転送する場合や SMB 認証を行う場合など、SMB を使用するときは［起動］に設定します。

IPP

■IPP - ポート

IPP を使用するときは［起動］に設定します。

IPP（Internet Printing Protocol）を使って、インターネット経由でプリントするときに設定します。

■IPP - 追加ポート番号

標準のポート番号以外で IPP を受け付けない場合は［無効］、受け付ける場合は［有効］に設定します。

追加ポート番号は、1 ～ 65535 の範囲で指定できます。使用しない場合は、0 を設定します。

初期値は、80 です。

注記
- 他のポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

補足
- ［IPP - ポート］が［停止］に設定されているときは、［IPP - 追加ポート番号］は設定できません。［IPP - ポート］を［起動］に設定し、［閉じる］を押し、［はい（再起動する）］を押して本機が再起動したあとに、［IPP - 追加ポート番号］を設定してください。

Bonjour

■Bonjour - ポート

Bonjour を使用するときは［起動］に設定します。

補足
- Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントするためには、LPD ポートを起動しておく必要があります。

Port9100

■Port9100 - ポート

Port9100 を使用するときは［起動］に設定します。

Windows® の標準 TCP/IP ポートモニターで Raw プロトコルを使用する場合に設定します。

■Port9100 - ポート番号

Port9100 のポート番号を 1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、9100 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

SNMP

■SNMP - ポート

本機をネットワーク上で管理する弊社製アプリケーションを使用する場合など、SNMP を使用するときは［起動］に設定します。

SIP

■SIP - ポート

IP ファクス（SIP）を使用するときは［起動］に設定します。

■SIP - ポート番号

IP ファクス（SIP）に使用するポート番号を設定します。

初期値は、5060 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を設定しないでください。

補足
- IP ファクス（SIP）は、お使いの機種によっては利用できません。

FTP クライアント

■FTP クライアント - ポート

スキャナー（PC 保存）で FTP 転送する場合など、FTP を使用するときは［起動］に設定します。

補足
- スキャンした画像を FTP 通信で送信する際の通信モードを、Passive 通信モード、Active 通信モードから選択できます。工場出荷時の初期設定は、Passive モードになっています。設定を変更する場合は、CentreWare Internet Services を使用してください。

メール受信

■メール受信 - ポート

メールやインターネットファクスを受信するときは［起動］に設定します。

メール送信

■メール送信 - ポート

メールやインターネットファクスを送信するときは［起動］に設定します。

メール通知サービス

■メール通知サービス - ポート

メール通知サービスを使用するときは［起動］に設定します。メール通知サービスとは、本機の状態やプリントジョブ、ダイレクトファクスジョブの実行終了をメールで通知する機能です。

補足

- 通知される本機の状態は、［消耗品の状態］、［交換部品の状態］、［用紙の状態］、［排出先の状態］、［ジャム状態］、［インターロック状態］、［フォルトの通知］です。
- メール通知サービスの設定は CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

UPnP ディスカバリー

■UPnP ディスカバリー - ポート

UPnP を使用するときは［起動］に設定します。

■UPnP ディスカバリー - ポート番号

UPnP の通信で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- 他のポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

WSD

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

■WSD プリント - ポート

WSD プリントを使用するときは［起動］に設定します。

Windows OS からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。

■WSD スキャン - ポート

WSD スキャンを使用するときは［起動］に設定します。

Windows OS からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。

■WSD - ポート番号

WSD の通信で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- 他のポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

BMLinkS

■BMLinkS - ポート

BMLinkS を使用するときは［起動］に設定します。

参照

- 機能の概要は、「BMLinkS 機能の概要」（P.408）を参照してください。

■プリントサービス - ポート番号

プリントサービス用のポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- 他のポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

■ディスカバリー - ポート番号

ディスカバリー用のポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- 他のポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

インターネットサービス（HTTP）

■インターネットサービス - ポート

CentreWare Internet Services を使用するときは［起動］に設定します。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。

■インターネットサービス - ポート番号

インターネットサービスで使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- 他のポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

補足

- ［インターネットサービス - ポート］が［停止］に設定されているときは、［インターネットサービス - ポート番号］は設定できません。［インターネットサービス - ポート］を［起動］に設定し、［閉じ

る］を押して［はい（再起動する）］を押してください。本機が再起動したあとに、［インターネットサービス - ポート番号］を設定してください。

SOAP

■SOAP - ポート

Device Setup（デバイス設定ツール）などのアプリケーションを使用する場合など、SOAP ポートを使用するときは［起動］に設定します。

■SOAP - ポート番号

SOAP で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- 他のポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

WebDAV

■WebDAV - ポート

ネットワークスキャナーユーティリティ 3 などのアプリケーションを使用して本機の親展ボックスにアクセスする場合など、WebDAV を使用するときは［起動］に設定します。

補足

- ［WebDAV - ポート］が［停止］に設定されているときは、［WebDAV - ポート番号］、［WebDAV - 操作の時間制限］は設定できません。［WebDAV - ポート］を［起動］に設定し、［閉じる］を押して［はい（再起動する）］を押してください。本機が再起動したあとに、［WebDAV - ポート番号］、［WebDAV - 操作の時間制限］を設定してください。

■WebDAV - ポート番号

WebDAV で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、80 です。

注記

- 他のポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

■WebDAV - 操作の時間制限

タイムアウトの時間を設定します。1 ～ 65535 秒の範囲で 1 秒単位で設定できます。

ThinPrint

■ThinPrint - ポート

本機は、ThinPrint.print 環境での印刷に対応しています。プリントサーバーから圧縮して送られた印刷データを解凍して印刷します。

ThinPrint® を使用するときは［起動］に設定します。

■ThinPrint - ポート番号

ThinPrint で使用するポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、4000 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

補足
- 通信プロトコルが IPv4 で動作しているときに利用できます。
- 同時に接続できる最大接続数は、 3 です。

無線 LAN 設定

無線 LAN 通信を行う際の基本設定をします。設定手順については、無線 LAN コンバーター（オプション）に同梱の『無線 LAN コンバーターセットアップガイド』を参照してください。

プロトコル設定

通信に必要な条件を設定します。

［プロトコル設定］は、通信に必要な設定ごとに以下のカテゴリーで構成されています。

- Ethernet 設定
- TCP/IP- 共通設定
- TCP/IP- ネットワーク設定

注記
- 各カテゴリーを設定するときは、それぞれの項目を選択し、［確認 / 変更］を押して、設定画面を開いてください。

また、［Ping 接続確認］では、設定した条件で正しく通信できるかを確認できます。

Ethernet 設定

Ethernet の設定をします。

■Ethernet1- ネットワークの名称、Ethernet2- ネットワークの名称

Ethernet インターフェースを 2 回線利用する場合に、それぞれの名称を設定します。

補足
- この項目は、セカンダリーイーサネット（オプション）を装着している場合のみ表示されます。

■Ethernet- 速度設定 /Ethernet1- 速度設定、Ethernet2- 速度設定

通信速度を次の項目から設定します。

補足
- 本設定のタイトルはEthernetインターフェースが1回線のとき［Ethernet-速度設定］のみ表示されます。Ethernet インターフェースが 2 回線のとき［Ethernet1- 速度設定］と［Ethernet2- 速度設定］が表示されます。

- 自動

  Ethernet の通信速度が自動的に検知されます。

- 100BASE - TX（全二重）

  100BASE - TX（全二重）に固定して使用する場合に選択します。

- 100BASE - TX（半二重）
  100BASE - TX（半二重）に固定して使用する場合に選択します。
- 10BASE - T（全二重）
  10BASE - T（全二重）に固定して使用する場合に選択します。
- 10BASE - T（半二重）
  10BASE - T（半二重）に固定して使用する場合に選択します。
- 1000BASE - T
  1000BASE - T に固定して使用する場合に選択します。

TCP/IP - 共通設定

TCP/IP プロトコルに共通の設定をします。

■プライマリーネットワーク

Ethernet インターフェースが 2 回線のとき、プライマリーネットワークとして動作するネットワークの名称が表示されます。

補足
- プライマリーネットワークは Ethernet1 固定です。Ethernet2 に設定を変更することはできません。
- この項目は、セカンダリーイーサネット（オプション）を装着している場合のみ表示されます。表示のみで設定はできません。

■IP 動作モード

TCP/IP の動作モードを次の項目から設定します。

- IPv4 モード
  IPv4 で動作する場合に選択します。
- IPv6 モード
  IPv6 で動作する場合に選択します。
- デュアルスタック
  IPv4、IPv6 の混在した環境で使用する場合に選択します。

補足
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［IPv4 モード］または［デュアルスタック］を選択します。

TCP/IP - ネットワーク設定 /TCP/IP 設定（Ethernet1）、TCP/IP 設定（Ethernet2）

共通設定以外の TCP/IP プロトコルの設定をします。

注記

- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］に同じ IP アドレスを設定することはできません。同一 IP アドレスを設定したい場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- ［TCP/IP 設定（Ethernet2）］で使用できるポートは、LPD、Port9100、および SNMP のみです。ネットワークスキャナーユーティリティ 3 など、その他のポートを使用するアプリケーションで［TCP/IP 設定（Ethernet2）］を設定しても動作しないことがあります。

補足

- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］には異なる IP アドレスを設定することを推奨します。
- 本設定のタイトルは Ethernet インターフェースが 1 回線のとき［TCP/IP - ネットワーク設定］のみ表示されます。Ethernet インターフェースが 2 回線のとき［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］が表示されます。
- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］には［TCP/IP - ネットワーク設定］と同じ設定項目が表示されます。Ethernet インターフェースごとに独立した TCP/IP のネットワーク設定ができます。
- ［Ethernet1- ネットワークの名称］と［Ethernet2- ネットワークの名称］で任意の名称を設定した場合、［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］の［Ethernet1］と［Ethernet2］に設定した名称がそれぞれ表示されます。

■IPv4 - IP アドレス取得方法

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの取得方法を指定します。

- DHCP から取得

  DHCP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを自動的に取得します。

- BOOTP から取得

  BOOTP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを自動的に取得します。

- RARP から取得

  RARP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを自動的に取得します。

- DHCP/AutoIP から取得

  DHCP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを自動的に取得します。

  DHCP サーバーとの通信に失敗した場合は、AutoIP 機能が有効となり、IP アドレス（169.254.xxx.xxx）が割り当てられます。この場合も、DHCP サーバーと通信可能となった場合は、DHCP サーバーから取得し直します。

- 手動で設定

  IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを手動で設定します。

補足

- IP アドレスを設定しないと、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスは設定できません。
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［DHCP/AutoIP から取得］または［DHCP から取得］を選択します。

■IPv4 - IP アドレス

［IPv4 - IP アドレス取得方法］で［手動で設定］を選択した場合に、IP アドレスを表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで指定します。

補足

- IP アドレスは、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は、0 ～ 255 までの数値です。
- 数値（0 ～ 9）、またはピリオド（.）による文字列で指定します。［1 文字削除］で間違った入力を 1 文字ずつ削除できます。

■IPv4 - サブネットマスク

［IPv4 - IP アドレス取得方法］で［手動で設定］を選択した場合に、サブネットマスクを表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで指定します。

補足

- IP アドレスは、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は、0 ～ 255 までの数値です。
- 数値（0 ～ 9）、またはピリオド（.）による文字列で指定します。［1 文字削除］で間違った入力を 1 文字ずつ削除できます。

■IPv4 - ゲートウェイアドレス

［IPv4 - IP アドレス取得方法］で［手動で設定］を選択した場合に、ゲートウェイアドレスを表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで指定します。

補足

- IP アドレスは、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は、0 ～ 255 までの数値です。
- 数値（0 ～ 9）、またはピリオド（.）による文字列で指定します。［1 文字削除］で間違った入力を 1 文字ずつ削除できます。

■IPv4 - DNS 設定

DNS サーバーを設定します。

- DHCP からのアドレス取得

  DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するかどうかを設定します。

- DNS サーバーアドレス 1 ～ 3

  ［DHCP からのアドレス取得］を［しない］に設定した場合は、DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバーのアドレスを設定できます。

■IPv4 - 受付 IP アドレス制限

本機への接続を IPv4 アドレスで制限するかどうかを設定します。

補足

- ［IPv4- 受付 IP アドレス制限］は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、スキャン（親展ボックススキャン ）、CentreWare Internet Services、ApeosWare JF Pool Service（ApeosPort シリーズのみ）、外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）などです。
- 接続を受け付ける IPv4 アドレスの登録は、CentreWare Internet Services の［受付 IP アドレス制限］で行います。設定方法は、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。また、使用方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。
- ［受付 IP アドレス制限］を［する］に設定して、本機からスキャン画像を FTP 転送する場合は、FTP の通信モードを必ず［Active モード］に切り替えてください。FTP 通信モードの切り替えは、CentreWare Internet Services で設定できます。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■IPv6 - アドレスの手動設定

IPv6 アドレスを手動で設定するかどうかを選択します。

■IPv6 - 手動設定 IP アドレス

［IPv6 - アドレスの手動設定］で［する］を選択した場合に、本体の IPv6 アドレスを設定します。

補足

- xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。
- 英数字（0 ～ 9、A ～ F）、またはコロン（:）による文字列で指定します。［1 文字削除］で間違った入力を 1 文字ずつ削除できます。

■IPv6 - 手動 IP アドレスプレフィクス

［IPv6 - 手動設定 IP アドレス］を設定した場合に、プレフィクス長を 0 ～ 128 の範囲で設定します。

■IPv6 - 手動設定ゲートウェイ

［IPv6 - 手動設定 IP アドレス］を設定した場合に、ゲートウェイアドレスを設定します。

補足

- xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■IPv6 - DNS 設定

DNS サーバーを設定します。

- DHCP からのアドレス取得

  DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するかどうかを設定します。

- DNS サーバーアドレス 1 ～ 3

  ［DHCP からのアドレス取得］を［しない］に設定した場合は、DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバーのアドレスを設定できます。

■IPv6 - 自動設定アドレス

自動的に設定された IP アドレスを表示します。次が表示されます。

- リンクローカルアドレス
- ステートレス自動設定アドレス 1 とプレフィクス長
- ステートレス自動設定アドレス 2 とプレフィクス長
- ステートレス自動設定アドレス 3 とプレフィクス長
- 自動設定ゲートウェイアドレス

■IPv6 - 受付 IP アドレス制限

本機への接続を IPv6 アドレスで制限するかどうかを設定します。

補足

- ［IPv6- 受付 IP アドレス制限］は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、スキャン（親展ボックススキャン ）、CentreWare Internet Services、ApeosWare JF Pool Service（ApeosPort シリーズのみ）、外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）などです。
- 接続を受け付ける IPv6 アドレスの登録は、CentreWare Internet Services の［受付 IP アドレス制限］で行います。設定方法は、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。また、使用方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。
- ［受付 IP アドレス制限］を［する］に設定して、本機からスキャン画像を FTP 転送する場合は、FTP の通信モードを必ず［Active モード］に切り替えてください。FTP の通信モードは、CentreWare Internet Services で設定できます。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

Ping 接続確認

設定した条件で本機とお使いのコンピューターが正しく通信できるかを確認できます。以下の項目を設定して［実行］ボタンを押すと Ping 接続確認が開始されます。

■インターフェース

プロトコル設定に応じて［Ethernet1］または［Ethernet2］を選択します。

補足

- この項目は、セカンダリーイーサネット（オプション）が装着されている場合のみ表示されます。

■プロトコル

プロトコル設定に応じて［IPv4］または［IPv6］を選択します。

■IP アドレス / ホスト名

お使いのコンピューターの IP アドレスまたはホスト名を入力します。IP アドレスの場合は、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを入力します。ホスト名の場合は、ホスト名を半角 32 文字（全角 16 文字）以内で入力します。

本体メールアドレス / ホスト名

本機のメールアドレス、ホスト名、ドメイン名を設定します。

メールアドレス

本機のメールアドレスを設定します。半角 128 文字以内で入力します。

■SMTP 受信の場合

アカウント（@マークの左側）は、任意の名称を設定できます。アドレス部（@マークの右側）には、ホスト名とドメイン名を組み合わせたものを設定します。エイリアスは設定できません。

たとえば、

- アカウント名：mymail
- ホスト名：myhost
- ドメイン名：example.com

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

■POP3 受信の場合

アカウント（@マークの左側）には POP ユーザー名を、アドレス部（@マークの右側）には受信用 POP3 メールサーバー名を設定します。mymail@example.com のようなエイリアスも設定できます。

たとえば、

- アカウント名：mymail

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

名前

本機の名前を半角 32 文字以内で入力します。

ホスト名

ホスト名を半角 32 文字（全角 16 文字）以内で入力します。

注記
- SMB で通信する場合、先頭から半角 15 文字までをホスト名として使用します。本機を正しく識別するためには、ホスト名を半角 15 文字（全角 7 文字）以内で設定してください。

ドメイン名

ドメイン名を半角 64 文字以内で入力します。

プロキシサーバー設定

プロキシサーバーについて設定します。

外部アクセスを使用するときに設定してください。

注記
- プロキシ設定が必要なサービスを使う場合だけ、設定を変更してください。

プロキシサーバーの使用

プロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。

プロキシサーバー指定方法

プロキシサーバーの指定方法を、［すべてのプロトコルに同じ設定］または［プロトコルごとに設定］から選択できます。

プロキシを使用しないアドレス

プロキシサーバーを使用しないアドレスを設定します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。また、「*」（ワイルドカード）を使った指定もできます。

HTTP プロキシサーバー - サーバー名

HTTP プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

HTTP プロキシサーバー - ポート番号

HTTP プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、8080 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTP プロキシサーバー - 認証

HTTP プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

HTTP プロキシサーバー - ログイン名

HTTP プロキシサーバーのログイン名を、31 文字以内で入力します。

HTTP プロキシサーバー - パスワード

HTTP プロキシサーバーのパスワードを、31 文字以内で入力します。

HTTPS プロキシサーバー - サーバー名

HTTPS プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

HTTPS プロキシサーバー - ポート番号

HTTPS プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、8080 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTPS プロキシサーバー - 認証

HTTPS プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

HTTPS プロキシサーバー - ログイン名

HTTPS プロキシサーバーのログイン名を、31 文字以内で入力します。

HTTPS プロキシサーバー - パスワード

HTTPS プロキシサーバーのパスワードを、31 文字以内で入力します。

EP プロキシサーバー設定

インターネットを使用して EP システムを利用する場合の、EP 通信用のプロキシサーバーについて設定します。

注記
- インターネットを使用する EP システムの場合に、設定を変更してください。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.913) を参照してください。

プロキシサーバー指定方法

プロキシサーバーの指定について設定します。[すべてのプロトコルに同じ設定]、[プロトコルごとに設定] から選択します。[プロトコルごとに設定] を選択すると、HTTPS プロキシサーバーおよび HTTP プロキシサーバーをそれぞれ設定できます。[すべてのプロトコルに同じ設定] を選択すると、HTTPS プロキシサーバーの設定が HTTP プロキシサーバーに反映されます。

HTTPS プロキシサーバー - サーバー名

HTTPS プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを、255 文字まで入力できます。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

HTTPS プロキシサーバー - ポート番号

HTTPS プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、8080 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTPS プロキシサーバー - 認証

HTTPS プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、[有効] に設定します。

HTTPS プロキシサーバー - ログイン名

HTTPS プロキシサーバーのログイン名を、31 文字以内で入力します。

HTTPS プロキシサーバー - パスワード

HTTPS プロキシサーバーのパスワードを、31 文字以内で入力します。

HTTP プロキシサーバー - サーバー名

HTTP プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを、255 文字まで入力できます。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

HTTP プロキシサーバー - ポート番号

HTTP プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、8080 です。

補足
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

HTTP プロキシサーバー - 認証

HTTP プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

HTTP プロキシサーバー - ログイン名

HTTP プロキシサーバーのログイン名を、31 文字以内で入力します。

HTTP プロキシサーバー - パスワード

HTTP プロキシサーバーのパスワードを、31 文字以内で入力します。

次世代ネットワーク（NGN）設定

次世代ネットワーク（NGN）を利用するときに設定します。

次世代ネットワーク（NGN）接続

次世代ネットワーク（NGN）を利用するかどうかを設定します。

補足
- IP ファクス（SIP）が利用可能な状態で、TCP/IP の動作モードが［IPv4 モード］または［デュアルスタック］選択時に利用できます。

発信者 ID 通知

発信者 ID を通知するかどうかを設定します。

補足
- ［する］に設定した場合、発信者 ID は契約者の電話番号が通知されます。

発信者 ID

発信者 ID として登録されている電話番号を確認できます。

IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅

IP ファクスに使用する最大使用帯域幅を、1 ～ 65535kbps の範囲で設定できます。初期値は、1000kbps です。

補足
- 最大使用帯域幅は、NTT のデータ通信向けの料金表を確認して、設定してください。

ファクスによる自動再送信

送信相手に IP ファクス（SIP）機能がなく、G3 ファクスが利用できる場合、自動的に G3 で再送信するかどうかを設定します。

初期値は、［しない］です。

補足
- G3 ファクスに自動再送信する場合は、通常の公衆電話網の料金になります。

SIP 設定

IP ファクス（SIP）を使用するときの SIP 本体アドレス、経由する SIP サーバー、VoIP ゲートウェイを設定します。

SIP 本体アドレス

本機の SIP 本体アドレスを設定します。

入力例：1111 @ 192.0.2.1

@以前（例では、「1111」）を SIP ユーザー名と呼びます。

補足

- SIP サーバーを使用していない場合には、@以後に、本機の IP アドレスを指定してください。
- Cisco® 社製 SIP サーバーを使用する場合、本機に設定する［SIP 本体アドレス］では、@ 以降は SIP サーバーの IPv4 アドレス文字列だけが指定できます。IPv6 アドレス文字列、FQDN 文字列、および SIP ドメイン名文字列を指定した場合は、動作しません。
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合、SIP 本体アドレスは自動で取得され、変更できません。

SIP トランスポートプロトコル設定

SIP トランスポートプロトコルを、［UDP］、［TCP］から選択します。

補足

- Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、［UDP］を設定してください。

SIP サーバーの使用

SIP サーバーを使用するかどうかを設定します。

補足

- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［する］に設定され、変更できません。

SIP サーバーアドレス取得方法

SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IP アドレス取得方法を指定します。

補足

- ［DHCP から取得］、［DHCPv6 から取得］の場合でも、SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーのポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、種別は手動で設定する必要があります。
- ［DHCP から取得］を選択して IP アドレスを自動取得する場合は、本機の TCP/IP 設定で、［IPv4 - IP アドレス取得方法］を［DHCP から設定］または［DHCP/AutoIP から取得］に設定してください。
- IP アドレスを自動取得した場合は、プロキシサーバーとレジストラーサーバーの両方に、自動取得した同じ IP アドレスが設定されます。プロキシサーバーとレジストラーサーバーで異なるアドレスを使用する場合は、手動で設定してください。複数のアドレスを自動取得した場合は、1 番めのアドレスをプライマリーのプロキシ / レジストラーサーバーに、2 番めのアドレスをセカンダリーのプロキシ / レジストラーサーバーにそれぞれ設定します。3 番め以降のアドレスは使用されません。
- IP アドレスを自動取得した場合でも、ポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、サーバー種別は自動取得できません。これらの項目は手動で設定してください。
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［DHCP から取得］を選択してください。

■DHCP から取得

DHCP から SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IP アドレスを自動取得します。

■DHCPv6 から取得

DHCPv6 から SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IPv6 アドレスを自動取得します。

■手動で設定

SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IP アドレスを手動で設定します。

SIP プロキシサーバー設定

SIP プロキシサーバーを設定します。プライマリーサーバーとセカンダリーサーバーが設定できます。

補足

- 利用できる SIP プロキシサーバーは 2 台までです。
- サーバー種別には、［Cisco］を設定してください。

■プライマリーサーバー - アドレス

プライマリーサーバーの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■プライマリーサーバー - ポート番号

プライマリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、5060 です。

■プライマリーサーバー - 認証ユーザー名

プライマリーサーバーの認証用ユーザーを、31 文字以内で入力します。

■プライマリーサーバー - 認証パスワード

プライマリーサーバーの認証用パスワードを、31 文字以内で入力します。

■プライマリーサーバー - 種別

プライマリーサーバーの種別を、［標準］または［Cisco］から選択します。

■セカンダリーサーバー - アドレス

セカンダリーサーバーの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■セカンダリーサーバー - ポート番号

セカンダリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、5060 です。

■セカンダリーサーバー - 認証ユーザー名

セカンダリーサーバーの認証用ユーザーを、31 文字以内で入力します。

■セカンダリーサーバー - 認証パスワード

セカンダリーサーバーの認証用パスワードを、31 文字以内で入力します。

■セカンダリーサーバー - 種別

セカンダリーサーバーの種別を、［標準］または［Cisco］から選択します。

SIP レジストラサーバー設定

SIP レジストラーサーバーを設定します。プライマリーサーバーとセカンダリーサーバーが設定できます。

補足

- 利用できる SIP レジストラーサーバーは 2 台までです。
- サーバー種別には、［Cisco］を設定してください。

■プライマリーサーバー - アドレス

プライマリーサーバーの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■プライマリーサーバー - ポート番号

プライマリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、5060 です。

■プライマリーサーバー - 認証ユーザー名

プライマリーサーバーの認証用ユーザーを、31 文字以内で入力します。

■プライマリーサーバー - 認証パスワード

プライマリーサーバーの認証用パスワードを、31 文字以内で入力します。

■プライマリーサーバー - 種別

プライマリーサーバーの種別を、［標準］または［Cisco］から選択します。

■セカンダリーサーバー - アドレス

セカンダリーサーバーの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■セカンダリーサーバー - ポート番号

セカンダリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、5060 です。

■セカンダリーサーバー - 認証ユーザー名

セカンダリーサーバーの認証用ユーザーを、31 文字以内で入力します。

■セカンダリーサーバー - 認証パスワード

セカンダリーサーバーの認証用パスワードを、31 文字以内で入力します。

■セカンダリーサーバー - 種別

セカンダリーサーバーの種別を、［標準］または［Cisco］から選択します。

VoIP ゲートウェイ登録

VoIP ゲートウェイ 1 ～ 50 を設定します。

相手先の電話番号によって、別々の VoIP ゲートウェイが設定できます。

補足

- 固定の VoIP ゲートウェイを使用したい場合には、VoIP ゲートウェイ 1 に、識別番号を登録しないで、アドレスだけを設定してください。
- IPv6 ネットワークでは、使用できません。

■識別番号

相手先の電話番号を特定する数字を設定します。

たとえば「03」と設定した場合、0312345678、0312345679 など「03」で始まる電話番号には、この VoIP ゲートウェイが使用されます。

補足

- 特定の電話番号を指定する場合には、「0312345678」などの電話番号全体を設定してください。

■アドレス

VoIP ゲートウェイの IP アドレスを、255 文字以内で入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

T.38 設定

IP ファクス（SIP）を使用するときの、T.38 について設定します。通常、この設定を変更する必要はありません。

T.38 トランスポートプロトコル設定

T.38 トランスポートプロトコルを、［TCP］または［UDP］から選択します。

補足
- Cisco 社製の VoIP ゲートウェイを使用する場合、［UDP］を選択してください。

UDPTL 受信ポート番号

UDPTL 受信ポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

TCP 受信ポート番号

TCP 受信ポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

RTP 受信ポート番号

RTP 受信ポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）

IP パケット送信の優先度を、0 ～ 255 の範囲で指定します。

補足
- 設定する値は、ご使用の環境によって変わります。ネットワーク管理者に確認してください。
- ここで設定する値は、あらかじめネットワーク側で設定されているものを指定します。設定されていない値を指定しても優先度は上がりません。（Cisco 社製ルーターの場合、多くが音声トラフィックを 184（ef）に設定されていますので、変更の際はネットワーク管理者に確認してください。）
- 本設定のタイトルは Ethernet インターフェースが 1 回線のとき［IP パケット送信優先度］のみ表示されます。Ethernet インターフェースが 2 回線のとき［IP パケット送信優先度（Ethernet1）］と［IP パケット送信優先度（Ethernet2）］が表示されます。
- ［Ethernet1- ネットワークの名称］と［Ethernet2- ネットワークの名称］で任意の名称を設定した場合、［IP パケット送信優先度（Ethernet1）］と［IP パケット送信優先度（Ethernet2）］の［Ethernet1］と［Ethernet2］に設定した名称がそれぞれ表示されます。

メール送受信設定

メールの送受信について設定します。

POP3 サーバー設定

POP3 サーバーについて設定します。［POP3 サーバー設定］では、次の項目を設定できます。

補足
- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。
- 入力を間違えたときは、〈C（クリア）〉ボタンを押して、再入力してください。

■POP3 サーバー - サーバー名 / アドレス

POP3 サーバーのサーバー名または IP アドレスを 128 文字以内で入力し、［決定］を押します。

■POP3 サーバー - ポート番号

POP3 サーバーのポート番号を 1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、110 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■POP3 サーバー - 受信間隔

POP3 サーバーへのメールの確認間隔を、1 ～ 120 分の範囲で 1 分単位で設定します。

■POP3 サーバー - ログイン名

POP3 サーバーにログインするための名前を半角 64 文字以内で入力します。

■POP3 サーバー - パスワード

POP 受信用のパスワードを、半角 64 文字以内で設定します。

［キーボード］を押すと表示されるキーボードを使って、［新しいパスワード］と［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。パスワードを設定しない場合は、空欄のまま［決定］を押します。

■POP 受信パスワードの暗号化

パスワードを暗号化する場合は、［する（APOP）］を選択します。

SMTP サーバー設定

SMTP サーバーについて設定します。［SMTP サーバー設定］では、次の項目を設定できます。

補足
- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。
- 入力を間違えたときは、〈C（クリア）〉ボタンを押して、再入力してください。

■SMTP サーバー - サーバー名 / アドレス

SMTP サーバーのサーバー名または IP アドレスを 128 文字以内で入力し、［決定］を押します。

■SMTP サーバー - ポート番号

SMTP サーバーのポート番号を 1 ～ 65535 の範囲で設定します。

初期値は、25 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■送信時の認証方式

SMTP 送信時の認証方法を、［利用しない］、［POP before SMTP］、［SMTP AUTH］から選択します。

補足
- ［POP before SMTP］を選択した場合は、必ず POP3 の設定を行ってください。
- 認証方式は AUTH GSSAPI（Kerberos 指定時のみ）、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTH LOGIN、AUTH CRAM-MD5 に対応しています。

■送信時の認証ユーザー

送信時の認証ユーザーを、［外部認証のユーザー］または［本体設定］から選択します。

［外部認証のユーザー］を選択した場合、ジョブ起動前にデバイスに外部認証を行うと、外部認証したユーザー名 / パスワードで SMTP サーバーに送信時認証を行います。また、認証失敗時の動作を［送信を中止する］または［本体設定情報で再認証する］から選択できます。デバイスに外部認証を実施しない場合は、本体設定のユーザー名 / パスワードが使用されます。

■SMTP AUTH - ログイン名

SMTP サーバーログイン名を、半角 64 文字以内で設定します。

■SMTP AUTH - パスワード

SMTP サーバーの認証用パスワードを、半角 64 文字以内で設定します。

補足
- パスワードを設定しない場合は、空欄のまま［決定］を押します。

外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定

外部認証サーバー / ディレクトリサービスについて設定します。

補足
- DocuCentre シリーズでは、「LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定」のアドレス帳検索に関連するサービスのみ利用できます。

認証システムの設定

■認証システム

認証するためのシステムを、［Kerberos（Windows2000）］、［Kerberos (Solaris)］、［LDAP］、［SMB］、［Authentication Agent］から選択できます。

- 外部認証サーバーに、ApeosWare Authentication Management を使用する場合は、［Authentication Agent］を選択してください。

認証システムを変更しても、変更前の認証システムで運用されていた個人ボックスや個人ジョブフローは自動的に削除されません。不要な場合は、これらの個人ボックスやジョブフローを削除する必要があります。新しい認証システムにおいても、同じ User ID を使用する場合は、同じユーザーの個人ボックスおよび個人ジョブフローとして利用できます。

■認証応答待ち時間の上限

認証の応答の待ち時間の上限を 1 ～ 75 秒の範囲で 1 秒単位で設定します。

■ユーザー情報検索時間の上限

ユーザー情報の検索の待ち時間の上限を 1 ～ 120 秒の範囲で 1 秒単位で設定します。

Kerberos サーバー設定

Kerberos サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。

Kerberos サーバー 1 に設定した内容が、認証時のデフォルトとして使用されます。

■プライマリーサーバー - 名前 / アドレス

プライマリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足

- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■プライマリーサーバー - ポート番号

プライマリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、88 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス

セカンダリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足

- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■セカンダリーサーバー - ポート番号

セカンダリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、88 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■認証先（レルム名）

サーバーとして、Windows Server 2008、Windows Server 2012、Windows Server 2016 のアクティブディレクトリーを使用する場合は、アクティブディレクトリーのドメイン名を認証先に指定します。64 文字まで入力できます。

注記

- 認証先名は、必ず大文字で設定してください。小文字で設定すると認証エラーになります。

LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定

LDAP 認証および LDAP によるアドレス帳検索を行うための、ディレクトリーサーバーや認証方式、検索のための属性や範囲などについて設定します。

■プライマリーサーバー - 名前 / アドレス

プライマリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足

- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■プライマリーサーバー - ポート番号

プライマリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、389 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス

セカンダリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

補足

- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。
- IPv6 の場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

■セカンダリーサーバー - ポート番号

セカンダリーサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、389 です。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■認証方式

LDAP 認証の認証方式を、［直接認証］または［ユーザー属性認証］から選択できます。

- 直接認証

  入力した User ID とパスワードで、LDAP サーバーに認証を行います。

- ユーザー属性認証

  入力した User ID は、［入力ユーザー名の属性］に設定された属性の値として、LDAP サーバーで検索するために使用されます。見つかったユーザーの、［認証用ユーザー名の属性］に設定された属性の値は、ジョブの User ID、およびジョブフローや親展ボックスの所有者として使用されます。

■入力ユーザー名の属性

LDAP 認証の認証方式が［ユーザー属性認証］の場合に、入力された User ID の User ID の属性を設定します。32 文字まで入力できます。

操作パネルからユーザー名として入力する値に対応して、LDAP サーバーに登録されている UserAttribute 情報の属性を設定します。たとえば、メールアドレスを入力させる場合は「mail」を設定します。

■認証用ユーザー名の属性

LDAP サーバーに登録されている UserAttribute 情報の中から実際に認証に使用する属性を入力します。32 文字まで入力できます。

■ユーザー名追加文字列の使用

操作パネルから認証情報を入力するときに、［ユーザー名の追加文字列］で入力した情報を自動で付加するかどうかを設定します。

■ユーザー名の追加文字列

ユーザー名追加文字列を使用する場合の、追加する文字列を設定します。64 文字まで入力できます。

［ユーザー名追加文字列の使用］で［使用する］を設定した場合にその固定文字列を入力します。

例）

［入力ユーザー名の属性］に「mail」を設定し、その対象ユーザーの登録情報が「mail@myhost.example.com」だった場合、通常は「mail@myhost.example.com」と入力する必要があります。

［ユーザー名追加文字列の使用］を［使用する］に設定し、［ユーザー名の追加文字列］で「@myhost.example.com」と指定すれば、操作パネルから入力するデータは「mail」だけで後ろの「@myhost.example.com」は本機が付加するので、入力の手間を簡略化できます。

■IC カード認証に使用する属性

IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、カード ID の検索属性を設定します。半角 32 文字以内で設定します。

補足

- この項目は、［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］>［パスワードの運用］>［パスワード使用 - IC カード認証時］>［しない］に設定されている場合に表示されます。

■ネットワーク用ユーザー ID 属性

IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、IC カードのカード ID で検索するユーザー名の属性を設定します。取得したユーザー名は、外部サービスに通知する認証情報として使用されます。半角英数字 32 文字以内で設定します。

補足

- この項目は、［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］>［パスワードの運用］>［パスワード使用 - IC カード認証時］>［しない］に設定されている場合に表示されます。

■検索用の認証ユーザー

アドレス帳検索のときに使用するユーザーを設定します。

［外部認証のユーザー］、［本体認証］から選択できます。

■検索用ログイン名

アドレス帳検索および［ユーザー属性認証］方式の LDAP 認証で、ディレクトリーサーバーにアクセスするときのユーザー名を設定します。ディレクトリーサービス認証が必要なときだけ設定してください。

ユーザー名を設定する場合は、255 文字まで入力できます。

■検索用パスワード

［検索用ログイン名］で指定したユーザーのログインパスワードを設定します。半角英数字で 32 文字まで入力できます。

■検索起点エントリー（DN）

検索の起点となる文字列を、255 文字まで入力できます。

■起点からの検索範囲

起点からの検索範囲を選択します。

- 起点の階層のみ
  起点の階層だけを検索します。
- 起点から 1 つ下の階層まで
  起点から 1 つ下の階層までを検索します。
- 起点から下の階層すべて
  起点から下の階層すべてを検索します。

■検索対象のオブジェクトクラス

検索のためのオブジェクトクラスを、32 文字まで入力できます。

■リフェラルの使用

接続した LDAP サーバーから、別の LDAP サーバーへの接続を指示された場合に、指示されたサーバーに再接続するかどうかを設定します。

■リフェラルのホップ数上限

リフェラル機能を使用する場合に、接続するサーバーの切り替えを何回まで許可するかを、1 ～ 5 回の範囲で設定します。

■サーバーのソフトウェア

ディレクトリーサーバーによって使用されるソフトウエアを、[Microsoft Active Directory]、[Microsoft Exchange]、[IBM Lotus Domino 6. ＊]、[その他のソフトウェア] から選択できます。

■名前の検索条件 - 宛先名

名前を検索キーとして検索する場合に、宛先名の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■名前の検索条件 - 姓

名前を検索キーとして検索する場合に、姓の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■名前の検索条件 - 名

名前を検索キーとして検索する場合に、名の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■宛先名の属性型

宛先名の属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、宛先名として使用するフィールドの属性名を、半角英数字で 32 文字まで入力できます。Windows の場合は、宛先名として使用する属性名に「cn」を入力します。

■姓の属性型

送信先の姓の属性型を設定します。32 文字まで入力できます。

■名の属性型

送信先の名の属性型を設定します。32 文字まで入力できます。

■メールアドレスの属性型

メールアドレスの属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、メール情報として使用するフィールドの属性名を設定します。半角英数字で 32 文字まで入力できます。Windows の場合は、メール情報として使用する属性名に「mail」を入力します。

■ファクス番号の属性型

ファクス番号の属性型を設定します。32 文字まで入力できます。

■IP ファクス（SIP）番号の属性型

使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の中で、IP ファクス（SIP）番号の情報として使用するフィールドの属性名を設定します。32 文字まで入力できます。

■インターネットファクスアドレスの属性型

インターネットファクスアドレスの属性型を設定します。32 文字まで入力できます。

■補助項目 1 ～ 3 の属性型

補助項目 1 ～ 3 の LDAP 属性型を設定します。［宛先名の属性型］または［メールアドレスの属性型］以外に、検索の対象の LDAP サーバーに登録されたユーザー属性を任意で指定できます。半角英数字で 32 文字まで入力できます。

■補助項目 1 ～ 3 の属性名

補助項目 1 ～ 3 に割り当てる属性名を設定します。全角 8 文字（半角 16 文字）まで入力できます。

■証明書の属性型

証明書の属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、証明書として使用するフィールドの属性名を、半角英数字で 32 文字まで入力できます。

Windows の場合は、証明書の情報として利用する属性名に「userCertificate;binary」を入力します。この情報は、ディレクトリサービスを使って宛先を選択し、スキャナー（メール送信）で S/MIME の暗号化を行う場合に、S/MIME の証明書として使用します。

補足

- この機能を使って暗号化通信を行う場合は、本機に使用する証明書のパスに登録されている、信頼されたルート証明機関、中間証明機関すべての登録が必要です。

■検索結果の最大表示数

検索条件に合ったアドレスを表示する件数を、5 ～ 100 までの範囲で設定します。検索結果が上限数を超えた場合は、それ以上の検索処理は中断します。

工場出荷時は、50 件に設定されています。

■検索時間の上限

検索のタイムアウト時間を設定するかどうかを設定します。設定する場合は、5 ～ 120 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

SMB サーバー設定

外部認証サーバーとして SMB サーバーを利用するときに設定します。

■SMB サーバー指定方法

サーバーの指定方法を、［ドメイン名で指定］、［ドメイン名とサーバー名 / アドレス］から選択できます。

ここで設定した指定方法に合わせて、SMB サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。

SMB サーバー 1 に設定した内容が、認証時のデフォルトとして使用されます。

■サーバー - ドメイン名

サーバーのドメイン名を設定できます。64 文字まで入力できます。

［SMB サーバー - 指定方法］で設定している SMB サーバーの指定方法にかかわらず、ドメイン名の設定は必須です。

注記
- ドメイン名はNetBIOSドメイン名、またはアクティブディレクトリーのドメイン名を指定してください。

■サーバー - サーバー名 / アドレス

サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

［SMB サーバー - 指定方法］で［ドメイン名とサーバー名 / アドレス］を選択している場合に有効になります。

注記
- サーバー名は NetBIOS コンピューター名、または DNS サフィックス付きのフルコンピューター名を指定してください。

補足
- IPv4 の場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。

セキュリティ設定

セキュリティーの設定をします。

SSL/TLS 設定

サーバーやクライアント PC と本機との通信を暗号化するときに設定します。SSL/TLS を設定するとネットワーク上で不正アクセスをしようとしても、経路が暗号化されているため、情報の漏えいやデータの改ざんを抑止できます。

■本体の証明書 - サーバー

SSL/TLS 通信するための、サーバー証明書を設定します。

■HTTP - SSL/TLS 通信

SSL/TLS 通信を有効にするかどうかを設定します。

■HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号

SSL/TLS 通信のポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

初期値は、443 です。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■LDAP - SSL/TLS 通信

認証や検索などのアクセスに SSL/TLS 通信するかどうかを設定します。

SSL 通信を有効にした場合には、［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］の［プライマリーサーバー - ポート番号］と［セカンダリーサーバー - ポート番号］を変更する必要があります。LDAP のディレクトリーサーバーの SSL 通信のポート番号は、通常、636 になります。

■SMTP-SSL/TLS 通信

SSL/TLS 通信について設定します。

- 無効

  SSL/TLS 通信しません。

- STARTTLS 接続（利用可能時）

  証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、SSL/TLS 通信しません。

- STARTTLS 接続

  証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、通信できません。

- SSL/TLS 接続

  SSL/TLS 通信します。

補足

- インターネットファクスダイレクト（P2P）には、対応していません。

■ThinPrint-SSL/TLS 通信

SSL/TLS 通信を有効にするかどうかを設定します。

■本体の証明書 - クライアント

SSL/TLS 通信するための、クライアント証明書を設定します。

■相手サーバーの証明書の検証（ApeosPort シリーズのみ）

本機を SSL クライアントとして動作させるときに、相手サーバーの証明書を検証するかどうかを設定します。

S/MIME 設定（ApeosPort シリーズのみ）

メールやインターネットファクスを暗号化または署名機能を利用して送受信するときに設定します。

■本体の証明書 - S/MIME

S/MIME 通信で使用する証明書を設定します。

参照

- 詳しく、「暗号化と署名機能の設定」（P.437）を参照してください。

■S/MIME 通信

S/MIME 通信を有効にするかどうかを設定します。

■信頼できないメール

［受信しない］に設定すると、次のメールは受信できません。

- ［S/MIME 通信］を有効にした場合の S/MIME 以外のメール
- 署名 / 検証に失敗したメール

- 期限切れの証明書が添付されたメール

■信頼できないインターネットファクス

［受信しない］に設定すると、次のインターネットファクスは受信できません。

- ［S/MIME 通信］を有効にした場合の S/MIME 以外のインターネットファクス
- 署名 / 検証に失敗したインターネットファクス
- 期限切れの証明書が添付されたインターネットファクス

■メッセージダイジェスト方式

メッセージダイジェスト方式を設定します。［SHA1］、［MD5］、［SHA256］から選択できます。

■本文の暗号化方式

本文の暗号化方式を設定します。［3DES］、［RC2-40］、［RC2-64］、［RC2-128］、［AES-128］、［AES-192］、［AES-256］から選択できます。

■暗号化メール分割送信

暗号化メールを送信先ごとに分割送信するかどうかを設定します。

■暗号化インターネットファクス分割送信

暗号化したインターネットファクスを送信先ごとに分割送信するかどうかを設定します。

■署名 - メール送信

メールを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

■署名 - インターネットファクス送信

本機からインターネットファクスを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

■証明書の自動取得

宛先表に登録されているメールアドレスから S/MIME 用証明書が添付されたメールを受信したときに、自動的に証明書を保存するかどうかを設定します。

PDF/DocuWorks/XPS の署名設定（ApeosPort シリーズのみ）

PDF/DocuWorks/XPS 文書について、署名の設定をします。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■本体の証明書

署名に使用する証明書を設定します。

参照
- 詳しくは、「暗号化と署名機能の設定」（P.437）を参照してください。

■PDF 署名

PDF 文書に署名するかどうかを、［常に署名しない］、［常に可視署名する］、［常に不可視署名する］、［送信時に選択する］から選択できます。

■PDF 署名ハッシュアルゴリズム

PDF 署名ハッシュアルゴリズムを設定します。［SHA-1］、［SHA-256］から選択できます。

■DocuWorks 署名

DocuWorks 文書に署名するかどうかを、［常に署名しない］、［常に署名する］、［送信時に選択する］から選択できます。

注記
- DocuWorks署名のあるDocuWorks文書を開くには、以下のバージョンのDocuWorksが必要です。
  - ［SHA1］を選択した場合、DocuWorks 5.0 以降の各バージョン
  - ［SHA256］を選択した場合、DocuWorks 8.0 以降の各バージョン

■DocuWorks 署名ハッシュアルゴリズム

DocuWorks 署名をする際のハッシュアルゴリズムを設定します。［SHA1］、［SHA256］から選択できます。

■XPS 署名

XPS 文書に署名するかどうかを、［常に署名しない］、［常に不可視署名する］、［送信時に選択する］から選択できます。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

IPsec

補足
- セカンダリーイーサネット（オプション）を装着している場合、この項目は設定できません。

■IPsec 設定

メールやインターネットファクスを暗号化または署名機能を利用して送受信するときに設定します。

補足
- ［IKE 認証方式］、［事前共有鍵］、［DH グループ］、［PFS 設定］についてはネットワーク管理者に確認してください。

- IKE 認証方式

  IKE 認証方式を設定します。［事前共有鍵による認証］、［デジタル署名による認証］から選択できます。

- 事前共有鍵

  事前共有鍵を入力します。

  ［IKE 認証方式］が［事前共有鍵による認証］の場合に設定します。

- 本体の証明書

  IPsec 通信で使用する証明書を設定します。

  ［IKE 認証方式］が［デジタル署名による認証］の場合に設定します。

  ここでは、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書や、デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos で生成した証明書は使用できません。

参照
- 詳しくは、「証明書の種類」（P.438）を参照してください。

- IPsec 通信

  IPsec 通信を有効にするかどうかを設定します。

- IKE SA のライフタイム

  IKE SA の有効期間を 5 ～ 28800 分の範囲で 1 分単位で設定します。

補足
- ［IPsec SA のライフタイム］より長くなるように設定してください。

- IPsec SA のライフタイム

  IPsec SA の有効期間を 300 ～ 172800 秒の範囲で 1 秒単位で設定します。

補足
- ［IKE SA のライフタイム］より短くなるように設定してください。

- DH グループ

  DH グループを設定します。［G1］、［G2］から選択できます。

- PFS 設定

  PFS を有効にするかどうかを設定します。

- 相手アドレス - IPv4

  相手先の IPv4 アドレスを設定します。

  IP アドレスを入力する場合、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で入力します。xxx は 0 ～ 255 の範囲の数値です。

- 相手アドレス - IPv6

  相手先の IPv6 アドレスを設定します。

  IP アドレスを入力する場合、xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

- 非 IPsec 通信

  IPsec 未対応機器と通信するかどうかを設定します。

IEEE 802.1x 設定 /IEEE 802.1x 設定（Ethernet1）、IEEE 802.1x 設定（Ethernet2）

補足
- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］を設定している場合、それぞれの Ethernet インターフェースカードに独立した IEEE 802.1x の設定ができます。
- 本設定のタイトルは Ethernet インターフェースが 1 回線のとき［IEEE 802.1 設定］のみ表示されます。Ethernet インターフェースが 2 回線のとき［IEEE 802.1 設定（Ethernet1）］と［IEEE 802.1 設定（Ethernet2）］が表示されます。
- ［Ethernet1- ネットワークの名称］と［Ethernet2- ネットワークの名称］で任意の名称を設定した場合［IEEE 802.1 設定（Ethernet1）］と［IEEE 802.1 設定（Ethernet2）］の［Ethernet1］と［Ethernet2］に設定した名称がそれぞれ表示されます。

■IEEE802.1x 設定

IEEE 802.1 について設定します。

- IEEE 802.1x 認証の使用

  IEEE 802.1x 認証を使用するかどうかを設定します。

- 認証方式

  ［EAP-MD5］、［EAP-MS-CHAPv2］、［PEAP/MS-CHAPv2］、［EAP-TLS］から選択できます。

- 認証ユーザー名

  認証ユーザー名を半角 128 文字以内で入力します。

- 認証パスワード

  認証パスワードを 1 ～ 128 バイト以内で入力します。

- サーバー証明書の検証

  ［認証方式］が［PEAP/MS-CHAPv2］の場合に、サーバー証明書を検証するかどうかを設定します。

証明書失効確認の設定

証明書失効確認の設定をします。

■証明書検証レベル

証明書の検証レベルを設定します。［低］、［中］、［高］から選択できます。

［低］の場合、証明書の失効確認を行いません。

［中］の場合、証明書の失効確認まで行います。ネットワークエラーなどで失効確認できなかったときも有効な証明書として扱います。

［高］の場合、失効していないと確認された証明書だけを有効な証明書として扱います。

■証明書失効確認方式

証明書失効確認の方式を設定します。

本機が検証局から失効リスト（CRL）を取得して照合する場合は、［失効リスト（CRL）を取得する］を選択します。証明書の有効性を確認できる OCSP（Online Certificate Status Protocol）を使って認証局や検証局に問い合わせて確認する場合は、［OCSP で問い合わせる］を選択します。

■失効リスト（CRL）の自動取得

失効リスト（CRL）を自動取得するかどうかを設定します。

■失効リスト（CRL）取得時間上限

失効リスト（CRL）を取得する時間の上限を、5 ～ 60 秒で 1 秒単位で設定します。

■OCSP レスポンダ指定方法

OCSP レスポンダーの指定方法を指定します。

［証明書に記載の URL を使用］、［本体で設定した URL を使用］から選択できます。

■OCSP レスポンダ

［OCSP レスポンダ指定方法］で［本体で設定した URL を使用］を選択した場合は、問い合わせ先の URL を半角英数字で 255 文字以内で設定します。

■OCSP 通信時間上限

OCSP レスポンダーとの通信時間の上限を、5 ～ 60 秒で 1 秒単位で設定します。

その他の設定

ネットワークに関するそのほかの設定をします。

メール受信プロトコル

使用環境に合わせて、［SMTP］、［POP3］から選択します。

認証ユーザー名へのドメイン付加

ユーザー名にドメイン名を付加するかどうかを設定します。

メールプリントの排出先

メールプリントの排出先を選択します。［自動］を選択すると、排出先の初期設定値に設定されている排出先が自動的に選択されます。

送受信ドメインの制限

メール、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の送受信を許可および禁止するドメインを設定します。

■制限方法

［送受信許可ドメインの指定］に設定すると、送受信を許可するドメインを指定できます。［送受信拒否ドメインの指定］に設定すると、送受信を禁止するドメインを指定できます。

■［ドメイン 1 ～ 50］

［制限方法］で［送受信許可ドメインの指定］または［送受信拒否ドメインの指定］を選択した場合に、そのドメインを最大 50 まで指定できます。

［確認 / 変更］を押すと表示されるキーボードを使って、半角 64 文字以内で設定します。

プリンター設定

［プリンター設定］では、プリンター機能に関する仕様を設定します。

CentreWare Internet Services を使うと、さらに詳細な設定ができます。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。

各設定の詳細と参照先は、次のとおりです。

メモリー設定 248
フォーム削除 251
その他の設定 252

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［プリンター設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.142）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

メモリー設定

インターフェイスごとに、受信バッファ（クライアントから送信されるデータを一時的に蓄えておく場所）のメモリー容量を設定します。

受信バッファ容量は、使用状況と目的に応じて変更できます。受信バッファ容量を増やすと、各インターフェイスに対応するクライアントの解放が早くなることがあります。

エミュレーションキット（オプション）または Adobe PostScript 3 キット（オプション）が装着されている場合は、PC-PR201H のフォーム格納用のメモリー容量、HP-GL/2 オートレイアウト用メモリーも設定できます。

注記
- メモリー容量を変更すると、メモリーがリセットされるので、各メモリー領域に格納されているデータは、すべて消去されます。
- メモリーの全体量を超えた割り振りはできません。電源を入れたときに、設定値が搭載メモリー容量を超えた場合は、システムによって自動的に調整されます。

補足
- ポートが［停止］に設定されている場合は、対応する各項目は表示されません。
- クライアントから送信されるデータ量によっては、メモリーの容量を増やしてもクライアントの解放時間が変わらない場合があります。

PostScript 使用メモリー

PostScript の使用メモリー容量を 0.25MB 単位で指定します。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 指定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

ART EX フォームメモリー

ART EX でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ハードディスク装着時は、ハードディスクが指定され、変更できません。ハードディスクが装着されていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー

ART IV、ESC/P、201H でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ハードディスク装着時は、ハードディスクが指定され、変更できません。ハードディスクが装着されていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

ART IV ユーザー定義用メモリー

ART IV のユーザーが定義するデータ（外字、フォーム、線パターンフォームなど）を格納するメモリー容量を指定します。

32 ～ 2048KB の範囲で 32KB 単位で指定します。

補足

- 指定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー

HP-GL/2 のオートレイアウト機能を使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ハードディスク装着時は、ハードディスクが指定され、変更できません。ハードディスクが装着されていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

補足

- この機能は、エミュレーションキットまたは Adobe PostScript 3 キットが装着されている場合に、表示されます。

ジョブチケット用メモリー

ジョブチケット（ジョブの出力部数や後処理などを記述したもの）の処理に使用するメモリー容量を、0.25 ～ 8.00MB の範囲で 0.25MB 単位で指定します。

補足

- 設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

受信バッファ - USB

USB の受信バッファを設定します。

64 ～ 1024KB の範囲で 32KB 単位で設定します。

受信バッファ - LPD

補足

- ［LPD のプリント順序］の設定により、［受信バッファ - LPD］が変更できないことがあります。詳しくは、「LPD のプリント順序」(P.256) を参照してください。

■スプールしない

スプール処理は行われません。あるクライアントからの LPD のプリント処理をしている間は、ほかのクライアントからの同じインターフェイスでのデータを受信できません。

LPD 専用の受信バッファのメモリー容量を、1024 ～ 2048KB の範囲で 32KB 単位で指定します。

■メモリースプール

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、メモリーが使用されます。この候補値を選択したときは、スプール処理用の受信バッファのメモリー容量を、0.50 ～ 32.00MB の範囲で 0.25MB 単位で指定します。

なお、指定したメモリー容量よりも大きいプリントデータは、受信できません。このようなときは、[ハードディスクスプール]、または［スプールしない］を選択してください。

■ハードディスクスプール

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、ハードディスクが使用されます。

受信バッファ - IPP

■スプールしない

スプール処理は行われません。あるクライアントからの IPP のプリント処理をしている間は、ほかのクライアントからの同じインターフェイスでのデータを受信できません。

IPP 専用の受信バッファのメモリー容量を、64 ～ 1024KB の範囲で 32KB 単位で指定します。

■ハードディスクスプール

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、ハードディスクが使用されます。

受信バッファ - Port9100

Port9100 の受信バッファを設定します。

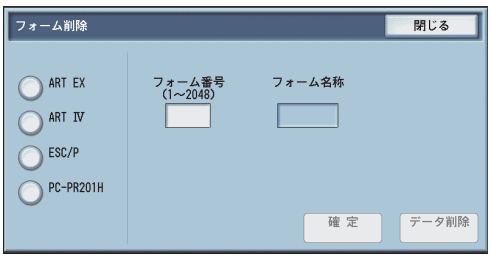
64 ～ 1024KB の範囲で 32KB 単位で指定します。

フォーム削除

登録されたフォームを削除します。

1 ［フォーム削除］を押します。

2 フォームを削除するプリントモードを選択します。



■ART EX

ART EX プリンタードライバーで作成したフォームを削除します。

フォームは、プリンタードライバーで登録します。

参照

- 詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

■ART IV

ART IV 用フォームを削除します。

参照

- フォームの登録方法については、『リファレンスマニュアル（ART IV 対応）』（別売）をご覧ください。

■ESC/P

エミュレーションの ESC/P 用フォームを削除します。

参照

- フォームの登録方法については、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）をご覧ください。

■PC-PR201H

エミュレーションの PC-PR201 用フォームを削除します。

参照

- フォームの登録方法については、『リファレンスマニュアル（PC-PR201H 対応）』（別売）をご覧ください。

■フォーム番号

削除する項目を選択すると、フォーム番号を入力できるようになります。

■フォーム名称

フォーム番号を入力したあとに［確定］を押すと、入力された番号と一致するフォーム名称が表示されます。

3 〈数字〉ボタンでフォーム番号を入力し、［確定］を押します。

4 フォーム名称を確認し、［データ削除］を押します。

Google クラウドプリント登録

Google クラウドプリント ver2.0 に本機を登録する際に表示されます。

参照
- 詳しくは、「Google クラウドプリントを使用するには」(P.849) を参照してください。

その他の設定

プリンターで使用する用紙に関する設定をします。

プリント可能領域

プリント可能領域を拡張するかどうかを設定します。

参照
- プリント可能領域は、「プリント可能領域」(P.760) を参照してください。
- 拡張した場合の印字領域は、「拡張印字領域」(P.760) を参照してください。

用紙の置き換え

自動トレイ選択で選択された用紙サイズの用紙がセットされたトレイがない場合に、ほかの用紙トレイにセットされている用紙に置き換えてプリントをするかどうかを設定します。置き換える場合は、[大きいサイズを選択]、[近いサイズを選択]、[トレイ 5（手差し）を選択] から選択できます。

補足
- ART IV、PC-PR201H、ESC/P、HP-GL/2 などのエミュレーションを使用してプリントする場合は、ここでの設定にかかわらず、用紙補給のメッセージが表示されます。

■用紙補給を表示

置き換えはしないで、用紙補給のメッセージを表示します。

■大きいサイズを選択

選択されている用紙サイズの次に大きなサイズの用紙に置き換えて、等倍でプリントします。

■近いサイズを選択

選択されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙に置き換えてプリントします。必要に応じて、自動的にイメージを縮小することがあります。

補足
- クライアント側から指定があった場合は、クライアント側の指定が優先されます。

■トレイ 5（手差し）を選択

トレイ 5（手差し）にセットされている用紙にプリントします。

用紙種類不一致時の処理

プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類と、用紙トレイにセットされている用紙種類が一致しない場合の処理を設定します。

■プリントする

用紙トレイに設定されている用紙の種類でプリントされます。

■確認画面を表示する

プリントするかどうかの確認画面が表示されます。

プリントする場合は、プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類の指定は無効となり、［用紙トレイの優先順位］や、［用紙サイズ］、［用紙の置き換え］の設定に従ってプリントされます。

参照
- 詳しくは、「自動トレイ選択について」(P.60) を参照してください。

■設定変更画面を表示する

ディスプレイに表示されたメッセージに従って、用紙トレイの用紙を入れ替えたあと、［スタート］ボタンを押すと、用紙トレイに設定されていた用紙種類が、ディスプレイに表示された用紙種類の設定に自動的に変更されて、プリントされます。

注記
- 用紙種類が変更された用紙トレイは、プリントが終了した後も、変更後の用紙種類の設定が保持されます。
- 用紙を入れ替えずに［スタート］ボタンを押した場合、用紙トレイの用紙種類の設定が、ディスプレイに表示された用紙種類に自動的に変更されてプリントされますが、実際にセットされている用紙の種類とプリンタードライバーなどで指定した用紙種類が異なるため、印字品質は保証されません。

未登録フォーム指定時の処理

フォームデータファイル（オーバーレイ印字）にプリント指示されたフォームが、プリンター側で未登録だった場合に、ジョブをプリントするかどうかを設定します。［プリントする］を選択した場合、指定したフォームがないため、データだけがプリントされます。

異常終了後のプリント処理

エラーなどでプリントジョブがキャンセルされるときに、そのジョブを自動的にキャンセルするかどうかを設定します。

補足
- 本機は後続のプリントジョブを制限するため、オフライン状態になります。

■自動的に再開する

そのジョブを自動的にキャンセルし、以降のジョブを連続してプリントします。

■ユーザー操作で再開する

そのジョブをキャンセルする前に、確認画面を表示します。確認のあと、そのジョブをキャンセルし、以降のジョブをプリントします。

注記
- ［ユーザー操作で再開する］を選択すると、出力中などに〈割り込み〉ボタンを押して、出力を一時中断することができなくなります。

紙づまり発生時のプリント処理

プリント実行中に紙づまりなどのエラーが発生した場合、紙づまりの処置が終了したあとのプリント処理方法を設定します。

■紙づまり除去後再開する

紙づまりの処置が終了すると、正常に排出された次のページから、自動的にプリントを再開します。

■プリントを中止する

プリントを中止して、そのプリントジョブを削除します。

補足

- 蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリント、サンプルプリントの文書）は、［プリントを中止する］を設定していても、紙づまりの処置が終了するとプリントを再開します。

ID 印字

プリンタードライバーを使ってプリントする場合、ユーザーを区別するために、プリントする用紙にプリンタードライバーに設定されたユーザー ID を印字するかどうかを設定します。プリンタードライバーに設定されたユーザー ID のうち、先頭の 64 文字まで印字されます。

印字する位置を［左上］、［右上］、［左下］、［右下］から選択します。

補足

- ID 印字機能を使用するには、あらかじめプリンタードライバーで、User ID の設定が必要です。設定方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- プリンタードライバーに設定されたユーザー ID が取得できない場合は、「UnknownUser」と印字されます。

バナーシート出力

本機を複数のユーザーで使用している場合など、ユーザーごとのジョブを区分けして、印刷物が混在しないようにバナーシートを出力します。ジョブの前や後ろに出力することができます。

バナーシートには、日付、時間、ユーザー名、ファイル名などが印刷されます。

補足

- ホチキスを設定している場合でも、バナーシートはホチキス留めされません。
- Macintosh からのプリントジョブのバナーシートには、文書名は表示されません。
- バナーシートをプリントした場合は、メーターに加算されます。

■出力しない

バナーシートをプリントしません。

■スタートシート

プリントジョブの前に、バナーシートがプリントされます。

■エンドシート

プリントジョブのあとに、バナーシートがプリントされます。

■スタート＋エンドシート

プリントジョブの前とあとに、バナーシートがプリントされます。

■プリンタードライバーの設定を優先

チェックを付けると、プリンタードライバーでのバナーシート出力設定に従って処理します。

バナーシートのオフセット出力

仕分け用の用紙（バナーシート）を出力するときにオフセット排出するかどうかを設定します。

バナーシートトレイ

仕分け用の用紙（バナーシート）に使用する用紙トレイを設定します。

設定できるのは、用紙トレイ 1 ～ 4、6 ～ 7（オプション）です。トレイ 5（手差し）は設定できません。

PostScript の用紙選択

用紙選択時に、PostScript の遅延媒体選択（Deferred Media Selection）機能を有効にするかどうかを設定します。遅延媒体選択（Deferred Media Selection）機能を有効にする場合は［自動］を、無効にする場合は［トレイから選択］を選択します。

プリンタードライバー以外が生成する PostScript データを印刷するときに、PostScript データの記述方法によっては、意図どおりにトレイが選択されないことがあります。その場合は［トレイから選択］を選択してください。

補足

- ［自動］に設定していても、［用紙の置き換え］で［大きいサイズを選択］または［近いサイズを選択］を選択して、PostScript データを印字すると、自動的に［トレイから選択］に切り換わります。
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

PS フォント未搭載時の処理

ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合の処理を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■プリントを中止する

プリントを中止します。

■フォントを置換えてプリントする

ジョブで指定されたフォントを置き換えてプリントします。置き換えられるフォントは Courier です。

置き換えられたフォントが日本語の場合は正しくプリントされません。日本語フォントでプリントする場合は［PostScript のフォント置き換え］で［ATCx を使用する］を選択してください。

PostScript のフォント置き換え

ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合、フォントの置き換えで ATCx を使用するかどうかを設定します。

ATCx 機能は、ジョブで指定されたフォントが本機に搭載されていない日本語フォントの場合に、本機に搭載されている日本語の PostScript フォントに置き換えてプリントする機能です。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

XPS PrintTicket 処理

XPS 文書内に記述された印刷設定（PrintTicket）を読み込むときの本機の動作を設定します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■無効

PrintTicket 処理をしません。

■標準モード

PrintTicket 処理を標準モードで行います。

■準拠モード

PrintTicket で記述された印刷設定を Microsoft® の仕様に準拠した動作で行います。

LPD のプリント順序

LPD のプリントの順番を設定します。

補足

- ［LPD のプリント順序］の変更により、［受信バッファ - LPD］が自動的に変更される場合があります。詳しくは、「受信バッファ - LPD」(P.249) を参照してください。

■データ処理順

印刷データを受信後、出力可能な状態になった順序で印刷されます。複数の文書を連続して印刷要求した場合、データ処理に時間がかかる印刷データを先に印刷要求しても、データ処理が終了した印刷データが先に印刷される可能性があります。

■プリント受け付け順

lpr の印刷要求を受け付けた順番で印刷されます。

注記

- 本設定は LPD の受信バッファが［ハードディスクスプール］設定のときのみ有効です。ほかの設定のときは［データ処理順］で印刷されます。

OCR フォントのグリフ（0x5C）

OCR フォントを使用するときに、「0x5C」の文字をバックスラッシュ（\）と円記号（¥）のどちらで印字するかを設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

スキャナー設定

［スキャナー設定］では、スキャナー機能に関する仕様を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください

参照

- スキャナー機能を使用するための設定は、「スキャン機能の設定」(P.387) を参照してください。

各設定の詳細と参照先は、次のとおりです。

スキャナー画面表示設定 257
スキャナー機能設定初期値.....258
PC 保存機能設定初期値 261
読み取りサイズボタン 262
出力サイズボタン.....262
固定倍率ボタン.....263
その他の設定 263

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［スキャナー設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

スキャナー画面表示設定

基本スキャン画面に表示される項目を設定します。なお、基本スキャン画面とは、スキャナー（メール送信）、スキャナー（ボックス保存）、スキャナー（PC 保存）、スキャナー（URL 送信）、スキャナー（USB メモリー保存）で、次のタブを選択したときに表示される画面です。

- スキャナー（メール送信）機能の［スキャナーメール送信］タブ
- スキャナー（ボックス保存）機能の［スキャナーボックス保存］タブ
- スキャナー（PC 保存）機能の［スキャナー PC 保存］タブ
- スキャナー（URL 送信）機能の［スキャナー URL 送信］タブ
- スキャナー（USB メモリー保存）機能の［USB メモリー保存］タブ

メール送信初期表示画面

メニュー画面で［スキャナー（メール送信）］を押したときに表示される画面を設定します。［基本スキャナー画面］または［宛先表］から選択できます。

PC 保存初期表示画面

メニュー画面で［スキャナー（PC 保存）］を押したときに表示される画面を設定します。［基本スキャナー画面］または［宛先表］から選択できます。

基本画面の表示機能

基本スキャン画面の下部の、1 列目～ 4 列目に表示する機能を設定します。

設定する列を、［1 列目に表示する機能］～［4 列目に表示する機能］から選択します。

表示する機能は、［設定しない］、［カラーモード］、［両面原稿送り］、［原稿の画質］、［出力ファイル形式］、［読み取り解像度］、［読み込み濃度］、［読み取り倍率］、［ミックスサイズ原稿送り］、［原稿セット向き指定］から選択できます。

倍率ボタン - 2 ～ 5 段目

［基本画面の表示機能］の 1 列目～ 4 列目に表示する機能で、［読み取り倍率］を選択した場合に設定できる項目です。

［読み取り倍率］に表示する倍率を、固定倍率ボタンに登録した中から選択します。

参照
- 詳しくは、「固定倍率ボタン」(P.263) を参照してください。

スキャナー機能設定初期値

スキャナー機能の初期値を設定します。電源を入れたときや節電状態から復帰したとき、また〈リセット〉ボタンを押したときに、ここで設定されている初期値の状態に戻ります。よく使う機能や値を初期値に設定しておくと、操作のたびに設定する操作が省けます。

設定した値は、電源を切って、入れ直したあとに有効になります。

参照
- 設定項目の説明は、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」を参照してください。

カラーモード

基本スキャン画面にある、［カラーモード］の初期値を設定します。

原稿の画質

基本スキャン画面にある、［原稿の画質］の初期値を設定します。

出力ファイル形式

基本スキャン画面にある、［出力ファイル形式］の初期値を設定します。

PDF の Web 表示用最適化

基本スキャン画面にある、［出力ファイル形式］の［Web 表示用に最適化する］の初期値を設定します。

サムネール - メール送信

［スキャナー（メール送信）］の基本スキャン画面にある［出力ファイル形式］で［DocuWorks］または［XPS］を選択したときの、［サムネールあり］の初期値を設定します。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

サムネール - PC 保存

［スキャナー（PC 保存）］の基本スキャン画面にある［出力ファイル形式］で［DocuWorks］または［XPS］を選択したときの、［サムネールあり］の初期値を設定します。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

プレビュー

基本スキャン画面にある、［プレビュー］にあらかじめチェックをつけるかどうかを設定します。

読み込み濃度

［画質調整］画面にある、［読み込み濃度 / シャープネス］の［読み込み濃度］の初期値を設定します。

コントラスト

［画質調整］画面にある、［地色除去 / コントラスト］の［コントラスト］の初期値を設定します。コントラストの設定は、［カラーモード］が［フルカラー］または［グレースケール（256 階調）］のときに有効です。

シャープネス

［画質調整］画面にある、［読み込み濃度 / シャープネス］の［シャープネス］の初期値を設定します。

地色除去

原稿の背景にある色を除去してコピーするときに設定します。

［画質調整］画面にある、［地色除去 / コントラスト］の［地色除去］の初期値を設定します。

裏写り防止

［画質調整］画面にある、［裏写り防止］の初期値を設定します。

色空間

［画質調整］画面にある、［色空間］の初期値を設定します。

注記
- 初期値を［デバイス色空間］に設定して、「色空間機能の表示」(P.264) を［しない］に設定した場合、基本スキャン画面の［カラーモード］の［自動］、および［出力ファイル形式］の［高圧縮（MRC）］と［少数色で圧縮する］は表示されなくなります。

原稿セット向き指定

［読み取り方法］画面にある、［原稿セット向き指定］の初期値を設定します。

読み取り解像度

［読み取り方法］画面にある、［読み取り解像度］の初期値を設定します。

［200dpi］、［300dpi］、［400dpi］、［600dpi］から選択できます。

ミックスサイズ原稿送り

［読み取り方法］画面にある、［ミックスサイズ原稿送り］の初期値を設定します。

わく消し

［読み取り方法］画面にある、［わく消し］の初期値を設定します。［標準］または［消し量調整］から選択できます。

上下わく消し量

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、［上下消し］の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

左右わく消し量

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、［左右消し］の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

中消し量

［読み取り方法］画面の［わく消し］にある、［中消し］の初期値を設定します。0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

画質 / ファイルサイズ

［出力形式］画面にある、［画質 / ファイルサイズ］の初期値を設定します。

［標準画質 / 小さく］、［高画質（+1）/ やや小さく］、［高画質（+2）/ ふつう］、［高画質（+3）/ やや大きく］、または［最高画質 / 大きく］を設定します。

メールの件名

メールの件名の初期値を設定します。件名は、全角 64 文字（半角 128 文字）まで入力できます。

URL 送信の件名

認証ユーザーにスキャン文書の格納先（URL）をメールで通知するときのメールの件名を設定します。件名は、全角 64 文字（半角 128 文字）まで入力でき、初期値として設定されます。

参照

- スキャナー（URL 送信）の機能については、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャン操作の流れ」>「Step2 機能を選択する」を参照してください。

メールの暗号化

スキャナー（メール送信）の［出力形式］画面にある、［暗号化］の初期値を設定します。

補足

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite を使用する場合を除く）、外部サーバー用のルート証明書を設定しているときに利用できます。

文字認識（OCR）

基本スキャン画面にある、［出力ファイル形式］の［文字認識（OCR）］の初期値を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

文字認識する言語

文字認識する言語の初期値を設定します。

［自動］、［日本語］、［韓国語］、［繁体中国語］、［簡体中国語］、または［英語］を設定します。

補足

- 英語とその他の言語（日本語、韓国語、繁体中国語、簡体中国語）が混在する原稿に対して、両方の言語の文字列を認識するには、［文字認識する言語］を［日本語］、［韓国語］、［繁体中国語］、または［簡体中国語］に設定し、文書を読み取るときに［読み取り解像度］で［300dpi］を指定してください。ただし、英語は［文字認識する言語］を［英語］に設定した場合に比べて認識率が低くなる可能性があります。
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

文字認識時の文字部分圧縮

文字認識を行った場合に、文字部分のデータを圧縮するかしないかの初期値を設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

Microsoft® Office 形式設定

スキャン文書を Microsoft® Office 形式で保存するときの初期値を設定します。

■ページ向き

原稿を読み込んだときに、文字が正立するように処理するかどうかを設定します。［原稿セット向き指定に従う］、［文字認識による自動正立］から選択します。

■画像部分の形式

文書に含まれる画像をどのように処理するか設定します。［オートシェイプ］、［図オブジェクト］から選択します。

■認識言語用フォント

文字認識用の言語（日本語、韓国語、繁体中国語、簡体中国語、英語）ごとに、文書を保存するときに使用するフォントの初期値を選択します。

PC 保存機能設定初期値

転送プロトコル

転送に使用するプロトコル（転送プロトコル）の初期値を、［FTP］、［SMB］、［SMB（UNC 表記）］から選択できます。

保存時の認証ユーザー

スキャナー（PC 保存）で転送先のコンピューターにログインするとき、外部認証したユーザーを利用するかどうかを設定します。外部認証のときに有効な機能です。

■設定しない

外部認証ユーザーを利用しません。

■外部認証のユーザー

ログインするときに、外部認証ユーザーのユーザー名、パスワードを利用します。

FTP 時のユーザー名

スキャナー（PC 保存）で FTP 転送をするとき、外部認証ユーザーをログインユーザー名に使用する場合、認証ユーザーのドメイン部分を使用するかどうかを指定します。

■ユーザー名のみ

認証ユーザー名のユーザー名部分（「@」の前）だけをログイン名に使用し、ドメイン部分は使用しません。

■ドメインを付加する

認証ユーザー名のドメイン名（「@」の後ろ）も含めた認証ユーザー名をログイン名に使用します。

読み取りサイズボタン

［読み取り方法］画面の［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁にスキャンするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、スキャンのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

■A 系 B 系表示

A4 サイズや B5 サイズなど、A 系 B 系サイズから選択できます。

■インチサイズ表示

8.5×11” や 11×17” など、インチ系のサイズから選択できます。

■その他

写真サイズやはがきサイズなど、そのほかのサイズから選択できます。

■サイズ入力

任意のサイズを入力できます。X（よこ）方向が 15 ～ 432mm、Y（たて）方向が 15 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

出力サイズボタン

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］で、［自動 %］を選択してスキャンする場合の［出力サイズ］に表示するサイズを設定します。

出力サイズボタンに、任意の出力サイズが割り当てられます。

よく使うサイズを設定しておくと、スキャンのたびに設定する操作が省けます。

■A 系 B 系表示

A4 サイズや B5 サイズなど、A 系 B 系サイズから選択できます。

■インチサイズ表示

8.5×11” や 11×17” など、インチ系のサイズから選択できます。

■その他

写真サイズやはがきサイズなど、そのほかのサイズから選択できます。

固定倍率ボタン

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］で、［定形変倍 / ズーム］の［プリセット %］に表示する倍率を設定します。

［100%］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

■定形変倍

定形倍率から選択できます。

■ズーム

任意の倍率を設定できます。25 ～ 400% の範囲で 1% 単位で指定します。

その他の設定

スキャナー機能の仕様に関するそのほかの設定をします。

メモリーオーバーフローの処理

原稿の読み込み中に、スキャナー用のハードディスクの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするか確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したときの処理方法を設定します。

参照

- メモリーオーバーフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「ジョブ自動解除」(P.165) を参照してください。

■ジョブ中止

蓄積されたデータは破棄されます。

■読込済み原稿でジョブ実行

途中まで蓄積されたデータを有効にして処理します。

最大蓄積ページ数

スキャン原稿の最大蓄積ページ数を指定します。1 ～ 999 ページまで指定できます。

彩度

フルカラー原稿をスキャンするときの彩度を設定します。スキャンをするときに、ここで設定した値に従って自動的に調整されます。

地色除去レベル

地色除去レベルを設定します。［地色除去］を［する］に設定した場合に有効です。

数値が大きくなると、地色除去の強度が増します。

裏写り防止レベル

裏写り防止レベルを設定します。［裏写り防止］を［する］に設定した場合に有効です。

色空間機能の表示

色空間機能を表示するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、スキャナー機能の［画質調整］画面に、［色空間］が表示されます。

注記

- 初期値を［しない］に設定して、［色空間］を［デバイス色空間］に設定した場合、基本スキャン画面の［カラーモード］の［自動］、および［出力ファイル形式］の［高圧縮（MRC）］と［少数色で圧縮する］は表示されなくなります。色空間については、「色空間」（P.259）を参照してください。

TIFF の形式

スキャンデータを読み込むときの、TIFF の形式を設定します。［TIFF V6］、［TTN2］から選択できます。

読み込み終了後の画面表示

原稿を読み込んだあとに、終了メッセージを表示するかどうかを設定します。

■しない

終了メッセージは表示されません。

■読み込み終了メッセージを表示

終了メッセージを表示します。

■転送画面を続けて表示

読み込み終了後に、転送画面を表示します。終了メッセージは表示されません。

■転送終了後にメッセージを表示

転送終了後に、終了メッセージを表示します。

ファイル名の形式

［スキャナー（メール送信）］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（USB メモリー保存）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（URL 送信）］を使用する場合、スキャンした文書を保存する / 送信する文書のファイル名の形式を設定します。

［YYYYMMDDHHMMSS］、［img-MDDHHMMSS］から選択できます。

補足

- ［YYYYMMDDHHMMSS］の年月日（YYYYMMDD）の順序は、［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［日付］の［日付の形式］で変更できます。
- ［img-MDDHHMMSS］を選択した場合、10 月、11 月、12 月はそれぞれ X、Y、Z となります。

メールに添付するファイル名の日付

［スキャナー（メール送信）］を使用する場合、送信する文書のファイル名に日付やページ番号を付加するかどうかを設定します。

ファイル名を自動生成するかどうか、または［ファイル名の形式］の設定によって、次のようになります。

例）

付加する設定時：

1）自動生成の場合

20121002023309-0001.tif　または　img-X02023309-0001.tif

2）ファイル名を指定した場合

Report-20121002023309-0001.tif　または　Report-X02023309-0001.tif

付加しない設定時：

1）自動生成の場合　20121002023309-0001.tif または　img.tif

2）ファイル名を指定した場合　Report.tif

補足

- インターネットファクスで送信した場合も、この設定が適用されます。
- ［ファイル名の形式］で［YYYYMMDDHHMMSS］を指定した場合は、［付加しない］を選択しても、ファイル名に日付が付加されます。

文字認識時のページ向き

文字認識（OCR）して、原稿を読み込んだときに、文字が正立するように処理するかどうかを設定します。

■自動正立する

原稿のセット向きに関係なく、文字が正立するように処理します。

■原稿セット向きに従う

セットした原稿の向きに従って処理します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

URL 送信の文書保存期間

スキャナー（URL 送信）の文書の保存期間を設定します。1 ～ 168 時間の範囲で 1 時間単位で指定します。初期値は、3 時間です。

URL 送信の URL 生成方法

スキャナー（URL 送信）で送信する URL の生成方法を設定します。［IP アドレスを使用］、［FQDN を使用］から選択できます。

URL の例は次のとおりです。

［IP アドレスを使用］の場合：

http://192.0.2.1/scanUrl/doc1/get.htm

［FQDN を使用］の場合：

http://pc1.mycompany.co.jp/scanUrl/doc1/get.htm

URL 送信の最大蓄積サイズ

スキャナー（URL 送信）の文書の最大蓄積サイズを設定します。1 ～ 200MB の範囲で 1MB 単位で指定します。初期値は、200MB です。

認証ユーザー名の記載（PDF）

本体認証、外部認証などを利用して PDF 形式でスキャンした場合、保存した PDF 文書の属性情報の「作成者」に、認証ユーザー名を記載するかどうかを設定します。

ファクス設定

ファクス機能に関する仕様を設定します。

補足

- この機能を利用するには、オプションが必要です。また、装着しているオプションによって表示される項目が異なります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 宛先表の登録は、[登録 / 変更] から行います。詳しくは、「宛先表登録 (短縮宛先登録)」(P.318) を参照してください。

各設定の詳細と参照先は、次のとおりです。

ファクス画面表示設定 266
ファクス機能設定初期値 267
ファクス動作制御 269
受信文書の保存先 / 排出先 276
固定倍率ボタン 278
読み取りサイズボタン 279
自局情報 279
インターネットファクス動作制御 281

1 [仕様設定 / 登録] 画面で、[ファクス設定] を押します。

参照

- [仕様設定 / 登録] 画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ファクス画面表示設定

[ファクス / インターネットファクス] 画面の表示に関する項目を設定します。

ファクス初期表示画面

メニュー画面で [ファクス / インターネットファクス] を選択したときに表示される、初期画面が設定できます。

[基本ファクス画面]、[宛先表] から選択できます。

基本画面の表示機能

[ファクス / インターネットファクス] 画面に表示する機能を設定できます。

■2 ～ 4 列目に表示する機能

[ファクス / インターネットファクス] 画面の下部の 2 ～ 4 列目に表示する機能を設定できます。

[設定しない]、[両面原稿送り]、[原稿の画質]、[送信画質]、[モニターレポート]、[通信モード]、[発信元記録]、[読み取り倍率] から選択できます。

倍率ボタン -3 ～ 5 段目

[基本画面の表示機能] の [2 ～ 4 列目に表示する機能] で、[読み取り倍率] を選択した場合に設定できる項目です。[読み取り方法] 画面の [読み取り倍率] で、

［プリセット%］に表示する倍率を設定します。3 ～ 5 段目の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

送信中画面表示

送信中に、送信の状態を画面に表示するかどうかを設定します。

ファクス回線選択の表示

［ファクス / インターネットファクス］画面でファクス回線を選択できるようにするかどうかを設定します。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ファクスキット 2 を 2 回線でご利用になっている環境で、［ファクス設定］>［ファクス動作制御］>［内線設定］で内線を設定しているとき、この機能は表示されません。

■ファクス回線選択の表示

［ファクス / インターネットファクス］画面に［回線選択］ボタンを表示して、ファクス回線を選択できるように設定できます。

■ファクス回線 1 ～ 3 の名称

各回線に表示する名称を設定します。

補足
- 装着されているオプションによって、表示される回線の数が異なります。

ファクス機能設定初期値

ファクス機能の初期値を設定します。電源を入れたときや節電状態から復帰したとき、また〈リセット〉ボタンを押したときに、ここで設定されている初期値に戻ります。よく使う機能や値を初期値に設定しておくと、操作のたびに設定する手間が省けます。

参照
- 設定項目の説明は、『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」を参照してください。

送信画質

［ファクス / インターネットファクス］画面と［読み取り方法］画面にある、［送信画質］の初期値を設定します。

原稿の画質

［ファクス / インターネットファクス］画面と［読み取り方法］画面にある、［原稿の画質］の初期値を設定します。

送信濃度

［ファクス / インターネットファクス］画面と［読み取り方法］画面にある、［送信濃度］の初期値を設定します。

ミックスサイズ原稿送り

［読み取り方法］画面にある、［ミックスサイズ原稿送り］の初期値を設定します。

プレビュー

［ファクス / インターネットファクス］画面にある［プレビュー］に、あらかじめチェックをつけるかどうかを設定します。

白紙スキップ

［ファクス / インターネットファクス］画面と［読み取り方法］画面にある、［両面原稿送り］の初期値を［両面（白紙スキップ）］に設定します。

補足

- この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店にお問い合わせください。

通信モード

［送信オプション］画面にある、［通信モード］の初期値を設定します。

通信開始時刻

［送信オプション］画面にある、［優先通信 / 時刻指定］の［時刻設定］を［する］にしたときの、［通信開始時刻］の初期値を設定します。

発信元記録

［送信オプション］画面にある、［発信元記録］の初期値を設定します。

モニターレポート

［送信オプション］画面にある、［モニターレポート / 配送確認］または［モニターレポート / 開封確認］の［モニターレポート］の初期値を設定します。

補足

- 配送確認、開封確認のどちらに設定するかは、［送達確認方式］で行います。詳しくは、「送達確認方式」（P.282）を参照してください。

配送 / 開封確認

［送信オプション］画面にある、［モニターレポート / 配送確認］または［モニターレポート / 開封確認］の［配送確認（DSN）］または［開封確認（MDN）］の初期値を設定します。

補足

- 配送確認、開封確認のどちらに設定するかは、［送達確認方式］で行います。詳しくは、「送達確認方式」（P.282）を参照してください。

インターネットファクスプロファイル

［送信オプション］画面にある、［インターネットファクスプロファイル］の初期値を設定します。

インターネットファクスの件名

［送信オプション］画面にある、［インターネットファクス件名］の初期値を設定します。件名は、全角 64 文字（半角 128 文字）まで入力できます。

インターネットファクスの暗号化

［送信オプション］画面にある、［暗号化］の初期値を設定します。

補足

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite を使用する場合を除く）、外部サーバー用のルート証明書を設定しているときに利用できます。

ファクス動作制御

ファクス動作の制御に関する設定をします。

内線設定

ファクスを内線で使用する場合に、どの回線で使用するかを設定します。

補足

- この機能を利用するには、オプションの G3 増設ポートキット 2 が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

宛先の再入力

ファクス、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の誤送信を避けるため、宛先を指定したあとに、宛先の再入力を必要とするかしないかを設定します。［する］に設定した場合、ダイヤル入力または短縮宛先番号を使用して宛先を指定すると、もう一度宛先を指定する画面が表示されます。1 回めに指定した宛先と一致する場合だけ、送信できます。

再入力時の同報指示

［宛先の再入力］を［する］に設定した場合に、同報送信を許可するかしないかを設定します。

■同報指示時は再入力しない

同報送信が許可されます。宛先の再入力は必要ありません。

■同報指示時も再入力する

同報送信は許可されますが、宛先の再入力が必要です。

■同報指示を禁止

同報送信できません。

再入力時の短縮指示

［宛先の再入力］を［する］に設定した場合に、短縮宛先番号で 1 回めの宛先を指定したときの、2 回めの宛先の指定方法について設定します。

■短縮指示時は再入力しない

宛先の再入力は不要です。

■短縮番号で再入力

宛先の再入力を、短縮宛先番号を使って指定します。

■ファクス番号 / アドレスで再入力

一般のファクスはファクス番号、インターネットファクスはメールアドレス、IP ファクス（SIP）は SIP 本体アドレス、電話番号または SIP ユーザー名で指定します。宛先の再入力に、短縮宛先番号は使用できません。

再入力時のグループ宛先指示

宛先再入力の場合に、グループダイヤルも再入力の対象とするかしないかを設定します。

■グループ宛先禁止

グループ宛先は使用できません。

■グループ宛先は再入力しない

グループ宛先の再入力は不要です。

■グループ宛先を再入力する

グループ宛先の再入力が必要です。

同報切り替えボタンの表示

同報指示を明確にするための［同報する］チェックボックスをファクス / インターネット画面に表示するかしないかを設定します。

チェーンダイヤル

ワンタッチボタン、短縮ボタン、宛先表のそれぞれに登録してある番号と〈数字〉ボタンで入力した番号を組み合わせて、1 つの宛先として指定できます。［使用しない］、［使用する］から選択できます。

補足
- この項目は、［仕様設定 / 登録］>［宛先表設定］>［宛先表タイプ］が［宛先表タイプ 1］に設定されている場合に有効です。

手動リダイヤル宛先保存数

リダイヤル宛先として保存される件数を設定します。

手動リダイヤル対象宛先

リダイヤル宛先として保存される宛先の種別を設定します。

すべてのチェックを外すと、リダイヤル機能なしになります。

ポーリング予約の発信元記録

ポーリング予約文書に発信元記録を付けるかどうかを設定します。

ポーリング予約とは、本機のポーリング予約ボックスに原稿を蓄積しておいて、相手先からの操作で送信できるようにする機能です。

ポーリング予約文書の自動削除

ポーリング予約した文書を、送信後に自動的に削除するかどうかを設定します。

自動回転送信

原稿の向きを回転させると原稿イメージを縮小しないで送信できる場合に、自動的に原稿の向きを回転させるかどうかを設定します。

補足
- 読み取り倍率で任意倍率を指定した場合は、自動回転送信機能は働きません。

G3-ID の送出 - ファクス

G3 通信時に、G3-ID を相手先に通知するかどうかを設定できます。

G3-ID の送出 -IP ファクス（SIP）

G3 通信時に、G3-ID を IP ファクス（SIP）の相手先に通知するかどうかを設定できます。

リダイヤル回数

リダイヤルとは、相手先が話し中などで応答しないときに、自動的に再度ダイヤルする機能です。リダイヤルする回数を 0 ～ 9 の範囲で指定します。

リダイヤル間隔

リダイヤルする間隔を 0 ～ 15 分の範囲で 1 分単位で指定します。

ファクス未送信時の文書保存

ファクスが送信できなかった場合に、文書を保存するかどうかを設定します。［する］に設定すると、［ジョブ確認］画面の［保存文書］タブに、［ファクス未送信文書］が表示されます。［ファクス未送信文書］で送信できなかった文書を選択して再送信できます。

参照

- ファクス未送信文書については、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」>「ファクス未送信文書」を参照ください。

ファクス送信強制終了時の文書

［ファクス未送信時の文書保存］で［する］に設定した場合、強制的にファクス送信を終了した文書を保存対象にするかどうかを設定します。

ファクス保存文書の自動削除

［ファクス未送信時の文書保存］で［する］に設定した場合、保存された文書を 24 時間後に自動的に削除するかどうかを設定します。

通信インターバル

1 つの通信が終わったあと、次に送信を始めるまでの時間を、3 ～ 255 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

通信インターバルが長いほど、同報送信などにかかる全体の時間は長くなりますが、待機時間中に受信できるようになります。

同一宛先一括送信

一括送信とは、複数の送信が予約されている場合に同一の宛先があるとき、1 回の通信で同一の宛先の文書を送信する機能です。一括送信で送信すると、通信コストを低減できます。ここでは、一括送信の機能を使用するかどうかを設定します。

なお、手動送信、同報、中継同報、親展通信、指定時刻より前の時刻指定通信などの場合は、一括送信できません。リダイヤル、再送、時刻指定送信になった通信ジョブや認証機能を使用しているときに、別々のユーザーから同一宛先に送信した場合は、一括送信の対象になりません。

手動送受信初期値

一般のファクスでオンフックまたはオフフックを使用した場合、タッチパネルディスプレイに最初に表示される状態を手動受信にするか、手動送信にするかを設定します。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合は、手動受信 / 送信機能がないため、ここでの設定は適用されません。

ファクス自動受信時の受信方式

一般のファクスでの自動受信時の受信方式を設定します。

補足
- IP ファクス（SIP）の場合は、本設定は適用されません。

■指定時間後に受信

電話がかかってきてからファクス通信を開始するまでの時間を、0 ～ 15 秒の範囲で設定します。

相手が電話なら、設定時間内にオプションのハンドセット（受話器）や外付け電話を取って会話ができます。ファクス通信なら手動受信ができます。

■ファクス識別信号検知後に受信

ファクス識別信号が検知されると自動的にファクス通信が開始されます。

ファクス受信モード

〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押して表示される、［機械状態 レポート出力］画面の［ファクス受信モード］の初期値を設定できます。相手からの送信を自動で受信するか手動で受信するかを設定します。

補足
- IP ファクス（SIP）の場合は、ここでの設定に関係なく、自動受信になります。

ページ分割しきい値

受信文書の長さが用紙サイズより長い場合、どの長さでページを分割するかを設定します。0 ～ 127mm の範囲で 1mm 単位で設定します。

次項目の自動縮小受信機能と組み合わせて設定すると便利です。

自動縮小受信

受信文書の長さが、ページ分割しきい値以内で用紙の長さを超える場合、用紙に収まるように自動的に画像を縮小するかどうかを設定します。

前項目のページ分割しきい値と組み合わせて設定すると便利です。［しない］を設定している場合、用紙の長さを超えた部分の画像は切り捨てられます。

受信紙宣言

ファクスの受信側から送信側に、受信文書をプリントする用紙を知らせる方法（モード）を設定できます。

■トレイモード

ファクスの受信文書をプリントするために使用する用紙トレイを指定します。ここで指定した用紙トレイだけが、受信文書をプリントするために使用されます。手差しトレイを除く、すべての用紙トレイを複数指定できます。ここで指定した用紙トレイでプリントできないときは、手差しトレイに用紙をセットするよう促すメッセージが表示されます。手差しトレイに用紙をセットして、〈スタート〉ボタンを押すと、プリントが開始されます。プリントを中止するときは、〈C（クリア）〉ボタンを押してください。

■ユーザーモード

プリントする用紙サイズを指定（宣言）し、トレイにセットされているかどうかに関係なく、宣言したサイズの用紙だけをプリント用紙の対象にします。［ユーザーモード］を選択した場合は、［A3□］、［A4□］、［A4□］、［A5□］、［B4□］、［B5□］、

［8.5×11”▯］、［すべての用紙サイズ］から用紙サイズを選択します。用紙サイズは、複数選択が可能です。

ページ合成受信

2 ページを 1 ページに合成して受信するように設定できます。用紙を節約したい場合に便利です。

たとえば A5 を 2 枚受信した場合、A4 の用紙 1 枚にプリントされます。ただし、［受信紙宣言］で、受信した用紙と同じ用紙サイズの用紙が宣言されていれば、その用紙にプリントされます。また、受信する文書サイズによっては、ページ合成をしない場合があります。

両面プリント

ファクス受信文書（インターネットファクス受信文書を含む）を用紙の両面にプリントするかどうかを設定します。用紙を節約したい場合に便利です。

補足

- ［する］に設定しても、データによっては、両面にプリントされないことがあります。

上下わく消し量

原稿の上下方向のわく消し量を指定します。0 ～ 20mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

左右わく消し量

原稿の左右方向のわく消し量を指定します。0 ～ 20mm の範囲で 1mm 単位で指定します。

8.5×11"▭原稿の A4▭縮小

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］が［自動 %］の場合で、8.5×11"▭サイズの原稿を読み取るときに、A4▭に縮小するかどうかを設定できます。

写真画質の擬似階調方式

写真原稿の階調表現方式が設定できます。写真の画質に近づけるために、中間の明るさ（グレー）部分の処理方式を切り替えます。［誤差拡散］または［ディザ］から選択できます。

この設定を変更すると、スキャン機能のカラーモード（2 階調）の写真原稿の階調表現方式も変更になります。

回線 1 ～ 3 付加サービス

回線 1 ～ 3 で電話会社が提供しているサービスを利用しているかどうかを設定します。

ナンバー・ディスプレイ契約をしている場合は、［発信電話番号］を［あり］に、ダイヤルイン契約をしている場合は、［ダイヤルイン］を［あり］に設定します。サービスを利用していない場合は、［なし］を設定します。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合、回線 1 ～ 3 付加サービスは利用できません。
- NTT フレッツ光、KDDI ひかり one などの回線に変更された場合、回線契約によっては、標準でナンバー・ディスプレイ / 発信者番号表示サービスが有効になっている場合があります。契約内容を確認して、設定を変更してください。

回線 SIP 付加サービス

次世代ネットワーク（NGN）を使用するときに、電話会社が提供しているサービスを利用しているかどうかを設定します。

企業内ネットワークでの IP ファクス（SIP）を利用する場合に、電話会社との契約によらず、発信者電話番号を取得したい場合は、［発信電話番号］を［あり］に、自局の電話番号を取得したい場合は、［ダイヤルイン］を［あり］に設定します。

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター機能を使用するかどうかを設定します。

受信文書を、相手の電話番号（発信者電話番号）や、相手の G3ID や、自分の電話番号（ダイヤルイン番号）ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積できます。

補足

- 本機が自局の G3ID を相手局に送出しない場合、相手局から G3ID が送られてこない場合があります。相手局が G3ID を送出しない場合、ボックスセレクターを設定しても G3ID による振り分けは出来ません。
- G3ID は規格上、電話番号を設定する決まりになっていますが、相手局のユーザーが手動で登録する ID のため、正しい電話番号が設定されていない場合があります。実際に相手局が送出した G3ID はジョブ履歴レポートで確認ができます。
- 相手局の G3ID はジョブ履歴レポートの［入力（送信）元］欄で確認できます。

ボックスセレクター優先度

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター機能を使用する場合に、送信した相手の電話番号（発信者電話番号）や G3ID、受信した自局の電話番号（ダイヤルイン）に優先度を設定して親展ボックスに受信文書を振り分けます。親展ボックスに振り分ける優先度は第 1 優先、第 2 優先、第 3 優先の順に設定できます。

受信回線別ボックスセレクター

受信回線別ボックスセレクター機能を使用するかどうかを設定します。

受信回線別ボックスセレクター機能を使用すると、受信文書を受信した回線ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積できます。

ボックス保存時のファイル名の形式

ファクス文書を親展ボックスに保存するときのファイル名の形式を設定します。

［YYYYMMDDHHMMSS］に設定すると、年月日時分秒を並べたファイル名が生成されます。［img-MDDHHMMSS］に設定すると、固定文字列［img-］のあとに、月日時分秒を並べたファイル名が生成されます。

補足

- ［YYYYMMDDHHMMSS］の年月日（YYYYMMDD）の順序は、［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［日付］の［日付の形式］で変更できます。
- ［img-MDDHHMMSS］を選択した場合、10 月、11 月、12 月はそれぞれ X、Y、Z となります。

メモリオーバフローの処理

原稿の読み込み中に、ハードディスクの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするかを確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したときの処理方法を設定します。

参照

- メモリオーバフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「ジョブ自動解除」（P.165）を参照してください。

■ジョブ中止

蓄積されたデータは破棄されます。

■読込済み原稿でジョブ実行

途中まで蓄積されたデータを有効にして処理します。

最大蓄積ページ数

ファクス原稿の最大蓄積ページ数を指定します。1 ～ 999 ページまで指定できます。

ミックスサイズ原稿読み取りモード

自動原稿送り装置で複数のサイズが混在した原稿を読み込むときの、読み取りモードを設定します。常に定形サイズの原稿を読み込む場合は、［定形モード］に設定することをお勧めします。

注記

- ［定形モード］に設定すると、次の原稿を読み込んだ場合、画像欠けが発生することがあります。
  - 非定形サイズの原稿を読み込んだ場合
  - ［サイズ検知切り替え］でインチ系に設定して、B4 原稿を読み込んだ場合

白紙スキップ機能

両面原稿を読み込むときに原稿が白紙かどうかを検知し、白紙ではない原稿面だけを送信する機能（白紙スキップ）を使用するかどうかを設定します。

補足

- この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店にお問い合わせください。

親展受信情報の表示優先順 1 ～ 5

親展受信した文書のファクス情報を表示するための優先順位を設定します。たとえば、ネットワークスキャナーユーティリティ 3 の場合、ここで設定した優先順位に従って、文書一覧画面の［相手先］欄に、ファクス情報を表示します。

優先順位は 1 ～ 5 まであり、それぞれに項目を設定できますが、常に 1 つの情報だけを表示させたいときは、優先順位の 1 ～ 5 に同じ項目を設定します。

ダイレクトファクスの使用

コンピューターからファクスドライバーで指示されたファクスの送信を許可するかどうかを設定します。［禁止］に設定すると、ダイレクトファクスは使用できません。

受信制限番号

ファクス受信を拒否する G3ID（電話番号）を指定します。最大 50 件まで指定できます。

補足

- ファクス受信拒否をしたい相手先の G3ID（電話番号）は、通信管理レポートの［相手］欄やジョブ履歴レポートの［入力（送信）元］欄で確認できます。

非通知番号の受信制限

G3ID が非通知のファクスを受信するかどうかを設定します。［する］に設定すると、G3ID が非通知のファクスは受信しません。

1300Hz 無鳴動受信

ファクシミリ通信網からの 1300Hz 無鳴動を受信するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、［ファクス受信モード］が［手動受信］の場合でも、ファクスが自動的に受信されます。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合は、本設定は適用されません。

受信文書の保存先 / 排出先

受信文書を指定した親展ボックスに振り分ける、ボックスセレクター機能を利用する場合の振り分け方法を設定します。

振り分け方法には、次の 2 つの方法があります。

- 電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター
- 受信回線別ボックスセレクター

補足

- 両方使用した場合は、電話番号 /G3ID 別ボックスセレクターの振り分けが優先されます。

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター

受信文書を、相手の電話番号（発信者電話番号）や、相手の G3ID や、自分の電話番号（ダイヤルイン番号）ごとに各親展ボックスに振り分けて蓄積できます。500 件まで登録できます。

注記

- 発信者番号通知サービスによる振り分けを利用する場合、送信側の設定などによってはナンバー・ディスプレイ情報が、認識できない場合があります。その場合、プリント排出されることがあります。また、モデムダイヤルインによる振り分け機能についても同様にプリント排出される場合があります。

補足

- モデムダイヤルインによる振り分けを使用する場合は、NTT とモデムダイヤルインの契約を結ぶ必要があります。また、発信者番号通知サービスによる振り分けを使用する場合は、NTT とナンバー・ディスプレイの契約を結ぶ必要があります。

1 ［電話番号別 /G3ID ボックスセレクター］を押します。

2 登録したいボックスセレクター番号を選択し、［登録 / 変更］を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 〈数字〉ボタンで 3 桁のボックスセレクター番号を入力すると、画面の一番上に入力したボックスセレクターが表示されます。

3 項目を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4 設定を登録 / 変更し、［閉じる］を押します。

■セレクト方法

［ダイヤルイン］、［発信電話番号］、［G3ID］が同時に通知された場合に、いずれかを優先的に使用するかを設定します。工場出荷時は、［ダイヤルイン］が設定されています。

■電話番号 /G3ID

振り分ける電話番号を〈数字〉ボタンで 20 桁以内で入力します。

＊（ワイルドカード）を使用すると、電話番号の先頭から確認します。たとえば、「03 ＊」と入力すると、「03」で始まる電話番号の文書を、指定した親展ボックスに蓄積します。

＊（ワイルドカード）を使用しないと、電話番号の末尾から確認します。たとえば、「1234」と入力すると、下 4 桁が「1234」の電話番号の文書を、指定した親展ボックスに蓄積します。

注記
- ＊（ワイルドカード）は、1 桁めには設定できません。

補足
- ボックスセレクター番号が小さい順に振り分け内容を確認し、文書を蓄積します。そのため、小さい番号に、より詳細な電話番号を登録しておくと、意図した振り分けができます。

■親展ボックス番号

〈数字〉ボタンで、3 桁の親展ボックス番号を指定します。指定した親展ボックスに文書が蓄積されます。

5 必要に応じて、手順 3、4 を繰り返します。

6 ［決定］を押します。

受信回線別ボックスセレクター

受信回線を利用した振り分けを設定しておくと、受信した文書を受信した回線ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積します。

補足
- 各回線に指定した親展ボックスを、メニュー画面の機能ボタンに割り当てることができます。機能ボタンには親展ボックスに格納されている文書数が表示され、ボタンを押すと、親展ボックス内の文書を確認できます。機能ボタンに表示させる方法については、「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」(P.35) を参照してください。

1 ［受信回線別ボックスセレクター］を押します。

2 登録したい回線を選択し、［確認 / 変更］を押します。

補足

- 装着されているオプションによって、表示される項目が異なります。

3 ［指定する］を押します。

4 文書を蓄積する親展ボックスの番号（3 桁）を〈数字〉ボタンで入力します。

5 ［決定］を押します。

受信回線別排出先

［受信回線別排出先］では、受信回線別の排出先などが設定できます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 装着されているオプションによって、表示される項目が異なります。

■回線 1 ～ 3 の排出先、回線 SIP の排出先

各回線の排出トレイを設定します。

■ポーリング予約ボックスの排出先

ポーリング予約ボックスの排出トレイを設定します。

■ファクス / インターネットファクスの排出先

［専用化する］を選択すると、フィニッシャーの排出トレイは、ファクス / インターネットファクス専用のトレイになります。

補足

- ファクス/インターネットファクス以外でも、厚紙などフィニッシャートレイに排出できない用紙は排出トレイに排出されます。

固定倍率ボタン

［読み取り方法］画面の［読み取り倍率］で、［プリセット %］に表示する倍率を設定します。［100%］と［自動 %］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

■定形変倍

定形倍率から選択できます。

■ズーム

任意の倍率を設定できます。50 ～ 400% の範囲で 1% 単位で指定します。

読み取りサイズボタン

［読み取り方法］画面の［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。

［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁に読み取るときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、読み取るたびに原稿サイズを入力する手間が省けます。

■A 系 B 系表示

A4 サイズや B5 サイズなど、A 系 B 系サイズから選択できます。

■インチサイズ表示

8.5×11” や 11×17” など、インチ系のサイズから選択できます。

■その他

写真サイズやはがきサイズなど、そのほかのサイズから選択できます。

自局情報

自局名や発信元名など自局に関する設定をします。

補足

- 装着されているオプションによって、表示される項目が異なります。
- G3 通信で使用できる回線は、回線 1、回線 2、回線 3 で、最大 3 回線です。
- 発信元名、G3ID（ファクス番号）、G3 ダイヤル種別、G3 回線種別を設定できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

自局名

自局の名前を自局名として登録します。

自局名は、相手側のディスプレイや通信管理レポートに表示されます。ただし、相手機によっては表示されないことがあります。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、半角 20 文字以内で指定します。

発信元名

発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、全角 30 文字以内で指定します。

補足

- ［回線 1 ～ 3 発信元名］や［回線 SIP 発信元名］が未登録の場合、この発信元名が使用されます。

受信パスワード

受信パスワードは、ファクスを送信してくる相手を制限したいときに設定します。

受信パスワードを設定すると、F コードで正しい受信パスワードを指定して送ってくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けます。F コード機能を持っていないファクスなどからは、受信できなくなるので、注意してください。

回線 1 ～ 3 発信元名

回線 1 ～ 3 の発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、全角 30 文字以内で指定します。

回線 1 ～ 3 G3 ID（ファクス番号）

回線 1 ～ 3 の G3 通信をする場合の G3ID を登録します。G3ID には、通常、自局のファクス番号を設定します。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、20 桁以内で指定します。

補足

- G3ID（ファクス番号）は、20 桁以内で 0 ～ 9、+、スペースが使用できます。

回線 1 ～ 3 G3 ダイヤル種別

回線 1 ～ 3 のダイヤル種別を設定できます。

■PB

プッシュ回線です。

■10pps

ダイヤル回線です。

■20pps

ダイヤル回線です。

回線 1 ～ 3 G3 回線種別

回線 1 ～ 3 の回線種別を設定できます。

■NTT

一般電話回線です。

■PBX

構内交換機です。

回線 SIP 発信元名

IP ファクス（SIP）の発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、全角 30 文字以内で指定します。

回線 SIP G3 ID

IP ファクス（SIP）をする場合の相手局に送信する G3 ID を登録します。

ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、20 桁以内で指定します。

インターネットファクス動作制御

インターネットファクス動作の制御に関連する設定をします。

送信経路

インターネットファクスの送信経路を設定します。

■メールサーバー経由

SMTP サーバーを経由してメールを送信します。

■ダイレクト（P2P）

SMTP サーバーを経由しないで、インターネットファクス 対応機へ直接送信できます。

インターネットファクス送信では、次の 2 つのメールアドレスの指定ができます。

- ホスト名を指定

  @ の右側が FQDN であることが必要です。
  例：local-part@device.domain.jp

- IP アドレスを指定

  @ の右側に IP アドレスを “［”“］” で指定します。
  例：local-part@[192.0.2.1]

注記

- 同じ送信先に対して、ホスト名の指定と IP アドレスの指定を混在して使用することはできません。
- 送信先の本体メールアドレスと送信元で設定するメールアドレスが一致しているときにだけ、プリントされます。

同報時のプロファイル

インターネットファクスの同報送信をするときの、インターネットファクスプロファイルの初期値を設定します。

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

注記

- 相手先のインターネットファクス対応機によっては､処理できるTIFFファイルのプロファイルが異なります。プロファイルを指定する場合は、相手先のインターネットファクス対応機で処理できるプロファイルを確認してください。

■TIFF-S

インターネットファクスの標準規格です。A4 サイズより大きいサイズの原稿の場合は、自動的に A4 サイズに縮小して送信されます。

■TIFF-F

送信画質で超高画質を指定したり、A3 サイズ、B4 サイズの原稿を送信したりする場合に選択します。

■TIFF-J

JBIG で原稿を送信する場合に選択します。

同報時の通信モード

インターネットファクスの同報送信をするときの、通信モードの初期値を設定します。

送達確認方式

送信したインターネットファクスが、受信側に届いたかどうかを確認する方法を設定します。

送信結果をプリントするには、［メール / インターネットファクス設定］ > ［メール送信動作制御］ > ［送達確認メールの自動プリント］を［する］に設定してください。

補足

- ［配送確認（DSN）］は、相手先が DSN 機能に対応している場合に使用できます。また、［開封確認（MDN）］は、相手先が MDN 機能に対応している場合に使用できます。

■配送確認（DSN）

送信したインターネットファクスが、最終宛先のメールボックスまで正しく送信されたかどうかを確認できます。

■開封確認（MDN）

送信したインターネットファクスが、最終宛先で添付ファイルの処理を含めて正しく処理されたかどうかを確認できます。

受信メールシートのプリント

インターネットファクス対応機から本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリント動作について設定できます。

■しない

添付文書だけをプリントします。

■ヘッダーすべてと本文をプリント

メールヘッダーとメールの本文をプリントします。

［S/MIME 情報をプリントする］にチェックを付けると、S/MIME 情報をプリントします。

■ヘッダーの一部と本文をプリント

メールヘッダーの一部（From/To/Subject/Date）とメールの本文をプリントします。

［本文がなければプリントしない］にチェックを付けると、本文があるときだけプリントします。

受信文書の排出先

インターネットファクス受信文書をプリントしたあとの排出トレイを設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

宛先表によるファクス転送制限

SMTP による形式でインターネットファクス受信したメールを、宛先表に登録されていないファクスに転送するときの制限を設定します。

■しない

転送制限はしません。

■する

転送先のファクス番号が宛先表に登録されているかどうかを確認し、登録されていなければ、受信を拒否してデータを破棄します。

ファクス転送時の発信元記録

受信メールをインターネットファクスからファクスに送信するときに、発信元記録（通信開始時刻、発信元名、宛先名、G3ID、枚数など）を付けるかどうかを設定します。

ファクス転送時の上限データサイズ

受信メールをインターネットファクスからファクスに送信するときの、最大データサイズを設定します。

■制限しない

データサイズの制限をしません。

■制限する

1 ～ 65535KB の範囲で 1KB 単位で指定します。指定値を超えた場合、データは破棄されます。

メール / インターネットファクス設定

［メール / インターネットファクス設定］では、メールおよびインターネットファクス機能に関する仕様を設定します。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［メール / インターネットファクス設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

メール送信動作制御

メール / インターネットファクスを送信するときの仕様に関する設定をします。

指定可能な最大送信先数

メールを送信するときの最大宛先アドレス数を指定します。

宛先アドレス数は、To:/Cc:/Bcc: の合計数です。

最大宛先アドレス数は、1 ～ 100 件の範囲で指定できます。最大宛先アドレス数を超えた場合は、メールの送信は中止されます。

注記
- インターネットファクス機能には適用されません。

受信メールシートのプリント

本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリント動作について設定できます。

■しない

添付文書だけをプリントします。

■ヘッダーすべてと本文をプリント

メールヘッダーとメールの本文をプリントします。

［S/MIME 情報をプリントする］にチェックを付けると、S/MIME 情報をプリントします。

■ヘッダーの一部と本文をプリント

メールヘッダーの一部（From/To/Subject/Date）と本文をプリントします。

［本文がなければプリントしない］にチェックを付けると、本文があるときだけプリントします。

エラー通知メールの自動プリント

間違ったアドレスを設定したり、エラーが発生して送信できなかった場合に、エラーメールを自動的にプリントするかどうかを設定します。

補足

- エラー通知メールのジョブ処理は、正常にプリントされた場合でも［ジョブ確認］画面、またはジョブ履歴レポートでは、「異常終了」と表示されます。

開封確認（MDN）要求への応答

開封確認（MDN）を要求されたときに、応答するかどうかを設定します。

■しない

応答しません。

■する

受信したメールを処理したときに、開封したことを送信元に知らせます。

開封確認（MDN）機能の使用

本機からメールを送信するときに、開封確認機能を使用するかどうかを設定します。

■禁止

開封確認機能を使用しません。

■許可

開封確認機能を使用します。

注記

- インターネットファクスを送信するときに、開封確認機能を使用するかどうかは、［ファクス設定］>［インターネットファクス動作制御］>［送達確認方式］で設定します。詳しくは、「送達確認方式」(P.282) を参照してください。

送達確認メールの自動プリント

送信結果のメール（DSN 返信メール /MDN 返信メール）を自動的にプリントするかどうかを設定します。

■しない

送信結果のメールをプリントしません。

■する

送信結果が成功か失敗かにかかわらず、自動的にプリントされます。

■不達時のみプリントする

送信に失敗したときだけ、プリントされます。

メールの分割方式

メールの分割方法の初期値を設定します。

■ページの区切りで分割

ページの区切りで分割します。

■データサイズ単位で分割

［1 通ごとのデータサイズ上限］で設定されたサイズで分割します。

1 通ごとのデータサイズ上限

メールを分割するデータサイズの上限を設定します。

512 ～ 20480KB の範囲で 1KB 単位で指定します。工場出荷時は、10240KB に設定されています。

合計データサイズ上限

メールのデータサイズの上限を設定します。

512 ～ 200000KB の範囲で 1KB 単位で指定します。工場出荷時は、200000KB に設定されています。

分割送信時の分割数上限

メール分割時の分割数の上限を設定します。

分割しない、または 2 ～ 500 の範囲で指定します。

未認証者の送信者アドレス

スキャナー（メール送信）時に、認証未登録ユーザーが［スキャナーメール送信］画面の［送信者］で、送信者のアドレスを変更することを許可するかどうかを設定します。

ゲストの送信者アドレス

スキャナー（メール送信）時に、ゲストユーザーが［スキャナーメール送信］画面の［送信者］で、送信者のアドレスを変更することを許可するかどうかを設定します。

取得成功時の送信者アドレス

スキャナー（メール送信）時に、認証ユーザーがメールアドレスを取得できた場合、［スキャナーメール送信］画面の［送信者］で、送信者のアドレスを変更することを許可するかどうかを設定します。

取得失敗時の送信者アドレス

スキャナー（メール送信）時に、認証ユーザーがメールアドレスを取得できなかった場合、［スキャナーメール送信］画面の［送信者］で、送信者のアドレスを変更することを許可するかどうかを設定します。

取得失敗時のメール送信制限

認証ユーザーがメールアドレスを取得できなかった場合、スキャナー（メール送信）の利用を制限するかどうかを設定します。

ユーザーのアドレスを宛先に追加

送信者のアドレスを、宛先に自動的に追加するかどうかを設定します。

ユーザーのアドレスを CC に追加

送信者のアドレスを、CC に自動的に追加するかどうかを設定します。

メール送信先の編集

メールの送信先（宛先、CC、BCC）の編集を、許可するかどうかを設定します。
メールの送信先の編集を禁止すると、メールの誤送信を防ぐことができます。

注記

- ［メール送信先の編集］を［禁止］に設定した場合は、［ユーザーのアドレスを宛先に追加］を［する］に設定してください。

宛先表設定

［宛先表設定］では、宛先表に関する仕様を設定します。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［宛先表設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

宛先表タイプ

宛先表を［宛先表タイプ 1］、［宛先表タイプ 2］から選択できます。

ディレクトリサービス

ディレクトリーサーバーに保存されているアドレス帳を利用するかどうかを設定します。

［使用する］を選択していても、次の条件を満たしていない場合は、ディレクトリーサーバーのアドレス帳は起動しません。

- 本機の IP アドレスが正しく設定されていること
- ディレクトリーサーバー (プライマリー) の IP アドレスまたはインターネットアドレスが設定されていること
- ディレクトリーサーバー、および本機に LDAP 通信で使用するポート番号が設定されていること

宛先表の初期表示 - スキャナー

［本体宛先表］、［ディレクトリサービス］から選択できます。

補足
- この項目の設定は、［ディレクトリサービス］が［使用する］に設定されている場合に有効になります。

宛先表の初期表示 - ファクス

［本体宛先表］、［ディレクトリサービス］から選択できます。

補足
- この項目の設定は、［ディレクトリサービス］が［使用する］に設定されている場合に有効になります。

宛先表検索の初期表示

［詳細検索］、［かんたん検索］から選択できます。

補足
- この項目の設定は、［宛先表タイプ］が［宛先表タイプ 1］に設定されている場合に有効になります。

表示開始番号 - ファクス

宛先表を最初に開いたときに、先頭に表示させる短縮宛先番号を指定できます。

短縮宛先番号を 1 ～ 2000 の範囲で指定します。

補足
- お使いの機種によって、指定できる短縮宛先番号の範囲が異なります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

ボックス設定

［ボックス設定］では、親展ボックスに保存された文書の処理方法を設定します。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［ボックス設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

外部取り出し後の文書削除

親展ボックス内に保存されている文書がクライアント側から取り出された場合に、文書を削除するかどうかを設定します。

■各ボックスの設定に従う

各親展ボックスの設定に従って、動作します。

参照
- 親展ボックスの設定については、「文書取り出し後の削除」(P.307) を参照してください。

■強制的に削除する

各親展ボックスに設定されている値は無効になり、クライアント側から文書が取り出されると、取り出された文書は強制的に削除されます。

親展ボックス文書の初期表示

文書一覧画面を開いたときの表示方法を設定します。［リスト表示］、［サムネール表示］から選択できます。

プリント文書保存時の向き指定

非定形サイズの文書を保存するときの向きを設定します。［たて］、［よこ］から選択できます。本設定で［たて］を選択しているとき、用紙トレイにセットできない向きのプリント文書が保存されると強制的に［よこ］で保存されます。

プリント時の削除確認画面表示

親展ボックス内の文書をプリントしたあとに、文書を自動的に削除する確認画面を表示するかどうかを設定します。

非定形文書転送時の定形化

親展ボックス内のファクス / インターネットファクス受信文書、親展ポーリング予約文書などを転送するときに、非定形サイズから定形サイズに変更するかどうかを設定します。

定形化時のサイズしきい値

［非定形文書転送時の定形化］で［する（ファクス / インターネットファクス文書のみ)］に設定したときに、非定形サイズを定形サイズに変更するための、しきい値を設定します。

0 ～ 10mm で 1mm 単位で設定します。

インターネットファクス受信文書転送 -1

インターネットファクス受信文書をインターネットファクスで転送できるようにするかどうかを設定します。

インターネットファクス受信文書転送 -2

インターネットファクス受信文書をメールで転送できるようにするかどうかを設定します。

取り出し時の画質 / ファイルサイズ

親展ボックスから文書を高圧縮して取り出す場合の、ファイル画質とファイルサイズを設定します。 ［標準画質 / 小さく］、［高画質 / ふつう］、または［最高画質 / 大きく］から選択できます。

ジョブフロー設定（ApeosPort シリーズのみ）

［ジョブフロー設定］では、ジョブフローに関する設定をします。ジョブフローとは、登録された一連の作業を実行する機能です。

また、ApeosWare JF Pool Service（別売）を利用してジョブフローを管理、保存する場合は、プールサーバーの設定をします。

プールサーバーとは、ジョブフローを管理、保存する外部のサーバーです。

プールサーバーを設定すると、プールサーバーに保存されているジョブフローの一覧取得、ジョブフローの取得ができます。

プールサーバーを利用するときは、あらかじめプールサーバー側に本機を登録する必要があります。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［ジョブフロー設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.142）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

プールサーバーの使用

プールサーバーを使用するかどうかを設定します。

プールサーバーのログイン方法

プールサーバーへのログイン方法について設定します。

■ログイン画面を表示

プールサーバーにログインするたびに、ログイン名とパスワードの入力画面が表示されます。

■自動的にログイン

プールサーバーに自動的にログインします。ここで、ログイン名とパスワードを設定しておきます。

表示するジョブフローの初期値

メニュー画面の［ジョブフロー］を押したときに表示される、保存場所、所有者、起点の初期値を設定します。

■保存場所

メニュー画面の［ジョブフロー］を押したときに、本体とプールサーバーのどちらのジョブフローを表示するかを設定します。

■所有者

機械管理者と機械管理者以外のどちらのジョブフローを表示するかを設定します。

補足
- 保存場所がプールサーバーの場合、または、認証有りの場合、共有と個人のどちらのジョブフローを表示するかを設定します。

■起点

スキャン、外部アプリケーション、コピーのどのジョブフローを表示するかを設定します。

カラー文書ファクス転送時の解像度

ジョブフローを使用して、カラー文書をファクス送信するときの解像度について設定します。

■保存時のまま（画質優先）

ファクス転送時に、読み取り解像度のままカラー文書を白黒文書に変換します。高解像度の文書ほど白黒への変換処理に時間がかかります。

■200dpi に変換（速度優先）

ファクス転送時に、カラー文書の解像度を 200dpi の白黒文書に変換します。解像度 300dpi 以上の文書は、白黒への変換時間を短縮できます。

200dpi はファクスの［高画質］に相当する送信画質です。

メディアプリント設定

［メディアプリント設定］では、［文書プリント］画面の［用紙選択］に表示する用紙トレイを設定します。

本機に USB メモリーキット（オプション）を取り付けると、文書（PDF、TIFF、XML Paper Specification （XPS）形式（MSXPS フォーマット、OpenXPS フォーマット）、XDW、XBD、JPEG（JFIF））ファイルを取り込んでプリントできます。これをメディアプリント機能と呼んでいます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［メディアプリント設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.142）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

文書プリント - 用紙トレイ 2 ～ 5 段目

［文書プリント］画面にある、［用紙選択］の 2 ～ 5 段めに表示する用紙トレイを選択します。

保存文書設定

［保存文書設定］では、親展ボックスに保存されている文書や、本機に保存されているプリント文書を自動的に削除するかどうかを設定します。保存期間、削除する日（経過日数）、削除する時刻を設定できます。

また、保存文書の種類ごとに削除する / しないの設定ができます。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［保存文書設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.142）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ボックス文書の保存期間

親展ボックス内の文書の保存期間を設定します。自動的に削除する場合は、削除する日（経過日数）と時刻を設定できます。この設定は、すべての親展ボックスに共通の設定となります。

■設定しない

文書の保存期間を設定しないため、保存されているプリント文書が自動的に削除されることはありません。

■設定する

文書の保存期間と削除時刻を設定します。保存期間経過後、［削除時刻］で設定した時刻になると、文書は自動的に削除されます。

■保存期間

文書の保存期間を、1 ～ 14 日の範囲で指定します。

■削除時刻

保存期間が過ぎた文書の削除する時刻を、1 ～ 12 時、00 ～ 59 分、午前 / 午後の範囲で指定します。

補足
- ［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［時刻］で、［24 時間制表示］が選択されている場合は、0 ～ 23 時、00 ～ 59 分の範囲で指定します。

参照
- 自動削除を設定する場合は、文書を削除する動作を有効に設定してください。詳しくは、「保存期間経過文書の削除」（P.307）を参照してください。

蓄積プリント文書の保存設定

蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリント、サンプルプリントの文書）を自動的に削除するかどうかを設定します。

■保存期間の設定

蓄積プリント文書の保存期間を設定します。

［設定しない］、［設定する］、［ボックス文書の設定に従う］から選択します。［設定する］を選択すると、［保存期間］を 1 ～ 23 時間の範囲で 1 時間単位で設定します。

保存期間が経過すると、文書は自動的に削除されます。［ボックス文書の設定に従う］を選択すると、［ボックス文書の保存期間］の設定に従って、削除されます。

■電源切 / 入時に削除

電源を切って、入れ直したときに、蓄積プリント文書を削除するかどうかを設定します。［する］に設定すると、すべての蓄積プリント文書を削除します。［しない］に設定すると、保存期間を経過した蓄積プリント文書だけを削除します。

注記

- ［する］を設定した場合、［保存期間の設定］の設定によらずに、すべての蓄積プリント文書が削除されます。

プリント文書一覧の詳細表示

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリントの文書）の一覧に、カラーモードや片面 / 両面などの詳細情報を表示するかどうかを設定します。［する］に設定すると、一覧に詳細情報が表示されます。［しない］に設定すると詳細情報が表示されないため、1 ページに表示する文書数を増やすことができます。

プレビューイメージの作成

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を表示するときに、プレビューイメージを作成するかどうかを設定します。［する］に設定すると、文書を蓄積するときに蓄積プリント文書のプレビューイメージが作成されます。［しない］に設定するとプレビューイメージは作成されず蓄積プリント文書の一覧が表示されます。プレビューイメージを作成するかしないかはプリンタードライバーから設定することができます。プリンタードライバーと本体とで異なる設定が行われた場合は、プリンタードライバーの設定が優先されます。

プレビューイメージの作成時間

蓄積プリント文書のプレビューイメージの作成時間を制限するかどうかを設定します。［制限しない］を選択すると蓄積プリント文書のプレビューイメージを時間制限なく作成します。［制限する］を選択すると、制限時間内で作成されたプレビューイメージのみ表示されます。制限時間を超えた場合、プレビューイメージは作成されません。制限時間は 10 ～ 900 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

プリント文書一覧の初期表示

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を表示するときの初期表示をリスト表示にするか、サムネール表示にするかを設定します。［リスト表示］を選択すると、蓄積プリント文書の一覧が初期表示されます。［サムネール表示］を選択すると、蓄積プリント文書のプレビューイメージが初期表示されます。

プリント時の確認画面表示

蓄積プリント文書をプリントするときに、プリント後の文書削除に関する確認画面を表示するかどうかを設定します。［する］に設定すると、確認画面が表示されます。部数変更ができる文書の場合は、部数を変更できます。［しない］に設定すると、プリント後に文書は自動的に削除されます。

蓄積時の暗証番号最小桁数

セキュリティープリント文書や認証プリント文書を蓄積したり、プリントしたりするときに必要な暗証番号の最小桁数を、0 ～ 12 桁の範囲で設定します。

ここで設定した桁数より多い桁数で、暗証番号を設定する必要があります。

補足

- 最小桁数を指定しない場合や、暗証番号を入力しない場合は、[0] に設定します。

全文書選択時のプリント順

保存文書の全文書を選択した場合のプリントの順番を設定できます。

■日時の古い順

日時の古い順番にプリントします。

■日時の新しい順

日時の新しい順番にプリントします。

■文書名順

文書名の順番にプリントします。

■文書名逆順

文書名の逆の順番にプリントします。

外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）

［外部アクセス設定］では、外部アクセスの接続先を設定します。

外部アクセスとは、本機と連携した外部サービスを操作パネルに直接表示したり、本機でスキャンした文書を外部サービスにアップロードしたり、外部のサーバーに保存されている文書を選択して、直接プリントしたりする機能です。コンピューターを経由せずに、ファイルのアップロードやプリントができます。

補足

- この機能を利用するには、外部アクセスキット（オプション）や弊社製の外部連携アプリケーション（別売）が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［外部アクセス設定］を押します。

参照

- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.142）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

サーバー証明書の検証を行う場合の設定

インターネットゾーンなどにある外部サーバー（ASP）への接続において、Windows の Web ブラウザーと同様に、フィッシング抑止のためにサーバー証明書の検証を行う場合は、次の設定が必要です。

準備

接続したい外部サーバーのサーバー証明書を発行している、ルート証明機関のルート証明書（CA 証明書）を、CentreWare Internet Services で接続するコンピューターにダウンロードしておいてください。

CA 証明書ファイルの対応形式は次のとおりです。

- DER encoded binary X.509 形式（.CER）
- Base 64 encoded X.509 形式（.CER）
- Cryptographic Message Syntax Standard - PKCS #7 証明書形式（.P7B）

設定手順

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.358）を参照してください。

2 自己証明書の生成を行い、設定します。取得済みのデバイス証明書を使用する場合は、手順 3 に進みます。

1) ［プロパティ］タブをクリックします。

2) ［セキュリティー］をクリックします。

3) ［証明書の設定］をクリックします。

4) ［証明書の作成］ボタンをクリックします。

5) [自己証明書] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

6) [公開鍵のサイズ] と [発行者] を設定し、[新しい設定を適用] ボタンをクリックします。

しばらくすると「設定が更新されました。」が表示されます。

3 SSL/TLS の通信を有効にします。

1) [SSL/TLS 設定] をクリックします。

2) [HTTP - SSL/TLS 通信] の [有効] にチェックを付けます。

3) [相手サーバーの証明書の検証] の [有効] にチェックを付けます。

4) [新しい設定を適用] ボタンをクリックします。

5) Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わったら、[再起動] をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

4 外部サーバー用のルート証明書を本機にインポートします。

1) Web ブラウザーで、CentreWare Internet Services の再読み込みを行います。

補足
- Web ブラウザーのアドレス欄には、「http」ではなく「https」から始まるアドレスが表示されます。

2) [プロパティ] タブをクリックします。

3) [セキュリティー] をクリックします。

4) [証明書の設定] をクリックします。

5) [証明書のインポート] をクリックします。

6) インポートするファイル名を直接入力するか、[参照] ボタンをクリックして表示される、ダイアログボックスでインポートするファイルを選択します。

7) [インポート] ボタンをクリックします。

しばらくすると「設定が更新されました。」が表示されます。

8) Web ブラウザーで、CentreWare Internet Services の再読み込みを行います。

5 証明書がインポートされたことを確認します。確認しない場合は、手順 6 に進みます。

1) [証明書管理] をクリックします。

2) [カテゴリー] の [信頼されたルート証明機関] を選択し、[一覧の表示] を押します。

3) 確認したい証明書のチェックボックスにチェックを付けます。

4) [証明書の表示] ボタンを押します。

6 外部サーバーの接続情報を設定します。

1) [プロパティ] タブをクリックします。

2) [一般設定] をクリックします。

3) [外部アクセス] をクリックします。

4) 外部サーバーの接続情報を設定します。

5) ［編集］をクリックします。

ここでも、外部サーバーの接続情報を設定します。

注記
- ［URL］を設定する場合は、「http」ではなく「https」から始まるアドレスを設定してください。

6) ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

しばらくすると「設定が更新されました。」が表示されます。

接続先の登録

外部アクセスの接続先を登録します。

補足
- 登録したいサーバーが複数ある場合は、登録先をメニュー画面に表示されるボタンに割り付けると便利です。メニュー画面のボタンの設定変更については、「初期表示画面を変更する」（P.31）を参照ください。

1 ［接続先の登録］を押します。

2 登録するサーバーの番号を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3 新規にアクセス先を登録する場合は、接続先の URL を入力します。

■URL

接続先の URL を半角英数字で 256 文字以内で入力して、［決定］を押します。URL は、プロトコルの種類から入力します。

使用される外部アクセス用 Web ブラウザーは、「Web ブラウザー設定」（P.302）の［外部アクセスバージョンの選択］で設定したバージョンのブラウザーで接続します。

例）

- http://www.example.com
- http://192.0.2.1 （IPv4 の場合）
- http://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合）
- https://www.example.com
- https://192.0.2.1（IPv4 の場合）
- https://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合）

使用する外部アクセス用 Web ブラウザーのバージョンを指定して接続する場合は、プロトコルの種類のあとにバージョンを入力します。［外部アクセスバージョンの選択］の設定より優先します。

例）

- V2 を指定する場合
  - http-v2://www.example.com
  - http-v2://192.0.2.1（IPv4 の場合）
  - http-v2://［2001:DB8;;1234］（IPv6 の場合）

- V4 で指定する場合
  - http-v4://www.example.com
  - http-v4://192.0.2.1（IPv4 の場合）
  - http-v4://[2001:DB8;;1234]（IPv6 の場合）
- V5 で指定する場合
  - http-v5://www.example.com
  - http-v5://192.0.2.1（IPv4 の場合）
  - http-v5://[2001:DB8;;1234]（IPv6 の場合）

補足
- V3 で指定した場合は、V4 で接続されます。
- 暗号化機能つきのプロトコルの場合は、「https:」から入力します。

4 そのほかの項目を必要に応じて設定します。

■接続先名

接続先に付ける名前を全角 16 文字（半角 32 文字）以内で設定します。

■説明

接続先の説明を全角 64 文字（半角 128 文字）以内で設定します。

■接続用ユーザー ID の使用

- 使用しない
  - ［認証方式の設定］が［外部認証］の場合
    本機で認証されているユーザー情報を使用して、外部サービスにアクセスします。
  - ［認証方式の設定］が［認証しない］、［本体認証］の場合
    外部サービスにアクセスするためのユーザーIDとパスワードの入力が必要です。
- 使用する

  外部サービスにアクセスするためのユーザー情報（［接続用ユーザー ID］、［接続用ユーザー ID のパスワード］）を登録し、外部サービスにアクセスするときの認証情報として使用します。

■接続用ユーザー ID

外部サービスにアクセスするためのユーザー ID を半角英数字で 128 文字以内で設定します。

注記
- 外部サービスの種類によっては、［接続用ユーザー ID］を設定しても、設定が無効になる場合があります。使用する外部サービスの設定を確認してください。

補足
- ［接続用ユーザー ID］を設定するときは、［接続用ユーザー ID のパスワード］も一緒に設定してください。両方が設定された場合に、自動認証されます。
- 接続する外部サービスの認証方法が、ユーザー ID とパスワードを入力する方法以外の場合、ここでの設定は無効になります。

■接続用ユーザー ID のパスワード

接続用ユーザー ID に対するパスワードを、半角英数字 128 文字以内で設定します。

■本体 / 認証情報の通知

本体を特定するための情報や、利用するユーザーの認証情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

補足
- これらの情報は、接続する外部サービスによって使用するかどうかが判断されるため、通常、操作パネルで設定することはありません。

■ユーザー権限情報の通知

利用するユーザーの権限情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

■すべての登録内容を削除

設定されている登録内容をすべて削除します。

■機能コード

ApeosPort との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

機能コードは 0 から 65535 の範囲で設定します。

その他の設定

認証情報送信時の確認画面

本機でユーザー認証をしたときのユーザー情報（認証したユーザー ID、パスワード、メールアドレス、サービス制限など）を外部アクセスの接続先サーバーに送信するときに、確認画面を表示するかどうかを設定します。

補足
- ［表示しない］に設定しても、認証情報に不備があるときには確認画面が表示されます。

Web ブラウザー設定

［Web ブラウザー設定］では、外部アクセス時の Web ブラウザーに関する設定をします。

外部アクセスとは、本機と連携した外部サービスを操作パネルに直接表示したり、本機でスキャンした文書を外部サービスにアップロードしたり、外部のサーバーに保存されている文書を選択して、直接プリントしたりする機能です。コンピューターを経由せずに、ファイルのアップロードやプリントができます。

注記
- ［外部アクセスバージョンの選択］は、ApeosPort との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

補足
- この機能を利用するには、外弊社製の外部連携アプリケーション（別売）が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［Web ブラウザー設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

外部アクセスバージョンの選択

外部アクセスバージョンを［V2］、［V4］、［V5］から選択します。

注記
- ［V2］を選択した場合、［終了時の永続 Cookie 削除］、［終了時のキャッシュ削除］、［キャッシュの使用］、［Cookie の使用］、［TLS1.0 の使用］、［SSL3.0 の使用］、［SSL 証明書検証失敗時の動作］、［ファイルプリント機能の使用］の設定は、Web ブラウザーの動作には反映されません。

補足
- Web ブラウザーバージョンの V3 を使用する場合は、［V4］を選択します。

終了時の永続 Cookie 削除

外部アクセス終了時に永続（期限付き）Cookie を削除するかどうかを設定します。

終了時のキャッシュ削除

外部アクセス終了時にキャッシュを削除するかどうかを設定します。

キャッシュの使用

キャッシュを利用するかどうかを設定します。

Cookie の使用

Cookie を使用するかどうかを設定します。

［しない］、［する］、または［保存を確認する］を設定します。

［保存を確認する］に設定すると、［する］を設定したときと同じ動作をします。

TLS1.0 の使用

TLS1.0 を使用するかどうかを設定します。

SSL3.0 の使用

SSL3.0 を使用するかどうかを設定します。

SSL 証明書検証失敗時の動作

SSL サーバー証明書の検証を失敗したときに、サーバーへのアクセスを中止するか、アクセス確認画面を表示するかを設定します。

ファイルプリント機能の使用

ファイルプリント機能を使用するかどうを設定します。ファイルプリント機能とは、外部 Web サーバーから取得した印刷可能なファイルを直接プリントできる機能です。

機能コード

ApeosPort との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

機能コードは 0 から 65535 の範囲で設定します。

BMLinkS 設定

［BMLinkS 設定］では、BMLinkS に関する仕様を設定します。

参照
- BMLinkS の機能の概要は、「BMLinkS 機能の設定」（P.407）を参照してください。
- BMLinkS の機能を使用するためには、BMLinkS のポートを起動する必要があります。詳しくは、「BMLinkS 機能の設定」（P.407）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［BMLinkS 設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」（P.142）を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

表示するファイルの種類

［BMLinkS メニュー］の［保存文書印刷］で、［ファイルを選択］画面に表示するファイルの種類を指定できます。

■すべて

拡張子が「tif」、「tiff」、「bmd」、「pdf」のファイルを表示します。

■TIFF（*.tif/*.tiff/*.bmd）

拡張子が「tif」、「tiff」、「bmd」の TIFF ファイルだけを表示します。

検索パケット有効期限（TTL）

スキャンしたデータの保存先や、プリントするデータの保存先を検索するときの、パケット有効期限を、1 ～ 10 の範囲で指定します。

検索時間の上限

スキャンしたデータの保存先や、プリントするデータの保存先を検索するときにかかる時間の上限を、1 ～ 255 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

ここで設定した時間以内に保存先が検索できないと、タイムアウトエラーとなり、データは破棄されます。

登録 / 変更

［登録 / 変更］では、親展ボックス、ジョブフロー、宛先表などの登録や変更ができます。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

各設定の詳細と参照先は、次のとおりです。

ボックス登録 305
ジョブメモリー登録 308
ジョブフロー登録 308
ジョブフロー検索キーワード登録 318
宛先表登録（短縮宛先登録） 318
宛先グループ登録 328
コメント登録 329
用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定 329

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［登録 / 変更］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ボックス登録

親展ボックスとは、本機から読み込んだスキャン文書や、ファクス文書、コンピューターから指示したプリント文書を本機内に保存することができる機能です。

また、保存するだけではなく、親展ボックスに格納された文書をメール送信したり、ネットワーク上のコンピューターから取り出すことができます。

個人ボックスや共有ボックスを登録し使い分けることもできます。

そのための親展ボックスを登録します。親展ボックスは 500 個まで登録できます。

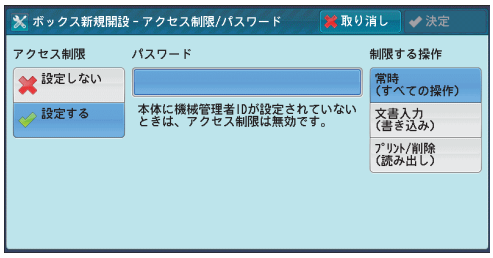
参照
- 親展ボックスの登録状況は、「親展ボックス登録リスト」で確認できます。詳しくは、「親展ボックス登録リスト」(P.125) を参照してください。

1 ［ボックス登録］を押します。

2 登録する親展ボックスを選択します。

補足
- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。
- 〈数字〉ボタンで 3 桁のボックス番号を入力すると、入力した親展ボックスが画面の一番上に表示されます。

3 新規にボックスを登録するときは、[アクセス制限 / パスワード]画面が表示されます。項目を設定して［決定］を押します。



補足
- 登録済みのボックスを選択すると、［登録 / 変更］画面が表示されます。

参照
- アクセス制限については、「アクセス制限 / パスワード」(P.306) を参照してください。

4 項目を選択して、設定します。

5 設定が終わったら、［閉じる］を押します。

ボックス名称

親展ボックスの名前を設定します。ディスプレイに表示されるキーボードと〈数字〉ボタンを使って、全角 10 文字（半角 20 文字）まで入力できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

アクセス制限 / パスワード

特定のユーザーだけに操作を許可するために、アクセスの制限を設定できます。

■アクセス制限

アクセス制限を設定するかどうかを設定します。

■パスワード

アクセス制限を設定する場合は、パスワードを設定します。0 ～ 9 の数字で、20 桁まで入力できます。

■制限する操作

制限する操作を設定します。

- 常時（すべての操作）

  親展ボックスに文書を格納するとき、およびプリントや削除などの操作のためボックス内の文書一覧を表示させるときに、パスワードの入力が必要となります。

- 文書入力（書き込み）

  親展ボックスに文書を格納するときのみ、パスワードの入力が必要となります。

- プリント / 削除（読み出し）

  プリントや削除などの操作のためボックス内の文書一覧を表示させるときのみ、パスワードの入力が必要となります。

文書取り出し後の削除

親展ボックスに保存されている文書をプリントしたときや、外部からの取り出し操作後に、文書を削除するかどうかを設定します。

■削除しない

文書を保存しておきます。

■削除する

文書をプリントしたり、文書を取り出したりしたあと、自動的に文書を削除します。

補足

- ［削除する］に設定した場合でも、CentreWare Internet Services から取り出したときは、文書は削除されません。

保存期間経過文書の削除

選択している親展ボックス内に蓄積されている文書を、保存期間経過後の指定された時刻に削除する動作を有効にするかどうかを設定します。

■無効

指定されている保存期間を経過しても文書は削除されません。

■有効

保存期間経過後の指定された時刻に文書を削除します。

ただし、保存期間が指定されていない場合は、［有効］を設定しても文書は削除されません。文書の保存期間を指定してください。

補足

- 保存期間が過ぎて、削除時刻に本機の電源が切れていた場合は、電源を入れたあと、削除時刻になった時点で文章を削除します。

参照

- 保存期間の設定方法は、「ボックス文書の保存期間」（P.294）を参照してください。

ジョブフローの関連付け

ジョブフローを親展ボックスに関連づけることができます。一連の作業内容を登録したジョブフローを関連づけることにより、親展ボックス内に保存されている文書の処理方法を設定できます。

参照

- ジョブフローの登録方法は、「ジョブフロー登録」（P.308）を参照してください。

■関連付け解除

親展ボックスに関連づけられているジョブフローを解除します。

■関連付けの設定 / 変更

ジョブフローを関連づけるための画面が表示されます。既存のジョブフローから選択するか、新規のジョブフローを作成できます。

参照
- 詳しくは、「ジョブフロー登録」(P.308) を参照してください。

■自動実行

［自動実行］にチェックを付けると、親展ボックスに文書が保存されると同時に、自動的にジョブフローに登録されている作業内容で処理が開始されます。

［ボックス削除］ボタンを選択した場合

選択されている親展ボックスを削除します。親展ボックス内に文書がある場合は、すべての文書が削除されます。また、［認証方式の設定］で［認証しない］に設定されている場合は、一般ユーザーが［ボックス登録］画面、または［ボックス操作］画面で作成したジョブフローも削除されます。

注記
- 削除した文書とジョブフローは、元に戻せません。

ジョブメモリー登録

ジョブメモリーとは、よく使う機能の設定を登録したり、一連の操作ステップを記録する機能です。

参照
- 詳しくは、『ユーザーズガイド』の「8 ジョブメモリー」>「ジョブメモリーの登録 / 削除 / 変更」を参照してください。

ジョブフロー登録

ジョブフローとは、登録された一連の作業内容を実行する機能です。ジョブフローは 1000 まで登録できます。

ジョブフローの実行は、親展ボックスに蓄積された文書が対象になります。ジョブフローを実行するには、次の方法があります。

- 親展ボックスに文書が蓄積された時点で自動で実行する方法
- 親展ボックスに保存されている文書を選択して、関連づけられているジョブフローを手動で実行する方法
- 親展ボックスに保存されている文書を選択して、ジョブフローを選択して手動で実行する方法

ジョブフローを自動実行するには、親展ボックスにジョブフローを関連づける必要があります。自動実行を設定した親展ボックスに文書が蓄積されると、自動的にジョブフローに従って処理されます。

補足
- ［ジョブフロー登録］で作成したジョブフローを親展ボックスに関連づける場合は、［ボックス操作］または［ボックス登録］から行います。ボックス操作については『ユーザーズガイド』の「6 ボックス操作」を、［ボックス登録］については「ボックス登録」(P.305) を参照してください。

登録できる機能は、次のとおりです。

- 転送先指定（FTP、SMB、メール、ファクス送信、IP ファクス、インターネットファクス送信）
- プリント

親展ボックスへの蓄積方法によって、機能の組み合わせに制限があります。

		出力						
		プリント	ファクス送信	IP ファクス (SIP)	インターネットファクス送信 *1	メール送信	FTP 送信	SMB 送信
入力	ファクス親展ポーリング予約	○	○	○	○	○	○	○
	スキャナー（ボックス保存）	○	○	○	○	○	○	○
	ファクス親展受信	○ *2	○	○	○	○	○	○
	インターネットファクス親展受信	○	○	○	△	△	○	○
	プリント蓄積	×	×	×	×	×	×	×

○ :実行可能
× :実行不可
△ :機械管理者モードの設定によって、実行可能

*1 インターネットファクス転送でプロファイルを TIFF-S に設定した場合、A4 原稿はよこ置きにセットしてください。たて置きにセットすると、インターネットファクス画像が縮小されます。

*2 親展ボックスの設定を、プリント完了後、文書を削除するよう設定しておいても、親展受信文書をプリント中にファクスの USB ケーブルを抜いた場合は、プリント完了後、親展ボックス内の文書は削除されません。

ジョブフローの利用制限について

ジョブフローには、個人で使用するもの、共有して使用するもの、また、特定の親展ボックスに関連づけて使用するものなどがあり、認証機能によって利用できるジョブフローに制限があります。

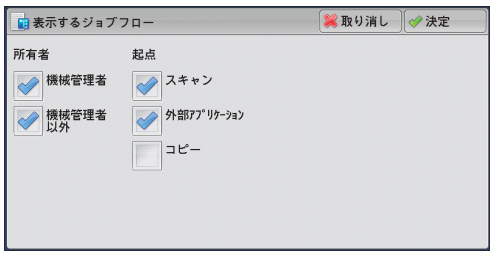
参照
- 利用できるジョブフロー、および利用制限は、「ジョブフローと親展ボックスの認証」(P.474) を参照してください。

1 ［ジョブフロー登録］を押します。

2 目的に応じて項目を選択します。

■表示するジョブフロー

表示するジョブフローの絞り込みができます。絞り込む条件を選択して、［決定］を押します。



補足
- ユーザー認証機能の設定によって、画面の表示が異なります。

- 所有者：ジョブフローの所有者の種類で、表示するジョブフローを絞り込みます。
- 起点（ApeosPort シリーズのみ）：スキャンが起点のジョブフローか、親展ボックスが起点のジョブフローかなど、ジョブフローの起点で、表示するジョブフローを絞り込みます。
- 保存場所（ApeosPort シリーズのみ）：本体に保存されているジョブフローか、プールサーバーに保存されているジョブフローかで、表示するジョブフローを絞り込みます。

■新規作成

［ジョブフローの新規作成］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「ジョブフローの新規作成」（P.311）を参照してください。

■内容確認（変更 / 削除）

［内容確認］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「内容確認（変更 / 削除）」（P.318）を参照してください。

■名称で検索

ジョブフローの名称を対象に、入力した文字と部分的に一致するジョブフローを検索します。検索文字は半角 128 文字（全角 64 文字）まで入力できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.48）を参照してください。

■キーワードで検索

ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、キーワードと完全に一致するジョブフローを検索します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.48）を参照してください。

■キーワードを選択して検索

［キーワードを選択して検索］画面が表示されます。仕様設定で登録済みのキーワードを選択して、ジョブフローを検索できます。ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、キーワードと完全に一致するジョブフローを検索します。

参照
- キーワードの登録は、「ジョブフロー検索キーワード登録」（P.318）を参照してください。

プールサーバーへのログインについて（ApeosPort シリーズのみ）

プールサーバーとは、ジョブフローを管理、保存する外部のサーバーです。

利用の設定をすると、プールサーバーに保存されているジョブフローの一覧取得、ジョブフローの取得ができます。

プールサーバーを利用するには、［ジョブフロー設定］で［プールサーバーの使用］を［許可］に設定して、プールサーバー側で本機を登録する必要があります。

また、［ジョブフロー設定］の［プールサーバーのログイン方法］を［自動的にログイン］に設定している場合は、自動的にプールサーバーにログインして、プールサーバーに保存されているジョブフローが表示されます。

［自動的にログイン］に設定していない場合で、プールサーバーに保存されているジョブフローを表示させるときは、ログイン画面が表示されます。

補足

- ［ログイン名とパスワードを記憶］チェックボックスは、本体認証を利用している場合に表示されます。チェックマークを付けると、同じユーザーで次回ログインしたときに、今回入力したログイン名とパスワードが入力された状態で表示されます。

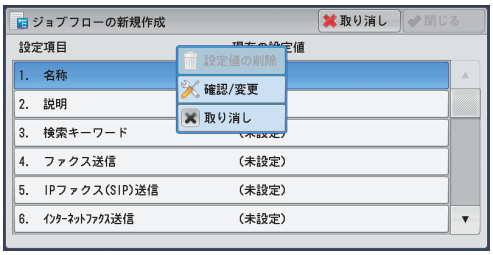
参照

- ジョブフロー設定については、『ユーザーズガイド』の「6 ボックス操作」を参照してください。

ジョブフローの新規作成

ジョブフローを新規に作成します。

1 項目を選択して［確認 / 変更］を押します。



■設定値の削除

選択した項目の設定値をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した項目の設定値の確認と変更ができます。

■取り消し

選択した項目を解除します。

名称

ジョブフローに付ける名前を全角 64 文字（半角 128 文字）以内で設定します。

説明

ジョブフローの説明を全角 128 文字以内で設定します。

検索キーワード

ジョブフローの検索キーワードを全角 6 文字（半角 12 文字）以内で設定します。

ジョブフロー検索キーワードで登録されているキーワードを使用することもできます。

参照
- ジョブフロー検索キーワードについては、「ジョブフロー検索キーワード登録」（P.318）を参照してください。

ファクス送信

ファクス送信の宛先を指定します。

短縮宛先番号指定と直接入力で、合わせて 100 か所まで指定できます。

注記
- ワイルドカード、グループ番号による指定はできません。

■短縮番号

短縮宛先番号で宛先を指定します。短縮宛先番号を〈数字〉ボタンで入力して、［決定］を押します。指定した宛先は、［ファクス送信］画面の［宛先名 / ファクス番号］に表示されます。

■新規宛先

新規に宛先を指定します。指定した宛先は、［ファクス送信］画面の［宛先名 / ファクス番号］に表示されます。

■宛先名 / ファクス番号

指定した宛先名またはファクス番号が表示されます。

■削除

選択した宛先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した宛先の確認と変更ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」（P.318）を参照してください。

■取り消し

選択した項目を解除します。

IP ファクス（SIP）送信

■短縮番号

短縮宛先番号で宛先を指定します。短縮宛先番号を〈数字〉ボタンで入力して、［決定］を押します。指定した宛先は、［IP ファクス（SIP）送信］画面の［宛先名 / ファクス番号］に表示されます。

■新規宛先

新規に宛先を指定します。指定した宛先は、［IP ファクス（SIP）送信］画面の［宛先名 / ファクス番号］に表示されます。

■宛先名 / ファクス番号

指定した宛先名またはファクス番号が表示されます。

■削除

選択した宛先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した宛先の確認と変更ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」(P.318) を参照してください。

■取り消し

選択した項目を解除します。

インターネットファクス送信

インターネットファクス送信の宛先を指定します。

短縮宛先番号指定と直接入力で、合わせて 100 か所まで指定できます。

注記
- ワイルドカード、グループ番号による指定はできません。

■短縮番号

短縮宛先番号で宛先を指定します。短縮宛先番号を〈数字〉ボタンで入力して、［決定］を押します。指定した宛先は、［インターネットファクス送信］画面の［宛先名 / アドレス］に表示されます。

■新規宛先

新規に宛先を指定します。指定した宛先は、［インターネットファクス送信］画面の［宛先名 / アドレス］に表示されます。

■宛先名 / アドレス

指定した宛先名またはアドレスが表示されます。

■削除

選択した宛先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した宛先の確認と変更ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」(P.318) を参照してください。

■取り消し

選択した項目を解除します。

■コメント（メール本文）

インターネットファクス の本文を、表示されるキーボードを使って入力します。

■インターネットファクスプロファイル

インターネットファクスのプロファイル形式を選択します。

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

■送信失敗時の再送信

送信に失敗したときに再送信するかどうかを設定します。［する］に設定した場合は、再送信する回数と間隔を設定します。

- 再送信回数

  再送信する回数を 1 ～ 5 回の範囲で設定します。

- 再送信間隔

  再送信の間隔を 30 ～ 300 秒の範囲で設定します。

■発信元記録

インターネットファクスに発信元記録を付けるか付けないかを設定します。

メール送信

メール送信の送信先を設定します。

宛先表からの選択と直接入力で、合わせて 100 か所まで設定できます。

［暗号化］が［する］に設定されている場合は、［新規送信先］を選択して宛先を指定することはできません。

■宛先表

宛先表から送信先を設定できます。設定した送信先は、［メール送信］画面の［宛先名 / アドレス］に表示されます。

■新規送信先

新規に送信先を設定します。設定した送信先は、［メール送信］画面の［宛先名 / アドレス］に表示されます。

■宛先名 / アドレス

指定した宛先名またはアドレスが表示されます。

■件名

メールの件名を、表示されるキーボードを使って入力します。

■削除

選択されている送信先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

［送信先の確認 / 変更］画面が表示されます。選択した送信先の確認と変更ができます。

参照

- ［送信先の確認 / 変更］画面については、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」を参照してください。

■出力ファイル形式

出力ファイル形式を設定します。

参照

- 詳しくは、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」を参照してください。

■送信失敗時の再送信

転送に失敗したときに、再送信するかどうかを設定します。［する］に設定した場合は、再送信する回数と間隔を設定します。

- 再送信回数

  再送信する回数を 1 ～ 5 回の範囲で設定します。

- 再送信間隔

  再送信の間隔を 30 ～ 300 秒の範囲で設定します。

■暗号化

メール送信を暗号化するかどうかを設定します。

補足

- 暗号化するには、S/MIME の設定が必要です。
- メール送信を暗号化するには、証明書が必要です。
- ［暗号化］を［する］に設定する場合は、送信先を指定する前に設定してください。送信先を指定したあとでは、［暗号化］を［する］に設定できません。

■デジタル署名

デジタル署名するかどうかを設定します。

補足

- デジタル署名するには、S/MIME の設定が必要です。
- メール送信にデジタル署名するには、証明書が必要です。

FTP 転送 1、FTP 転送 2

FTP 転送の保存先を設定します。

［FTP 転送 2］は、［FTP 転送 1］を設定した場合に表示されます。

■宛先表

宛先表にサーバーアドレスを登録している場合は、宛先表から宛先が指定できます。指定した宛先は、［FTP 転送 1］（［FTP 転送 2］）画面に表示されます。

参照

- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」(P.318) を参照してください。

■出力ファイル形式

出力ファイル形式を設定します。

参照

- 詳しくは、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」を参照してください。

■送信失敗時の再送信

転送に失敗したときに、再送信するかどうかを設定します。［する］に設定した場合は、再送信する回数と間隔を設定します。

- 再送信回数

  再送信する回数を 1 ～ 5 回の範囲で設定します。

- 再送信間隔

  再送信の間隔を 30 ～ 300 秒の範囲で設定します。

■宛先名、サーバー、保存場所、ユーザー名、パスワード

［宛先名］、［サーバー］、［保存場所］、［ユーザー名］、［パスワード］を選択すると、入力画面が表示されます。

入力できる文字数は、次のとおりです。

- 宛先名：全角 18 文字
- サーバー：半角 64 文字
- 保存場所：半角 128 文字
- ユーザー名：半角 97 文字
- パスワード：半角 32 文字

SMB 転送 1、SMB 転送 2

SMB 転送の保存先を設定します。

［SMB 転送 2］は、［SMB 転送 1］を設定した場合に表示されます。

■宛先表

宛先表にサーバーアドレスを登録している場合は、宛先表から宛先が指定できます。指定した宛先は、［SMB 転送 1］（［SMB 転送 2］）画面に表示されます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」（P.318）を参照してください。

■出力ファイル形式

出力ファイル形式を設定します。

参照
- 詳しくは、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」を参照してください。

■送信失敗時の再送信

転送に失敗したときに、再送信するかどうかを設定します。［する］に設定した場合は、再送信する回数と間隔を設定します。

- 再送信回数

  再送信する回数を 1 ～ 5 回の範囲で設定します。

- 再送信間隔

  再送信の間隔を 30 ～ 300 秒の範囲で設定します。

■宛先名、サーバー、共有名、保存場所、ユーザー名、パスワード

［宛先名］、［サーバー］、［共有名］、［保存場所］、［ユーザー名］、［パスワード］を選択すると、入力画面が表示されます。

入力できる文字数は、次のとおりです。

- 宛先名：全角 18 文字
- サーバー：半角 64 文字
- 共有名：半角 64 文字、全角 32 文字
- 保存場所：半角 128 文字
- ユーザー名：ドメインユーザーは、「ユーザー名 @ ドメイン名」または「ドメイン名￥ユーザー名」の形式で 97 文字（ユーザー名は半角 32 文字、全角 16 文字、ドメイン名は半角 64 文字、全角 32 文字）。ローカルユーザーは、半角 32 文字
- パスワード：半角 32 文字

プリント

プリントの設定をします。［する］を選択した場合は、機能を設定します。

■部数

部数を 1 ～ 999 部の範囲で 1 部単位で指定します。

■用紙選択

プリントする用紙トレイを設定します。［自動］を選択すると、原稿サイズと同じ用紙サイズにプリントされます。

- 自動
  適切な用紙トレイが自動的に選択されます。
- トレイ 1 ～ 4、6 ～ 7（オプション）
  6 種類のトレイから用紙を選択できます。
- 手差し
  トレイ 5（手差し）の用紙にプリントされます。

■両面プリント

両面プリントを設定します。

■ホチキス / パンチ / 排出先

ホチキス、パンチ、排出先の設定をします。

- ホチキス
  ホチキスで留める位置を選択します。
- パンチ
  パンチ穴を開ける位置を選択します。
- 排出先
  排出先のトレイを選択します。

メール通知

親展ボックスに文書蓄積時、およびジョブフローの実行結果をメールで通知できます。

■宛先名 / アドレス

実行結果のメールの通知先を設定します。

■本文

メールに付加されるコメントを入力します。

■通知タイミング

［文書格納時］および［ジョブフロー終了時］に通知するかどうかを設定します。

■削除

選択した宛先の情報をすべて削除します。

■確認 / 変更

選択した宛先の確認と変更ができます。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録（短縮宛先登録）」（P.318）を参照してください。

■取り消し

選択した項目を解除します。

内容確認（変更 / 削除）

ジョブフローの内容確認と変更 / 複製 / 削除ができます。

補足
- ジョブフローの所有者の種類や認証の設定、操作するユーザーの種類などに応じて、操作に制限があります。詳しくは、「ジョブフローと親展ボックスの認証」（P.474）を参照してください。

■削除

ジョブフローを削除します。

■複製

ジョブフローの複製が作成されます。複製されたジョブフローを元に新しいジョブフローが作成できます。

参照
- 作成方法は新規作成と同じです。詳しくは、「ジョブフローの新規作成」（P.311）を参照してください。

■変更

ジョブフローの設定が変更できます。

参照
- 変更方法は新規作成と同じです。詳しくは、「ジョブフローの新規作成」（P.311）を参照してください。

ジョブフロー検索キーワード登録

ジョブフロー検索キーワードを登録します。ここで登録したキーワードは、ジョブフローを検索するときに、［キーワードを選択して検索］の選択肢として表示されます。また、ジョブフローを新規作成するときに［検索キーワード］として使用できます。

ジョブフロー検索キーワードは、全角 6 文字（半角 12 文字）まで入力できます。

宛先表登録（短縮宛先登録）

よく使用する相手の宛先を、宛先表に登録できます。登録できる宛先の種類は、ファクス、IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、メール、サーバー（FTP/SMB）から選択できます。

宛先表に登録すると、ファクス、IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、スキャナー（メール送信）の［宛先表］で検索できます。

宛先は、ファクス、IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、メール、サーバー（FTP/SMB）の合計で、2000 か所まで登録できます。

注記
- 宛先表に登録できるアドレス（宛先種別）には、ファクス用、IP ファクス（SIP）用、インターネットファクス用、メール用、サーバー（FTP/SMB）保存用など複数の種類があります。宛先表に登

録するときは、使用する機能に合わせて、宛先種別を正しく選択してください。誤った宛先種別で登録されたアドレスは、必要な機能から呼び出すことができませんので、ご注意ください。

補足

- 短縮宛先番号は、ワンタッチボタンに対応しています。ワンタッチボタンは、ファクスと IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、スキャナー（メール送信）、スキャナー（ＰＣ 保存）で利用できます。短縮宛先番号とワンタッチボタンの対応については、「ワンタッチボタンの割り当て」（P.170）を参照してください。
- スキャン機能で、メールの宛先や保存先のサーバーを指定するときは、〈数字〉ボタンでの短縮宛先番号入力や、宛先グループの指定はできません。
- CentreWare Internet Services からも、宛先表の新規登録、編集、削除、一覧表示などができます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

1 ［宛先表登録（短縮宛先登録）］を押します。

補足

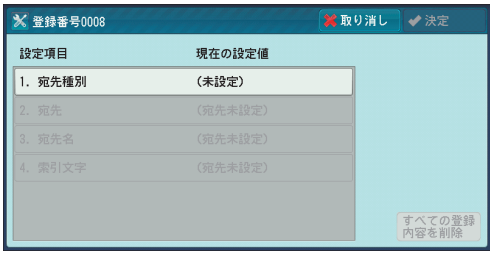
- ［宛先表登録（短縮宛先登録）］画面を表示するには、〈認証〉ボタンを押して機械管理者の User ID を入力し、［仕様設定 / 登録］ > ［登録 / 変更］ > ［宛先表登録（短縮宛先登録）］を押してください。メニュー画面に［登録 / 変更］が表示されている場合は ［登録 / 変更］ > ［宛先表登録（短縮宛先登録）］を押してください。

2 登録する番号を選択します。

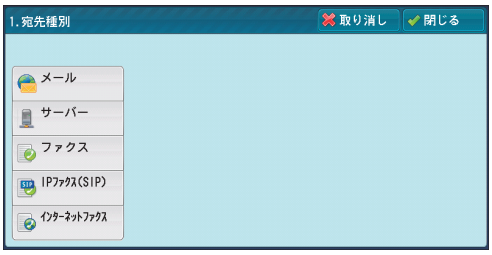
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 〈数字〉ボタンで 4 桁の短縮番号を入力すると、入力した短縮番号が画面の一番上に表示されます。

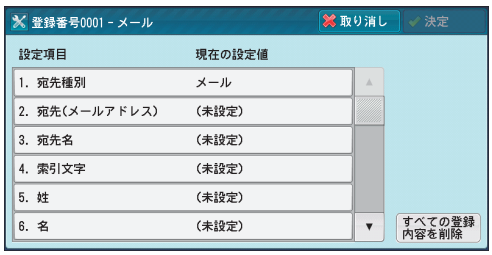
3 ［宛先種別］を選択します。



4 宛先種別を選択し、［閉じる］を押します。



5 設定する項目を選択し、設定します。



6 すべての設定が終わったら、［決定］を押します。

■宛先種別で［メール］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（メールアドレス）
- 宛先名
- 索引文字
- 姓
- 名
- 補助項目 1
- 補助項目 2
- 補助項目 3
- S/MIME 用証明書（ApeosPort シリーズのみ）

■宛先種別で［サーバー］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先名
- 索引文字
- 転送プロトコル
- サーバー名 /IP アドレス
- 保存場所
- ユーザー名
- パスワード
- ポート番号
- 共有名（SMB のみ）

■宛先種別で［ファクス］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（ファクス番号）
- 宛先名
- 索引文字
- 通信モード
- 送信画質
- 送信シート
- 最大蓄積サイズ
- 時刻指定
- 親展通信
- F コード通信
- 中継同報
- 課金情報 - 昼間料金
- 課金情報 - 夜間料金
- 課金情報 - 深夜料金

■宛先種別で［IP ファクス（SIP)］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（ファクス番号）
- 宛先名
- 索引文字
- 通信モード
- 送信画質
- 送信シート
- 最大蓄積サイズ
- 時刻指定
- 親展通信
- F コード通信
- 中継同報
- 課金情報 - 昼間料金
- 課金情報 - 夜間料金
- 課金情報 - 深夜料金

■宛先種別で［インターネットファクス］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（メールアドレス）
- 宛先名
- 索引文字
- S/MIME 用証明書（ApeosPort シリーズのみ）
- 通信モード
- 送信画質
- 最大蓄積サイズ
- インターネットファクスプロファイル

宛先種別

宛先種別を変更できます。

宛先（メールアドレス）

メールアドレスを、半角 128 文字以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

宛先名

宛先名を、全角 18 文字以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

索引文字

宛先表のかな索引や英数索引で使用するキーワードとして、ひらがな、英数のうちどれか 1 文字を索引文字として登録できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

姓

宛先人の姓を、全角 16 文字（半角 32 文字）以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

名

宛先人の名を、全角 16 文字（半角 32 文字）以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

補助項目 1

［補助項目 1 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。全角 10 文字（半角 20 文字）まで入力できます。文字列が短めの情報（電話番号や社員番号など）に適しています。

参照
- 属性名については、「補助項目 1 ～ 3 の属性名」(P.240) を参照してください。

補助項目 2

［補助項目 2 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。全角 20 文字（半角 40 文字）まで入力できます。文字列が長めの情報（事業所や部署など）に適しています。

参照
- 属性名については、「補助項目 1 ～ 3 の属性名」(P.240) を参照してください。

補助項目 3

［補助項目 3 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。全角 30 文字（半角 60 文字）まで入力できます。文字列が長い情報（部署名や住所など）に適しています。

参照
- 属性名については、「補助項目 1 ～ 3 の属性名」(P.240) を参照してください。

S/MIME 用証明書（ApeosPort シリーズのみ）

S/MIME 用証明書の関連づけができます。あらかじめ、証明書を作成しておく必要があります。

証明書を関連づける場合は、［関連付けの設定 / 変更］を押して、表示された画面で証明書を選択します。関連づけを解除する場合は、［関連付け解除］を押します。

注記
- ハードディスクの初期化や証明書の削除により、宛先表の S/MIME 用証明書に関連付けられていた証明書が削除されると、S/MIME 用証明書の関連付けは無効になります。関連付けした S/MIME 用証明書を再度登録した場合には、宛先表の S/MIME 用証明書の関連付けを手動でやり直してください。

補足
- 本機に登録されている証明書が多い場合は、証明書の関連付けに時間がかかる場合があります。

参照
- 証明書については、「暗号化と署名機能の設定」(P.437) を参照してください。

転送プロトコル

転送プロトコルを設定します。［FTP］、［SMB］から選択できます。

補足
- ［SMB］に設定した場合、ネットワーク参照機能が使用できます。

サーバー名 /IP アドレス

転送先のサーバー名または IP アドレスを入力します。

共有名（SMB のみ）

SMB フォルダーに設定されている共有名を入力します。

注記
- 共有名の先頭に「/」を使用すると、ジョブフローで正しく共有名を読み出せません。共有名の先頭には、「/」を使用しないでください。

保存場所

文書を保存するためのディレクトリーを入力します。SMB の場合は、UNC 形式で入力します。

- FTP 転送の場合

  例）ログイン時のルートディレクトリーにある、aaa ディレクトリーの bbb ディレクトリーに保存する場合
  aaa/bbb

- SMB 転送の場合

  例）指定したボリュームの aaa ディレクトリーにある、bbb ディレクトリーに保存する場合
  aaa￥bbb

ユーザー名

転送先のサーバーからユーザー名の入力を求められる場合は、ユーザー名を設定します。

［転送プロトコル］で［FTP］を選択した場合、97 文字まで入力できます。

［転送プロトコル］で［SMB］を選択した場合、次のような形式で入力できます。

- アクティブディレクトリーの場合

  ユーザー名 @ ドメイン名（ユーザー名：32 文字まで、ドメイン名：64 文字まで）

  入力例：fuji@example.com （fuji: ユーザー名、example.com：ドメイン名）

- Windows NT® ドメインの場合

  ドメイン名￥ユーザー名（ドメイン名：64 文字まで、ユーザー名：32 文字まで）

  入力例：example￥fuji（example：ドメイン名、fuji: ユーザー名）

- ワークグループの場合

  ローカルユーザー（32 文字まで）

  入力例：Fuji-Taro

パスワード

転送先のサーバーからパスワードの入力を求められる場合は、パスワードを設定します。パスワードは、半角 32 文字まで入力できます。

ポート番号

転送先のポート番号を指定します。1 ～ 65535 の範囲で入力します。

宛先（ファクス番号）

宛先を、128 桁以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

索引文字

宛先表のかな索引や英数索引で使用するキーワードとして、ひらがな、英数のうちどれか 1 文字を索引文字として登録できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

通信モード

通信モードを設定します。[G3 自動]、[国際通信] から選択できます。

通信モードを設定した短縮宛先番号を宛先に指定した場合、[ファクス / インターネットファクス] 画面で通信モードは変更できません。

補足
- [G4 自動] は、インターネットファクス宛先に対してだけ表示されます。

送信画質

送信するときの画質を設定します。

[パネル]（操作パネルで選択されている画質)、[標準]、[高画質]、[超高画質 (400dpi)]、[超高画質（600dpi)] から選択します。

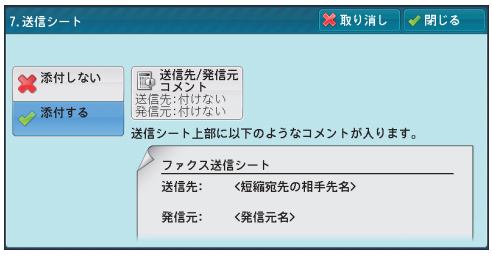
送信シート

送信シートを添付して送信するかどうかを設定します。添付する場合は、送信シートに入れる送信先と発信元のコメントを指定します。

コメントはあらかじめ登録が必要です。

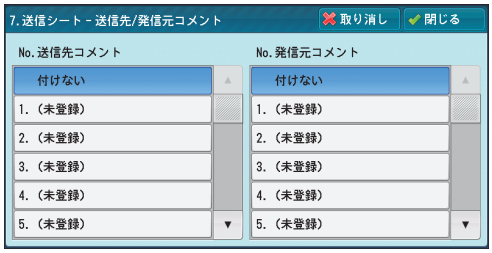
参照
- コメントの登録方法は、「コメント登録」(P.329) を参照してください。

1 [添付する] を選択します。



2 [送信先 / 発信元コメント] を押します。

3 送信先と発信先のコメントを選択します。



補足

- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。

4 [閉じる] を押します。送信シートの入力例が表示されます。

5 [閉じる] を押します。

最大蓄積サイズ

相手先の受信紙サイズや処理できるプロファイルに合わせて、最大蓄積サイズを [A3]、[A4]、[B4] から選択します。

時刻指定

時刻指定送信をするかどうかを設定できます。

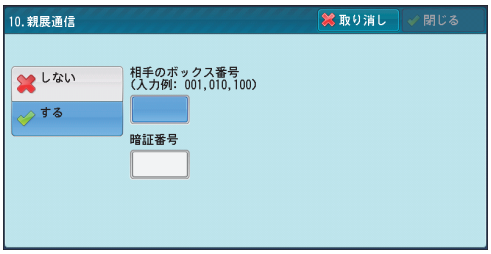
参照

- 本機のシステム時計の時刻を 24 時間表示に設定している場合は、[午前 (AM)] と [午後 (PM)] は表示されません。詳しくは、「時刻」(P.164) を参照してください。

親展通信

親展通信をするかどうかを設定します。なお、親展通信をする場合は、あらかじめ相手先の親展ボックスの番号と暗証番号が必要です。

1 [する] を選択します。



2 〈数字〉ボタンで、[相手のボックス番号] を入力します。

3 暗証番号が設定されている場合は、〈数字〉ボタンで、[暗証番号] を入力します。

補足

- 暗証番号が設定されていない場合は、入力しないで [閉じる] を押してください。

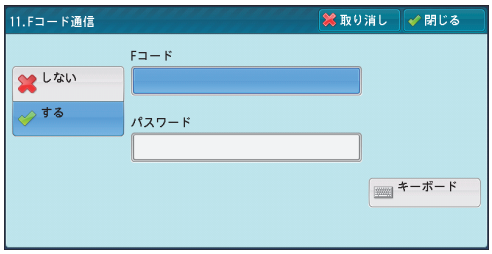
F コード通信

F コード通信をするかどうかを設定します。

F コード通信とは、ITU-T で標準化された T.30（通信の規格のことです）のサブアドレスの使い方について、情報通信ネットワーク産業協会が定めた通信手順のことです。

F コード（サブアドレス）とパスワードは、20 桁以内で、0 ～ 9、＊、＃が使用できます。

1 ［する］を選択します。



2 〈数字〉ボタンで、［F コード］を入力します。

補足

- F コードは、「0」＋親展ボックス番号になります。たとえば、親展ボックス番号が「123」の場合、F コードは、「0123」になります。

3 必要に応じて、〈数字〉ボタンで［パスワード］を入力し、［閉じる］を押します。

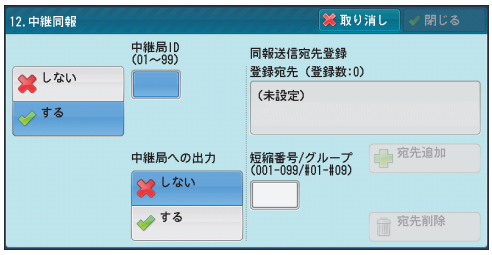
補足

- パスワードは 20 桁まで入力できます。

中継同報

本機が指示局となって中継同報をする場合で、登録した短縮宛先番号を中継局とするときの中継局への指示内容を設定します。［する］に設定した場合は、［中継局 ID］、［中継局への出力］、［同報送信宛先］を設定します。

1 ［する］を押します。



2 〈数字〉ボタンで、［中継局 ID］を 2 桁で入力します。

補足

- 中継局 ID とは、あらかじめ中継局に登録されている指示局（本機）の短縮宛先番号です。

3 ［短縮番号 / グループ］を選択します。

4 〈数字〉ボタンで、中継局に登録されている同報先の短縮宛先番号（001 ～ 099）または中継局に登録されている宛先グループ番号（#01 ～ #09）を入力し、［宛先追加］を押します。

補足
- 複数の同報先がある場合には、続けて短縮宛先番号または宛先グループ番号を入力し、［宛先追加］を押します。

5 中継局にも文書をプリントする場合には、［中継局への出力］の［する］を選択します。

6 ［閉じる］を押します。

課金情報 - 昼間料金、課金情報 - 夜間料金、課金情報 - 深夜料金

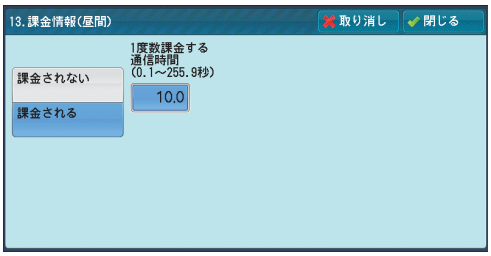
時間帯（昼間 / 夜間 / 深夜）別の 1 度数あたりの通信時間（単位通信時間）を設定します。

0.1 ～ 255.9 秒の範囲で、0.1 秒単位で設定できます。

参照
- この項目は、［集計管理］>［集計管理機能の運用］で、［各機能の集計］の［ファクス / インターネットファクス］を［集計する］に設定すると表示されます。詳しくは、「各機能の集計」(P.336) を参照してください。
- 登録した内容は、「課金データリスト」をプリントして確認できます。詳しくは、「課金データリスト」(P.125) を参照してください。

1 ［課金情報 - 昼間料金］、［課金情報 - 夜間料金］、［課金情報 - 深夜料金］のどれかを選択します。

2 ［課金される］を選択します。



3 〈数字〉ボタンを使って、1 度数あたりの時間を、0.1 ～ 255.9 秒の範囲で 0.1 秒単位で設定します。

4 ［閉じる］を押します。

インターネットファクスプロファイル

インターネットファクスのプロファイル形式を設定します。

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

■TIFF-S

インターネットファクスの標準規格です。A4 サイズより大きいサイズの原稿の場合は、自動的に A4 サイズに縮小して送信されます。

■TIFF-F

送信画質で超高画質を指定したり、A3 サイズ、B4 サイズの原稿を送信したりする場合に選択します。

■TIFF-J

JBIG で原稿を送信する場合に選択します。

［すべての登録内容を削除］ボタンを選択した場合

選択されている宛先の登録内容を削除します。宛先の登録内容を削除する場合は、［はい（削除する）］を選択してください。

注記

- 削除した設定内容は、元に戻すことはできません。

宛先グループ登録

同報送信する宛先をまとめて宛先グループとして登録できます。1 グループに最大 20 件の短縮宛先番号を登録できます。登録できるグループ数は、50 です。

なお、宛先グループに登録する宛先は、あらかじめ短縮宛先番号に登録しておく必要があります。

補足

- ［宛先種別］が［メール］または［サーバー］の短縮宛先番号を、宛先グループに登録しても、宛先の対象にはなりません。
- 宛先グループに、宛先グループは登録できません。
- ワイルドカードは短縮宛先番号の下 1 桁または 2 桁で使用できます。次の例のように、ワイルドカードを使用した登録ができます。
  - 001*：0010 ～ 0019 の 10 件の短縮登録された宛先が指定できます。
  - 02**：0200 ～ 0299 の 100 件の短縮登録された宛先が指定できます。

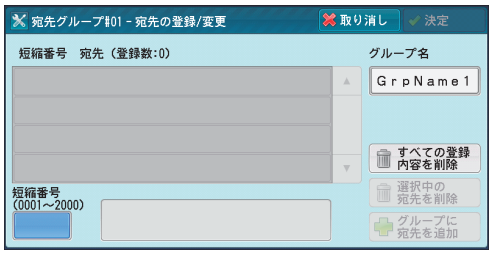
1 ［宛先グループ登録］を押します。

2 登録したい宛先グループ番号を選択します。

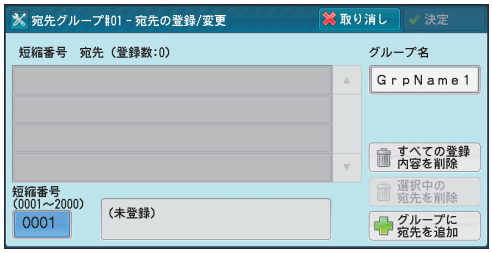
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

3 ［グループ名］を押し、登録したいグループ名を入力し、［決定］を押します。



4 ［短縮番号］に、登録したい短縮宛先番号（4 桁）を〈数字〉ボタンで入力し、［グループに宛先を追加］を押します。



5 手順 4 の操作を繰り返して、短縮宛先番号を登録します。

6 ［決定］を押します。

■すべての登録内容を削除

グループに登録されているすべての内容を削除します。

■選択中の宛先を削除

登録した宛先を削除します。

短縮番号を選択するか、〈数字〉ボタンで削除したい短縮宛先番号を入力し、［選択中の宛先を削除］を押します。

コメント登録

送信シートに付けるコメントを登録します。コメント数は最大 50 件で、それぞれ全角 18 文字まで入力できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定

用紙トレイにセットする用紙のサイズや用紙種類などを設定します。

参照
- 詳しくは、「用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定」(P.175) を参照してください。

集計管理

［集計管理］では、本機を利用するユーザーの登録や集計管理機能の運用設定ができます。

参照
- 機能については、「認証と集計管理機能について」(P.463) を参照してください。

各設定の詳細と参照先は、次のとおりです。

ユーザー登録 / 集計確認 330
登録内容の削除 / 集計リセット 334
機械管理者のコピー集計確認.....335
集計管理機能の運用.....335
集計管理情報の設定.....336
ファクス課金データ設定 338

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［集計管理］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

ユーザー登録 / 集計確認

集計管理を有効にする場合、登録したユーザーの認証を行うために、User ID、およびユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。ユーザーデータは、1,000 件まで登録できます。

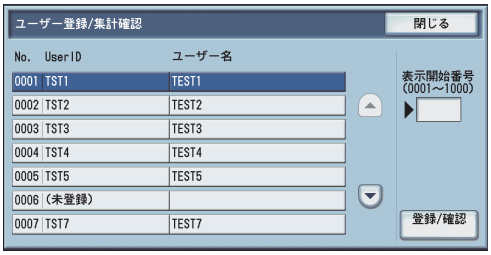
［認証 / セキュリティ設定］の［ユーザー登録 / 集計確認］と同じ内容です。

注記
- ユーザー登録は、「集計管理機能の運用」(P.335) で、使用する集計管理モードを設定してから、行ってください。

補足
- この項目は、「集計管理機能の運用」(P.335) で［ネット集計管理］を選択しているときは表示されません。

1 ［ユーザー登録 / 集計確認］を押します。

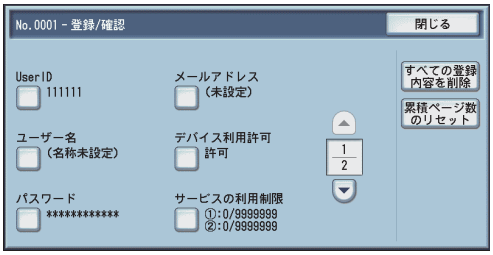
2 ユーザー登録する［No.］を選択し、［登録 / 確認］を押します。



補足

- ［No.］はユーザー管理番号です。
- ［(未登録)］の［No.］を選択した場合は、User ID を入力する画面が表示されます。User ID を入力し、［決定］を押してください。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 〈数字〉ボタンで 4 桁のユーザー登録する番号を入力すると、入力した番号が画面の一番上に表示されます。

3 任意の項目を選択して、設定します。



4 ［閉じる］を押します。

User ID

本機を利用するための User ID を、半角 32 文字まで入力できます。

ユーザー名

ユーザー名を設定します。半角 32 文字（全角 16 文字）まで入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

パスワード

パスワードを設定します。セキュリティーを強化するためにも、パスワードの設定をお勧めします。パスワードは、4 ～ 12 桁の範囲で設定できます。

補足

- パスワードは、［パスワード使用 - パネル入力時］が［する］に設定されている場合に、ユーザー認証をするときに必要になります。

参照

- ユーザー認証後に、自分のパスワードを変更する方法は、「パスワードの変更」(P.488) を参照してください。

メールアドレス

メールアドレスを 128 文字以内で入力します。ここで設定したアドレスは、［スキャナー（メール送信）］の［送信者］に設定されます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.48) を参照してください。

デバイス利用許可

本機の利用を許可するかどうか設定できます。

■許可

本機の利用を許可します。本機に IC カードリーダーが接続されている場合、許可するかどうか認証方式ごとに設定できます。

■禁止

本機の利用を禁止します。

サービスの利用制限

コピー、ファクス、スキャナー、プリンターの機能ごとに、利用制限や上限ページ数を指定できます。

1 ［サービスの利用制限］を押します。

2 制限する機能を選択します。

3 ページ数の上限を指定する場合は、［上限ページ数の変更］を押し、〈数字〉ボタンで上限ページ数を入力します。

■機能制限

機能の利用制限を設定します。

- 制限しない
  機能の制限はしません。
- コピー / ファクス / スキャナー / プリンター
  各機能の使用を制限できます。

■上限ページ数の変更

コピー、スキャナー、プリンターのページ数の上限を設定します。

「1 ～ 9,999,999」ページ（7 桁）まで設定できます。1 枚単位に設定します。

- コピーでは次の利用制限が設定できます。
  - ユーザーごとに、［制限しない］または［コピー禁止］
  - ユーザーごとに、上限ページ数（1 ～ 9,999,999）

- ファクスでは次の利用制限が設定できます。
  - ユーザーごとに、[制限しない]、または［ファクス禁止］
- スキャナーでは次の利用制限が設定できます。
  - ユーザーごとに、[制限しない]、[白黒のみ許可]、[カラーのみ許可]、または［スキャナー禁止］
  - ユーザーごとに、カラーの上限ページ数、白黒の上限ページ数（1 ～ 9,999,999）
- プリンターでは次の利用制限が設定できます。
  - ユーザーごとに、［制限しない］または［プリンター禁止］
  - ユーザーごとに、上限ページ数（1 ～ 9,999,999）

ユーザーの権限

■管理の権限

ユーザーの管理の権限を設定します。

- 一般ユーザーの権限

  特別な権限は与えられません。
- 機械管理の権限

  次の例外を除いて、機械管理者と同じ権限が与えられます。
  - 親展ボックスへの操作はできない
  - ジョブフローへの操作はできない
  - 機械管理者のパスワード変更はできない
- 集計管理の権限

  次の権限が与えられます。
  - ユーザー登録情報の登録、削除、変更（パスワードのみ変更不可）、参照（設定により操作できないことがあります）
  - 集計管理の登録、削除、変更、参照
  - Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
  - ユーザー別集計管理レポートのプリント

■権限の追加設定

権限グループを指定します。

カード番号

DocuLyzer（別売）を装着している場合は、カード番号を、1 ～ 9999999 の範囲で設定します。

すべての登録内容を削除

選択したユーザーに登録されているすべてのデータが削除されます。

■はい（削除する）

登録したユーザーデータを削除します。削除すると、元に戻すことはできません。

注記

- ユーザーがオーナーになっているジョブフロー、親展ボックス、および親展ボックス内の文書も削除されます。ユーザーがオーナーになっている対象が多い場合（大量の文書が親展ボックス内に残っている場合など）は、削除にかなり時間がかかります。

■いいえ（削除しない）

ユーザーデータの削除をキャンセルします。

累積ページ数のリセット

選択したユーザーの、現在までの累積ページ数をリセットして「0」に戻します。

■はい（リセットする）

累積ページ数をリセットします。リセットすると、元に戻すことはできません。

■いいえ（リセットしない）

累積ページ数のリセットをキャンセルします。

登録内容の削除 / 集計リセット

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートを出力して、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

［認証 / セキュリティ設定］の［登録内容の削除 / リセット］と同じ内容です。

補足

- この項目は、「集計管理機能の運用」（P.335）で［ネット集計管理］を選択しているときは表示されません。

■全ユーザーの登録内容

ユーザーごとに登録している設定内容をすべて削除します。また、上限ページ数、累積ページ数、プリンター集計データなどのデータもすべて削除します。

注記

- ユーザーがオーナーになっているジョブフロー、親展ボックス、および親展ボックス内の文書も削除されます。ユーザーがオーナーになっている対象が多い場合（大量の文書が親展ボックス内に残っている場合など）は、削除にかなり時間がかかります。

■全ユーザーの機能制限

全ユーザーの機能制限をすべて削除します。

■全ユーザーの上限ページ数

全ユーザーの上限ページ数を初期値（9,999,999）にリセットします。

■全ユーザーの集計管理データ

機械管理者を含む、全ユーザーのすべての集計管理データをリセットします。ページ数も、「0」にリセットされます。

■全ユーザーの権限グループ

全ユーザーのすべての権限グループをリセットします。

■プリンター集計データ

すべてのプリンター集計データをリセットし、自動登録されたジョブオーナー名を削除します。プリントした集計枚数も、「0」にリセットされます。

補足

- ［プリンター集計データ］は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。

■全機能の集計管理レポート

全機能の集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。

■プリンター集計レポート

プリントの集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。

補足

- ［プリンター集計レポート］は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。

■削除 / リセット

選択した項目のデータを削除 / リセットします。

機械管理者のコピー集計確認

機械管理者モードから使用したコピーの累積ページ数を、画面で確認 / リセットできます。

累積ページ数は、「9,999,999」枚までカウントできます。

補足

- この項目は、「集計管理機能の運用」(P.335) で［ネット集計管理］を選択しているときは表示されません。
- DocuLyzer（別売）接続時は、機械管理者で認証してもカードを挿入しないとコピーできません。そのため、機械管理者の累積ページ数としてはカウントされず、挿入したカード番号にカウントされます。詳しくは、DocuLyzer の取扱説明書を参照してください。

集計管理機能の運用

集計管理機能を使用するかどうかを設定します。

運用しない

本機で操作するときに、集計管理は行いません。

本体集計管理

集計管理を行います。

ネット集計管理

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理を行います。ユーザー情報は、外部サービスから登録します。

補足

- ［ネット集計管理］に設定すると、集計が必要なサービスを利用しようとしたときに表示される［認証］画面で、「Account ID」を入力できるようになります。

参照

- 詳しくは、「集計管理モードの種類」(P.468) を参照してください。

各機能の集計

サービスごとに集計管理機能を使用するかどうかを設定します。

設定できるサービスは次のとおりです。

- コピー
- スキャナー（URL 送信）
- スキャナー（PC 保存）
- スキャナー（メール送信）
- スキャナー（USB メモリー保存）
- スキャナー（WSD）
- 文書プリント
- スキャナー（ボックス保存）
- プリンター
- ファクス/インターネットファクス

補足

- 表示される項目は、搭載しているサービスによって異なります。
- サービスを［集計する］に設定すると、メニュー画面の該当するサービスに［ ］が表示されます。また、メニュー画面の左下に［ : ログインが必要です］が表示されます。認証すると［］および［ : ログインが必要です］の表示は消えます。
- 「受信制御」(P.349) の設定によっては、ジョブが中止される場合があります。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

入力情報の照合

入力するときに、入力情報を照合するかどうかを設定します。

［する］を選択すると、［プリント／ダイレクトファクスジョブの照合］も選択できます。

ユーザー入力項目

認証するために、ユーザーが入力する項目を設定します。

補足

- Account ID は集計のための ID です。

- User ID と Account ID

  認証するときに、User ID と Account ID の両方を入力します。

- User ID のみ

  認証するときに、User ID だけを入力します。

- Account ID のみ

  認証するときに、Account ID だけを入力します。

集計管理情報の設定

集計管理情報を設定します。

User ID の代替表記

操作パネルの〈認証〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押したときに表示される［認証］画面の、「User ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。代替表記は、半角 1 ～ 15 文字の範囲で設定できます。

補足

- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

User ID の入力表示

User ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティーの強化など、必要に応じて設定してください。

■そのまま表示する

User ID を入力したときに、入力した文字列をそのまま画面に表示します。

■隠す

User ID を入力したときは、「*****」のように文字列を隠して画面に表示します。

Account ID の代替表記

操作パネルの〈認証〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押したときに表示される［認証］画面の、「Account ID」と表示されている表記を、「AccountName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。代替表記は、半角 1 ～ 15 文字の範囲で設定できます。

補足

- この項目は、「集計管理機能の運用」(P.335) で［ネット集計管理］を選択しているときに表示されます。
- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

Account ID の入力表示

Account ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティーの強化など、必要に応じて設定してください。

補足

- この項目は、「集計管理機能の運用」(P.335) で［ネット集計管理］を選択しているときに表示されます。

■そのまま表示する

Account ID を入力したときに、入力した文字列をそのまま画面に表示します。

■隠す

Account ID を入力したときは、「*****」のように文字列を隠して画面に表示します。

認証時の集計情報表示

認証直後に、ユーザー別の集計情報を表示するかどうかを設定します。［する］に設定すると、コピー、プリント、スキャンの機能別に、認証中のユーザーの［累積ページ数］、［上限ページ数］、［残りページ数］を確認できます。

補足

- この項目は、［認証方式の設定］が［本体認証］に設定されていて、さらに［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］に設定されているときに表示されます。
- 利用を制限されている機能は表示されません。
- 機械管理者で認証したときには、表示されません。

ファクス課金データ設定

ファクス課金の単位料金を設定します。

注記

- 課金データを登録する場合は、ファクス/インターネットファクスを集計するにしてから操作してください。有効にする方法は、「各機能の集計」(P.336) を参照してください。

補足

- 時間帯 (昼間 / 夜間 / 深夜) 別の 1 度数あたりの通信時間は、[課金情報] で設定してください。詳しくは、「課金情報 - 昼間料金、課金情報 - 夜間料金、課金情報 - 深夜料金」(P.327) を参照してください。
- 登録した内容は、「課金データリスト」をプリントして確認できます。プリント方法は、「課金データリスト」(P.125) を参照してください。

1 [ファクス課金データ設定] を押します。

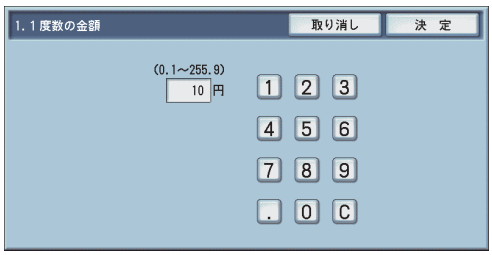
■1 度数の金額

1 度数あたりの通信費（単位料金）です。0.1 ～ 255.9 円の範囲で、0.1 円単位で設定できます。

2 [1 度数の金額] を押します。

3 [設定値の登録 / 変更] を押します。

4 ディスプレイに表示されているキーボードまたは〈数字〉ボタンを使って、金額 (0.1 ～ 255.9 円) を入力します。



5 [決定] を押します。

認証 / セキュリティ設定

［認証 / セキュリティ設定］では、本機を利用するユーザーの登録や認証およびセキュリティーの設定ができます。

参照
- 機能については、「認証と集計管理機能について」(P.463) を参照してください。

各設定の詳細と参照先は、次のとおりです。

機械管理者情報の設定 339
認証の設定 341
強制印字の一時解除 351
ジョブ操作の設定 352
ハードディスクの上書き消去設定 352

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［認証 / セキュリティ設定］を押します。

参照
- ［仕様設定 / 登録］画面を表示する方法は、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

2 設定 / 変更する項目を選択します。

機械管理者情報の設定

［機械管理者情報の設定］では、機械管理者 ID、およびパスワードを設定します。

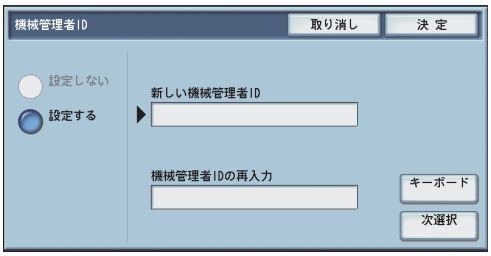
設定変更の抑止やセキュリティー確保のために、機械管理者 ID、およびパスワードの設定をお勧めします。

機械管理者 ID

機械管理者の User ID を設定します。半角 1 ～ 32 文字まで入力できます。

1 ［機械管理者 ID］を押します。

2 ［設定する］を押します。



3 ［キーボード］を押します。

4 32 文字以内で機械管理者 ID を入力し、［決定］を押します。

5 手順3、4 を繰り返して、[機械管理者IDの再入力]に同じ機械管理者IDを入力します。

6 ［決定］を押します。

7 確認画面が表示されたら、[はい（変更する）] を押します。

機械管理者パスワード

機械管理者のパスワードを指定します。

セキュリティーを強化するためにも、パスワードの設定をお勧めします。

ここで指定するパスワードは、[認証 / セキュリティ設定] > [パスワードの運用] > [パスワード使用 - パネル入力時] を [する] に設定している場合に、機械管理者で認証するときに使用します。

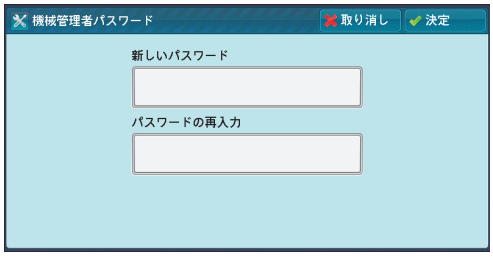
パスワードは、機械管理者の User ID を設定してから、4 ～ 12 文字の範囲で指定します。

参照

- [パスワード使用 - パネル入力時] については、「パスワードの運用」(P.347) を参照してください。

1 [機械管理者パスワード] を押します。

2 [新しいパスワード] を選択します。



3 表示されたキーボードを使って、4 ～ 12 文字の範囲でパスワードを入力し、[決定] を押します。

補足

- パスワードなしに設定する場合は、空欄にして [決定] を押してください。

4 [パスワードの再入力] を選択し、同じパスワードを入力し、[決定] を押します。

5 [決定] を押します。

6 確認画面が表示されたら、[はい（変更する）] を押します。

認証の設定

［認証の設定］では、次の設定をします。

各設定の詳細と参照先は、次のとおりです。

認証方式の設定.....341
アクセス制御.....341
ユーザー登録 / 集計確認.....343
登録内容の削除 / 集計リセット.....343
権限グループ登録.....344
認証情報の設定.....344
機械管理ユーザーの認証失敗アクセス拒否.....347
パスワードの運用.....347
認証 / プライベートプリントの設定.....348
受信時の PJL 命令制御.....348
出力時の PJL 命令制御.....348
受信制御.....349

認証方式の設定

認証方式を設定します。

■認証しない

認証機能を利用しません。

■本体認証

本機に登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

補足

- ［本体認証］に設定すると、本機が認証モードになり、メニュー画面の左下に［認証（ログイン）］が表示されます。

■外部認証（ApeosPort シリーズのみ）

外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

補足

- ［外部認証］に設定すると、本機が認証モードになり、メニュー画面の左下に［認証（ログイン）］が表示されます。

アクセス制御

認証モードでは、本機自体および各サービスの利用を制限することができます。利用するには、ユーザー認証が必要になります。

注記

- 外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。
- 外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存させたくない場合は、［ユーザー情報の設定］の［外部認証情報の本体保存］を［しない］に設定してください。詳しくは、「外部認証情報の本体保存」（P.347）を参照してください。
- 本機に保存された外部認証のユーザー情報を自動的に削除できます。詳しくは、「保存済み外部認証情報削除」（P.347）を参照してください。

補足

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite を使用する場合を除く）は、LDAP サーバーから取得した利用可能なサービスへのアクセス許可情報に基づき、操作パネルから利用できます。
- 外部認証時にゲストユーザーを使用する場合、ゲストユーザーにアクセス制御は設定できません。本機を使用できるゲストユーザーを制限する場合は、「ゲストの使用」（P.346）を参照してください。

■デバイスへのアクセス

本機の操作パネルのボタンの操作を制限するかどうかを設定します。

［制限しない］、［制限する］から選択します。

■サービスへのアクセス

次のサービスについて、制限するかどうかを設定します。

補足

- サービスを［制限する（表示）］に設定すると、メニュー画面の該当するサービスに［ ］が表示されます。また、メニュー画面の左下に［ ：ログインが必要です］が表示されます。認証すると［ ］および［ ：ログインが必要です］の表示は消えます。
- サービスを［制限する（非表示）］に設定すると、メニュー画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。

参照

- 認証方式の設定は、「認証方式の設定」（P.341）を参照してください。

- コピー

  操作パネルからのコピーの操作が制限されます。

  ジョブメモリーで、コピー操作を登録している場合は、そのジョブメモリーの使用も制限されます。

- ファクス / インターネットファクス

  操作パネルからのファクス、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の操作、およびダイレクトファクスが制限されます。

  ジョブメモリーで、ファクス、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の操作を登録している場合は、そのジョブメモリーの使用も制限されます。

- スキャナー

  本機での、スキャナー（メール送信）、スキャナー（ボックス保存）、スキャナー（PC 保存）、スキャナー（USB メモリー保存）、スキャナー（URL 送信）、スキャナー（WSD）、スキャナー（マイフォルダ保存）の操作が制限されます。

  ジョブメモリーで、スキャナー（メール送信）、スキャナー（ボックス保存）、スキャナー（PC 保存）、スキャナー（URL 送信）の操作を登録している場合は、そのジョブメモリーの使用も制限されます。

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

- ジョブフロー

  本機での、ジョブフローの使用が制限されます。

- 文書プリント

  本機での、文書プリントの操作が制限されます。

- 外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）

  本機での、外部アクセスの操作が制限されます。

- ボックス操作

  本機での、親展ボックスの操作が制限されます。

- ジョブメモリー

  本機での、ジョブメモリーの使用が制限されます。

- BMLinkS

  本機での、BMLinkS の操作が制限されます。

- カスタムサービス

  本機での、カスタムサービスの操作が制限されます。

補足

- お使いの機械にカスタムサービスをインストールしている場合に設定できます。カスタムサービスの詳しくは、弊社営業担当までお尋ねください。

- プリンター

  コンピューターからネットワークを介してプリント指示するとき、プリント指示が制限されます。

  認証機能を利用するには、プリンタードライバーで、User ID やパスワードなどの認証情報を設定する必要があります。

  本機に送信されたプリントデータのうち、認証に失敗したプリントデータは、「認証プリント」に設定された内容に従って、本機に保存されるか、削除されます。

補足

- ［仕様設定］の［認証方式の設定］を［外部認証］に設定している場合は、制限されません。

参照

- 認証方式の設定は、「認証方式の設定」(P.341) を参照してください。

■機能の使用制限

［ボックスからのプリント］、［ボックスからの外部取り出し］をそれぞれ設定します。

ユーザー登録 / 集計確認

認証を有効にする場合、登録したユーザーの認証を行うために、User ID、およびユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。ユーザーデータは、1,000 件まで登録できます。

［集計管理］の［ユーザー登録 / 集計確認］と同じ内容です。

参照

- 詳しくは、「ユーザー登録 / 集計確認」(P.330) を参照してください。

登録内容の削除 / 集計リセット

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートを出力して、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

［集計管理］の［登録内容の削除 / 集計リセット］と同じ内容です。

参照

- 詳しくは、「登録内容の削除 / 集計リセット」(P.334) を参照してください。

権限グループ登録

機械管理者は認証ユーザーに対して、本来利用できない機能を利用できるようにする「権限」を与えることができます。同じ権限を持つ認証ユーザーを、グループ化して登録できます。

補足
- 20 グループまで登録できます。

1 ［権限グループ登録］を押します。

2 ［グループ名］を選択し、［登録 / 変更］を押します。

3 任意の項目を設定します。

■グループ名

グループ名は全角 16 文字（半角 32 文字）まで登録できます。

■宛先指示方法の制限

ファクス / インターネットファクスまたはスキャナー（メール送信）で、宛先表に登録されていない宛先への送信が制限されているときに、その制限を解除するかどうかを設定します。

■宛先表登録 / 変更の制限

宛先表の編集が制限されているときに、その制限を解除するかどうかを設定します。

■強制印字の一時解除

強制複製管理、強制ペーパーセキュリティー、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字を一時的に解除してジョブを実行するかどうかを設定します。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■複製制限コード検出時の動作

ジョブ禁止コードが埋め込まれていることを検知した場合に、一時的にジョブを継続することを許可するかどうかを設定します。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

認証情報の設定

認証するときに必要な情報を設定します。

■User ID の代替表記

操作パネルの〈認証〉ボタンを押したときに表示される［認証］画面の、「User ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。代替表記は、半角 1 ～ 15 文字の範囲で設定できます。

補足

- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

■User ID の入力表示

User ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティーの強化など、必要に応じて設定してください。

［そのまま表示する］に設定すると、User ID を入力したときに、入力した文字列で表示します。［隠す］に設定すると、［*****］のように表示します。

■認証失敗の記録

不正なアクセスを検知するための、認証回数を設定します。所定時間（10 分）以内に、ここで設定した回数の認証に失敗したときに、エラーとして記録します。

■認証解除時の確認画面表示

認証解除時に確認画面を表示するかどうかを設定します。

■認証時の User ID 文字種

認証時、User ID の文字種を設定します。

［大文字小文字を区別する］に設定すると、登録したまま（大文字小文字を含む）の User ID で認証します。［大文字小文字を区別しない］に設定すると、User ID に大文字小文字が混在していても、大文字小文字を区別しないで認証します。

注記

- プライベートプリントに文書が保存された状態で設定を切り替えないでください。プリントできないなど、問題が発生する可能性があります。保存された文書をすべてプリントしたあと、設定を切り替えてください。
- “ABC” と “abc” のように、［大文字小文字を区別しない］に設定すると同一になる User ID が登録されているときは、設定を切り替えないでください。設定を切り替えると、一部のユーザーが表示されないなどの問題が発生する可能性があります。大文字小文字を区別しなくても同一にならない User ID に変更してから、設定を切り替えてください。

■IC カード接続時の認証

本体認証の場合、本機に IC カードリーダーが接続されているときに、User ID 認証を有効にするかどうかを設定します。

［IC カードのみ］に設定すると、User ID 認証は使用できません。［IC カードまたはパネル入力］に設定すると、IC カード認証と User ID 認証の両方が使用できます。

■IC カード認証時のユーザー登録

登録されていないユーザーが IC カードリーダーに IC カードをかざしたときに、ユーザーを登録するかどうかを設定します。

［しない］に設定すると、ユーザー登録はされません。［自動登録する］に設定すると、ユーザーが登録されます。

補足

- ［自動登録する］を選択すると、［ユーザー名］、［サービスの利用制限］、［権限の追加設定］の項目が表示されます。
- ［ユーザー名］を選択すると、ユーザー名の設定ができます。
- ［サービスの利用制限］を選択すると、［コピー］、［ファクス］、［スキャナー］、［プリンター］の項目が表示されます。それぞれに対し［機能制限］、［上限ページ数の変更］の設定ができます。
- ［権限の追加設定］を選択すると、権限の追加設定ができます。
- ［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］>［パスワードの運用］>［パスワード使用 - IC カード認証時］が［する］に設定されている場合、ユーザー登録時にパスワードを 2 回入力します。

■ゲストの使用

外部認証の場合、ゲストのユーザーを使用するかどうかを設定します。使用するときは、ゲストのパスワードを半角英数字 4 ～ 12 文字で設定します。

■IC カード連携モード

外部認証の場合、IC カード認証時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

■IC カードの使用

本機に IC カードリーダーが接続されているときに、IC カードを使用するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、IC カードでジョブを制御するかしないかを、機能ごとに選択できます。［する（PKI のみ）］は、認証やジョブ制御には IC カードを使用せず、セキュリティー機能だけを制御する場合に設定します。

補足

- この項目は、オプションのカスタマイズ拡張キットが装着されている場合に表示されます。

■IC カードの証明書検証

IC カードを使用する場合に、IC カードの証明書を検証するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、IC カードの所有者を、PIN コードによる照合だけでなく、IC カード内の証明書の検証と秘密鍵との鍵の一致を検証します。この場合、IC カードの証明書の上位 CA 証明書を本機に登録しておく必要があります。

［しない］に設定すると、IC カードの所有者を、PIN コードによる照合で検証します。

■Kerberos サーバーの証明書検証

外部認証サーバーに Kerberos サーバーを使用する場合に、Kerberos サーバーの証明書を検証するかどうかを設定します。

補足

- この項目は、オプションのカスタマイズ拡張キットが装着されている場合に表示されます。

■非接触型 IC カード設定

非接触型 IC カード認証時に、認証の解除方法を設定します。

［カードが離れると認証解除］に設定すると、IC カードをカードリーダーから離すことで、認証が解除されます。［パネル指示で認証解除］に設定すると、タッチパネルディスプレイの操作で認証が解除されます。

■外部認証情報の本体保存

外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存するかどうかを設定します。保存に設定して外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。

補足
- IC カードで認証したユーザーだけが対象です。

■保存済み外部認証情報削除

本機に保存した外部認証のユーザー情報を、削除するかどうかを設定します。

［削除しない］、［週単位で削除］、または［月単位で削除］が選択できます。

［週単位で削除］では削除する曜日と時分が、［月単位で削除］では削除する日と時分を設定できます。

補足
- IC カードで認証したユーザーだけが対象です。

機械管理ユーザーの認証失敗アクセス拒否

機械管理者のなりすましによる不正な設定が行われないようするための機能です。機械管理者 ID の認証に連続して失敗した場合にアクセスを拒否するように、その失敗回数を設定できます。

回数は、1 ～ 10 回の範囲で指定できます。

補足
- 本機を再起動すると、失敗した回数はリセットされます。
- アクセス拒否状態を解除するときは、本機の電源を切って、入れ直して、本機を再起動してください。

パスワードの運用

■パスワード使用 - パネル入力時

機械管理者、およびユーザーが本機を使用するときに、パスワードを入力するかどうかを設定します。

［する］を選択すると、「機械管理者パスワード」(P.340)、および「ユーザー登録 / 集計確認」の「パスワード」(P.331) の設定が有効になります。

［しない］を選択すると、上記の設定でパスワードが指定されていてもパスワードの入力は要求されません。

注記
- ［パスワード使用 - パネル入力時］の設定は、本機で認証するときに適用されます。CentreWare Internet Services などの外部からのアクセス時には、パスワードの使用の有無にかかわらず、常にパスワードの入力が必要です。また、認証の方法によっても常にパスワードの入力が必要な場合があります。

補足
- 機械管理者パスワードは、CentreWare Internet Services から設定を変更するときにも使用します。

■パスワード使用 - IC カード認証時

機械管理者、およびユーザーが IC カード認証をするときに、パスワードを入力するかどうかを設定します。

■パスワードの最小桁数

パスワードの最小桁数を指定するときに設定します。

最小桁数を設定する場合、4 ～ 12 桁の範囲で 1 桁単位で設定できます。

補足
- 認証ユーザーだけが対象です（機械管理者、ゲストは対象外）。
- 登録済みのユーザーは、最小桁数以下で認証できます。

認証 / プライベートプリントの設定

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

プリントジョブを直接プリントしたり、保管文書の認証プリントやプライベートプリントに一時的に保存できます。

認証プリントは、認証されたユーザーのジョブをプリントする機能ですが、本機に一時的に保存することもできます。プリントするときに、本機からの操作でプリントします。Coinkit や Dispenser による不特定ユーザーが使うコンピューターからのプリント課金に向いています。認証プリントへの保存が設定されている場合、受信したプリントジョブはプリンタードライバー設定の蓄積用 User ID ごとに保存されます。

プライベートプリントは、プリント指示の際に認証用 User ID や Sub User ID を使って、本機にジョブを保存します。プリントするときは、本機の操作でプリントしますが、本機のパネルには、認証されたユーザーと関連づけられたサブユーザーの文書のみ表示されるため、プリント放置に限らず、プライバシーの保護を図ることができます。

参照
- 認証プリント、プライベートプリントについては、『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「12 ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」、および『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）の「13 コンピューターからの操作」>「プリント」を参照してください。
- 認証プリント、プライベートプリントをするには、［受信制御］の設定が必要です。詳しくは、「受信制御」（P.349）を参照してください。
- プライベートプリントでプリントするための設定例については、『設定がわかる本』の「プリント機能」>「プライベートプリントでプリントする（プライベートプリント）」を参照してください。

受信時の PJL 命令制御

外部機器からのプリント受信を制御できます。コンピューターからプリント指示された認証プリントまたはプライベートプリントジョブを、指示どおりに［ジョブ確認］画面に表示される［保存文書］の［認証プリント］または［プライベートプリント］に保存する場合は、［する］を選択します。

［しない］を選択したときは、後述の［受信制御］の設定に従います。

補足
- PJL とは、プリントジョブを制御するコマンドです。

出力時の PJL 命令制御

外部機器からのプリントジョブのプリントを制御できます。［ジョブ確認］画面に表示される［保存文書］の［認証プリント］または［プライベートプリント］に保存

された文書をプリントするときに、出力用紙、両面プリントなどのプリントモードをジョブの指示どおりに行う場合に、［する］を選択します。

補足
- PJL とは、プリントジョブを制御するコマンドです。

受信制御

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

参照
- プリンタードライバーからのプリント方法は、『ユーザーズガイド』の「13 コンピューターからの操作」を参照してください。
- 保存されたプリントジョブをプリントおよび削除する方法は、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」を参照してください。また、誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する方法は、「誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する」(P.110) を参照してください。

1 ［受信制御］を選択して、［確認 / 変更］を押します。

2 任意の項目を選択します。

3 選択した項目に応じて、ジョブの動作を設定します。

4 設定が終わったら、［決定］を押します。

■プリントの認証に従う

認証 / 集計機能を利用し、［サービスへのアクセス］の［プリンター］を［制御する］に設定しているときに、プリントジョブをどう扱うかを設定できます。

補足
- 認証 / 集計機能を利用しない場合、および［サービスへのアクセス］の［プリンター］を［制御しない］に設定している場合は、プリンタードライバーの指示に従います。

［プリントの認証に従う］を選択すると、［認証成功のジョブ］、［認証が不正のジョブ］、［User ID なしのジョブ］の項目が表示されます。

- 認証成功のジョブ

  認証に成功したジョブに対する動作を設定します。

  - ［プリント］を選択すると、ジョブをプリントします。
  - ［プライベートプリントに保存］を選択すると、ジョブをプライベートプリントに保存します。

補足
- ［プライベートプリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。

- 認証が不正のジョブ

  認証に失敗したジョブ（プリンタードライバー側で、User ID やパスワードなどの認証情報が間違っているジョブ）に対する動作を設定します。

- ［認証プリントに保存］を選択すると、ジョブを認証プリントに保存します。
- ［ジョブを中止］を選択すると、ジョブを削除します。

• User ID なしのジョブ

認証用 User ID が付加されていないジョブ（CentreWare Internet Services を利用したプリント、メールプリントなど）に対する動作を設定します。

- ［プリント］を選択すると、ジョブをプリントします。
- ［認証プリントに保存］を選択すると、ジョブを認証プリントに保存します。
- ［ジョブを中止］を選択すると、ジョブを削除します。

補足

• CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［認証管理］で［ユーザー指定なし印刷の許可］にチェックを付けると、本機側では、［User ID なしのジョブ］は自動的に［プリント］に設定されます。本機側で［認証プリントに保存］または［ジョブを中止］に設定すると、CentreWare Internet Services の［ユーザー指定なし印刷の許可］のチェックが自動的に外れます。

■プライベートプリントに保存

認証機能を利用しているいないにかかわらず、User ID が付いたジョブをすべてプライベートプリントに保存します。また、User ID や PJL 命令が付いてないジョブをどう扱うかも設定できます。

注記

• ［プライベートプリントに保存］に設定すると、認証に成功してもしなくても、User ID が付いたプリントジョブはすべて保存されます。不要なプリントジョブを増やさないためには、保存期間を設定して保存期間を過ぎたプリントジョブを自動的に削除するように設定するか、機械管理者が手動で削除してください。保存期間を設定する方法は、「保存文書設定」（P.294）を参照してください。手動で削除する方法は、「誤った User ID を付けたプライベートプリントのジョブを削除する」（P.110）を参照してください。

補足

• ［プライベートプリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。

［プライベートプリントに保存］を選択すると、［User ID なしのジョブ］と［PJL 命令なしのジョブ］が表示されます。

• User ID なしのジョブ

認証用 User ID が付加されていないプリントジョブに対する動作を設定します。

- ［プリント］を選択すると、ジョブをプリントします。
- ［認証プリントに保存］を選択すると、ジョブを認証プリントに保存します。
- ［ジョブを中止］を選択すると、ジョブを削除します。

補足

• CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［認証管理］で［ユーザー指定なし印刷の許可］にチェックを付けると、本機側では、［User ID なしのジョブ］は自動的に［プリント］に設定されます。本機側で［認証プリントに保存］または［ジョブを中止］に設定すると、CentreWare Internet Services の［ユーザー指定なし印刷の許可］のチェックが自動的に外れます。

• PJL 命令なしのジョブ

PJL 命令が付加されていないプリントジョブに対する動作を、User ID を利用して設定します。

［常に利用しない］を選択すると、User ID の有無にかかわらず、常に［User ID なしのジョブ］の設定に従います。

［User ID があるときは利用する］を選択すると、User ID が付加されているときの動作を設定できます。

- ［プリント］を選択すると、ジョブをプリントします。

- ［認証プリントに保存］を選択すると、ジョブを認証プリントに保存します。
- ［プライベートプリントに保存］を選択すると、ジョブをプライベートプリントに保存します。
- ［ジョブを中止］を選択すると、ジョブを削除します。

■認証プリントに保存

認証機能を利用しているいないにかかわらず、受信したジョブをすべて認証プリントに保存します。

注記

- ［認証プリントに保存］に設定すると、認証に成功してもしなくても、プリントジョブはすべて保存されます。不要なプリントジョブを増やさないためには、保存期間を設定して保存期間を過ぎたプリントジョブを自動的に削除するように設定するか、手動で削除してください。保存期間を設定する方法は、「保存文書設定」(P.294)を参照してください。手動で削除する方法は、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」>「認証プリント」を参照してください。

補足

- ［認証プリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。

強制印字の一時解除

本機能は、通常は強制印字をしたいが、特定の出力物のみ強制印字なしで出力したいといった場合に使用します。

強制複製管理、強制ペーパーセキュリティー、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されていても、一時的に強制印字を解除できます。

本機能を［許可する］に設定した状態で実行した、コピー、親展プリント、ボックスプリント、文書プリントが一時解除の対象となります（ファクス、通常のプリント、レポート / リストは対象となりません）。

本機能を［許可する］に設定した状態で実行した、コピー、ボックスプリントが一時解除の対象となります（ファクス、レポート / リストは対象となりません）。

この設定は、認証ユーザーの属する権限グループに「強制印字の一時解除」が設定されている場合のみ表示されます。

補足

- 実行中のジョブに関しては反映されません。
- ジョブフローを使って親展ボックス内の文書を選択し、手動で実行する場合でも強制印字を一時解除できます。
- 管理者権限のユーザーは権限グループにかかわらず設定可能です。
- TrustMarkingBasic（別売）やコピーでユーザーが指定した複製管理・ペーパーセキュリティーに関しては解除対象となりません。
- ジョブの途中で変更しても、そのジョブには反映されません。

参照

- 強制複製管理については、「複製管理」(P.183)を参照してください。
- 強制ペーパーセキュリティーについては、「ペーパーセキュリティー」(P.185)を参照してください。
- UUID 印字については、「UUID 印字」(P.190)を参照してください。
- 権限グループの設定は、「権限グループ」(P.465)を参照してください。

ジョブ操作の設定

実行中や実行待ちジョブやログの表示制限ができます。認証していないユーザーやジョブオーナーでないユーザーに対して、プライバシー保護、情報漏えいの抑止になります。

補足

- ジョブを表示しない設定にした場合、自分が実行したジョブを止めたり、削除したりできなくなります。そのため、コピー誤操作やファクス誤送信の場合でも、自分でジョブをキャンセルできません。

実行中 / 待ちジョブの表示設定

実行中 / 実行待ちジョブの情報表示を制限するかどうかを設定します。

実行完了ジョブの表示設定

［常に表示する］、［認証中は表示する］、［表示しない］から選択します。

■表示対象のジョブ

［認証中は表示する］が選択されているときに選択できます。

［全て］、［認証ユーザーのジョブのみ］から選択できます。

■表示情報の制限

［常に表示する］、［認証中は表示する］が選択されているときに選択できます。

［しない］、［する］から選択できます。

ハードディスクの上書き消去設定

ハードディスクの上書き消去をするかどうかを設定します。

コピー、ファクス、スキャン、プリントの処理が終了すると、各処理で使用したハードディスクの領域からデータを削除したあと、それらの情報が記録されていた領域に情報を持たないデータで自動的に上書きします。そうすることによって、ハードディスクに記録されていたデータの不正な取り出し / 復元を防ぎます。コピー原稿など、システムが一時的に保存したデータにも対応します。

上書き回数の設定

上書きする回数を、1 回または 3 回から選択できます。

注記

- 上書き処理中に本機の電源を切った場合、未終了のファイルがハードディスク上に残る場合があります。また、上書き処理未終了のファイルがハードディスク上に残った状態で、電源を入れた場合、上書き消去処理を再開します。
- 1 回の上書きでデータは消去されますが、3 回の上書き消去により、削除したデータを読み取られる可能性はより低くなります。ただし、時間がかかります。
- 上書き処理中は、通常操作の処理速度が低下することがあります。

補足

- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照

- 上書き処理中の状態を確認する方法は、「HDD の上書き消去」(P.130) を参照してください。

データ上書き消去キットを利用する上での前提条件について

機械管理者は、次の事項を遵守してください。

- ハードディスクの削除済みデータ、および保存データを保全するため、次の設定が必要です。
  - ハードディスクの上書き消去設定の上書き回数の設定：[1 回] または [3 回]
  - データの暗号化：[する]、12 桁の暗号化キー
  - カストマーエンジニアの操作制限：[する]
- 機械管理者のパスワードは、工場出荷時の値から変更してください。変更後のパスワードは、7 文字以上（最長 12 文字）にしてください。パスワードは、容易に推測できる値に設定したり、機械管理者以外の目に触れる場所に格納したりしないでください。

注記
- 機械管理者の User ID とパスワード は絶対に忘れないでください。故障時に設定の復旧ができなくなります。

- [パスワード使用 - パネル入力時] を、[する] に設定してください。
- [機械管理者 ID の認証失敗によるアクセス拒否] は、5 回に設定してください。
- 上記の各設定項目で、上記以外の設定を行った場合は、ハードディスクのセキュリティーを保つことができなくなりますので、ご注意ください。

参照
- データの暗号化の設定は、「データの暗号化」(P.198) を参照してください。
- カストマーエンジニアの操作制限の設定は、「カストマーエンジニアの操作制限」(P.199) を参照してください。
- [パスワード使用 - パネル入力時] の設定は、「パスワードの運用」(P.347) を参照してください。
- 機械管理者の User ID の設定は、「機械管理者 ID」(P.339) を参照してください。

組織の責任者（本製品を利用・運用する組織の責任者）は、次の事項を遵守してください。

- システム管理者、機器管理者の適切な人選を行うと共に管理や教育を実施してください。
- 本機の電源を切る前に、実行中の処理がないことを確認し、実行中の処理がある場合は、その処理の終了後に電源を切るように、利用者に対して教育を実施してください。
- データ上書き消去キットは、利用済み文書データの再生を困難とするものです。ハードディスクの親展ボックスなどに保存される文書を保護するものではないことにご注意ください。
- データ上書き消去キットが搭載された本機を設置する内部ネットワークに、盗聴を防止する機器を設置し、盗聴されないように適切にネットワーク設定を行ってください。
- 外部ネットワークから、本機を設置する内部ネットワークへのアクセスを遮断するため、ファイアウォールなどの機器を設置してください。
- パスワードと暗号化キーは次のルールに従って設定してください。
  - 容易に推測可能な文字列を使用しない
  - 英数文字を混在させて使用する

参照
- 暗号化キーについては、「秘密情報の暗号化キー」(P.199) を参照してください。

6 CentreWare Internet Services の設定

この章では、CentreWare Internet Services の設定について説明します。

- CentreWare Internet Services を使うための設置.....356
- CentreWare Internet Services を起動する.....358
- CentreWare Internet Services を使って設定する.....359

CentreWare Internet Services を使うための設置

CentreWare Internet Services は、TCP/IP 環境が利用できる場合に、Web ブラウザーを介して、本機の状態やジョブの状態を表示したり、本機の設定を変更したりするためのサービスです。

事前準備

CentreWare Internet Services を利用するためには、ネットワークプロトコルとして TCP/IP が利用できるコンピューターと Internet Explorer や Safari などの Web ブラウザーが必要です。

参照
- 設定中にトラブルが発生した場合は、「CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル」（P.532）を参照してください。

本体側の設定

CentreWare Internet Services を使用するための、本体側の設定手順について説明します。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 インターネットサービスのポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［インターネットサービス（HTTP)］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［インターネットサービス - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

6) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、CentreWare Internet Servicesのポートが起動になっていることと TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

7 CentreWare Internet Services を起動し、CentreWare Internet Services が利用できるかどうかを確認します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

CentreWare Internet Services を起動する

コンピューターから CentreWare Internet Services に接続します。

本機で認証機能を使用している場合は、Web ブラウザーで本機にアクセスするときに、認証が必要になります。

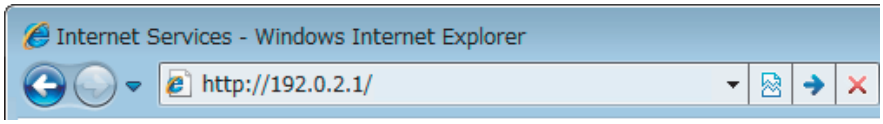
1 Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

- IP アドレスの入力例

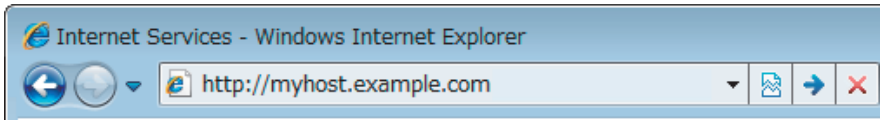
  例）http://192.0.2.1/（IPv4 の場合）

  http://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合）



- インターネットアドレスの入力例（本機のインターネットアドレスが、myhost.example.com の場合）

  例）http://myhost.example.com/



補足

- お使いのネットワークが DNS（Domain Name System）を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- ポート番号を指定する場合は、IP アドレスまたはインターネットアドレスのあとに「:」を付けて、続けてポート番号を入力してください。
- 本機で認証機能を使用している場合は、［ユーザー名］と［パスワード］に User ID とパスワードを入力してください。User ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。ユーザーに与えられている機械管理の権限によって、操作できる機能が異なります。
- ［プロパティ］タブにある［セキュリティー］>［SSL/TLS 設定］>［HTTP-SSL/TLS 通信］の［有効］にチェックを付けて、通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。
  IP アドレスの入力例
  例）https://192.0.2.1/ （IPv4 の場合）
  https://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合）
  インターネットアドレスの入力例
  例）https://myhost.example.com/

参照

- CentreWare Internet Services が表示されない場合は、「CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル」（P.532）を参照してください。

CentreWare Internet Services を使って設定する

CentreWare Internet Services を利用すると、次の項目の設定値をコンピューターから確認したり、変更したりできます。

補足

- 設定する項目が表示されていない場合は、CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブ>［ネットワーク設定］>［ポート起動］で目的のポートが起動しているかを確認してください。
- 操作パネルの操作中は、CentreWare Internet Services から設定を変更できません。本機が自動リセットされてから、設定を変更してください。自動リセットについては、「自動リセット」(P.165)を参照してください。
- 設定項目の変更時にユーザー名とパスワードを要求されるものがあります。ユーザー名、パスワードは、本機に設定してある、機械管理者の User ID とパスワードです。

参照

- 詳しくは、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

項目名	選択方法	機能の概要 / 参照先
カウンター表示	［状態］タブの［カウンター］から選択	各サービスごとに使用したページ数や回数の合計を表示できます。
稼働状況別の累積時間		出力や読み込みの稼動時間、待機時間、低電力モード時間、スリープモード時間、ウォームアップ時間、電源オフ時間の累積時間を分単位で表示できます。
ボックス	［スキャン］タブから選択	「ボックス登録」(P.305) を参照してください。
ジョブフロー		「ジョブフロー登録」(P.308) を参照してください。
宛先の追加	［宛先表］タブから選択	「宛先表登録 (短縮宛先登録)」(P.318) を参照してください。
ジョブ管理	［プロパティ］タブの［一般設定］から選択	ジョブの削除方法を設定します。
用紙トレイの設定		「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。
用紙設定		「用紙の設定を変更する」(P.80) を参照してください。
節電モード設定		「節電モード移行時間を変更する」(P.28) を参照してください。
保存文書設定		「保存文書設定」(P.294) を参照してください。
メモリー設定		「メモリー設定」(P.248) を参照してください。
Web ブラウザー設定		「Web ブラウザー設定」(P.302) を参照してください。
Internet Services 設定		CentreWare Internet Services の表示更新時間や表示言語を設定できます。

項目名	選択方法	機能の概要 / 参照先
プールサーバー設定	［プロパティ］タブの［一般設定］から選択	「ジョブフロー設定（ApeosPort シリーズのみ）」（P.291）を参照してください。
外部アクセス		「外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）」（P.297）を参照してください。
設定情報の複製		設定した内容をファイルに保存して、同一機種間で複製できます。ほかの機種には複製できません。
ジョブ終了時のメール通知設定	［プロパティ］タブの［一般設定］>［メール通知フォルダ］から選択	「ジョブ終了時のメール通知設定」（P.193）を参照してください。
機械状態のメール通知設定		メール通知の通知先や通知する状態を設定します。
ポート起動	［プロパティ］タブの［ネットワーク設定］から選択	「ポート設定」（P.213）を参照してください。
ポート設定		「ポート設定」（P.213）を参照してください。
プロトコル設定		「ネットワーク設定」（P.213）を参照してください。
エミュレーション設定	［プロパティ］タブの［サービス設定］>［プリンタ設定］から選択	「プリンターモード」（P.130）を参照してください。
スキャナー共通設定	［プロパティ］タブの［サービス設定］から選択	スキャン文書を送信するときや保存するときのファイル名について設定できます。
メール		「メール / インターネットファクス設定」（P.284）を参照してください。
インターネットファクス		「メール / インターネットファクス設定」（P.284）を参照してください。
ファクス		「ファクス設定」（P.266）を参照してください。
スキャナー（マイフォルダ保存）		「スキャナー（マイフォルダ保存）」（P.388）を参照してください。
スキャナー（PC 保存）		「スキャナー（PC 保存）」（P.388）を参照してください。
スキャナー（URL 送信）		「スキャナー（URL 送信）」（P.389）を参照してください。
スキャナー（USB メモリー保存）		「スキャナー（USB　メモリー保存）」（P.389）を参照してください。
メディアプリント		文書プリント機能の有効/無効を切り替えできます。
USB		スキャナー（USB メモリー保存）、文書プリント機能の有効/無効を切り替えできます。
集計設定	［プロパティ］タブから選択	「集計管理」（P.330）を参照してください。
認証管理	［プロパティ］タブの［セキュリティー］から選択	「認証の設定」（P.341）を参照してください。
認証情報の設定		「認証情報の設定」（P.344）を参照してください。

項目名	選択方法	機能の概要 / 参照先
権限グループ登録	［プロパティ］タブの［セキュリティー］から選択	「権限グループ登録」(P.344) を参照してください。
外部認証サーバー設定		「外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.235) を参照してください。
受付 IP アドレス制限		アクセスを受け付ける IP アドレスを、IPv4、IPv6 別に設定できます。
受付ポート		アクセスを受け付けるポート番号を設定できます。
監査ログ		本機での作業を記録する監査ログ機能を有効にしたり、監査ログを取り出したりすることできます。
証明書の設定		自己証明書の生成および証明書のインポートができます。
IPsec		「IPsec を使用して暗号化するための設定」(P.445) を参照してください。
証明書管理		本機に登録されている証明書を確認できます。証明書の選択や削除、およびエクスポートができます。
証明書失効確認の設定		「証明書失効確認の設定」(P.246) を参照してください。
IEEE 802.1 x		「IEEE 802.1x 設定 /IEEE 802.1x 設定 (Ethernet1) 、IEEE 802.1x 設定 (Ethernet2)」(P.245) を参照してください。
SSL/TLS 設定		「SSL/TLS 設定」(P.241) を参照してください。
S/MIME 設定		「S/MIME 設定 (ApeosPort シリーズのみ)」(P.242) を参照してください。
PDF/DocuWorks/XPS* のセキュリティ / 署名		「PDF/DocuWorks/XPS の署名設定 (ApeosPort シリーズのみ)」(P.243) を参照してください。
複製管理		「複製管理」(P.183) を参照してください。
強制アノテーション		「強制アノテーション」(P.188) を参照してください。
ジョブ表示の制限		実行完了ジョブ、実行中 / 待ちジョブで、表示制限できます。
プラグイン / カスタムサービス設定		「プラグイン設定」(P.194) を参照してください。
ハードディスクの上書き消去設定		「ハードディスクの上書き消去設定」(P.352) を参照してください。
カストマーエンジニアの操作制限		カストマーエンジニアの操作を制限します。カストマーエンジニアのなりすましによる設定変更ができないようにします。
機械管理者情報の設定		「機械管理者情報の設定」(P.339) を参照してください。
IC カード設定		使用する IC カードの設定や設定内容のバックアップができます。

*「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

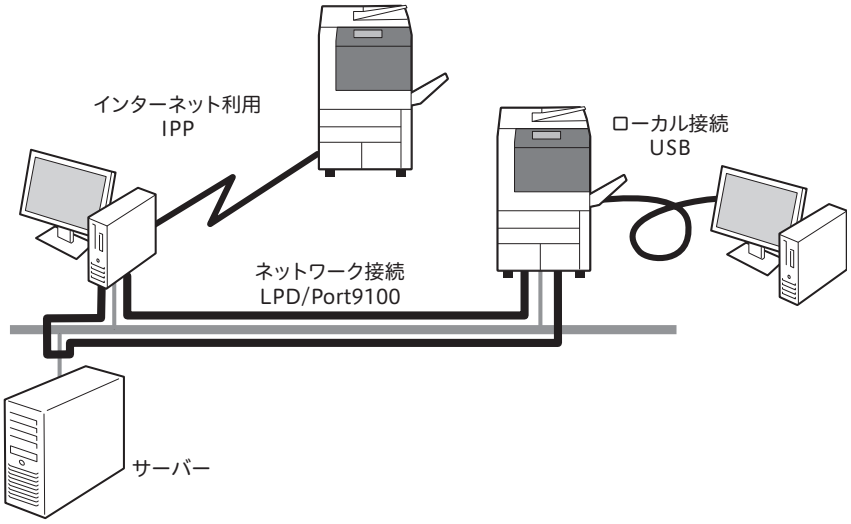
7　プリント機能の設定

この章では、本機でプリントサービスを利用するための、設定方法について説明します。

- プリント機能の概要 364
- USB での設置 367
- TCP/IP （LPD/Port9100）での設置.....369
- インターネット印刷（IPP）での設置 373

プリント機能の概要

本機は、USB ケーブルで直接コンピューターと接続するとローカルプリンターとして、ネットワークを経由するとネットワークプリンターとして使用できます。使用するポートは、操作パネルや CentreWare Internet Services で［起動］に設定します。



補足

- プリンタードライバーはメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っています。インストール方法については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っているマニュアルを参照してください。
- 最新のプリンタードライバーは、弊社公式サイトから入手できます。なお、通信費用はお客様の負担となりますので、ご了承ください。
  次の URL にアクセスして、ダウンロードしてください。
  http://www.fujixerox.co.jp/download/index.html

ローカルプリンターとして使用する場合

■USB 接続

本機とコンピューターを USB ケーブルで直接接続して使用します。

参照

- 詳しくは、「USB での設置」(P.367) を参照してください。

ネットワークプリンターとして使用する場合

次の環境で使用できます。

■LPD

TCP/IP プロトコルを使用し、本機と直接通信できる場合に使用します。

参照

- 詳しくは、「TCP/IP （LPD/Port9100）での設置」(P.369) を参照してください。

■IPP

インターネットを経由してプリントする場合に使用します。

参照

- 詳しくは、「インターネット印刷（IPP）での設置」(P.373) を参照してください。

■Port9100

ポートとして Port9100 を利用している場合に使用します。

参照
- 詳しくは、「TCP/IP （LPD/Port9100）での設置」(P.369) を参照してください。

■BMLinkS プリント

BMLinkS ドライバーを使った BMLinkS プリントサービスが使用できます。

参照
- 詳しくは、「BMLinkS 機能の設定」(P.407) を参照してください。

■BMLinkS 保存文書印刷

BMLinkS ストレージサービスにある文書をプリントします。

参照
- BMLinkS を使用する場合の設定方法は、「BMLinkS 機能の設定」(P.407) を参照してください。
  BMLinkS ストレージサービスに関する設定は、「BMLinkS の設定」(P.409) を参照してください。

各 OS（オペレーティングシステム）で使用できる環境

接続形態		ローカル	ネットワーク				
ポート名		USB 2.0 *1	LPD	IPP	Port 9100	WSD *2	Bonjour
プロトコル		-	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	WSD *2	Bonjour
OS	Windows Server 2008	○	○	○	○	×	×
	Windows Server 2008 R2	○	○	○	○	○	×
	Windows 7	○	○	○	○	○	×
	Windows 8.1	○	○	○	○	○	×
	Windows Server 2012	○	○	○	○	○	×
	Windows Server 2012 R2	○	○	○	○	○	×
	UNIX	×	○*3	×	×	×	×
	Mac OS*4	○	○	×	○	×	○

○: 使用できる　×：使用できない

*1 接続するコンピューターに USB2.0 のポートが必要です。
*2 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
*3 PostScript データをプリントする場合は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）と UNIX フィルター（エイセル株式会社製）が必要です。
*4 サポートしている Mac OS の詳細は、主な仕様を参照してください。

参照

- ネットワーク環境の詳細については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

USB での設置

USB での設置について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 事前準備 367
Step2 本体側の設定 367
Step3 コンピューター側の設定 368
CentreWare Internet Services で設定できる項目 368

Step1 事前準備

本機を USB で使用する場合は、次のものが必要です。

- USB ケーブル
- メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）：本体に同梱

Step2 本体側の設定

本機で USB を使用するための、本体側の設定手順について説明します。

補足

- USB を使用して、バイナリーデータを含むデータをプリントするときには、［Adobe 通信プロトコル］を［RAW］に設定する必要があります。詳しくは、「USB」（P.214）を参照してください。
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。詳しくは、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」（P.368）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 USB ポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［USB］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［USB- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決定］を押します。

3 必要に応じて、プリントモードや自動排出時間などを設定します。

参照

- 設定項目は、「USB」（P.214）を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、USB ポートが起動になっていることを確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューター側では、プリンタードライバーをインストールする必要があります。

参照
- 使用できる OS については、「各 OS（オペレーティングシステム）で使用できる環境」(P.366) を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール手順については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。
- OS X または macOS をお使いの場合、Mac OS 用プリンタードライバーを使うと、Macintosh からも Windows からも USB を使用してプリントできます。インストール手順については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使って、本体側の次の項目を設定できます。

参照
- CentreWare Internet Services で設定できる項目については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- USB インターフェイスで使用する受信バッファのメモリー容量
  （［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［USB］）
- ポートの起動
- 自動排出時間
- Adobe 通信プロトコル

補足
- この項目は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）を装着した場合だけ、設定します。

- PostScript 印刷待ちタイムアウト（RAW モード）

補足
- この項目は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）を装着した場合だけ、設定します。

TCP/IP （LPD/Port9100）での設置

TCP/IP での設置について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 事前準備 369
Step2 本体側の設定 369
Step3 コンピューター側の設定 371
CentreWare Internet Services で設定できる項目 371

Step1 事前準備

本機を TCP/IP （LPD/Port9100）で使用する場合は、次のものが必要です。

- TCP/IP が使用できるネットワーク環境
- メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）：本体に同梱

Step2 本体側の設定

本機で TCP/IP（LPD/Port9100）を使用するための、本体側の設定手順について説明します。LPD ポート /Port9100 ポートを起動したあと、TCP/IP を設定します。

補足

- CentreWare Internet Services や、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使用して、設定することもできます。メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使っての設定方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

参照

- CentreWare Internet Services で設定できる項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」（P.371）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 LPDを使用する場合はLPDポートを、Port9100を使用する場合はPort9100ポートを起動します。

ここでは LPD ポートを起動する場合を例に説明します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［LPD］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［LPD- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決定］を押します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

この手順は、すでに IP アドレスが設定されている場合は必要ありません。

また、DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定は必要ありません。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 クライアントが Mac OS 以降の場合は、Bonjour ポートを起動して、ネットワーク上のプリンターを自動的に検出するディスカバリー機能を有効にできます。

補足
- Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントするためには、LPD ポートを起動しておく必要があります。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［Bonjour］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［Bonjour- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決定］を押します。

5 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

7 機能設定リストをプリントし、LPD ポートが起動になっていることと、TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

8 必要に応じて、その他の LPD/Port9100 の設定を行ってください。

参照
- 設定項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.371) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューター側では、プリンタードライバーをインストールする必要があります。

参照

- 使用できる OS については、「各 OS（オペレーティングシステム）で使用できる環境」（P.366）を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール手順については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。
- Mac OS、または macOS をお使いの場合、Mac OS 用プリンタードライバーを使うと、Macintosh からも Windows からも TCP/IP（LPD）を使用してプリントできます。インストール手順については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。
- オプションの Adobe PostScript 3 キットのインストール手順については、Adobe PostScript 3 キットに同梱の CD-ROM に入っているマニュアルを参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使って、本体側の次の項目を設定できます。

参照

- CentreWare Internet Services で設定できる項目については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.358）を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- ジョブのスプール先
  （［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［LPD］）

補足

- この項目は、LPD ポートを選択した場合だけ、設定します。

- Port9100 で使用する受信バッファのメモリー容量
  （［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［Port9100］）
- ポートの起動
- IP 動作モード
- ホスト名
- IPv4 設定
  - IP アドレス取得方法
  - IP アドレス
  - サブネットマスク
  - ゲートウェイアドレス
- IPv6 設定
  - IP アドレスの手動設定
  - IP アドレス
  - リンクローカルアドレス
  - ゲートウェイアドレス
- ドメイン名

- DNS
  - IPv4
  - IPv6
- DHCP/DDNS
- ポート番号
- TBCP フィルター

補足
- この項目は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）を装着した場合だけ、設定します。

- タイムアウト
- 最大セッション数

補足
- この項目は、LPD ポートを選択した場合だけ、設定します。

- TCP-MSS モード
- TCP-MSS モード有効時の IPv4 用サブネットマスク
- 受付 IP アドレス制限
  - IPv4
  - IPv6

インターネット印刷（IPP）での設置

インターネット印刷（IPP）での設置について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 事前準備 373
Step2 本体側の設定 373
Step3 コンピューター側の設定 374
CentreWare Internet Services で設定できる項目 374

補足

- IPP で送信されるデータサイズがプロキシサーバーの設定値より大きい場合、本機側にデータが届きません。プロキシサーバーの設定値を大きくするか、プロキシサーバーを使用しないように設定してください。

Step1 事前準備

本機をインターネット印刷（IPP）で使用する場合は、次のものが必要です。

- TCP/IP が使用できるネットワーク環境
- メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）：本体に同梱

Step2 本体側の設定

本機でインターネット印刷（IPP）を使用するための、本体側の設定手順について説明します。IPP ポートを起動してから、TCP/IP を設定します。

補足

- CentreWare Internet Services や、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使用して、設定することもできます。メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使っての設定方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

参照

- CentreWare Internet Services で設定できる項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」（P.374）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 IPP ポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［IPP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［IPP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決定］を押します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

この手順は、すでに IP アドレスが設定されている場合は必要ありません。

また、DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定は必要ありません。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、IPP ポートが起動になっていること、および TCP/IP の設定内容を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

7 必要に応じて、その他の IPP の設定を行います。

参照
- 設定項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.374) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューター側には、プリンタードライバーをインストールする必要があります。

参照
- 使用できる OS については、「各 OS（オペレーティングシステム）で使用できる環境」(P.366) を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール手順については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使って、本体側の次の項目を設定できます。

参照
- CentreWare Internet Services で設定できる項目については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- ジョブのスプール先
  （［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［IPP］）
- ポートの起動

- 追加ポート番号
- TBCP フィルター

補足

- この項目は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）を装着した場合だけ、設定します。

- 管理者モード
- DNS 使用
- タイムアウト

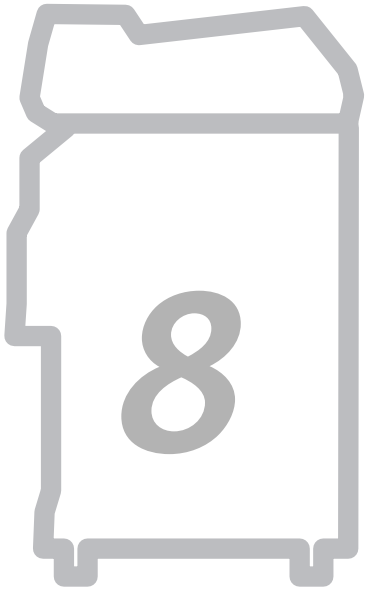
8　メール機能の設定

この章では、本機でメールを使ったサービスを利用するための、設定方法について説明します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

- メール機能の概要.....378
- 事前準備.....380
- 設定手順.....382



メール機能の概要

本機は、メールを送受信できます。

メールを送受信することで、次の機能を利用できます。

- スキャナー（メール送信）
- スキャナー（URL 送信）
- インターネットファクス
- メールプリント
- メール通知（消耗品等の状態通知）
- ジョブの終了通知

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■スキャナー（メール送信）

本機でスキャンした原稿を電子データにし、メールで送信できます。

■スキャナー（URL 送信）

本機で認証したユーザーがスキャンした原稿を電子データにして、ハードディスクに保存し、保存場所を示す URL をメールで送信します。スキャン文書は送信されません。

■インターネットファクス

通常のファクス通信と異なり、電話回線を経由せず、企業内ネットワークやインターネットを経由して、本機で読み取ったデータなどを電子メールの添付文書として送受信できます。

メール本文のプリントは、CentreWare Internet Services の［インターネットファクス受信メールシートのプリント］の設定に応じて処理されます。

■メールプリント

コンピューターや携帯電話などから本機に、文書を添付したメールを送信、転送できます。添付できる文書は、TIFF 形式、PDF 形式、JPEG（JFIF）形式、XPS 形式（Microsoft XPS フォーマット、OpenXPS フォーマット）、XDW 形式（DocuWorks 文書）、XBD 形式（DocuWorks バインダー文書）です。

メール本文のプリントは、CentreWare Internet Services の［受信メールシートのプリント］の設定に応じて処理されます。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■メール通知（消耗品等の状態通知）

CentreWare Internet Services の［機械状態のメール通知設定］で設定した内容（消耗品の状態、交換部品の状態、用紙の状態など）を指定された宛先へメールで通知できます。トナーやドラムカートリッジの状態を定期的に、または交換間近のタイミングで通知しますので、タイムリーに交換時期を把握できます。

宛先は、機械管理者、または共用のアドレスを登録することをお勧めします。

■ジョブの終了通知

ジョブの終了を通知するには、次のような方法があります。必要に応じて、ネットワーク管理者などの通知先のアドレスを登録してください。

- ジョブ終了をメールで通知

  プリンタードライバーを使って、プリントしたときや、直接ファクスしたときに、そのジョブが終了したことをメールで通知できます。詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

- ジョブ終了時のメール通知設定

  本機で実行されたジョブの結果をメールで通知できます。詳しくは、「ジョブ終了時のメール通知設定」(P.193) を参照してください。

- メール通知

  親展ボックスに文書蓄積時、およびジョブフローの終了時にメールで通知できます。詳しくは、「メール通知」(P.317) を参照してください。

事前準備

メール機能を利用する前に、次の項目の準備が必要です。

参照
- インターネットファクス機能を利用する前の準備は、「事前準備」(P.430) を参照してください。

■本機で設定

項目	説明	スキャナー (メール送信)	スキャナー (URL送信)	メールプリント		メール通知	ジョブの終了通知
				SMTP受信	POP3受信		
TCP/IP アドレス	本機のTCP/IPアドレスです。メールは、TCP/IP で通信します。	○	○	○	○	○	○
サブネットマスク	ネットワークをサブネットで分割して使用している場合は必要です。	△	△	△	△	△	△
ゲートウェイアドレス	複数のネットワークをゲートウェイを介して使用している場合は必要です。	△	△	△	△	△	△
本体メールアドレス	本機のメールアドレスを設定します。	○	○	○	○	○	○
DNS サーバーアドレス	POP3 サーバーや SMTP サーバーのアドレスを、IP アドレスではなくドメイン名形式で設定した場合は必要です。DHCP から取得することもできます。	△	△	△	△	△	△
SMTP サーバーアドレス	本機のメール送信では、SMTP サーバーを使用します。メール受信でも使用できます。	○	○	○	△	○	○
SMTP AUTH ログイン名、パスワード	認証が必要な SMTP サーバーの場合、認証用のユーザー名を指定します。必要に応じてパスワードを設定します。	△	△	△	△	△	△
POP3 サーバーアドレス	POP3 サーバーのアドレスを設定します。	△	△	×	○	△	△
POP3 ログイン名、パスワード	POP 受信用のユーザー名を設定します。必要に応じてパスワードを設定します。	△	△	×	○	△	△
S/MIME *	S/MIME を設定します。	△	ー	△	△	ー	ー

○：設定が必要です　△：必要に応じて設定します　×：設定の必要はありません　ー：対応していません
* ApeosPort シリーズだけです。

補足

- S/MIME で暗号化やデジタル署名をつけてメールの送受信を行うには、あらかじめ証明書が必要です。詳しくは、「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」(P.448) を参照してください。

■サーバーで設定

補足

- サーバー側の設定については、システム管理者に確認してください。

項目	説明	スキャナー (メール送信)	スキャナー (URL送信)	メールプリント		メール通知	ジョブの終了通知
				SMTP受信	POP3受信		
本体 メールアドレス	本機でメールを利用するには、あらかじめメールサーバーにメールアカウントを登録する必要があります。	○	○	○	○	○	○
ホスト名	IPアドレスとともに、DNS サーバーに登録しておきます。	△	△	△	△	△	△
ドメイン名		△	△	△	△	△	△

○：設定が必要です　△：必要に応じて設定します

設定手順

本機でメール機能を利用するための、設置手順の概要について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 382
Step2 メール環境の設定 383
CentreWare Internet Services で設定できる項目.....385

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

メールポートを起動して、IP アドレスなどを設定します。

補足

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 メール機能で使用するポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［メール送信］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［メール送信 - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

6) ［閉じる］を押します。

7) メールプリントを使用する場合は、同様に［メール受信］の［メール受信 - ポート］を［起動］に設定します。

8) メール通知、ジョブの終了通知を使用する場合は、同様に［メール通知サービス］の［メール通知サービス - ポート］を［起動］に設定します。

9) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得で

きないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step2 メール環境の設定

メールを使用するために、メールの各項目を設定します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.385) を参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 本機のメールアドレスを設定します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［本体メールアドレス / ホスト名］を押し、項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.226) を参照してください。

3) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 受信プロトコルを設定します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［その他の設定］を押します。

3) ［メール受信プロトコル］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) 環境に合わせて、[SMTP]、[POP3] から選択します。

5) [決定] を押します。

6) [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

4 受信の設定をします。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [メール送受信設定] を押します。

■[メール受信プロトコル] で [SMTP] を選択した場合

SMTP サーバーの設定をします。

参照
- SMTP サーバーの設定については、「SMTP サーバー設定」(P.234) を参照してください。
- SMTP 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.226) を参照してください。

■[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合

POP3 サーバーの設定をします。

参照
- POP3 サーバーの設定については、「POP3 サーバー設定」(P.234) を参照してください。
- POP3 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.226) を参照してください。

補足
- POP3 サーバーの設定で POP over SSL を ON するとメールの受信が暗号化されます。POP over SSL は CentreWare Internet Services を使用して設定することができます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照してください。

5 送信の設定をします。

補足
- メールの送信には、SMTP サーバーの設定が必要です。[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合は、[メール送受信設定] で SMTP サーバーを設定してください。詳しくは、「SMTP サーバー設定」(P.234) を参照してください。
- POP3 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.226) を参照してください。

6 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

7 必要に応じて、ドメインによる送受信制限を設定します。

参照
- 詳しくは、「送受信ドメインの制限」(P.247) を参照してください。

8 S/MIME についての設定をします。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [セキュリティ設定] を押します。

3) [S/MIME 設定] を押して、項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「S/MIME 設定（ApeosPort シリーズのみ）」(P.242) を参照してください。

9 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

10 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

11 機能設定リストをプリントし、各項目が設定されていることを確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使って、本体側の次の項目を設定できます。

参照
- CentreWare Internet Services で設定できる項目については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- 本体メールアドレス
- メール通知設定
- ポートの起動
- SMTP サーバー設定
- POP3 サーバー設定
- 受信プロトコル
- ドメインによる送受信制限
- S/MIME 設定

9 スキャン機能の設定

この章では、本機でスキャンを使ったサービスを利用するための設定方法について説明します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

- スキャン機能の概要 388
- スキャナー（ボックス保存）の設定 390
- スキャナー（PC 保存）の設定 392
- スキャナー（マイフォルダ保存）の設定 395
- スキャナー（USB メモリー保存）の設定 400
- ジョブフローの設定 401
- スキャナー（URL 送信）の設定 403
- スキャナー（WSD）の設定 405

スキャン機能の概要

本機ではスキャン機能が利用できます。

スキャン機能を利用すると、次の機能を利用できます。

- スキャナー（メール送信）
- スキャナー（ボックス保存）
- スキャナー（PC 保存）
- スキャナー（マイフォルダ保存）（ApeosPort シリーズのみ）
- スキャナー（USB メモリー保存）
- ジョブフロースキャン（ApeosPort シリーズのみ）
- BMLinkS ネットワーク保存
- スキャナー（URL 送信）
- スキャナー（WSD）

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

■スキャナー（メール送信）

本機でスキャンした原稿を電子データにして、メールで送信できます。

参照

- 詳しくは、「メール機能の設定」(P.377) を参照してください。

■スキャナー（ボックス保存）

データとして取り込みたい原稿を本機で読み込んで（スキャンして）、本機の親展ボックスに蓄積します。蓄積された文書は、ネットワークに接続しているコンピューターから取り出すことができます。

参照

- 詳しくは、「スキャナー（ボックス保存）の設定」(P.390) を参照してください。

■スキャナー（PC 保存）

本機をネットワーク環境に接続し、FTP プロトコルや SMB プロトコルを使用して、ネットワーク上のコンピューターにスキャンデータを保存できます。

データとして取り込みたい原稿を本機で読み込んで（スキャンして）、ネットワークに接続しているコンピューターに保存します。

参照

- 詳しくは、「スキャナー（PC 保存）の設定」(P.392) を参照してください。

■スキャナー（マイフォルダ保存）

本機の認証方式が外部認証モードで、CentreWare Internet Services を使って、［スキャナー（マイフォルダ保存）］を［起動］にすると、認証ユーザーに応じて異なる転送先にスキャン文書を転送できます。

「スキャナー（PC 保存）」の機能の一部で、［スキャナー（PC 保存）］から操作します。

参照

- 詳しくは、「スキャナー（マイフォルダ保存）の設定」(P.395) を参照してください。

■スキャナー（USB メモリー保存）

本機のパネル前面の USB メモリー差込口に、USB2.0 対応の USB メモリーを挿入して、スキャンデータを直接 USB メモリーに保存できます。また、USB メモリー内に保存されたデータを選択して、直接プリントすることもできます。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（USB メモリー保存）の設定」（P.400）を参照してください。

■ジョブフロースキャン

スキャン原稿を対象として登録されたジョブフローを利用してスキャンできます。ジョブフローは、ネットワーク上にあるコンピューターから Device Setup（デバイス設定ツール）を使って登録できます。

参照
- 詳しくは、「ジョブフローの設定」（P.401）を参照してください。

■BMLinkS ネットワーク保存

スキャンした文書を BMLinkS ストレージサービスへ保存できます。

参照
- 詳しくは、「BMLinkS 機能の設定」（P.407）を参照してください。BMLinkS ストレージサービスの設定については、「BMLinkS 設定」（P.304）を参照してください。

■スキャナー（URL 送信）

本機でスキャンした原稿を電子データにして、本機のハードディスクに保存し、保存場所を示す URL をメールで送信します。スキャン文書は送信されません。

補足
- スキャナー（URL 送信）をするには、認証の設定が必要です。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（URL 送信）の設定」（P.403）を参照してください。

■スキャナー（WSD）

本機にセットした原稿をコンピューターからの操作でスキャンし、保存できます。また本機で、ネットワーク上にあるコンピューターを選択してスキャンデータを保存することもできます。

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（WSD）の設定」（P.405）を参照してください。

スキャナー（ボックス保存）の設定

スキャナー（ボックス保存）について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 390
Step2 親展ボックスの登録 391
Step3 コンピューター側の設定.....391

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

WebDAV プロトコルに対応している弊社製のネットワークスキャナーユーティリティ 3（ネットワークスキャナードライバー、親展ボックスビューワー 3）を使用する場合、SNMP、SOAP、WebDAV ポートを起動し、IP アドレスなどを設定します。

注記

- WebDAV を使用するときは［SSL/TLS 設定］の［HTTP-SSL/TLS 通信］を有効にすることをお勧めします。パスワード漏えいの抑止に効果があります。

補足

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ポートを起動します。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［SNMP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［SNMP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決定］、［閉じる］を押します。

6)［SOAP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

7)［SOAP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

8)［起動］を選択し、［決定］、［閉じる］を押します。

9)［WebDAV］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

10)［WebDAV- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

11)［起動］を選択し、［決定］を押します。

12)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、WebDAV ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step2 親展ボックスの登録

スキャンデータを保存する親展ボックスを登録します。

参照
- 親展ボックスの登録手順は、「ボックス登録」(P.305) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を使用する場合は、ネットワークスキャナーユーティリティ 3 をコンピューターにインストールします。

参照
- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っています。インストール手順は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を参照してください。
- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を使用する場合は、『ユーザーズガイド』の「13　コンピューターからの操作」を参照してください。

スキャナー（PC 保存）の設定

スキャナー（PC 保存）の設定について説明します。

設定の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 事前準備 392
Step2 ポートの起動と TCP/IP の設定 392
Step3 コンピューター側の設定 394

Step1 事前準備

本機でスキャナー（PC 保存）機能を使用するには、あらかじめ次の環境が必要です。

■FTP で使用する場合

FTP 転送で使用する場合は、あらかじめ次の FTP サーバーと、FTP サーバーへのアカウント（ログイン名とパスワード）の登録が必要です。

- Windows の場合
  Microsoft Internet Information Server 6.0 の FTP サービス
- OS X または macOS の場合
  OS の FTP サービス *

  * 日本語のファイル名、ユーザー名、ディレクトリー名は使用できません。

参照

- 各 FTP サービスの設定は、ソフトウエアに付属のマニュアルを参照してください。
- 対応 OS について詳しくは、「主な仕様」（P.736）を参照してください。
- OS XまたはmacOSを利用する場合、FTPサービスの設定方法は、Apple Japan社の公式ホームページをご参照ください。

■SMB で使用する場合

SMB 転送する場合は、あらかじめ共有フォルダー機能が利用できる、本機でサポートしている OS のコンピューターが必要です。

OS X または macOS の場合は、共有できるユーザーアカウントが必要です。

参照

- 対応 OS について詳しくは、「主な仕様」（P.736）を参照してください。

Step2 ポートの起動と TCP/IP の設定

スキャナー（PC 保存）を使用するためにポート（SMB、FTP クライアント）を起動し、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順を説明します。

補足

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ポートを起動します。

■SMB プロトコルを使用する場合

SMB ポートを起動します。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［SMB クライアント］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［SMB クライアント - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決定］を押します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

■FTP プロトコルを使用する場合

FTP ポートを起動します。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［FTP クライアント］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［FTP クライアント - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決定］を押します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照

- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足

- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、SMB クライアントポートと FTP クライアントの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照

- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューターに転送先のフォルダーを作成します。

- FTP で使用する場合

  ログインするサーバーに転送先のフォルダーを作成し、書き込み権限を設定します。

- SMB で使用する場合

  コンピューター上にフォルダーを作成し、共有フォルダーに設定します。共有フォルダーに書き込み権限を設定します。

補足

- Mac OS で SMB を使用する場合は、システム環境設定にある［共有］の［サービス］タブで［Windows ファイル共有サービス］を［入］に設定する必要があります。

スキャナー（マイフォルダ保存）の設定

スキャナー（マイフォルダ保存）の設定について説明します。

設定の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 事前準備 395
Step2 SMB ポートの起動と TCP/IP の設定 395
Step3 外部認証の設定 396
Step4 スキャナー（マイフォルダ保存）の設定.....397
Step5 コンピューター側の設定 399

Step1 事前準備

スキャナー（マイフォルダ保存）とは、本機の認証モードが外部認証のときに、認証ユーザーに応じて異なる転送先にスキャン文書を転送できる機能です。

スキャナー（マイフォルダ保存）を利用するには、次の環境が必要です。

■外部認証システム

スキャナー（マイフォルダ保存）を利用するには、外部認証システムが必要です。

参照
- 外部認証システムについては、「認証システム」（P.235）を参照してください。

■転送先のコンピューター

転送先のコンピューターには、本機でサポートしている OS が必要です。

OS X または macOS の場合は、共有できるユーザーアカウントが必要です。

参照
- 対応 OS について詳しくは、「主な仕様」（P.736）を参照してください。

Step2 SMB ポートの起動と TCP/IP の設定

スキャナー（マイフォルダ保存）を使用するために SMB ポートを起動し、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順を説明します。

補足
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SMB ポートを起動します。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［SMB クライアント］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［SMB クライアント - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決定］を押します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、SMB クライアントポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step3 外部認証の設定

本機の認証モードを外部認証に設定します。

補足
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」(P.355) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 認証モードを外部認証に設定します。

1)［認証 / セキュリティ設定］を押します。

2)［認証の設定］を押します。

3)［認証方式の設定］を押します。

4)［外部認証］を選択し、［決定］を押します。

5)［はい（変更 / 削除)］を押します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 使用する外部認証サーバーの設定をします。

［Kerberos（Windows2000)］、［Kerberos（Solaris)］、［LDAP］、［SMB］、または［Authentication Agent］が設定できます。

補足
- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite を使用する場合は、［Authentication Agent］を選択してください。

参照
- 外部認証サーバーの設定については、「認証システムの設定」(P.235) を参照してください。

1)［仕様設定］を押します。

2)［ネットワーク設定］を押します。

3)［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］を押します。

4)［認証システムの設定］を押します。

5)［認証システム］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6) 使用する外部認証サーバーを選択し、［決定］を押します。

7)［閉じる］を押します。

補足
- 選択した外部認証サーバーに認証などの設定をしていないときは、［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］で設定してください。［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］は、選択した外部認証サーバーにかかわらず設定が必要です。
  - Kerberos サーバー設定については、「Kerberos サーバー設定」(P.236) を参照してください。
  - LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定については、「LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.236) を参照してください。
  - SMB サーバー設定については、「SMB サーバー設定」(P.241) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、外部認証サーバー / ディレクトリサービスの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step4 スキャナー（マイフォルダ保存）の設定

CentreWare Internet Services を使用して、スキャナー（マイフォルダ保存）を設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

2 スキャナー（マイフォルダ保存）の機能を有効にします。

1) [プロパティ] タブをクリックします。

2) [サービス設定] をクリックします。

3) [スキャナー（マイフォルダ保存)] をクリックします。

4) [一般] をクリックします。

5) [状態] で、[起動] にチェックを付けます。

6) 転送時に転送先を変更できるようにする場合は、[転送先の変更制限] の [変更可能] にチェックを付けます。

補足
- ここでチェックを付けておくと、スキャナー（マイフォルダ保存）実行時に、操作パネルで転送先フォルダーを変更できます。チェックを付けないと、転送先を手順 3 で指定したフォルダーから変更できません。

3 転送先のフォルダーを指定します。

■LDAP（ディレクトリサービス）サーバーの情報を使用して、認証ユーザーごとに指定されたフォルダーに転送する場合

1) [起点フォルダの決定方法] の [LDAP によって決定] にチェックを付けます。

初期設定では、LDAP (ユーザー情報管理) サーバーに登録されたユーザーの、ユーザープロファイルの [homeDirectory] に指定されているフォルダーが転送先に指定されています。

補足
- 転送先フォルダーを変更する場合は、[LDAP の起点フォルダ設定] をクリックして、[ホームディレクトリ] に、転送先フォルダーの設定をした属性型名を入力し、[新しい設定を適用] ボタンをクリックします。
- [LDAP の起点フォルダ設定] をクリックして表示される [LDAP ユーザーの関連付け] 画面は、[プロパティ] > [ネットワーク設定] > [プロトコル設定] > [LDAP] > [LDAP ユーザーの関連付け] で表示される画面と同じです。

■LDAP（ディレクトリサービス）サーバーの情報を使用しないで、CentreWare Internet Services で設定したフォルダーに転送する場合

1) [起点フォルダの決定方法] の [システムデータによって決定] にチェックを付けます。

2) [ホームディレクトリのパス] に、転送先のフォルダー名を入力します。

フォルダー名は、UNC 形式（例：￥￥サーバー名￥共有名￥フォルダー名￥フォルダー名 2）で入力してください。

4 手順 3 で設定したフォルダーの下にサブフォルダーを指定する場合は、次の設定を行ってください。

1) サブフォルダーを作成するときは、[サブフォルダの自動作成] にチェックを付け、[サブフォルダ名] に作成するサブフォルダー名を入力します。

2) 認証時のユーザー名をサブフォルダー名として使用するときは、［パス名へのユーザー名の付加］にチェックを付けます。

3) ［パス名へのユーザー名の付加］にチェックを付けた場合、［ユーザー名フォルダがなければ自動作成］にチェックを付けると、ユーザー名フォルダーが存在しない場合には、自動的に作成されます。

4) ［サブフォルダの自動作成］、［パス名へのユーザー名の付加］の両方にチェックを付けた場合は、［パス名のルール］で、サブフォルダー、ユーザー名のどちらを先の階層にするかを指定します。

5 転送先のコンピューターにアクセスするときの認証情報を指定します。

■認証時のログインユーザー名にドメイン名を付加する場合

1) ［認証ユーザーのドメイン使用］の［有効］にチェックを付けます。

■本機に認証する際に利用したユーザー情報とドメイン情報で転送先のコンピューターにアクセスする場合

1) ［保存時に使用する認証情報］の［認証ユーザーとドメイン］にチェックを付けます。

■本機に認証する際に利用したユーザー情報で転送先のコンピューターにアクセスする場合

1) ［保存時に使用する認証情報］の［認証ユーザー］にチェックを付けます。

■CentreWare Internet Service で本機に設定したログイン名とパスワードで転送先のコンピューターにアクセスする場合

1) ［保存時に使用する認証情報］の［既定の認証情報］にチェックを付けます。

2) ［ログイン名］と［パスワード］に転送先コンピューターの認証情報を設定します。
［ログイン名］は半角 97 文字、または全角 48 文字＋半角 1 文字以内で入力します。
［パスワード］は半角 32 文字、または全角 16 文字以内で入力します。
［パスワードの確認入力］は［パスワード］の内容を再入力します。

補足
- ログイン名を全角 48 文字＋半角 1 文字以内で設定するときの半角 1 文字には、ユーザー名とドメインを連結する「@」や「¥」を入力します。

6 ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

Step5 コンピューター側の設定

転送先のコンピューターに転送先フォルダーを作成して、共有フォルダーに設定し、書き込み権限を設定します。

補足
- Mac OS を使用する場合は、システム環境設定にある［共有］の［サービス］タブで［Windows ファイル共有サービス］を［入］に設定する必要があります。

スキャナー（USB メモリー保存）の設定

スキャナー（USB メモリー保存）について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

使用できる USB メモリーの条件.....400
CentreWare Internet Services で設定できる項目.....400

使用できる USB メモリーの条件

スキャナー（USB メモリー保存）とは、本機のパネル前面の USB メモリー差込口に、USB2.0 対応の USB メモリーを挿入して、スキャンデータを直接 USB メモリーに保存できます。

- USB2.0 対応の USB メモリー
- 最大容量 128G バイトまでの USB メモリー
- FAT12、FAT16、FAT32、VFAT（ロングネーム）対応の USB メモリー

補足

- ソフトウエアによって暗号化された USB メモリーは、使用できません。

CentreWare Internet Services で設定できる項目

CentreWare Internet Services を使用して、スキャナー（USB メモリー保存）機能を有効 / 無効に切り替えができます。無効に設定すると、メニュー画面にスキャナー（USB メモリー保存）が表示されなくなり、利用できません。

工場出荷時は、有効に設定されています。

参照

- CentreWare Internet Services で設定できる項目については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.358）を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

ジョブフローの設定

ジョブフローの設定について説明します。

設定の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....401
Step2 SNMP ポートの設定 402
Step3 コンピューター側の設定.....402

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

ジョブフローサービスを使用するために SOAP ポート、SNMP ポート、インターネットサービスポートを起動し、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順を説明します。

補足

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」(P.355) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SOAP ポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［SOAP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［SOAP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

6) ［ポート設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 SNMP ポートを起動します。

1) ［SNMP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

2) ［SNMP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

4) ［ポート設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5) 同様に、インターネットサービス（HTTP）ポートを起動します。

6)［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

5 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

7 機能設定リストをプリントし、SOAP ポート、SNMP ポート、インターネットサービス（HTTP）ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step2 SNMP ポートの設定

CentreWare Internet Services を使用して、SNMP ポートのトランスポートプロトコルを設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

2 SNMP の設定をします。

1)［プロパティ］タブをクリックします。

2)［ネットワーク設定］をクリックします。

3)［ポート起動］をクリックします。

4)［SNMP］の［UDP］のチェックを付けます。

5)［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

6) Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わります。

7)［再起動］をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Step3 コンピューター側の設定

Device Setup（デバイス設定ツール）を使って、スキャン文書を対象としたジョブフローを作成します。

補足
- Device Setup（デバイス設定ツール）は、弊社公式サイトの ApeosWare Management Suite（アペオスウエア マネージメント スイート）からダウンロードできます。

スキャナー（URL 送信）の設定

スキャナー（URL 送信）機能について説明します。

注記

- メール送信時、メールシートに記載された URL を含む本文は、暗号化されず、パスワードによる認証なしでユーザーがスキャン文書を取り出すことができます。そのため、メール伝送経路上で何らかの手段によって文書格納先の URL が漏洩した場合、漏洩先を追跡できません。ほかの人に読まれることを防ぐには、スキャンするときに［スキャナー（URL 送信）］画面の［他の出力ファイル形式］で、PDF または、DocuWorks ファイル形式を選び、セキュリティ設定でパスワードを設定してください。

補足

- スキャナー（URL 送信）をするには、認証の設定が必要です。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 メールの設定.....403
Step2 認証の設定.....403
Step3 その他の設定.....403
CentreWare Internet Services で設定できる本体側の項目.....404

Step1 メールの設定

本体でメールの設定をします。

参照

- 詳しくは、「メール機能の設定」（P.377）を参照してください。

Step2 認証の設定

本体で認証の設定をします。

参照

- 詳しくは、「認証するための設定」（P.478）を参照してください。

Step3 その他の設定

必要に応じて、次の項目を設定してください。

- URL 送信の文書保存期間
- URL 送信の URL 生成方法
- URL 送信の最大蓄積データサイズ
- 認証ユーザー名の記載

参照

- URL 送信の文書保存期間は、「URL 送信の文書保存期間」（P.265）を参照してください。
- URL 送信の URL 生成方法は、「URL 送信の URL 生成方法」（P.265）を参照してください。
- URL 送信の最大蓄積データサイズは、「URL 送信の最大蓄積サイズ」（P.265）を参照してください。
- 認証ユーザー名の記載については、「認証ユーザー名の記載（PDF）」（P.265）を参照してください。

CentreWare Internet Services で設定できる本体側の項目

CentreWare Internet Services を使って、次の項目を設定できます。

- 文書保存期間
- URL 生成方法
- 最大データサイズ
- 件名
- 本文
- 送信者情報
- 添付
- 本体情報
- 署名

参照

- CentreWare Internet Services で設定できる項目については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

スキャナー（WSD）の設定

スキャナー（WSD）について説明します。

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 事前準備 405
Step2 ポートの起動 405
Step3 コンピューター側での確認 406

Step1 事前準備

本機でスキャナー（WSD）機能を使用する場合、保存先のコンピューターには、本機でサポートしている Windows OS が必要です。

補足
- Windows Server の環境では、初期設定のままではスキャン機能を使用できません。詳しくは、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。

参照
- 対応 OS について詳しくは、「主な仕様」（P.736）を参照してください。

Step2 ポートの起動

スキャナー（WSD）を使用するために WSD スキャナーポートを起動します。本機で設定する手順を説明します。

補足
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」（P.355）を参照してください。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1）〈認証〉ボタンを押します。

2）〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3）メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ポートを起動します。

1）［ネットワーク設定］を押します。

2）［ポート設定］を押します。

3）［WSD］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4）［WSD スキャン - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5）［起動］を選択し、［決定］を押します。

6）［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

4 機能設定リストをプリントし、WSD ポートの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step3 コンピューター側での確認

転送先のコンピューターで、本機がネットワーク上のデバイスとして表示されていることを確認します。

Windows 7 の場合、［コントロールパネル］ > ［デバイスとプリンター］を選択、Windows 8.1、Windows10、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016 の場合、［コントロールパネル］ > ［ハードウェアとサウンド］ > ［デバイスとプリンター］を選択して、表示される画面で、本機の機種名が表示されていることを確認します。

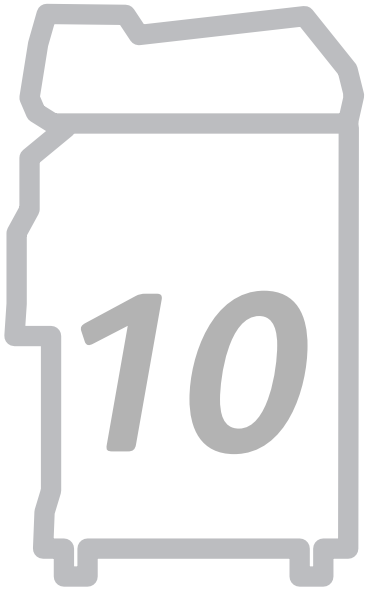
スキャンプロファイルで、カラーモードや解像度、保存するファイル形式など設定し、登録しておくと便利です。

参照
- 詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

10 BMLinkS 機能の設定

BMLinkS とは、Business Machine Linkage Service の略で、OA 機器でジョブや機器の制御を統一的に行うための標準仕様のことです。

- BMLinkS 機能の概要.....408
- BMLinkS の設定.....409



BMLinkS 機能の概要

BMLinkS 対応機器と BMLinkS ソフトウエアを使うと、弊社の異機種間や、他社の BMLinkS 対応機で、それぞれ固有のドライバーをインストールすることなくプリントやスキャンができます。

また、BMLinkS に対応機器を自動で検索できるので、プリンターやスキャン文書を保存するコンピューターを指定するのに便利です。

参照
- BMLinkS の使用方法は、「BMLinkS の設定」(P.409) を参照してください。

■BMLinkS プリント

BMLinkS 対応プリンターなら、機種およびメーカーを問わずプリントできます。印刷データの暗号化や認証プリント、出力可能な機器の検索なども利用できます。使用するには、プリンタードライバーが必要です。プリンタードライバーとマニュアルを次のアドレスからダウンロードしてください。

http://bmlinks-committee.jbmia.or.jp/

■ネットワーク保存

本機でスキャンしたデータをコンピューターのハードディスクに保存できます。保存した文書の閲覧するには、BMLinkS ドキュメントビューアが必要です。
BMLinkS ドキュメントビューアを次のアドレスからダウンロードしてください。

http://bmlinks-committee.jbmia.or.jp/

補足
- この機能は、お使いの機種によっては利用できません。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■保存文書印刷

コンピューターのハードディスクに保存されている文書を呼び出して、本機からプリントできます。

BMLinkS は、JBMIA が推進しているオフィス機器インターフェイスです。

本機は、仕様環境 BMLinkS 2013 に準拠し、JBMIA による BMLinkS 認証を受けています。

BMLinkS 機能名：プリント・ネットワーク保存・保存文書印刷

BMLinkS の設定

BMLinkS について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....409
Step2 SSDP プロトコルの設定 410
Step3 仕様設定 411

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

BMLinkS を使用するために、BMLinkS ポート、SOAP ポートを起動し、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順を説明します。

参照

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services の設定」(P.355) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 BMLinkS ポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［BMLinkS］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［BMLinkS- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

6) ［ポート設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 SOAP ポートを起動します。

1) ［SOAP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

2) ［SOAP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

4) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

5 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

7 機能設定リストをプリントし、BMLinkS ポート、SOAP ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step2 SSDP プロトコルの設定

CentreWare Internet Services を使用して、SSDP プロトコルを設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

2 SSDP の設定をします。

1) ［プロパティ］タブをクリックします。

2) ［ネットワーク設定］をクリックします。

3) ［プロトコル設定］をクリックします。

4) ［SSDP］をクリックします。

5) ［アドバタイズ有効期間］を設定します。
BMLinkS クライアントに対して、本機が起動したことを知らせる時間を 60 ～ 4320 分の範囲で、1 分単位で設定します。

補足
- 設定した時間の 1/4 の間隔で、本機の状態を通知します。
- 時間を短く設定すると、本機の状態を短い間隔で知ることができますが、ネットワークへの負荷は高くなります。

6) ［最大 TTL］を設定します。
BMLinkS クライアントに対して、ルーターを介して、いくつ先のネットワークまで本機が起動したことを知らせるかを、1 ～ 10 の範囲で設定します。

7) ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。
Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わります。

8）［再起動］をクリックします。
本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Step3 仕様設定

BMLinkS ストレージサービスを使用する場合は、必要に応じて BMLinkS の仕様を設定します。

参照

- 詳しくは、「BMLinkS 設定」（P.304）を参照してください。

11 IP ファクス（SIP）の設定

この章では、本機で IP ファクス（SIP）を使ったサービスを利用するための設定方法について説明します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

- IP ファクス（SIP）の概要 414
- 企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を利用する.....414
- イントラネットを利用するための設定.....416
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する 422
- NGN を利用するための設定 423

IP ファクス（SIP）の概要

IP ファクス（SIP）とは、国際基準 ITU-T 勧告 T.38 に準拠したインターネットファクスの総称です。

IP ファクス（SIP）を利用すると、企業内の IP ネットワーク（イントラネット）に接続された機器同士で通信したり、NTT が提供するひかり対応ゲートウェイを経由して、次世代ネットワーク（NGN）対応機種同士で通信することができます。

注記
- NGN とは、Next Generation Network の略称です。

企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を利用する

企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を経由して、イントラネットに接続された機器同士で文書の送受信ができます。イントラネット内では、文書の送受信による通信費がかからないため、本社と各拠点間などの通信に適しています。また、イントラネット内の VoIP ゲートウェイを経由すれば、イントラネットの外へ送信する場合でも通信費を削減できます。

補足
- IP ファクス（SIP）機の通信は、イントラネット内に設置された弊社、および株式会社リコーの SIP 対応 IP ファクス搭載複合機種間で交信性を確認しています。対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。

必要な条件

- IP ファクス（SIP）キットが装着されていること
- 本機が社内ネットワークに接続されていること

必須ではありませんが、次の機器も使用できます。

- SIP サーバー
- VoIPゲートウェイ（公衆電話回線網に接続されたG3ファクス機と送受信する場合）

補足
- SIP サーバーと VoIP ゲートウェイについては、システム管理者にお尋ねください。

システム構成ごとの設定内容

本機で IP ファクス（SIP）を使用するには、次の情報を設定する必要があります。

	ポートの起動と TCP/IP の設定	SIP 本体アドレスの設定	ファクス環境の設定	SIP サーバーの設定	VoIP ゲートウェイの登録
IP ファクス（SIP）機のみの場合	○	○	○	×	×
SIP サーバーだけ設置した場合	○	○	○	○	×
VoIP ゲートウェイだけ設置した場合	○	○	○	×	○

	ポートの起動と TCP/IP の設定	SIP 本体アドレスの設定	ファクス環境の設定	SIP サーバーの設定	VoIP ゲートウェイの登録
SIP サーバーと VoIP ゲートウェイを設置した場合	○	○	○	○	○

○：設定が必要です。　×：設定は不要です。

イントラネットを利用するための設定

本機をイントラネット上で IP ファクス（SIP）機能を利用するための設定について説明します。

設定の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 416
Step2 SIP 本体アドレスの設定 417
Step3 ファクス環境の設定 418
Step4 SIP サーバーの設定 419
Step5 VoIP ゲートウェイの登録 420

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動して、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.359）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動します。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［SIP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［SIP - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決定］を押します。

6)［ネットワーク設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 ［プロトコル設定］で本機の IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスやホスト名が設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、ポートの起動、TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step2 SIP 本体アドレスの設定

SIP 本体アドレスを設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の ［仕様設定 / 登録］ を押します。

2 SIP 本体アドレスを設定します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［SIP 設定］を押します。

3) ［SIP 本体アドレス］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) 本機の SIP 本体アドレスを入力し、［決定］を押します。

参照
- SIP 本体アドレスについては、「SIP 設定」(P.229) を参照してください。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

5 機能設定リストをプリントし、SIP 本体アドレスの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」（P.117）を参照してください。

Step3 ファクス環境の設定

IP ファクス（SIP）に関連するファクス機能を設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.359）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ［ファクス / インターネットファクス］画面の表示に関する項目を設定します。

1)［ファクス設定］を押します。

2)［ファクス画面表示設定］を押します。

3) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス画面表示設定」（P.266）を参照してください。

3 ファクス機能の初期値を設定します。

1)［ファクス機能設定初期値］を押します。

2) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス機能設定初期値」（P.267）を参照してください。

4 ファクスの動作を設定します。

1) [ファクス動作制御] を押します。

2) 必要に応じた設定をして、[閉じる] を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス動作制御」(P.269) を参照してください。

5 自局の情報を設定します。

1) [自局情報] を押します。

2) 必要に応じた設定をして、[閉じる] を押します。

参照
- 詳しくは、「自局情報」(P.279) を参照してください。

6 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

7 [閉じる] を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

8 機能設定リストをプリントし、ファクスの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step4 SIP サーバーの設定

経由する SIP サーバーの IP アドレス、認証ユーザー名、パスワードなどを設定します。本機で設定する手順について説明します。

SIP サーバーを経由して IP ファクス（SIP）通信する場合に設定します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照してください。

1 [仕様設定 / 登録] 画面を表示します。

1) 〈認証〉 ボタンを押します。

2) 〈数字〉 ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3) メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

2 SIP サーバーについて設定します。

参照
- 詳しくは、「SIP 設定」(P.229) を参照してください。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2)［SIP 設定］を押します。

3)［SIP サーバーの使用］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［する］を選択し、［決定］を押します。

5)［SIP サーバーアドレス取得方法］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6) 取得方法を選択し、［決定］を押します。

7)［SIP プロキシサーバー設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

8) IP アドレス、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別などを設定します。

補足
- ［SIP サーバーアドレス取得方法］で、［DHCP から取得］または［DHCPv6 から取得］を選択している場合でも、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別の設定は必要です。

9)［SIP レジストラサーバー設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

10) IP アドレス、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別などを設定します。

補足
- ［SIP サーバーアドレス取得方法］で、［DHCP から取得］または［DHCPv6 から取得］を選択している場合でも、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別の設定は必要です。

11)［閉じる］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

5 機能設定リストをプリントし、SIP サーバーの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step5 VoIP ゲートウェイの登録

経由する VoIP ゲートウェイを登録します。本機で設定する手順について説明します。

公衆電話回線網に接続された G3 ファクス機と IP ファクス（SIP）通信する場合に設定します。

VoIP ゲートウェイは 50 個まで設定できます。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 VoIP ゲートウェイについて設定します。

参照
- 詳しくは、「VoIP ゲートウェイ登録」(P.232) を参照してください。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［SIP 設定］を押します。

3)［VoIP ゲートウェイ登録］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) 登録する VoIP ゲートウェイを選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［識別番号］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6) 識別番号を設定し、［決定］を押します。

7)［アドレス］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

8) VoIP ゲートウェイの IP アドレスを設定し、［決定］を押します。

9)［決定］を押します。

10)VoIP ゲートウェイを複数設定するときは、手順 4 ～ 9 を繰り返します。

11)［閉じる］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

5 機能設定リストをプリントし、VoIP ゲートウェイの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

次世代ネットワーク（NGN）を利用する

次世代ネットワーク（NGN）とは、従来の公衆電話回線網がもつ信頼性や安定性を確保しながら、IP ネットワークの柔軟性や経済性を取り入れた、次世代の情報通信ネットワークです。

NTT が提供する「フレッツ光ネクスト」のひかり対応ゲートウェイを経由して、IP ファクス（SIP）NGN 通信が可能になります。

補足

- NGN 通信ができる対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。送信相手が NGN に対応していない場合は、G3 ファクス通信することもできます。

必要な条件

- IP ファクス（SIP）キットが装着されていること
- NTT と NGN 契約が完了していること

設定内容

本機で次世代ネットワーク（NGN）を使用するには、次の情報を設定する必要があります。

- ポートの起動と TCP/IP の設定
- 次世代ネットワーク（NGN）設定
- SIP サーバーの設定
- ファクス環境の設定

NGN を利用するための設定

本機で次世代ネットワーク（NGN）機能を利用するための設定について説明します。

設定の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定.....423
Step2 次世代ネットワーク（NGN）設定 424
Step3 SIP サーバーの設定 425
Step4 ファクス環境の設定.....426

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動して、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.359）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動します。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［ポート設定］を押します。

3)［SIP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［SIP - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5)［起動］を選択し、［決定］を押します。

6)［ネットワーク設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 本機の IP アドレスの取得方法などを設定します。

1)［プロトコル設定］を押します。

2)［TCP/IP- 共通設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3)［IP 動作モード］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［IPv4 モード］または［デュアルスタック］を選択し、［決定］を押します。

5)［プロトコル設定］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

6) [TCP/IP- ネットワーク設定] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

7) [IPv4-IP アドレス取得方法] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

8) [DHCP/AutoIP から取得] または [DHCP から取得] を選択し、[決定] を押します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

5 [閉じる] を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、ポートの起動、TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step2 次世代ネットワーク（NGN）設定

次世代ネットワーク（NGN）の設定をします。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照してください。

1 [仕様設定 / 登録] 画面を表示します。

1) 〈認証〉 ボタンを押します。

2) 〈数字〉 ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3) メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

2 次世代ネットワーク（NGN）の利用するための設定をします。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [次世代ネットワーク（NGN）設定] を押します。

3) [次世代ネットワーク（NGN）接続] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

4) [する] を選択し、[決定] を押します。

5) [発信者 ID 通知] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

6) [する] または [しない] を選択し、[決定] を押します。

7) [IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

8) 最大使用帯域幅を設定し、［決定］を押します。

補足
- 最大使用帯域幅は、NTT のデータ通信向けの料金表を確認して、設定してください。

9)［ファクスによる自動再送信］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

10)［する］または［しない］を選択し、［決定］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

Step3 SIP サーバーの設定

経由する SIP サーバーの設定をします。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SIP サーバーについて設定します。

参照
- 詳しくは、「SIP 設定」(P.229) を参照してください。

1)［ネットワーク設定］を押します。

2)［SIP 設定］を押します。

3)［SIP サーバーの使用］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4)［する］を選択し、［決定］を押します。

5)［SIP サーバーアドレス取得方法］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

6)［DHCP から取得］を選択し、［決定］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

5 機能設定リストをプリントし、SIP サーバーの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step4 ファクス環境の設定

IP ファクス（SIP）に関連するファクス機能を設定します。本機で設定する手順について説明します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 ［ファクス / インターネットファクス］画面の表示に関する項目を設定します。

1) ［ファクス設定］を押します。

2) ［ファクス画面表示設定］を押します。

3) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス画面表示設定」(P.266) を参照してください。

3 ファクス機能の初期値を設定します。

1) ［ファクス機能設定初期値］を押します。

2) 必要に応じた設定をして、［閉じる］を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス機能設定初期値」(P.267) を参照してください。

4 ファクスの動作を設定します。

1) [ファクス動作制御] を押します。

2) 必要に応じた設定をして、[閉じる] を押します。

参照
- 詳しくは、「ファクス動作制御」(P.269) を参照してください。

5 自局の情報を設定します。

1) [自局情報] を押します。

2) 必要に応じた設定をして、[閉じる] を押します。

参照
- 詳しくは、「自局情報」(P.279) を参照してください。

6 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

7 [閉じる] を押します。

補足
- 設定内容によっては再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

8 機能設定リストをプリントし、ファクスの設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

12 インターネットファクスの設定

この章では、本機でインターネットファクスを使ったサービスを利用するための設定方法について説明します。

補足

- この機能を利用するには、オプションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

- インターネットファクスの概要 430
- 事前準備 430
- 設定手順 432

インターネットファクスの概要

ファクス機能が使用できる場合、通常のファクス通信と異なり、電話回線を経由せず、企業内ネットワークやインターネットを経由して、本機で読み取ったデータなどを電子メールの添付文書として送信できます。また、インターネットファクス対応機から送信されたメールを受信できます。

参照

- インターネットファクスについては、『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」> 「インターネットファクスについて」を参照してください。

事前準備

本機でインターネットファクス機能を使用するために必要な条件について説明します。

本機側に必要な条件

- 本機がネットワークに接続され、TCP/IP での通信ができること
- メールの送受信ができる環境が用意されていること

メール環境について

インターネットファクス機能を使用するためには、メール環境として次の項目の準備が必要です。

項目	説明	インターネットファクス		インターネットファクスダイレクト *1
		SMTP 受信	POP3 受信	SMTP 受信
TCP/IP アドレス	本機の TCP/IP アドレスです。 メールは、TCP/IP で通信します。	○	○	○
サブネットマスク	ネットワークをサブネットで分割して使用している場合は必要です。	△	△	△
ゲートウェイアドレス	複数のネットワークをゲートウェイを介して使用している場合は必要です。	△	△	△
本体メールアドレス	本機のメールアドレスを設定します。	○	○	○
DNS サーバーアドレス	POP3 サーバーや SMTP サーバーのアドレスを、IP アドレスではなくドメイン名形式で設定した場合は必要です。DHCP から取得することもできます。	△	△	△
SMTP サーバーアドレス	本機のメール送信では、SMTP サーバーを使用します。メール受信でも使用できます。	○	○	ー
SMTP AUTH ログイン名、パスワード	認証が必要な SMTP サーバーの場合、認証用のユーザー名を設定します。必要に応じてパスワードを設定します。	△	△	ー

項目	説明	インターネットファクス		インターネットファクスダイレクト *1
		SMTP受信	POP3受信	SMTP受信
POP3 サーバーアドレス	POP3 サーバーのアドレスを設定します。	ー	○	ー
POP3 ログイン名、パスワード	POP 受信用のユーザー名を設定します。必要に応じてパスワードを設定します。	ー	○	ー
S/MIME 設定 *2	S/MIME を設定します。	△	△	△

○ :設定が必要です △ : 必要に応じて設定します ー : 対応していません

*1 : インターネットファクスダイレクトを使用する場合、［仕様設定］>［ファクス設定］>［インターネットファクス動作制御］>［インターネットファクスの送信経路］を［ダイレクト（P2P)］に設定する必要があります。

*2 : ApeosPort シリーズだけです。

補足

- S/MIME で暗号化やデジタル署名をつけてインターネットファクスの送受信を行うには、あらかじめ証明書が必要です。詳しくは、「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」(P.448) を参照してください。

設定手順

本機でインターネットファクス機能を利用するための設置手順の概要について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定 432
Step2 メール環境の設定 433
Step3 インターネットファクステスト 435

Step1 ポートの起動と TCP/IP の設定

インターネットファクス機能を使用するために、メール機能で使用するポートを起動して、IP アドレスなどを設定します。本機で設定する手順について説明します。

補足

- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 メール機能で使用するポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［メール受信］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［メール受信 - ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

6) ［閉じる］を押します。

7) 同様に、［メール送信］の［メール送信 - ポート］を［起動］に設定します。

8) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

すでに IP アドレスが設定されている場合は、この手順は不要です。DHCP や BOOTP 環境がある場合は、取得方法だけを設定します。アドレスが自動で取得できないときや、手動で設定するときは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定状態を確認します。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、ポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step2 メール環境の設定

メールを使用するために、メールの各項目を設定します。

参照
- CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。設定項目は、「CentreWare Internet Services で設定できる項目」(P.385) を参照してください。
- CentreWare Internet Services の起動方法は、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 本機のメールアドレスを設定します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［本体メールアドレス / ホスト名］を押して、項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.226) を参照してください。

3) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 受信プロトコルを設定します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) [その他の設定] を押します。

3) [メール受信プロトコル] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

4) 環境に合わせて、[SMTP]、[POP3] から選択します。

5) [決定] を押します。

6) [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

4 受信の設定をします。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [メール送受信設定] を押します。

■[メール受信プロトコル] で [SMTP] を選択した場合

SMTP サーバーの設定をします。

参照
- SMTP サーバーの設定については、「SMTP サーバー設定」(P.234) を参照してください。
- SMTP 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.226) を参照してください。

■[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合

POP3 サーバーの設定をします。

参照
- POP3 サーバーの設定については、「POP3 サーバー設定」(P.234) を参照してください。
- POP3 受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「本体メールアドレス / ホスト名」(P.226) を参照してください。

補足
- POP3 サーバーの設定で POP over SSL を ON するとメールの受信が暗号化されます。POP over SSL は CentreWare Internet Services を使用して設定することができます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照してください。

3) [閉じる] を押します。

5 送信の設定をします。

補足
- メールの送信には、SMTP サーバーの設定が必要です。[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合は、[メール送受信設定] で SMTP サーバーを設定してください。詳しくは、「SMTP サーバー設定」(P.234) を参照してください。

6 必要に応じて、送受信ドメインの制限を設定します。

参照
- 詳しくは、「送受信ドメインの制限」(P.247) を参照してください。

7 S/MIME についての設定をします。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [セキュリティ設定] を押します。

3)［S/MIME 設定］を押して、項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「S/MIME 設定（ApeosPort シリーズのみ）」(P.242)」を参照してください。

8 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

9 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

10 機能設定リストをプリントし、各項目が設定されていることを確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

Step3 インターネットファクステスト

本機からコンピューターにインターネットファクスできるかどうかをテストします。

1 メニュー画面で［ファクス / インターネットファクス］を押し、［ファクス / インターネットファクス］画面を表示します。

2 ドロップダウンメニューから［インターネットファクス］を表示します。

3 宛先を入力します。

4 〈スタート〉ボタンを押して送信します。

5 コンピューターで受信できたかどうかを確認します。

参照
- 受信できない場合は、「トラブル対処」(P.491) を参照してください。

13 暗号化と署名機能の設定

この章では、本機で暗号化と署名機能を利用するための設定方法について説明します。

- 暗号化と署名機能の概要 438
- HTTP の通信を暗号化するための設定 441
- IPsec を使用して暗号化するための設定.....445
- メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定 448
- PDF署名/DocuWorks署名/XPS署名をするための設定（ApeosPortシリーズのみ）.....456

暗号化と署名機能の概要

証明書の種類

本機で暗号化と署名機能を利用するには、証明書が必要になります。

使用できるデバイス証明書は次の 3 種類です。

- CentreWare Internet Services を使用して作成した自己証明書（有効期限は、1 から 9999 日の範囲で指定可能）
- 弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ2 for Apeos を使用して作成した証明書（有効期限は 3 年）
- 他の認証局で作成された証明書

補足

- 弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して作成した証明書、他の認証局で作成された証明書を使用する場合は、CentreWare Internet Services で本機にインポートしてください。

参照

- 証明書のインポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

暗号化の種類により使用できるデバイス証明書は次のとおりです。

	自己証明書	デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して作成した証明書	他の認証局で作成された証明書
クライアントから本機への HTTP　通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）	○	○	○
本機から外部サーバーへの HTTP　通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）	×	○	○
IPsecを使用して暗号化する	×	×	△[*1]
メールのデジタル署名/暗号化通信をする	×	○	○
PDF 署名/DocuWorks 署名/XPS[*2] 署名をする	○	○	○

○：使用できる　△：必要に応じて使用する　×：使用できない

[*1] ［IKE 認証方法］が［デジタル署名］の場合に使用します。

[*2] 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

通信の暗号化機能

本機とデータを送受信する場合、データを暗号化できます。

■クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）

本機の HTTP サーバーを利用するポートには、SOAP ポート、インターネットサービス（HTTP）ポート、IPP ポート、WebDAV ポートがあります。

クライアントから本機への HTTP 通信の暗号化には、SSL /TLS プロトコルを使用します。

通信を暗号化するには、自己証明書、弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して作成した証明書、他の認証局で作成された証明書のどれかのデバイス証明書が使用できます。

補足

- HTTP の通信を暗号化することによって、IPP でプリントするときに通信データを暗号化（SSL 暗号化通信）できます。

■本機から外部サーバーへの HTTP の通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）

本機から外部サーバーへの HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルを使用します。

通常、証明書を設定する必要はありませんが、外部サーバーが SSL クライアント証明を要求する設定の場合には、弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して作成した証明書、他の認証局で作成された証明書が使用できます。

また、サーバー証明書の検証を有効にして外部サーバー（SSL/TLS サーバー証明書）を検証する場合には、他の認証局で作成された証明書を CentreWare Internet Services を使用して本機にインポートしてください。

■IPsec を使用し暗号化する

IPsec を使用して本機と暗号化通信ができます。アプリケーションに関係なく、IP レベルでの暗号化が行われます。

［IKE 認証方法］が［デジタル署名］の場合は、他の認証局で作成されたデバイス証明書が必要です。

［IKE 認証方法］が［事前共有鍵］の場合は、デバイス証明書は必要ありません。

補足

- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

参照

- IKE 認証方式については、「IKE 認証方式」（P.244）を参照してください。

また、通信相手装置の検証をする場合には、相手側の他の認証局で作成された証明書（上位の CA 証明書）を本機に登録しておく必要があります。

■デジタル署名 / 暗号化通信をする

メールのデジタル署名 / 暗号化通信には、S/MIME を使用します。本機で S/MIME を使用する場合は、本機の S/MIME 証明書が必要です。

S/MIME で利用する証明書は、他の認証局で作成された証明書を使用するか、弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して作成した証明書を使用します。

暗号化通信を行うには、送信先の個人証明書またはデバイス証明書、本機のデバイス証明書が必要です。

補足

- S/MIME の個人証明書およびデバイス証明書には、メールアドレス、および V3 拡張（KeyUsage）がある場合は、デジタル署名と鍵信号のビットがオンに設定されている必要があります。また、V3 拡張（ExtendedKeyUsage）がある場合は、「電子メール保護」が設定されている必要があります。

スキャン文書の暗号化と署名機能

■PDF や DocuWorks 文書の暗号化の設定

PDF、DocuWorks 文書を暗号化して、パスワードを入力しないとファイルを開けないように設定できます。

参照

- 詳しくは、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャナー（メール送信）」>「出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）」を参照してください。

■PDF/DocuWorks/XPS 文書の署名の設定（ApeosPort シリーズのみ）

PDF、DocuWorks、XPS 文書にデジタル署名を付けられます。

デジタル署名を使用する場合は、デバイス証明書が必要です。

デバイス証明書は、他の認証局で作成された証明書を使用するか、弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して作成した証明書を使用します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

HTTP の通信を暗号化するための設定

HTTP の通信を暗号化するための設定について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

設置手順の概要.....441
Step1 本体側の設定.....441
Step2 コンピューター側の設定.....444

設置手順の概要

HTTP の通信を暗号化する場合は、次の手順で設定を行います。

■本体側の設定

本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機に登録されていません。必要に応じて、SSL サーバー用証明書を設定します。

証明書を設定する方法は、次のとおりです。

- CentreWare Internet Services で証明書を設定する

  証明書の種類によって、次の 2 つの方法があります。

  - 本機で自己証明書を生成して、HTTPS を有効にします。
  - HTTPS を有効にして、本機に他の認証局で作成された証明書をインポートします。

- 弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して設定する

  ユーティリティを使用するために、インターネットサービス（HTTP）ポートと SOAP ポートを起動してください。

補足

- 弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■コンピューター側の設定

Web ブラウザーと本機の通信を暗号化する場合には、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

Step1 本体側の設定

本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機に登録されていません。必要に応じて、SSL サーバー用証明書を設定します。

ここでは、CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合の手順について説明します。

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、自己証明書（SSL サーバー用）を生成する場合と、他の認証局で作成された証明書を本機にインポートする場合があります。

ここでは、自己証明書（SSL サーバー用）を生成する場合について説明します。

参照

- 他の認証局で作成された証明書のインポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。
- 本体で生成した自己証明書、または証明書の文字コードが UTF-8 で記載された証明書を使って SSL 通信を行う場合、Mac OS の環境で Internet Explorer を利用すると、SSL で接続できません。これは、証明書の文字コード（UTF-8）を OS が認識できないためです。上記 OS 環境でご利用の場合は、Netscape 7 を使用してください。
- 証明書をインポートするときに、［本体］または［その他］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.358）を参照してください。

2 証明書を生成します。

1）［プロパティ］タブをクリックします。

2）［セキュリティー］をクリックします。

3）［証明書の設定］をクリックします。

4）［証明書の作成］ボタンをクリックします。

5）［ 自己証明書 ］を選択し、［ 次へ ］ボタンをクリックします。

6）［デジタル署名の方式］を必要に応じて設定します。

7）［ 公開鍵のサイズ ］を必要に応じて設定します。

8）［発行者］を必要に応じて設定します。

9）［有効期間］を必要に応じて設定します。

10）［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

11）Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 SSL/TLS の設定をします。

1）［セキュリティー］をクリックします。

2）［SSL/TLS 設定］をクリックします。

3）［HTTP - SSL/TLS 通信］の［有効］にチェックを付けます。

4) [HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号] を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

5) [新しい設定を適用] ボタンをクリックします。

6) Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わったら、[再起動] をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用する場合（ApeosPort シリーズのみ）

本機の SOAP ポートとインターネットサービス（HTTP）ポートを起動し、IP アドレスなどを設定してから、デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して、証明書を設定します。

補足
- ポートの起動やIPアドレスなどの設定は、CentreWare Internet Servicesを使用することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Servicesを使って設定する」(P.359) を参照してください。

1 [仕様設定 / 登録] 画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3) メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

2 SOAP ポートを起動します。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [ポート設定] を押します。

3) [SOAP] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

4) [SOAP- ポート] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

5) [起動] を選択し、[決定] を押します。

6) [閉じる] を押します。

7) 同様に、[インターネットサービス（HTTP)] の [インターネットサービス - ポート] を起動します。

8) [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用する場合は、本機の IP アドレスを手動で設定する必要があります。すでに IP アドレスが手動で設定されている場合は、この手順は不要です。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、SOAP ポート、CentreWare Internet Services のポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

7 デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を用意します。

ソフトウエアを入手するための弊社公式サイトのアドレス（URL）は、次のとおりです。

http://www.fujixerox.co.jp/download/

補足
- 通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

8 ユーティリティを使用して証明書を設定します。

参照
- 証明書の概要やインポートの手順については、デバイス証明書取得ユーティリティの Readme ファイルを参照してください。

Step2 コンピューター側の設定

Web ブラウザーと本機の通信を暗号化する場合には、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

- IP アドレスの入力例

  https://192.0.2.1/（IPv4 の場合）

  https://[2001:DB8::1234]/（IPv6 の場合）
- インターネットアドレスの入力例

  https://myhost.example.com/

IPP の通信（インターネット印刷）を暗号化する場合には、［プリンタの追加］からプリンターを追加するときに、プリンターの URL に、「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

参照
- 詳しくは、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

IPsec を使用して暗号化するための設定

IPsec を使って暗号化するための設定について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

IKE 認証方式が事前共有鍵の場合には、Step1 の「本体側の設定（証明書の設定）」は不要です。Step2 の「本体側の設定（IPsec の設定）」を行ってください。

参照

- IKE 認証方式は、「IKE 認証方式」（P.244）を参照してください。

設置手順の概要.....445
Step1 本体側の設定（証明書の設定）.....446
Step2 本体側の設定（IPsec の設定）.....447
Step3 コンピューター側の設定.....447

設置手順の概要

IPsec を使った暗号通信をする場合は、次の手順で設定を行います。

■本体側の設定

［IKE 方式］が［デジタル署名による認証］の場合には、本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機にインポートされていません。IPsec 用証明書をインポートします。インポート後、IPsec の設定をします。

証明書を設定する方法は、次のとおりです。

- CentreWare Internet Services で証明書を設定する
  - HTTPS を有効にして、本機に他の認証局で作成された証明書をインポートします。

補足

- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

■コンピューター側の設定

コンピューターと本機の通信を暗号化する場合には、次の設定を行う必要があります。

- IP セキュリティポリシーの作成
- ポリシーの割り当て

Step1 本体側の設定（証明書の設定）

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合の手順について説明します。

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、他の認証局で作成された証明書を本機にインポートして、IPsec 用証明書として設定します。

補足

- IPsec 用には、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書やデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos で作成した証明書は使用できません。
- 本機にインポート可能な証明書の公開鍵は、RSA® 公開鍵 4096 ビットまでとなります。
- IPsec 用には、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

参照

- HTTP の通信を暗号化する設定方法は、「HTTP の通信を暗号化するための設定」（P.441）を参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.358）を参照してください。

2 証明書をインポートします。

注記

- 証明書をインポートするときに、［本体］または［その他］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。
- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

1) ［プロパティ］タブをクリックします。

2) ［セキュリティー］をクリックします。

3) ［証明書の設定］をクリックします。

4) ［証明書のインポート］をクリックします。

5) ［パスワード］を入力します。

6) ［確認用パスワード］を入力します。

7) インポートするファイル名を直接入力するか、［参照］ボタンをクリックして表示される、ダイアログボックスでインポートするファイルを選択し、［保存］をクリックします。

8) ［インポート］ボタンをクリックします。

9) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 証明書を設定します。

1) ［セキュリティー］をクリックします。

2) ［証明書管理］をクリックします。

3) ［カテゴリー］で［本体］を、［証明書の目的］で［IPsec］を選択し、［一覧の表示］ボタンを押します。

4) 設定する証明書にチェックを付けます。

5)［証明書の表示］ボタンを押します。

6)［証明書の選択］ボタンを押します。

7)［再起動］をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Step2 本体側の設定（IPsec の設定）

本機の操作パネルを使用して、IPsec の設定をする手順について説明します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［ネットワーク設定］を押します。

5 ［セキュリティ設定］を押します。

6 ［IPsec 設定］を押します。

7 必要な設定をします。

参照
- 詳しくは、「IPsec」(P.244) を参照してください。

8 ［閉じる］を押します。

Step3 コンピューター側の設定

コンピューター側の設定について説明します。
コンピューター側では次の設定を行う必要があります。

- IP セキュリティポリシーの作成
- ポリシーの割り当て

参照
- 設定方法は、コンピューターにインストールされているヘルプを参照してください。

メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定

メールの暗号化 / デジタル署名するための設定について説明します。

設置の流れと参照先は、次のとおりです。

設置手順の概要 448
Step1 本体側の設定.....448
Step2 送信元と送信先の設定.....454

設置手順の概要

メールの暗号化 / デジタル署名をする場合は、次の手順で行います。

補足

- S/MIMEを使用してメールの暗号化/デジタル署名をする場合は、送信先の個人証明書またはデバイス証明書、本機のデバイス証明書が必要です。証明書には次の設定をします。
  - メールアドレス
  - V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名と鍵信号のビットをオン
  - V3 拡張（ExtendedKeyUsage）がある場合には、「電子メール保護」
- S/MIME で暗号化できる宛先は、100 件までです。

■本体側の設定

本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機にインポートされていません。

証明書を設定する方法は、次のとおりです。

- CentreWare Internet Services で証明書を設定する

  HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから証明書を設定してください。
- 弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して設定する

  ユーティリティを使用するために、SOAP ポートとインターネットサービス（HTTP）ポートを起動してから、本機に証明書をインポートします。

補足

- 弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■送信元と送信先の設定

暗号化 / デジタル署名でメールを送受信するには、送信元および送信先になる機器で、必要な証明書を登録してください。

Step1 本体側の設定

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合の手順と弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して設定する手順について説明します。

補足

- S/MIME 用には、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、他の認証局で作成された証明書を本機にインポートして、S/MIME を有効にします。

参照
- HTTP の通信を暗号化する設定方法は、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.441) を参照してください。
- 本機にインポート可能な証明書の公開鍵は、RSA 公開鍵 4096 ビットまでとなります。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

2 証明書をインポートします。

補足
- 証明書をインポートするときに、[本体] または [その他] のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

1) [プロパティ] タブをクリックします。

2) [本体説明] の [本体メールアドレス] が入力されていることを確認します。

3) [セキュリティー] をクリックします。

4) [証明書の設定] をクリックします。

5) [証明書のインポート] をクリックします。

6) [パスワード] を入力します。

7) [確認用パスワード] を入力します。

8) インポートするファイル名を直接入力するか、[参照] ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選択し、[保存] をクリックします。

9) [インポート] ボタンをクリックします。

10) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 証明書を設定します。

補足
- DocuCentre シリーズの場合は、この手順は不要です。

1) [セキュリティー] をクリックします。

2) [証明書管理] をクリックします。

3) [カテゴリー] で [本体] を、[証明書の目的] で [S/MIME] を選択し、[一覧の表示] ボタンを押します。

4) 設定する証明書にチェックを付けます。

5) [証明書の表示] ボタンを押します。

6) [証明書の選択] ボタンを押します。

7) [再起動] をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

8) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

4 [S/MIME 通信] を [有効] に設定します。

1) [セキュリティー] をクリックします。

2) [SSL/TLS 設定] をクリックします。

3) [S/MIME 通信] の [有効] にチェックを付けます。

4) [新しい設定を適用] ボタンをクリックします。

5) Web ブラウザーの右フレームが、本機を再起動する表示に変わります。

6) [再起動] をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

5 S/MIME 関連の設定をします。

補足
- DocuCentre シリーズの場合は、この手順は不要です。

1) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

2) [セキュリティー] をクリックします。

3) [S/MIME 設定] をクリックし、次の項目を設定します。

- メッセージダイジェスト方式

  使用するメッセージダイジェスト方式を、[SHA1]、[MD5]、[SHA256] のどれかに設定します。

- 本文の暗号化方式

  本機からメール送信する場合に、メール本文の暗号化方式を、[3DES]、[RC2-40]、[RC2-64]、[RC2-128]、[AES-128]、[AES-192]、[AES-256] の中から選択します。

- 証明書の自動保存

  宛先表に登録されているメールアドレスから、S/MIME 用証明書が添付されたメールを受信したとき、自動的に証明書を保存するかどうかを設定します。

補足
- 証明書の V3 拡張（KeyUsage）に、デジタル署名と鍵信号のビットがオンに設定されていないと、自動的に証明書を保存する設定にしていても、自動保存されません。また、登録されている宛先にも関連づけされません。

- 信頼できないメールの受信

  期限切れの証明書が添付されたメールや証明書が添付されていないメールなど、信頼できないメールを受信するかしないかを設定します。

- デジタル署名 - メール送信

  本機からメールを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

- 信頼できないインターネットファクスの受信

  期限切れの証明書が添付されたインターネットファクスや証明書が添付されていないインターネットファクスなど、信頼できないインターネットファクスを受信するかしないかを設定します。

- デジタル署名 - インターネットファクス送信

  本機からインターネットファクスを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

4) [新しい設定を適用] ボタンをクリックします。

デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用する場合（ApeosPort シリーズのみ）

本機の SOAP ポートとインターネットサービス（HTTP）ポートを起動し、IP アドレスなどを設定してから、デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して、証明書を設定します。

補足
- ポートの起動やIPアドレスなどの設定は、CentreWare Internet Servicesを使用することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Servicesを使って設定する」(P.359) を参照してください。

1 [仕様設定 / 登録] 画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

   パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3) メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

2 SOAP ポートを起動します。

1) [ネットワーク設定] を押します。

2) [ポート設定] を押します。

3) [SOAP] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

4) [SOAP- ポート] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

5) [起動] を選択し、[決定] を押します。

6) [閉じる] を押します。

7) 同様に、[インターネットサービス（HTTP)] の [インターネットサービス - ポート] を起動します。

8) [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用する場合は、本機の IP アドレスを手動で設定する必要があります。すでに IP アドレスが手動で設定されている場合は、この手順は不要です。

参照
- IP アドレスの設定については、「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

4 本機のメールアドレスを設定します。

1)［本体メールアドレス / ホスト名］を押します。

2)［メールアドレス］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3) 表示されるキーボードで［メールアドレス］を入力します。

4)［決定］を押します。

5 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

7 機能設定リストをプリントし、SOAP ポート、CentreWare Internet Services のポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

8 デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を用意します。

ソフトウエアを入手するための弊社公式サイトのアドレス（URL）は、次のとおりです。

http://www.fujixerox.co.jp/download/

補足
- 通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

9 ユーティリティを使用して証明書を設定します。

参照
- 証明書の概要やインポートの手順については、デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos の Readme ファイルを参照してください。

10 S/MIME 関連の設定をします。

1)〈認証〉ボタンを押します。

2)〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4)［ネットワーク設定］を押します。

5)［セキュリティ設定］を押します。

6)［S/MIME 設定］を押し、次の項目を設定します。

- 本体の証明書 -S/MIME

  本機に証明書を関連付けます。

デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos で設定されますので、ここでの設定は不要です。

- S/MIME 通信

  証明書 ID が設定されている場合に、S/MIME 通信を有効にするか無効にするかを設定します。

  デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos で設定されますので、ここでの設定は不要です。

- 信頼できないメール

  期限切れの証明書が添付されたメールや証明書が添付されていないメールなど、信頼できないメールを受信するかしないかを設定します。

- 信頼できないインターネットファクス

  期限切れの証明書が添付されたインターネットファクスや証明書が添付されていないインターネットファクスなど、信頼できないインターネットファクスを受信するかしないかを設定します。

- メッセージダイジェスト方式

  使用するメッセージダイジェスト方式を、［SHA1］、［MD5］、［SHA256］のどれかに設定します。

- 本文の暗号化方式

  本機からメール送信する場合に、本文の暗号化方式を、［3DES］、［RC2-40］、［RC2-64］、［RC2-128］、［AES-128］、［AES-192］、［AES-256］の中から選択します。

- 暗号化メール分割送信

  暗号化メールを送信先ごとに分割送信するかどうかを設定します。

- 暗号化インターネットファクス分割送信

  暗号化したインターネットファクスを送信先ごとに分割送信するかどうかを設定します。

- 署名 - メール送信

  本機からメールを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

- 署名 - インターネットファクス送信

  本機からインターネットファクスを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選択するかを設定できます。

- 証明書の自動取得

  宛先表に登録されているメールアドレスから、S/MIME 用証明書が添付されたメールを受信したとき、自動的に証明書を保存するかどうかを設定します。

11 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

12 ［閉じる］を押します。

Step2 送信元と送信先の設定

暗号化 / デジタル署名でメールを送受信するには、本機にデバイス証明書を登録するだけでは、送受信できません。

送受信するには、機器同士でデバイス証明書や個人証明書を登録しあう必要があります。

それぞれの機器を送信元にした場合、送信元および送信先で必要な証明書と登録方法について説明します。

補足

- 証明書は、使用する証明書のパスに登録されている、信頼されたルート証明機関、中間証明機関のすべての登録が必要です。

■送信元が本機で送信先がコンピューターの場合

本機には、コンピューターの個人証明書の登録が必要です。また、コンピューターには、本機のデバイス証明書の登録が必要です。

本機にコンピューターの個人証明書を登録するには、CentreWare Internet Services を使用します。

コンピューターに本機のデバイス証明書を登録するには、次の 2 つの方法があります。

- 本機からコンピューターにS/MIMEデジタル署名メールを送信し、メールソフトの証明書ストアに登録する

  本機の［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］>［S/MIME設定］>［署名 - メール送信］で、［常に署名する］または［送信時に選択する］を設定し、本機からメールを送信すると、S/MIME デジタル署名メールが送信されます。

- CentreWare Internet Services を使って、コンピューターに本機の証明書をエクスポートし、メールソフトの証明書ストアに登録する

参照

- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、「CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについて」(P.455)または CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- メールソフトへの証明書の登録方法は、使用しているメールソフトのマニュアルを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■送信元が本機で送信先が他の複合機の場合

本機には、他の複合機のデバイス証明書の登録が必要です。また、他の複合機には、本機のデバイス証明書の登録が必要です。

本機に他の複合機のデバイス証明書を登録するには、コンピューターから他の複合機の CentreWare Internet Services を起動し、いったんコンピューターに証明書をエクスポートします。そのあと、本機の CentreWare Internet Services を起動し、他の機種の証明書をインポートしてください。

他の複合機に本機のデバイス証明書を登録する場合も、同じような操作で登録します。

参照

- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、「CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについて」(P.455)または CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■送信元がコンピューターで送信先が本機の場合

コンピューターには、本機のデバイス証明書の登録が必要です。本機には、コンピューターの個人証明書の登録は必要ありません。

コンピューターに本機の証明書を登録するには、次の 2 つの方法があります。

- 本機 (または他の複合機) からコンピューターに S/MIME デジタル署名メールを送信し、メールソフトの証明書ストアに登録する

  本機の［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］>［S/MIME 設定］>［署名 - メール送信］で、［常に署名する］または［送信時に選択する］を設定し、本機からメールを送信すると、S/MIME デジタル署名メールが送信されます。

- CentreWare Internet Services を使って、コンピューターに本機の証明書をエクスポートし、メールソフトの証明書ストアに登録する

参照
- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、「CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについて」(P.455) または CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- メールソフトへの証明書の登録方法は、使用しているメールソフトのマニュアルを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

本機とコンピューターのメール送受信で、動作を確認しているメールソフトは次のとおりです。

- Windows：Microsoft® Outlook® 2007、Microsoft® Outlook® 2010
- OS X Yosemite：Mail8
- OS X El Capitan：Mail9
- macOS Sierra：Mail10

■CentreWare Internet Servicesを使った証明書のインポート/エクスポートについて

証明書をインポートする場合は、［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［証明書の設定］>［証明書のインポート］を選択します。

証明書をエクスポートする場合は、［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［証明書管理］からエクスポートする証明書を選択し、［証明書のエクスポート］ボタンを押します。

参照
- 詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名をするための設定（ApeosPort シリーズのみ）

スキャンした文書を PDF、DocuWorks、XPS 文書で送信するときに、署名する（PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名）ための設定について説明します。設置の流れと参照先は、次のとおりです。

設置手順の概要 456
Step1 本体側の設定.....457
Step2 コンピューター側の設定.....461

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

設置手順の概要

スキャンした文書を PDF、DocuWorks、XPS 文書で送信するときに、署名する（PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名）ためには、次の設定を行います。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■本体側の設定

本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機にインポートされていません。

証明書を設定する方法は、次のとおりです。

- CentreWare Internet Services で証明書を設定する

  HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから証明書を設定してください。

- 弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して設定する

  ユーティリティを使用するために、インターネットサービス（HTTP）ポートと SOAP ポートを起動してください。

補足
- 弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■コンピューター側の設定

- 本機からコンピューターにDocuWorksセキュリティー証明書のファイルを送信する場合

  送信先となるコンピューターの個人証明書を本機に登録し、宛先表に割り当てる必要があります。なお、本機に登録する個人証明書は、ルート証明書を含めた形式にしてください。

  証明書の取り込みについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- 本機からコンピューターに PDF 署名、DocuWorks 署名、XPS 署名ファイルを送信する場合

  送信先のコンピューターに、本機のスキャンファイル署名用証明書のルート証明書が登録されていることを確認してください。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

Step1 本体側の設定

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合の手順と弊社のデバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して設定する手順について説明します。

CentreWare Internet Services で証明書を設定する場合

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、他の認証局で作成された証明書を本機にインポートして、スキャンファイル署名用証明書として設定します。

参照
- HTTP の通信を暗号化する設定については、「HTTP の通信を暗号化するための設定」（P.441）を参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」（P.358）を参照してください。

2 証明書をインポートします。

注記
- 証明書をインポートするときに、［本体］または［その他］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

1) ［プロパティ］タブをクリックします。

2) ［セキュリティー］をクリックします。

3) ［証明書の設定］をクリックします。

4) ［証明書のインポート］ボタンをクリックします。

5) ［パスワード］を入力します。

6) ［確認用パスワード］を入力します。

7) インポートするファイル名を直接入力するか、［参照］ボタンをクリックして表示される、ダイアログボックスでインポートするファイルを選択し、［保存］をクリックします。

8) ［インポート］ボタンをクリックします。

9) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 証明書を設定します。

1) ［セキュリティー］をクリックします。

2) ［証明書管理］をクリックします。

3)［カテゴリー］で［本体］を選択し、［証明書の目的］で［スキャンファイル］を選択して、［一覧の表示］ボタンを押します。

4) 設定する証明書にチェックを付けます。

5)［証明書の表示］ボタンを押します。

6)［証明書の選択］ボタンを押します。

7)［再起動］をクリックします。本機が再起動し、設定した値が反映されます。

4 PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名関連の設定をします。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

1) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

2)［セキュリティー］をクリックします。

3)［PDF/DocuWorks/XPS のセキュリティ / 署名］をクリックし、次の項目を設定します。

- DocuWorks 署名

  DocuWorks 文書の署名について、［常に署名しない］、［常に署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

注記
- DocuWorks署名のあるDocuWorks文書を開くには、以下のバージョンのDocuWorksが必要です。
  - ［SHA1］を選択した場合、DocuWorks 5.0 以降の各バージョン
  - ［SHA256］を選択した場合、DocuWorks 8.0 以降の各バージョン

- PDF 署名

  PDF の署名について、［常に署名しない］、［常に可視署名する］、［常に不可視署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

- PDF 署名ハッシュアルゴリズム

  PDF 署名**を行うときの**ハッシュアルゴリズムについて、［SHA-1］、［SHA-256］から選択します。

- DocuWorks 署名ハッシュアルゴリズム

  DocuWorks　署名を行うときのハッシュアルゴリズムについて、［SHA1］、［SHA256］から選択します。

- XPS 署名

  XPS の署名について、［常に署名しない］、［常に署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

4)［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用する場合

本機の SOAP ポートとインターネットサービス（HTTP）ポートを起動し、IP アドレスなどを設定してから、デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して、証明書を設定します。

補足
- ポートの起動やIPアドレスなどの設定は、CentreWare Internet Servicesを使用することもできます。設定方法は、「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.359）を参照してください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面を表示します。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

2 SOAP ポートを起動します。

1) ［ネットワーク設定］を押します。

2) ［ポート設定］を押します。

3) ［SOAP］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4) ［SOAP- ポート］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

5) ［起動］を選択し、［決定］を押します。

6) ［閉じる］を押します。

7) 同様に、［インターネットサービス （HTTP)］の［インターネットサービス - ポート］を起動します。

8) ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 IP アドレスなどを設定します。

デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用する場合は、本機の IP アドレスを手動で設定する必要があります。すでに IP アドレスが手動で設定されている場合は、この手順は不要です。

参照
- IP アドレスの設定については、「IKE 認証方式」(P.244) を参照してください。

4 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。

6 機能設定リストをプリントし、SOAP ポート、CentreWare Internet Services のポートの起動と TCP/IP の設定を確認します。

参照
- 機能設定リストのプリント方法については、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

7 デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を用意します。

ソフトウエアを入手するための弊社公式サイトのアドレス（URL）は、次のとおりです。

http://www.fujixerox.co.jp/download/

補足
- 通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

8 ユーティリティを使用して証明書を設定します。

参照
- 証明書の概要やインポートの手順については、デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos の Readme ファイルを参照してください。

9 PDF 署名 /DocuWorks 署名 /XPS 署名関連の設定をします。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

1) 〈認証〉ボタンを押します。

2) 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3) メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4) ［ネットワーク設定］を押します。

5) ［セキュリティ設定］を押します。

6) ［PDF/DocuWorks/XPS の署名設定］を押し、次の項目を設定します。

- 本体の証明書

  本機に証明書を関連付けます。

- PDF 署名

  PDF の署名について、［常に署名しない］、［常に可視署名する］、［常に不可視署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

- PDF 署名ハッシュアルゴリズム

  PDF 署名ハッシュアルゴリズムについて、［SHA-1］、［SHA-256］から選択します。

- DocuWorks 署名

  DocuWorks 文書の署名について、［常に署名しない］、［常に署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

- XPS 署名

  XPS の署名について、［常に署名しない］、［常に不可視署名する］、［送信時に選択する］から選択します。

10 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

11 ［閉じる］を押します。

Step2 コンピューター側の設定

- 本機からコンピューターにDocuWorksセキュリティー証明書のファイルを送信する場合

  送信先となるコンピューターの個人証明書を本機に登録し、宛先表に割り当てる必要があります。なお、本機に登録する個人証明書は、ルート証明書を含めた形式にしてください。

参照
- 証明書の登録（インポート）については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

- 本機からコンピューターに PDF 署名、DocuWorks 署名、XPS 署名ファイルを送信する場合

  送信先のコンピューターに、本機のスキャンファイル署名用証明書のルート証明書が登録されていることを確認してください。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

14 認証と集計管理機能について

本機には、各機能を利用するときにサービスの利用に制限をかける認証機能と、認証機能を元にして、各機能の利用状況を管理する集計管理機能があります。

この章では、本機で認証機能を使ってサービスの利用を制限するための設定方法と、集計管理するための設定方法について説明します。

補足

- 外部認証機能が使用できるのは、ApeosPort シリーズだけです。

- 認証機能と集計管理機能の概要 464
- 認証機能を使ったサービスの利用制限.....472
- ジョブフローと親展ボックスの認証.....474
- 認証するための設定 478
- IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定 483
- 集計管理するための設定 485
- ユーザー認証の操作 487

認証機能と集計管理機能の概要

認証機能と集計管理機能の概要について説明します。

認証機能を利用すると、本機自体の利用を制限したり、サービスごとに利用を制限したりできます。また、サービスの使用状況をユーザーごとに集計して管理することもできます。

ユーザーの種類について 464
管理の権限と権限グループについて 464
利用制限について 466
認証の種類について 466
集計管理機能について 468

ユーザーの種類について

認証機能を利用しているときは、次の 3 種類のユーザーに分けられます。

補足
- 認証機能を利用していないときは、機械管理者と一般ユーザーに分けられます。

■機械管理者

使用環境に合わせてシステムの設定値を登録 / 変更できるユーザーです。

機械管理者は、機械管理者 ID という特殊な定義の User ID を使用します。

■認証ユーザー

認証機能を使用しているときの、本機または外部のサーバーに登録されているユーザーです。それぞれの User ID を使って認証します。

認証ユーザーの User ID には、使用目的に応じてサブユーザーを関連づけできます。ひとつの User ID には、最大 10 個の Sub User ID を関連づけできます。

補足
- サブユーザーを利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■認証未登録ユーザー

認証機能を使用しているときの、登録されていないユーザーです。

認証未登録ユーザーは、利用が制限されているサービスを利用できません。

管理の権限と権限グループについて

本機でユーザーごとに管理の権限や権限グループを設定できます。

外部サーバーを利用しているユーザーの場合は、ApeosWare Management Suite（別売）または LDAP で設定できます。LDAP を利用する場合は、CentreWare Internet Services で設定します。

注記
- 本体認証でネット集計管理の場合、ユーザーに権限グループを指定できないため、強制印字の一時解除などの権限グループに設定した機能を使用できません。

管理の権限

認証ユーザーごとの管理の権限を設定できます。指定したユーザーに機械管理者や集計管理者の権限を持たせることができます。

■機械管理の権限

次の例外を除いて、機械管理者と同じ権限が与えられます。

- 親展ボックスへの操作はできない
- ジョブフローへの操作はできない
- 機械管理者のパスワード変更はできない

■集計管理の権限

次の権限が与えられます。

- ユーザー登録情報の登録、削除、変更（パスワードのみ変更不可）、参照（設定により操作できないことがあります）
- 集計管理の登録、削除、変更、参照
- Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
- ユーザー別集計管理レポートのプリント

権限グループ

次の制限に対する操作を許可する権限をグループ分けして、認証ユーザーを登録できます。権限グループに属したユーザーは、機械管理者と同様に操作を実行することができます。

参照
- 詳しくは、「権限グループ登録」（P.344）を参照してください。

■宛先指示方法の制限

［宛先指示方法の制限］で［登録宛先のみ許可］が設定されているときに、宛先を入力できる権限です。

参照
- 詳しくは、「宛先指示方法の制限」（P.201）を参照してください。

■宛先表登録 / 変更の制限

宛先表編集を禁止されているときに、本機内の宛先表を編集できる権限です。

参照
- 詳しくは、「宛先表登録 / 変更の制限」（P.201）を参照してください。

■強制印字の一時解除

強制複製管理、強制ペーパーセキュリティー、UUID 印字などの強制印字を一時的に解除してジョブを実行できる権限です。この権限グループに属するユーザーはメニュー画面上の［登録 / 変更］から強制印字の一時解除設定を行うことができるようになります。

参照
- 複製管理、ペーパーセキュリティー、UUID については、「複製管理」（P.183）、「ペーパーセキュリティー」（P.185）、「UUID 印字」（P.190）を参照してください。
- 強制印字の一時解除については、「強制印字の一時解除」（P.351）を参照してください。

■複製制限コード検出時の動作

ペーパーセキュリティーで複製制限コードを検出した場合に、ジョブ継続をできる権限があるかどうかを設定します。

参照
- ペーパーセキュリティーについては、「ペーパーセキュリティー」（P.185）を参照してください。

利用制限について

本機の利用を制限することができます。

全体での利用制限

認証モードでは、本機自体および各サービスの利用を制限することができます。利用するには、ユーザー認証が必要になります。

補足
- 詳しくは、「アクセス制御」(P.341) を参照してください。

■デバイスへのアクセス

本機の操作パネルのボタン操作を制限できます。

■サービスのアクセス

コピー、ファクス、スキャナーなどの機能ごとに、利用を制限するかどうかを設定できます。

■機能の使用制限

親展ボックスからのプリント、親展ボックスからの取り出しについて、制限できます。

ユーザーごとの利用制限

ユーザーごとに、サービスの利用制限、上限ページ数、ジョブフロー、親展ボックスの作成、編集、利用を制限できます。

参照
- 詳しくは、「認証機能を使ったサービスの利用制限」(P.472)、「ジョブフローと親展ボックスの認証」(P.474) を参照してください。

認証の種類について

本機で利用できる認証の種類や認証方法について説明します。

本機または外部のサーバーに登録されているユーザー情報などを利用して認証を行います。

認証の種類

本機の認証方法には、次の 2 種類があります。

■本体認証

本体認証は、本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理を行います。

補足
- コンピューターから直接送信されたプリントデータは、あらかじめクライアント側のプリンタードライバーで設定した認証情報と、本機側に登録されている認証情報を照合することによって認証され、本機で受信できます。この際、外部認証の認証システムの設定により、ドメイン名が必要な場合は、プリンタードライバーでドメイン名も設定する必要があります。プリンタードライバーの設定については、ヘルプを参照してください。

■外部認証（ApeosPort シリーズのみ）

外部の認証サーバーに対して認証を行います。本機にユーザー情報は登録しません。

外部認証は、外部の認証サーバー（LDAP、Kerberos、SMB、または ApeosWare Management Suite が使用できます）で管理されているユーザー情報を使用して認証します。

注記

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite を使用する場合を除く）は、LDAP サーバーから取得したアクセス許可情報に基づき、本機の操作パネルから利用可能なサービスを利用できます。
- 本体認証から外部認証に変更する場合、または外部認証から本体認証に変更する場合、本機に登録されたユーザー情報、個人の親展ボックス、および個人のジョブフローは削除されます。
- 外部認証サーバーに登録する User ID は半角 32 文字以内、パスワードは半角 128 文字以内で設定してください。ただし、SMB 認証の場合、パスワードは半角 32 文字以内で設定してください。

認証方法

■User ID 認証

User ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、本機の操作パネルから直接 User ID やパスワードを入力して認証を行います。

■カード認証

カードに登録されているカード番号、または User ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、カードを使って認証を行います。

補足

- カード（IC カードリーダー（オプション）、DocuLyzer（別売）、IC Card Gate（別売））を利用して認証を行います。
- 別売の DocuLyzer、IC Card Gate を接続する場合、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。また、利用時の管理 / 取り扱いについては、DocuLyzer、IC Card Gate の取扱説明書を参照してください。
- オプションの IC カードリーダーで認証するための設定方法は「IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定」（P.483）を参照してください。
- DocuLyzer で使用するカードには、あらかじめカード番号が登録されています。IC Card Gate で使用するカードには、あらかじめ User ID が登録されています。
- 外部認証と DocuLyzer を組み合わせることはできません。

■カード認証と User ID 認証の併用

本機では、User ID 認証とカード認証の両方を併用することができます。ただし、本体認証で併用して使用する場合は、User ID 認証を有効にする必要があります。

参照

- User ID 認証を有効にするには、「IC カード接続時の認証」（P.345）を参照してください。

集計管理機能について

集計管理モードの種類

本機で利用できる集計管理について説明します。

注記
- 認証モードが［外部認証］で、［認証システム］に［Authentication Agent］が選択されているときは、ApeosWare Management Suite が自動的に集計 / 認証サーバーになります。

補足
- 認証モードにより選択できない集計管理モードがあります。詳しくは、「認証モードと集計管理モードの関係」（P.469）を参照してください。

■本体集計管理

本機で集計管理を行います。

本機にあらかじめ登録されている認証ユーザー情報を利用して、ユーザー別に集計管理を行います。

補足
- ユーザー別集計管理レポートは、機械管理者、機械管理の権限が設定されているユーザー、または集計管理の権限が設定されているユーザーで認証して出力できます。レポートの出力手順は、「レポート / リストの出力」（P.117）を参照してください。

参照
- 集計できるジョブは、「認証モードと集計管理モードの関係」（P.469）を参照してください。

■ネット集計管理

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理を行います。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

補足
- 外部サービスで管理されているユーザー情報は、外部サービスから本機に送られてきて、本機に登録されます。外部サービスで管理されているユーザー情報が更新された場合は、外部サービスからユーザー情報を本機に送信する必要があります。
- 外部サービスの ApeosWare Management Suite（別売）を使用することで、ユーザー情報を管理したり、ジョブデータを収集したりできます。

■認証サーバーによる集計管理（ApeosPort シリーズのみ）

認証サーバーを使って集計管理を行います。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

補足
- 認証サーバーは、ユーザー情報を管理し、集計情報を外部のサーバーから取得します。本機が対応している認証サーバーは、ApeosWare Management Suite です。

認証モードと集計管理モードの関係

認証モードと集計管理モードは別々に設定できます。設定できる組み合わせは、次のとおりです。

		集計管理モード			
		運用しない	本体集計管理	ネット集計管理	認証サーバー
認証モード	運用しない	○	×	○	×
	本体認証	×	○	○	×
	外部認証	○ *1	×	×	○ *2

○: できる、×: できない

*1: 認証モードが［外部認証］で、［認証システム］が［Authentication Agent］以外の場合、集計管理モードは「運用しない」になります。別売の ApeosWare Management Suite で集計できます。
*2: 認証モードが［外部認証］で、［認証システム］が［Authentication Agent］の場合、集計管理モードは「認証サーバー」になりますが ApeosWare Management Suite で集計はできます。

本体集計管理で集計できるサービス

サービスごとのジョブについて、集計管理できる情報について説明します。

■プリント

プリントで利用できるジョブの種類ごとに、集計管理できる情報について説明します。

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
通常プリント	本機用プリンタードライバー	認証ユーザー	プリント面数 / 枚数
	本機用プリンタードライバー以外（BMLinkS など）*	認証未登録ユーザー	
セキュリティープリント	文書のプリント	認証ユーザー	
サンプルプリント			
ボックス保存プリント			
時刻指定プリント			
認証プリント			
プライベートプリント			
メールプリント *		認証未登録ユーザー	

* CentreWare Internet Services で、［ユーザー指定なし印刷の許可］を［有効］にした場合にプリントできます。

■スキャナー

スキャナーで利用できるジョブの種類ごとに、集計管理できる情報について説明します。

対象サービス	集計対象ユーザー	管理項目
スキャナー（メール送信）	認証ユーザー	スキャン読み取り、メール送信
スキャナー（ボックス保存）		スキャン読み取り
スキャナー（PC 保存）		スキャン読み取り、ファイル転送
スキャナー（URL 送信）		スキャン読み取り
スキャナー（USB メモリー保存）		スキャン読み取り

■ファクス

ファクスで利用できるジョブの種類ごとに、集計管理できる情報について説明します。

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
ファクス送信	自動送信	認証ユーザー	ファクス送信回数 / 面数、通信度数
	手動送信（発呼、着呼）		
ファクス受信、プリント	自動受信プリント	– *1	受信回数 / 面数、通信度数、プリント面数 / 枚数
	手動受信プリント（発呼、着呼）		
ファクス親展受信	自動親展受信	– *1	受信回数 / 面数、通信度数
	親展受信プリント	認証ユーザー *5	プリント面数 / 枚数
ファクスポーリング	自動送信（親展送信）	認証未登録ユーザー	ファクス送信回数 / 面数
	自動受信プリント	認証ユーザー	ポーリング回数/面数、通信度数、プリント面数 / 枚数
	予約文書確認プリント（親展ボックス、ポーリングボックス）	認証ユーザー *5	プリント面数 / 枚数
ファクス中継同報	中継同報、プリント	– *2	ファクス送信回数 / 面数、通信度数、プリント面数 / 枚数
ダイレクトファクス送信		認証ユーザー	ファクス送信回数 / 面数、通信度数
インターネットファクス送信		認証ユーザー	インターネットファクス送信回数 / 面数
インターネットファクス受信、プリント	自動受信プリント	– *3	受信回数 / 面数、プリント面数 / 枚数
	自動親展受信		受信回数 / 面数
	親展受信プリント	認証ユーザー *5	プリント面数 / 枚数

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
インターネットファクス受信、ファクス転送	ファクス自動送信（転送）	– *4	ファクス送信回数 / 面数、通信度数

*1: ファクス受信として集計されます。
*2: 中継同報として集計されます。
*3: インターネット受信として集計されます。
*4: インターネット受信ファクス転送として集計されます。
*5: 機械管理者モードの認証機能の運用設定で、親展ボックスの操作を許可している場合は、認証未登録ユーザーで集計されます。

- ファクスの集計管理をするときの注意制限事項

  ファクスの集計管理をする場合、次の点にご注意ください。

  - 別々のユーザーから同じ宛先に送信しても、一括送信の対象になりません。
  - 通信度数は、本機内部の独立したタイマーで計算しています。このため、通信度数から計算した通信料金が、電話会社などからの料金請求と若干の差異を生じることがありますので、あらかじめご了承ください。
  - ページ分割をして受信したときは、プリントした面数ではなく、受信した面数でカウントします。
  - 通信度数は、次の通信時には集計されません。
    - 〈数字〉ボタンまたはオンフック / オフフックを使用したとき
    - 課金データが登録されていない短縮宛先番号を使用したとき
    - 通話をしたとき（通信前に通話をしたときも含みます）
- ファクスでの課金
  - 〈数字〉ボタンでダイヤルした場合は、課金されません。
  - 課金データが登録されていない短縮宛先番号への通信は、課金されません。
  - 手動受信、手動送信、手動ポーリングは、課金されません。
  - 通話をしたとき（通信前に通話をした場合も含みます）は、課金されません。

認証機能を使ったサービスの利用制限

認証機能を利用し、本機で利用が制限できる機能について説明します。

制限できる機能は、本機の利用形態によって異なります。

参照

- 認証機能利用時の、親展ボックスとジョブフローの制限は、「ジョブフローと親展ボックスの認証」（P.474）を参照してください。

利用制限できるサービス 472
認証モードと集計管理モードの組み合わせ 472

利用制限できるサービス

利用制限には、ユーザーごとに設定できるものと、デバイス全体で設定するものとがあります。

認証機能を利用すると、ユーザーごとに利用できる機能を制限したり、使用できる用紙のページ数を制限したりできます。

参照

- ユーザーごとの設定は、「サービスの利用制限」（P.332）を、デバイス全体の設定は、「サービスへのアクセス」（P.342）を参照してください。

認証モードと集計管理モードの組み合わせ

認証モードと集計管理モードの組み合わせによる、利用制限できるサービスおよび集計管理できるサービスは次のとおりです。

参照

- 認証方法については、「認証方法」（P.467）を参照してください。

補足

- 本体認証でUser ID認証とカード認証を併用して利用する場合は、User ID認証を有効にしてください。設定方法は、「IC カード接続時の認証」（P.345）を参照してください。

認証モードが「本体認証」で、集計管理モードが「本体集計管理」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計
	機能別利用制限 *	上限ページ数 *	
コピー	○	○	○
プリント	○	○	○
スキャン	○	○	○
ファクス	○	×	○

○: できる、×: できない

* ユーザーごとの設定は、「サービスの利用制限」（P.332）を参照してください。

認証モードが「本体認証」で、集計管理モードが「ネット集計管理」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数	
コピー	○	×	○
プリント	○	×	○
スキャン	○	×	○
ファクス	○	×	○

○: できる、×: できない

*1 ApeosWare Management Suite（別売）で利用制限できます。
*2 ApeosWare Management Suite（別売）で集計できます。

認証モードが「外部認証」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数 *1	
コピー	○	○	○
プリント	○	○	○
スキャン	○	○	○
ファクス	○	×	○

○: できる、×: できない
*1 認証システムとして ApeosWare Management Suite（別売）を利用している場合は、利用制限できます。
*2 ApeosWare Management Suite（別売）で集計できます。

注記

- ApeosWare Management Suite によるユーザー別集計管理を行う場合の注意事項は、次のとおりです。
  - 複数ドメインにユーザー登録して運用する場合は、User ID が重複しないように運用 / 管理する必要があります。
  - コンピューターから指示するジョブ（プリント、ファクス）は、User ID を一致させるために、コンピューターから外部認証サーバーにログインしておく必要があります。

ジョブフローと親展ボックスの認証

ジョブフロー、親展ボックスの制限について説明します。

ジョブフローの作成 / 利用について.....474
親展ボックスの作成 / 利用について.....476

ジョブフローの作成 / 利用について

本機で作成できるのは、親展ボックスに蓄積された文書を対象とするジョブフローです。

ジョブフローは、認証機能を利用しているときに作成したジョブフローと、認証機能を利用していないときに作成したジョブフローでは、利用制限が異なります。また、［ボックス登録］画面 /［ボックス操作］画面、および［ジョブフロー登録］画面から作成したジョブフローでも利用制限が異なります。

注記

- 本体認証機能を「利用する」から「利用しない」、または「利用しない」から「利用する」に変更した場合は、使用していたジョブフローは、機械管理者以外は使用できなくなります。使用していたジョブフローは、すべて削除して新しく作成し直してください。
- 認証機能を外部認証に変更したり、外部認証からほかの認証モードに変更した場合、変更する前に使用していたジョブフローは削除されます。
- 認証方式の変更によって使用できなくなるジョブフローが親展ボックスに関連づけられている場合、編集 / 複製はできなくなりますが、利用はできます。ただし、関連づけを解除すると、そのジョブフローは表示されなくなり、利用できなくなります。
- ［ボックス登録］画面、または［ボックス操作］画面から作成したジョブフローは、ジョブフローを作成した親展ボックスでのみ利用できます。ほかの親展ボックスでは使用できません。
- ネットワーク上のコンピューターで作成されたジョブフローは、本機で編集 / 複製はできません。

補足

- Device Setup（デバイス設定ツール）を使うと、ネットワークに接続されたコンピューターで親展ボックスおよびスキャン文書を対象とするジョブフローが作成できます。Device Setup（デバイス設定ツール）は、弊社公式サイトの ApeosWare Management Suite（アペオスウエア マネージメント スイート）からダウンロードできます。

参照

- 本機で作成できるジョブフローは、「ジョブフロー登録」(P.308) を参照してください。

認証機能を利用している場合

補足

- 認証機能を利用しているときに、ジョブフローを利用できるのは、次のユーザーです。
  - ［本体認証］設定時、認証されたユーザーおよび機械管理者
  - ［外部認証］設定時、ゲストユーザー以外で認証されたユーザー
  - ［ネット集計管理］で［入力情報の照合］を［する］、［ユーザー入力項目］を［User ID と Account ID］または［User ID のみ］設定時に認証されたユーザー

■[ボックス登録] 画面 / [ボックス操作] 画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ
機械管理者	すべての認証ユーザー / 機械管理者	編集 *、表示、複製、削除 *、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ

* 機械管理者のみ操作できます。

補足

- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

■[ジョブフロー登録] 画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行
機械管理者	すべての認証ユーザー / 機械管理者	編集 *、表示、複製、削除 *、選択、実行

* 機械管理者のみ操作できます。

補足

- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

認証機能を利用していない場合

■[ボックス登録] 画面 / [ボックス操作] 画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集、複製、削除、選択・実行、親展ボックスへの関連づけ
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集 *、複製、削除 *、選択・実行、親展ボックスへの関連づけ

* 機械管理者のみ操作できます。

補足

- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

■[ジョブフロー登録] 画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集、複製、削除、選択・実行
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集 *、複製、削除 *、選択・実行

* 機械管理者のみ操作できます。

補足

- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

親展ボックスの作成 / 利用について

親展ボックスは、認証機能を利用していないときに作成した親展ボックスと、認証機能を利用しているときに作成した親展ボックスでは、利用条件が異なります。

注記

- 認証機能を「利用する」から「利用しない」、または「利用しない」から「利用する」に変更した場合は、使用していた親展ボックスは、機械管理者以外は使用できなくなります。使用していた親展ボックスは、すべて削除して新しく作成し直してください。
- 認証機能を外部認証に変更したり、外部認証からほかの認証モードに変更した場合、変更する前に使用していた親展ボックスは削除されます。

認証機能を利用している場合

補足

- 認証機能を利用しているときに、親展ボックスを利用できるのは、次のユーザーです。
  - [本体認証] 設定時、認証されたユーザーおよび機械管理者
  - [外部認証] 設定時、ゲストユーザー以外で認証されたユーザー
  - [ネット集計管理] で [入力情報の照合] を [する]、[ユーザー入力項目] を [User ID と Account ID] または [User ID のみ] 設定時に認証されたユーザー

認証機能を利用しているときに、親展ボックスを作成 / 利用できる親展ボックスの作成者と利用ユーザーの関係は次のとおりです。

親展ボックスの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	表示、削除、設定変更、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー表示、ジョブフロー関連づけ、ジョブフロー実行
機械管理者	すべての認証未登録ユーザー *2/ すべての認証ユーザー / 機械管理者	表示、削除 *1、設定変更 *1、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー関連づけ *1、ジョブフロー表示、ジョブフロー実行

*1 機械管理者のみ操作できます。
*2 機械管理者モードの認証機能の運用設定で、親展ボックスの操作を許可している場合に利用できます。

認証機能を利用していない場合

親展ボックスの作成者と利用ユーザーの関係は次のとおりです。

親展ボックスの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、削除、設定変更、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー表示、ジョブフロー関連づけ、ジョブフロー実行
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、削除 *、設定変更 *、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフローの関連づけ *1、ジョブフロー表示、ジョブフロー実行

* 機械管理者のみ操作できます。

補足

- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を利用しての文書登録、文書出力は認証の対象外です。

認証するための設定

認証するための設定について説明します。

設置手順の概要 478
認証の設定 478
デフォルト権限グループの変更 481
権限グループの追加 482

設置手順の概要

認証するためには、次の設定をします。

注記

- 認証状態の変化によって、使用できなくなるジョブフローが親展ボックスに関連づけられている場合、変更 / 複製はできなくなりますが、利用はできます。ただし、関連づけを解除すると、そのジョブフローは表示されなくなり、利用できなくなります。

■本体認証の場合

認証方式、アクセス制御の設定、ユーザーの登録を行います。

■外部認証の場合

認証方式、アクセス制御の設定、外部認証サーバーの設定を行います。

必要に応じて、デフォルト権限グループの変更、権限グループの追加を行います。

認証の設定

本体認証の場合と外部認証の場合に分けて説明します。

本体認証の設定

本体認証に設定する手順を説明します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］を押します。

6 ［認証方式の設定］を押します。

7 ［本体認証］を選択し、［決定］を押します。

参照
- 認証方法については、「認証方式の設定」(P.341) を参照してください。

8 ［アクセス制御］を押します。

9 ［サービスへのアクセス］を押します。

10 制限しない機能を［制限しない］に設定し、［決定］を押します。

11 それぞれの機能の設定が終わったら、［閉じる］を押します。

12 操作パネルのボタンの操作を禁止する場合には、［デバイスへのアクセス］を押して、［制限する］を選択し、［決定］、［閉じる］を押します。

13 ［パスワードの運用］設定の［パスワード使用 - パネル入力時］を選択し、［確認 / 変更］を押します。
パスワードを入力する場合には［する］を、パスワードを入力しない場合には［しない］を選択し、［決定］、［閉じる］を押します。

14 ［ユーザー登録 / 集計確認］を押します。

15 「(未登録)」と表示されているユーザーを選択し、［登録 / 確認］を押します。

16 ユーザー名を入力してから、［決定］を押します。

17 ［サービスの利用制限］を押します。

18 サービスごとの上限ページ数、機能制限を設定し、［閉じる］を押します。

19 必要に応じて、［ユーザーの権限］に、管理の権限、権限グループを設定し、［決定］を押します。

20 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

21 ［閉じる］を押します。

補足
- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。
- 本機が認証モードになり、メニュー画面の左下に［認証（ログイン)］が表示されます。
- ［サービスへのアクセス］で制限したいサービスに［制限する（表示)］を設定すると、メニュー画面の該当するサービスに［ ］が表示されます。また、メニュー画面の左下に［ : ログインが必要です］が表示されます。認証すると［ ］および［ : ログインが必要です］の表示は消えます。
- ［サービスへのアクセス］で制限したいサービスを［制限する（非表示)］に設定すると、メニュー画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。

外部認証の設定

外部認証に設定する手順を説明します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］を押します。

6 ［認証方式の設定］を押します。

7 ［外部認証］を選択し、［決定］を押します。

参照
- 認証方法については、「認証方式の設定」(P.341) を参照してください。

8 ［はい（変更 / 削除)］を押します。

9 ［アクセス制御］を押します。

10 ［サービスへのアクセス］を押します。

11 制限しない機能を［制限しない］に設定し、［決定］を押します。

12 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

13 ［仕様設定］を押します。

14 ［ネットワーク設定］を押します。

15 ［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］を押します。

16 ［認証システムの設定］>［認証システム］を押し、認証のための外部サーバーを指定します。

補足
- ［Kerberos(Windows2000)］、［Kerberos(Solaris)］、［LDAP］、［SMB］、［Authentication Agent］が選択できます。
- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite を使用する場合は、［Authentication Agent］を選択してください。

参照
- 詳しくは、「外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.235) を参照してください。

17 使用する外部認証サーバーの設定をします。

参照
- 詳しくは、「Kerberos サーバー設定」(P.236)、「LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定」(P.236)、「SMB サーバー設定」(P.241) を参照してください。

18 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

19 ［閉じる］を押します。

補足

- 設定内容によっては、再起動が必要です。画面が表示されたら再起動してください。
- 本機が認証モードになり、メニュー画面の左下に［認証（ログイン）］が表示されます。
- ［サービスへのアクセス］で制限したいサービスに［制限する（表示）］を設定すると、メニュー画面の該当するサービスに［ ］が表示されます。また、メニュー画面の左下に［ : ログインが必要です］が表示されます。認証すると［ ］および［ : ログインが必要です］の表示は消えます。
- ［サービスへのアクセス］で制限したいサービスに［制限する（非表示）］を設定すると、メニュー画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。

■外部サーバーに［LDAP］を指定した場合

次の手順で、権限設定を行います。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

2 ［プロパティ］タブをクリックします。

3 ［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［LDAP］>［LDAP グループアカウント］をクリックします。

4 ［機械管理の権限］、［集計管理の権限］のそれぞれに、機械管理の権限、集計管理の権限の属性を設定します。

例）

機械管理の権限　「CN=SA,CN=Users,DC=secEQ,DC=local」

集計管理の権限　「CN=AA,CN=Users,DC=secEQ,DC=local」

5 ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

デフォルト権限グループの変更

デフォルト権限グループを変更します。

デフォルト権限グループは、ユーザーを新規作成したときの権限グループの初期値となります。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］を押します。

6 ［権限グループ登録］を押します。

7 「DefaultGroup（標準）」と表示されているグループを選択し、［登録 / 変更］を押します。

8 各項目を変更します。

参照
- 権限グループの変更については、「権限グループ」(P.465) を参照してください。

9 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

10 ［閉じる］を押します。

権限グループの追加

必要に応じて、権限グループを追加します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。
パスワードを入力する場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力して［確定］を押します。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］を押します。

6 ［権限グループ登録］を押します。

7 「(名称未設定)」と表示されているグループを選択し、［登録 / 変更］を押します。

8 ［グループ名］を設定します。

9 その他の項目を設定します。

参照
- 権限グループの設定については、「権限グループ」(P.465) を参照してください。

10 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

11 ［閉じる］を押します。

IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定

IC カードに登録した情報によって認証したり、IC カードに登録した情報と本機に登録したユーザー情報を照合したりして、本機の利用制限やジョブなどの集計管理を行うことができます。

使用できる IC カードや利用するための設定について説明します。

補足

- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

Step1 事前準備 483
Step2 IC カード使用時の認証解除の設定.....484
Step3 IC カード情報を登録 484

Step1 事前準備

本機に設置できる IC カードリーダーは 2 種類あります。それぞれの IC カードリーダーで利用できる IC カードは次のとおりです。

■IC カードリーダーをお使いの場合

- MIFARE® 仕様
  - Fuji Xerox IC Card（TypeA）
  - その他の MIFARE 仕様の IC カード *
- TypeB 仕様
  - eLWISE 仕様の IC カード
  - ELWISE 仕様の IC カード
- FeliCa® 仕様
  - Fuji Xerox IC カード
  - SSFC® バージョン 1.0 フォーマット準拠の IC カード *
  - その他の FeliCa 仕様の IC カード *

* IC カードによっては、読み取りできないものもあります。

■IC カードリーダー（HID 対応）をお使いの場合

- HID-PROX 仕様の IC カード *

* IC カードによっては、読み取りできないものもあります。

補足

- どちらの IC カードリーダーが設置されているかを確認する場合は、カストマーエンジニアにお問い合わせください。

Step2 IC カード使用時の認証解除の設定

IC カード使用時の認証解除方法を設定します。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力が必要な場合は、［次へ］を押し、機械管理者のパスワードを入力し、［確定］を押します。

3 ［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［認証 / セキュリティ設定］を押します。

5 ［認証の設定］ > ［認証情報の設定］を押します。

6 ［非接触型 IC カード設定］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

7 認証の解除方法を選択し、［決定］を押します。

参照
- 詳しくは、「非接触型 IC カード設定」(P.347) を参照してください。

8 ［閉じる］を押します。

Step3 IC カード情報を登録

機械管理者は、CentreWare Internet Services を使用して、IC カードの設定を行います。

補足
- IC カード情報が CentreWare Internet Service を使用して登録します。詳しくは、CentreWare Internet Service のヘルプを参照してください。
- 認証に使用する情報も、CentreWare Internet Services で設定します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

集計管理するための設定

集計管理するための設定について説明します。

Step1 集計管理モードの設定.....485
Step2 ユーザー情報の登録.....485

Step1 集計管理モードの設定

集計管理モードの設定について説明します。

参照
- 認証モードと集計管理モードの関係については、「認証モードと集計管理モードの関係」(P.469) を参照してください。

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3 メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

4 [集計管理] を押します。

5 [集計管理機能の運用] を押します。

6 集計管理モードを選択し、[決定] を押します。

補足
- [本体集計管理] または [ネット集計管理] が選択できます。

参照
- 集計管理機能については、「集計管理機能の運用」(P.335) を参照してください。

7 [仕様設定 / 登録] 画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

8 [閉じる] を押します。

Step2 ユーザー情報の登録

1 〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

パスワードを入力する場合は、[次へ] を押し、機械管理者のパスワードを入力して [確定] を押します。

3 メニュー画面の [仕様設定 / 登録] を押します。

4 [集計管理] を押します。

5 ［ユーザー登録 / 集計確認］を押します。

6 「(未登録)」と表示されているユーザーを選択し、［登録 / 確認］を押します。

7 ユーザー名を入力してから、［決定］を押します。

8 ［サービスの利用制限］を押します。

9 サービスごとの上限ページ数、機能制限を設定し、［閉じる］を押します。

参照
- サービスの利用制限については、「サービスの利用制限」(P.332) を参照してください。

10 必要に応じて、［ユーザーの権限］に、管理の権限、権限グループを設定し、［決定］を押します。

補足
- ［ユーザーの権限］は、認証モードが本体認証のときだけ表示されます。

参照
- ユーザー権限については、「ユーザーの権限」(P.333) を参照してください。

11 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

12 ［閉じる］を押します。

ユーザー認証の操作

本機には、利用できるサービスを制限するための、認証機能があります。

制限されたサービスを利用するための認証方法について説明します。

登録ユーザーの認証 487
パスワードの変更 488

登録ユーザーの認証

登録ユーザーを認証するには、本機の操作パネルを操作して認証する方法と、IC カードを IC カードリーダーにタッチして認証する方法があります。

操作パネルで認証する場合は、User ID の入力が必要です。また、［認証 / セキュリティ設定］の［認証の設定］の［パスワードの運用］で、［パスワード使用 - パネル入力時］を［する］に設定されている場合は、パスワードの入力も必要になります。

補足

- この機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照

- パスワードの運用については、「パスワードの運用」（P.347）を参照してください。
- タッチパネルディスプレイからのユーザー登録については、「ユーザー登録/集計確認」（P.330）を参照してください。

操作パネルでユーザー認証 / 解除

■ユーザー認証

1 〈認証〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、User ID を入力し、［確定］を押します。

パスワードを入力が必要な場合は、［次へ］を押し、パスワードを入力し、［確定］を押します。

注記

- 割り込みとユーザー認証は、連動しません。割り込みを解除する前に必ずユーザー認証を終了してください。

補足

- 利用が制限されているサービスを選択した場合に、［認証］画面が表示されることがあります。User ID やパスワードを入力すると利用できます。
- ユーザーが認証されると、〈認証〉ボタンは点灯します。

■認証解除

1 〈認証〉ボタンを押します。

補足

- タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押して、［認証解除］を選択してもユーザー認証を終了できます。
- ユーザー認証を終了すると、〈認証〉ボタンは消灯します。

IC カード利用時の認証 / 解除

■ユーザー認証

1 IC カードリーダーに IC カードをタッチします。

注記
- IC カードリーダーに IC カードを確実にタッチしてください。
- 本機の設定によっては、パスワードの入力が必要な場合があります。パスワードの入力を間違えた場合は、操作パネルの〈認証〉ボタンを押して、いったん認証状態を解除してから、再度 IC カードを IC カードリーダーにタッチしてください。

■認証解除

IC カード利用時、ユーザー認証を終了する方法は、［非接触型 IC カード設定］に従います。

参照
- 詳しくは、「非接触型 IC カード設定」(P.347) を参照してください。

- ［カードが離れると認証解除］を選択すると、カードをタッチしているときだけ、認証します。カードを離すと、解除されます。
- ［パネル指示で認証解除］を選択すると、操作パネル利用時と同じ操作で解除します。

パスワードの変更

ユーザー認証で使用するパスワードを変更できます。次の操作に従って、変更してください。

ユーザー自身でパスワードを変更する

ユーザーが認証されているときは、ユーザー自身のパスワードを変更できます。

1 メニュー画面で［登録 / 変更］を押します。

2 ［ユーザー情報の設定］を押します。

3 ［パスワード変更］を押します。

4 現在のパスワードを入力し、［次へ］を押します。

5 ［新しいパスワード］を選択して、新しいパスワードを入力し、［決定］を押します。

6 ［パスワードの再入力］を選択して、新しいパスワードを再入力し、［決定］を押します。

7 ［閉じる］を押します。

機械管理者がパスワードを設定 / 変更する

機械管理者は、CentreWare Internet Services を使用して、パスワードの設定や変更ができます。

参照
- タッチパネルディスプレイからのパスワードの設定 / 変更方法については、「ユーザー登録 / 集計確認」(P.343) を参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

2 ［プロパティ］タブをクリックします。

3 ［セキュリティー］をクリックし、［認証管理］をクリックします。

4 ［次へ］をクリックします。

5 ［ユーザー登録番号］に設定 / 変更するユーザーの登録番号 を入力し、［編集］ボタンをクリックします。

6 ［パスワード］に新しいパスワードを入力します。

7 ［パスワードの確認入力］に新しいパスワードを再入力します。

8 ［新しい設定を適用］ボタンをクリックします。

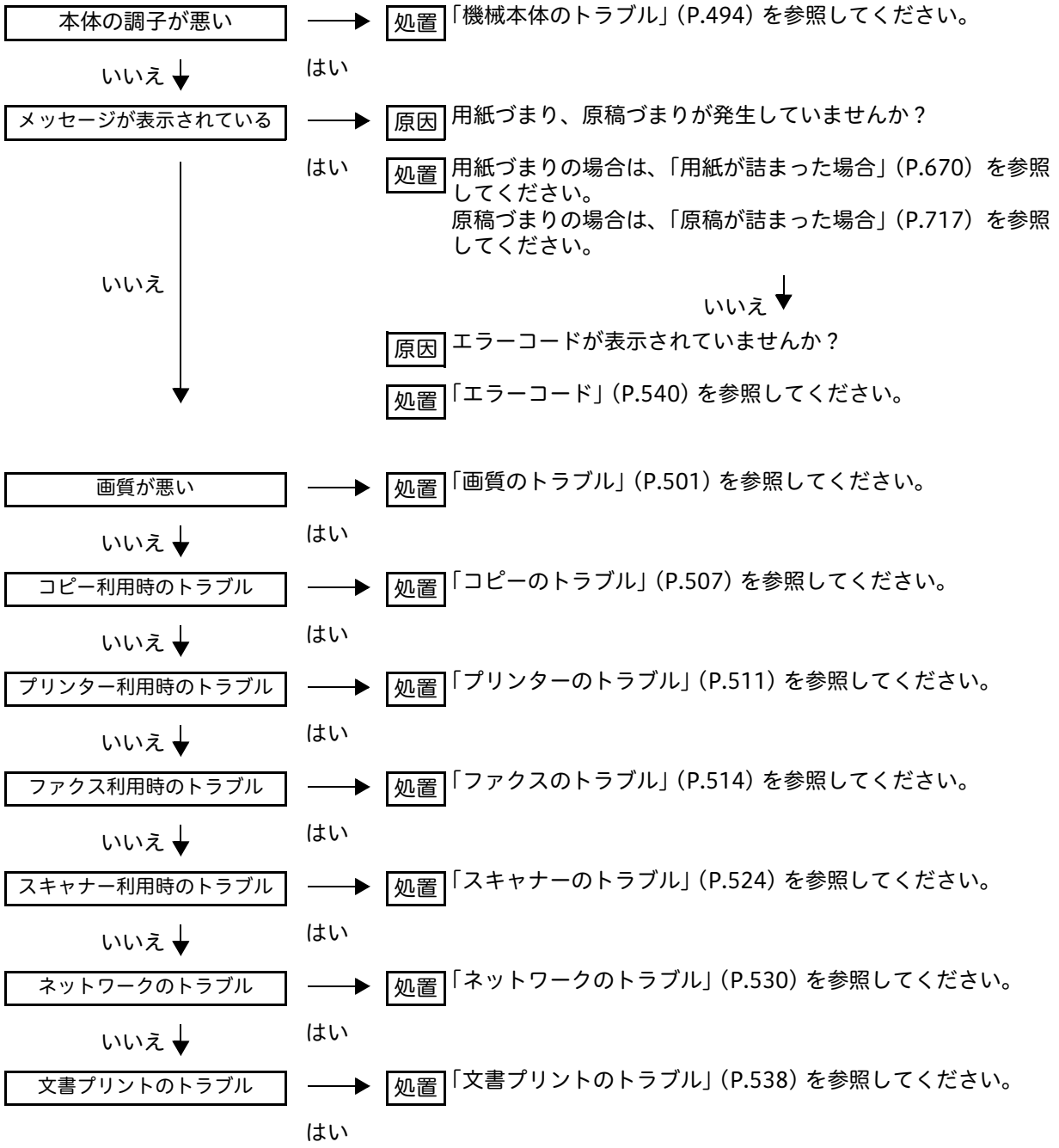
15 トラブル対処

この章では、本機に何らかのトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

- トラブルと思ったら 492
- 機械本体のトラブル 494
- 画質のトラブル.....501
- コピーのトラブル.....507
- プリンターのトラブル 511
- ファクスのトラブル.....514
- スキャナーのトラブル 524
- ネットワークのトラブル 530
- 文書プリントのトラブル 538
- メールプリントのトラブル.....539
- エラーコード 540
- 用紙が詰まった場合 670
- 原稿が詰まった場合 717
- ホチキスがうまく留められないとき.....720
- ホチキスカートリッジが外れたら （中とじフィニッシャー D2 の場合）.731
- 用紙がカールして排出されたら （中とじフィニッシャー D2 の場合）.....733

トラブルと思ったら

本機に何らかのトラブルが発生した場合の処置について説明します。
トラブルが発生した場合は、次の流れに従って処置してください。



なお、上記のトラブル対処に従って処置しても正常に作動しないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

EP システムを利用している場合、機械の点検や修理が必要になったときに、機械から弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡が行きます。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。点検 / 修理の依頼は、機械管理者が操作してください。

補足

- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、弊社の営業担当者または販売店にお問い合わせください。

参照

- 電話回線を使ったEPシステムでの点検/修理の依頼の操作方法は、「点検/修理依頼」(P.180)を参照してください。
- インターネットを使った EP システムでの点検 / 修理の依頼の操作方法は、「EP 診断 / 修理依頼」(P.181)、「EP 通信確認」(P.181) を参照してください。
- EP システムについては、「EP システムについて」(P.913) を参照してください。

機械本体のトラブル

故障かなと思う前に、もう一度、本機の状態を確認してください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない	主電源または電源が切れていませんか？	主電源および電源を入れてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「2 機械の構成」を参照してください。
	ブレーカースイッチが「OFF」（下側）になっていませんか？	ブレーカースイッチを「ON」（上側）にしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「2 機械の構成」を参照してください。
	電源プラグがコンセントに差し込まれていますか？ 本機側の電源コードのコネクターが抜けていませんか？	電源および主電源をいったん切り、電源コードを確実に差し込んでください。そのあと、主電源および電源を入れてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「2 機械の構成」を参照してください。
	電源の電圧が適切ですか？	電源が 100V（ボルト）、15A（アンペア）であることを確認してください。 本機の最大消費電力（1.5kW 以下）に見合った電源容量が確保されていることを確認してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「1 お使いいただく前に」を参照してください。
〈エラー〉ランプが点滅している	本機のシステムや付属機器にトラブルが発生しているおそれがあります。	本機の電源および主電源を切って、入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

症　状	原　因	処　置
〈エラー〉ランプが点灯している	用紙づまり、原稿づまりが発生していませんか？	詰まった用紙や原稿を取り除いてください。 **参照** • 用紙が詰まった場合は、「用紙が詰まった場合」(P.670) を、原稿が詰まった場合は、「原稿が詰まった場合」(P.717) を参照してください。
	本機の正面カバーや上面カバーなどが開いていませんか？	表示されているメッセージに従って処置してください。
	ディスプレイに消耗品の交換を促すメッセージが表示されていませんか？	メッセージに表示されている消耗品を交換してください。 **参照** •「消耗品を交換する」(P.84) を参照してください。
	ディスプレイの上部にメッセージが表示されていませんか？	メッセージの内容を確認し、処置してください。また、メッセージの末尾に「016-450」などの番号が表示されている場合はエラーコードの表で内容を確認し、処置してください。 **参照** •「エラーコード」(P.540) を参照してください。
ディスプレイが暗い	〈節電〉ボタンが点灯していませんか？	節電状態に入っています。操作パネルの〈節電〉ボタンを押して、節電状態を解除してください。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「2 機械の構成」を参照してください。
	画面輝度調整が暗すぎませんか？	画面輝度調整画面で、ディスプレイの輝度を調整してください。 **参照** •「画面の明るさを調整する」(P.42) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
プリントできない、またはコピーできない	操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されていませんか？	表示されているメッセージに従って処置してください。
	メモリー容量が不足していませんか？	次のどれかの方法で処置してください。 • プリンタードライバーで［印刷モード］を［標準］にするか、［ページ印刷モード］を利用して再プリントする • 使用していないポートを［停止］に設定する
	プリンターモードがオフラインになっていませんか？	〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押して、［機械状態 レポート出力］画面の［プリンターモード］を確認してください。［オフライン］になっていたら、［プリンターモード］画面で、［オンライン］を選択してください。
	プリンタードライバーがオフラインになっていませんか？	プリンターアイコンを開いて、プリンターメニューのオフライン使用のチェックを外してください。
	電源コードのコネクターが抜けていませんか？	電源および主電源をいったん切り、電源コードを確実に差し込んでください。そのあと、主電源および電源を入れてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「2 機械の構成」>「電源について」を参照してください。
プリントまたはコピー開始に時間がかかる	次のような状況ではありませんか？ • 長時間空けて電源を入れた • スリープ復帰直後に出力した • 大量の文書を出力した	設置環境の変化やスリープ復帰の直後、あるいは大量の文書を出力した際など、画質調整が行われて出力開始に時間がかかることがあります。
プリントを指示したのに〈データ〉ランプが点滅しない	インターフェイスケーブルが抜けていませんか？	インターフェイスケーブルの接続を確認してください。 参照 •「インターフェイスケーブルの接続」（P.24）を参照してください。
	コンピューター側の環境が正しく設定されていますか？	プリンタードライバーなど、コンピューター側の環境を確認してください。
	使用するポートが［起動］に設定されていますか？	使用するポートの状態を確認し、［起動］に設定してください。 参照 •「ポート設定」（P.213）を参照してください。
用紙トレイ 5（手差し）にプリントを指示したのにプリントされない	指定したサイズの用紙がセットされていますか？	表示されたメッセージに従って、正しいサイズの用紙をセットして、もう一度プリントを指示してください。 参照 •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」（P.66）を参照してください。

症　状	原　因	処　置
印字品質がよくない	画質のトラブルが発生しているおそれがあります。	後述の「画質のトラブル」を参照して処置してください。 参照 •「画質のトラブル」（P.501）を参照してください。
正しい文字が印字されない（文字化けが起こる）	本機に標準で搭載されていないフォントを使用してプリントしています。	アプリケーションまたはプリンタードライバーの設定を確認してください。 PostScript（オプション）を使用している場合は、必要なフォントを本機にダウンロードしてください。
用紙トレイの出し入れができない	プリント中にカバーを開けたり、電源を切ったりしませんでしたか？	無理に用紙トレイを出し入れしないで、電源を切ってください。数秒経過後、電源を入れてください。本機がデータを受信できる状態になったことを確認して、用紙トレイの出し入れをしてください。
希望のサイズにコピーされない	原稿ガラスまたは原稿カバーが汚れていませんか？	原稿ガラスまたは原稿カバーを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」（P.106）を参照してください。
	OHPフィルムなどの透過度が高い原稿ですか？	原稿ガラスに原稿をセットし、その上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がずれていませんか？ 原稿が正しくセットされていますか？	原稿を正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿が折れ曲がっていませんか？	原稿をのばして正しくセットし直してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	定形外サイズの原稿をセットしていませんか？	原稿のサイズを入力してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。

症　状	原　因	処　置
用紙づまり、紙しわがたびたび発生する	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	用紙トレイが正しくセットされていますか？	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで正しくセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	用紙が湿気を含んでいませんか？	未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	用紙がカールしていませんか？	用紙トレイ内の用紙をうら返すか、未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	用紙と用紙トレイの設定は正しいですか？	セットしている用紙に合わせて、正しく用紙と用紙トレイを設定してください。 参照 •「用紙 / トレイの設定」(P.175) を参照してください。
	機械の内部に詰まった用紙や紙片が残っていたり、異物が入っていませんか？	機械を開けるか、用紙トレイを引き出して、紙片や異物を取り除いてください。 参照 •「用紙が詰まった場合」(P.670)、「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	規格外の用紙がトレイに入っていませんか？	使用基準内の用紙と交換してください。 参照 •「用紙について」(P.50)、「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	用紙トレイ内の用紙上限線を超えて、用紙をセットしていませんか？	用紙トレイ内の用紙上限線を超えないように、用紙をセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	用紙ガイドが正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットして、用紙ガイドを用紙に軽く当てるように合わせてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60)、「用紙サイズを変更する」(P.73) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
用紙づまり、紙しわがたびたび発生する	用紙いっぱいに画像がありませんか？	先端のわく消し量を増やしてください。 参照 • コピーの場合は『ユーザーズガイド』の「3 コピー」、プリントの場合はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。
	用紙がきれいに裁断されていますか？	用紙の種類によっては、きれいに裁断されていない場合があります。よくさばいてから用紙をセットしてください。
原稿が送り込まれない	原稿が小さくありませんか？	原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズは、139.7×139.7mm（定形サイズの場合は、A5、A5□）です。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットして〈スタート〉ボタンを押すとエラーメッセージが表示される	用紙トレイ 5（手差し）の手前にある用紙ガイドの位置がずれていませんか？	用紙ガイドを正しい位置にセットしてください。 参照 •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」（P.66）を参照してください。
	用紙トレイ 5（手差し）に一度プリントした用紙をセットしていませんか？	大容量給紙トレイ 2 段（オプション）を装着していない場合に、用紙トレイ 5（手差し）に、一度プリントした用紙をセットすると、用紙を正しく検知できないことがあります。用紙の向きを変更して、セットし直してください。

症　状	原　因	処　置
原稿がたびたび詰まる	適切な原稿を使用していますか？	原稿送り装置に適した原稿を正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	変形原稿や名刺、OHP フィルム、薄い原稿を使用していませんか？	
	付せん紙やクリップ、セロハンテープなどをつけたまま使用していませんか？	付せん紙やクリップ、セロハンテープなどを取ってからコピーしてください。
	原稿ガイドの位置がずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿の一部が破れて、原稿送り装置に紙片が残っていませんか？	原稿送り装置のカバーを開けて確認してください。 参照 •「原稿が詰まった場合」（P.717）を参照してください。
	サイズの異なる原稿を読み込むときに、［ミックスサイズ原稿送り］の設定が［する］になっていますか？	［ミックスサイズ原稿送り］の設定を［する］にしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「読み取り方法」>「ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）」を参照してください。
	ミックスサイズ原稿送り機能を使用しているときに、A5 サイズの原稿をよこ向き（⏍）にして原稿送り装置にセットしていませんか？	A5 サイズの原稿は、たて向き（⏍）にセットしてください。
原稿の端が折れる	原稿がカールしていませんか？	原稿のカールを直してから、セットしてください。
ホチキスがうまく留められない	ホチキスカートリッジに針づまりなどが発生していませんか？	詰まった針を取り除くなどの処置をしてください。 参照 •「ホチキスがうまく留められないとき」（P.720）を参照してください。
	プリンタードライバーが正しく設定されていますか？	コンピューターからプリントする場合、プリンタードライバーの［印刷設定］で［ホチキス］の設定を確認してください。

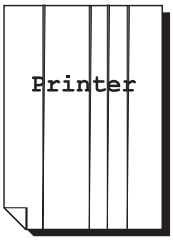
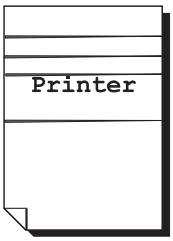
画質のトラブル

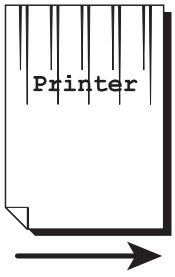
プリント結果の画質が悪い場合は、次の表から最も近いと思われる症状を選び、処置してください。

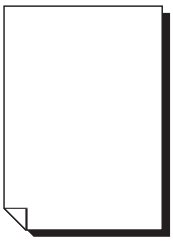
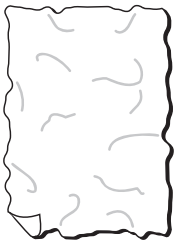
該当する処置をしても画質が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

症　状	原　因	処　置
コピーが汚れている	原稿ガラスまたは原稿カバーが汚れていませんか？	原稿ガラスまたは原稿カバーを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.106) および「原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃」(P.107) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度が高い原稿ではありませんか？	透過度が高い原稿では、原稿カバーの汚れがコピーに写ります。原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がカラーペーパー、ざら紙、青焼きなどではありませんか？	コピー濃度を調整するか、画質を調整してコピーしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「画質調整」を参照してください。
	光沢のある印画紙をコピーしていませんか？	光沢のある印画紙は、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにコピーされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてコピーしてください。
コピーに黒筋が入る	原稿送り装置の読み取りガラスが汚れていませんか？	原稿読み取りガラスを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.106) および「原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃」(P.107) を参照してください。
コピーが濃すぎる	コピー濃度が［こく］に設定されていませんか？	コピー濃度を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「画質調整」を参照してください。
コピーが薄すぎる	原稿の濃度が薄くありませんか？	
	コピー濃度が［うすく］に設定されていませんか？	
コピーがわずかにずれる	用紙がずれていたり、用紙の先端が用紙トレイの角から離れていませんか？	用紙をそろえて、用紙の先端を用紙トレイの角に合わせてセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
コピーがずれたり、曲がって写る	原稿が正しくセットされていますか？	原稿を正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	用紙トレイ 5（手差し）の用紙ガイドが用紙に触れるようにセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 参照 •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれていませんか？	原稿を正しくセットして、原稿ガイドを原稿の端に当ててください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	用紙トレイが確実にセットされていますか？	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで、正しくセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
コピーが部分的に写らない	用紙が湿気を含んでいませんか？	用紙が湿気を含んでいると、コピーが部分的に写らなかったり、不鮮明になります。未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	折り目やしわが入った用紙がトレイに入っていませんか？	不良用紙を取り除くか、未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	原稿が貼り合わせ原稿や折り込みの原稿ではありませんか？	貼り合わせたのりの部分や折りの部分が反り返って、原稿ガラスに密着せず、原稿が浮いていることが考えられます。原稿の上に白紙の束を載せて、原稿ガラスに密着するようにセットしてください。
コピーをすると縞模様が発生する	原稿の拡大コピーの倍率が大きすぎませんか？	拡大コピーをすると、倍率によって縞模様が発生することがあります。コピーの倍率を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー」>「倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする）」を参照してください。

症　状	原　因	処　置
プリントがうすい (かすれる、不鮮明) 	用紙が湿気を含んでいます。	新しい用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 • 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
	トナーカートリッジ内にトナーが残っていません。	トナーカートリッジの交換に関するメッセージが、操作パネルのディスプレイに表示されている場合は、新しいトナーカートリッジと交換してください。 参照 •「トナーカートリッジを交換する」(P.86) を参照してください。
黒点がプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 • 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
黒線がプリントされる   	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 • 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
	原稿送り装置の読み取りガラスが汚れています。	原稿読み取りガラスを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.106) および「原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃」(P.107) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
等間隔に汚れが起きる  排出方向	用紙搬送路に汚れが付着しています。	数枚プリントしてください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 • 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
黒くぬりつぶされた部分に白点が現れる 	使用している用紙が適切ではありません。	適切な用紙をセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 • 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
指でこするとかすれる トナーが定着しない 用紙がトナーで汚れる 	用紙が湿気を含んでいます。	新しい用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	使用している用紙が適切ではありません。	適切な用紙をセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
用紙全体が黒くプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 参照 • 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
	高圧電源の故障が考えられます。	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

症　状	原　因	処　置
何もプリントされない 	一度に複数枚の用紙が搬送されています（重送）。	用紙をよくさばいてからセットし直してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	電源または高圧電源の故障が考えられます。	弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
白抜けや白筋が出る 	用紙が湿気を含んでいます。	新しい用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	使用している用紙が適切ではありません。	適切な用紙をセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
全体がうっすらとプリントされる 	用紙トレイ 5（手差し）を使用してプリントした場合で、プリンタードライバーで指定した用紙サイズと実際にセットされている用紙の種類とサイズが異なります。	用紙トレイ 5（手差し）に、正しい種類とサイズの用紙をセットしてください。 参照 •「用紙トレイ 5 (手差し) に用紙をセットする」(P.66) を参照してください。
	一度に複数枚の用紙が搬送されています。	用紙をよくさばいてからセットし直してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
用紙にしわが付く 	使用している用紙が適切ではありません。 用紙の継ぎ足しをしています。 用紙が湿気を含んでいます。	新しい用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
文字がにじむ 	使用している用紙が適切ではありません。 用紙の継ぎ足しをしています。 用紙が湿気を含んでいます。	新しい用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
たて長に白抜けする 排出方向	ドラムカートリッジが劣化、または損傷しています。	新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** • 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
	トナーカートリッジ内にトナーが残っていません。	トナーカートリッジの交換に関するメッセージが、操作パネルのディスプレイに表示されている場合は、新しいトナーカートリッジと交換してください。 **参照** • 「トナーカートリッジを交換する」（P.86）を参照してください。
斜めにプリントされる 	用紙カセットの用紙ガイドが正しい位置にセットされていません。	たてよこの用紙ガイドを正しい位置にセットしてください。 **参照** • 「用紙をセットする」（P.60）を参照してください。

コピーのトラブル

コピー機能利用時のトラブル処置方法について説明します。

コピーできない

コピーできない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
原稿送り装置から原稿がうまく送り込まれない	原稿のサイズが小さすぎる。	原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズは、139.7×139.7mm（定形サイズの場合は、A5、A5□）です。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	適切な原稿を使用していない。	変形原稿、名刺、OHP フィルム、薄い原稿は原稿送り装置では使用できません。 また、付せん、クリップ、セロハンテープを付けた原稿も使用できません。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿ガイドの位置がずれている。	原稿サイズに合わせて、原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿の一部が破れて、原稿送り装置に紙片が残っている。	原稿送り装置のカバーを開けて、紙片を取り除いてください。 参照 •「原稿が詰まった場合」（P.717）を参照してください。
	サイズが異なる原稿をセットしている。	サイズが異なる原稿をセットしている場合に、［ミックスサイズ原稿送り］を設定しないと、原稿詰まりが発生します。サイズが異なる原稿をセットした場合は、必ず［ミックスサイズ原稿送り］の設定を［する］にしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「読み取り方法」>「ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）」を参照してください。

思ったとおりのコピー結果にならない

コピー結果が予想と違う結果になる場合の対処方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
コピーが汚れている	原稿カバー、または原稿ガラスが汚れている。	原稿カバー、または原稿ガラスを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.106) および「原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃」(P.107) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿を使用している。	透過度の高い原稿の場合、原稿カバーの汚れがコピーに写ります。原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。
	カラーペーパー、ざら紙、青焼きなどを原稿として使用している。	紙の地色がコピーに写ります。コピー濃度を調整するか、画質を調整するか、地色除去を指定してコピーしてください。
	光沢のある印画紙を使用している。	光沢のある印画紙は、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにコピーされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてコピーしてください。
コピーが濃すぎる、または薄すぎる	コピー濃度が［こく］、または［うすく］に設定されている。	コピー濃度を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「画質調整」を参照してください。
	原稿の濃度が薄い。	コピー濃度を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「画質調整」を参照してください。
	原稿の画質設定が適切ではない。	黒い文字をコピーし、薄いと感じた場合は、［原稿の画質］で［文字］を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「画質調整」を参照してください。
コピーがわずかにずれる	用紙トレイにセットした用紙がずれている。	用紙をそろえて、用紙の先端を用紙トレイの手前の角に合わせてセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
コピーが部分的に写らない	用紙が湿気を含んでいる。	用紙が湿気を含んでいると、コピーが部分的に写らなかったり、不鮮明になります。未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	折り目やしわが入った用紙が用紙トレイに入っている。	不良用紙を取り除くか、未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	貼り合わせた原稿や、折り込んである原稿を使用している。	貼り合わせたのりの部分や、折りの部分が、原稿ガラスに密着していないことが考えられます。原稿の上に白紙の束などを重ねて、原稿ガラスに密着するようにしてください。
コピーに縞模様が写る	原稿の拡大倍率が大きすぎる。	拡大コピーをすると、倍率によって縞模様が発生します。コピーの倍率を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー」>「倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする)」を参照してください。
コピーがずれたり、曲がって写っている	原稿が正しくセットされていない。	原稿を正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれている。	原稿を正しくセットして、原稿ガイドを原稿の端に当ててください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	用紙トレイが確実にセットされていない。	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで、正しくセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.60) を参照してください。
	用紙トレイ 5（手差し）の用紙ガイドがずれている。	用紙を正しくセットして、用紙ガイドを用紙の端に当ててください。 参照 •「用紙サイズを変更する」(P.73) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
希望のサイズにコピーされない	原稿カバー、または原稿ガラスが汚れている。	原稿カバー、または原稿ガラスを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.106) および「原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃」(P.107) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿を使用している。	原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がずれている。	原稿を正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれている。	原稿を正しくセットして、原稿ガイドを原稿の端に当ててください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	定形外サイズの原稿を使用している。	原稿のサイズを入力してコピーしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
	原稿が折れ曲がっている。	原稿をのばして正しくセットし直してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「コピー操作の流れ」を参照してください。
コピーの端が切れる	印刷可能エリアを超えている原稿を使用している。	倍率を調整して、少し小さめにコピーしてください。
ホチキスが留められない	フィニッシャーが装着されていない。	ホチキスを留めるにはフィニッシャーが必要です。フィニッシャーを装着するか、プリントオプションでホチキスを解除してください。
	ホチキスで留める枚数が制限枚数を超えている。	コピー枚数をホチキスで留められる枚数以下にしてください。 参照 •ホチキスで留められる枚数はお使いのフィニッシャーによって異なります。詳しくは、「主な仕様」(P.736) を参照してください。

プリンターのトラブル

プリント機能利用時のトラブル対処方法について説明します。

プリントできない

プリントできない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
プリンターアイコンにデータが残っている	本機の電源が入っていない。	本機の主電源および電源を入れてください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れている。	コンピューターのネットワークケーブルをつなげてください。
	本機のネットワークケーブルが外れている。	本機のネットワークケーブルをつなげてください。 参照 •「インターフェイスケーブルの接続」(P.24) を参照してください。
	プリンターモードがオフラインになっている。	〈機械確認（メーター確認)〉ボタンを押して、[機械状態 レポート出力] 画面の [プリンターモード] を確認してください。[オフライン] になっていたら、[プリンターモード] 画面で、[オンライン] を選択してください。
	本機でエラーが発生している。	エラーの内容を確認して対処してください。
	IP アドレス、または SMB のネットワークパスが正しく設定されていない。	正しい IP アドレス、または SMB のネットワークパスを設定してください。 参照 •「プリント機能の設定」（P.363）を参照してください。
	コンピューターと本機の間のネットワークが正常ではない。	ネットワーク管理者に相談してください。
	ポートが起動していない。	利用しているポートを起動してください。 参照 •「ポート設定」（P.213）を参照してください。
	本機のハードディスクの残り容量が不足している。	親展ボックスのデータや蓄積されている文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリントなど）で不要になったデータを削除し、空きスペースを増やしてください。
	本機が複数のコンピューターと接続している。	しばらく待ってから、再度プリントしてください。

症　状	原　因	処　置
大量に意味不明な文字（記号文字）が印刷される	他社機のプリンタードライバーが使用されています。	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、[詳細設定] タブのドライバが本機になっていることを確認してください。
データは本機に送られている	用紙が入っていない。	用紙を補給してください。
	指定した用紙サイズの用紙がない。	指定した用紙サイズの用紙をセットしてください。 参照 • 「用紙をセットする」（P.60）を参照してください。
	コピー操作で、割り込みが行われている。	割り込み操作を解除してください。
	本機でエラーが発生している。	エラーの内容を確認して対処してください。
	ジョブの実行が一時的に停止されている。	画面でジョブをキャンセルするかどうかを指定してください。

思ったとおりのプリント結果にならない

プリント結果が予想と違う結果になる場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
ホチキスが留められない	フィニッシャーが装着されていない。	ホチキスを留めるにはフィニッシャーが必要です。フィニッシャーを装着するか、プリントオプションでホチキスを解除してください。
	ホチキスで留める枚数が制限枚数を超えている。	プリント枚数をホチキスで留められる枚数以下にしてください。 参照 • ホチキスで留められる枚数はお使いのフィニッシャーによって異なります。詳しくは、「主な仕様」（P.736）を参照してください。
両面でプリントされない	プリントページバッファが不足している。	次のどれかの方法で処置してください。 • プリンタードライバーで［印刷モード］を［標準］にするか、［ページ印刷モード］を利用して再プリントする • 使用していないポートを［停止］に設定する
紙折りされない	紙折りユニット CD1 が装着されていない。	本機に装着されているオプションを確認して、プリンター構成を再度設定してください。
異なった用紙サイズでプリントされる	指定したトレイに異なったサイズの用紙がセットされている。	トレイにセットされている用紙サイズを変更するか、指定した用紙サイズがあるトレイにプリントオプションを変更してください。
用紙の端にあるイメージが欠ける	本機の印字可能エリアを超えています。	本機の印刷エリアを拡張するか、ドキュメントの印字エリアを小さくしてください。

症　状	原　因	処　置
コンピューターで指定したフォントとプリント結果のフォントが異なる	プリンタードライバーで、フォントの置き換えを設定している。	フォントの置き換えテーブルを確認してください。
オフセットされない	本機にオフセット機能が装着されていない。	オフセット排出するには、オフセット排出ユニットまたはフィニッシャーが装着されている必要があります。
プリントスピードが遅い	［印刷モード］で［高精細］を選択している。	写真などのイメージデータを高精細でプリントするとプリント速度が遅くなります。［印刷モード］で［標準］を選択してください。
プリントオプションで指定した内容が無効になる	他機種のプリンタードライバーを使用している。	本機のプリンタードライバーをインストールしてください。
	オプションの装備が本機に装着されていない。	本機に装着されているオプションを確認して、プリンタードライバーの［プリンタ構成］の［項目設定］で再度設定してください。
端が欠ける	本機の印字可能エリアを超えています。	本機の印刷エリアを拡張するか、ドキュメントの印字エリアを小さくしてください。
出力紙に黒線が出る	他機種のプリンタードライバーを使用している。	本機のプリンタードライバーをインストールしてください。

ファクスのトラブル

ファクス利用時のトラブル対処方法について説明します。

注記

- 光回線や IP 電話回線におけるファクス通信について
  当社製品は、NTT のアナログ回線規格に準拠しています。お客様が利用している（または、これから利用しようとしている）回線が、光回線や IP 電話回線の場合には、伝送路の回線品質（パケットロス、エコー、遅延など）により、ファクス通信がエラーになることがあります。その場合は、回線事業者にお問い合わせください。

補足

- インターネットファクスのトラブルについては、「メール機能のトラブル」（P.533）を参照してください。
- ファクス機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

送信時のトラブル

送信できない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
未送信レポートが出力された	何らかのエラーにより、送信できませんでした。	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」（P.540）を参照して対処してください。
通信できない（一般のファクス）	電話線が正しく接続されていない。	本機には電話線を差し込む場所が複数あります。正しい場所に差し込まれていないと通信できません。 正しい場所に差し込まれている場合、「オンフック」機能を使用して一般回線に電話できます。
	電話回線の回線種別が正しく設定されていない。	本機に設定されている回線の種別を、契約している回線の種別（PB ／ 10pps ／ 20pps）と合わせてください。
	電話回線に異常が発生している。	近くにある電話機で、電話ができるかどうか確認してください。電話ができない場合は、本機の異常ではなく、電話回線に問題があります。
	送信先のファクスが正常に動作していない。	送信先のファクスの電源が切れていたり、受信モードが手動受信であったり、G3 受信ができないファクスの場合、送信することはできません。 送信先に電話をかけて確認してください。

症　状	原　因	処　置
通信できない（一般のファクス）	間違った電話番号に、ファクスしている。	ファクス番号を確認して、再度送信してください。
	かけている電話番号が、ファクスの番号ではない。	相手に電話をかけて、「ピー」という音が受話器から聞こえなければ、ファクスではありません。
	外線発信番号を忘れている。	内線から発信している場合、外線発信番号が必要です。 ダイヤル時に、外線発信番号「0」などをダイヤルしてから、ファクス番号をダイヤルしてください。 交換機が変更になり、外線発信番号「0」をダイヤルしても通信できない場合は、「0＊」で通信できるようになる場合もあります。
	短縮宛先番号からの発信時に、外線発信番号を付けている。	短縮宛先番号で内線から外線に発信している場合、短縮宛先番号に外線発信番号の「0」が、すでに登録されている場合があります。未送信レポートで送信先の電話番号を確認してください。
	ポーリング機能など、送信先のファクスが対応していない機能を使用している。	送信先のファクスがその機能に対応しているかどうか確認してください。
	認証、集計管理機能を使用している場合で、コンピューターから直接ファクスを送信している。	認証、集計管理機能を使用している場合にコンピューターから直接ファクスを送信するときは、ファクスドライバーに、本体に登録されている正しいユーザー名と暗証番号の設定が必要です。 参照 • 認証、集計管理機能については、「認証と集計管理機能について」(P.463)、コンピューターからの直接ファクス送信については、『ユーザーズガイド』の「13 コンピューターからの操作」>「ファクス送信」を参照してください。
通信できない（IPファクス（SIP））	正しい IP アドレスが設定されていない。	本機に正しい IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定してください。
	正しい SIP 本体アドレスが設定されていない。	本機に正しい SIP 本体アドレスを設定してください。
	正しい SIP サーバーの IP アドレスが本機に設定されていない。	本機に正しい SIP サーバーの IP アドレスを設定してください。
	ネットワーク内の指定した SIP サーバーが動作していない。	SIP サーバーが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	SIP サーバーへの本機の情報の登録が失敗している。	本機の電源を切って、入れ直してください。
	送信先の IP ファクス（SIP）機が正常に動作していない。	送信先の IP ファクス（SIP）機の電源が切れている場合は、送信することはできません。送信先に電話をかけて確認してください。

症　状	原　因	処　置
通信できない（IP ファクス（SIP））	宛先の指定方法が正しくない。	次の宛先を指定してください。 • SIP サーバー、VoIP ゲートウェイともに使用していない場合 宛先に「SIP ユーザー名 @IP アドレス」　を指定してください。 • SIP サーバーだけを使用している場合 宛先に「SIP ユーザー名」、または「電話番号」を 指定してください。 • VoIP ゲートウェイを使用している場合 宛先に「電話番号」を指定してください。 • SIP サーバー、VoIP ゲートウェイともに使用している場合 宛先に「SIP ユーザー名」、または「電話番号」を指定してください。
	ポーリング機能など、送信先のファクスが対応していない機能を使用している。	送信先のファクスがその機能に対応しているかどうかを確認してください。
	認証、集計管理機能を使用している場合で、コンピューターから直接ファクスを送信している。	認証、集計管理機能を使用している場合にコンピューターから直接ファクスを送信するときは、ファクスドライバーに、本体に登録されている正しいユーザー名と暗証番号の設定が必要です。 参照 • 認証、集計管理機能については、「認証と集計管理機能について」（P.463）、コンピューターから直接ファクスを送信する方法については、『ユーザーズガイド』の「13 コンピューターからの操作」>「ファクス送信」を参照してください。
	IP ファクス（SIP）を受信中である。	IP ファクス（SIP）の同時接続数は 1 つです。同時に IP ファクス（SIP）の送受信はできません。 受信中の IP ファクス（SIP）の受信終了後に、もう一度、送信してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーター / ファイヤーウォールなど）で、本機のポートが通過できない。	ネットワーク中継機器で、IP ファクス（SIP）用ポートを利用可能に設定してください。
	本機の受付 IP アドレスの制限が正しく設定されていない。	SIP サーバーを使用する環境で、本機で受付 IP アドレスを制限している場合は、受け付ける IP アドレスに SIP サーバーの IP アドレスを追加してください。 CentreWare Internet Services を使って、［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［受付 IP アドレス制限］で登録してください。
	Ethernet ケーブルが 1 分以上抜けていた。	SIP サーバー上の Register リカバリが終了すると登録に成功します。処置は必要ありません。

症　状	原　因	処　置
通信できない（IPファクス（SIP）でVoIP ゲートウェイを使用している場合）	VoIPゲートウェイの登録が正しくない。	本機に正しい VoIP ゲートウェイを登録してください。
	ネットワーク内の指定したVoIPゲートウェイが動作していない。	VoIP ゲートウェイが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	VoIPゲートウェイ上の設定が正しくない。	VoIP ゲートウェイ上の設定が正しいことをネットワーク管理者に確認してください。
	送信先のG3ファクス機が正常に動作していない。	送信先の G3 ファクス機の電源が切れている場合には、送信することはできません。送信先に電話をかけて確認してください。
IPファクス（SIP）通信に時間がかかる	本機の QoS 設定値が不適切なため、ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）での本機から送信されたIP パケットの優先度が低くなっている。	使用しているネットワーク環境に合わせ、本機の［IP パケット送信の優先度］の設定値を大きくしてください。 参照 • ［IP パケット送信優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.233）を参照してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）の QoS 値毎に割り当てられているキュー（バッファ）が小さいため、通信データの損失が大量に発生している。	ネットワーク中継機器で、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）をはさんで通信速度（10M/100M/1000M）が異なっているため、通信データの損失が大量に発生している。	ネットワーク内で通信速度を統一してください。
	VoIPゲートウェイの通信パラメーター（input gain / output attenuation、echo 設定など）がネットワーク環境に合っていないため、通信データの損失が大量に発生している。	VoIP ゲートウェイで、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合で、IP ファクス（SIP）機をデータ用ネットワークに接続している。	ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信の優先度］を設定してください。 参照 • ［IP　パケット送信の優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.233）を参照してください。

症　状	原　因	処　置
IPファクス(SIP)通信時にネットワークの他の通信/通話が遅くなる	本機の QoS 設定値が不適切なため、ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）において本機から送信された IP パケットの優先度が必要以上に高くなっている。または、バッファ領域を占有している。	使用しているネットワーク環境に合わせ、本機の［IP パケット送信の優先度］の設定値を小さくしてください。 **参照** • ［IP パケット送信の優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.233）を参照してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合で、IP ファクス（SIP）機を音声用ネットワークに接続している。	ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 **参照** • 本機の QoS は［IP パケット送信の優先度］を設定してください。 ［T.38 - IP パケット送信の優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.233）を参照してください。
画質が悪い	原稿読み取りガラスが汚れている。	原稿読み取りガラスを清掃してください。 **参照** • 「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」（P.106）および「原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃」（P.107）を参照してください。
	送信濃度が適正ではない。	送信濃度を調節してください。 **参照** • 『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」>「ファクス / インターネットファクス」を参照してください。
	送信元に問題がある。	送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生する場合があります。

受信時のトラブル

受信できない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
通信できない（一般のファクス）	電話線が正しく接続されていない。	本機には電話線を差し込む場所が複数あります。正しい場所に差し込まれていないと通信できません。正しい場所に差し込まれている場合、「オンフック」機能を使用して一般回線に電話できます。
	電話回線に異常が発生している。	近くにある電話機で、電話ができるかどうか確認してください。電話ができない場合は、本機の異常ではなく、電話回線に問題があります。
	回線 1 ～ 3 付加サービスが正しく設定されていない。	電話会社との回線契約（ナンバー・ディスプレイ / 発信者番号表示およびダイヤルイン）を確認して、設定してください。 参照 •「回線 1 ～ 3 付加サービス」（P.273）を参照してください。
	ナンバー・ディスプレイの契約をしていない。	発信番号通知の振り分け機能を利用するには、NTT とのナンバー・ディスプレイの契約が必要です。
	モデムダイヤルインの契約をしていない。	モデムダイヤルインの振り分け機能を使用するには、NTT とのモデムダイヤルインの契約が必要です。
	電源が入っていない。	本機の電源が入っていないと、受信できません。本機の主電源および電源を入れてください。
	用紙がセットされていない。	本機に用紙がセットされていない場合、受信した文書をプリントできません。
	用紙が詰まっている。	本機の操作パネルを見て、詰まっている用紙を取り除いてください。 参照 •「用紙が詰まった場合」（P.670）を参照してください。
	機械管理者モードになっている。	本機が機械管理者モードになっている場合は、受信できません。機械管理者モードを終了してください。
	受信パスワードを設定している。	受信パスワードを設定している場合、F コードで正しい受信パスワード送信してくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けることができます。

症　状	原　因	処　置
通信できない（一般のファクス）	手動受信に設定されている。	手動受信をするか、自動受信に設定し直してください。 **参照** •「ファクス受信モード」（P.134）を参照してください。
	手動送信に設定されている。	FAX 情報サービスを利用するには、オンフックまたはオフフック画面で手動受信モードに設定し直して、情報コードなどを入力したあとで、最後に〈スタート〉ボタンを押してください。
	送信元で原稿を正しくセットしていない。	送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって異常が発生する場合があります。
通信できない（IP ファクス（SIP））	正しい IP アドレスが設定されていない。	本機に正しい IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定してください。
	正しい SIP サーバーの IP アドレスが本機に設定されていない。	本機に正しい SIP サーバーの IP アドレスを設定してください。
	ネットワーク内の指定した SIP サーバーが動作していない。	SIP サーバーが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	SIP サーバーへの本機の情報の登録が失敗している。	本機の電源を切って、入れ直してください。
	電源が入っていない。	本機の電源が入っていないと、受信できません。本機の主電源および電源を入れてください。
	機械管理者モードになっている。	本機が機械管理者モードになっている場合は、受信できません。機械管理者モードを終了してください。
	間違った受信パスワードを設定している。	受信パスワードを設定している場合、F コードで正しい受信パスワードを送信してくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けることができます。
	IP ファクス（SIP）を送信中である。	IP ファクス（SIP）の同時接続数は 1 つです。同時に IP ファクス（SIP）の送受信はできません。 送信中の IP ファクス（SIP）の送信終了後に、送信元に再送を依頼してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーター / ファイヤーウォールなど）で、本機のポートが通過できない。	ネットワーク中継機器で、本機の IP ファクス（SIP）用ポートを利用可能に設定してください。

症　状	原　因	処　置
通信できない（IPファクス（SIP））	本機の受付 IP アドレスの制限が正しく設定されていない。	SIP サーバーを使用する環境で、本機で受付 IP アドレスを制限している場合は、受け付ける IP アドレスに SIP サーバーの IP アドレスを追加してください。 CentreWare Internet Services を使って、［プロパティ］タブ>［セキュリティー］>［受付 IP アドレス制限］で登録してください。
	Ethernet ケーブルが 1 分以上抜けていた。	SIP サーバー上の Register リカバリが終了すると登録に成功します。処置は必要ありません。
通信できない（IPファクス（SIP）でVoIP ゲートウェイを使用している場合）	VoIP ゲートウェイの登録が正しくない。	本機に正しい VoIP ゲートウェイを登録してください。
	ネットワーク内の指定した VoIP ゲートウェイが動作していない。	VoIP ゲートウェイが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	VoIP ゲートウェイ上の設定が正しくない。	VoIP ゲートウェイ上の設定が正しいことを、ネットワーク管理者に確認してください。
IPファクス（SIP）通信に時間がかかる	本機の QoS 設定値が不適切なため、ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）での本機から送信された IP パケットの優先度が低くなっている。	使用しているネットワーク環境に合わせ、本機の［IP パケット送信の優先度］の設定値を大きくしてください。 参照 • ［IP パケット送信優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」（P.233）を参照してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）の QoS 値毎に割り当てられているキュー（バッファ）が小さいため、通信データの損失が大量に発生している。	ネットワーク中継機器で、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）をはさんで通信速度（10M/100M/1000M）が異なっているため、通信データの損失が大量に発生している。	ネットワーク内で通信速度を統一してください。
	VoIP ゲートウェイの通信パラメーター（input gain /output attenuation、echo 設定など）がネットワーク環境に合っていないため、通信データの損失が大量に発生している。	VoIP ゲートウェイで、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。

症　状	原　因	処　置
IPファクス(SIP)通信に時間がかかる	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合で、IPファクス（SIP）機をデータ用ネットワークに接続している。	ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信の優先度］を設定してください。 **参照** • ［IP パケット送信の優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」(P.233) を参照してください。
IPファクス(SIP)通信時にネットワークの他の通信/通話が遅くなる	本機の QoS 設定値が不適切なため、ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）において本機から送信された IP パケットの優先度が必要以上に高くなっている。または、バッファ領域を占有している。	使用しているネットワーク環境に合わせ、本機の［IP パケット送信の優先度］の設定値を小さくしてください。 **参照** • ［IP パケット送信の優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」(P.233) を参照してください。
IPファクス(SIP)通信時にネットワークの他の通信/通話が遅くなる	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合で、IPファクス（SIP）機を音声用ネットワークに接続している。	ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信の優先度］を設定してください。 **参照** • ［IP パケット送信の優先度］については、「IP パケット送信優先度 /IP パケット送信優先度（Ethernet1）、IP パケット送信優先度（Ethernet2）」(P.233) を参照してください。
画質が悪い	ドラムカートリッジに傷がある。	コピーして画質が悪い場合は、ドラムカートリッジを交換してください。 **参照** • 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
	送信元の原稿読み取り部が汚れている。	送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生する場合があります。
	送信元の解像度の設定が低い。	送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生する場合があります。

<table>
<tr><th>症　状</th><th>原　因</th><th>処　置</th></tr>
<tr><td>1ページの受信文書が複数に分割される</td><td>送信元での原稿読み取り時に、何らかの原因により、原稿が大きく読み込まれている。</td><td>本機は、原稿を受信した場合の処理方法を、自動縮小受信との組み合わせで設定できます。組み合わせによって、受信文書は次のようにプリントされます。
<table>
<tr><th></th><th>自動縮小受信あり</th><th>自動縮小受信なし</th></tr>
<tr><td>しきい値以内の場合</td><td>自動的に縮小されて、1 枚にプリント</td><td>定形サイズを超える部分をカットしてプリント</td></tr>
<tr><td>しきい値を超える場合</td><td>等倍で分割されてプリント</td><td>—</td></tr>
</table>
参照
• 「ページ分割しきい値」（P.272）、「自動縮小受信」（P.272）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>ボックスセレクター機能を設定しているのに、受信文書が選択した親展ボックスに蓄積されず、プリントされてしまう</td><td>ボックスセレクター機能の設定で、未登録の親展ボックスが選択されている。</td><td>ボックスセレクター機能を設定する場合は、登録済みの親展ボックスを選択してください。未登録の親展ボックスを選択すると、受信文書は親展ボックスに蓄積されず、自動的にプリントされます。
参照
• 親展ボックスの登録については「ボックス登録」（P.305）を、ボックスセレクター機能の設定については「受信文書の保存先 / 排出先」（P.276）を参照してください。</td></tr>
</table>

スキャナーのトラブル

スキャナー機能利用時の対処方法について説明します。

補足

- スキャナー機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

本機でスキャンできない

本機でスキャンできない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
原稿送り装置から原稿がうまく送り込まれない	原稿のサイズが小さすぎる。	原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズは、139.7×139.7mm（定形サイズの場合は、A5、A5□）です。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	適切な原稿を使用していない。	変形原稿、名刺、OHP フィルム、薄い原稿は原稿送り装置では使用できません。 また、付せん、クリップ、セロハンテープを付けた原稿も使用できません。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	原稿ガイドの位置がずれている。	原稿サイズに合わせて、原稿ガイドを正しくセットする。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	原稿の一部が破れて、原稿送り装置に紙片が残っている。	原稿送り装置のカバーを開けて、紙片を取り除いてください。 **参照** •「原稿が詰まった場合」（P.717）を参照してください。
	サイズが異なる原稿をセットしている。	サイズが異なる原稿をセットしている場合に、[ミックスサイズ原稿送り]を設定しないと、原稿詰まりが発生します。サイズが異なる原稿をセットした場合は、必ず[ミックスサイズ原稿送り]の設定を［する］にしてください。 **参照** •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「読み取り方法」を参照してください。

スキャン文書をコンピューターに取り込めない

スキャン文書を、コンピューターに取り込めない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
スキャナーが見つからない	本機の電源が入っていない。	本機の主電源および電源を入れてください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れている。	コンピューターのネットワークケーブルをつなげてください。
	本機のネットワークケーブルが外れている。	本機のネットワークケーブルをつないでください。 参照 •「Ethernet インターフェイスでの接続」（P.26）を参照してください。
	コンピューターと本機の間のネットワークが正常ではない。	ネットワーク管理者に相談してください。
親展ボックスが開かない	親展ボックスを登録していない。	親展ボックスを登録してください。 参照 •「ボックス登録」（P.305）を参照してください。
	親展ボックスのパスワードを忘れてしまった。	パスワードは確認できません。機械管理者にパスワードを「なし」に設定してもらってから、再度パスワードを登録してください。 参照 •「ボックス登録」（P.305）を参照してください。
TWAIN 通信エラーでスキャナーからデータが取り込めない	スキャナードライバーがインストールされていない。	スキャナードライバーをインストールしてください。
取り込み中に動作が止まってしまう	ファイルサイズが大きくありませんか？	解像度を低く設定して、再度読み込んでください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「読み取り方法」を参照してください。
未送信レポートが出力された	何らかのエラーにより､転送できませんでした。	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は､「エラーコード」(P.540) を参照して対処してください。

スキャン文書をネットワーク転送（FTP/SMB）できない

スキャン文書を、ネットワーク転送できない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
未送信レポートが出力された	何らかのエラーにより、転送できませんでした。	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.540) を参照して対処してください。
ネットワーク転送できない	サーバーは正しく入力されていますか？	サーバーの入力を確認してください。
	保存場所は正しく入力されていますか？	保存場所の入力を確認してください。
	SMB を選択した場合、共有名は正しく入力されていますか？	共有名の入力を確認してください。
	SMB（UNC 表記）を選択した場合、保存先は正しく入力されていますか？	保存先の入力を確認してください。
	ログイン名は正しく入力されていますか？	ログイン名の入力を確認してください。
	パスワードは正しく入力されていますか？	パスワードの入力を確認してください。
	Windows OS への転送の場合、本機と Windows の時刻設定は一致していますか？	本機と Windows の時刻設定を一致させてください。
	Windows OS を使用している場合に、パスワードを設定しないユーザーで、SMB 転送しようとしていますか？	次の方法でネットワークへのアクセス設定を変更します。 1. Windows を起動し、[コントロールパネル] > [管理ツール] を選択し、[ローカル セキュリティ ポリシー] を選択する。 2. [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] から [セキュリティ オプション] を選択する。 3. [アカウント：ローカルアカウントの空のパスワードをコンソールログオンのみに制限する] を [無効] に設定する。
	SMB転送に指定したDFSの名前空間が 4 つ以上のルートで構成されていませんか？	3つ以下のルートで構成されたDFS名前空間を指定してください。
	指定した保存場所のアクセス権を設定してください。	指定した保存場所で、ファイルやフォルダーの読み取りおよび書き込みができるようにアクセス権を設定してください。
	SMB のポート番号がブロックされている。	転送先のサーバ、および複合機とサーバの間に存在するルータや転送先のサーバ上のウィルススキャンソフト、ファイアウォールソフトなどで SMB ポートがブロックされていないか確認する。

メール送信できない

スキャン文書を、E メール機能で送信できない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
未送信レポートが出力された	何らかのエラーにより、送信できませんでした。	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.540) を参照して対処してください。
メールが送信できない	入力したメールアドレスが正しくない。	メールアドレスの入力を確認してください。
	メール送信の上限データサイズを超えている。	メール送信の上限データサイズを変更するか、解像度を下げてください。 参照 •「合計データサイズ上限」(P.286)、または『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「読み取り方法」を参照してください。

イメージが思ったとおりの結果にならない

スキャンデータが、思ったとおりのイメージデータになっていない場合の処置方法について説明します。

症　状	原　因	処　置
イメージが汚れている	原稿カバー、または原稿ガラスが汚れている。	原稿カバー、または原稿ガラスを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.106) および「原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃」(P.107) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿を使用している。	透過度が高い原稿では、原稿カバーの汚れがイメージに写ります。原稿の上に白紙を載せてスキャンしてください。
	原稿がカラーペーパー、ざら紙、青焼きなどを使用している。	読み込み濃度を調整するか、画質を調整してスキャンしてください。
イメージが汚れている	光沢のある印画紙をスキャンしている。	光沢のある印画紙は、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにスキャンされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてスキャンしてください。
イメージが濃すぎる、または薄すぎる	読み込み濃度が「こく」、または「うすく」に設定されている。	読み込み濃度を調整してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「画質調整」を参照してください。
	原稿の画質設定が適切ではない。	原稿に合った画質を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「画質調整」を参照してください。

症　状	原　因	処　置
イメージが部分的に写らない	貼り合わせた原稿や、折り込んである原稿を使用している。	貼り合わせたのりの部分や、折りの部分が、原稿ガラスに密着していないことが考えられます。原稿の上に白紙の束などを重ねて、原稿ガラスに密着するようにしてください。
イメージが希望のサイズでない	原稿カバー、または原稿ガラスが汚れている。	原稿カバー、または原稿ガラスを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.106) および「原稿押さえ部、原稿読み取りガラスの清掃」(P.107) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿を使用している。	原稿の上に白紙を載せてスキャンしてください。
	原稿がずれている。	原稿を正しくセットしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれている。	原稿を正しくセットして、原稿ガイドを原稿の端に当ててください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
イメージが希望のサイズでない	定形外サイズの原稿を使用している。	原稿のサイズを入力してスキャンしてください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
	原稿が折れ曲がっている。	原稿をのばして正しくセットし直してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャン操作の流れ」を参照してください。
イメージがカラーではない	[カラーモード] が [白黒 (2 階調)]、または [グレースケール (256 階調)] になっている。	[カラーモード] の [フルカラー] を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャナー (メール送信)」を参照してください。

症　状	原　因	処　置
イメージが粗い	解像度の設定が低い。	解像度を高く設定してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「読み取り方法」を参照してください。
	高い圧縮率で保存している。	[画質 / ファイルサイズ]を低い圧縮率で設定してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「出力形式」を参照してください。
白黒のグラデーションが希望どおり再現されない	[カラーモード]の[白黒（2階調)]を選択している。	[カラーモード]の[グレースケール（256階調)]を選択してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「スキャナー（メール送信)」を参照してください。

ネットワークのトラブル

ネットワーク関連のトラブル対処について説明します。

SMB を使用したときのトラブル

SMB を使用したときの処置について説明します。

SMB マシンが見つからないとき

原　　因	確認方法	処　　置
SMB の自動マスターモードが「する」に設定されている場合、マシン情報を保持できる台数に制限がある。マシン情報を保持できる台数は使用しているネットワーク環境によって異なる。	本機または他の SMB マシンがネットワークコンピューターアイコンから検索できない。	SMB の自動マスターモードの設定を確認し、自動マスターモードが「する」に設定されている場合は、自動マスターモードを「しない」に変更してください。

TCP/IP を使用したときのトラブル

TCP/IP（LPD）使用時にトラブルが発生した場合の、考えられる原因、確認方法、処置は次のとおりです。

Windows OS の場合

■プリントされないとき

原　　因	確認方法	処　　置
正しいIPアドレスが設定されていない。	ネットワーク管理者に、本機のIPアドレスが正しいかどうかを調べてもらう。	本機に、正しい IP アドレスを設定してください。
LPD スプールをメモリースプールに設定している場合に、コンピューターから１回のプリント指示で送信されるプリントデータの容量が、受信容量の上限を超えている。	LPDスプールのメモリー容量を確認して、1 回のプリント指示で送信しようとしているプリントデータの容量と比較してみる。	プリントデータ容量が１つのファイルで、メモリー容量の上限を超える場合は、そのファイルをメモリー容量の上限より小さいサイズに分割してプリントを指示してください。
		プリントデータ容量が複数のファイルで、メモリー容量の上限を超える場合は、1 度にプリントを指示するファイル数を減らす。
プリント処理中に対処不可能な障害が発生した。	操作パネルのディスプレイで、エラーが表示されていないかを確認する。	本機の電源を切って、ディスプレイが暗くなってから再度電源を入れてください。
コンピューターと一致するトランスポートプロトコルを選択していない。	選択されているトランスポートプロトコルを確認する。	コンピューターと一致するトランスポートプロトコルを選択してください。
本機が処理しようとするプリントデータのデータ形式と、コンピューターから送られてくるプリントデータのデータ形式が一致していない。	−	Ctrl-Dを出力しない設定にしてください。

■希望どおりにプリントされないとき

原　　因	確認方法	処　　置
指定したプリント言語とプリントデータのプリント言語が異なっている。	指定したプリント言語とプリントデータのプリント言語を確認する。	プリントデータのプリント言語に一致するプリント言語を指定してください。
本機に付属のプリンタードライバーを使っていない（他社のプリンタードライバーを使っている）。	本機に付属のプリンタードライバーが選択されているか確認する。	本機に付属のプリンタードライバーを選択してください。選択項目にない場合は、本機に付属のプリンタードライバーをインストールし、選択してください。他社のプリンタードライバーを使った場合は、動作が保証されません。

Mac OS の場合

■プリントされないとき

原　　因	確認方法	処　　置
LPD ポートが起動していない。	LPDポートが起動しているかを確認する。	Bonjourを使用して検出したプリンターでプリントする場合は、LPD ポートを起動してください。

CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル

CentreWare Internet Services 使用時にトラブルが発生した場合の、症状と処置は次のとおりです。

症　　状	処　　置
CentreWare Internet Services に接続できない。	本機は、正常に作動していますか？ 本機の電源が入っているかを確認してください。
	［インターネットサービス］が起動していますか？ 「機能設定リスト」をプリントして確認してください。
	インターネットアドレスは正しく入力されていますか？ インターネットアドレスをもう一度確認してください。接続できない場合は、IP アドレスを入力して接続してください。
	プロキシサーバーを使っていますか？ プロキシサーバーによっては、接続できない場合があります。プロキシサーバーを使わないで、Web ブラウザーの設定を「プロキシサーバーを使用しない」にするか、使用するアドレスを「プロキシサーバーを使用しない」に設定してください。
「しばらくお待ちください」と表示されたままになる。	そのまましばらくお待ちください。 状態が変わらない場合は、［更新］ボタンを押してください。 ［更新］ボタンを押しても状態が変わらない場合は、本機が正常に作動しているかを確認してください。
［更新］ボタンが機能しない。	指定されている Web ブラウザーを使っていますか？ 「CentreWare Internet Services を使って設定する」(P.359) を参照して、使っている Web ブラウザーが対象となっているかどうかを確認してください。
左側フレームのメニューを選択しても、右側フレームが更新できない。	
画面の表示が崩れる。	Web ブラウザーのウィンドウサイズを変更してください。
最新の情報が表示されない。	［更新］ボタンを押してください。
日本語が正しく設定できない。	シフト JIS コードを使ってください。また、半角カナ文字は使用しないでください。
［新しい設定を適用］ボタンを押しても反映されない。	入力した値は正しいですか？ 入力できる値以外を入力した場合は、自動的に制限値内に変更されます。
	本機の操作パネルで操作中、または操作後ではありませんか？ 自動リセット機能が設定されている場合、設定時間が経過するまで、CentreWare Internet Services での設定は適用されません。しばらくお待ちください。

症　　状	処　　置
［新しい設定を適用］ボタンを押すと、Web ブラウザーに［無効なまたは認識されない応答をサーバーが返しました］や［データがありません］などのメッセージが表示される。	パスワードは正しいですか？ パスワードの確認入力の内容が一致していません。正しいパスワードを入力してください。
	本機を再起動してください。
漢字を入力できない。	「＊」で表示される項目に漢字は入力できません。
ジョブを削除できない。	しばらく待ってから［更新］ボタンを押してください。

メール機能のトラブル

メール通知（消耗品の状態通知）サービス、メールプリント、スキャナー（メール送信）、インターネットファクスを使用している場合のトラブルについて、処置方法を記載しています。

症　　状	処　　置
メール受信ができない（メールプリント、インターネットファクス）	本体メールアドレスは設定されていますか？
	［メール受信］が［起動］に設定されていますか？
	SMTP サーバーの IP アドレス、POP3 サーバーの IP アドレス（受信プロトコルで POP3 を選択している場合）などが、正しく設定されていますか？
	POP ユーザー名、およびパスワードが正しく設定されていますか？
	［送受信ドメインの制限］を設定していませんか？ CentreWare Internet Services で、自分のドメインが送受信許可ドメインに含まれているかどうかを確認してください。
	SMTPサーバー、POPサーバーは正常に作動していますか？ ネットワーク管理者に確認してください。
メール送信ができない（メール通知、インターネットファクス、スキャナー（メール送信））	本体メールアドレスは設定されていますか？
	［メール通知サービス］が［起動］に設定されていますか？（メール通知の場合）
	［メール送信］が［起動］に設定されていますか？
	SMTP サーバーの IP アドレスなどが、正しく設定されていますか？
	送信する通知項目が正しく設定されていますか？（メール通知の場合） CentreWare Internet Services のプロパティ画面で、設定を確認してください。
	送信先メールアドレスは正しく入力されていますか？
	SMTP サーバーは正常に作動していますか？ ネットワーク管理者に確認してください。

インターネット / イントラネット接続のトラブル

インターネット / イントラネット接続時にトラブルが発生した場合の、考えられる原因と処置は次のとおりです。

インターネット / イントラネットに接続できないとき

原　　因	処　　置
外部サーバーで使用している認証機能が、本機では対応していない。	本機で対応している認証機能は、Basic　認証だけです。NTLM/digest には対応していません。セキュリティー上の問題を考慮する場合には、SSL を使った認証に変更してください。
使用している外部連携サービスと、本機のモデルやオプションが合っていない。	外部連携サービスを使用する場合は、該当する製品 / モデル / オプションを購入してください。
IPアドレスが正しく設定されていない。	IP アドレスの設定を確認してください。IP アドレスが正しく設定されていない場合は、IP アドレスを固定で指定するか、DHCP または AutoIP などを使用して、IP アドレスを解決してください。
IPゲートウェイアドレスが正しく設定されていない。	プロキシサーバーに接続する場合、または Web サーバーに接続するために IP ゲートウェイを経由する場合は、IP ゲートウェイアドレスを正しく入力してください。
サブネットマスクが正しく設定されていない。	サブネットマスクは、使用している環境に合わせて正しく設定してください。
DNS サーバーのアドレスが正しく設定されていない。	DNS サーバーのアドレスを確認してください。
設定されている DNS サーバーがアドレスを解決できない。	アドレスを解決できる DNS サーバーを設定してください。 • プロキシサーバーを経由する場合 プロキシサーバーのアドレスを解決できる DNS サーバーのアドレスを設定してください。 • プロキシサーバーを経由しない場合 宛先アドレスを解決できる DNS サーバーのアドレスを設定してください。
プロキシを経由しないアドレスの設定が間違っている。	プロキシを経由しないアドレスだけが指定されているかどうかを確認してください。なお、FQDN 形式でプロキシを経由しないアドレスを指定していても、IP アドレスを直接指定してサーバーにアクセスしている場合には、登録したサーバーが除外対象にはなりません。プロキシを経由しないアドレスを IP アドレスでも指定してください。同様に、IP アドレスを直接指定してプロキシを経由しないアドレスを指定していても、FQDN 形式でサーバーにアクセスする場合には、登録したサーバーが除外対象になりません。プロキシを経由しないアドレスを FDQN 形式でも指定してください。
接続するサーバー、またはプロキシサーバーがダウンしている。	接続するサーバー、またはプロキシサーバーが正常に稼動しているかどうかを確認してください。
ネットワークケーブルが抜けている、または断線している。	ネットワークケーブルの接続を確認してください。ネットワークの切断に強い環境を構築するためには、スパニングツリー環境を使用することをお勧めします。
サーバーアプリケーションに負荷がかかっているため、通信できない。	しばらく待ってから、もう一度アクセスしてください。

原　　因	処　　置
操作パネルには表示されていないが、エラーが発生している。	バックグラウンド処理を実行中にエラーが発生しても、操作パネルには表示されません。［ジョブ確認］画面を表示するか、ジョブ履歴レポートをプリントして、実行結果を確認してください。
プロキシサーバー、ファイアウォール、または Web サーバーに設定されているアクセス制限によって接続できない。	アクセス制限の種類には、次のものがあります。設定されているアクセス制限を確認してください。 • アドレス（ポート）制限 • SSL 利用制限 • ユーザーアクセス制限（アクセス権レベルも含む） • コンテンツブロック • 利用スキーム制限（HTTP 利用不可など） • 転送データサイズ制限 • 利用メソッド制限（POST 利用不可など） • HTTP ヘッダー制限（特定ブラウザーだけ受付など） • 時間制限（特定時間帯だけ利用可能など）

目的の Web サーバーに接続できないとき

原　　因	処　　置
プロキシサーバーを使用する設定になっていない。	プロキシを経由する環境では、プロキシサーバーを使用するように設定されていないと、目的の Web サーバーに接続できません。プロキシサーバーを使用するように設定してください。
プロキシを経由しない環境にもかかわらず、プロキシサーバーを使用する設定になっている。	イントラネットに接続する場合など、プロキシを経由する必要がない環境では、プロキシサーバーを使用する設定にはしないでください。
プロキシサーバーのアドレスが正しく設定されていない。	プロキシサーバーを使用する設定になっている場合には、プロキシサーバーのアドレスが正しく設定されていないと、目的の Web サーバーに接続できません。プロキシサーバーのアドレスを正しく設定してください。
プロキシサーバーに認証が設定されている場合に、ユーザー名やパスワードが正しくないため、接続できない。	プロキシサーバーに接続を許可されているユーザー名とパスワードを、本機に設定してください。

IPv4 または IPv6 接続のトラブル

IPv4 または IPv6 接続時にトラブルが発生した場合の、考えられる症状と処置は次のとおりです。

IPv4 に接続できないとき

症　　状	処　　置
IPv4 アドレス入力時、192.0.2.001 のように、アドレス先頭に 0 を付加した場合、正しく動作しない。	0 を付けないで指定してください。

IPv6 に接続できないとき

症　状	処　置
リンクローカルアドレスを指定するときに本機にアクセスできない。	リンクローカルアドレスにスコープ識別子を付加してください。 たとえば Windows 7 の Internet Explorer 11 を利用して、fe80::203:baff:fe48:9010 を指定してアクセスする場合には、Windows 7 のイーサネットアダプタローカルエリア接続の番号（例：8）をスコープ識別子として付加し、fe80::203:baff:fe48:9010%8 と入力してください。
IPv6 が利用できる Windows OS と通信できない。	IPv6 が利用できる Windows OS で固定アドレスを設定してください。 通信を許可するホストアドレスとして、設定した IPv6 固定アドレスを本機に登録してください。
ルーターを越える検索が正しく動作しない。	SMB を使った検索でルーターを越える場合、宛先アドレスを直接入力してください。 マルチキャストに応答するのは、ローカルリンク内でのマルチキャスト（FF02::1）のみです。
IPv6 ネットワークを介して印刷した場合、ペーパーセキュリティーが正しく動作しない。	IPv4 環境で運用してください。 IPv6 環境ではペーパーセキュリティーは正しく動作しません。
CentreWare Internet Services で、SSL を有効に設定している場合に、http://［IPv6 アドレス］を指定しても https://［IPv6 アドレス］サイトへリダイレクトされない。	SSL を有効に設定している場合、https://［IPv6 アドレス］サイトを指定してください。

IPv6 でプリントできないとき

症　状	処　置
DNS サーバーが存在しない IPv6 ネットワーク環境で、IPv6 が利用できる Windows OS から Windows 共有プリンターが使用できない。	IPv6 が利用できる Windows OS 上の hosts ファイルに本機のコンピューター名を登録してください。 格納先例： C:\Windows\system32\driver\etc\hosts ファイルに登録します。

IPv6 でスキャンできないとき

症　状	処　置
リンクローカルアドレスだけの場合、ファイル転送サービスに失敗する。	グローバルアドレスを割り当ててください。
DNS サーバーが存在しない IPv6 ネットワーク環境で、スキャナー（PC 保存）の SMB 転送の格納先サーバーにコンピューター名を指定した場合、ファイル転送に失敗する。	スキャナー（PC 保存）の SMB 転送の格納先サーバーに、IPv6 アドレスを直接指定してください。

症　　状	処　　置
インターネットファクスダイレクト宛先として IPv6 のアドレスリテラル形式を使用すると正しく動作しない。 例： csw@［ipv6:2001:db8::1］	IPv6 環境では DNS サーバーを運用し、宛先を FQDN にて指定してください。
メールサービスなどのメールアドレスとして IPv6 アドレスリテラル指定は使用すると正しく動作しない。 例： csw@［ipv6:2001:db8::1］	IPv6 環境では DNS サーバーを運用し、メールアドレスを FQDN にて指定してください。

その他 IPv6 について

症　　状	処　　置
UPnP で IPv6 機器を検索できない。	IPv6 環境では Web Services on Devices（WSD）のディスカバリー機能を使用してください。
DNS サーバーが存在しない IPv6 ネットワーク環境において、SMB 認証の SMB サーバー設定にコンピューター名を指定すると認証に失敗する。	認証サーバーパラメーターのコンピューター名に、IPv6 アドレスを直接指定してください。
DocuShare など外部アクセス接続サービスで、接続先 URL に IPv6 アドレスで指定すると正しく動作しない。 例： http://［ipv6:2001:db8::1］	IPv6環境ではDNSサーバーを運用し、接続先URLをFQDNで指定してください。
出力されたジョブログに IPv6 アドレスが正しく記載されない。	IPv4 で運用してください。

文書プリントのトラブル

文書プリント使用時にトラブルが発生した場合の、考えられる症状、原因、処置は次のとおりです。

症　状	原　因	処　置
メニュー画面に［文書プリント］が表示されない。	USB メモリーキットのソフトウェアオプションが認識されていません。	ソフトウェアオプションを正しく設定するか、USB ケーブルをいったん抜いてから、もう一度コネクターの奥まで差し込んでください。
	CentreWare Internet Services の［メディアプリントの使用］が有効になっていません。	CentreWare Internet Services の［メディアプリントの使用］を有効にしてください。

メールプリントのトラブル

メールプリント使用時にトラブルが発生した場合の、考えられる症状、原因、処置は次のとおりです。

症　状	原　因	処　置
Yahoo メールを使用して、メールプリントすると、同一文書が何回もプリントされる。	メール部分が複数添付されています。	メール送信画面で［添付ファイルとして転送］を選択してください。
コンピューターでMSNメールを使用して、メールプリントすると、同一文書が何回もプリントされる。	メール部分が複数添付されています。	Windows Live メールを使用して、転送してください。 または、携帯電話から転送してください。
携帯電話でMSNメールを使用してメールプリントすると、改行位置がずれる。	MSN メールサーバーから転送されたメールは、ブラウザの端に位置していた箇所で改行されます。	-
GmailなどのWebメールを使用して、メールプリントすると、添付文書が印刷されない場合がある。	転送された Gmail などの Web メールが、さらに転送されています。	メールプリントする場合は、転送メールをさらに転送しないでください。
Beat モバイルを使用して、メールプリントすると、印刷結果が印刷設定と異なる場合がある。たとえば、添付文書のみ印刷する設定にしていても、メール本文が印刷されてしまう。	Beat モバイルでメールを転送すると、転送元のメールのメール本文が添付文書として送信されます。	ほかの Web メールを使用して、転送してください。

エラーコード

エラーコードについて説明します。

エラーが発生してプリントが正常に終了しなかった場合や本機に故障が発生した場合は、操作パネルのディスプレイにメッセージとエラーコード（***-***）が表示されます。

ファクスの場合、［通信管理レポート］や［未送信レポート］などにもエラーコードが表示されます。

次の表でエラーコードを参照して、処置してください。

補足

- エラーコードが表示されたときは、本機内に残っているプリントデータや、本機のメモリーに蓄えられた情報は保証されません。

次の表に記載されていないエラーコードが表示された場合や、記載に従って処置をしても正常に戻らないときは、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。カストマーコンタクトセンターの電話番号は、機械に添付してあるラベル、またはカードに記載されています。

エラーコード	原因 / 処置
003-311 003-318 003-319 003-320 003-321 003-322 003-323 003-324 003-325 003-326 003-327 003-328 003-329 003-330 003-331 003-332 003-333 003-334 003-335 003-336 003-337 003-338 003-339 003-340 003-341 003-342 003-343 003-344 003-345 003-346	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
003-700	【原因】 紙づまりを取り除いたあと、原稿送り装置に戻した原稿枚数が多すぎます。 【処置】 出力された用紙を確認して、印字されていない原稿以降を戻してください。
003-701	【原因】 原稿に複製を抑制するためのデジタルコードが埋め込まれています。 【処置】 デジタルコードが埋め込まれていない原稿を使用してください。
003-702	【原因】 原稿の両面を同時にコピーする場合、おもて面とうら面で異なる読み取り倍率が設定されています。 【処置】 おもて面とうら面を同じ読み取り倍率に設定してください。
003-703	【原因】 色補正チャートが正しく検出できませんでした。 【処置】 色補正チャートを正しくセットしてください。
003-704	【原因】 読み取った色補正パターンに異常があり、本機が故障している可能性があります。 【処置】 色補正をやり直しても状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
003-705	【原因】 節電モード中に、用紙トレイにセットされている用紙のサイズを変更したあと、節電状態から復帰してトレイサイズの変更を本機が検知する前に、コピーが開始されました。 【処置】 コピーを中止し、もう一度コピー操作をやり直してください。
003-750	【原因】 ブック両面機能で原稿が 1 枚も蓄積できませんでした。 【処置】 ブック両面機能の設定を確認してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「3 コピー」>「読み取り方法」を参照してください。
003-751	【原因】 指定した原稿範囲が小さすぎるため、本機で処理できない大きさ（サイズ）です。 【処置】 解像度を上げるか、読み取り領域を大きくしてください。
003-752	【原因】 ミックスサイズの原稿を、フルカラー / 両面に設定して、600dpi で読み取ろうとしたため、エラーが発生しました。 【処置】 ［読み取り解像度］を［400dpi］以下に設定して、再度スキャンしてください。
003-753	【原因】 ミックスサイズの原稿を、両面に設定して、高解像度で読み取ろうとしたため、エラーが発生しました。 【処置】 ［読み取り解像度］を［200dpi］以下に設定して、もう一度スキャンしてください。
003-754 003-755	【原因】 原稿読取装置にエラーが発生しました。 【処置】 再度ジョブを実行してください。
003-756	【原因】 ファクスの原稿がすべて白紙です。 【処置】 原稿が白紙ではないか、裏と表が逆になっていないかどうかを確認してください。
003-757	【原因】 ミックスサイズの原稿を、両面に設定して、高解像度で読み取ろうとしたため、エラーが発生しました。 【処置】 ［読み取り解像度］を［300dpi］以下に設定して、もう一度スキャンしてください。
003-760	【原因】 原稿の読み取り条件で、組み合わせできない機能が指定されています。 【処置】 読み取り条件を確認してください。
003-761	【原因】 自動トレイ選択で選択したトレイの用紙サイズと、自動トレイ切り替え機能によって選択されたトレイの用紙サイズが異なっています。 【処置】 同じサイズの用紙をトレイにセットするか、［用紙種類の優先順位］の設定を変更してください。
003-764	【原因】 ［フォーム合成］が指定されましたが、原稿が 1 枚しかありません。 【処置】 フォーム原稿用の原稿と、合成する原稿をセットしてください。
003-780	【原因】 読み込んだ原稿の圧縮処理に失敗しました。 【処置】 解像度や倍率を低くしてデータ量を少なくしたり、数回に分けて送信してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
003-795	【原因】 読み込んだ原稿を、指定された用紙サイズに拡大 / 縮小したときに、拡大 / 縮小の倍率が、設定可能な範囲を超えてしまいました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 倍率を直接入力する • 用紙サイズを変更する
005-275 005-280 005-281 005-282 005-283 005-284	【原因】 原稿送り装置にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
010-311 010-312 010-313 010-314 010-317 010-320 010-326 010-327 010-330	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
012-211 012-212 012-213 012-214 012-215 012-216 012-217 012-218 012-219 012-221 012-222 012-223 012-224 012-225 012-226 012-227 012-228 012-229 012-230 012-231 012-232 012-233 012-234 012-235 012-236 012-237 012-238 012-239 012-240 012-241 012-242 012-243 012-244	【原因】 フィニッシャーが故障しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
012-246	【原因】 フィニッシャーの中とじユニットが奥まで押し込まれていません。 【処置】 中とじユニットを奥まで確実に押し込んで、電源を切って、入れ直してください。
012-247 012-248 012-250 012-251 012-260 012-263 012-265 012-266 012-269 012-274 012-279	【原因】 フィニッシャーが故障しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
012-281 012-282 012-283 012-284 012-288 012-289	【原因】 フィニッシャーにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
012-290	【原因】 フィニッシャーのフロントカバーが開いています。 【処置】 フィニッシャーのフロントカバーを閉じてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
012-291 012-292 012-295 012-296	【原因】 フィニッシャーにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
012-297 012-298 012-299	【原因】 フィニッシャーが故障しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
012-319 012-320 012-321 012-322 012-323 012-324 012-325 012-326 012-330 012-332 012-334	【原因】 フィニッシャーにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-210 016-211 016-212 016-213 016-214 016-215 016-216 016-217 016-218 016-219	【原因】 ソフトウェアにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-220 016-221 016-222 016-223 016-224 016-225 016-226 016-227 016-228	【原因】 原稿読取装置にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-229 016-230	【原因】 ソフトウェアにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-232	【原因】 イメージ圧縮ボード初期化中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-233	【原因】 ソフトウェアにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-234 016-235 016-236 016-237 016-238 016-239	【原因】 本機の認証機能でエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-240	【原因】 原稿読取装置にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-241	【原因】 IP ファクス（SIP）キットが装着されていません。 【処置】 オプションの IP ファクス（SIP）キットが必要です。
016-242	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-310 016-311 016-312 016-313 016-314 016-315 016-316 016-317 016-318 016-319 016-320 016-321 016-322 016-323 016-325 016-326 016-327	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-330 016-331 016-332 016-335 016-336 016-337 016-338 016-339 016-340 016-341 016-342 016-345 016-347 016-348 016-350 016-351 016-360 016-362 016-363 016-364 016-365 016-366 016-367 016-368 016-369 016-370 016-371	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-372 016-373 016-374 016-375 016-376 016-377 016-378 016-379 016-380 016-381 016-382	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-400	【原因】 802.1x 認証のユーザー名あるいはパスワードが異なっています。 【処置】 ユーザー名あるいはパスワードを確認して正しく入力してください。それでも状態が改善されないときは、ネットワーク環境に問題がないかを確認してください。
016-401	【原因】 802.1x 認証方式が処理できません。 【処置】 本機の認証方式を、認証サーバーに設定されている認証方式と同じものに設定し直してください。
016-402	【原因】 認証接続がタイムアウトになりました。 【処置】 本機と物理的ネット接続されている「認証装置」のスイッチ設定やネット接続を確認し、正しく接続されているか確認してください。
016-403	【原因】 ルート証明書が一致しませんでした。 【処置】 認証サーバーを確認し、本機に認証サーバーのサーバー証明書のルート証明書を格納してください。 サーバー証明書のルート証明書が入手できない場合は、操作パネルで［IEEE 802.1x 設定］の［サーバー証明書の検証］を［しない］にしてください。
016-404	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を行ってください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-405	【原因】 本機に格納されている証明書にエラーがありました。 【処置】 証明書の初期化を実行してください。 参照 • 証明書の初期化については、「証明書の一括削除 / 初期化」(P.183) を参照してください。
016-406	【原因】 SSL クライアント証明書にエラーがありました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 1. 本機に SSL クライアント証明書を格納し、SSL クライント証明書として設定する。 2. SSL クライアント証明書の設定ができない場合には、 認証方式として「EAP-TLS」以外のものを選択する。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-407 016-408 016-409 016-410 016-411 016-412	【原因】 本機に登録したカスタマイズプログラムに問題があります。 【処置】 カスタマイズプログラムを修正し、再度インストールしてください。
016-427	【原因】 Ethernet2 の設定で、802.1x 認証のユーザー名あるいはパスワードが異なっています。 【処置】 Ethernet2 の設定で、ユーザー名あるいはパスワードを確認して正しく入力してください。それでも状態が改善されないときは、ネットワーク環境に問題がないかを確認してください。
016-428	【原因】 Ethernet2 の設定で、802.1x 認証方式が処理できません。 【処置】 Ethernet2 の設定で、本機の認証方式を、認証サーバーに設定されている認証方式と同じものに設定し直してください。
016-429	【原因】 Ethernet2 の設定で、802.1x 認証のユーザー名あるいはパスワードが異なっています。 【処置】 Ethernet2 の設定で、ユーザー名あるいはパスワードを確認して正しく入力してください。それでも状態が改善されないときは、ネットワーク環境に問題がないかを確認してください。
016-430	【原因】 Ethernet2 側の設定ルート証明書が一致しませんでした。 【処置】 認証サーバーを確認し、本機に認証サーバーのサーバー証明書のルート証明書を格納してください。 サーバー証明書のルート証明書が入手できない場合は、操作パネルで Ethernet2 側の［IEEE 802.1x 設定］の［サーバー証明書の検証］を［しない］にしてください。
016-431	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を行ってください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-432	【原因】 Ethernet2 側の SSL クライアント証明書にエラーがありました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 1. 本機に SSL クライアント証明書を格納し、SSL クライント証明書として設定する。 2. SSL クライアント証明書の設定ができない場合には、認証方式として「EAP-TLS」以外のものを選択する。
016-450	【原因】 SMB のホスト名が重複しています。 【処置】 ホスト名を変更してください。 参照 •「ホスト名」(P.226) を参照してください。
016-453	【原因】 DNS サーバーに対する、IPv6 アドレスとホスト名の更新に失敗しました。 【処置】 DNS サーバーアドレスが正しく設定されているか確認してください。
016-454	【原因】 DNS から、IP アドレスを取得できませんでした。 【処置】 DNS の設定と IP アドレスの取得方法の設定を確認してください。 参照 •「プロトコル設定」(P.220) を参照してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-455	【原因】 SNTP サーバーへの接続がタイムアウトになりました。 【処置】 ネットワークケーブルが正しく接続されているか、SNTP サーバーの IP アドレスが合っているかを確認してください。 参照 •「システム時計 / タイマー設定」(P.163) を参照してください。
016-456	【原因】 SNTP サーバーから、標準時同期源と同期していないというメッセージを受けました。 【処置】 SNTP サーバーの設定を確認してください。 参照 •「システム時計 / タイマー設定」(P.163) を参照してください。
016-461	【原因】 [イメージログ転送] の [転送保証レベル] が [高] に設定されている場合、未転送イメージログ停滞による新規ジョブ作成制限によって、新規ジョブが生成されません。 【処置】 イメージログを管理するサーバーの状態やネットワークの状態を確認し、イメージログサーバーへのイメージログ転送を阻害する要因を解消してください。 次のどれかの方法で処置してください。 • 転送設定の確認を行い、未転送ログをすべて転送する • イメージログの [作成保証レベル] を [低] に変更する この場合、イメージログは未転送のまま順次消去される場合があります。 イメージログキット (Adobe PostScript 3) を使用しているときは、本機の電源を切ってから入れ直したとき、または本機が自動的に再起動したときには、再度、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直してください。
016-500 016-501 016-502	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-503	【原因】 メール送信時に SMTP サーバーの名前が解決できませんでした。 【処置】 CentreWare Internet Services から SMTP サーバーの設定が正しいか確認してください。また、DNS サーバーの設定が正しいか確認してください。
016-504	【原因】 メール送信時に POP3 サーバーの名前が解決できませんでした。 【処置】 CentreWare Internet Services から POP3 サーバーの設定が正しいか確認してください。また、DNS サーバーの設定が正しいか確認してください。
016-505	【原因】 メール送信時に POP3 サーバーへのログインに失敗しました。 【処置】 CentreWare Internet Services から POP3 サーバーで使用するユーザー名とパスワードが正しく設定されているか確認してください。
016-506	【原因】 本機のイメージログ格納領域が不足しているため、イメージログの書き込みに失敗しました。 【処置】 もう一度、ジョブを実行してください。それでも同じエラーが発生する場合は、以下のどれかの方法で処置してください。 • 不要なイメージログを削除する • イメージログの [作成保証レベル] を [低] に変更する この場合、作成されたイメージログの内容は保障されません。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-507	【原因】 イメージログ管理機能を使用しているときに、サーバーへのイメージログの転送に失敗しました。 【処置】 サーバーから本機へのイメージログの転送ルールを設定するか、仕様設定の［イメージログ転送］の［自動転送］を［しない］に変更してください。
016-508	【原因】 イメージログ管理機能を使用しているときに、サーバーへのイメージログの転送に失敗しました。 【処置】 サーバーから本機へのイメージログの転送ルールを設定してください。
016-509	【原因】 イメージログ管理機能を使用しているときに、サーバーから本機へのイメージログの転送ルールが設定されていないため、イメージログの転送に失敗しました。 【処置】 サーバーから本機へのイメージログの転送ルールを設定するか、仕様設定の［イメージログ転送］の［自動転送］を［しない］に変更してください。
016-510	【原因】 イメージログ管理機能を使用しているときに、サーバーから本機へのイメージログの転送ルールが設定されていないため、イメージログの転送に失敗しました。 【処置】 サーバーから本機へのイメージログの転送ルールを設定してください。
016-511 016-512	【原因】 イメージログ管理機能を使用しているときに、サーバーから本機へのイメージログの転送ルールが正しく設定されていないため、イメージログの転送に失敗しました。 【処置】 サーバーから本機へのイメージログの転送ルールを確認してください。
016-513	【原因】 SMTP サーバーとの接続でエラーが発生しました。次の原因が考えられます。 **1.** SMTP サーバー、またはネットワークに負荷がかかっています。 **2.** SMTP 送信ポート番号が正しくありません。 【処置】 1. については、しばらく待ってから、もう一度操作してください。 2. については、SMTP 送信ポート番号が正しく設定されているか確認してください。
016-514	【原因】 XPS 文書の処理中にエラーが発生しました。 【処置】 XPS 対応ドライバーからの印刷でエラーが発生した場合には、アプリケーションから他のプリンタードライバー（ART EX、PCL など）を使用して印刷してください。 XPS 文書をダイレクトプリント（ContentsBridge Utility、E-Mail、メディアリーダーなど）した際にエラーが発生した場合には、XPS Document Viewer からプリンタードライバー（ART EX、PCL など）を使用して印刷してください。 **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
016-515	【原因】 XPS 文書の処理中にメモリーが不足しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • ［印刷モード］を［標準］にする • XPS Document Viewer からプリンタードライバー（ART EX、PCL など）を使用して印刷する **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-516	【原因】 XPS 文書内に含まれる PrintTicket に、不正な記述や、本機で対応していない印刷設定が含まれています。 【処置】 プリントジョブを送信したアプリケーションの使用方法、印刷指示内容に問題がないかをご確認ください。 問題がない場合は、弊社ではなくプリントジョブを送信しているアプリケーションを作成した会社に、アプリケーションの動作を確認してください。 それでも解決しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡してください。 **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
016-517	【原因】 PostScript ファイルに記述されている内容に誤りがあります。 【処置】 PostScript ドライバーでプリントしてください。または、PostScript ファイルに記述されている ProcessColorModel でカラーモードの切り替えをしないように変更してください。
016-518	【原因】 PostScript ドライバーで、小冊子と WaterMark を同時に指定しました。 【処置】 PostScript ドライバーで、小冊子と WaterMark/UUID の指定は混在できません。どちらか一方を解除してください。
016-519	【原因】 設定しておいた印字可能な面数に達したため、終了しました。 【処置】 機械管理者に相談して、印字可能な面数の制限値を変更してください。
016-520	【原因】 高圧縮ハードウェアにエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。または、出力ファイル形式やカラーモードを変更してみてください。 状態が改善されない場合、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度上記の操作を実施してみてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-521	【原因】 電子署名を付けてスキャンしている途中で、本機と IC カードリーダーの接続が外れました。 【処置】 本機の電源を切り、IC カードリーダーを接続し直したあと、もう一度電源を入れてください。
016-522	【原因】 LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。SSL クライアント証明書が取得できません。 【処置】 LDAP サーバーから SSL クライアント証明書が要求されています。本機に SSL クライアント証明書を設定してください。
016-523	【原因】 LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書データが不正です。 【処置】 本機が LDAP サーバーの SSL 証明書を信頼できません。LDAP サーバーの SSL 証明書のルート証明書を本機に登録してください。
016-524	【原因】 LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書が有効期限前です。 【処置】 LDAP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［LDAP - SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する LDAP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-525	【原因】 LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書が有効期限切れです。 【処置】 LDAP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［LDAP - SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する LDAP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
016-526	【原因】 LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー名と証明書が一致していません。 【処置】 本機に設定してある LDAP サーバーのアドレスと LDAP サーバーの SSL 証明書に記載されているアドレスが一致するようにしてください。本機の［SSL/TLS 設定］の［LDAP - SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する LDAP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
016-527	【原因】 LDAP サーバーの SSL 認証エラーです。SSL 認証内部エラーです。 【処置】 ソフトウェアにエラーが発生しました。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-528	【原因】 電子署名を付けてスキャンしている途中で、IC カードによる認証状態が解除されました。 【処置】 再度、IC カードで認証モードに入り、もう一度電子署名をつけたスキャンを実行してください。
016-529	【原因】 Remote Download サーバーに接続するときに、エラーが発生しました。規定時間（45 秒内）にサーバーから応答がありませんでした。 【処置】 ネットワーク接続を確認してください。Remote Download サーバーがネットワーク上に正しく設定されているかを確認してください。
016-533	【原因】 Kerberos サーバーの認証プロトコルエラーです。 【処置】 本機と Kerberos サーバーの時計の時間差が、Kerberos サーバー側のクロックスキューの制限値を超えています。本機の時計または Kerberos サーバーの時計が正しく設定されているかを確認してください。このとき、本機と Kerberos サーバーの時刻だけでなく、サマータイムの設定やタイムゾーンの設定も同じであることを確認してください。
016-534	【原因】 Kerberos サーバーの認証プロトコルエラーです。 【処置】 本機に設定してある認証先が Kerberos サーバーに存在しない、または設定してある Kerberos サーバーのアドレスでは接続できません。本機の Kerberos サーバーの設定にある、認証先名、およびサーバーのアドレスが正しいことを確認してください。Windows Server、Windows 2003 Server と接続する場合は、認証先名は大文字にしてください。
016-535	【原因】 Remote Download サーバー上に、指定されたファイルがありません。 【処置】 ファイルを確認してください。
016-536	【原因】 Remote Download サーバーに接続する前に、DNS アクセスしたことにより、エラーが発生しました。 【処置】 DNS との接続を確認してください。 または、Remote Download サーバー名が DNS に登録されているかを確認してください。
016-537	【原因】 Remote Download サーバーに接続できませんでした。接続先の Remote Download サーバーのポートが開いていません。 【処置】 ネットワーク設定のポートを確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-538	【原因】 Remote Download ファイルをハードディスクへ書き込む際に、エラーが発生しました。Remote Download サーバーから取得したファイルをハードディスクに書き込めません。 【処置】 ハードディスクの空き容量を確認し、不要ファイルを削除してください。または、ハードディスクを交換してください。
016-539	【原因】 Kerberos サーバーの認証プロトコルエラーです。 【処置】 ソフトウェアにエラーが発生しました。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-543	【原因】 指定された認証先やドメインが、ApeosWare Management Suite から削除されました。 【処置】 ［認証先］画面にある［最新情報に更新］を押して、認証先情報を更新するか、ApeosWare Management Suite にドメインを追加してください。
016-545	【原因】 ApeosWare Management Suite とアクティブディレクトリーの時間が、アクティブディレクトリーで設定された Kerberos サーバーのクロックスキューの上限からずれています。 【処置】 ApeosWare Management Suite をインストールしたコンピューターとアクティブディレクトリーのコンピューターの時間を合わせてください。ApeosWare Management Suite がインストールされたコンピューターの Windows のタイムサービスが停止している場合は、サービスを起動してください。
016-546	【原因】 一般ユーザーが自分以外のユーザー情報を取得しようとしました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-548	【原因】 本機が ApeosWare Management Suite に登録されていません。 【処置】 本機を ApeosWare Management Suite に登録してください。
016-553	【原因】 ApeosWare Management Suite が本機のインターフェイスのバージョンに対応していません。 【処置】 ApeosWare Management Suite のバージョンを上げる必要があります。本機が、上げたバージョンに対応している商品であることを確認してください。
016-554	【原因】 ApeosWare Management Suite のドメインのドメインユーザー照会用ログイン名、または照会用パスワードが不正です。 【処置】 ApeosWare Management Suite のドメインのドメインユーザー照会用ログイン名と照会用パスワードを正しく設定してください。
016-555	【原因】 ApeosWare Management Suite がデータベース、またはアクティブディレクトリーに接続できずにタイムアウトになりました。 【処置】 ApeosWare Management Suite からデータベース、またはアクティブディレクトリーに接続できることを確認してください。
016-556	【原因】 ApeosWare Management Suite が接続するデータベースに負荷がかかりすぎているため、タイムアウトエラーになりました。 【処置】 サービスに負荷がかかりすぎているので、時間をおいて、再度認証を実施してください。 それでも改善されないときは、ApeosWare Management Suite を確認してください。
016-557	【原因】 ApeosWare Management Suite の内部エラーです。 【処置】 ApeosWare Management Suite を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-558	【原因】 本機が ApeosWare Management Suite から不明なエラーを受信しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-559	【原因】 Remote Download パラメーターエラーが発生しました。 必要となるシステムデータに不正な値が設定されています。 【処置】 必要なシステムデータの設定を確認してください。
016-560	【原因】 本機と ApeosWare Management Suite 間で通信エラーが発生しました。 【処置】 ネットワークケーブルの抜けや、ApeosWare Management Suite の設定を確認してください。また、機能設定リストを出力して、「サーバー名 /IP アドレス」にサーバーの DNS アドレスが設定されている場合は、DNS が有効になっていることを確認してください。
016-562	【原因】 アクティブディレクトリーまたは ApeosWare Management Suite の一時ユーザー用データベースに、同じ IC カードの情報を持つエントリーが複数見つかりました。 【処置】 アクティブディレクトリーまたは ApeosWare Management Suite の一時ユーザーエントリーを、同じ IC カード情報を持たないように修正してください。
016-564	【原因】 Remote Download Server の認証に失敗しました。 【処置】 Remote Download Server アクセスしたときの、ユーザー名とパスワードを確認してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-569	【原因】 ApeosWare Management Suite のエラーです。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。
016-574	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、DNS アクセス時に、FTP サーバーのホスト名またはサーバー名の解決に失敗しました。 【処置】 DNS との接続を確認してください。または、転送先の FTP サーバー名が DNS に登録されているか確認してください。
016-575	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、DNS アクセス時に、DNS サーバーが設定されていませんでした。 【処置】 DNS サーバーアドレスを設定してください。または、転送先の FTP サーバーのアドレスを IP アドレスで設定してください。
016-576	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーに接続できませんでした。 【処置】 転送先の FTP サーバーと本機がネットワーク通信できる状態にあるかを確認してください。たとえば、次の内容を確認してください。 • サーバーの IP アドレスが正しいことを確認する • ネットワークケーブルの接続を確認する
016-577	【原因】 転送先サーバーの FTP サービスに接続できませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • サーバーの FTP サービスが起動していることを確認する • サーバーの FTP ポート番号と本機に設定された FTP ポート番号が一致していることを確認する

エラーコード	原 因 / 処 置
016-578	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーにログインできませんでした。 【処置】 ログイン名（ユーザー名）およびパスワードが正しいかを確認してください。
016-579	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、スキャン画像を保存場所に移動できませんでした。 【処置】 FTP サーバーのスキャン画像を保存する場所が正しいかを確認してください。
016-580	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバーのファイル名またはフォルダー名の取得に失敗しました。 【処置】 FTP サーバーのアクセス権を確認してください。
016-581	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、サーバーへ接続してサーバー内でファイル名 / フォルダー名を決定しているときに、ファイル名 / フォルダー名のサフィックスが制限値を超えました。 【処置】 サーバーのファイル名 / 転送先フォルダーを変更してください。または、転送先フォルダー内のファイルを移動するか削除してください。
016-582	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバー内でのファイル作成に失敗しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定した名前が、保存場所に作成可能なファイル名かを確認する • 保存場所に、空き領域があるかを確認する
016-583	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバー内でロックフォルダーの作成に失敗しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 既存の lock directory（*.LCK）が転送先に残っていた場合、手動で削除したあとに、もう一度同じ操作を実行してください。 • 指定した名前が保存場所に作成可能なフォルダー名かを確認してください。 • 指定した名前と同じ名前のフォルダーがすでに存在していないかを確認してください。 • 保存場所に空き領域があるかを確認してください。
016-584	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバー内でのフォルダー作成に失敗しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定した名前が、保存場所に作成可能なフォルダー名かを確認する • 指定した名前と同じ名前のフォルダーがあるかを確認する • 保存場所に、空き領域があるかを確認する
016-585	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバー内でのファイル削除に失敗しました。 【処置】 FTP サーバーのアクセス権を確認してください。
016-586	【原因】 スキャナー(PC 保存)の FTP 転送で、ロックフォルダーの削除に失敗しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • サーバーのアクセス権を確認してください。 • 既存の lock directory（*.LCK）が転送先に残っていた場合、手動で削除し、再度ジョブを実行してください。
016-587	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバー内でのフォルダー削除に失敗しました。 【処置】 FTP サーバーのアクセス権を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-588	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバ－への接続後、FTP サーバーへのデータ書き込みに失敗しました。 【処置】 保存場所に空き領域があるかを確認してください。
016-589	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、FTP サーバーからのデータ読み込みに失敗しました。 【処置】 FTP サーバーにアクセス権があるかを確認し、正しい権利を付けてください。
016-590	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ファイル名が重複しているため保存できませんでした。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理を、［ジョブを中止（保存しない）］以外に設定してください。
016-591	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ファイル名が重複している場合の追加処理ができませんでした。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理に、［ファイルを追加］を設定している場合、ファイルフォーマットがマルチページでないことを確認してください。
016-592	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、NEXTNAME.DAT ファイルのアクセスに失敗しました。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理に、［ファイルを追加］を設定している場合、NEXTNAME.DAT ファイルが正しいことを確認してください。
016-593	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、FTP サーバーへの接続後、内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-594 016-595	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-596	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-597	【原因】 スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 ほかの機器からのアクセスを停止して、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-598 016-599	【原因】 ページ分割で、1 ページ分のメールデータのサイズが最大メッセージサイズを超えました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • ［画質 / ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）］で、ファイルサイズを小さくする • ［分割送信時の分割数上限］を大きな値に変更する 参照 • 画質 / ファイルサイズについては、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「出力形式」>「画質 / ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）」を参照してください。 • 分割送信時の分割数上限については、「分割送信時の分割数上限」（P.286）を参照してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-700	【原因】 プリンタードライバーで設定した、セキュリティープリント、または認証プリントの暗証番号が、本機に設定してある［蓄積時の暗証番号最小桁数］よりも桁数が少なかったため、処理を中断しました。 【処置】 プリンタードライバーで設定する暗証番号を、本機に設定してある［蓄積時の暗証番号最小桁数］よりも大きな桁数に設定してください。
016-701	【原因】 メモリーが不足したため、ART EX のプリントデータを処理できませんでした。 【処置】 解像度を低くしたり、両面プリントや N アップをしないで、もう一度プリントを指示してください。 参照 • プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
016-702	【原因】 プリントページバッファが不足したため、プリントデータを処理できませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • ［印刷モード］を［標準］にする • ［ページ印刷モード］を利用する（ART EX のみ） • プリントページバッファを増やす 参照 • 印刷モード、ページ印刷モードについては、プリンタードライバーのヘルプを、メモリーについては、「メモリー設定」(P.248) を参照してください。
016-703	【原因】 無効な親展ボックス番号を指定したメールを受信しました。 【処置】 ファクス送信またはインターネットファクス送信時に発生する場合： 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。 メール受信、ファクス受信、またはインターネットファクス受信時に発生する場合： 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定された番号の親展ボックスを登録し、メール、ファクス、またはインターネットファクスを送信するように依頼する • 有効な親展ボックスにメールを送信するように依頼する それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-704	【原因】 親展ボックスに蓄積されている文書がいっぱいになったため、ハードディスクの容量が不足しています。 【処置】 親展ボックスから不要な文書を削除し、文書を保存してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「6 ボックス操作」>「親展ボックスの文書を確認 / 操作する」を参照してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-705	【原因】 次の原因が考えられます。 1. 本機に対して、スキャン文書の親展ボックス登録を指示したが、スキャナーキット（オプション）または E メールキット（オプション）が装着されていない 2. 本機用のプリンタードライバーを使用していない 3. ハードディスクが装着されていない状態で、セキュリティープリント、ボックス保存プリント、認証プリント、プライベートプリントのどれかのジョブを受信した 【処置】 1. の場合： 〈メニュー〉ボタンを押して、［スキャナー（ボックス保存）］が表示されるかを確認してください。表示される場合は、スキャンした文書を親展ボックスに蓄積できるかを確認してください。親展ボックスに蓄積できない場合は、スキャナーキット（オプション）または E メールキット（オプション）を装着してください。 2. の場合： 本機用のプリンタードライバーを使用してください。 3. の場合： 本機にハードディスクが装着されているか確認してください。 ハードディスクが装着されていない場合： • 機能を利用しない場合は、プリンタードライバーで、［ プリンター構成 ］タブ >［ オプションの設定 ］の［内蔵ハードディスク］を［なし］設定する • 機能を利用する場合は、ハードディスクを装着する ハードディスクが装着されている場合： • プリンタードライバーで、［プリンター構成］タブ >［オプションの設定］の［内蔵ハードディスク］を［あり］に設定する それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-706	【原因】 セキュリティープリントの最大ユーザー数を超えたため、ハードディスクの容量が不足しています。 【処置】 本機内に蓄積されている不要な文書やセキュリティープリントの登録ユーザーを削除してください。 参照 • セキュリティープリントのユーザー削除については、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」を、親展ボックスについては、『ユーザーズガイド』の「6 ボックス操作」>「親展ボックスの文書を確認 / 操作する」を参照してください。
016-707	【原因】 ハードディスクが故障しているため、サンプルプリントができませんでした。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。
016-708	【原因】 ハードディスクの領域が不足しているため、アノテーションができませんでした。 【処置】 ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
016-709	【原因】 ART EX 処理でエラーが発生しました。 【処置】 もう一度プリントを指示してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-710	【原因】 ハードディスクが故障しているため、時刻指定プリント文書が登録できませんでした。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。
016-711	【原因】 設定されているメールサイズの上限設定を超えています。 【処置】 次のどれかで対処したあと、再送信してください。 • 原稿の枚数を減らす • ［読み取り解像度］で解像度を下げる • ［読み取り倍率］で倍率を縮小する • 機械管理者に、［合計データサイズ上限］の設定値を上げてもらう
016-712	【原因】 指定した原稿範囲が小さすぎるため、本機で処理できない大きさ（サイズ）です。 【処置】 解像度を上げるか、読み取り領域を大きくしてください。
016-713	【原因】 親展ボックスに設定してあるパスワードと、入力したパスワードが一致しませんでした。 【処置】 正しいパスワードを入力してください。
016-714	【原因】 指定した親展ボックスが存在しませんでした。 【処置】 親展ボックスを作成するか、既存の親展ボックスを指定してください。
016-715	【原因】 ESCP フォーム用のパスワードが一致しないため、ESCP フォームにアクセスできませんでした。 【処置】 ESCP フォーム用の正しいパスワードを指定してください。
016-716	【原因】 ハードディスクの容量を超えたため、TIFF ファイルをスプールできませんでした。 【処置】 本機内に蓄積されている不要な文書や登録ユーザーを削除してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」>「保存文書をプリント / 削除する」を参照してください。
016-717	【原因】 「未送信レポート」または「モニターレポート」を作成しようとしましたが、レポートを作成するのに必要な「送信結果情報」が本機メモリーに保存されていないため、レポート作成できませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 文書蓄積容量が大きい（約 2GB）インターネットファクス文書は分割してジョブを実行し、メモリーやハードディスクドライブの使用量を制限する • スキャン文書やインターネットファクス文書が多数実行されている場合は、ほかのスキャンジョブやインターネットファクスジョブが終了してからジョブを実行する • レポートを出力するジョブの終了から、レポート出力操作までに、200 個以上のジョブを実施しないようにする
016-718	【原因】 メモリーが不足したため、PCL プリントデータを処理できませんでした。 【処置】 解像度を低くしたり、両面プリントや N アップをしないで、もう一度プリントを指示してください。
016-719	【原因】 プリントページバッファが不足したため、PCL のプリントデータを処理できませんでした。 【処置】 プリントページバッファを増やしてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-720	【原因】 PCL のプリントデータに処理できないコマンドが含まれています。 【処置】 プリントデータを確認して、もう一度プリントを指示してください。
016-721	【原因】 プリント処理中にエラーが発生しました。次の原因が考えられます。 1. 仕様設定の［共通設定］で、［用紙種類の優先順位］がすべての用紙で［自動トレイ選択しない］に設定されているときに、自動トレイ選択でプリントを指示している 2. ESC/P のコマンドエラー 【処置】 1. については、自動トレイ選択でプリントする場合は、［用紙種類の優先順位］で、用紙のどれかを［自動トレイ選択しない］以外に設定してください。 2. については、プリントデータを確認してください。 参照 •「用紙種類の優先順位」(P.176) を参照してください。
016-722	【原因】 本機で対応していないホチキスの指定や、フィニッシャーで対応していない用紙サイズの指定がされました。 【処置】 ホチキスの位置や用紙サイズを確認して、もう一度プリントを指示してください。
016-723	【原因】 本機で対応していないパンチの指定やフィニッシャーで対応していない用紙サイズの指定がされました。 【処置】 パンチの位置や用紙サイズを確認して、もう一度プリントを指示してください。
016-724	【原因】 ホチキスとパンチが両方指定されましたが、不可能な位置の組み合せになっています。 【処置】 ホチキスとパンチの位置が同じ側になるように指定し直して、もう一度プリントを指示してください。
016-725	【原因】 本機のジョブフロー機能を使用して、親展ボックスに保存されているスキャン文書をファクス送信するための処理中、親展ボックス文書からファクス用のデータに変換できないエラーが発生しました。 【処置】 ジョブフロー機能を使用しないでください。本機のファクス指示画面から、原稿を直接読み込んで、相手先にファクス送信してください。
016-726	【原因】 プリントモード指定が［自動］の場合に、プリント言語を自動的に選択できませんでした。 次の原因が考えられます。 1. Adobe PostScript 3 キット（オプション）が装着されていない状態で、PostScript データを送信した 2. エミュレーションキット（オプション）が装着されていない場合に、プリントモード指定を［自動］で、HP-GL/2、201H、PCL のデータを送信した 【処置】 1. については、Adobe PostScript 3 キットの装着が必要です。 2. については、エミュレーションキットの装着が必要です。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-727	【原因】 プリント指示した結果、0 ページの文書になったため、親展ボックスに保存できず、ジョブがキャンセルされました。 【処置】 プリント指示した結果、0 ページの文書になったため、親展ボックスに保存できませんでした。 プリントオプションで、白紙節約をしないに設定して再度プリントするか、印刷文書が白紙でないかを確認し、白紙であれば文字を入れてプリントしてください。
016-728	【原因】 TIFF ファイルにサポートしていない Tag が含まれていました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
016-729	【原因】 TIFF ファイルの色数 / 解像度が有効範囲の上限を超えているためプリントできませんでした。 【処置】 TIFF ファイルの色数 / 解像度を変更して、もう一度プリントデータを指示してください。
016-730	【原因】 ART IV でサポートされていないコマンドを検知しました。 【処置】 プリントデータを確認し、エラーを引き起こすコマンドを削除して、もう一度プリントを指示してください。
016-731	【原因】 TIFF データが途切れてプリントできませんでした。 【処置】 もう一度プリントを指示してください。
016-732	【原因】 エミュレーションで指定したフォームが、ホスト側に登録されていませんでした。 【処置】 フォームデータを再送してください。
016-733	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** メール送信時、宛先メールアドレスの@の右側の文字列から IP アドレスを取得できませんでした。 **2.** メール送信時、@の右側のインターネットアドレスを DNS で解決できませんでした。 【処置】 **1.** については、宛先メールアドレスが正しく入力されているか確認してください。 **2.** については、DNS サーバーアドレスを正しく設定してください。
016-735	【原因】 ジョブテンプレート更新中に、［ジョブテンプレートリスト］をプリントしようとしました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度プリントを指示してください。
016-738	【原因】 PostScript（オプション）で製本を指定したが、出力できない用紙サイズが設定されています。 【処置】 製本が可能な用紙サイズを指定して、もう一度プリントを指示してください。
016-739	【原因】 PostScript（オプション）で製本を指定したが、原稿サイズと用紙サイズの組み合わせが合っていません。 【処置】 製本が可能な原稿サイズと用紙サイズの組み合わせを指定して、もう一度プリントを指示してください。
016-740	【原因】 PostScript（オプション）で製本を指定したが、製本ができない用紙トレイが設定されています。 【処置】 製本が可能な用紙トレイを指定して、もう一度プリントを指示してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-741 016-742 016-743 016-744 016-745	【原因】 本体の更新処理にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-746	【原因】 受信した PDF には、サポートしていない機能が含まれています。 【処置】 プリンタードライバーを使用してプリントしてください。
016-747	【原因】 コピーの画像繰り返し機能とアノテーション機能を同時に使用しているときに、メモリー不足が発生しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • アノテーションのイメージのサイズを大きくする • 画像繰り返しの個数指定を少なくする
016-748	【原因】 ハードディスクの領域が不足しているため、プリントできません。 【処置】 プリントデータを分割する、複数部プリントしている場合は 1 部ずつプリントするなどで、プリントデータのページ数を少なくしてください。
016-749	【原因】 プリントジョブで発生する場合： **1.** プリンタードライバーから受信したプリント言語が、本機で印刷できないプリント言語でした。 インターネットファクス受信文書をプリントするときに発生する場合： **2.** 相手機からインターネットファクス送信されてきた文書が、本機で印刷できないプリント言語でした。 【処置】 **1.** については、本機用のプリンタードライバーを使用して印刷してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。 **2.** については、インターネットファクス送信側に本機で印刷可能なプリント言語で送信するように依頼してください。 **補足** • PostScript など印刷するプリント言語によっては、オプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
016-750	【原因】 「ContentsBridge Utility」など、ファイルを直接送信して印刷するアプリケーションを使用している場合、PDF、XPS、DocuWorks とともに送信されるプリントジョブチケットを本機が受信しましたが、プリントジョブチケットデータが本機で対応していない文法、または本機で対応していない印刷指示内容でした。 【処置】 「ContensBridge」など、プリントジョブを送信しているアプリケーションの使用方法、印刷指示内容に問題がないかをご確認ください。 問題がない場合は、弊社ではなくプリントジョブを送信しているアプリケーション作成会社にアプリケーションの動作を確認してください。 それでも解決しない場合は、機能設定リスト（共通項目）、ジョブ履歴レポート、および送信しているプリントジョブチケット付きのプリントデータを取得の上、弊社カストマーコンタクトセンターに連絡してください。 **補足** •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-751	【原因】 次の原因が考えられます。 1. PDF Bridge 処理中に構文エラー、未定義コマンドの使用、パラメーターエラー、PDF ファイルの破損が発生しました。 2. PDF ダイレクトプリント機能の設定項目で「プリント処理モード」を「PS」に設定しているときに、メモリー不足が発生しました。 3. PDF ダイレクトプリント機能の設定項目で「プリント処理モード」を「PS」に設定して、OpenType フォントが含まれている PDF を処理しました。 【処置】 1. については、プリンタードライバーを使用してプリントしてください。 2. については、次のどれかの方法で対処してください。 • プリンタードライバーを使用してプリントする • PostScript 使用メモリーを増やす 3. については、OpenType フォントを含まない PDF を作成してください。 参照 • メモリーについては、「メモリー設定」(P.248) を参照してください。
016-752	【原因】 メモリー容量が不足したため、PDF Bridge の処理ができませんでした。 【処置】 印刷モードが「高画質」になっている場合は「標準」に、「標準」の場合は「高速」に変更してください。
016-753	【原因】 パスワードで保護されている PDF ファイルを処理する場合で、パスワードが一致しませんでした。 【処置】 正しいパスワードを ContentsBridge で指定してください。
016-755	【原因】 印刷禁止指定された PDF ファイルを処理しようとしました。 【処置】 Adobe® Acrobat® を使用して、印刷禁止指定を解除して再プリントしてください。
016-756	【原因】 サービスの利用が許可されていません。 【処置】 機械管理者に確認してください。
016-757	【原因】 入力した暗証番号が間違っています。 【処置】 正しい暗証番号を入力してください。
016-758	【原因】 サービスを利用できる部門として登録されていません。 【処置】 集計管理者にご相談ください。
016-759	【原因】 サービスを利用できる上限ページ数に達しました。 【処置】 集計管理者にご相談ください。
016-760	【原因】 PostScript（オプション）の処理中にエラーが発生しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • ［印刷モード］を［高速］にする • PostScript 使用メモリーを増やす 参照 • 印刷モードについては、プリンタードライバーのヘルプを、メモリーについては、「メモリー設定」(P.248) を参照してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-761	【原因】 イメージ処理中にエラーが発生しました。 【処置】 本機用のプリンタードライバーで、［印刷モード］を［標準］にして、もう一度プリントを指示してください。それでもプリントできない場合は、ページ印刷モードでプリントしてください。
016-762	【原因】 実装されていないプリント言語が指定されました。 【処置】 ［ポート設定］の［USB］で［プリントモードの指定］に正しいプリント言語を指定してください。
016-763	【原因】 POP サーバーとの接続でエラーが発生しました。 【処置】 本機に設定した、POP サーバーの IP アドレスを確認してください。
016-764	【原因】 SMTP サーバーに接続できませんでした。 【処置】 SMTP サーバーの管理者にご相談ください。
016-765	【原因】 SMTP サーバーのハードディスクの空き容量がないため、メール送信ができませんでした。 【処置】 SMTP サーバーの管理者にご相談ください。
016-766	【原因】 SMTP サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 SMTP サーバーの管理者にご相談ください。
016-767	【原因】 メールアドレスが間違っているため、メール送信ができませんでした。 【処置】 メールアドレスを確認し、もう一度送信してください。
016-768	【原因】 本機のメールアドレスが正しくないため、SMTP サーバーに接続できませんでした。 【処置】 本体メールアドレスを確認してください。
016-769	【原因】 SMTP サーバーが配送確認（DSN）に対応していません。 【処置】 配送確認（DSN）の設定をしないで、メールを送信してください。
016-770	【原因】 ダイレクトファクスが禁止されています。 【処置】 システム管理者にダイレクトファクスが使用可能かどうかを確認してください。使用可能な場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-772	【原因】 DNS サーバーアドレスが設定されていません。 【処置】 DNS サーバーアドレスを設定してください。
016-774	【原因】 ハードディスクの容量が不足しているため、圧縮変換処理ができませんでした。 【処置】 ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
016-775	【原因】 ハードディスクの容量が不足しているため、画像変換処理ができませんでした。 【処置】 ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。

エラーコード	原因 / 処置
016-776	【原因】 画像変換処理中にエラーが発生しました。 【処置】 スキャナー（ボックス保存）またはインターネットファクス転送中に発生した場合： データの一部は画像変換処理が終了している場合があります。CentreWare Internet Services を使用して、親展ボックスからページ単位で取り出してみてください。 「CentreWare Internet Services を使って設定する」（P.359）を参照してください。 証明書による暗号化や署名を指示して発生した場合： 次のどちらかの方法で対処してください。 • 証明書が有効であるかどうかを確認する • 本機に設定されている日付や時間を正しくする ［出力ファイル形式］を［Microsoft® Word］または［Microsoft® Excel®］に設定している場合： • 文書に含まれる画像部分などのオブジェクトの数が上限を超えたため、実行できませんでした。［出力ファイル形式］で［1 ページずつ分割する］を設定するか、［画像部分の形式］で［図オブジェクト］を設定してください。
016-777	【原因】 イメージ処理中にハードディスクでエラーが発生しました。 【処置】 ハードディスクが故障している可能性があります。ハードディスクの交換については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-778	【原因】 ハードディスクの容量を超えたため、スキャン画像の変換処理が中断されました。 【処置】 ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
016-779	【原因】 スキャン画像の変換処理中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度スキャンを指示してください。 A3 などの比較的大きなサイズの原稿で、［読み取り方法］タブの［読み取り解像度］に 600dpi を指定して、スキャンがエラーにより中断される場合は、［読み取り解像度］を 400dpi 以下に設定してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-780	【原因】 スキャン画像の変換処理中に、ハードディスクにエラーが発生しました。 【処置】 ハードディスクが故障している可能性があります。ハードディスクの交換については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-781	【原因】 次の原因が考えられます。 1. メール送信時に、メールサーバーが見つかりませんでした（TCP/IP のセッション確立失敗）。 2. メール送信時に、メールサーバーから本機へ SMTP サーバーエラーを受信しました。 【処置】 1. 次のどれかの方法で処置してください。 • ネットワークケーブルを確認する • SMTPサーバーをIPアドレスで指定している場合は、IPアドレスが正しいか確認する 2.本機のホスト名を、ASCII 文字で指定してください。 使用できる文字 • アルファベット（a ～ z、A ～ Z） • 数字（0 ～ 9） ASCII 文字を使用しているかどうかは、本機の［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［本体メールアドレス / ホスト名］で確認してください。
016-786	【原因】 スキャン機能を使用したときに、ハードディスクにファイルの書き込みができませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機の電源を切って、操作パネルのディスプレイが消灯してから、入れ直す • 本機の用紙トレイの用紙がなくなっている場合は、用紙を補給する • メール送信で発生する場合は、次のどれかの方法で処置する • 解像度を低くして送信する • サイズを縮小して送信する • ページ数を減らして、ジョブを数回に分けて送信する • ［カラーモード］を［白黒（2 階調）］にして送信する
016-788	【原因】 Web ブラウザーからのファイルの取り出しに失敗しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してから、もう一度、取り出し操作をしてください。 • ブラウザーのページを再表示する • ブラウザーを再起動する • 本機の電源を切って、操作パネルのディスプレイが消灯してから、入れ直す
016-790	【原因】 メールの分割送信時に、分割数の上限を超えたため送信できませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • ［画質 / ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）］で、ファイルサイズを小さくする • ［分割送信時の分割数上限］を大きな値に変更する 参照 • 画質 / ファイルサイズについては、『ユーザーズガイド』の「5 スキャン」>「出力形式」>「画質 / ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）」を参照してください。 • 「分割送信時の分割数上限」については、「分割送信時の分割数上限」（P.286）を参照してください。
016-792	【原因】 「ジョブ別集計レポート」をプリントする場合に、指定したジョブの履歴が取得できませんでした。 【処置】 指定されたジョブの履歴は存在しません。

エラーコード	原 因 / 処 置
016-794	【原因】 メディアが正しく挿入されていません。 【処置】 メディアが正しく挿入されているか確認してください。
016-795 016-796 016-797	【原因】 メディア内のデータを読み取るときにエラーが発生しました。 【処置】 コンピューターで、メディアに記録されている内容を確認してください。
016-798	【原因】 ハードディスクが取り付けられていないため、指定されたプリントはできません。 【処置】 ハードディスクの装着が必要です。ハードディスクの装着については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
016-799	【原因】 アプリケーション側のプリントデータそのものに不正なパラメーターが含まれている、もしくはプリントデータと印刷設定に不整合が生じている可能性があります。 【処置】 アプリケーション側のプリントデータと印刷設定を確認し、もう一度プリントを指示してください。
017-700	【原因】 ThinPrint .print Engine との接続がタイムアウトになりました。 【処置】 ThinPrint .print Engine との接続を確認してください。
017-701	【原因】 ThinPrint .print Engine との接続でエラーが発生しました。 【処置】 ThinPrint .print Engine との接続を確認してください。
017-702	【原因】 ThinPrint .print Engine から送信されたデータが不正です。 【処置】 ThinPrint .print Engine のエラーの可能性があります。再度印刷処理を行うと成功する場合があります。
017-703	【原因】 ThinPrint .print Engine から送信された印刷データが本機で扱える最大サイズを超えました。 【処置】 ジョブを分割して、再度印刷処理をやり直してください。
017-704	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 電源を入れ直して、もう一度送信してください。
017-705 017-706 017-707 017-708	【原因】 ThinPrint .print Engine の SSL 認証エラーです。 【処置】 ThinPrint .print Engine に登録しているサーバー証明書の内容（有効期限、アドレスなど）を確認してください。
017-709	【原因】 ThinPrint .print Engine との SSL 通信エラーが発生しました。 【処置】 本機の設定を確認してください。
017-710	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 通信先の機器が IP ファクス（SIP）通信に対応しているか確認してください。
017-711	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 通信先のアドレスを確認してください。
017-712	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 通信先の機器に異常などがないか確認してください。
017-713	【原因】 SMTP サーバーが［STARTTLS 接続］に対応していません。 【処置】 SSL/TLS 通信の設定を［STARTTLS 接続］以外に変更してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
017-714	【原因】 SMTP サーバーとの SSL 接続に失敗しました。 【処置】 SMTP サーバーが SSL 接続に対応しているか確認ください。対応している場合、SMTP サーバーのポート番号を確認してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-715	【原因】 SMTP サーバーの SSL サーバー認証エラーです。サーバー証明書データが不正です。 【処置】 本機が SMTP サーバーの SSL 証明書を信頼できません。SMTP サーバーの SSL 証明書のルート証明書を本機に登録してください。
017-716	【原因】 SMTP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書が有効期限前です。 【処置】 SMTP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［SMTP - SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する SMTP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
017-717	【原因】 SMTP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー証明書が有効期限切れです。 【処置】 SMTP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［SMTP - SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する SMTP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
017-718	【原因】 SMTP サーバーの SSL 認証エラーです。サーバー名と証明書が一致していません。 【処置】 SMTP サーバーの SSL 証明書を有効なものに変更してください。本機の［SSL/TLS 設定］の［SMTP - SSL/TLS 通信］を［無効］に設定してもエラーを回避できますが、接続する SMTP サーバーの正当性が保証されなくなりますので注意してください。
017-719	【原因】 SMTP サーバーの SSL 認証エラーです。SSL 認証内部エラーです。 【処置】 もう一度、同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-723	【原因】 DocuWorks ダイレクトプリントに対応していない文字が使用されています。 【処置】 DocuWorks Viewer からプリンタードライバー（ART-EX など）を使用して印刷してください。
017-725	【原因】 強制アノテーションを印字する設定にしているときに、プリント指示でエラーが発生しました。 【処置】 強制アノテーションのテンプレート名が正しくありません。もう一度、本機に登録されている強制アノテーションのテンプレート名をご確認ください。
017-729	【原因】 プリントジョブ蓄積先の機器（親機）で、受け付けられるジョブの数が上限を超えているか、ジョブのスプール領域不足により、ジョブが一時的に送信できませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • プリントジョブ蓄積先の機器（親機）で、プリントデータのスプール先をハードディスクに設定してください。CentreWare Internet Services で、［プロパティ］>［一般設定］>［メモリー設定］>［IPP］で［ハードディスク］を選択します。 • しばらく待ってから、再度ジョブを送信してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
017-730	【原因】 プリントジョブ蓄積先の機器（親機）にジョブを送信するときに、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 次の確認を行ってください。 • ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認する。 • プリントジョブ蓄積先の機器（親機）の電源が入っていることを確認する。 • プリントジョブ蓄積先の機器（親機）の IPP ポートが起動していることを確認する。 それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-731	【原因】 POP サーバーとの接続に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • 本機に設定した、POP サーバーの IP アドレスが正しく設定されているか • ネットワークケーブルが接続されているか
017-732	【原因】 プリントジョブ蓄積先の機器（親機）がオフライン状態になっているため送信できませんでした。 【処置】 プリントジョブ蓄積先の機器（親機）で、〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押し、［機械確認］ > ［機械状態 レポート出力］ > ［プリンターモード］で、［オンライン］を選択してください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-733	【原因】 プリントジョブ蓄積先の機器（親機）にジョブを送信するときに、ソフトウェアの内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-734	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 AirPrint 以外のプリンタードライバーやソフトウェアを使用して、もう一度プリントを指示してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-735	【原因】 デバイスの利用が禁止されています。 【処置】 機械管理者に相談してください。
017-737	【原因】 メモリ不足が発生したため、データを送信できませんでした。 【処置】 機械管理者に相談し、不要なプラグインを停止または削除してください。状態が改善されない場合、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度上記の操作を実施してみてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-738	【原因】 内部エラーが発生したため、データを送信できませんでした。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-739	【原因】 プラグイン機能が無効のため、データを送信できませんでした。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
017-740	【原因】 対応するプラグインの実行に失敗したため、データを送信できませんでした。 【処置】 次の項目を確認してください。 • CentreWare Internet Services の［プロパティ］>［セキュリティー］>［プラグイン設定］>［プラグイン設定］で、［有効］にチェックが付いている • CentreWare Internet Services の［プロパティ］>［セキュリティー］>［プラグイン設定］>［組み込みプラグイン一覧］で、対応するプラグインの［状態］が［実行中］と表示されている
017-741	【原因】 ジョブフローが実行できないため、データを送信できませんでした。 【処置】 次のどちらかの方法で処置してください。 • 最新のプラグインをインストールする • ジョブフローの設定内容を確認してください。
017-742	【原因】 転送先との接続でエラーが発生しました。 【処置】 ネットワークケーブルの接続状態や、本機および転送先サーバーの設定が正しいか確認してください。
017-743	【原因】 転送先へのログインに失敗しました。 【処置】 転送先サーバーで使用するユーザー名とパスワードが正しく設定されているか確認してください。
017-744	【原因】 転送先との接続でエラーが発生しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • 本機で指定したパスを使用して、コンピューターからアクセスできるか • 転送先転送先サーバーの空き容量が不足していないか
017-745	【原因】 ハードディスクにエラーが発生したため、データを送信できませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 解像度を下げて送信する • サイズを縮小して送信する • ページ数を減らし、ジョブを数回に分けて送信する • ［カラーモード］を［白黒（2 階調）］にして送信する
017-746	【原因】 ハードディスクにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-747	【原因】 転送先との接続がタイムアウトになりました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-748	【原因】 転送プラグイン動作に必要な本機の設定が不足しているため、データの転送に失敗しました。 【処置】 本機のネットワーク設定を確認してください。
017-749	【原因】 プラグインで転送エラーが発生しました。 【処置】 ジョブフローの設定内容を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
017-750	【原因】 プラグインで転送エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、プラグインをインストールし直してください。
017-751	【原因】 プラグインで転送エラーが発生しました。 【処置】 未送信レポートでエラーの詳細を確認してください。
017-755	【原因】 ソフトウェアダウンロードに失敗しました。 【処置】 CentreWare Internet Services の［プロパティ］>［サービス設定］>［Machine Software］>［ネットワーク経由のソフトウェアダウンロード］で、［許可］にチェックが付いているかを確認してください。
017-756	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本体の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善しないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-759	【原因】 本機のファームウェアを更新中にエラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-760 017-766	【原因】 POP3 サーバーとの接続でエラーが発生しました。次の原因が考えられます。 **1.** TLS 通信で POP3 サーバーに接続している場合、ポート番号が異なっている可能性があります。 **2.** それ以外の場合、プログラムの内部エラーが発生した可能性があります。 【処置】 1. については、POP3 サーバーのポート番号を正しい値に設定してください。 2. については、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-761	【原因】 POP3 サーバーのサーバー証明書に不正があるため、SSL サーバー認証でエラーが発生しました。 【処置】 本機に正しい POP3 サーバーのサーバー証明書を登録してください。
017-762	【原因】 有効期間前のサーバー証明書で POP3 サーバーに接続しました。 【処置】 POP3 サーバーと本機の時計を正しい時刻に合わせてください。時計が正しい場合は、本機に有効期間内のサーバー証明書を登録してください。
017-763 017-769	【原因】 有効期限が切れたサーバー証明書で POP3 サーバーに接続しました。 【処置】 POP3 サーバーと本機の時計を正しい時刻に合わせてください。時計が正しい場合は、本機に有効期間内のサーバー証明書を登録してください。
017-764 017-770	【原因】 POP3 サーバーとサーバー証明書のサーバーアドレスが一致していません。 【処置】 正しいサーバーアドレスが記載されたサーバー証明書を本機に登録してください。
017-765	【原因】 POP3 サーバーとの接続でエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-767	【原因】 POP3 サーバーのサーバー証明書に不正があるため、SSL サーバー認証でエラーが発生しました。 【処置】 本機に POP3 サーバーの正しいサーバー証明書を登録してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
017-768	【原因】 有効期間前のサーバー証明書で POP3 サーバーに SSL 接続しました。 【処置】 POP3 サーバーと本機の時計を正しい時刻に合わせてください。時計が正しい場合は、本機に有効期間内のサーバー証明書を登録してください。
017-771	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-772	【原因】 スキャンした原稿がすべて白紙と検知されました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 原稿が白紙ではないか、裏と表が逆になっていないかどうかを確認する。 • ファクスの場合、[ファクス / インターネットファクス] > [ファクス / インターネットファクス] を選択して、送信濃度を濃くする。 • スキャナーの場合、[画質調整] > [読み込み濃度 / シャープネス] を選択して、原稿の読み込み濃度を濃くする。 • 白紙スキップが有効になっている場合は [仕様設定] > 「ファクス設定」 > 「ファクス動作制御」 > 「白紙スキップ」を選択して、白紙スキップを無効にする。 **補足** • 白紙スキップはカストマーエンジニアが設定します。改善しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店にお問い合わせください。
017-780	【原因】 プリントジョブの追い越しを [許可] に設定した場合、追い越されたプリントジョブが一定時間を経過して自動解除されました。 【処置】 特に処置は必要ありません。追い越されたプリントジョブの自動解除設定が有効になっている場合にこの機能が働きます。 運用上不都合がある場合は、設定を [禁止] にするか、自動解除までの時間を適切な値（1 分～ 120 時間）に設定し直してください。
017-782	【原因】 画像処理で内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を行ってください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-783	【原因】 画像処理でメモリー不足が発生しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 解像度を下げて送信する • [カラーモード] を [白黒（2 階調）] にして送信する
017-784 017-785 017-786	【原因】 画像処理で内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を行ってください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
017-787	【原因】 Google クラウドプリントのプリントデータ処理中にエラーが発生しました。 【処置】 Google クラウドプリント以外の方法でプリントしてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-400	【原因】 IPsec が有効になっているが、IPsec 設定に不整合があります。 • ［認証方式］に［事前共有鍵］が設定されているがパスワード設定されていない • ［認証方式］に［デジタル署名］が設定されているが IPsec 証明書が設定されていない 【処置】 IPsec 設定の不整合を解消して、再度 IPsec を有効にしてください。 • ［認証方式］に［事前共有鍵］が設定されている場合、パスワードを設定する • ［認証方式］に［デジタル署名］が設定されている場合、IPsec 証明書を設定する
018-401	【原因】 ［TCP/IP -IP 動作モード］と［SIP サーバーアドレス取得方法］または［SIP プロキシサーバー設定］、［SIP レジストラサーバー設定］に不整合があります。 【処置】 次のどれかの方法で処置をしてください。 • ［TCP/IP-IP 動作モード］が［IPv4 モード］で［IPv4-IP アドレス取得方法］が［手動で設定］の場合、［SIP サーバーアドレス取得方法］は［手動で設定］にしてください。 • ［TCP/IP-IP 動作モード］が［IPv4 モード］で［IPv4-IP アドレス取得方法］が［手動で設定］以外の場合、［SIP サーバーアドレス取得方法］は［手動で設定］または［DHCP から取得］にしてください。 • ［TCP/IP -IP 動作モード］が［IPv6 モード］の場合、［SIP サーバーアドレス取得方法］は［手動で設定］または［DHCPv6 から取得］にしてください。 • ［TCP/IP-IP 動作モード］が［手動で設定］の場合、［SIP プロキシサーバー設定］と［SIP レジストラサーバー設定］の［プライマリーサーバー - アドレス］や［セカンダリーサーバー - アドレス］は必ず設定してください。IPv4 は、IPv4 アドレスまたは FQDN 文字列で、IPv6 は、IPv6 アドレスまたは FQDN 文字列で設定してください。 • アドレスを FQDN 文字列で設定した場合、DNS で正しくアドレス解決ができるように、DNS の設定を行ってください。
018-402	【原因】 以下のいずれかの原因で、SIP レジストラーサーバーへの本機の情報登録に失敗しました。 • DHCP または DHCPv6 で SIP サーバーアドレス情報を取得できなかった。 • 手動設定した SIP レジストラーサーバーと通信できなかった。 • DHCP または DHCPv6 で取得した SIP レジストラーサーバーと通信できなかった。 • SIP レジストラーサーバーと通信できなかった。 【処置】 次のどれかの方法で処置をしてください。 • ［SIP サーバーアドレス取得方法］が DHCP または DHCPv6 の場合、本機と DHCP サーバーまたは DHCPv6 サーバーとの通信が正しく行える状態にあるかを確認してください。ケーブル抜けやスイッチ / ハブの異常などがないかを確認してください。 • ［SIP サーバーアドレス取得方法］が DHCP または DHCPv6 の場合、DHCP サーバーまたはDHCPv6サーバーが起動していることを確認してください。また、SIP サーバーアドレスを配布できる設定になっているかを確認してください。
018-403	【原因】 認証エラーで SIP レジストラーサーバーへの本機の情報登録が失敗しました。 【処置】 SIP レジストラーサーバーが認証を必要とする設定の場合、本機の SIP レジストラーサーバー設定で認証ユーザー名とパスワードを正しく設定してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-404	【原因】 認証エラー以外のその他のエラーでSIPレジストラーサーバーへの本機の情報登録が失敗しました。 【処置】 SIP レジストラーサーバーが本機からの情報登録を受け付ける設定になっているかを確認してください。
018-405	【原因】 LDAP 認証エラーで認証に失敗しました。 【処置】 認証先のアクティブディレクトリーでアカウントが無効に設定されています。または、サーバー側でアクセス禁止の設定になっています。サーバー管理者にお問い合わせください。
018-406	【原因】 Ethernet1　とセカンダリーイーサネットを独立したネットワークに接続した場合に、同一の IPv4 アドレスが設定されたことを検知しました。 【処置】 各イーサネットに別々の IP アドレスを設定し直してください。同一 IP アドレスを設定したい場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-407	【原因】 Ethernet1　とセカンダリーイーサネットを独立したネットワークに接続した場合に、同一の IPv6 アドレスが設定されたことを検知しました。 【処置】 各イーサネットに別々の IP アドレスを設定し直してください。同一 IP アドレスを設定したい場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-408	【原因】 Ethernet2 側のネットワークで、IPv4 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 Ethernet2 側の IPv4 アドレスを変更して IP アドレスの重複を解消してください。
018-409	【原因】 Ethernet2 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 重複しているネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-410	【原因】 Ethernet2 側のネットワークで、DNS サーバーに対する、IPv4 アドレスとホスト名の更新に失敗しました。 【処置】 DNS サーバーアドレスが正しく設定されているか確認してください。
018-411	【原因】 Ethernet2 側のネットワークで、DNS サーバーに対する、IPv6 アドレスとホスト名の更新に失敗しました。 【処置】 DNS サーバーアドレスが正しく設定されているか確認してください。
018-412	【原因】 Ethernet2 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 重複しているネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-413	【原因】 Ethernet2 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 重複しているネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-414	【原因】 Ethernet2 側で手動設定した IPv6 の IP アドレスが間違っています。 【処置】 正しい IPv6 アドレスを設定し直してください。
018-415	【原因】 Ethernet2 側で手動設定した IPv6 の IP アドレスが間違っています。 【処置】 本機 IPv6 の「手動設定アドレス」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-416	【原因】 Ethernet2 側のネットワークで、IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 重複しているネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
018-500	【原因】 認証サーバーに証明書がありません。 【処置】 サーバー証明書を設定してください。または、認証機能を解除してください。
018-501	【原因】 本機に設定された CA 認証サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 ネットワーク接続および CA 認証サーバーのアドレスを確認してください。
018-502	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、ログイン可能なコンピューターが制限されています。 【処置】 指定したユーザーのプロパティ情報を確認し、サーバーにログインできるコンピューターが制限されていないかを確認してください。
018-503 018-504	【原因】 本機に設定された CA 認証サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 もう一度、認証操作を行ってください。
018-505	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先サーバーへのログインに失敗しました。 【処置】 次の方法で処置してください。 • 本機に設定してある、SMB 転送先のユーザー名、またはパスワードが正しいか確認してください。 **注記** • パスワードの確認はできません。パスワードを忘れてしまった場合は、パスワードをリセットする必要があります。パスワードのリセット方法については、システム管理者にお尋ねください。 • 転送先が Macintosh の場合、Windows ユーザーとのファイル共有が有効になるように、共有フォルダーのアカウント設定の変更が必要です。設定については、システム管理者に確認してください。共有フォルダーの設定を変更する手順を、macOS 10.12 の場合を例に説明します。 **補足** • 転送で使用するために、専用のアカウントを作成することをお勧めします。アップルメニューから［システム環境設定］>［ユーザーとグループ］を選択して表示される画面で設定できます。 **1.** アップルメニューから［システム環境設定］>［共有］を選択します。 **2.** ［ファイル共有］のチェックボックスにチェックが付いていることを確認し、［オプション］をクリックします。 **3.** ［SMB を使用してファイルやフォルダを共有］を選択します。 **4.** ファイル共有に使用するユーザーアカウントの左のチェックボックスにチェックを付けて、そのユーザーのパスワードを入力し、［OK］をクリックします。 **5.** ［完了］をクリックします。 **補足** • macOS 10.12以外のMac OSでの設定方法については、システム管理者に確認するか、Apple Japan 社の公式ホームページをご参照ください。
018-506	【原因】 本機に設定された CA 認証サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 もう一度、認証操作を行ってください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-507	【原因】 入力されたユーザー名またはパスワードが正しくないため、認証に失敗しました。 【処置】 ユーザー名またはパスワードを確認して正しく入力してください。
018-508	【原因】 認証中にサーバーエラーが発生しました。 【処置】 認証サーバーの状態を確認してください。
018-510	【原因】 BMLinkS スキャンで、転送先のホスト名のインターネットアドレスを解決できませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある DNS サーバーのアドレスを確認する • DNS サーバーに、BMLinkS ストレージサービスのサーバー名またはホスト名が登録されているか確認する
018-511	【原因】 DNS サーバーのアドレスが設定されていません。 【処置】 本機に DNS サーバーのアドレスを設定してください。または、転送先の BMLinkS ストレージサービスのアドレスを IP アドレスで設定してください。
018-512	【原因】 BMLinkS サーバーに接続できませんでした。 【処置】 サーバーの検索を行い、最新のサーバーリストを取得してください。それで接続できない場合は BMLinkS サーバーが起動しているか確認してください。
018-513	【原因】 BMLinkS サーバーが見つかりません。 【処置】 サーバーの検索を行い、最新のサーバーリストを取得してください。それで接続できない場合は BMLinkS サーバーが起動しているか確認してください。
018-514	【原因】 BMLinkS サーバーにログインできませんでした。 【処置】 ユーザー名、またはパスワードが正しいか確認してください。
018-515	【原因】 何らかの理由で、本機が BMLinkS サービスから該当エラーコードを受信しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定したファイル名が保存場所に作成可能なファイル名かを確認する • 指定したファイル名が別のユーザーによって使用されていないかを確認する
018-516	【原因】 BMLinkS サーバーにデータが保存できませんでした。 【処置】 次の原因が考えられます。 • 保存するファイル名に、BMLinkS サーバーで使用できない文字が使われている • BMLinkS サーバーに、同じファイル名のファイルが存在する • 保存先のフォルダー名、またはファイル名が長い
018-517	【原因】 BMLinkS サーバーにデータが保存できませんでした。 【処置】 BMLinkS サーバーのディスク空き容量が不足しています。不要なファイルを削除して、空き容量を増やしてください。
018-518	【原因】 BMLinkS サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 しばらく待ってから、操作してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-519	【原因】 BMLinkS サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • サーバーの検索を行い、最新のサーバーリストを取得する • BMLinkS サーバーが利用可能な状態か確認する それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-520 018-521 018-522 018-523	【原因】 BMLinkS サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-543	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先に設定した共有名が存在しません。 **2.** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先に設定した共有名に、禁則文字が使用されています。 **3.** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先が Macintosh の場合、指定した共有名にアクセス権が設定されていません。 【処置】 **1.** 設定した共有名が、転送先の PC に存在するか確認してください。 **2.** 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある共有名に、以下の禁則文字が含まれていないか確認する " / : | < > ; , * ? \ [ ] + = • 本機に設定してある共有名の先頭または末尾にスペースが含まれていないか確認する • 本機に設定してある共有名が、ピリオドだけで指定されていないか確認する **3.** 転送先が Macintosh の場合、共有フォルダーのユーザーに対するアクセス権の設定変更が必要です。設定については、システム管理者に確認してください。共有フォルダーの設定を変更する手順を、macOS 10.12 の場合を例に説明します。 **補足** • 転送で使用するために、専用のアカウントを作成することをお勧めします。アップルメニューから［システム環境設定］>［ユーザーとグループ］を選択して表示される画面で設定できます。 **1.** アップルメニューから［システム環境設定］>［共有］を選択します。 **2.** ［ファイル共有］のチェックボックスにチェックが付いていることを確認します。 **3.** ［共有フォルダ］のリストで、対象となるフォルダーを選択します。 **4.** ［ユーザー］のリストで、対象となるユーザー名の右に表示されているアクセス権を［読み / 書き］に設定します。 **補足** • macOS 10.12以外のMac OSでの設定方法については、システム管理者に確認するか、Apple Japan 社の公式ホームページをご参照ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-547	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバーログイン時に、ユーザー数が制限を超えました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 共有フォルダーの接続ユーザー数の制限を確認する • サーバーの同時使用ユーザー数が最大数を超えていないかを確認する
018-556	【原因】 HTTP サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 スキャン文書送信先の HTTP サーバーに指定したドライブおよびディレクトリーにアクセスできるか確認してください。もう一度、同じ操作をし、それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-557	【原因】 スキャン文書の送信先に指定したファイル名に禁則文字が使用されています。 【処置】 禁則文字を含まないファイル名を指定してください。
018-558	【原因】 HTTP サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 スキャン文書送信先の HTTP サーバーに指定したディレクトリおよびファイル名が存在するか確認してください。
018-559	【原因】 HTTP サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 スキャン文書のファイル名が重複したときの処理が「上書き禁止」に設定されている場合は、「ジョブを中止（保存しない）」以外に設定してください。
018-560	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • ログインユーザー名 • ログインパスワード • スキャン文書送信先の HTTP サーバー名 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーパス名
018-561	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • スキャン文書送信先の HTTP サーバー名 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーパス名
018-562	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • HTTP サーバー設定
018-563	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • HTTP サーバー設定

エラーコード	原 因 / 処 置
018-564	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーが DNS に登録されているか • DNS サーバーと接続されているか • DNS サーバーのアドレスが正しく設定されているか
018-565	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • 本機に設定されているプロキシサーバー名が DNS に登録されているか • DNS サーバーと接続されているか • DNS サーバーのアドレスが正しく設定されているか
018-566	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか
018-567	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか確認してください。
018-568	【原因】 HTTP サーバーとの SSL/TLS 通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーの SSL 設定が有効か • スキャン文書送信先の HTTP サーバー名 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーパス名
018-569	【原因】 HTTP サーバーとの SSL/TLS 通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーの SSL 証明書が本機に登録されているか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーの SSL 証明書が正しいか スキャン文書送信先の HTTP サーバーに SSL 証明書が登録されていない場合は、本機の証明書検証を無効に設定してください。
018-570	【原因】 HTTP サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • スキャン文書送信先の HTTP サーバーにコンピューターからアクセスできるか • 本機に SSL クライアント証明書が正しく設定されているか • スキャン文書送信先の HTTP サーバーのデバイス証明書が正しいか
018-571	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-572	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 指定したコンテキスト名が正しいか確認してください。
018-573	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 指定した接続名が正しいか確認してください。
018-574	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 指定したボリューム名が正しいか確認してください。
018-575	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 指定したユーザー名およびパスワードが正しいか確認してください。
018-576	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 指定したパス名が正しいか確認してください。
018-577	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 指定したファイル名が正しいか確認してください。
018-578	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか • NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか • サーバー名およびツリー名 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-579	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか • データが格納されているサーバー容量 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-580	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか • ボリューム名 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-581	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか • ディレクトリーパス名 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-582	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか • ユーザー権限 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-583	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • NetWare サーバーのハードディスクの状態 • NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-584	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 NetWareサーバーにコンピューターからアクセスできるか確認してください。 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-585	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか • ほかのユーザーの利用状況（使用中、書き込みロック中など） また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-586	【原因】 NetWare サーバーとの通信に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • NetWare サーバーにコンピューターからアクセスできるか • ログインユーザ名 • ログインパスワード • ボリューム名 • サーバー名およびツリー名 • コンテキスト名 また、NetWare サーバーで DSREPAIR を実行し、データベースの修復を行ってください。
018-587	【原因】 ファイル名が重複しています。 スキャンファイル名が重複したときに、「上書き禁止」を設定しています。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理を、［ジョブを中止（保存しない）］以外に設定してください。
018-588	【原因】 サーバーへ接続したあとに、ファイリングポリシー不正（追加選択時）が検知されました。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理に、［ファイルを追加］を設定している場合、ファイルフォーマットがマルチページでないことを確認してください。
018-589	【原因】 NEXTNAME.DAT ファイルアクセスに失敗しました。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理に、［ファイルを追加］を設定している場合、NEXTNAME.DAT ファイルが正しいことを確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-590	【原因】 サーバー上で同名のファイルやフォルダーを検知しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 1. 複数の機械から同じサーバーの同じフォルダーにアクセスしていない状態で、もう一度同じ操作をしてください。 2. 再発する場合は、弊社カストマーコンタクトセンターに連絡してください。
018-591	【原因】 サーバーへ接続してサーバー内でファイル名 / フォルダー名を決定しているときに、ファイル名 / フォルダー名のサフィックスが制限値を超えました。 【処置】 スキャンサーバーのファイル名 / 転送先フォルダーを変更してください。または、転送先フォルダー内のファイルを移動するか削除してください。
018-592	【原因】 スキャンロックフォルダーの削除に失敗しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 1. 既存の lock directory（*.LCK）が転送先に残っていた場合、手動で削除したあとに、再度ジョブを実行してください。 2. 指定した名前と同じ名前のフォルダーがあることを確認してください。
018-593	【原因】 スキャンロックフォルダーの作成に失敗しました。 【処置】 既存の lock directory（*.LCK）が転送先に残っていた場合、手動で削除したあとに、もう一度同じ操作を実行してください。
018-595	【原因】 LDAP サーバーのデータベース上に、現在使用中の IC カードと同じ情報を持つエントリーが複数見つかりました。 【処置】 LDAP サーバーのデータベース上に、ユーザーのエントリーが同じ IC カード情報を持たないように修正してください。
018-596	【原因】 LDAP サーバーの認証でエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-700	【原因】 外部認証時にエラーが発生しました 【処置】 しばらくしてから、もう一度同じ操作を実施してください。
018-701	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「1」（操作エラー）が返されました。 【処置】 本機の［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］の［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］が正しく設定されているか確認してください。または、サーバー側に問題が発生しています。ネットワーク管理者に確認してください。
018-702	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「2」（プロトコルエラー）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの設定を見直して再度実行してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-703	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「3」（検索時間タイムアウト）が返されました。 【処置】 アドレス帳に対して、検索条件 / 検索開始位置の見直しなど、検索対象を絞って再度検索してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-704	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「4」（検索結果が多すぎて処理できない）が返されました。 【処置】 アドレス帳に対して、検索条件 / 検索開始位置の見直しなど、検索対象を絞って再度検索してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-705	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「5」（比較要求の結果は偽）が返されました。 【処置】 指定した内容と異なる結果が出ている可能性があります。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-706	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「6」（比較要求の結果は真）が返されました。 【処置】 指定した内容どおりの結果が出ています。問題は発生していません。
018-707	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「7」（指定された認証方式はサポートしていない）が返されました。 【処置】 指定された認証方式に対応していません。認証方式を変更してください。ネットワーク管理者に相談し、認証設定を見直してください。
018-708	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「8」（強力な認証が必要です）が返されました。 【処置】 認証設定に誤りがないか確認してください。ネットワーク管理者に相談し、現在よりも認証設定を強化して再度実行してください。
018-709	【原因】 外部アクセス中に、エラーが発生しました。 【処置】 環境に応じて、次のどれかの方法で処置してください。 IPv4 環境の場合 • 本機の IPv4 アドレスを確認する • ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認する • DHCP サーバーのアドレスを確認する IPv6 環境の場合 • 本機のIPv6アドレスにIPv6ルーターから配布されるグローバルアドレスが割り当てられているか確認する • ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認する • IPv6 ルーターが正しく設定されているか確認する

エラーコード	原因 / 処置
018-710	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「10」（referral（照会、参照）です）が返されました。 【処置】 指定された検索範囲に何も登録がありません。ネットワーク管理者に相談し、認証設定の状態を確認してください。
018-711	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「11」（アドミン制限を超えた）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、サーバーの稼動状態を確認してください。
018-712	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「12」（拡張機能が使用できない）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、サーバーの稼動状態を確認してください。
018-713	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「13」（機密性が必要）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、サーバーの稼動状態を確認してください。
018-714	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「14」（SASL バインド処理中）が返されました。 【処置】 しばらく待ってからもう一度操作してください。それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-715	【原因】 Kerberos サーバーの認証プロトコルエラーです。Kerberos サーバーに、本機で使用できる認証方式と一致するものがない、または本機に、Kerberos サーバーで使用できる認証方式と一致するものがありません。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • Kerberos サーバーの認証方式を設定しなおしてください。 • 本機の FIPS 認証モードを解除してください。 それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-716	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「16」（要求された属性は存在しない）が返されました。 【処置】 Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-717	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「17」（指定された属性は未定義）が返されました。 【処置】 Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-718	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「18」（不適合な組み合わせ）が返されました。 【処置】 Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-719	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「19」（制約違反）が返されました。 【処置】 Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-720	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「20」（指定された属性は、すでに存在する）が返されました。 【処置】 Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-721	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「21」（指定された属性値のシンタックスが間違っている）が返されました。 【処置】 Attribute（属性）の問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-722	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 ネットワークケーブルが正しく接続されているか、使用環境の設定が正しいかを確認してください。
018-723	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、証明書にエラーがありました。 【処置】 正しいルート CA 証明書が機械に登録されているか、証明書検証の設定が正しいかを確認してください。
018-724	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、SSL 通信エラーが発生しました。 【処置】 SSL の設定が正しいかを確認してください。
018-725	【原因】 Kerberos サーバーに設定されたユーザーのパスワードの使用期限が切れています。 【処置】 パスワードの使用期限を延長してください。
018-726	【原因】 IC カード内の上位の CA 証明書が本機に登録されていません。 【処置】 IC カード内の上位の CA 証明書を本機に登録してください。
018-727	【原因】 Kerberos サーバーに認証されませんでした。 【処置】 IC カード内の証明書を確認し、無効または失効している場合は、証明書を更新してください。また、サーバー側で使用禁止となっていないか確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-728	【原因】 Kerbeors サーバーに認証されませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • KDC証明書のルートCA証明書が登録されていない場合は、ルートCA証明書を登録してください。 • KDC 証明書が失効している場合は、サーバーの KDC 側の証明書を更新してください。 • 本機に設定したKerberosサーバーのアドレスと、KerbeorsサーバーのKDC証明書に記載されたアドレスが一致していることを確認してください。
018-729	【原因】 Google クラウドプリントとの接続がタイムアウトになりました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、ネットワークケーブルが正しく接続されているか、使用環境の設定が正しいかを確認してください。
018-730	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 ネットワークケーブルが正しく接続されているか、使用環境の設定が正しいかを確認してください。それでも状態が改善されないときは、内部エラーが発生している可能性があります。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-731	【原因】 ハードディスクの容量が不足しているため、ジョブを中止しました。 【処置】 ハードディスクの空き容量を確認し、不要ファイルを削除してください。処理中のジョブはすべて実行してから、もう一度操作してください。
018-732	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「32」（該当するオブジェクトがない）が返されました。 【処置】 該当するメールアドレスはありません。 入力したメールアドレスを見直して修正するか、LDAP サーバーに登録してあるメールアドレスを確認してください。
018-733	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「33」（エイリアスが間違っている）が返されました。 【処置】 Name（ネーム）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-734	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「34」（DN の形式が間違っている）が返されました。 【処置】 Name（ネーム）に関する問題が発生しています。ユーザー名とパスワードを再確認して、不正な検索パスワード名を解除してください。改善されないときは、ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの認証設定や状態を確認してください。
018-735	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「35」（オブジェクトが終端である）が返されました。 【処置】 Name（ネーム）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-736	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「36」（エイリアスの参照ができなかった）が返されました。 【処置】 Name（ネーム）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-737	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-738	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 ネットワークケーブルが正しく接続されているか、使用環境の設定が正しいかを確認してください。
018-739	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-740	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、証明書にエラーがありました。 【処置】 正しいルート CA 証明書が機械に登録されているか、証明書検証の設定が正しいかを確認してください。
018-741	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
018-743	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、プロキシ接続のエラーが発生しました。 【処置】 プロキシサーバーの設定が正しいかを確認してください。
018-744	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、DNS による名前の解決に失敗しました。 【処置】 DNS の設定が正しいかを確認してください。
018-745	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、プロキシ接続のエラーが発生しました。 【処置】 プロキシサーバーの設定が正しいかを確認してください。
018-746	【原因】 Google クラウドプリントとの通信で、DNS による名前の解決に失敗しました。 【処置】 DNS の設定が正しいかを確認してください。
018-747	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先の SMB サーバーが見つかりませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • ネットワークケーブルの接続を確認する。 • 転送先アドレスをIPアドレス指定している場合、IPアドレスが正しいか確認する。 • サブネットを越える通信の場合、DNSサーバーまたはWINSサーバーの設定を確認し、サーバー名のアドレス解決が正しくできるかを確認する。 • 転送先のサーバー、および複合機とサーバーの間に存在するルーターや転送先のサーバー上のウイルススキャンソフト、ファイアウォールソフトなどでファイル共有サービス（137 番ポート（UDP）、138 番ポート（UDP）による通信）がブロックされていないか確認する。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-748	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「48」（認証拒否）が返されました。 【処置】 セキュリティーに関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの認証設定を確認してください。
018-749	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「49」（指定された認証証明書は無効）が返されました。 認証に使うユーザー名とパスワードが不正なまま、アドレス検索が実施されました。 【処置】 セキュリティーに関する問題が発生しています。認証に使うユーザー名とパスワードを再確認して不正な検索ログイン名を解除してください。改善されないときは、ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの認証設定を確認してください。
018-750	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「50」（ユーザーアクセス権がない）が返されました。 【処置】 セキュリティーに関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーのアクセス権を確認してください。
018-751	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「51」（ビジー）が返されました。 【処置】 サービスに関する問題が発生しています。しばらく待ってからもう一度操作してください。それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-752	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「52」（処理不可能）が返されました。 【処置】 サービスに関する問題が発生しています。しばらく待ってからもう一度操作してください。それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-753	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「53」（実行拒否）が返されました。 【処置】 サービスに関する問題が発生しています。しばらく待ってからもう一度操作してください。それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-754	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「54」（ループ検出）が返されました。 【処置】 サービスに関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーのサービス稼動状態を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-755	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先に指定している SMB サーバーから、本機への応答がありません。 【処置】 転送先のサーバー、および複合機とサーバーの間に存在するルーターや転送先のサーバー上のウイルススキャンソフト、ファイアウォールソフトなどで 139 番ポート（TCP）、445 番ポート（TCP）による通信がブロックされていないか確認してください。
018-756	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 認証時に、規定時間内にサーバーから応答を受信できませんでした。 【処置】 転送先のサーバーが ActiveDirectory のドメインに所属している場合、転送先のサーバーとドメインコントローラー間の通信に遅延が発生していないか次の方法で確認してください。 • PC クライアントから転送先のサーバーにアクセスして時間がかかっていないか確認する。 時間がかかっている場合はシステム管理者に相談してください。
018-757	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先に指定している SMB サーバー名の名前解決に失敗しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある転送先サーバー名を FQDN 文字列（例：mypc01.fuji0.co.jp）で入力している場合、本機のネットワーク設定で、DNS サーバーアドレスが正しく設定されていることを確認ください。 • DNS サーバーとの接続に問題がない場合、本機に設定してある転送先サーバー名が、DNS サーバーに登録されていることを確認してください。
018-758	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定されたスキャン画像の保存場所またはファイル名に問題があるか、または、指定された保存場所がサーバー上に存在しません。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 保存場所が正しいか確認する。 • 指定したファイル名が SMB サーバー上に作成可能なファイル名かを確認する。
018-759	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定されたスキャン画像の保存場所またはファイル名に禁則文字が使用されています。 【処置】 本機に設定してあるスキャン画像の保存場所またはファイル名について以下の事項を確認してください。 • 保存場所の名称に、以下の禁則文字が含まれていないか確認する。 / : | < > ; , * ？ の 10 文字 • ファイル名に、以下の禁則文字が含まれていないか確認する。 / : | < > ; , * ? \ の 11 文字 • 文字列の先頭または末尾にスペースが含まれているか確認する。 • 文字列の先頭または末尾にピリオドが指定されているか確認する。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-760	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定された保存場所は、分散ファイルシステム（DFS）設定のため、別の共有フォルダーにリンクされています。 【処置】 システム管理者に分散ファイルシステム（DFS）の設定を確認してください。確認方法は次のとおりです。 1. SMB サーバー上で、［スタート］メニュー>［すべてのプログラム］>［管理ツール］>［分散ファイルシステム］を選択する。 2.［分散ファイルシステム］ウインドウの左枠から指定した保存場所を選択し、ウインドウの右枠に表示される［ターゲット］情報を確認する。 3. 確認した情報に基づいて、SMB サーバー、共有名および保存場所を直接指定する。
018-761	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、保存先 PC 上でメモリー不足が発生しました。 【処置】 保存先 PC 上でメモリー不足が発生するような使用状況が発生していないか確認ください。空きメモリーが少ない場合、使用していないアプリケーションを終了させてください。
018-762	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、保存先 PC からの応答に時間がかかりタイムアウトが発生しました。 【処置】 保存先の PC でウイルススキャンソフトが動作しているか確認ください。ウイルススキャンソフトによっては PC からの応答に時間がかかる場合があります。ウイルススキャンソフトが動作している場合、転送ファイルサイズが小さくなるように、原稿枚数を少なくしてください。
018-763	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時、本機内で文字コード変換処理に失敗しました。 【処置】 サーバー名、共有名、パス名などに㈱、丸付き数字①、ローマ数字Ⅳなどの機種依存文字が含まれていないか確認してください。機種依存文字が含まれている場合は、それが含まれない名前に変更してください。
018-764	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「64」（ネーミング違反）が返されました。 【処置】 Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-765	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「65」（オブジェクトクラス指定誤り）が返されました。 【処置】 Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-766	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「66」（終端以外のエントリーでは実行できない）が返されました。 【処置】 Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-767	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「67」（RDN での実行不可が返されました。 【処置】 Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-768	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「68」（指定されたエントリーは、すでに存在する）が返されました。 【処置】 Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-769	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「69」（オブジェクトクラスの変更不可）が返されました。 【処置】 Update（更新）に関する問題が発生しています。ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-770	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「70」（検索結果が大きすぎる）が返されました。 【処置】 アドレス帳に対して、検索条件 / 検索開始位置の見直しなど、検索対象を絞って再度検索してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-771	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「71」（複数の DSA に影響がある）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-772	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、設定した共有名が転送先サーバー上に存在しません。 【処置】 本機に設定した共有名が、転送先の PC に存在するか確認してください。 転送先の PC に共有名が存在しなかった場合は、新たな共有名を作成するか、既存の共有名を設定してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-773	【原因】 次の原因が考えられます。 1. スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、転送先に設定した共有名に、禁則文字が使用されています。 2. スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先が Macintosh の場合、指定した共有名にアクセス権が設定されていません。 【処置】 1. については、次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある共有名に、以下の禁則文字が含まれていないか確認する。 / : | < > ; , * ? \ [ ] + = • 本機に設定してある共有名の先頭または末尾にスペースが含まれていないか確認する • 本機に設定してある共有名が、ピリオドだけで指定されていないか確認する 2. については、共有フォルダーのユーザーに対するアクセス権の設定変更が必要です。設定については、システム管理者に確認してください。 共有フォルダーの設定を変更する手順を、macOS 10.12 の場合を例に説明します。 **補足** • 転送で使用するために、専用のアカウントを作成することをお勧めします。アップルメニューから［システム環境設定］>［ユーザーとグループ］を選択して表示される画面で設定できます。 1） アップルメニューから［システム環境設定］>［共有］を選択します。 2）［ファイル共有］のチェックボックスにチェックが付いていることを確認します。 3）［共有フォルダ］のリストで、対象となるフォルダーを選択します。 4）［ユーザー］のリストで、対象となるユーザー名の右に表示されているアクセス権を［読み / 書き］に設定します。 **補足** • macOS 10.12 以外の Mac OS での設定方法については、システム管理者に確認するか、Apple Japan 社の公式ホームページをご参照ください。
018-780	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「80」（未知のエラー発生）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-781	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーと接続できません。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか確認する • ネットワークケーブルが接続されている場合は、要求先のサーバーの起動状態確認する • ［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］の［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］で、サーバー名称が正しいか確認する
018-782	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「82」（プログラムエラー、または SASL 認証に関するエラー）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-783	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「83」（送信メッセージエンコードエラー）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-784	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「84」（受信メッセージデコードエラー）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-785	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「85」（検索時間タイムアウト）が返されました。 【処置】 アドレス帳に対して、検索条件 / 検索開始位置の見直しなど、検索対象を絞って再度検索してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-786	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「86」（未知の認証方式が指定された）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-787	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「87」（検索フィルターの記述に誤り）が返されました。 【処置】 アドレス帳に対して、検索条件を確認してください。 それでも改善されないときはネットワーク管理者に相談してください。
018-788	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「88」（指示がキャンセルされた）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-789	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「89」（不正なパラメーターが渡された）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-790	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「90」（メモリー不足）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-791	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「91」（サーバーと接続不可）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
018-792	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「92」（機能未サポート）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-793	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「93」（結果が返されない）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-794	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「94」（結果がもうない）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-795	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「95」（結果が未だある）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-796	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「96」（クライアントのループを検出）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
018-797	【原因】 アドレス帳の操作で LDAP サーバーのプロトコルエラーです。 アドレス帳の問い合わせに対し、サーバーから RFC2251 規定の resultMessageNo「97」（参照の最大ホップ数を超えた）が返されました。 【処置】 ネットワーク管理者に相談し、LDAP サーバーの状態を確認してください。
021-210 021-211 021-212	【原因】 USB IC カードリーダーにエラーが発生しました。 【処置】 USB IC カードリーダーの接続を確認して、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、USB IC カードリーダーが故障している可能性があります。壊れていない USB IC カードリーダーを取り付けて、もう一度電源を入れなおしてください。
021-213	【原因】 インターネットを使用する EP システムの単価テーブルの設定に問題があります。 【処置】 機械管理者が CentreWare Internet Services を使用し、単価テーブルを読み出して、修正してください。1 ～ 9,999,999 の範囲で任意の値を設定して、書き込みを行ってください。
021-214	【原因】 USB メモリーまたはメモリーカードリーダーとの暗号通信中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-215	【原因】 接続された課金集計機器と本機で設定した課金集計機器が異なります。 【処置】 本機の設定を修正するか、本機の設定にあった機器を取り付けて、電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直してください。
021-360 021-361	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-401	【原因】 設定した数より多いUSB IC カードリーダーなどの認証機器が差し込まれました。 【処置】 差し込んだ認証機器を抜いてください。
021-402	【原因】 プロキシサーバー名のアドレスに問題があります。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-403	【原因】 EP 運用センター、または EP 通信集約サーバーソフトウェアのアドレス解決に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-404	【原因】 サーバーの電源が切れていた等の理由により、サーバーまたはプロキシサーバーに接続できませんでした。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定（BB-Direct 構成の場合） 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。 また EP 通信集約サーバー構成で、EP 通信集約サーバーの FQDN が変更されていた場合も、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-405	【原因】 外部サーバーとの SSL 通信でエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-406	【原因】 外部サーバーの SSL 証明書が正しくありません。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-407	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でプロキシサーバーの認証に失敗しました。（HTTP ステータスコード 407 を受信 ） 【処置】 次の項目を確認してください。 • EP プロキシサーバーの認証ユーザを確認する。 • EP プロキシサーバーの認証パスワードを確認する。 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-408	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信で通信タイムアウトが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定（BB-Direct 構成の場合） 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。 また EP 通信集約サーバー構成で、EP 通信集約サーバーの FQDN が変更されていた場合も、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-409 **021-542** **021-543** **021-545**	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-410 **021-411**	**【原因】** インターネットを使用するEP システムとの通信で認証局(CA)との通信時(EP 証明書取得時) に通信エラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定（BB-Direct 構成の場合） 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-412	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。EP プロキシサーバー名のアドレスに問題があります。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー URL 設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバー障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-413	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバー障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-414	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。EP クライアント証明書発行局または EP プロキシサーバーから応答を受信できませんでした。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-415	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの SSL/TLS 通信でエラーが発生しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバー障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-416	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 • EP プロキシサーバー設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-417	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信で EP プロキシサーバーの認証に失敗しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • EP プロキシサーバー URL 設定 • EP プロキシサーバーの認証ユーザ • EP プロキシサーバーの認証パスワード 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-418	【原因】 プロキシ設定ファイルの書式にエラーがありました。 【処置】 HTTP　サーバーに登録されているプロキシ設定ファイルの書式に不正がある可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 プロキシ設定ファイルが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-419	【原因】 EP システムとの通信に使用する、プロキシ設定ファイルの書式にエラーがありました。 【処置】 HTTP　サーバーに登録されているプロキシ設定ファイルの書式に不正がある可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 プロキシ設定ファイルが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-420	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシ設定ファイル取得通信時に通信タイムアウトが発生しました。このためプロキシ設定ファイルを取得できませんでした。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続を確認する • デフォルトゲートウェイ設定を確認する • サブネットマスク設定を確認する • CentreWare Internet ServicesのEPプロキシサーバー設定画面を確認する • プロキシ設定ファイルが登録されている HTTP プロキシーサーバーの稼働状況を確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-421	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシ設定ファイルの取得通信時にエラーが発生しました。このためプロキシ設定ファイルを取得できませんでした。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続を確認する • DNS サーバーアドレス設定を確認する • デフォルトゲートウェイ設定を確認する • CentreWare Internet ServicesのEPプロキシサーバー設定画面を確認する • プロキシ設定ファイルが登録されている HTTP プロキシーサーバーの稼働状況を確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-422 021-423	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシ設定ファイルが見つかりませんでした。 【処置】 CentreWare Internet Services の EP プロキシサーバー設定画面を確認してください。設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、HTTP サーバーにプロキシ設定ファイルが登録されていない可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 プロキシ設定ファイルが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-424	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシサーバと通信するための、プロキシ設定ファイルの URL 情報が間違っています。 【処置】 CentreWare Internet Services の EP プロキシサーバー設定画面を確認してください。設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク管理者に確認し、プロキシ設定ファイルの URL が正しいか確認する。または下記の通り、DHCP サーバーか DNS サーバーのプロキシ設定ファイルの URL 情報を確認します。 • DHCP オプションが 252 になっているか確認する。 • "wpad.（ドメイン名）" ホストの SRV レコードが正しいか確認する。 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-425	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信で、プロキシ設定ファイルの URL 情報（CURL）を取得する通信時に DHCP サーバー、もしくは DNS サーバーと通信タイムアウトしました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続を確認する • DNS サーバーアドレス設定を確認する • デフォルトゲートウェイ設定を確認する • EP プロキシサーバー設定（CURL）を確認する • プロキシ設定ファイルの URL 情報を登録した DHCP または DNS サーバーの稼働状況を確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-426	【原因】 インターネットを使用するEP システムとの通信でプロキシ設定ファイルURL 情報（CURL）を取得するための通信時に DHCP サーバー、もしくは DNS サーバー上に URL 情報（CURL）が見つかりませんでした。 【処置】 次の項目を確認してください。 • EP プロキシサーバー設定を確認する • DHCPサーバ､もしくはDNSサーバーにプロキシ設定ファイルのURL 情報が正しく登録されているかを確認する 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-427	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、接続がタイムアウトになりました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-428	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、電波状態が圏外になりました。 【処置】 アンテナが倒れている場合は、垂直に立て直してください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-429	【原因】 4Gnet-BOX に挿入した SIM カードにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-430	【原因】 4Gnet-BOX との時刻同期に失敗しました。 【処置】 本機の時計を正しい時刻に合わせてください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-431	【原因】 4Gnet-BOX との USB 接続に失敗しました。 【処置】 4Gnet-BOX の USB ケーブルが抜けていないか確認し、抜けている場合は正しく挿し直してください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-432	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機にエラーが発生し、通信が開始できませんでした。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-433	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-434	【原因】 4Gnet-BOX にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-435	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、4Gnet-BOX のリセットと本機の再起動が必要なエラーを検出したため、通信が開始できませんでした。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-436	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-437	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、DNS サーバーの通信エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-438	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、EP サーバーの名前解決に失敗しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-439	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、EP クライアント証明書発行局の名前解決に失敗しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-440	**【原因】** 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機が通信不可状態であることを検出しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-500	**【原因】** ファクス送信の課金機能が有効になってる場合に、次の操作が行われました。 • ファクス送信ジョブの動作中に、ほかの課金対象ジョブを起動 • ほかの課金対象ジョブを動作中に、ファクス送信ジョブを起動 **【処置】** 処理中のジョブが終わってから、次のジョブを起動してください。
021-501	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信に失敗しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-502	**【原因】** 処理中のジョブが終わってから、次のジョブを起動してください。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-503	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。EP プロキシサーバー名のアドレスに問題があります。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-504	**【原因】** インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 **【処置】** 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-505	**【原因】** EP サーバーとの SSL/TLS 通信に失敗しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-506	【原因】 EP サーバーのサーバーの SSL 証明書が正しくありません。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-507	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • EP プロキシサーバーの認証ユーザー • EP プロキシサーバーの認証パスワード 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-508	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 上記の設定を確認したあとも状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくはプロキシサーバーの設定変更や障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-509	【原因】 EP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-510	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 EP システムの契約期間を確認してください。EP システムの契約期間中にこのエラーコードが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-511 021-512 021-513 021-514	【原因】 EP サーバーで、本機がすでに設定されています。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-515 021-516	【原因】 EP サーバーでの本機の設定が正しくありません。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-517 021-518 021-519	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-520 021-521 021-522	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 次の項目を確認してください。 • LAN ケーブルの接続 • DNS サーバーアドレス設定 • デフォルトゲートウェイ設定 • サブネットマスク設定 BB-Direct 構成の場合は、次の確認をしてください。 • EP プロキシサーバー設定 これらの設定を確認しても状態が改善しない場合は、ネットワーク障害もしくは DNS サーバー障害の可能性があります。ネットワーク管理者に相談してください。 ネットワークが正常で、状態が改善しない場合は、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-523	【原因】 EP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 SOAP ポートを起動して、電源を切って、入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-524 021-525 021-526 021-527 021-528	【原因】 EP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-529	【原因】 インターネットを使用する EP システムにソフトウェアバージョンアップの問い合わせをした結果、すでに最新バージョンのソフトウェアになっています。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-530 021-531	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-532 021-533 021-534 021-535	【原因】 インターネットを使用する EP システムにソフトウェアバージョンアップの問い合わせをした結果、ソフトウェアバージョンアップができません。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-536	【原因】 ソフトウェアに最新の設定が反映されていません。 【処置】 本機を再起動してソフトウェアを最新の状態にしてから、もう一度同じ操作を実施してください。
021-538	【原因】 操作パネルからソフトウェアバージョンアップを指示しましたが、すでに予約されていたバージョンアップの処理中だったため、実行できませんでした。 【処置】 機械管理者に相談してください。予約者が機械管理者でない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-539	【原因】 ソフトウェアバージョンアップの予約日時に本機を使用中だったため、バージョンアップを実行できませんでした。 【処置】 機械管理者に相談してください。予約者が機械管理者でない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-540	【原因】 ソフトウェア更新ファイルのダウンロード中に複合機の電源が切られたため、ソフトウェアの更新処理に失敗しました。 【処置】 必要に応じ、再度操作してください。
021-541	【原因】 複合機の動作設定不正のため、ソフトウェアの更新機能を実行できませんでした。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-565	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、接続がタイムアウトになりました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-566	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、電波状態が圏外になりました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-567	【原因】 4Gnet-BOX に挿入した SIM カードにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-568	【原因】 4Gnet-BOX との時刻同期に失敗しました。 【処置】 本機の時計を正しい時刻に合わせてください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-569	【原因】 4Gnet-BOX との USB 接続に失敗しました。 【処置】 4Gnet-BOX の USB ケーブルが抜けていないか確認し、抜けている場合は正しく挿し直してください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-570	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機にエラーが発生し、通信が開始できませんでした。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-571	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-572	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、通信ライブラリーにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-573	【原因】 4Gnet-BOX にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-574	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、4Gnet-BOX のリセットと本機の再起動が必要なエラーを検出したため、通信が開始できませんでした。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-575	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-576	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、DNS サーバーの通信エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-577	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、EP サーバーの名前解決に失敗しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-578	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、EP クライアント証明書発行局の名前解決に失敗しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-579	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-580	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、本機が通信不可状態であることを検出しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-581	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、Remote Download サーバーへの名前解決に失敗しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
021-700	**【原因】** USB ケーブルが外れているか、USB インターフェイスが壊れている可能性があります。 **【処置】** USB ケーブルが接続されているか確認して、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-701	**【原因】** USB インターフェイスにエラーが発生しました。 **【処置】** しばらく待ってから、もう一度操作するか、USB ケーブルが接続されているか確認して、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
021-732	**【原因】** カード抜け、料金不足（電子マネーを含む）または、度数不足になっています。あるいは認証されていません。 **【処置】** カードを挿入または料金（電子マネー）を入れて、料金 / 度数の不足がないようにしてください。または認証（例えば IC カードかパネルにより）してください。 **補足** • エラーコードが表示されたときは、本機内に残っているプリントデータや、本機のメモリー上に蓄えられた情報は保証されません。
021-750 **021-751** **021-770** **021-771** **021-772**	**【原因】** 点検依頼または修理依頼の実行中に、通信回線にエラーが発生したため、弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡ができませんでした。 **【処置】** 電話回線が接続されていることを確認し、しばらく待ってから、もう一度、点検依頼または修理依頼をしてください。 もう一度、エラーコードが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターに、電話でお問い合わせください。

エラーコード	原 因 / 処 置
023-500 024-340 024-341 024-342 024-343 024-345 024-346 024-347 024-348 024-349 024-350 024-351 024-352 024-353 024-354 024-355 024-356 024-357 024-358 024-359 024-360 024-361 024-362 024-363 024-364 024-365 024-366 024-367 024-368 024-370 024-371 024-372 024-373 024-375 024-376	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
024-700	【原因】 オプション機能を利用するために必要なメモリー容量、またはハードディスクが装着されていません。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターに、電話でお問い合わせください。
024-701	【原因】 指定した用紙と組み合わせができない排出面設定になっています。 【処置】 組み合わせ可能な用紙と排出面設定を指定してください。
024-702	【原因】 ［プリンター設定］で［紙づまり発生時のプリント処理］を［プリントを中止する］に設定しているときに、紙づまりが発生しました。 【処置】 詰まった用紙を取り除いて、もう一度プリント指示をしてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
024-703	【原因】 製本可能な枚数の上限を超えているためプリントできませんでした。 【処置】 坪量の少ない用紙に変更してください。または、製本の作成を解除してください。
024-705	【原因】 指定された強制アノテーションのテンプレートが本機内にありません。 【処置】 親展ボックスから文書を削除し、プリンタードライバーから［ボックス保存］を指定して、再度蓄積してください。
024-742	【原因】 プリントオプションで製本を指定したジョブのプリント枚数が、製本を作成可能な枚数を超えました。 【処置】 プリントオプションで、製本を作成可能な枚数ごとに分冊するか、製本の作成を解除してください。
024-746	【原因】 指定した紙質と組み合わせできない機能（用紙サイズ、用紙トレイ、排出トレイ、両面プリントのどれか）が指定されました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
024-747	【原因】 プリンターパラメーターの組み合わせが不正です。原稿サイズ、用紙サイズ、給紙トレイ、両面印刷、排出トレイなどで、組み合わせできない機能が指定されています。 【処置】 プリントデータを確認して、もう一度プリントを指示してください。
024-748	【原因】 アノテーションで設定した［ページ桁数］と、［開始番号］で設定したページの桁数が合っていません。 【処置】 ［ページ桁数］に、［開始番号］で指定したページの桁数を設定するか、［自動］を選択してください。
024-775	【原因】 プリントオプションで製本を指定したジョブのプリント枚数が、製本を作成可能な枚数を超えました。 【処置】 プリントオプションで、製本を作成可能な枚数ごとに分冊するか、製本の作成を解除してください。
025-596 025-597	【原因】 ハードディスクにエラーが発生しました。 【処置】 ハードディスクを交換してください。
026-400	【原因】 USB ホストポートに 3 つ以上の機器が接続されています。 【処置】 接続機器が最大 2 つになるように、取り外してください。それでも状態が改善されないときは、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
026-700	【原因】 アドレス帳の操作で、本機が対応してないプロトコルを LDAP サーバーから受信しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
026-701	【原因】 本機のアドレス帳への問い合わせ数が、本機の処理能力を超えました。 【処置】 しばらく待ってから、アドレス帳の操作をしてください。 アドレス帳の操作が 1 件だけの場合は、本機のソフトウェアに不具合があります。 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
026-702	【原因】 アドレス帳の操作で、LDAP サーバーから本機への通信数が、本機の処理能力を超えました。 【処置】 しばらく待ってから、アドレス帳の操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
026-703	【原因】 ファクスまたはスキャン中、原稿を追加して継続したときに認証が解除されていました。 【処置】 原稿追加時に認証をしてください。
026-704	【原因】 DocuWorks 文書の処理中にエラーが発生しました。 【処置】 DocuWorks Viewer からプリンタードライバー（ART EX、PCL など）を使用して印刷してください。
026-705	【原因】 メモリー容量が不足したため、DocuWorks 文書の処理ができません。 【処置】 印刷モードが「高画質」になっている場合には、「標準」に、「標準」の場合には「高速」に変更してください。
026-706	【原因】 印刷禁止指定された DocuWorks 文書を処理しようとしました。 【処置】 DocuWorks Viewer を使用して印刷禁止指定を解除して、再プリントしてください。
026-707	【原因】 パスワードで保護されている DocuWorks 文書を処理する場合で、パスワードが一致しませんでした。 【処置】 正しいパスワードを ContentsBridge で指定してください。
026-708	【原因】 スキャナー（URL 送信）で、1 つのジョブで蓄積できるスキャンデータサイズの上限を超えました。 【処置】 次のいずれかを実行してください。 **1.** スキャンパラメーターの解像度（スキャン画質）を落として再度実行する。 **2.** スキャンパラメーターの倍率で画像を縮小して再度実行する。(A3 → A4 など) **3.** ［URL 送信の最大蓄積サイズ］を小さい値にしている場合、大きな値に変更する。
026-709	【原因】 スキャナー（URL 送信）で、スキャンデータ蓄積で利用できるハードディスクの容量が不足しています。 【処置】 時間（1 日程度）をおいて、文書の自動削除により空き容量ができたあと、再度実行してください。
026-710	【原因】 本機が対応していない暗号方式で暗号化された S/MIME メールを受信しました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • メール送信者に暗号方式（3DES）で暗号化したメールの送信を依頼してください。 • 本機の FIPS140 認証モードを解除してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
026-711	【原因】 スキャンで、マルチページファイルの上限サイズを超えました。 【処置】 次のいずれかを実行してください。 1. スキャンパラメーターの解像度（スキャン画質）を落として再度実行する。 2. 原稿枚数を減らして再度実行する。 上限サイズは、TIFF、XPS、PDF は 2GB、XDW は 1GB です。 補足 •「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
026-712	【原因】 CentreWare Internet Services からの操作中にエラーが発生しました。 【処置】 しばらくしてから、もう一度操作してください。
026-718	【原因】 プリントの指示で、原稿サイズ、用紙サイズ、給紙トレイ、両面印刷、排出トレイなどで、組み合わせできない機能が指定されています。 【処置】 プリントデータを確認して、もう一度プリントを指示してください。
026-719	【原因】 スキャナー（USB メモリー保存）の操作中にエラーが発生しました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
026-720	【原因】 スキャナー（USB メモリー保存）で、スキャンデータの転送先の USB メモリーの容量が不足しています。 【処置】 USB メモリーの空き容量を確認してください。
026-721	【原因】 スキャナー（USB メモリー保存）の操作中にエラーが発生しました。 【処置】 次のことを確認してください。 • USB メモリー差込口に USB メモリーが正しく挿入されているか • コンピューターから USB メモリーにアクセスできるか • 暗号化されていない USB メモリーを使用しているか
026-722	【原因】 USB メモリーがフォーマットされていません。 【処置】 コンピューターを使用して、USB メモリーを次の形式でフォーマットしてから、もう一度同じ操作を実施してください。 • 対応フォーマット：FAT12、FAT16（FAT)、FAT32 補足 • NTFS フォーマットには対応していません。 • ソフトウェアによって暗号化された USB メモリーには対応していません。 それでも状況が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
026-723	【原因】 スキャナー（USB メモリー保存）の操作中にエラーが発生しました。 【処置】 次のことを確認してください。 • 操作中に、USB メモリーを抜いたり、別の USB メモリーに挿し替えたりしていないか • USB メモリー内のファイルが、コンピューターで開けるか
026-724 026-725	【原因】 インターネットを使用する EP システムとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
026-726	【原因】 プリントジョブの指定時に機器構成情報が、実際の機器構成と一致していません。 【処置】 プリンタードライバー画面で機器構成情報と、実際の機器構成を合わせてください。
026-727	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** 保存先のパス名に、使用できない文字（①など）が使われています。 **2.** 保存先のパス名（拡張子を含む）が利用できる文字数を超えています。 【処置】 次のいずれかを実行してください。 1. については、保存先のパス名を変更してください。 2. については、保存先のパス名を 1 ～ 255 バイト以内で設定してください。
026-728	【原因】 WSD の通信中にエラーが発生しました。 【処置】 ネットワークケーブルの接続状態や転送先機器のメモリーの空き容量などを確認してください。 **補足** •「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
026-729	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** WSD の通信中にエラーが発生しました。 **2.** スキャナー（WSD）で、原稿送り装置にセットした原稿を［Windows FAX とスキャン］以外のアプリケーションを使用してスキャンしようとしました。 【処置】 1 については、ネットワークケーブルの接続状態や転送先機器のメモリーの空き容量などを確認してください。 2 については、［Windows FAX とスキャン］を使用してスキャンしてください。［Windows FAX とスキャン］以外のアプリケーションを使用するときは、原稿を原稿ガラスにセットしてスキャンしてください。 **補足** •「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
026-730	【原因】 指定した用紙トレイにセットされている用紙のサイズが不明です。 【処置】 指定した用紙トレイの用紙ガイドの位置を確認し、再度ジョブを実行してください。
026-735	【原因】 認証成功時に、一時停止中のプリントジョブがあったため、印刷待ちのすべてのジョブが中止されました。 【処置】 操作は必要ありません。
026-736	【原因】 HTTP サーバーへのスキャン文書送信中に、内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
026-737	【原因】 HTTP サーバーへのスキャン文書送信時に、ネットワークエラーが発生しました。 【処置】 ネットワーク環境やサーバー環境に問題がないか、ネットワーク管理者に確認してください。
026-738	【原因】 HTTP サーバーへのスキャン文書送信中に、Web アプリケーションを閉じたため、送信が完了しませんでした。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
026-739	【原因】 認証成功時に、一時停止中のスキャンジョブやファクスジョブがあったため、処理中のそれらのジョブが中止されました。 【処置】 操作は必要ありません。
027-442	【原因】 IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 本機 IPv6「ステートレス自動設定アドレス 1」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
027-443	【原因】 IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 本機 IPv6「ステートレス自動設定アドレス 2」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
027-444	【原因】 IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 本機 IPv6「ステートレス自動設定アドレス 3」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
027-445	【原因】 手動設定した IPv6 の IP アドレスが間違っています。 【処置】 正しい IPv6 アドレスを設定し直してください。
027-446	【原因】 手動設定した IPv6 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 本機 IPv6 の「手動設定アドレス」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
027-447	【原因】 IPv6 アドレスが重複しています。 【処置】 本機の IPv6「リンクローカルアドレス」、またはネットワーク上機器の IPv6 アドレスを変更して、IP アドレスの重複を解消してください。
027-452	【原因】 IPv4 の IP アドレスが重複しています。 【処置】 本機の IPv4 アドレス、またはネットワーク上の機器の IPv4 アドレスを変更してください。
027-500	【原因】 SMTP サーバーに接続できませんでした。 【処置】 SMTP サーバー名を正しく指定するか、IP アドレスで指定してください。
027-501	【原因】 POP サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-502	【原因】 POP3 プロトコル利用時に、POP3 サーバーへのログインに失敗しました。 【処置】 CentreWare Internet Services から POP3 サーバーで使用するユーザー名とパスワードが正しく設定されているか確認してください。
027-503	【原因】 POP サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-504	【原因】 SMTP サーバーでエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-513	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバーへのアクセス権がありません。 【処置】 指定した保存場所で、ファイルやフォルダーの読み取りおよび書き込みができるように設定してください。 設定方法については、システム管理者に確認するか、お使いの OS により、マイクロソフト社またはアップルジャパン社の公式ホームページをご参照ください。
027-514	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバーと DNS サーバー間でエラーが発生しました。 【処置】 次のことを確認してください。 • DNS サーバーと接続されているか • DNS サーバーに SMB サーバー名が登録されているか
027-515	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、エラーが発生しました。 【処置】 次の設定をしてください。 • DNS サーバーアドレスを設定する • 転送先の SMB サーバーのアドレスを IP アドレスで設定する
027-516	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先の SMB サーバーが見つかりませんでした（TCP/IP のセッション確立に失敗）。 **2.** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に、転送先に指定している SMB サーバーから、本機への応答がありません。 **3.** スキャナー（PC 保存）の SMB 転送先に指定している SMB サーバー名の名前解決に失敗しました。 【処置】 **1.** 次のどれかの方法で処置してください。 • ネットワークケーブルの接続を確認する • サブネットを越える通信の場合、WINS サーバーの設定を確認し、サーバー名のアドレス解決が正しくできるかを確認する • 転送先の SMB サーバーのファイアウォール設定において、ファイル共有サービス（137 番ポート（UDP）、138 番ポート（UDP）、139 番ポート（TCP）による通信）が許可されていること **2.** 転送先に指定している SMB サーバーで、ファイル共有サービスが有効になっているか、確認してください。 • Microsoft ネットワーク用のファイル共有サービスが有効になっていること 改善されない場合は、次の設定を確認してください。 • TCP/IP 設定において NetBIOS over TCP/IP が有効になっていること **3.** 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機に設定してある転送先サーバー名を FQDN 文字列（例：mypc01.fuji0.co.jp）で入力している場合、本機のネットワーク設定で、DNS サーバーアドレスが正しく設定されていることを確認する • DNS サーバーとの接続に問題がない場合、本機に設定してある転送先サーバー名が、DNS サーバーに登録されていることを確認する

エラーコード	原 因 / 処 置
027-518	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定したパスワードが間違っています。 転送先が Macintosh の場合、指定したユーザーが Windows 共有を使用できるユーザーとして登録されていません。 【処置】 共有フォルダーに設定したパスワードを確認してください。 転送先が Macintosh の場合、Windows 共有を利用できるユーザーを、ユーザー名に指定してください。
027-519	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、指定されたスキャン画像の保存場所またはファイル名に問題があります。 次の原因が考えられます。 • 画像の保存場所かファイル名に、問題がある • 指定された保存場所がサーバー上に存在しない • 指定された保存場所かファイル名に、禁則文字が使用されていた • 指定された保存場所は、分散ファイルシステム（DFS）設定のため、別の共有フォルダーにリンクされている 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 保存場所が正しいか確認する • 指定したファイル名が SMB サーバー上に作成可能なファイル名かを確認する • システム管理者に分散ファイルシステム（DFS）の設定を確認する 確認方法は次のとおりです。 1. SMB サーバー上で、［スタート］メニュー>［すべてのプログラム］>［管理ツール］>［分散ファイルシステム］を選択する。 2. ［分散ファイルシステム］ウインドウの左枠から指定した保存場所を選択し、ウインドウの右枠に表示される［ターゲット］情報を確認する。 3. 確認した情報に基づいて、SMB サーバー、共有名および保存場所を直接指定する。
027-520	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上でのファイル名またはフォルダー名の取得に失敗しました。 【処置】 SMB サーバーのアクセス権を確認してください。
027-521	【原因】 SMB スキャンで指定可能なファイル名またはフォルダー名のサフィックスが制限値を超えました。 【処置】 SMB スキャンサーバーのファイル名または転送先フォルダーを変更してください。または、転送先フォルダー内のファイルを移動または削除してください。
027-522	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、次の理由により、SMB サーバー上でのスキャン画像ファイルの作成に失敗しました。 • 指定されたファイル名は、サーバー上にすでに存在している • 指定されたファイル名は、使用されている • 指定されたファイル名は、ディレクトリーとしてすでに存在している • 指定されたファイル名に、禁則文字が使用されている 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 指定したファイル名が、保存場所に作成可能なファイル名かを確認する • 指定したファイル名が、別のユーザーによって使用されていないかを確認する • 指定したファイル名と同じ名前のファイル、またはフォルダーがあるかを確認する

エラーコード	原 因 / 処 置
027-523	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上でのロックフォルダー作成に失敗しました。指定したフォルダーは、すでに存在します。 【処置】 指定した名前と同じ名前のファイルまたはロックフォルダーが SMB サーバー上にあるかを確認してください。
027-524	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上でのフォルダー作成に失敗しました。指定したフォルダーは、すでに存在します。 【処置】 指定した名前と同じ名前のファイルまたはフォルダーが SMB サーバー上にあるかを確認してください。
027-525	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、次の理由により、SMB サーバー上でのファイルの削除に失敗しました。 • ファイルが存在しない • すでにファイルがオープンされている • 指定したファイル名はディレクトリーとして、すでに存在している 【処置】 指定した保存場所で、ほかのユーザーがファイル操作を行っていないかを確認してください。
027-526	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上のロックフォルダーの削除に失敗しました。 【処置】 既存の lock directory（*.LCK）が転送先に残っていた場合、手動で削除したあとに、もう一度同じ操作を実行してください。
027-527	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、次の理由により、SMB サーバー上でのフォルダーの削除に失敗しました。 • ファイルが存在しない • ディレクトリーが空ではない • 指定したディレクトリー名がディレクトリーではない 【処置】 指定した保存場所で、ほかのユーザーがファイル操作を行っていないかを確認してください。
027-528	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバー上の格納先に空き領域がありません。 【処置】 保存場所に空き領域があるかを確認してください。
027-529	【原因】 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送で、SMB サーバーから予期しないエラー応答を受信したか、または本機内部で予期せぬエラーが発生しました。 【処置】 弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-530	【原因】 ファイル名が重複しています。スキャンファイル名が重複したときに、「上書き禁止」を設定しています。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理を、「ジョブを中止（保存しない）」以外に設定してください。
027-531	【原因】 サーバーへ接続したあとに、ファイリングポリシー不正（追加選択時）が検知されました。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理に「追加」を設定している場合、ファイルフォーマットがマルチページでないことを確認してください。
027-532	【原因】 NEXTNAME.DAT ファイルアクセスに失敗しました。 【処置】 ファイル名が重複したときの処理に「追加」を設定している場合、NEXTNAME.DAT ファイルが正しいことを確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-533	【原因】 内部エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を行ってください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-543	【原因】 SMB サーバー（NetBIOS）名が不正です。 【処置】 SMB サーバーのサーバー名が正しいかを確認してください。
027-547	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 指定されたドメイン名に禁則文字を検出しました。 【処置】 SMB 認証時に発生した場合： ネットワーク管理者にドメイン名を確認して、正しく設定してください。また、本機に設定されたドメイン名が正しいかを確認してください。 本機に設定されたドメイン名の確認方法は、次のとおりです。 1. 機械管理者モードで入り、［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］>［SMB サーバー設定］を選択する。 2. 対象の SMB サーバーを選択し、ドメイン名を確認する。 スキャナー（PC 保存）の SMB 転送時に発生した場合： ログイン名入力時に指定したドメイン名が正しいかをネットワーク管理者に確認してください。 サーバー上のドメイン名の確認方法は、次のとおりです。 1. アクティブディレクトリーのドメインコントローラー上で、［スタート］メニュー>［すべてのプログラム］>［管理ツール］>［Active Directory ドメインと信頼関係］を選択する。 2. ［Active Directory ドメインと信頼関係］ウインドウの左枠から［Active Directory ドメインと信頼関係］>［ドメイン］を選択し、右クリック後、［プロパティ］を選択する。 3. ［ドメインのプロパティ］ウインドウの［全般］タブを選択し、［ドメイン名（Windows 2000 以前)］のドメイン名を確認する。
027-548	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 指定されたユーザー名に禁則文字を検出しました。 【処置】 ネットワーク管理者にサーバー上のユーザー名を、禁則文字を使用しないで設定してもらってください。 サーバー上のユーザー名の確認手順は、次のとおりです。 1. ユーザー情報が設定されたアクティブディレクトリーのドメインコントローラー上で、［スタート］メニュー>［すべてのプログラム］>［管理ツール］>［Active Directory ユーザとコンピュータ］を選択する。 2. ［Active Directory ユーザとコンピュータ］ウインドウの左枠から［ドメイン］>［Users］を選択し、ユーザー情報をリストする。 3. ［Active Directory ユーザとコンピュータ］ウインドウの右枠から対象ユーザーを右クリックし、［プロパティ］を選択する。 4. ［ユーザのプロパティ］ウインドウの［アカウント］タブを選択し、［ユーザーログオン名（Windows 2000 以前)］のユーザー名を確認する。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-549	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-564	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 SMB サーバーが見つかりませんでした。 【処置】 認証サーバーと本機がネットワーク通信できる状態にあるかを確認してください。 たとえば、次の内容を確認してください。 • ネットワークケーブルの接続確認 • TCP/IP 設定確認 • 137 番ポート（UDP)、138 番ポート（UDP)、139 番ポート（TCP）による通信の確認
027-565	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-566	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 SMB（TCP/IP）が起動されていません。 【処置】 CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブの［ポート起動］画面で、SMB（TCP/IP）が起動されていることを確認してください。
027-569	【原因】 SMB（TCP/IP）ポートが起動されていません。 【処置】 CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブの［ポート起動］画面で、SMB（TCP/IP）が起動されていることを確認してください。
027-572 027-573 027-574 027-576 027-578	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-584	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 SMB サーバーが共有セキュリティーモードで動作しています。 【処置】 SMB サーバーが Windows 95、Windows 98、または Windows Me の OS に設定されている可能性があります。SMBサーバーをWindows 95、Windows 98、および Windows Me 以外の OS に設定してください。
027-585	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 ログインできない時間帯です。 【処置】 システム管理者にログインが許可されている時間帯を確認してください。
027-586	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 パスワードの有効期間が過ぎています。 【処置】 システム管理者から有効なパスワードを取得してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-587	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 パスワードの変更が必要です。 【処置】 Windows でログインし、パスワードを変更してください。システム管理者に、次回ログイン時のパスワード変更をしなくてよいように、設定を変更してもらってください。
027-588	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 ユーザーが無効になっています。 【処置】 システム管理者に、ユーザーの有効化を依頼してください。
027-589	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 ユーザーがロックアウトされています。 【処置】 システム管理者に、ロックアウトの解除を依頼してください。
027-590	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 ユーザーの有効期間が過ぎています。 【処置】 システム管理者から有効なユーザーを取得してください。または、システム管理者にアカウントの期限の延長を依頼してください。
027-591	【原因】 SMB のプロトコルエラーです。 ユーザーが制限されています。空パスワードは許可されていません。 【処置】 ユーザーのパスワードを設定してください。
027-700	【原因】 宛先メールアドレスのドメイン部分が禁止ドメインに指定されています。 【処置】 宛先メールアドレスのドメイン部分が禁止ドメインに指定されていないことを確認してください。
027-701	【原因】 本機からネットワークケーブルが抜けています。 【処置】 ネットワークケーブルが抜けていることを確認し、ケーブルを接続し直してください。
027-702	【原因】 指定した宛先用証明書がありません。 【処置】 宛先用証明書を本機に登録してください。
027-703	【原因】 指定した宛先用証明書の有効期限が切れています。 【処置】 有効期限が切れていない宛先用証明書を本機に登録してください。
027-704	【原因】 指定した宛先用証明書の CA 証明書がありません。 【処置】 宛先用証明書の証明書パスを確認して、必要な CA 証明書を本機に登録してください。
027-705	【原因】 指定した宛先用証明書が、廃棄対象になっています。 【処置】 廃棄対象ではない宛先用証明書を指定してください。
027-706	【原因】 メールの送信時に、本体メールアドレスに関連付けられた S/MIME 証明書が存在しませんでした。 【処置】 メールアドレスに対応した S/MIME 証明書を、本機にインポートしてください。
027-707	【原因】 メールの送信時に、本体メールアドレスに関連付けられた S/MIME 証明書の有効期限が過ぎていました。 【処置】 新しく S/MIME 証明書を発行してもらい、本機にインポートしてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-708	【原因】 メールの送信時に、本体メールアドレスに関連付けられている S/MIME 証明書が、信頼できない証明書でした。 【処置】 信頼できる証明書を本機にインポートしてください。
027-709	【原因】 メールの送信時に、本体メールアドレスに関連付けられている S/MIME 証明書が、廃棄されていました。 【処置】 新しい S/MIME 証明書を本機にインポートしてください。
027-710	【原因】 受信したメールに、S/MIME 証明書がありません。 【処置】 送信者に、S/MIME 証明書を添付してメールを送信するよう、連絡してください。
027-711	【原因】 受信したメールから、送信者の S/MIME 証明書が取得できませんでした。 【処置】 送信者の S/MIME 証明書を本機にインポートするか、送信者が送信する S/MIME 署名メールに、S/MIME 証明書を添付してください。
027-712	【原因】 受信したメールの S/MIME 証明書が、有効期限を過ぎているか、信頼できない証明書でした。 【処置】 送信者に、期限の有効な S/MIME 証明書を添付してメールを送信するように連絡してください。
027-713	【原因】 受信したメールが、送信経路で改ざんされている可能性があるため、受信したメールを破棄しました。 【処置】 送信者に、メールが改ざんされている可能性があることを連絡し、メールを再送信してもらってください。
027-714	【原因】 受信したメールの From フィールドと、S/MIME 署名メールのメールアドレスが異なっていたため、受信したメールを破棄しました。 【処置】 送信者に、From フィールドと S/MIME 署名メールのメールアドレスが異なっていることを連絡し、メールを再送信してもらってください。
027-715	【原因】 受信したメールの S/MIME 証明書が、本機に登録されていないか、本機で使用するように設定されていません。 【処置】 送信者の S/MIME 証明書を本機にインポートするか、すでに S/MIME 証明書が登録済みの場合は、本機で使用するように設定してください。
027-716	【原因】 受信したメールの S/MIME 証明書が信頼できないため、受信メールを破棄しました。 【処置】 送信者に信頼できる S/MIME 証明書を添付して送信するように連絡してください。
027-717	【原因】 メール送信で使用する SMTP サーバーのアドレスを DNS サーバーから取得できませんでした。 【処置】 DNS サーバーが正しく設定されているか確認してください。
027-720	【原因】 アプリケーション連携先のサーバーが見つかりません。 【処置】 DNS サーバーのアドレスが正しく設定されているか確認してください。または、連携するアプリケーション（ApeosWare Management Suite）がインストールされているコンピューターが、DNS 登録されているかを確認してください。
027-721	【原因】 アプリケーション連携先が存在しません。 【処置】 連携するアプリケーション（ApeosWare Management Suite）が正しく動作しているかを確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-722	【原因】 アプリケーション連携先との接続中に、タイムアウトになりました。 【処置】 ジョブフローを、もう一度実行してください。
027-723	【原因】 アプリケーション連携先（ApeosWare Management Suite）の認証に失敗しました。 【処置】 ジョブフロー作成時に、入力するユーザー名、パスワードを確認してください。
027-724	【原因】 アプリケーション連携（ApeosWare Management Suite）に失敗しました。 【処置】 ApeosWare Management Suite が正しく動作しているか確認してください。正しく動作している場合はログを確認してください。
027-725	【原因】 アプリケーション連携でジョブ操作に失敗しました。 【処置】 連携するアプリケーション（ApeosWare Management Suite）が正しく動作しているかを確認してください。動作している場合は、ログを確認してください。動作していない場合は、ネットワーク環境を確認してください。
027-726	【原因】 アプリケーション連携先（ApeosWare Management Suite）のステータスが不明になりました。 【処置】 ApeosWare Management Suite が正しく動作しているか確認してください。正しく動作している場合はログを確認してください。
027-727	【原因】 アプリケーション連携でパラメーターが不正です。 【処置】 ジョブフローを、もう一度実行してください。
027-728	【原因】 外部サービスへの送信要求ファイル数が、送信可能最大数を超えました。 【処置】 送信可能枚数を超えない枚数で、もう一度実行してください。
027-730	【原因】 SMTP メールで、分割可能なページ数の上限を超えました。 【処置】 ページ分割に設定してあるページ数を大きくするか、原稿のページ数を少なくしてください。
027-731	【原因】 本機にエラーが発生しました 【処置】 ジョブテンプレートのスキャン操作終了後に、もう一度操作してください。
027-732	【原因】 ジョブテンプレートサーバーの容量がいっぱいです。または、サーバーのディスク自体に障害が発生しています。 【処置】 ジョブテンプレートサーバーの空き容量を確認してください。空き容量があっても、状態が改善されない場合は、サーバーのディスクの状態を確認してください。
027-733	【原因】 ジョブテンプレートサーバーの SSL 設定が有効になっていません。 【処置】 ジョブテンプレートサーバーの SSL 設定を有効にしてください。
027-734 027-735	【原因】 ジョブテンプレートサーバーの証明書が正しく設定されていません。 【処置】 次の項目を確認してください。 • ジョブテンプレートサーバーにHTTPSプロトコルでコンピューターからアクセスできるか確認してください。 • ジョブテンプレートサーバーの SSL サーバ証明書が本機に登録されているか確認してください。 • ジョブテンプレートサーバーの SSL サーバ証明書が正しいことを確認してください。 • ジョブテンプレートサーバーに証明書が登録されていない場合は、本機の証明書検証を無効にしてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-736	【原因】 サーバー証明書検証指定に対して、本機のサーバー証明書検証が無効になっています。 【処置】 本機のサーバー証明書検証設定を有効にしてください。または、転送時のサーバー証明書検証指定を無効にしてください。
027-737	【原因】 ジョブテンプレートプールサーバーから、データの読み込み時にエラーが発生しました。 【処置】 ジョブテンプレートが格納されているディレクトリーのアクセス権などを確認してください。
027-739	【原因】 指定したジョブテンプレートプールサーバーが見つかりませんでした。 【処置】 ジョブテンプレートプールサーバーのパス名を確認してください。
027-740	【原因】 ジョブテンプレートプールサーバーにログインできませんでした。 【処置】 ログインユーザー名やパスワードなどを確認してください。
027-741	【原因】 ジョブテンプレートプールサーバーに接続できませんでした。 【処置】 ネットワーク管理者に、ネットワーク環境やサーバー環境を確認してもらってください。
027-742	【原因】 ハードディスクの容量が不足しているため、ジョブテンプレートを蓄積できませんでした。 【処置】 ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
027-743	【原因】 ジョブテンプレートプールサーバーの設定が正しくありません。 【処置】 ジョブテンプレートプールサーバーの設定を確認してください。
027-744	【原因】 ジョブテンプレートプールサーバーのドメイン名に問題があります。 【処置】 DNS サーバーとの接続とドメイン名が DNS サーバーに登録されているか確認してください。
027-745	【原因】 DNS サーバーのアドレスが、本機に登録されていません。 【処置】 本機にDNSサーバーのアドレスを登録するか、ジョブテンプレートプールサーバーのアドレスを IP アドレスで設定してください。
027-746	【原因】 ジョブテンプレートプールサーバーのプロトコル設定が正しくありません。 【処置】 正しいポートを起動してください。
027-750	【原因】 スキャン文書に対して、ファクス転送 / プリント / インターネットファクス転送 /IP ファクス（SIP）転送を実行しようとしました。 【処置】 スキャン文書は、ファクス転送 / プリント / ンターネットファクス転送 /IP ファクス（SIP）転送できません。ジョブフローを正しく設定してください。
027-751	【原因】 ジョブフローに従って実行するときに、エラーが起きました。 【処置】 ジョブフローの設定内容を確認してください。
027-752	【原因】 ジョブフローの必須入力項目が入力されていません。 【処置】 次のどちらかの方法で処置してください。 • 必須入力項目があるジョブフローは、親展ボックスに関連付けない • ジョブフローの必須入力項目に既定値を設定する

エラーコード	原 因 / 処 置
027-753	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** ジョブフローを実行するために必要なポートが、起動されていないか使用できない状態で、サービスを実行しようとしました。 **2.** S/MIME 通信を無効に設定している状態で、暗号化またはデジタル署名ありのメールを送信するジョブフローを実行しました。 【処置】 **1.** については、機械管理者にポートの状態を確認してもらってください。 **2.** については、S/MIME 通信を有効に設定するか、暗号化、およびデジタル署名なしでメールを送信するようにジョブフローの設定を変更してください。
027-754	【原因】 ジョブフローで［DocuWorks 署名］または［PDF 署名］について設定している場合に、設定内容に矛盾が生じています。 【処置】 ［DocuWorks 署名］または［PDF 署名］のシステムデータの設定（本機の現在の設定）と実施したジョブフローの署名の設定を確認してください。システムデータの設定とジョブフローの設定が異なっている場合には、どちらかの設定を変更してください。
027-757	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** サーバーとの通信でエラーが発生しました。 **2.** 本機に信頼する証明書がインポートされていません。 **3.** SSL プロキシサーバーを経由したため、SSL 証明書記載のサーバーアドレスと接続先サーバーアドレスが一致しませんでした。 **4.** 本機未対応の暗号方式が使われるサーバーと通信しようとしました。 **5.** SSL サーバーがクライアント証明書認証の設定の場合、本機にクライアント証明書が未登録または一致しません。 **6.** サーバー証明書の有効期限が切れている、または期限前です。 【処置】 1. については、ping または traceroute コマンドを使用して、本機とサーバーまたは DNS との接続を確認してください。 2. については、本機に、SSL サーバーの証明書が信頼する CA 証明書・中間証明書がインポートされているかをブラウザで確認してください。不足なら CA 証明書・中間証明書をインポートしてください。 3. については、本機が SSL 通信内容を確認する機能を持つ SSL プロキシを経由しないか確認してください。経由していた場合、本機を SSL プロキシの対象外に指定してください。 4. については、本機が対応する暗号方式にサーバーが対応しているか確認してください。対応してない場合は、対応している暗号方式を SSL サーバー設定に含めてください。 5. については、本機にクライアント証明書を設定してください。本機にクライアント証明書をインポートし、クライアント証明書として利用します。 6. については、本機の日時が正しいか、サマータイムまたは時差を確認します。ずれがある場合は日時または時刻を合わせます。
027-760	【原因】 XJT コマンドで仕様範囲外のパラメーターが指定されました。 【処置】 指定したパラメーターを確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-761	【原因】 本機に外部アクセス機能を使ったオンデマンドプリントを指示しましたが、印刷要求をしてから実際に印刷処理を開始するまでの時間が、本機に設定されている時間を超えました。 【処置】 複数文書を外部アクセス機能を使ってオンデマンドプリントした場合は、文書数を減らして再度実行してください。それでも改善されない場合は、機械管理者モードで入り、［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［オンデマンド印刷の有効時間］で、時間を長くするか、0 に設定してください。 外部アクセス機能を使ったオンデマンドプリントで複数の文書を指示した場合、最後の文書を受け付けるまでの印刷処理時間は考慮されません。そのため、大量の文書の場合やデータ処理時間がかかる複雑な文書の場合は、最後の文書を受け付ける前にタイムアウトする可能性があります。印刷指示する文書の形態に合わせて、有効時間を設定してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-762	【原因】 外部アクセス機能を使ったオンデマンドプリントジョブが本機に指示されましたが、指示されたジョブチケットが次のように不正でした。 • 本機ソフトウェア不具合によるジョブチケット異常書き換え • 送信元の外部サーバーのバグによるジョブチケット異常書き換え • ネットワークトラブルによるジョブチケット異常書き換え • 意図的なジョブチケットの改ざん 【処置】 もう一度プリントを指示してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
027-763	【原因】 外部のアカウンティングサーバーとユーザー情報の照合ができませんでした。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 外部アカウンティングサーバーまたは外部認証サーバーが正しく動作しているか確認する • ネットワークに障害がないか確認する • ネットワークケーブルを正しく接続する • 本機の設定を確認する
027-770	【原因】 プリントジョブに問題があります。 【処置】 ジョブを再度実行してください。
027-771	【原因】 本機に接続しているサーバーのハードディスクがいっぱいになりました。 【処置】 サーバーのデータを削除してください。
027-772	【原因】 SMTP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 ［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［本体メールアドレス / ホスト名］に設定されているホスト名を、ASCII 文字で設定してください。 それでも状態が改善されないときは、ネットワーク管理者に SMTP サーバーが HELO コマンドに対応しているか確認してください。
027-773	【原因】 SMTP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。
027-774	【原因】 指定したメールアドレスに使用できない文字が含まれています。 【処置】 宛先のメールアドレスは、ASCII 文字だけで設定してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
027-775	【原因】 送信する宛先数が多すぎます。 【処置】 宛先数を減らしてください。 それでも状態が改善されないときは、ネットワーク管理者に SMTP サーバーが EHLO コマンドに対応しているか確認してください。
027-776	【原因】 SMTP サーバーとの通信でエラーが発生しました。 【処置】 ［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［本体メールアドレス / ホスト名］に設定されているホスト名を、ASCII 文字で設定してください。 それでも状態が改善されないときは、ネットワーク管理者に SMTP サーバーが EHLO コマンドに対応しているか確認してください。
027-777	【原因】 送信先の SMTP サーバーが SMTP-AUTH に対応していません。 【処置】 ［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［メール送受信設定］>［SMTP サーバー設定］>［送信時の認証方式］を［利用しない］に設定してください。
027-778	【原因】 送信先の SMTP サーバーが、本機に設定してある SMTP-AUTH の認証方式に対応していません。 【処置】 ネットワーク管理者に、SMTP サーバーの認証方式を確認してください。 本機が対応している認証方式は、AUTH GSSAPI（Kerberos 指定時のみ）、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTH LOGIN、AUTH CRAM-MD5 です。
027-779	【原因】 SMTP サーバーの認証に失敗しました。 【処置】 SMTP-AUTH に設定してあるログイン名とパスワードを確認してください。
027-796	【原因】 メール受信時に添付文書だけをプリントするように設定している場合に、文書が添付されていないメールを受信したので、そのメールが破棄されました。 【処置】 メール本文やメールヘッダー情報などもプリントする場合は、CentreWare Internet Services のプロパティ画面で、設定を変更してください。 参照 •『ユーザーズガイド』の「13 コンピューターからの操作」>「メールプリント」を参照してください。
027-797	【原因】 受信メールの出力先が不正です。 【処置】 正しい出力先を指定して、もう一度メールを送信してください。
027-798	【原因】 ジョブフローで指定した文書が存在しませんでした。 【処置】 ジョブフローの設定内容を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-310 033-311 033-312 033-314 033-315 033-316 033-317 033-318 033-319 033-324 033-326 033-327 033-328 033-330 033-331 033-332 033-333 033-334 033-335 033-336 033-337 033-338 033-339 033-340 033-363	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-313	【原因】 本機とファクス制御部の間の接続にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-320 033-321 033-322 033-323 033-325 033-329	【原因】 ファクス通信中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-500 033-501	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 宛先を確認し、もう一度操作をしてください。着信の場合は、再送信を相手側に依頼してください。
033-502	【原因】 ファクスへの応答がありません。 【処置】 宛先を確認し、もう一度操作をしてください。相手機の状態（メモリーフル・保守中などでないか）を確認し、もう一度操作をしてください。
033-503	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生し、ファクス通信が中断されました。 【処置】 相手先が送信を途中でキャンセルした、または電話の着信であった可能性があります。相手先に確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-504	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生し、ファクス通信が中断されました。 【処置】 発信の場合は、もう一度操作をしてください。着信の場合は、再送信を相手先に依頼してください。
033-505	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 宛先を確認し、もう一度操作をしてください。着信の場合は、再送信を相手側に依頼してください。
033-506	【原因】 相手側で通信が中断されました。 【処置】 相手機側でジョブがキャンセルの可能性があります。 キャンセルされていない場合は、相手機側が問題がないかを確認して、もう一度同じ操作をしてください。
033-507	【原因】 相手機に受信能力がありません。 【処置】 相手機の状態（メモリーフル・保守中などでないか）を確認し、もう一度操作をしてください。
033-508	【原因】 相手機にポーリング文書がありません。 【処置】 相手側に、ポーリング文書の準備を依頼し、もう一度操作してください。
033-509	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、相手機の状況を確認してください。
033-510	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 回線状態、相手機を確認して、もう一度操作してください。
033-511	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 次のことを確認してください。 • 相手機にポーリング原稿があるか • 相手機に原稿づまりが発生しているか • パスワードが一致していない
033-512	【原因】 相手機が中継同報をできません。 【処置】 相手機が中継同報をできるかどうかを確認してください。
033-513	【原因】 相手機にメールボックス機能がありません。 【処置】 相手機にメールボックス機能があるかどうかを確認してください。
033-514	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 相手側に再送信を依頼してください。
033-516	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 宛先を確認し、もう一度操作をしてください。着信の場合は、再送信を相手側に依頼してください。
033-517	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、相手機の状況を確認してください。
033-518	【原因】 相手機が SUB 受信できません。 【処置】 相手機が SUB 受信できるかどうかを確認し、もう一度操作をしてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-519	【原因】 相手機が SEP 受信できません。 【処置】 相手機が SEP 受信できるかどうかを確認し、もう一度操作をしてください。
033-520	【原因】 相手機が PWD/SID 受信できません。 【処置】 相手機が PWD/SID 受信できるかどうかを確認し、もう一度操作をしてください。
033-521	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の状態（メモリーフル・紙切れなどでないか）を確認し、相手側に再操作を依頼してください。
033-522	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 相手側に再操作を依頼してください。
033-523	【原因】 回線（チャネル 1）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 1）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。 ホームゲートウェイ、ターミナルアダプターなどの機器に接続している場合は、接続機器が正しく動作しているか確認してください
033-524	【原因】 回線（チャネル 2）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 2）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。 ホームゲートウェイ、ターミナルアダプターなどの機器に接続している場合は、接続機器が正しく動作しているか確認してください。
033-525	【原因】 回線（チャネル 3）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 3）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。 ホームゲートウェイ、ターミナルアダプターなどの機器に接続している場合は、接続機器が正しく動作しているか確認してください
033-526	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 相手機の機種を確認し、もう一度操作をしてください。着信の場合は、相手側に再送信を依頼してください。
033-527	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 相手機側に問題がないかを確認して、もう一度操作をしてください。
033-528	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 相手側に再送信を依頼してください。
033-529	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 相手機側に問題がないかを確認して、もう一度操作をしてください。
033-530	【原因】 手順無効信号を受信しました。 【処置】 DTMF 手順の操作方法を『ユーザーズガイド』（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内）で確認し、もう一度操作してください。
033-531	【原因】 命令拒否信号を受信しました。 【処置】 相手機の状態（メモリーフル・紙切れなどでないか）を確認し、もう一度操作してください。

エラーコード	原　因　/　処　置
033-532 033-533	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度操作してください。着信の場合は、相手機に再送信を依頼してください。
033-534	【原因】 相手機に送信部数出力機能がありません。 【処置】 送信部数の指示をしないでください。
033-535	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 相手機宛先、親展ボックス情報などを確認して、もう一度操作してください。
033-536 033-537	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度操作してください。
033-538 033-539 033-540	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度操作してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-541	【原因】 宛先が指定されていません。 【処置】 正しい宛先を指定してください。
033-542	【原因】 接続されていない回線が指定されています。 【処置】 接続されている回線を指定してください。
033-543	【原因】 宛先（ファクス番号）が正しくありません。 【処置】 正しい電話番号を入力し、もう一度操作してください。
033-544	【原因】 送信先が話中です。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。
033-545	【原因】 ファクスの相手先から応答がありませんでした。 【処置】 電話番号が正しいか確認し、もう一度操作してください。 それでも状態が改善されないときは、相手先がファクスではなかったり、相手先のファクスの電源が切れていたり、手動受信モードになっていたりする可能性があります。相手先に確認してください。
033-546	【原因】 ダイヤルトーンが検知できませんでした。 【処置】 回線が正しく接続されていることを確認してください。
033-547	【原因】〈ストップ〉ボタンなどにより、通信が停止されました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-548	【原因】 回線がないため、手動通信できません。 【処置】 電話などで通信を確立してから、もう一度操作してください。
033-549	【原因】 メモリー不足などで、ファクスが使用できません。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。
033-550	【原因】 ファクス通信中のため、ほかのジョブが実行できません。 【処置】 通信中のジョブが完了してから、もう一度操作してください。
033-551	【原因】 電話やファクス通信が終了する直前にジョブを変更しようとしました。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-552	【原因】 G3 で検知した合計エラーライン数が、設定値を超えました。 【処置】 相手機の機種を確認し、もう一度操作してください。着信の場合は、相手側に再送信を依頼してください。
033-553	【原因】 本機には親展または中継能力はありません。相手機から送られた F コードに、本機にない機能の指示があります。 【処置】 必要なら、相手機の操作者に、誤った F コードを入力していないか確認してください。
033-554	【原因】 パスワードがないファクス受信または、パスワードが一致しないファクス通信がありました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-555	【原因】 本機のファクス受信をするためのパスワードと、相手機から送られたパスワードが一致しませんでした。 【処置】 相手機の操作者に、誤ったマシンパスワードを指示していないか確認してください。
033-556	【原因】 相手機に送ったパスワードが、相手機のファクス受信をするためのパスワードと一致しませんでした。 【処置】 必要なら、相手側に正しいマシンパスワードを指示しているかを確認してください。
033-557	【原因】 サービス数または宛先数が上限値を超えています。 【処置】 送信待ちのジョブが減るのを待つか、宛先数を減らして、もう一度送信してください。
033-558	【原因】「リモート ID がなければ受信を拒否する」という設定をしていて、相手機からリモート ID が送られなかった。 【処置】 相手側にリモート ID を設定してもらうよう依頼してください。必要なら、リモート ID が送られなくても受信できるように本機を設定してください。
033-559	【原因】 認証 ID が正しくありません。 【処置】 弊社の保守システム運用中のエラーです。 通信回線が正常なときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-560 033-561 033-562	【原因】 弊社のリモート保守作業中にエラーが発生しました。 【処置】 弊社のリモート保守作業中のエラーです。 処置は必要ありません。
033-563	【原因】 受信した原稿をプリントできる用紙が本機にセットされていません。 【処置】 次のどちらかを実行してください。 • 記録紙サイズを指定する • 記録紙トレイが正しくセットされているか確認する
033-564	【原因】 通信中に本機の電源が切られました。 【処置】 時間をおいて、ファクス機能設定内容やダイヤル番号を確認したあとに、送信の場合は再送信してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-565	【原因】 指定された宛先数が多すぎて、送信できません。 【処置】 送信待ちのジョブが減るのを待つか、宛先数を減らして、もう一度送信してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-566	【原因】 宛先（ファクス番号）が指定されていないので、送信できません。 【処置】 正しく宛先電話番号を指定してください。
033-567	【原因】 宛先（ファクス番号）が正しくありません。 【処置】 正しい宛先電話番号を入力し、もう一度操作してください。
033-568	【原因】 ファクス通信中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を行ってください。着信の場合は、相手先に再送信を依頼してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-569	【原因】 受信したデータをプリントできる向きに、用紙がセットされていません。 【処置】 操作パネルに表示された用紙の向きに従って、手差しトレイに用紙をセットしてください。
033-570	【原因】 通信中に本機の電源が切られました。 【処置】 時間をおいて、ファクス機能設定内容やダイヤル番号を確認したあとに、送信の場合は再送信してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-571	【原因】 メモリー不足などで、ファクスが使用できません。 【処置】 送信予約のデータをキャンセルするか、しばらくしてから、もう一度操作してください。
033-572	【原因】 受信したデータがプリントされません。 【処置】 操作は必要ありません。しばらくすると自動的にプリントします。
033-573	【原因】 送受信が禁止されているドメインに IP ファクス（SIP）を送信しようとしました。 【処置】 次のどちらかの方法で処置をしてください。 • 送信先を確認し、送信先を再入力する。 • IP ファクス（SIP）のドメインによる送受信制限の設定を確認し、送信先を再入力する。
033-574	【原因】 使用できない回線が指定されています。 【処置】 使用可能な回線を指定してください。
033-575	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度操作をしてください。
033-576	【原因】 宛先（ファクス番号）が正しくありません。 【処置】 正しい電話番号を入力し、もう一度操作をしてください。
033-577	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度操作をしてください。
033-578	【原因】 ファクスの受信中にエラーが発生しました。 【処置】 回線状態、相手機を確認して、相手側に再送信を依頼してください。
033-580	【原因】 電話番号に対応する VoIP ゲートウェイが登録されていません。 【処置】 入力した電話番号に対応する VoIP ゲートウェイのアドレスを設定してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-581	【原因】 認証エラーにより SIP サーバーに接続できませんでした。 【処置】 本機の［SIP 設定］>［SIP プロキシサーバー設定］の認証ユーザー名、認証パスワード、および SIP サーバーの設定を確認してください。
033-582	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 通信相手先の機器が IP ファクス（SIP）対応機であるかを確認してください。 機器が IP ファクス（SIP）対応機である場合、使用している SIP サーバー上の設定を確認してください。
033-583	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 しばらく待ってからもう一度送信してください。
033-584	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 次の点を確認してください。 • 入力したアドレスまたは電話番号が正しいか • ネットワークケーブルが接続されているか • SIP サーバーが起動しているか • 本機 - SIP サーバー間のネットワークケーブルが接続されているか • 本機 - 通信相手先のネットワークケーブルが接続されているか • SIP サーバー、通信相手先が通信可能な状態か
033-585	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-586	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 しばらく待ってからもう一度送信してください。 また、次の点を確認してください。 • IP アドレスを取得できるようになっているか • レジストラーサーバーへの登録ができるようになっているか
033-587	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 次の点を確認してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか • IP ファクス（SIP）の通信相手先の機器が起動しているか
033-588	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作を行ってください。ほかのジョブが実行中の場合には、もう一度同じ操作を行ってください。
033-589	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 通信相手先の機器が IP ファクス（SIP）対応機であるかを確認してください。 機器が IP ファクス（SIP）対応機である場合、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-590	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 次の点を確認してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか • IP ファクス（SIP）の通信相手先の機器が起動しているか
033-591	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 実行中の IP ファクス(SIP)送受信が終了してからもう一度送信してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-592	【原因】 IP ファクス（SIP）で通信エラーが発生しました。 【処置】 次の点を確認してください。 • ネットワークケーブルが接続されているか • 通信相手先の機器が起動しているか
033-593	【原因】 通信相手側で IP ファクス（SIP）がキャンセルされました。 【処置】 通信相手に、再度の送信を依頼してください。
033-700	【原因】 ファクスの発信時、または相手先からの着信時に接続がタイムアウトになりました。 【処置】 発信の場合は、もう一度操作をしてください。着信の場合は、相手先が送信を途中でキャンセルした可能性があります。相手先に確認してください。
033-710	【原因】 ポーリング送信しようとした文書が削除されています。 【処置】 もう一度原稿を蓄積し直してください。
033-712	【原因】 メモリーが不足したため、処理を継続できません。 【処置】 不要なデータを削除してください。
033-713	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-715	【原因】 弊社の保守システム運用中にエラーが発生しました。 【処置】 特に処置は必要ありません。
033-716	【原因】 相手機から指定された親展ボックスがありません。 【処置】 親展ボックスを登録してください。 参照 •「ボックス登録」(P.305) を参照してください。
033-717	【原因】 相手機から指定された親展ボックスのパスワードが一致しませんでした。または、パスワード受信のパスワードが一致しませんでした。 【処置】 相手機に、正しいパスワードを通知してください。
033-718	【原因】 相手機から指定された親展ボックスにファクス文書がありません。またはポーリング予約文書がありません。 【処置】 必要であれば、親展ボックスに、ファクス文書またはポーリング予約文書を蓄積してください。
033-719	【原因】 本機の電源を切って、入れ直したことによって文書が削除された可能性があります。 【処置】 もう一度送信してください。
033-721	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-722	【原因】 原稿が詰まったか、最大蓄積枚数を超える枚数の原稿がセットされました。 【処置】 詰まった原稿を取り除くか、最大蓄積枚数以下の枚数になるように原稿をセットし直して、もう一度送信してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-724	【原因】 一度に受信できる画像データ量の上限値を超えたため、受信を停止しました。 【処置】 画像データを分割して送信するか、画像データの解像度を下げて送信するように、相手側に依頼してください。
033-725	【原因】 ハードディスクがいっぱいになりました。 【処置】 ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
033-726	【原因】 1つの受信文書内に複数のサイズのページがあり、両面印刷できなかったため、片面印刷しました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-727	【原因】 受信ページのデータ量が大きく、向きを自動回転して印刷できなかったため、回転しないで印刷しました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-728	【原因】 ファクス受信文書の自動プリントのフォーマット中に、ファクス受信文書の手動プリントを指示されたので、自動プリントのフォーマットを一時中断しました。 【処置】 手動プリント終了後に、機械が自動的に自動プリントジョブを開始しますので、操作は必要ありません。
033-731	【原因】 受信文書のプリントが中止されました。 【処置】 受信文書の自動プリント処理中に手動プリントを指示されたので、自動プリント処理を一時中断しました。操作は必要ありません。
033-732	【原因】 EP システムの通信中にエラーが発生しました。 【処置】 弊社の保守システム運用中のエラーです。処置は必要ありません。
033-733	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-734	【原因】 ファクスの受信プリント準備中にレポートジョブが発生したため、ファクスの受信プリントを一時保留しました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-735	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-736	【原因】 転送するデータ量が設定している上限値を超えたため、転送を中止しました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-737	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-738	【原因】 異常な JBIG データを受信しました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-740	【原因】 受信文書のプリントが中止されました。 【処置】 操作は必要ありません。

エラーコード	原 因 / 処 置
033-741	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 もう一度同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-742	【原因】 ファクスの送信中にエラーが発生しました。 本機のメモリー残量が 10% 前後と少ないときに、手動送信を行うと発生することがあります。 【処置】 手動送信を行ったときに発生する場合は、原稿蓄積後に回線を接続する「蓄積送信」操作をしてください。 それでも改善されないときは、ハードディスク内の不要なデータを削除して、ハードディスクの容量を確保してから、もう一度同じ操作をしてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-743 033-744 033-745 033-746	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-747	【原因】 ジョブを一時保留しました。 【処置】 操作は必要ありません。
033-749	【原因】 機械が自動的に修復して印字出力します。 【処置】 操作は必要ありません。
033-750	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-751	【原因】 プリント禁止時間帯に通信管理レポートが発生しました。スリープモードでレポート排出を保留にしました。 【処置】 自動的に再開するので処置不要です。
033-755	【原因】 ファクス文書のプリントが指示されましたが、ファクス機能が動作しないため、プリントを中断しました。親展ボックスから、プリント、スキャン、ファクスなどの複数種類の文書をプリントする場合、ファクス文書が 1 つでも存在すると、そのファクス文書以降のすべての文書はプリントされません。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • 本機の電源を切って、操作パネルのディスプレイが消灯してから、入れ直す • 回線ケーブルが正しく挿入されていることを確認する • エラー履歴レポートを出力し、記載されているエラーコードから本機で発生しているファクス関連のエラーコード（133-xxx、134-xxx）を確認し、エラーの対処をする それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-790 033-791 033-792	【原因】 EP システムの通信中にエラーが発生しました。 【処置】 弊社の保守システム運用中のエラーです。処置は必要ありません。
034-211 034-212	【原因】 ファクス制御部でエラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
034-500	【原因】 電話番号が正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号を確認し、もう一度送信してください。
034-501	【原因】 指定された回線が存在しないため通信できません。 【処置】 回線の指定を確認し、もう一度送信してください。
034-505	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-506	【原因】 相手機にリモートコピー機能（受信文書を複数部プリントする機能）がありません。 【処置】 相手機にリモートコピー機能があるかどうかを確認してください。
034-507	【原因】 相手の ID 番号とこちらが指定したパスワードが一致しないため、送信できません。 【処置】 念のため、パスワードと電話番号が間違っていないかを確認してください。 なお、相手が ID 番号を送出しないように設定している場合があります。相手に確認してください。 また、ポーリングを拒否した場合もこのコードが表示されます。
034-508 034-509 034-510	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-511	【原因】 中継同報送信ができません。 【処置】 ［登録宛先リスト］をプリントし、短縮宛先に中継同報が正しく登録されているかを確認してください。間違っている場合は、短縮宛先登録を修正してください。また、中継局に登録されている短縮宛先の内容も確認してください。 参照 • 中継同報やリモート中継同報については、『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」>「同報」を参照してください。
034-512	【原因】 リモート中継同報で無限ループが検知されました。 【処置】 短縮宛先番号に中継同報が正しく登録されているか確認してください。また、中継局に登録されている短縮宛先番号の内容も確認してください。 参照 • リモート中継同報については、『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」>「同報」を参照してください。
034-513 034-514	【原因】 EP システムの通信中にエラーが発生しました。 【処置】 弊社の保守システム運用中のエラーです。処置は必要ありません。
034-515	【原因】 相手機に問題があります。 【処置】 相手機を確認してください。
034-519	【原因】 同報送信で指定している宛先数が上限を超えています。 【処置】 送信待ちのジョブが減るのを待つか、宛先数を減らして、もう一度送信してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
034-520	【原因】 受け付けられるジョブの数が上限を超えています。 【処置】 処理待ちのジョブが減るのを待ってから、もう一度操作してください。
034-521	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-522	【原因】 手動通信するための回線がありません。 【処置】 通信中のジョブが完了してからもう一度同じ操作をしてください。
034-523	【原因】 ジョブを受け付けられる状態ではありません。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。
034-527	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-528	【原因】 ダイヤル中は手動通信できません。 【処置】 ダイヤル中ではないときに、もう一度操作してください。
034-529	【原因】 受信した原稿をプリントできる用紙が本機にセットされていません。 【処置】 次の対処を行ってください。 • 本機にセットされている用紙サイズを確認する • 用紙トレイが正しくセットされているかどうかを確認する
034-530	【原因】 正しい操作が一定時間に行われませんでした。 【処置】 一定時間内に、操作をしてください。
034-550	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-700 034-701	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-702	【原因】 短縮宛先番号に電話番号が登録されていないため、通信できません。 【処置】 短縮宛先番号に電話番号が正しく登録されているかどうかを確認して、もう一度操作してください。
034-703 034-704 034-705 034-706	【原因】 回線ケーブルが正しく挿入されていません。 【処置】 回線ケーブルが正しく挿入されていることを確認し、送信の場合はもう一度同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
034-707 034-708 034-709 034-710 034-711 034-712 034-713 034-714 034-715 034-716 034-717 034-718 034-719 034-720	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-721	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-722	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-723	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-724 034-725 034-726	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-727	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-728	【原因】 電話番号が正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号を確認して、もう一度操作してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-729	【原因】 ISDN 回線に接続できません。 【処置】 ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-730 034-731 034-732	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
034-733	【原因】 ISDN 回線に接続できません。 【処置】 ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-734	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-735 034-736 034-737	【原因】 ISDN 回線に接続できません。 【処置】 ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-738 034-739	【原因】 回線ケーブルが正しく挿入されていません。 【処置】 回線ケーブルが正しく挿入されていることを確認し、送信の場合はもう一度同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-740 034-741 034-742 034-743 034-744 034-745	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-746 034-747 034-748 034-749 034-750 034-751	【原因】 ISDN 回線に接続できません。 【処置】 ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-752	【原因】 送信先が話中です。 【処置】 しばらく待ってから、もう一度操作してください。それでも改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-753	【原因】 送信先が応答しません。 【処置】 電話番号を確認して、もう一度操作してください。それでも改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-754	【原因】 送信先が応答しません。 【処置】 相手機がファクス受信可能かどうかを確認して、もう一度操作してください。それでも改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原因 / 処置
034-755	【原因】 電話番号が正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号を確認して、もう一度操作してください。それでも改善されないときは、契約している電話会社に相談してください。それでも改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-756	【原因】 送信先が応答しません。 【処置】 電話番号を確認して、もう一度操作してください。それでも改善されないときは、送信先に確認して、別の機械に送信してみてください。それでも改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-757	【原因】 ISDN 回線に接続できません。 【処置】 ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-758 034-759 034-760 034-761 034-762 034-763 034-764 034-765	【原因】 電話番号が正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号を確認して、もう一度操作してください。それでも改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-766 034-767	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-768 034-769 034-770 034-771 034-772	【原因】 通信エラーです。 【処置】 送信の場合は、もう一度同じ操作をしてください。それでも改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-773 034-774	【原因】 電話番号が正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号を確認して、もう一度操作してください。それでも改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-775 034-776 034-777 034-778 034-779 034-780 034-781 034-782 034-783	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、ISDN 回線の契約内容を確認し、契約に合った操作をしていなければ、ISDN 回線の設置および契約に関して弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
034-784	【原因】 電話番号が正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号を確認して、もう一度操作してください。それでも改善されないときは、契約している電話会社に相談してください。
034-785 034-786 034-787 034-788 034-789	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
034-790	【原因】 回線（チャネル 0：内線）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 0：内線）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
034-791	【原因】 回線（チャネル 1：外線）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 1：外線）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
034-792	【原因】 回線（チャネル 2）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 2）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
034-793	【原因】 回線（チャネル 3）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 3）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
034-794	【原因】 回線（チャネル 4）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 4）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
034-795	【原因】 回線（チャネル 5）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 5）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。
034-796	【原因】 電話番号が正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号を確認して、もう一度操作してください。
034-797 034-798 034-799	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
035-550	【原因】 FaxG3-ROM へのデータ書き込み処理時にエラーが発生しました。 【処置】 弊社カストマーコンタクトセンターにご連絡ください。
035-700	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
035-701 035-702 035-703	【原因】 相手側で通信が中断されました。本機の問題ではありません。 【処置】 相手のファクスの状態を電話をかけて確認し、もう一度送信してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
035-704	【原因】 こちらがポーリング機能を指定して送信しましたが、相手機側にポーリング原稿がないか、ポーリングの機能がありません。 【処置】 相手に電話をかけて確認してから、もう一度同じ操作をしてください。
035-705	【原因】 相手側で問題が発生している可能性があります。 【処置】 相手のファクスにトラブルがないかを電話をかけて確認してから、もう一度同じ操作をしてください。
035-706	【原因】 相手側で問題が発生しているか、電話番号が正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号や相手のファクスにトラブルがないかを電話をかけて確認してから、もう一度同じ操作をしてください。
035-707	【原因】 受信したファクスにパスワードが指定されていないか、間違ったパスワードが指定されています。 【処置】 パスワードが指定されていない受信、またはパスワードが一致していない受信があったことを示しているだけなので、操作は不要です。
035-708 035-709 035-710 035-711	【原因】 相手側で問題が発生している可能性があります。 【処置】 相手のファクスにトラブルがないかを電話をかけて確認し、もう一度送信してください。
035-712	【原因】 相手側で問題が発生している可能性があります。 【処置】 相手機で原稿づまりが発生していないか、ポーリングを指定している場合にポーリング原稿がセットされているかなど、相手機側の状態を確認して、もう一度同じ操作をしてください。
035-713	【原因】 相手側で問題が発生している可能性があります。 【処置】 相手のファクスにトラブルがないかを電話をかけて確認し、再送信を依頼してください。
035-714	【原因】 電話番号、相手機の親展ボックス番号などが正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号、相手機の親展ボックス番号などを確認して、もう一度操作してください。
035-715	【原因】 電話番号、相手機の親展ボックス番号、親展ボックスのパスワードなどが正しくないため通信できません。 【処置】 電話番号、相手機の親展ボックス番号、親展ボックスのパスワードなどを確認して、もう一度操作してください。
035-716 035-717 035-718 035-719	【原因】 通信エラーです。 【処置】 相手機に再送信を依頼してください。
035-720	【原因】 通信エラーです。 【処置】 送信の場合は、電話番号や相手機に指定した機能があるかなどを確認して、もう一度操作してください。 着信の場合は、再送信を依頼してください。
035-721 035-722	【原因】 通信エラーです。 【処置】 相手機に再送信を依頼してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
035-723 035-724	【原因】 通信エラーです。 【処置】 送信の場合は、電話番号や相手機に指定した機能があるかなどを確認して、もう一度操作してください。 着信の場合は、再送信を依頼してください。
035-725	【原因】 電話番号が正しくないか、相手機に指定した機能がないため通信できません。 【処置】 電話番号や相手機に指定した機能があるかなどを確認して、もう一度操作してください。
035-726	【原因】 通信エラーです。 【処置】 送信の場合は、電話番号や相手機に指定した機能があるかなどを確認して、もう一度操作してください。 着信の場合は、再送信を依頼してください。
035-727 035-728 035-729	【原因】 通信エラーです。 【処置】 相手機に再送信を依頼してください。
035-730 035-731 035-732 035-733 035-734 035-735 035-736 035-737 035-738 035-739 035-740 035-741 035-742	【原因】 通信エラーです。 【処置】 送信の場合は、電話番号や相手機に指定した機能があるかなどを確認して、もう一度操作してください。 着信の場合は、再送信を依頼してください。
035-743 035-744 035-745	【原因】 電話番号が正しくないか、相手機に指定した機能がないため通信できません。 【処置】 電話番号や相手機に指定した機能があるかなどを確認して、もう一度操作してください。
035-746	【原因】 ファクシミリ通信網サービスから応答がありません。 次の原因が考えられますので確認し、もう一度送信してください。 【処置】 次の点を確認してください。 • 電話線は正しく接続されていますか？ • 内線から外線に発信している場合、外線発信番号の「0」などを忘れていませんか？ • お客様がファクシミリ通信網サービスを契約していないか、ファクシミリ通信網サービスに問題があることが考えられます。 なお、ファクシミリ通信網サービスに電話をかける場合は、「161」や「162」の後にポーズを 2 回入れてから電話番号を入力してください。
035-747 035-748	【原因】 ダイヤル中、または送信中に、〈ストップ〉ボタンが押されたため、送信が中止されました。 【処置】 操作は必要ありません。

エラーコード	原 因 / 処 置
035-749	【原因】 設定された回数、リダイヤルをしましたが相手機から応答がありません。 【処置】 電話番号、相手機の電話線切れ、交換機の故障などを、相手先に確認してください。
035-750	【原因】 電源が切られたか、〈リセット〉ボタンが押されたため、通信が中止されました。 【処置】 電源を入れ直して、もう一度送信してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
035-751 035-752	【原因】 ダイヤル中、または送信中に、〈ストップ〉ボタンが押されたため、送信が中止されました。 【処置】 操作は必要ありません。
035-753	【原因】 999 枚以上のファクスを受信しようとしたため、メモリーがいっぱいになりました。 【処置】 送信元に、一度に送信する原稿枚数を減らして送信するように依頼してください。
035-754 035-755 035-756 035-757 035-758 035-759 035-760 035-761	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
035-762 036-500 036-501 036-502 036-503 036-504 036-505 036-506 036-507 036-508 036-509 036-510 036-511 036-512 036-513 036-514 036-515 036-516 036-517 036-518 036-519 036-520 036-521 036-522 036-523 036-524 036-525 036-526 036-527 036-528 036-529 036-530 036-531 036-532 036-533 036-534 036-535 036-536 036-537 036-538 036-539 036-540 036-541 036-542	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
036-550	【原因】 FaxG4-ROM へのデータ書き込み処理時にエラーが発生しました。 【処置】 弊社カストマーコンタクトセンターにご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
036-700 036-701 036-702 036-703 036-704 036-705 036-706 036-707 036-708 036-709 036-710 036-711 036-712 036-713 036-714 036-715 036-716 036-717 036-718 036-719 036-720 036-721 036-722 036-723 036-724 036-725 036-726 036-727 036-728 036-729 036-730 036-731 036-732 036-733 036-734	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
036-735 036-736 036-737 036-738 036-739 036-740 036-741 036-742 036-743 036-744 036-745 036-746 036-747 036-748 036-749 036-750 036-751 036-752 036-753 036-754 036-755 036-756 036-757 036-758 036-759 036-760 036-761 036-762 036-763 036-764 036-765 036-766 036-767 036-768 036-769 036-770 036-771 036-772 036-773 036-774 036-775 036-776 036-777	**【原因】** ファクスの使用中にエラーが発生しました。 **【処置】** 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
036-778 036-779	**【原因】** 相手側で通信が中断されました。 **【処置】** 相手機に再送信を依頼してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
036-780 036-781 036-782 036-783 036-784 036-785	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
036-786 036-787	【原因】 パスワードが正しく入力されていないため、通信できません。 【処置】 正しいパスワードを入力し、もう一度操作してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
036-788 036-789	【原因】 こちらがポーリング機能を指定して送信しましたが、相手機側にポーリング原稿がありません。 【処置】 相手に電話をかけて確認してから、もう一度同じ操作をしてください。
036-790 036-791	【原因】 操作方法が正しくないため、通信できません。 【処置】 本書で操作方法を確認し、もう一度操作してください。
036-792 036-793	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
036-794	【原因】 ISDN 回線を使ってのファクス通信中に、エラーが発生しました。 【処置】 電話回線の設定が正しいかを確認し、時間をおいて再送信してください。それでも改善されないときは、相手のファクスの状態がメモリー不足やメンテナンス中などでないかを電話をかけて確認し、もう一度送信してください。
036-795	【原因】 相手機にリモートコピー機能（受信文書を複数部プリントする機能）がありません。 【処置】 相手機にリモートコピー機能があるかどうかを確認してください。
036-796	【原因】 相手機にリモートコピー機能（受信文書を複数部プリントする機能）がなかったため、通常の送信に変更しました。 【処置】 操作は必要ありません。
036-797 036-798 036-799	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 送信の場合は、もう一度設定内容や電話番号を確認し、同じ操作をしてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
041-324	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
041-325 041-328	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
041-329 041-330 041-331 041-332 041-333 041-336 041-337 041-340	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
041-343	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
042-316 042-323 042-330 042-331 042-332 042-333 042-363	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
045-310 045-311 045-312 045-313	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
047-210	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
047-213	【原因】 異なるタイプのフィニッシャーが取り付けられていることを検知しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
047-310	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
058-314	【原因】 本体の温度センサーで異常が検知されました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
061-320 061-325 061-344	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
062-277	【原因】 機械の原稿読み取り部分と原稿送り装置の間で通信エラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
062-311	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
062-328 062-329	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
062-330 062-345 062-357 062-360 062-362 062-371 062-380 062-386 062-389 062-393 062-395 062-396 062-397 062-398	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
062-399	【原因】 原稿送り装置にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
062-790	【原因】 読み込んだ原稿が、コピー禁止の原稿です。 【処置】 『はじめにお読みください』の「法律上の注意事項」を参照して、コピーできる原稿を確認してください。
063-210	【原因】 原稿送り装置にエラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
065-210	【原因】 本機にエラーが発生しました 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
065-221 065-222 065-223 065-224 065-225	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
071-210	【原因】 用紙トレイ 1 が故障しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
071-211	【原因】 用紙トレイ 1 にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
072-210	【原因】 用紙トレイ 2 が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 2 の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。なお、用紙トレイ 2 以外の用紙トレイは使用できます。
072-211	【原因】 用紙トレイ 2 にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
073-210	【原因】 用紙トレイ 3 が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 3 の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。なお、用紙トレイ 3 以外の用紙トレイは使用できます。
074-210	【原因】 用紙トレイ 4 が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 4 の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。なお、用紙トレイ 4 以外の用紙トレイは使用できます。
077-311	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
077-330	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
078-210 078-211	【原因】 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）が故障しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
078-213 078-214	【原因】 用紙トレイ 5（手差し）が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 5（手差し）の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切ってから入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
078-250	【原因】 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
078-260	【原因】 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切ってから入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
078-261	【原因】 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）または用紙トレイ 7（大容量給紙トレイ）が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）用紙トレイ 7（大容量給紙トレイ）の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切ってから入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
078-262 078-263 078-264 078-265 078-266 078-267 078-268 078-269 078-270 078-271	【原因】 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ）の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切ってから入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください
078-272 078-273 078-274 078-275 078-276 078-277 078-278 078-279 078-280 078-281	【原因】 大容量給紙トレイが故障しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
078-282 078-283	【原因】 用紙トレイ 5（手差し）が故障しました。 【処置】 用紙トレイ 5（手差し）の用紙セット状態を確認し、本機の電源を切ってから入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
081-799	【原因】 ［宛先表によるファクス転送制限］が［する］に設定されているが、受信文書のファクス転送先が宛先表に登録されていません。 【処置】 転送先のファクス番号を宛先表に登録するか、［宛先表によるファクス転送制限］を［しない］に設定してください。
091-311	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
091-312	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
091-313	【原因】 エラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示されたときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
091-320	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示されたときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
093-311 093-320	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
093-430	【原因】 トナーカートリッジ（K）（ブラック）が装着されていません。 【処置】 トナーカートリッジ（K）（ブラック）を装着してください。
102-356	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
103-310 103-311 103-312 103-313 103-314	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
112-700	【原因】 フィニッシャーのパンチダストボックスが、切りくずでいっぱいになりました。 【処置】 パンチダストボックスの切りくずを捨ててください。 参照 • パンチダストボックスの切りくずを捨てる方法については、「パンチダストボックスの切りくずを捨てる（フィニッシャー C、中とじフィニッシャー C 装着時）」（P.xxx）、または「パンチダストボックスの切りくずを捨てる（中とじフィニッシャー D2 装着時）」（P.xxx）を参照してください
116-210 116-211 116-212	【原因】 USB メモリーにエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-220	【原因】 ダウンロードモードへの移行に失敗しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
116-310 116-311 116-312 116-313 116-314 116-315 116-316 116-317 116-318 116-319 116-321 116-322 116-323	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-324	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 プリントで発生した場合は、いったん本機の電源を切り、〈スタート〉ボタンと〈ストップ〉ボタンを同時に押した状態で本機の電源を入れ、その状態を 6 秒間保持してください。エラー発生の要因となったプリントデータが自動的に削除されて起動します。それ以外で発生した場合は、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-325 116-328 116-329 116-330 116-331 116-333 116-334 116-336 116-337 116-338	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-339	【原因】 ハードディスク未装着のまま、Job Based Accounting システムを起動しました。 【処置】 Job Based Accounting システムを利用する場合は、ハードディスクが必要です。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直して操作をリセットしてください。
116-340 116-341	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-342	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
116-343 116-345 116-346 116-347 116-348 116-349 116-350 116-351 116-352 116-353 116-354 116-355 116-356 116-357 116-358 116-359 116-360 116-361 116-362 116-363 116-364 116-365 116-366 116-367 116-368 116-370 116-371 116-372 116-373 116-374 116-375 116-376 116-377 116-378 116-379 116-380 116-381 116-382 116-383 116-384 116-385	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-386	【原因】 ファクスの接続ケーブルが、正しく接続されていません。 【処置】 接続ケーブルを正しく接続し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
116-387	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-388	【原因】 ハードディスクが取り付けられていません。 【処置】 ハードディスクを取り付けてください。 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-390	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 ディスプレイに表示されるメッセージに従って、本機のメモリーを初期化してください。
116-391 116-392 116-393 116-394 116-395 116-396 116-397 116-399	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-702	【原因】 代替フォントでプリントされました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
116-703	【原因】 PostScript（オプション）でエラーが発生しました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
116-704	【原因】 メディア内のデータを読み取るときにエラーが発生しました。 【処置】 メディアが正しく挿入されているか確認してください。
116-705 116-706 116-707 116-708 116-709	【原因】 メディア内のデータを読み取るときにエラーが発生しました。 【処置】 コンピューターで、メディアに記録されている内容を確認してください。
116-710	【原因】 受信データが HP-GL/2（オプション）スプールサイズを超えたため、正しい原稿サイズ判定が行われていない可能性があります。 【処置】 HP-GL/2 オートレイアウトメモリーの割り当て量を増やしてください。
116-711	【原因】 指定した ART EX フォームのサイズと向きが、プリントする用紙と合っていません。 【処置】 用紙のサイズと向きを、指定した ART EX フォームに合わせて、もう一度プリントを指示してください。
116-712	【原因】 ART EX フォームメモリーが不足したため、フォームが登録できません。 【処置】 不要なフォームを削除するか、ART EX フォームメモリーの領域を増やしてください。
116-713	【原因】 ハードディスクがいっぱいになったため、ジョブを分割してプリントしました。 【処置】 ハードディスク内の不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
116-714	【原因】 HP-GL/2（オプション）コマンドエラーが発生しました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
116-715	【原因】 ART EX フォームの登録上限数に達したので、フォームが登録できませんでした。 【処置】 不要なフォームを削除してください。フォームの登録上限数は、2048 です。
116-716 116-717	【原因】 メディア内のデータを読み取るときにエラーが発生しました。 【処置】 コンピューターで、メディアに記録されている内容を確認してください。
116-718	【原因】 指定した ART EX 用フォームは登録されていません。 【処置】 登録されているフォームを使用するか、フォームを登録してください。フォームの登録状態は、［ART EX フォーム登録リスト］で確認できます。 参照 •「ART EX フォーム登録リスト」(P.120) を参照してください。
116-720	【原因】 メモリーが不足したため、プリント処理時にエラーが起きました。 【処置】 不要なポートを停止したり、データを削除して、空き容量を増やしてください。
116-725	【原因】 本機のイメージログ格納領域が不足しているため、イメージログの書き込みに失敗しました。 【処置】 もう一度ジョブを実行してください。 それでも、同じエラーが発生する場合は、次のどちらかの方法で処置してください。 • 不要なイメージログを削除する • イメージログの［作成保証レベル］を［低］に変更する この場合作成されたイメージログの内容は保障されません。
116-737	【原因】 ART IV ユーザー定義メモリーが不足したため、ユーザー定義データが登録できません。 【処置】 不要なデータを削除するか、ART IV ユーザー定義メモリーの領域を増やしてください。
116-738	【原因】 指定した ART IV フォームのサイズと向きが、プリントする用紙と合っていません。 【処置】 用紙のサイズと向きを、指定した ART IV フォームに合わせて、もう一度プリントを指示してください。
116-739	【原因】 ART IV 用のメモリー、またはハードディスクの容量が不足して、フォーム、またはロゴデータが登録できません。 【処置】 不要なデータを削除するか、ART IV フォームメモリーの領域を増やしてください。
116-740	【原因】 プリントデータに本機の制限値を超える値が使用されているため、数値演算エラーが発生しました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
116-741	【原因】 ART IV フォームの登録上限数に達したので、フォームが登録できませんでした。 【処置】 不要なフォームを削除してください。フォームの登録上限数は、2048 です。
116-742	【原因】 ART IV ロゴデータの登録上限数に達したので、ロゴデータが登録できません。 【処置】 不要なロゴデータを削除してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
116-743	【原因】 ART IV 用のメモリーが不足して、フォーム、またはロゴデータが登録できません。 【処置】 メモリーの領域を増やしてください。
116-745	【原因】 ART IV コマンドエラーが発生しました。 【処置】 プリントデータを確認してください。
116-746	【原因】 指定した ART IV 用フォームは登録されていません。 【処置】 登録されているフォームを使用するか、フォームを登録してください。フォームの登録状態は、［ART IV,ESC/P ユーザー定義リスト］で確認できます。
116-747	【原因】 HP-GL/2（オプション）の有効座標エリアに対して、ペーパーマージン値が多すぎます。 【処置】 ペーパーマージン値を少なくして、もう一度プリントを指示してください。
116-748	【原因】 HP-GL/2（オプション）のプリントデータに描画データがありません。 【処置】 プリントデータを確認してください。
116-749	【原因】 指定されたフォントがないため、ジョブを中止しました。 【処置】 フォントをインストールするか、プリンタードライバー側でフォント置き換えを設定してください。
116-750	【原因】 バナーシートの給紙トレイに不具合があります。 【処置】 バナーシートの給紙トレイを正常な状態にもどすか、バナーシートの給紙トレイを変更してください。
116-751	【原因】 ハードディスクの容量がいっぱいで処理が中止されました。 【処置】 蓄積文書を削除してください。それでも状態が改善されないときは、ファイルを分割して処理してください。
116-752	【原因】 PDF のプリントジョブチケットの記述内容に問題があります。 【処置】 もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
116-771 116-772 116-773 116-774 116-775 116-776 116-777 116-778	【原因】 データに含まれるパラメーターに問題があったため、自動修正しました。 【処置】 プリントされた画像は完全ではない可能性があります。相手に画像の確認をするか、再送信を依頼してください。また、インターネットファクスの転送機能を設定している場合は、メールの宛先を確認してください。
116-780	【原因】 受信したメールの添付文書に問題があります。 【処置】 添付文書を確認してください。

エラーコード	原 因 / 処 置
116-790	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** ファクス親展受信またはインターネットファクス親展受信した文書を印刷中に、オペレーターが中止した場合 先頭の１部をホチキス留めをしないで印刷した。 **2.** 1. 以外の場合 すべての部数をホチキス留めをしないで印刷した。 【処置】 **1.** については、先頭の１部は手動でホチキス留めにしてください。または、ファクス親展受信またはインターネットファクス親展受信した文書を印刷中に、中止しないようにしてください。 **2.** については、ホチキスの設定位置が正しいかを確認し、もう一度実行してください。
117-310	【原因】 コンピューターから WSD を使って､スキャン操作中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度同じ操作を実施してください。 **補足** •「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
117-311	【原因】 データ上書き消去キットが正しいスロットに装着されていません。 【処置】 データ上書き消去キットを正しいスロットに装着してください。
117-312	【原因】 本機に異常が発生しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
117-319 117-320 117-321 117-322 117-323 117-324 117-326 117-327 117-329	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
117-331 117-332 117-333	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
117-334	【原因】 ソフトウェア処理中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
117-343	【原因】 次の原因が考えられます。 **1.** 仕様設定の［イメージログ管理］が無効で、かつ［イメージログ転送］が［使用する］の場合に、［転送動作］が［ジョブ単位で転送］に設定されている。 **2.** ［イメージログ転送］が無効（ハードディスク未装着）の場合に、［転送機能］が有効に設定されている。 【処置】 1. については、［転送動作］を［ジョブ単位で転送］以外に設定してください。 2. 本体にハードディスクを装着してください。または、［転送動作］を［ 一時停止 ］に設定してください。
117-347	【原因】 機械耐用寿命を遥かに越え、交換不能の部品が寿命となりました。機械交換の必要があるため、弊社販売店に連絡ください。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
117-348	【原因】 異なる機械で利用された未フォーマットの SD カードが本体に装着されました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
118-310	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
118-311	【原因】 ソフトウェア処理中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
121-310	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
121-311	【原因】 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 【処置】 IC Card Gate を接続している場合は、［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］>［認証情報の設定］>［IC カード連携モード］が［パスワード入力必要］に変更されます。必要に応じて、設定を変更してください。
121-312	【原因】 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 【処置】 EP システムの関連機器を接続しないで本機を起動し、［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］で［認証方式の設定］を［外部認証］以外の設定にしてください。
121-313	【原因】 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 【処置】 EP システムの関連機器を接続しないで本機を起動し、［仕様設定 / 登録］>［認証 / セキュリティ設定］>［認証の設定］で［認証方式の設定］を［外部認証］以外の設定にしてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
121-314 121-316 121-317 121-318 121-319 121-320 121-321 121-322 121-323 121-324	【原因】 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
121-325	【原因】 本機の起動時に、本機が許容できない組み合わせを検知したため、［IC カード接続時の認証 ］の設定を自動的に［IC カードのみ ］に変更しました。このエラーは以下の条件がすべて満たされたときに発生します。 • USB 接続の IC カードリーダーと EP 関連商品が併用されている • ［ 認証方式の設定 ］が［ 本体認証 ］に設定されている • ［ICカード接続時の認証］が［ICカードまたはパネル入力］に設定されている 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • IC カードとパネル入力の認証を併用しない。 ［IC カード接続時の認証 ］が自動的に［IC カードのみ ］に変更されたので、そのままご利用になれます。特に処置は必要ありません。 • USB 接続の IC カードリーダーのみ本機に接続し、IC カードとパネル入力の認証を併用する。 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
121-326	【原因】 4Gnet-BOX を使用した LTE 通信で、回線の切断に失敗しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
121-333	【原因】 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 【処置】 接続機器の電源が入っているか確認し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
121-334 121-335 121-336 121-337 121-338	【原因】 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
121-339	【原因】 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 【処置】 CoinKit の単価テーブルを確認してください。単価テーブルに未設定の単価ある場合は、単価設定を修正し、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
121-340 121-350 121-370	【原因】 本機と接続機器の間でエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
123-310 123-311 123-312 123-325 123-326 123-333 123-343 123-344 123-350 123-352 123-353 123-354 123-355 123-356 123-357 123-358 123-362 123-368 123-369 123-371 123-374 123-377 123-379 123-380 123-381 123-382 123-383 123-384 123-389 123-390 123-392 123-393 123-395 123-396 123-397 123-398 123-399	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
124-310 124-311 124-312 124-313 124-314 124-315 124-316 124-317 124-318 124-319 124-320 124-321 124-322 124-323 124-324 124-325 124-326 124-327 124-328 124-329 124-330 124-331 124-332 124-333 124-334 124-335 124-336 124-337 124-338 124-339 124-340 124-341 124-342 124-343 124-344 124-345 124-346 124-347 124-348 124-349 124-350 124-351 124-352 124-353 124-354 124-355 124-360 124-361 124-362 124-363	**【原因】** 本機にエラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
124-372 124-373 124-374 124-380 124-381 124-382 124-383 124-390 124-391 124-392 124-393	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
124-702	【原因】 指定した排出先（フィニッシャートレイ）が故障しているため、排出先を変更しました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。なお、故障している排出トレイ以外の排出トレイは使用できます。
124-705	【原因】 パンチの設定を解除しました。 【処置】 パンチの設定位置が正しいか確認し、もう一度実行してください。
124-706	【原因】 紙折りの設定を解除しました。 【処置】 紙折りの設定が正しいか確認し、もう一度実行してください。
124-708	【原因】 用紙の排出先が、指定したトレイではなく、排出トレイまたはフィニッシャートレイに排出されました。次の原因が考えられます。 **1.** 両面指定時に指定した用紙サイズと異なるサイズの用紙が送られた **2.** フィニッシャーのパンチが故障した 【処置】 **1.** については、指定したサイズの用紙が用紙トレイにセットされているか確認してください。 **2.** については、操作パネルに、012-231、012-232、012-233、012-234 のどれかのエラーコードが表示されていることを確認して、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
124-709	【原因】 ホチキスで留められる枚数を超えています。 【処置】 ホチキスで留められる枚数を超えないようにするか、ホチキスの設定を解除し、もう一度実行してください。
124-710	【原因】 指定した排出先から排出できません。排出できない用紙サイズや紙質が指定されているか、排出先が故障しています。 【処置】 操作は必要ありません。自動で利用可能な排出先を選択して排出されます。正しい用紙サイズや紙質を指定しても、指定した排出先から排出されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
125-311	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
127-210 127-211	【原因】 本機と Print Server の間で通信エラーが発生しました。 【処置】 Print Server の接続ケーブルをいったん抜いてから、もう一度差し込んでください。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。

エラーコード	原 因 / 処 置
127-212	【原因】 本機と Print Server の間で通信エラーが発生しました。 【処置】 Print Server の接続ケーブルをいったん抜いてから、もう一度差し込んでください。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
127-213	【原因】 本機と Print Server の間で通信エラーが発生しました。 【処置】 本機およびPrint Serverのソフトウェアを最新のバージョンに更新してください。
127-220 127-221	【原因】 本機と Print Server の間で通信エラーが発生しました。 【処置】 Print Server の接続ケーブルをいったん抜いてから、もう一度差し込んでください。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
127-310 127-311 127-312 127-313 127-314 127-315 127-320 127-337 127-342 127-353 127-354 127-396 127-398 127-399	【原因】 本機にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
127-700	【原因】 SIP レジストラーサーバーが利用できません。 【処置】 SIP　レジストラーサーバーが利用可能な状態になっているか確認してください。また、本機の仕様設定で、[SIP レジストラサーバー] が正しく設定されているか確認してください。
133-210 133-211 133-212 133-213 133-214 133-215 133-216 133-217 133-218 133-219 133-220 133-221 133-222 133-223 133-224	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
133-226	【原因】 本機で対応していない国コードが指定されました。 【処置】 弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

エラーコード	原 因 / 処 置
133-280 133-281 133-282 133-283	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
133-700	【原因】 ホチキス / パンチの設定を解除しました。 【処置】 ホチキス / パンチの設定位置が正しいか確認し、もう一度実行してください。
133-701	【原因】 宛先名、発信元名、コメント、自局名のいずれかに使用できない文字が含まれていたため文字を置き換えました。 【処置】 宛先名、発信元名、コメント、自局名に本機で使用可能な文字を入力してください。使用可能な文字の種類がわからない場合は、英数字のみに限定してください。 参照 • 入力できる漢字は、「操作パネルで表示できる漢字一覧」(P.761) を参照してください。
133-710	【原因】 ファクスの受信文書をプリントするときに、使用できない用紙トレイが指定されたので、手差しトレイの用紙にプリントしました。 【処置】 次のどれかの方法で処置してください。 • ファクスの受信プリントに使用できるサイズの用紙をセットする • ファクスの受信プリントに使用できる紙質の用紙をセットする 普通紙、上質紙、再生紙、裏紙、ユーザー用紙が使用可能です。 • [仕様設定] > [ファクス設定] > [ファクス動作制御] > [受信紙宣言] の設定を確認する 1. [受信紙宣言] > [トレイモード] の用紙トレイに、ファクスの受信プリントに使用する用紙トレイを追加する 2. [トレイモード] で指定した用紙トレイで受信ファクスのプリントができるように用紙をセットする それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店に連絡ください。
134-210	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
134-211	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、電源を入れ直したあとに、もう一度同じ操作を実施してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

その他のエラーについて

次のようなメッセージが表示された場合の処置について説明します。

エラー メッセージ	原因 / 処置
故障が発生しました。電源を切り入りしてください。(xxx-yyy)	**【原因】** エラーが発生しました。 **【処置】** 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。 ふたたび同じメッセージが表示された場合は、「(xxx-yyy)」の表示内容を書き写してください。そのあと、本機の電源および主電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
異常終了しました。 (xxx-yyy)	**【原因】** エラーが発生して異常終了しました。 **【処置】** もう一度同じ操作を指示してください。
機械内部に異常が発生したため、自動的に再起動しました。[閉じる]を押してください。なおらないときは、カストマーコンタクトセンターに故障を連絡してください。 (xxx-yyy)	**【原因】** 機械内部で自動復帰可能なエラーが発生し、自動で再立ち上げをしました。 **【処置】** [閉じる]を押すと、その後は正常に使用できます。ふたたび同じエラーが発生した場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターにご連絡ください。

用紙が詰まった場合

用紙が詰まると、機械が停止してアラームが鳴ります。また、ディスプレイには、メッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

用紙は破れないように、ゆっくり取り除いてください。取り出す途中で紙が破れたときも紙片を機械の中に残さないで、すべて取り除いてください。

処置を終了しても紙づまりのメッセージが表示されるときは、ほかの箇所でも用紙が詰まっています。メッセージに従って処置してください。

紙づまりの処置が終了すると、自動的に用紙が詰まる前の状態からプリントが再開されます。

コピーの途中の場合は〈スタート〉ボタンを押すと、用紙が詰まる前の状態からコピーが再開されます。

> ⚠警告
> トレイを引き抜いて紙詰まり処理を行う場合には、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。お客様自身で行うと思わぬケガをするおそれがあります。

> ⚠注意
> 機械内部に詰まった用紙や紙片は無理に取り除かないでください。
> 特に、定着部やローラー部に用紙が巻き付いているときは無理に取らないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。ただちに電源スイッチを切り、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

ここでは、次の箇所で発生した紙づまりの処置方法について説明しています。

参照先は、次のとおりです。

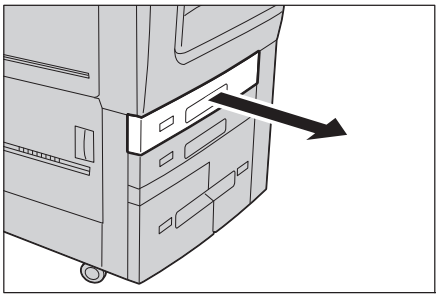
用紙トレイ 1 、 2 での紙づまり 671
用紙トレイ 3 での紙づまり 672
用紙トレイ 4 での紙づまり 672
用紙トレイ 5（手差し）での紙づまり 673
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）での紙づまり 675
用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ 2 段）（オプション）での紙づまり 678
用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ 2 段）（オプション）の正面カバー内部での紙づまり 678
転写ユニットでの紙づまり 682
左側面部での紙づまり 688
排出口での紙づまり 689
フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 での紙づまり 690
紙折りユニット CD1 での紙づまり 697
フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 での紙づまり 701

注記
- 紙づまりが発生したとき、紙づまり位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、紙づまりの位置を確認してから、処置をしてください。
- 紙片が本機内に残っていると、紙づまりの表示は消えません。
- 紙づまりの処置をするときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、本機のメモリー上に蓄えられた情報が消去されます。
- 本機内部の部品には触れないでください。印字不良の原因になります。

用紙トレイ 1、2 での紙づまり

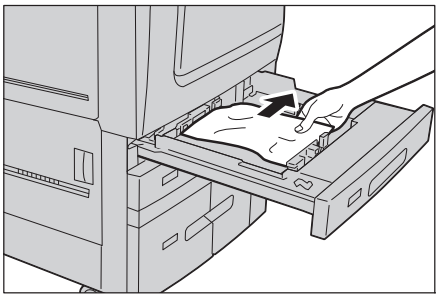
用紙トレイ 1、2 で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1 用紙が詰まっている用紙トレイを引き出します。



注記
- 紙づまりの位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、ディスプレイで紙づまりの位置を確認してから処置をしてください。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



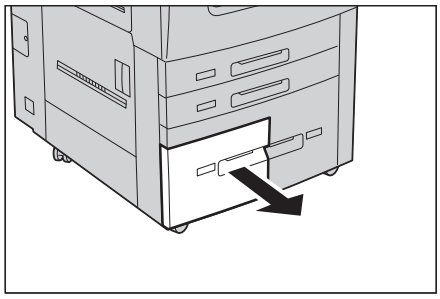
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

用紙トレイ 3 での紙づまり

用紙トレイ 3 で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

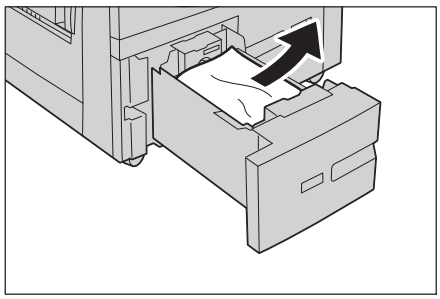
1 用紙トレイ 3 を引き出します。



注記

- 紙づまりの位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、ディスプレイで紙づまりの位置を確認してから処置をしてください。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



補足

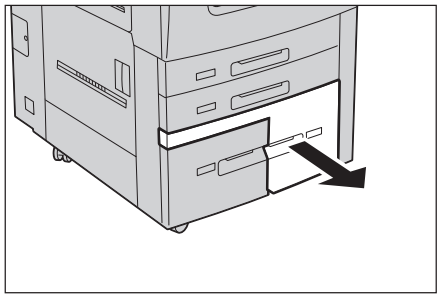
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

用紙トレイ 4 での紙づまり

用紙トレイ 4 で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

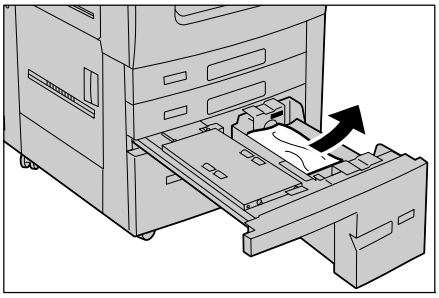
1 用紙トレイ 4 を引き出します。



注記

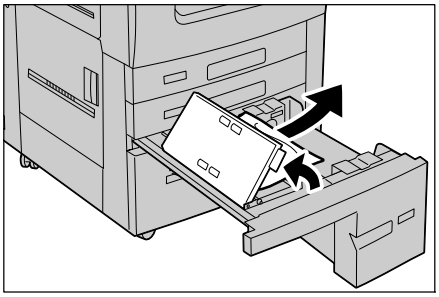
- 紙づまりの位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、ディスプレイで紙づまりの位置を確認してから処置をしてください。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 用紙搬送部に用紙が詰まっている場合は、中のカバーを開けて用紙を取り除きます。



4 奥に突き当たるところまで、トレイをゆっくりと押し込みます。

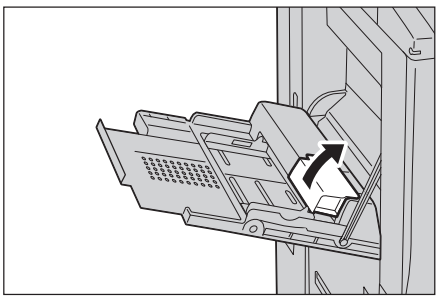
用紙トレイ 5（手差し）での紙づまり

用紙トレイ 5（手差し）で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

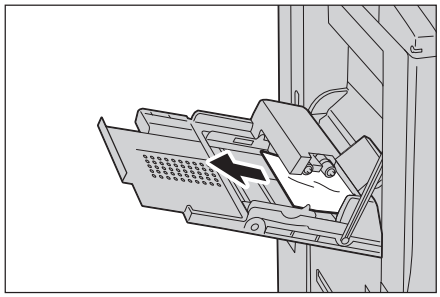
大容量給紙トレイ（2 段）を装着していない場合 673
大容量給紙トレイ（2 段）を装着している場合 674

大容量給紙トレイ（2 段）を装着していない場合

1 用紙トレイ 5（手差し）の上面カバーを開けます。



2 用紙トレイ 5（手差し）から、セットしてある用紙のすべてを取り除きます。



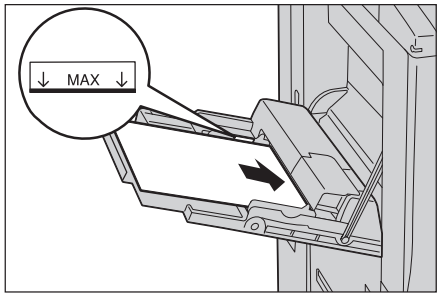
注記
- 用紙を複数枚セットしていたときは、いったんすべての用紙を取り出してください。

補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 用紙トレイ 5（手差し）の上面カバーを閉じます。

4 取り出した用紙の四隅をそろえます。

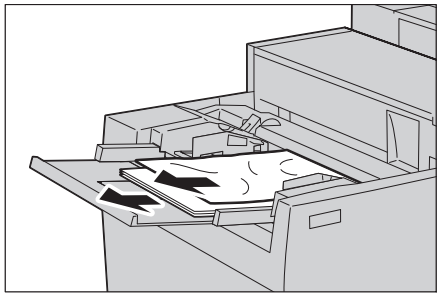
5 プリントしたい面を上にして、差し込み口に軽く突き当たるまで入れます。



補足
- 用紙上限線（図の「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

大容量給紙トレイ（2 段）を装着している場合

1 用紙トレイ 5（手差し）から、セットしてある用紙のすべてを取り除きます。

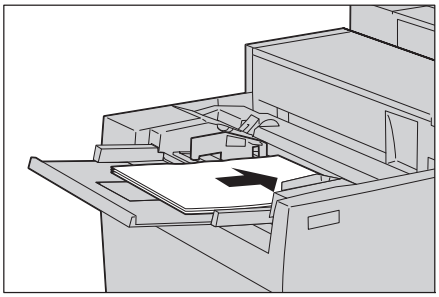


注記
- 用紙を複数枚セットしていたときは、いったんすべての用紙を取り出してください。

補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

2 取り出した用紙の四隅をそろえます。

3 プリントしたい面を上にして、差し込み口に軽く突き当たるまで入れます。



補足

- 用紙上限線（図の「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）での紙づまり

オプションの用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

ここでは、次の箇所で発生した紙づまりの処置方法について説明しています。

参照先は、次のとおりです。

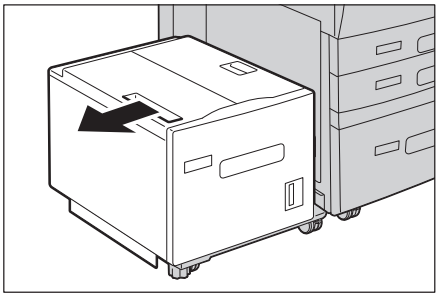
排出口で詰まった場合 675
上部カバー内で詰まった場合 676
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）内で詰まった場合 677

補足

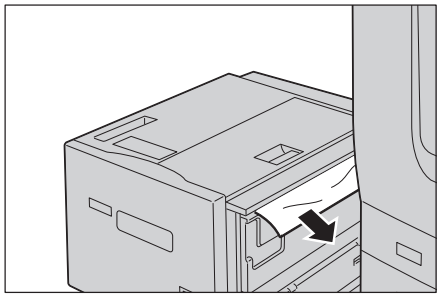
- 用紙が詰まる箇所によって処置方法が異なります。表示されたメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

排出口で詰まった場合

1 用紙トレイ 6 の上部左側にある取っ手を持って、左方向へ止まるまでゆっくりと移動します。



2 詰まっている用紙を取り除きます。

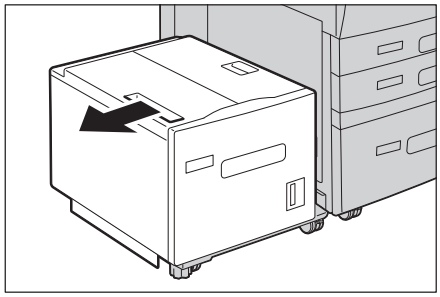


補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

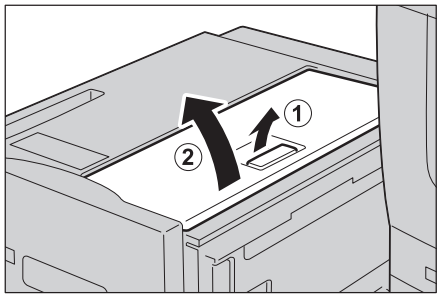
3 用紙トレイ 6 をゆっくりと元に戻します。

上部カバー内で詰まった場合

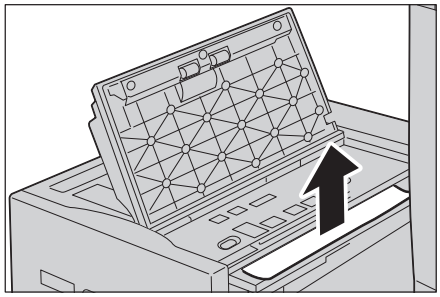
1 用紙トレイ 6 の上部左側にある取っ手を持って、左方向へ止まるまでゆっくりと移動します。



2 用紙トレイ 6 の上部カバーを開けます。



3 詰まっている用紙を取り除きます。



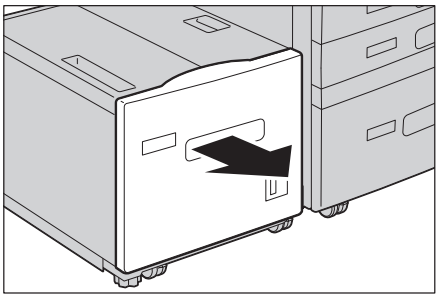
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 用紙トレイ 6 の上部カバーを閉じます。

5 用紙トレイ 6 をゆっくりと元に戻します。

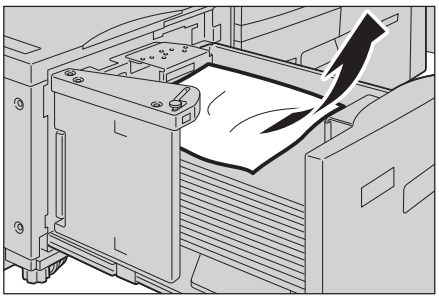
用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）内で詰まった場合

1 用紙トレイ 6 を、手前に止まるところまで引き出します。



> ⚠注意
> 用紙トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。トレイを勢いよく引き出すと、ひざなど身体にぶつかりケガの原因となるおそれがあります。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



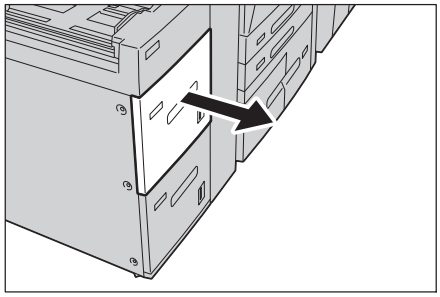
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ 2 段）（オプション）での紙づまり

用紙トレイ 6 および 7（大容量給紙トレイ 2 段）を装着している場合に、用紙トレイ 6 または 7 で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

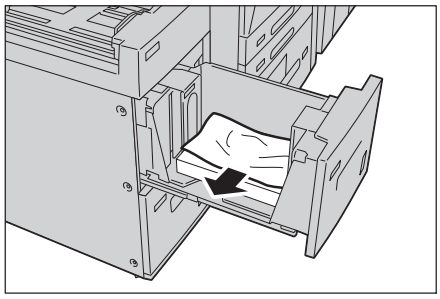
1 用紙が詰まっている用紙トレイを引き出します。



注記

- 紙づまりの位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、ディスプレイで紙づまりの位置を確認してから処置をしてください。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

用紙トレイ 6、7（大容量給紙トレイ 2 段）（オプション）の正面カバー内部での紙づまり

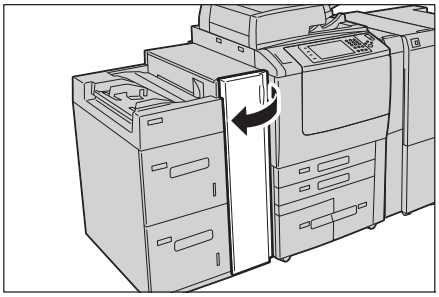
用紙トレイ 6 および 7（大容量給紙トレイ 2 段）（オプション）を装着している場合に、正面カバー内部で発生した紙づまりの処置について説明します。

ここでは、次の箇所で発生した紙づまりの処置方法について説明しています。

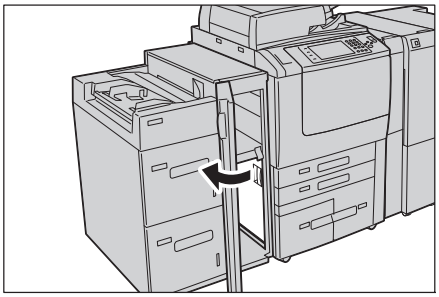
本体の左側面部での紙づまり.....679
レバー［1a］、ノブ［1c］での紙づまり.....680
レバー［1b］での紙づまり.....681
レバー［1d］での紙づまり.....682

本体の左側面部での紙づまり

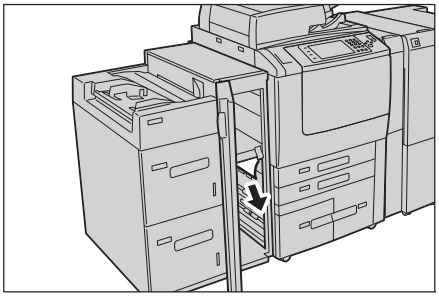
1 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーを開けます。



2 本体の左側面下部カバーの取っ手 [1] を握りながら、開きます。



3 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

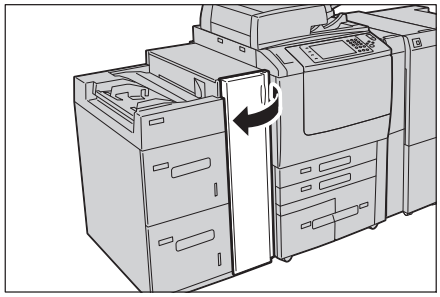
4 本体の左側面下部カバー [1] を閉じます。

5 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーを閉じます。

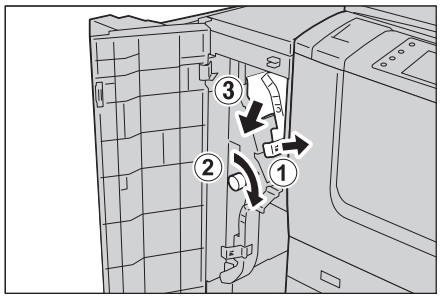
補足
- 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー [1a]、ノブ [1c] での紙づまり

1 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーを開けます。

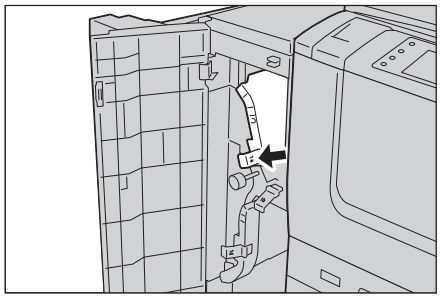


2 レバー [1a] を右方向に開けてから（①）、ノブ [1c] を右方向に回し（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー [1a] を戻します。

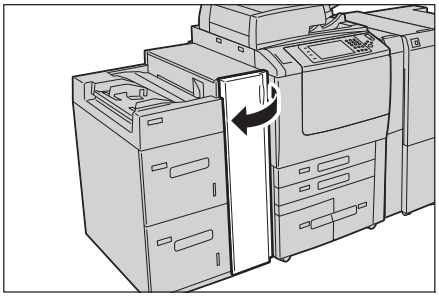


4 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーを閉じます。

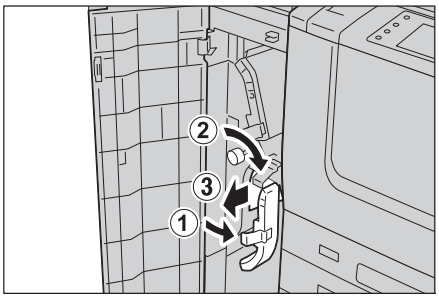
補足
- 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー［1b］での紙づまり

1 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーを開けます。

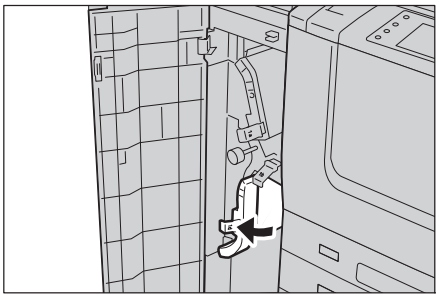


2 レバー［1b］を右方向に開いてから（①）、ノブ［1c］を右方向に回し（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー［1b］を戻します。

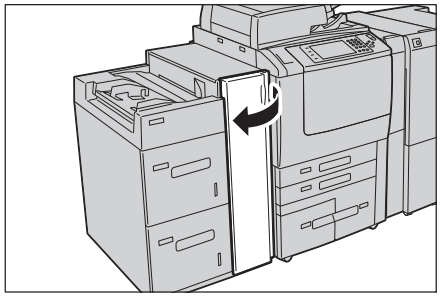


4 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーを閉じます。

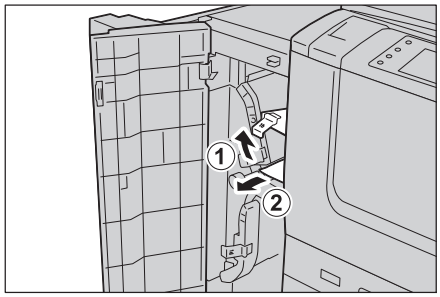
補足
- 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー［1d］での紙づまり

1 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーを開けます。

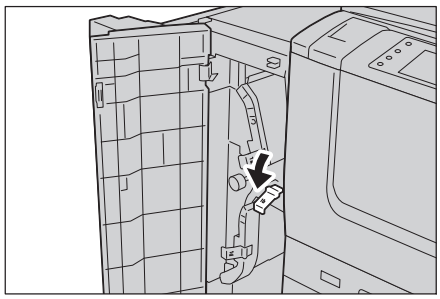


2 レバー［1d］を上方向に開けて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー［1d］を戻します。



4 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーを閉じます。

補足
- 大容量給紙トレイ 2 段の正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

転写ユニットでの紙づまり

転写ユニットで発生した紙づまりの処置方法について説明します。

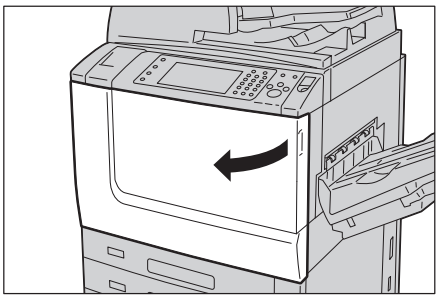
ここでは、次の箇所で発生した紙づまりの処置方法について説明しています。

レバー［2b］での紙づまり 683
レバー［2d］、ノブ［2c］での紙づまり 684
レバー［2e］での紙づまり 685
レバー［2f］、ノブ［2g］での紙づまり 687

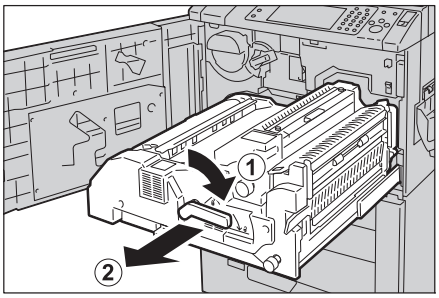
レバー［2b］での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。

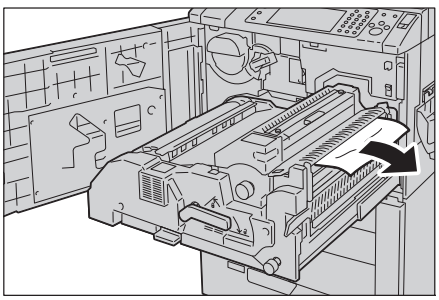
注記
- 転写ユニットを引き出す前に、機械左右のカバー部や手差しトレイ、排出口、大容量給紙トレイ（1段）、大容量給紙トレイ（2段）（オプション）、フィニッシャー（オプション）部に用紙が残っていないか画面表示を確認してください。これらの箇所に用紙が残ったまま転写ユニットを引き出すと、用紙が破れることがあります。



2 転写ユニット中央にある、緑色のレバー［2］を右方向に水平になるまで回して（①）、転写ユニットを手前に止まるところまで引き出します（②）。

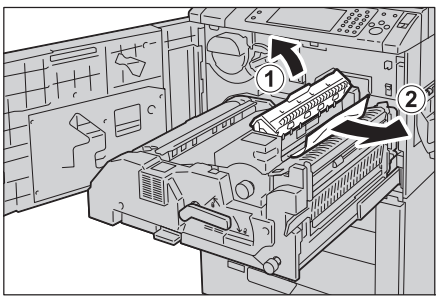


3 見えている用紙を取り除きます。



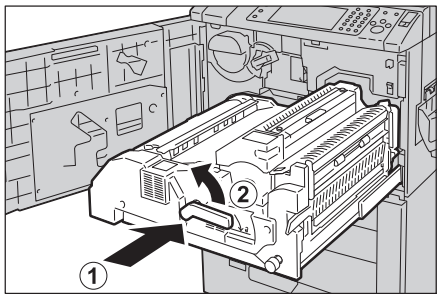
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 レバー［2b］を左方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます。（②）



5 レバー［2b］を元に戻します。

6 転写ユニットを完全に奥まで押し込み（①）、緑色のレバー［2］を左方向に回します（②）。



補足
- レバーを回せない場合は、転写ユニットを途中まで引き出してから、再度押し込んでください。

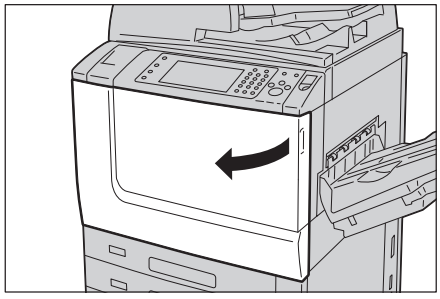
7 正面カバーを閉じます。

補足
- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

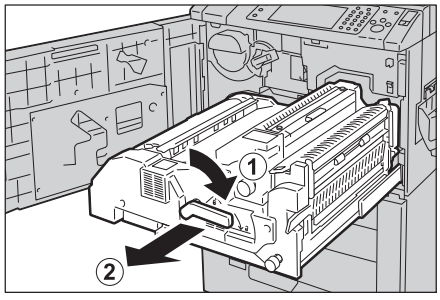
レバー［2d］、ノブ［2c］での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。

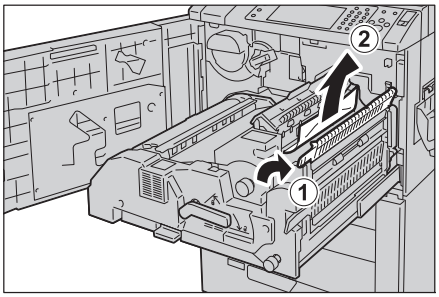
注記
- 転写ユニットを引き出す前に、機械左右のカバー部や手差しトレイ、排出口、大容量給紙トレイ（1段）（オプション）、大容量給紙トレイ（2 段）（オプション）、フィニッシャー（オプション）部に用紙が残っていないか画面表示を確認してください。これらの箇所に用紙が残ったまま転写ユニットを引き出すと、用紙が破れることがあります。



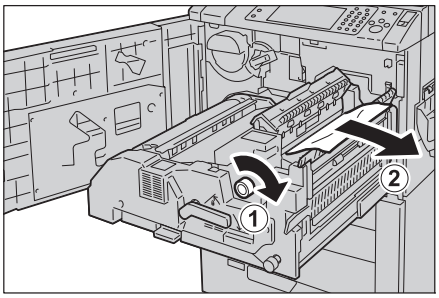
2 転写ユニット中央にある、緑色のレバー［2］を右方向に水平になるまで回して（①）、転写ユニットを手前に止まるところまで引き出します（②）。



3 レバー［2d］を右方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。

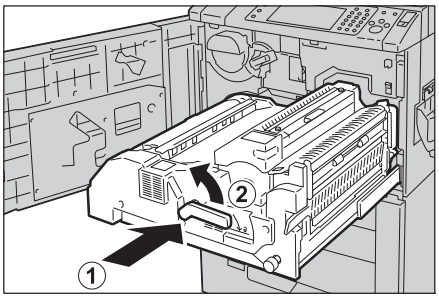


4 ノブ［2c］を右方向に回して（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



5 レバー［2d］を元に戻します。

6 転写ユニットを完全に奥まで押し込み（①）、緑色のレバー［2］を左方向に回します（②）。



補足
- レバーを回せない場合は、転写ユニットを途中まで引き出してから、再度押し込んでください。

7 正面カバーを閉じます。

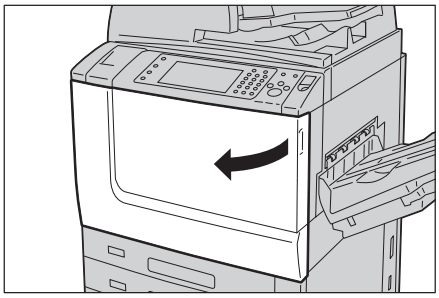
補足
- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー［2e］での紙づまり

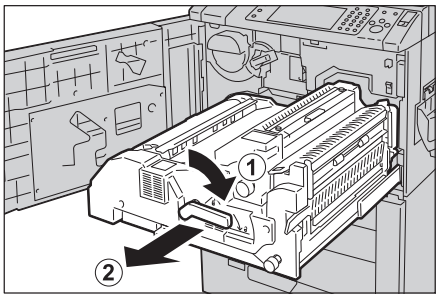
1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。

注記
- 転写ユニットを引き出す前に、機械左右のカバー部や手差しトレイ、排出口、大容量給紙トレイ（1段）（オプション）、大容量給紙トレイ（2 段）（オプション）、フィニッシャー（オプション）部に

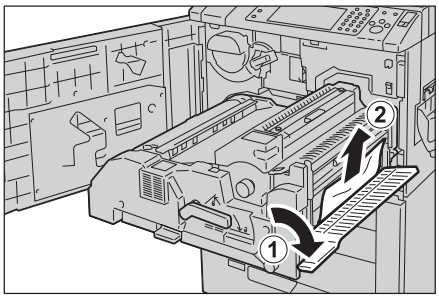
用紙が残っていないか画面表示を確認してください。これらの箇所に用紙が残ったまま転写ユニットを引き出すと、用紙が破れることがあります。



2 転写ユニット中央にある、緑色のレバー [2] を右方向に水平になるまで回して（①）、転写ユニットを手前に止まるところまで引き出します（②）。

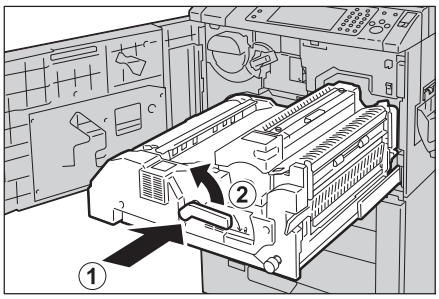


3 レバー [2e] を右方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



4 レバー [2e] を元に戻します。

5 転写ユニットを完全に奥まで押し込み（①）、緑色のレバー [2] を左方向に回します（②）。



補足

- レバーを回せない場合は、転写ユニットを途中まで引き出してから、再度押し込んでください。

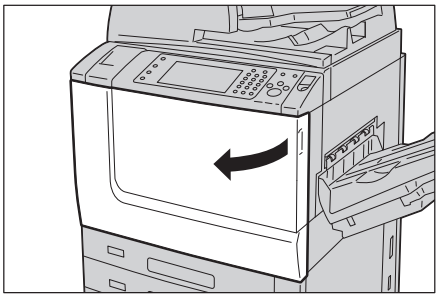
6 正面カバーを閉じます。

補足
- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

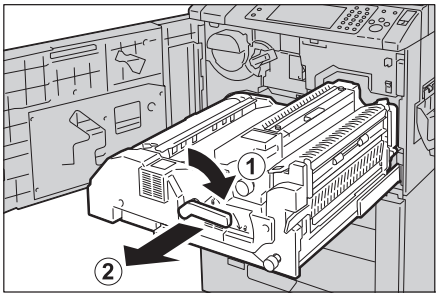
レバー [2f]、ノブ [2g] での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。

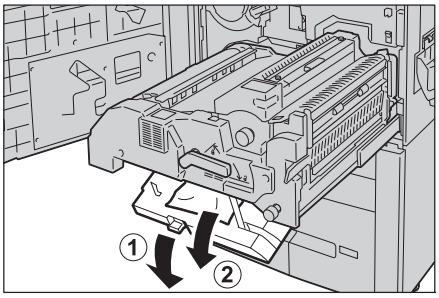
注記
- 転写ユニットを引き出す前に、機械左右のカバー部や手差しトレイ、排出口、大容量給紙トレイ（1段）（オプション）、大容量給紙トレイ（2 段）（オプション）、フィニッシャー（オプション）部に用紙が残っていないか画面表示を確認してください。これらの箇所に用紙が残ったまま転写ユニットを引き出すと、用紙が破れることがあります。



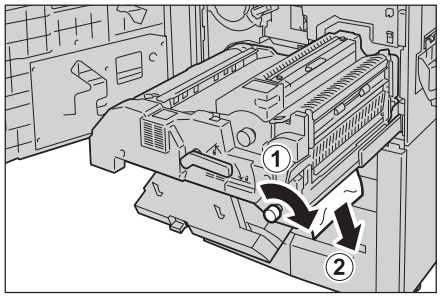
2 転写ユニット中央にある、緑色のレバー [2] を右方向に水平になるまで回して（①）、転写ユニットを手前に止まるところまで引き出します（②）。



3 レバー [2f] を下方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。

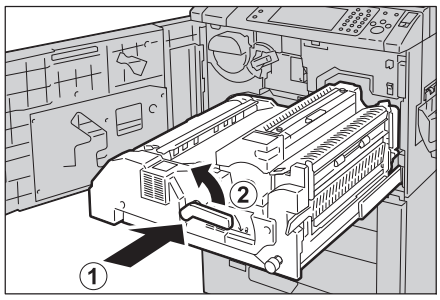


4 ノブ [2g] を右方向に回して（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



5 レバー [2f] を元に戻します。

6 転写ユニットを完全に奥まで押し込み（①）、緑色のレバー［2］を左方向に回します（②）。



補足
- レバーを回せない場合は、転写ユニットを途中まで引き出してから、再度押し込んでください。

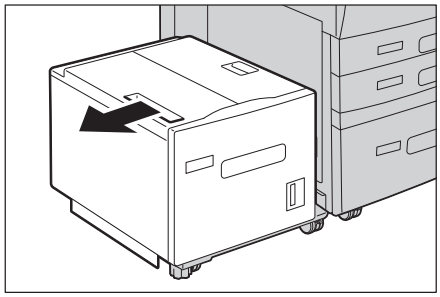
7 正面カバーを閉じます。

補足
- 正面カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

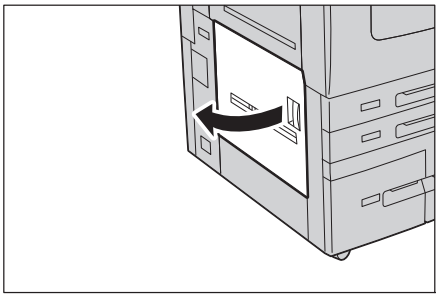
左側面部での紙づまり

左側面部で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

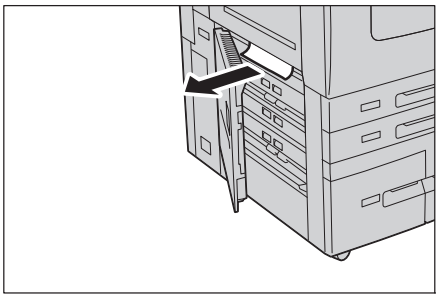
1 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））が装着されている場合は、トレイの上部左側にある取っ手を持って、左方向へ止まるまでゆっくりと移動します。



2 本体の左側面下部カバーの取っ手を握りながら、開けます。



3 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 左側面下部カバーを閉じます。

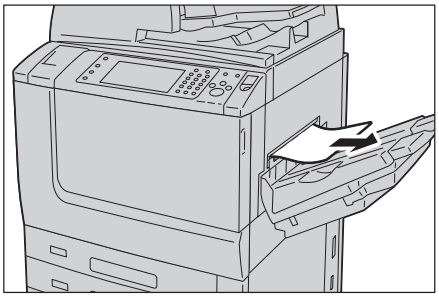
補足
- 左側面下部カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

5 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ 1 段）が装着されている場合は、ゆっくりと元に戻します。

排出口での紙づまり

排出口で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1 排出トレイの排出口に詰まっている用紙を引き抜きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 での紙づまり

オプションのフィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に、フィニッシャー内部で発生した紙づまりの処置について説明します。

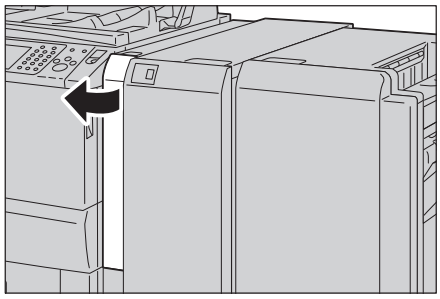
フィニッシャー接続部での紙づまり 690
レバー「3a」での紙づまり 691
レバー「3a」での紙づまり（ノブ「3b」を使う場合）.....691
レバー「3c」での紙づまり 693
レバー「3d」での紙づまり 694
レバー「3d」での紙づまり（排出口から用紙が出ている場合）.....695
中とじユニット「4」での紙づまり（中とじフィニッシャー C3 のみ）.....695
製本トレイ「4a」での紙づまり（中とじフィニッシャー C3 のみ）.....696

補足

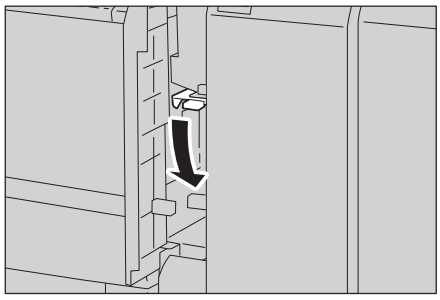
- 用紙が詰まる箇所によって処置方法が異なります。ディスプレイに表示されたメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

フィニッシャー接続部での紙づまり

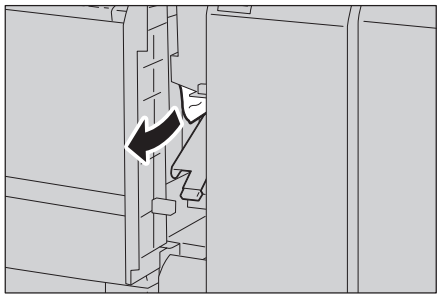
1 フィニッシャー接続部のカバーを開けます。



2 レバー「1a」を下方向に開きます。



3 詰まっている用紙を取り除きます。

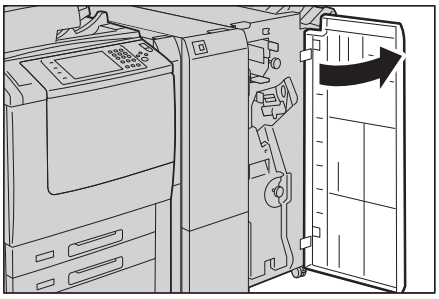


4 レバー「1a」を元に戻します。

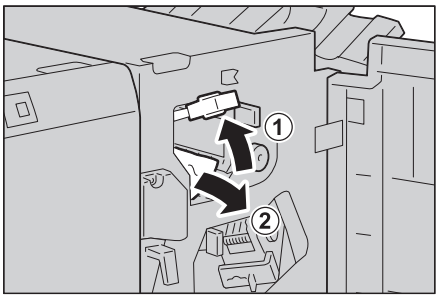
5 フィニッシャー接続部のカバーを閉じます。

レバー「3a」での紙づまり

1 フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



2 レバー「3a」を上方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

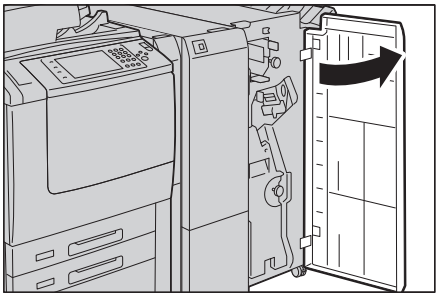
3 レバー「3a」を元に戻します。

4 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

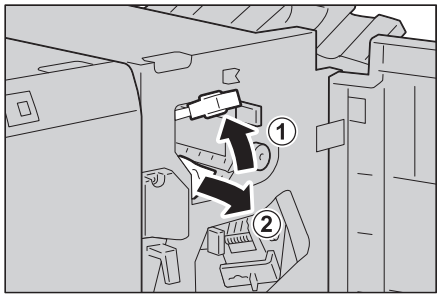
補足
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「3a」での紙づまり（ノブ「3b」を使う場合）

1 フィニッシャーのフロントカバーを開けます。

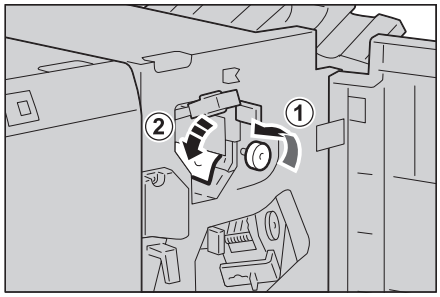


2 レバー「3a」を上方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。

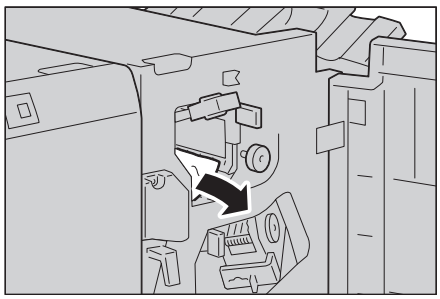


補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 ノブ「3b」を左方向に回して（①）、詰まっている用紙を送り出します（②）。



4 用紙をゆっくり引き抜き、取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

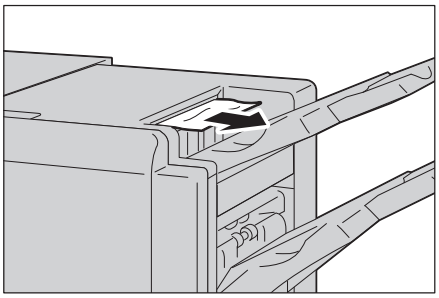
5 レバー「3a」を元に戻します。

6 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

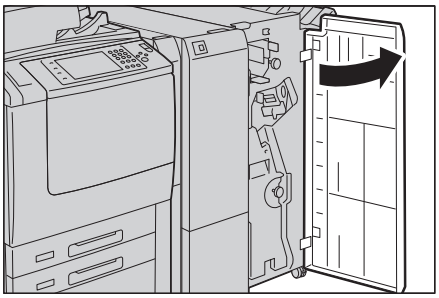
補足
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「3c」での紙づまり

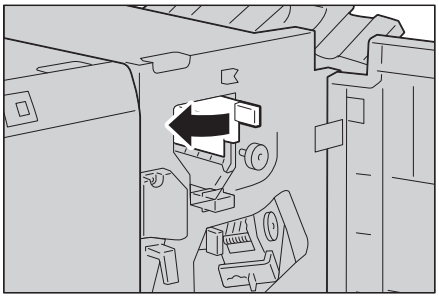
1 排出トレイの排出口から用紙が出ている場合は、用紙をゆっくり引き抜いて、取り除きます。取り除けない場合、または排出口から用紙が出ていない場合は、手順 2 に進みます。



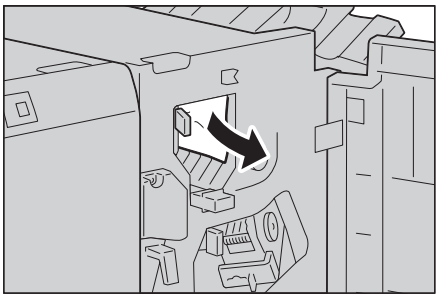
2 フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



3 レバー「3c」を左方向に開きます。



4 詰まっている用紙を取り除きます。



補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

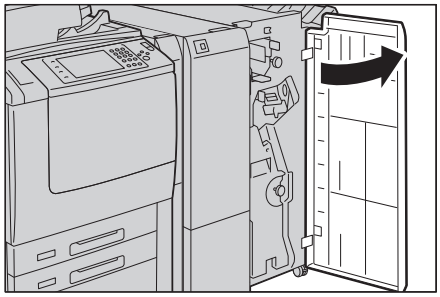
5 レバー「3c」を元に戻します。

6 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

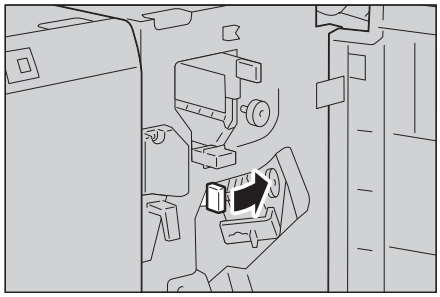
補足
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「3d」での紙づまり

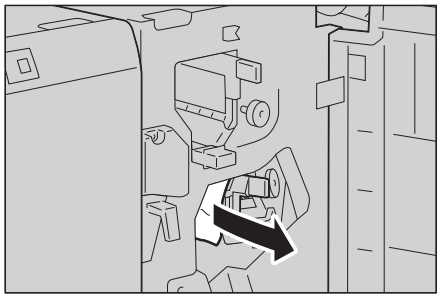
1 フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



2 レバー「3d」を右方向に開きます。



3 詰まっている用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

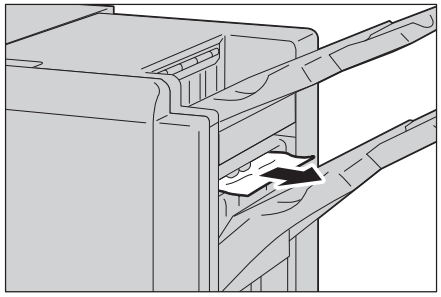
4 レバー「3d」を元に戻します。

5 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「3d」での紙づまり（排出口から用紙が出ている場合）

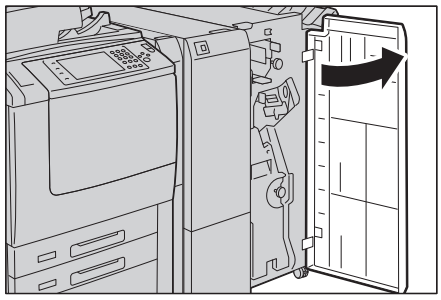
1 詰まっている用紙を、右方向にゆっくり引き抜いて、取り除きます。



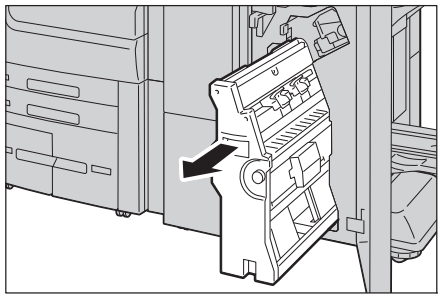
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

中とじユニット「4」での紙づまり（中とじフィニッシャー C3 のみ）

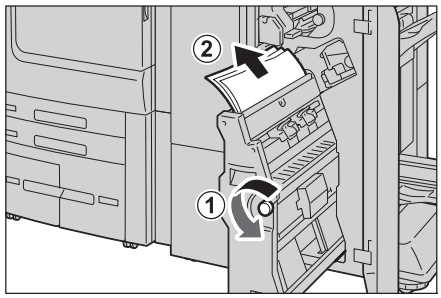
1 フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



2 中とじユニット「4」を引き出します。



3 ノブ「4a」を左方向に回して（①）、すべての用紙を取り除きます（②）。



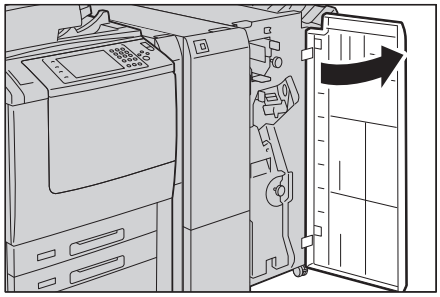
4 中とじユニット「4」を元に戻します。

5 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

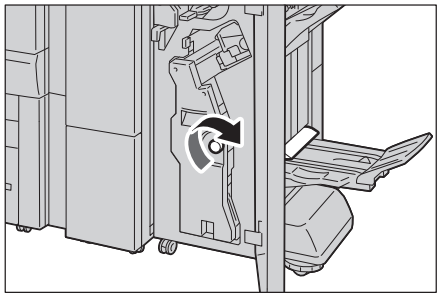
補足
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

製本トレイ「4a」での紙づまり（中とじフィニッシャー C3 のみ）

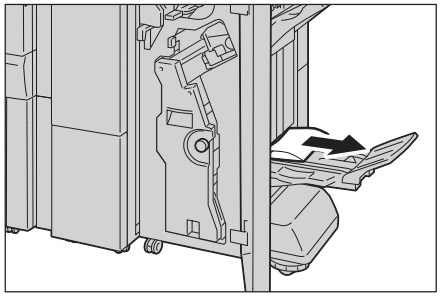
1 フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



2 ノブ「4a」を右方向に回して、用紙を製本トレイに送り出します。



3 用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

紙折りユニット CD1 での紙づまり

オプションの紙折りユニット CD1 を装着している場合に、紙折りユニットの内部で発生した紙づまりの処置について説明します。

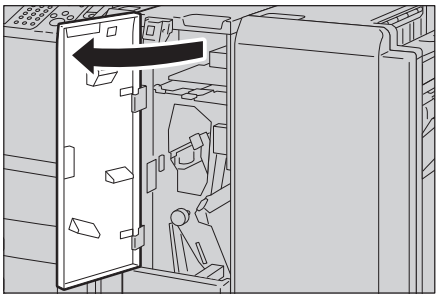
レバー「2a」での紙づまり 697
レバー「2b」での紙づまり 698
ノブ「2c」、レバー「2e」/「2f」、三つ折り排出トレイ「2d」での紙づまり 699
三つ折り排出トレイ「2d」、レバー「2g」での紙づまり 700

補足

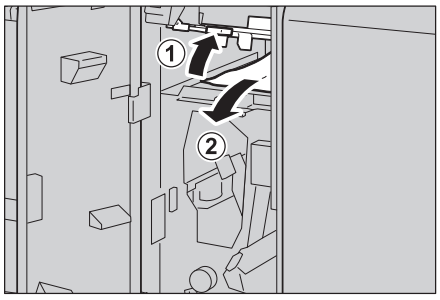
- 用紙が詰まる箇所によって処置方法が異なります。ディスプレイに表示されたメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

レバー「2a」での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、紙折りユニット CD1 のフロントカバーを開けます。



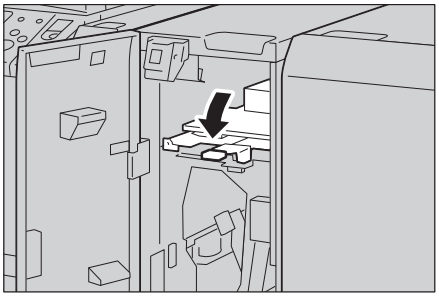
2 レバー「2a」を上方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー「2a」を戻します。

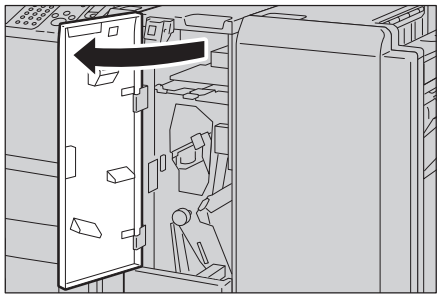


4 紙折りユニット CD1 のフロントカバーを閉じます。

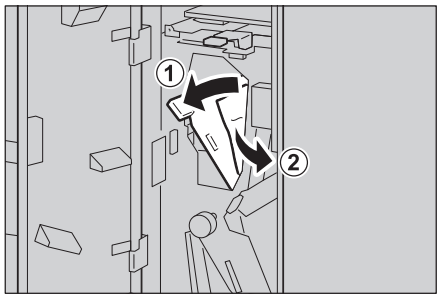
補足
- 紙折りユニット CD1 のフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー「2b」での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、紙折りユニット CD1 のフロントカバーを開けます。



2 レバー「2b」を左方向に開いて（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

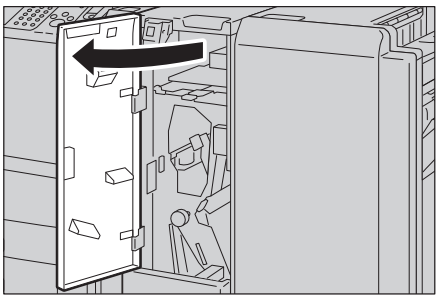
3 レバー「2b」を戻します。

4 紙折りユニット CD1 のフロントカバーを閉じます。

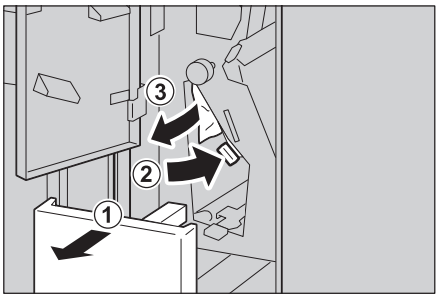
補足
- 紙折りユニット CD1 のフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

ノブ「2c」、レバー「2e」/「2f」、三つ折り排出トレイ「2d」での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、紙折りユニット CD1 のフロントカバーを開けます。

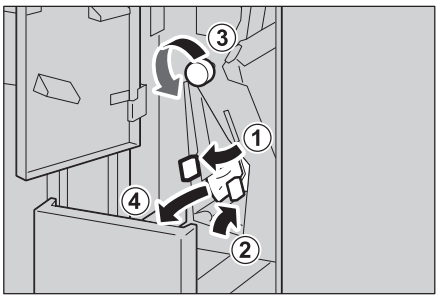


2 三つ折り排出トレイ「2d」を引き出し（①）、レバー「2e」を右方向に開き（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



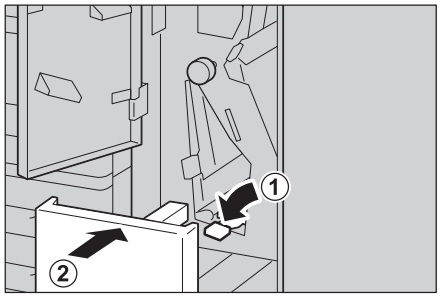
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 手順 2 で用紙が取り除けない場合は、レバー「2e」を戻してから（①）、レバー「2f」を開き（②）、ノブ「2c」を左方向に回し（③）、詰まっている用紙を取り除きます（④）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 開いたレバー（「2f」または「2e」）を元の位置に戻し（①）、三つ折り排出トレイ「2d」を戻します（②）。

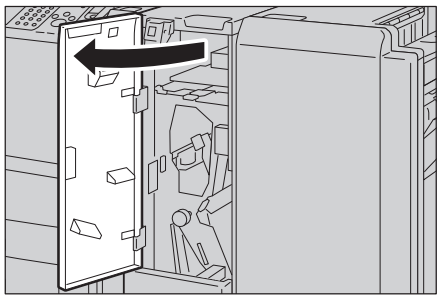


5 紙折りユニット CD1 のフロントカバーを閉じます。

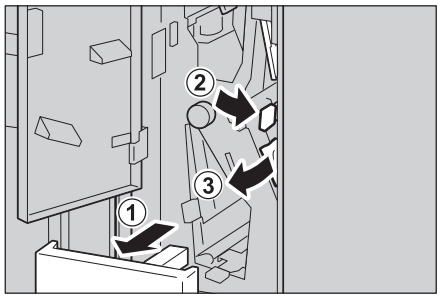
補足
- 紙折りユニット CD1 のフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

三つ折り排出トレイ「2d」、レバー「2g」での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、紙折りユニット CD1 のフロントカバーを開けます。

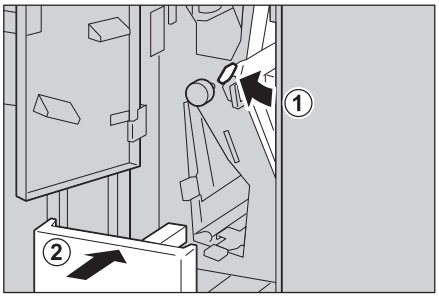


2 三つ折り排出トレイ「2d」を引き出し（①）、レバー「2g」を右方向に開き（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー「2g」を戻し（①）、三つ折り排出トレイ「2d」を戻します（②）。



4 紙折りユニット CD1 のフロントカバーを閉じます。

補足

- 紙折りユニット CD1 のフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 での紙づまり

オプションのフィニッシャー D2、または中とじフィニッシャー D2 を装着している場合に、フィニッシャー内部で発生した紙づまりの処置について説明します。

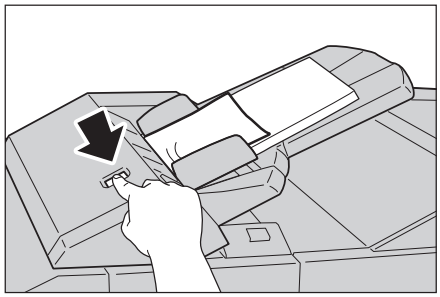
参照先は、次のとおりです。

用紙トレイ T1（インターポーザー）での紙づまり 701
レバー［1a］、ノブ［1c］での紙づまり 703
レバー［1d］での紙づまり 704
レバー［1b］での紙づまり 705
レバー［3b］/［3d］での紙づまり 706
レバー［3e］、ノブ［3c］での紙づまり 707
レバー［3g］、ノブ［3f］での紙づまり 708
レバー［4b］、ノブ［3a］での紙づまり 709
レバー［2a］、ノブ［3a］での紙づまり（紙折りユニット D2 装着時）.....710
レバー［2b］、ノブ［2c］での紙づまり（紙折りユニット D2 装着時）.....711
ノブ［2c］、レバー［2e］/［2f］、三つ折り排出トレイ［2d］での紙づまり （紙折りユニット D2 装着時）.....712
三つ折り排出トレイ［2d］、レバー［2g］での紙づまり（紙折りユニット D2 装着時）..713
ユニット［4］、ノブ［4a］での紙づまり 714
排出トレイでの紙づまり 715
フィニッシャートレイでの紙づまり 715
製本トレイでの紙づまり 716

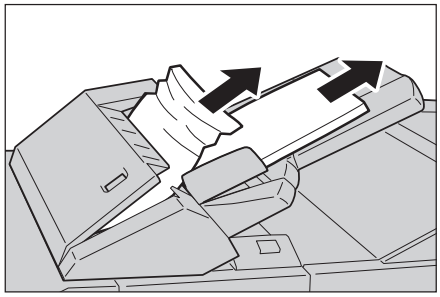
用紙トレイ T1（インターポーザー）での紙づまり

用紙トレイ T1（インターポーザー）で発生した紙づまりの処置方法について説明します。

1 カバーにあるボタン [1e] を押します。



2 カバー [1e] を開け、詰まっている用紙、およびセットしてある用紙のすべてを取り除きます。

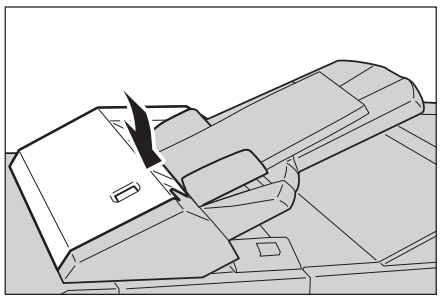


注記
- 用紙を複数枚セットしていたときは、いったんすべての用紙を取り出してください。

補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 取り出しておいた用紙の四隅をそろえ、用紙をセットし直します。

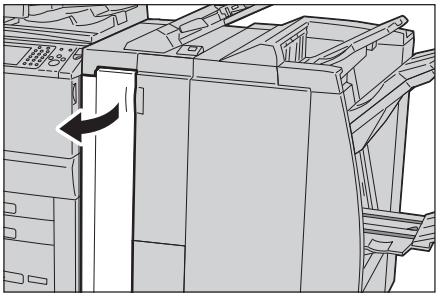
4 カバー [1e] を「カチッ」と音がするまで押して閉じます。



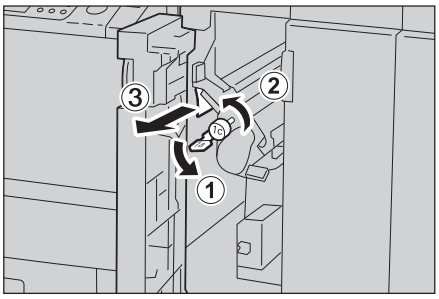
補足
- カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー［1a］、ノブ［1c］での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの左カバーを開けます。

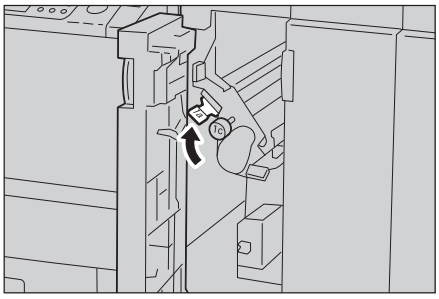


2 レバー［1a］を下方向に開けてから（①）、ノブ［1c］を左方向に回し（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー［1a］を戻します。

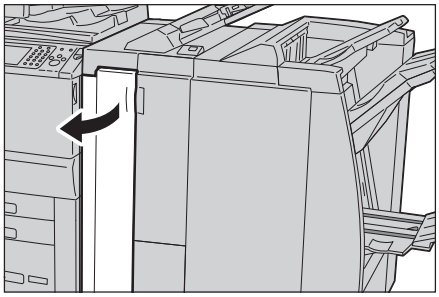


4 フィニッシャーの左カバーを閉じます。

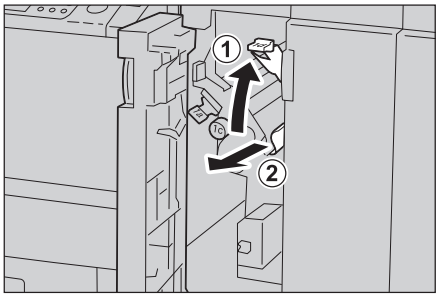
補足
- フィニッシャーの左カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー [1d] での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの左カバーを開けます。

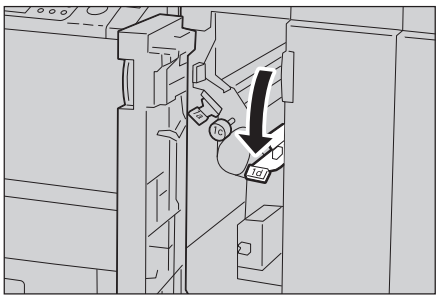


2 レバー [1d] を上方向に開き（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー [1d] を戻します。

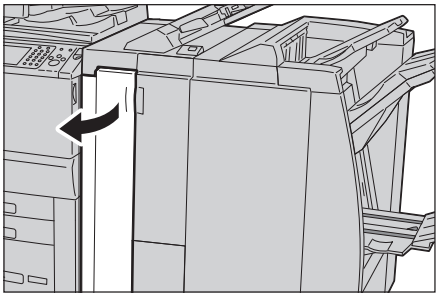


4 フィニッシャーの左カバーを閉じます。

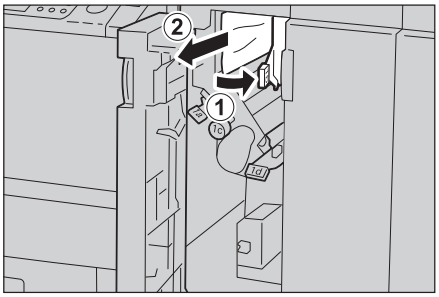
補足
- フィニッシャーの左カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー［1b］での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの左カバーを開けます。

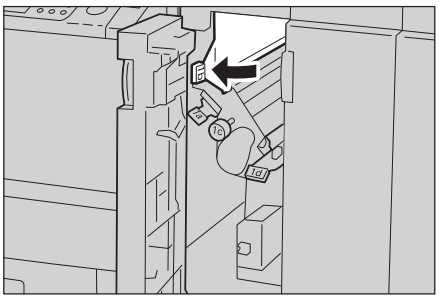


2 レバー［1b］を右方向に開き（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー［1b］を戻します。

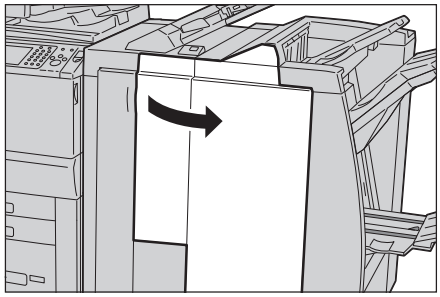


4 フィニッシャーの左カバーを閉じます。

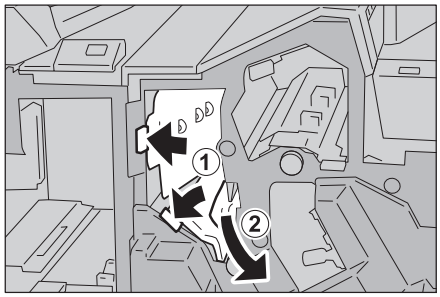
補足
- フィニッシャーの左カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー [3b]/[3d] での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。

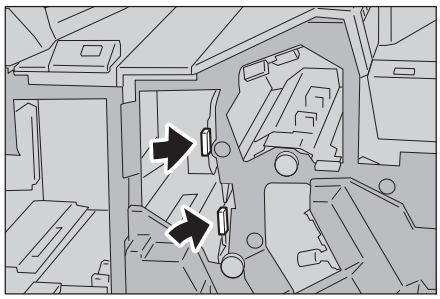


2 レバー [3b] と [3d] を開け（①）、詰まっている用紙を取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー [3b] と [3d] を戻します。

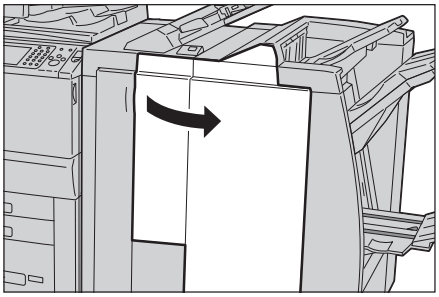


4 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

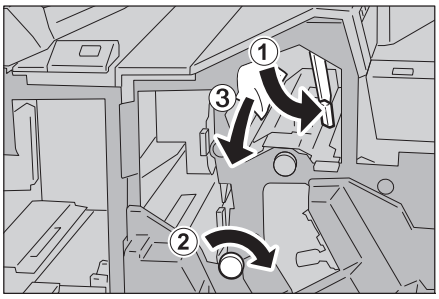
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー［3e］、ノブ［3c］での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。

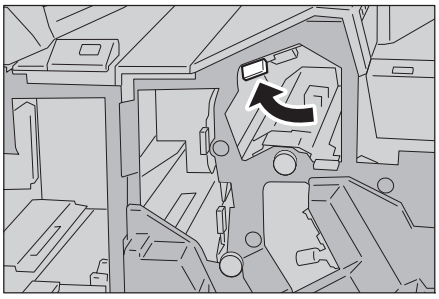


2 レバー［3e］を開けてから（①）、ノブ［3c］を右方向に回し（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー［3e］を戻します。

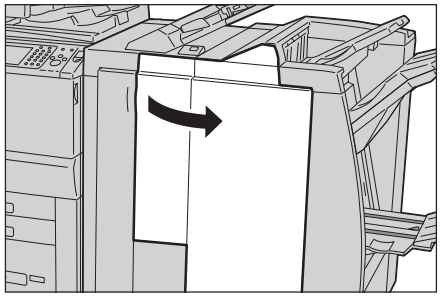


4 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

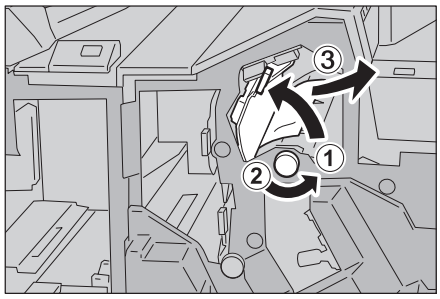
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー [3g]、ノブ [3f] での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。

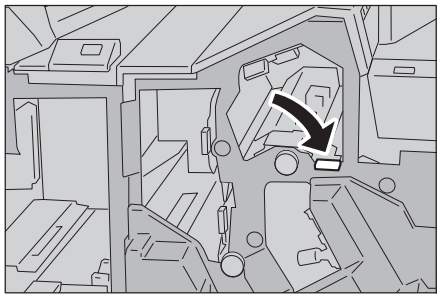


2 レバー [3g] を開けてから（①）、ノブ [3f] を左方向に回し（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー [3g] を戻します。

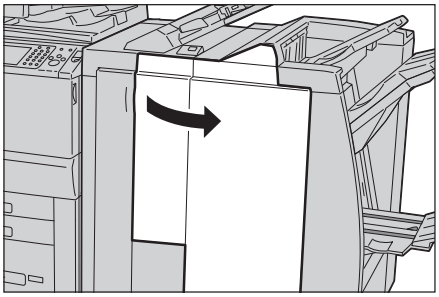


4 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

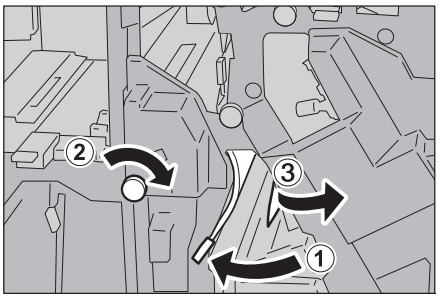
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー [4b]、ノブ [3a] での紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。

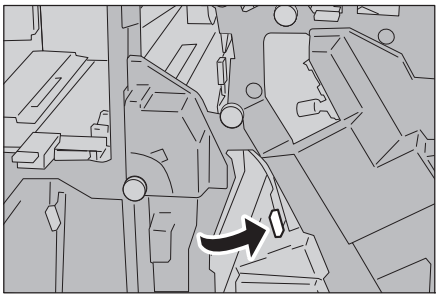


2 レバー [4b] を開けてから（①）、ノブ [3a] を右方向に回し（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー [4b] を戻します。

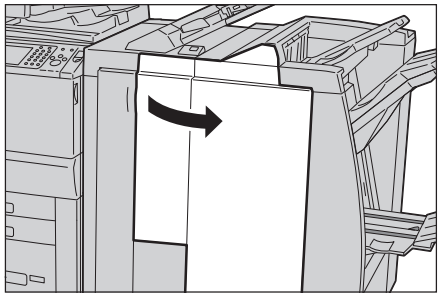


4 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

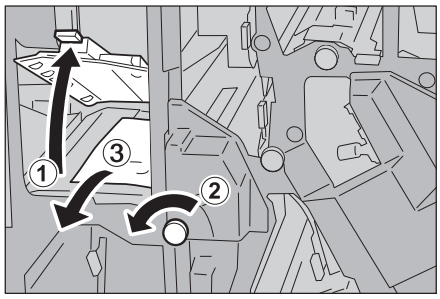
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー [2a]、ノブ [3a] での紙づまり（紙折りユニット D2 装着時）

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。

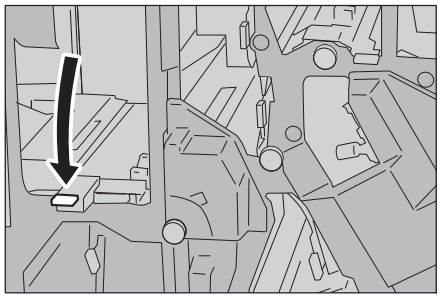


2 レバー [2a] を開けてから（①）、ノブ [3a] を左方向に回し（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー [2a] を戻します。

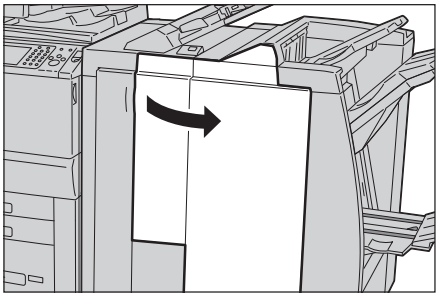


4 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

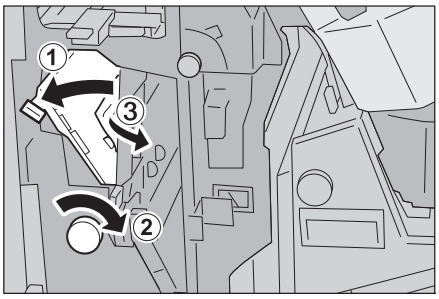
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

レバー [2b]、ノブ [2c] での紙づまり（紙折りユニット D2 装着時）

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。

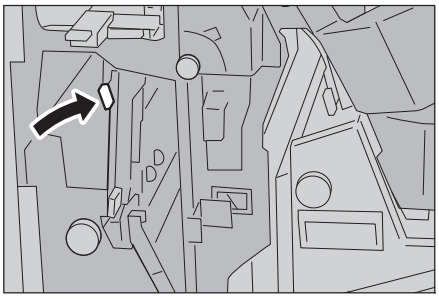


2 レバー [2b] を開けてから（①）、ノブ [2c] を右方向に回し（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー [2b] を戻します。

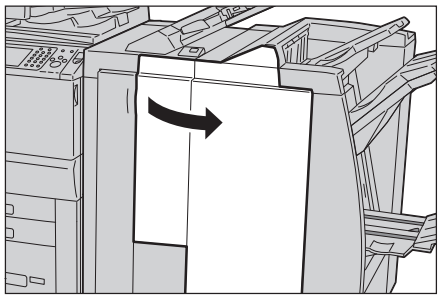


4 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

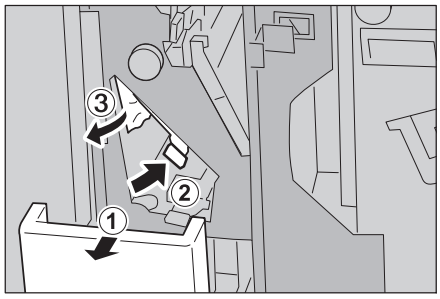
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

ノブ [2c]、レバー [2e]/[2f]、三つ折り排出トレイ [2d] での紙づまり（紙折りユニット D2 装着時）

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。



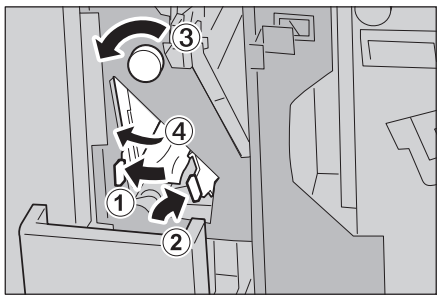
2 三つ折り排出トレイ [2d] を引き出し（①）、レバー [2e] を開き（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

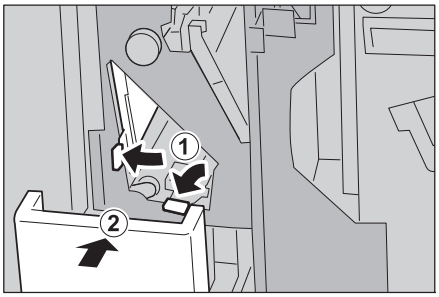
3 手順 2 で用紙が取り除けない場合は、レバー [2e] を戻してから（①）レバー [2f] を開き（②）、[2c] を左方向に回し（③）、詰まっている用紙を取り除きます（④）。



補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

4 開いたレバー（[2f] または [2e]）を戻し（①）、三つ折り排出トレイ [2d] を戻します（②）。

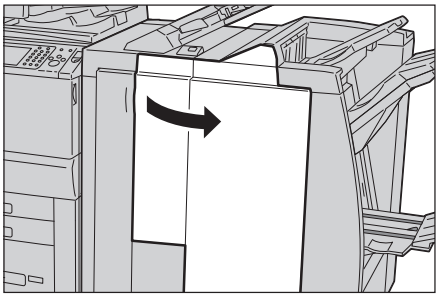


5 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

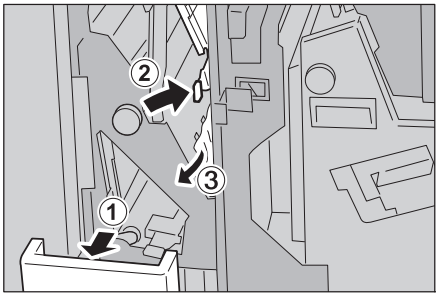
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

三つ折り排出トレイ [2d]、レバー [2g] での紙づまり（紙折りユニット D2 装着時）

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。

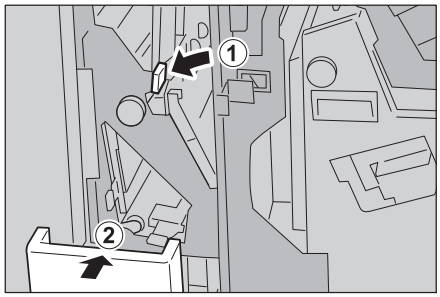


2 三つ折り排出トレイ [2d] を引き出し（①）、レバー [2g] を開き（②）、詰まっている用紙を取り除きます（③）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 レバー [2g] を戻し（①）、三つ折り排出トレイ [2d] を戻します（②）。

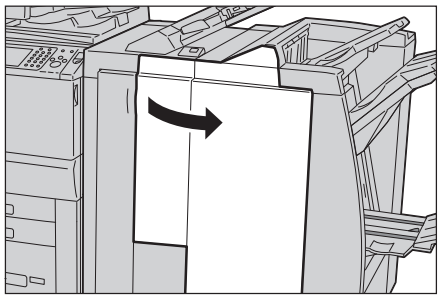


4 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

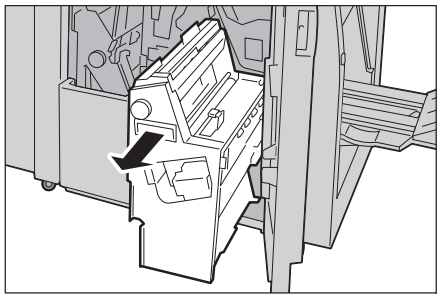
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

ユニット [4]、ノブ [4a] での紙づまり

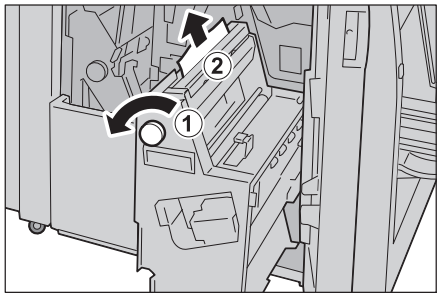
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。



2 ユニット [4] を引き出します。



3 ノブ [4a] を左方向に回し（①）、ユニット [4] 内部の用紙をすべて取り除きます（②）。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

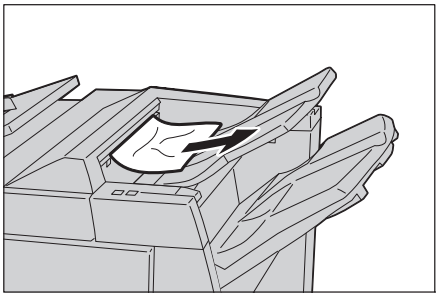
4 ユニット [4] を戻します。

5 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

排出トレイでの紙づまり

1 排出トレイの排出口に詰まっている用紙を引き抜きます。



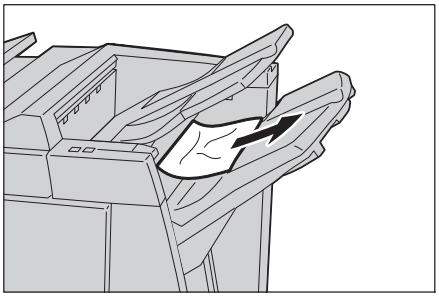
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

2 フィニッシャーの右カバーを開閉します。

補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

フィニッシャートレイでの紙づまり

1 フィニッシャートレイの排出口に詰まっている用紙を引き抜きます。



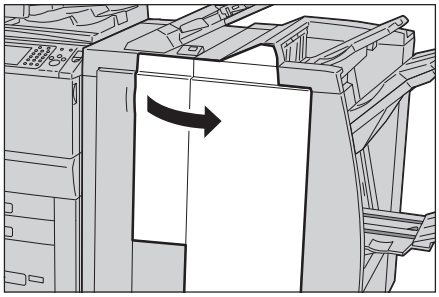
補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。
- ホチキスで留めた用紙が詰まった場合、曲がった針がユニットに引っかかり、用紙束が引き抜けないことがあります。用紙束を上方向に持ち上げるようにして引き抜いてください。

2 フィニッシャーの右カバーを開閉します。

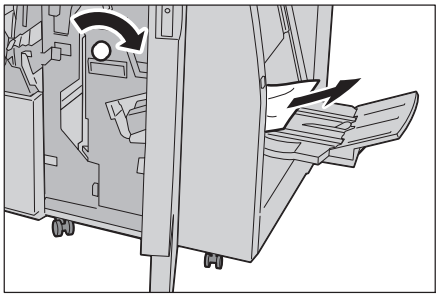
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

製本トレイでの紙づまり

1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。



2 ノブ［4a］を右方向に回して、製本トレイに排出された用紙を取り除きます。



補足
- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。

3 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

原稿が詰まった場合

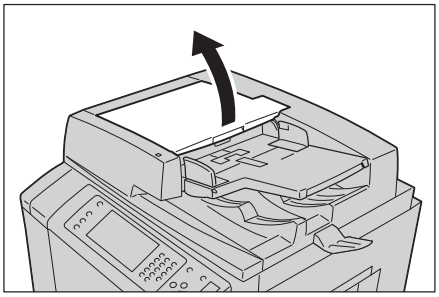
原稿送り装置に原稿が詰まると、機械が停止し、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って、原稿づまりの処置をしたあと原稿送り装置に原稿をセットし直します。

参照先は、次のとおりです。

原稿送り装置のカバー部での原稿づまり 717
原稿送り装置の読み込み部での原稿づまり 719

原稿送り装置のカバー部での原稿づまり

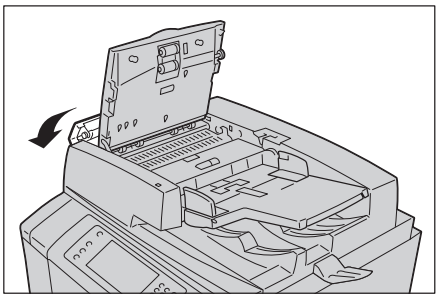
1 原稿送り装置の上面カバー手前の取っ手を引き上げて、上面カバーを止まるところまで開けます。



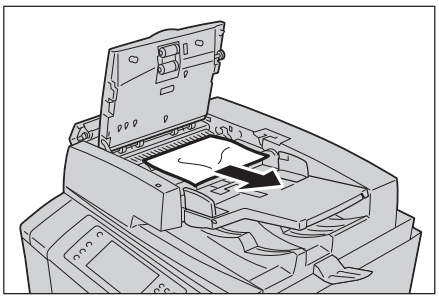
補足

- カバーを十分に開くと、固定される位置があります。カバーは、ゆっくりと開けてください。

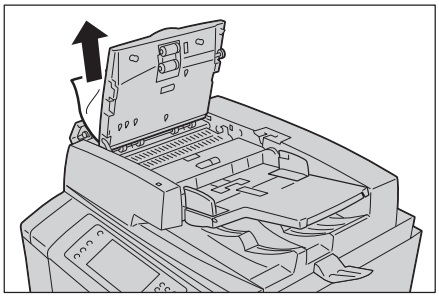
2 左カバーを止まるところまで開きます。



3 原稿が引き込み部にはさまっていない場合は、そのまま原稿を取り除きます。



4 メッセージに左カバー内に原稿が詰まっていると指示がある場合は、左カバーから詰まっている原稿を取り除きます。

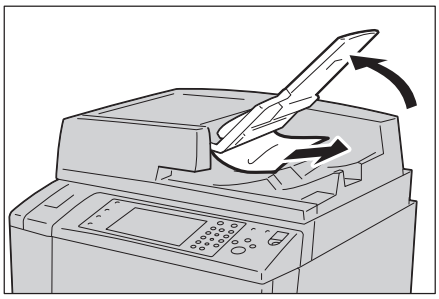


5 原稿送り装置の上面カバーを「カチッ」と音がするまで閉じ、カバーの手前や奥に浮きが無いことを確認します。

6 原稿送り装置の左カバーを「カチッ」と音がするまで閉じます。

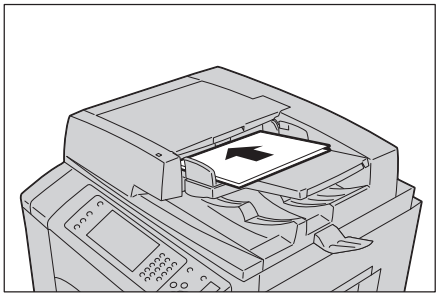
7 原稿が見つからない場合は、原稿送り装置を静かに持ち上げて、原稿があれば取り出し、原稿送り装置を閉じます。

8 手順 7 で、原稿が見つからない場合は、原稿送りトレイを持ち上げて、原稿を取り除きます。



9 原稿送りトレイを静かに戻します。

10 原稿に、破れ、しわ、折れがないことを確認し、ディスプレイに表示されているメッセージに従って、原稿をもう一度セットします。

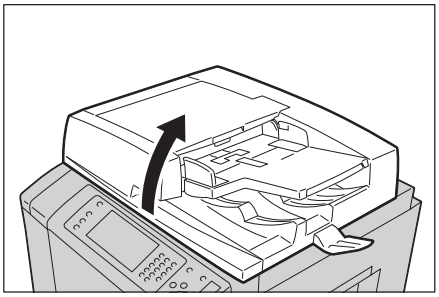


補足

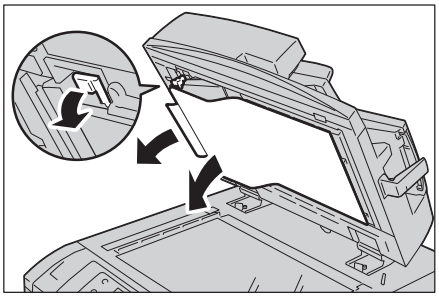
- 詰まっている原稿を取り除いたあとは、排出された原稿も含めて、すべての原稿をセットし直してください。読み込み済みの原稿は、自動的にスキップして読み込み前の原稿から読み込みを開始します。
- 原稿に破れ、しわ、折れがあると、原稿づまりや原稿破損の原因になります。このような場合は、原稿を原稿ガラスに直接セットしてコピーしてください。

原稿送り装置の読み込み部での原稿づまり

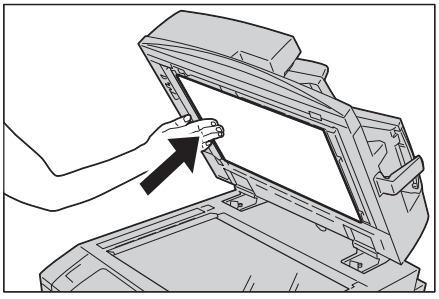
1 原稿カバーを上げます。



2 レバーをつまんで原稿押さえ部を開け、詰まっている原稿を取り除きます。



3 原稿押さえ部を静かに戻します。



4 原稿カバーを戻します。

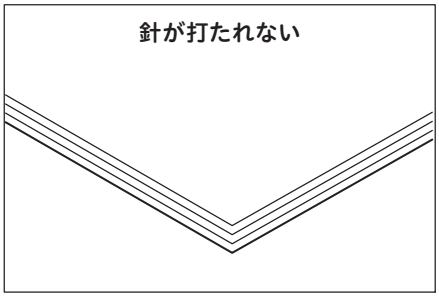
ホチキスがうまく留められないとき

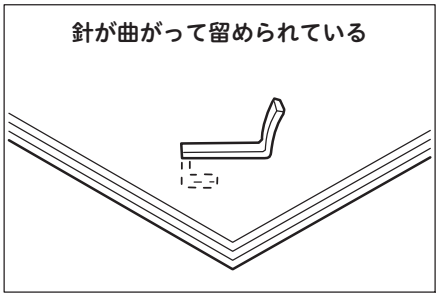
フィニッシャー（オプション）が装着されている場合に、ホチキスがうまく留められないときの対処方法を説明します。

ホチキス針が打たれなかったり、針が曲がって留められているときは、次ページの手順に従って対処してください。対処しても正常に戻らないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

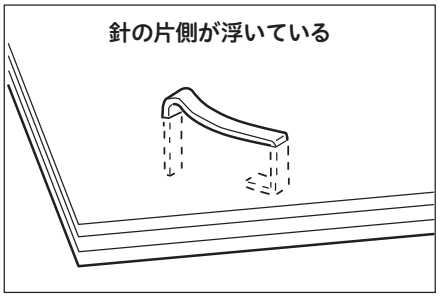
注記

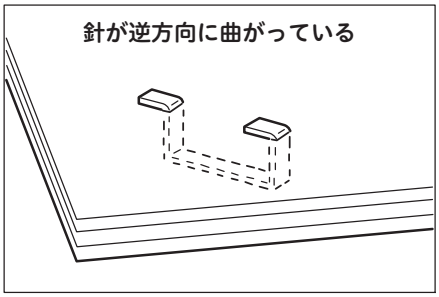
- ホチキスが正しく留まっていても、排出された用紙の取り扱い方によっては、針の先端が用紙から離れることがあります。

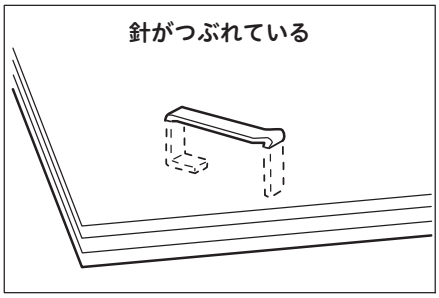


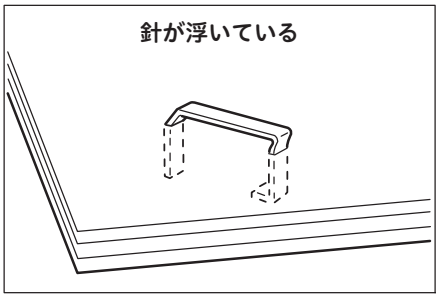


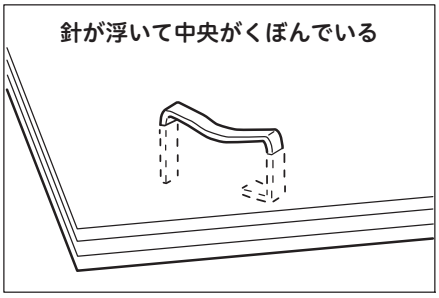
下図のように針が打たれているときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。











注記

- 中とじフィニッシャー D2 、中とじフィニッシャー D2 の場合、用紙の種類など使用条件によっては、針が曲がって留められたり、曲がった針がユニット内に引っかかって、紙づまりの原因になる

ことがあります。

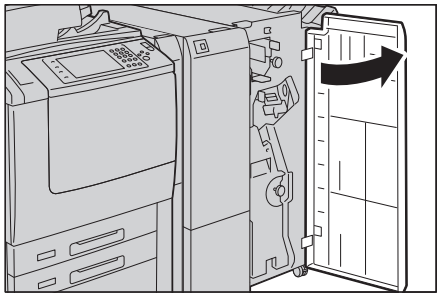
- ホチキスカートリッジのカバーを開けた場合は、曲がった針を必ずすべて取り除いてください。曲がった針を取り除かないと、針づまりの原因になります。ホチキスカートリッジのカバーは、詰まった針を取り除くときだけ使用してください。

平とじホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 装着時）

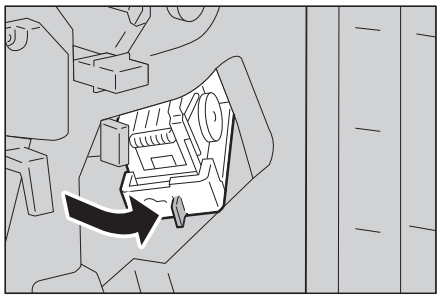
オプションのフィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合の、平とじホチキスカートリッジの針づまり処置について説明します。

> ⚠注意
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

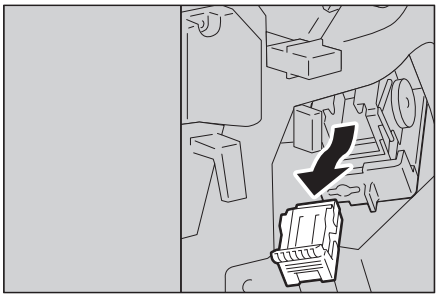
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



2 ホチキスカートリッジホルダーのレバー「R1」を持って、ホチキスカートリッジホルダーを右端（手前）へ引き寄せます。

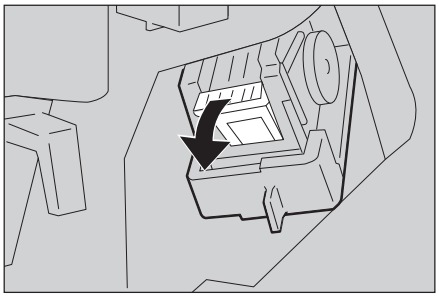


3 オレンジ色のレバーを持って、ホチキスカートリッジを取り出します。

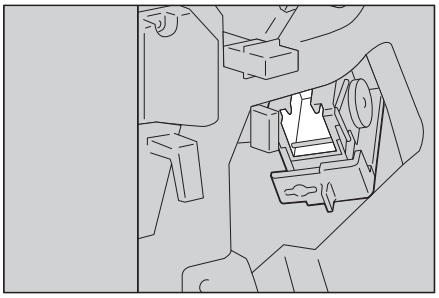


補足

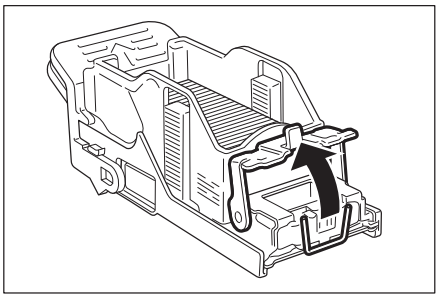
- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。
- 65 枚用ホチキスカートリッジを装着している場合は、オレンジ色のレバーを下方向に倒して、ホチキスカートリッジを引き出してください。



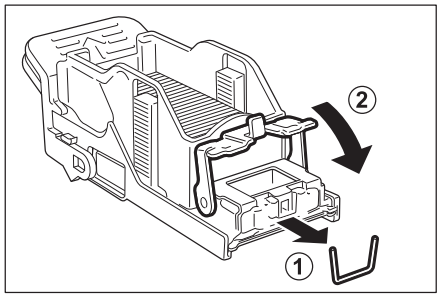
4 ホチキスカートリッジを取り出したあと、フィニッシャー内部に針がないか確認します。



5 ホチキスカートリッジの金属部分を押し上げます。



6 詰まっているホチキス針を取り除き（①）、手順 5 で押し上げた金属部分を元に戻します（②）。



7 ホチキスカートリッジのオレンジ色のレバーを持って、元の位置に戻し、カチッと音がするまで押し込みます。

8 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

補足

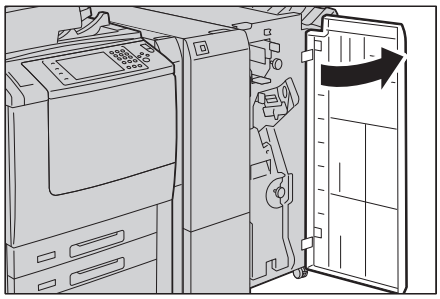
- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

上記の処置をしても針が取り除けないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

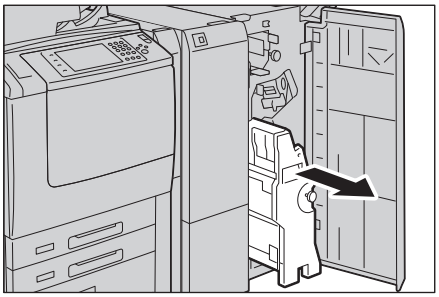
中とじホチキスカートリッジの針づまり（中とじフィニッシャー C3 装着時）

オプションの中とじフィニッシャー C3 を装着している場合の、中とじホチキスカートリッジの針づまりの処置について説明します。

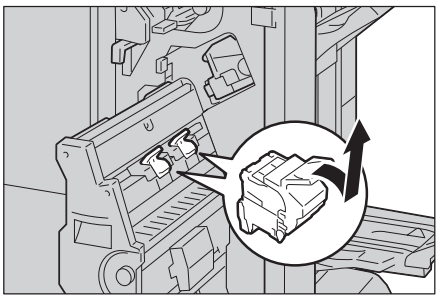
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーのフロントカバーを開けます。



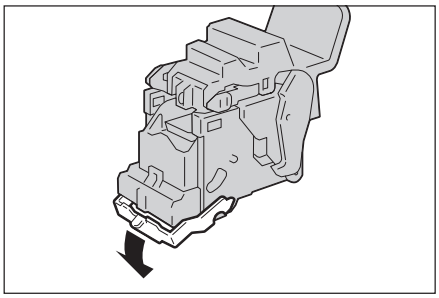
2 中とじユニットを引き出します。



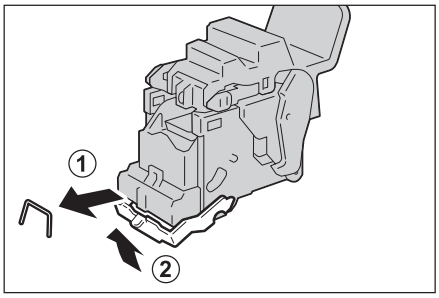
3 中とじホチキスカートリッジのレバーを持ち、、下方向に倒してから、上に引いて取り出します。



4 ホチキスカートリッジの金属部分を押し下げます。

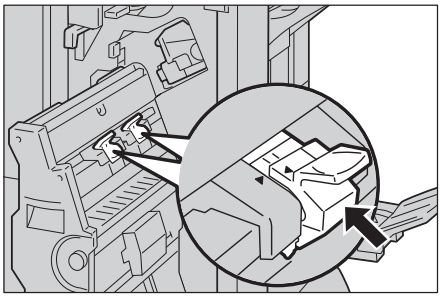


5 詰まっているホチキス針を取り除き (①)、手順 4 で押し下げた金属部分を元に戻します (②)。

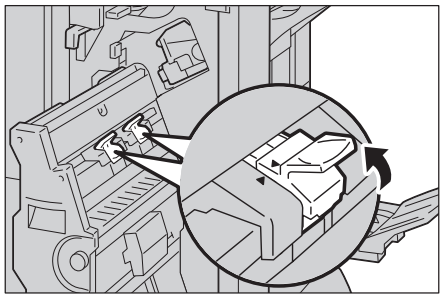


> ⚠注意
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

6 中とじホチキスカートリッジを元の位置に戻します。



7 軽く押し上げて、カチッと音がするのを確認します。



補足

- 中とじホチキスカートリッジの（▶）と中とじユニットの（◀）が合うように戻してください。

8 中とじユニットを元の位置にもどします。

9 フィニッシャーのフロントカバーを閉じます。

補足

- フィニッシャーのフロントカバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

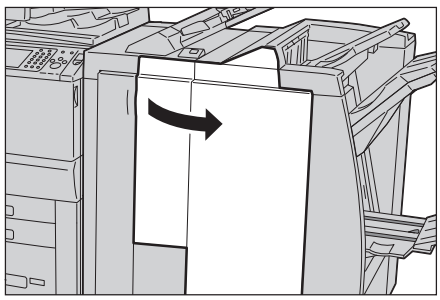
上記の処置をしても針が取り除けないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 の場合）

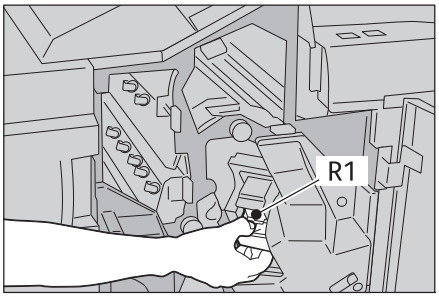
フィニッシャー D2（オプション）または中とじフィニッシャー D2（オプション）を装着している場合の、ホチキスカートリッジの針づまり処置について説明します。

ここでは、中とじフィニッシャー D2 を例に説明します。フィニッシャー D2 も手順は同様です。

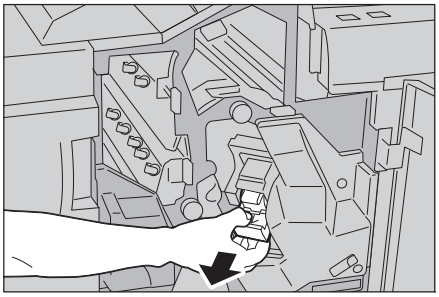
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。



2 ホチキスカートリッジホルダーのレバー［R1］を持って、ホチキスカートリッジホルダーを右端（手前）へ引き寄せます。



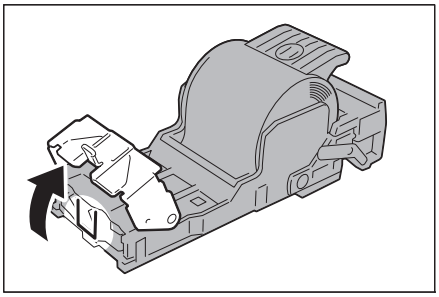
3 ホチキスカートリッジを取り出します。



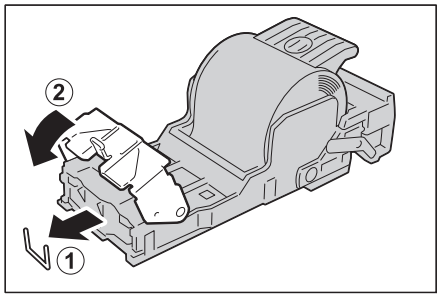
補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。

4 ホチキスカートリッジの図の位置にある金属部分を押し上げます。

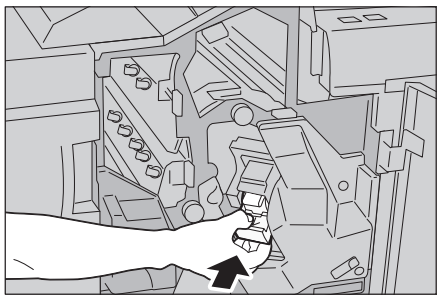


5 詰まっているホチキス針を取り除き（①）、手順 4 で押し上げた金属部分を元に戻します（②）。



> ⚠注意
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

6 「カチッ」と音がするまで、ホチキスカートリッジを押し込みます。



7 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

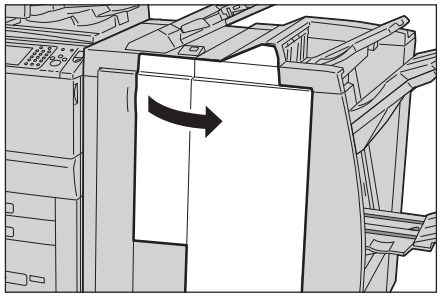
補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

以上の処置をしても針が取り除けないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

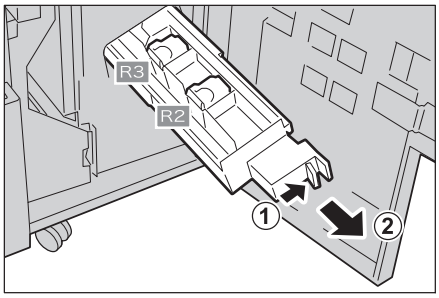
中とじホチキスカートリッジの針づまり（中とじフィニッシャー D2 の場合）

オプションの中とじフィニッシャー D2 を装着している場合の、中とじホチキスカートリッジの針づまりの処置について説明します。

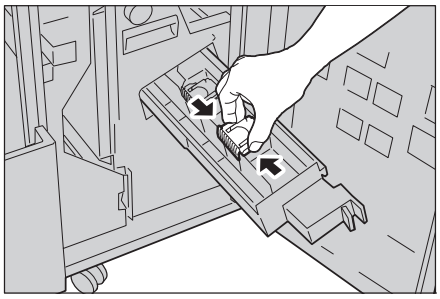
1 機械が停止していることを確認し、フィニッシャーの右カバーを開けます。



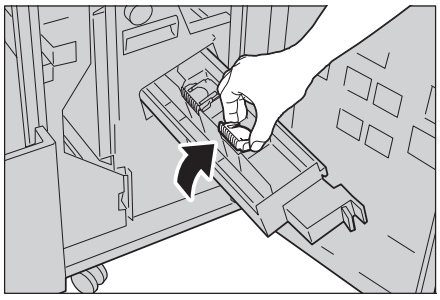
2 レバーを右側に押しながら（①）、ユニットを引き出します（②）。



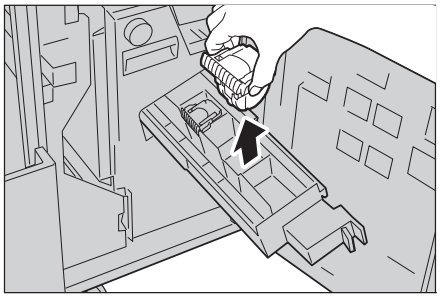
3 中とじホチキスカートリッジの左右にあるツメを持ちます。



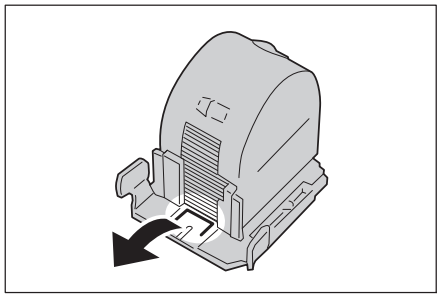
4 斜め方向に回転させます。



5 上に引きながら取り出します。

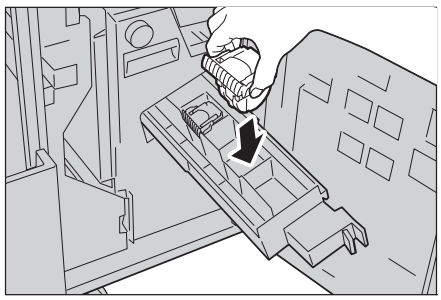


6 図のように、詰まっている針を取り除きます。



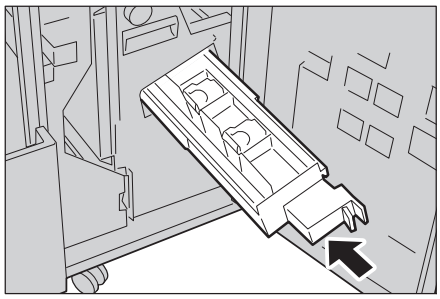
> ⚠注意
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

7 取り出した中とじホチキスカートリッジの、左右にあるツメを持ちながら元の位置に戻し、上から軽く押して、「カチッ」と音がするのを確認します。



8 奥の中とじホチキスカートリッジについても同様に、手順 3 ～ 7 を繰り返します。

9 ユニットを元の位置に戻します。



10 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

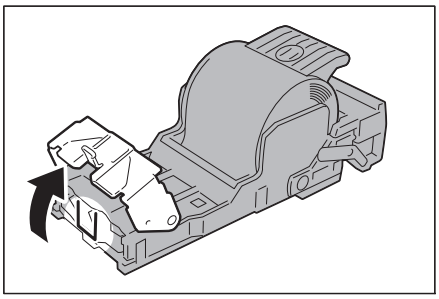
以上の処置をしても針が取り除けないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

ホチキスカートリッジが外れたら（中とじフィニッシャー D2 の場合）

操作時の落下などによって、中とじフィニッシャー D2（オプション）のホチキスカートリッジがユニットから外れてしまった場合の処置について説明します。

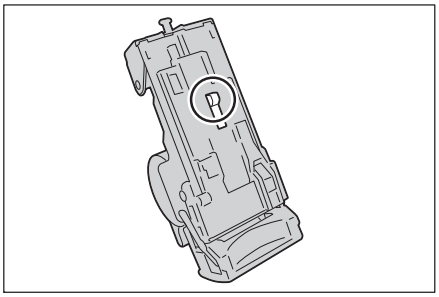
補足
- ホチキスカートリッジがユニットから切り離されてしまったときも、同様に処置します。

1 右図のようにユニットのカバーを開け、曲がっている針をすべて取り除きます。

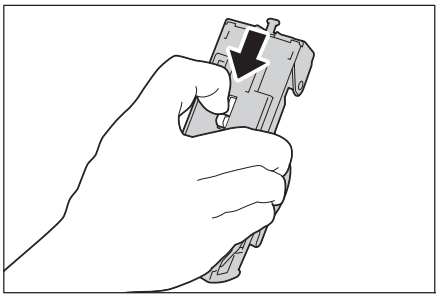


⚠注意
詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

2 ユニットの裏面にある、レバーを確認します。

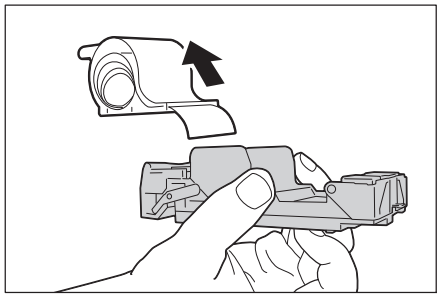


3 レバーを矢印の方向に移動します。

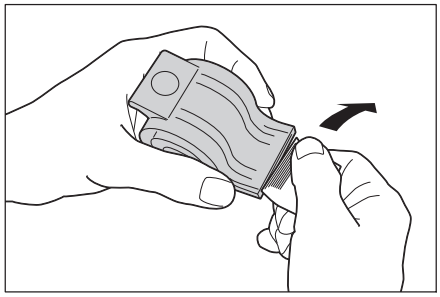


補足
- レバーを動かすときは、爪や指などにケガをしないよう十分にご注意ください。

4 レバーを移動したままおもて面を向け、ホチキスカートリッジをユニットから引き抜きます。

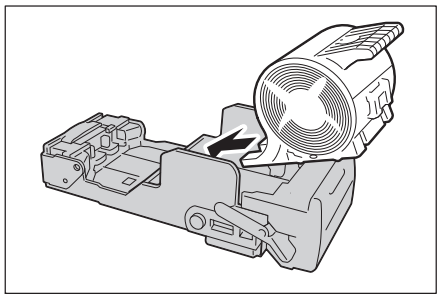


5 ホチキスカートリッジの外側に出ている部分の針を、右図のように切り離します。

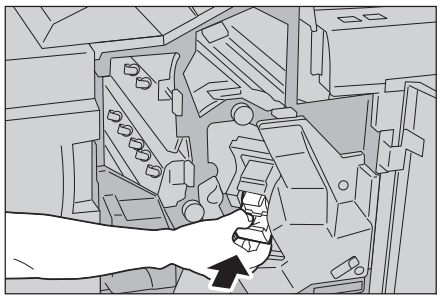


注記
- 針を切り離すときは、指などにケガをしないよう十分にご注意ください。

6 ホチキスカートリッジをユニットに差し込みます。



7 取り出したユニットを、元の位置に差し込みます。



8 フィニッシャーの右カバーを閉じます。

補足
- フィニッシャーの右カバーが少しでも開いていると、メッセージが表示され、機械が作動しません。

用紙がカールして排出されたら（中とじフィニッシャー D2 の場合）

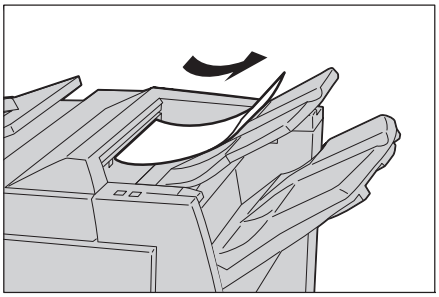
オプションの中とじフィニッシャー D2 から排出された用紙がカールしている場合、カールを補正するボタンを押して、用紙のカールを補正できます。

カールを補正するボタンは、本機の電源が入っている場合であれば、停止中または作動中のどちらでも受け付けられます。

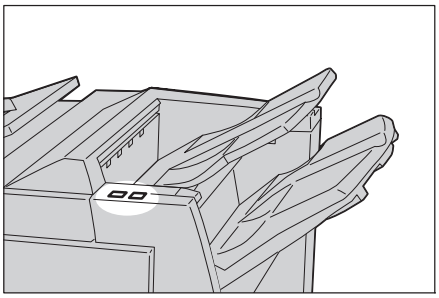
補足

- 機械が作動中のときに補正モードを変更する場合、カールを補正するボタンを押した直後の排出用紙から適用されます。
- 操作パネルの〈リセット〉ボタンを押しても、補正モードは変更できません。

1 用紙がカールしている向きを確認します。



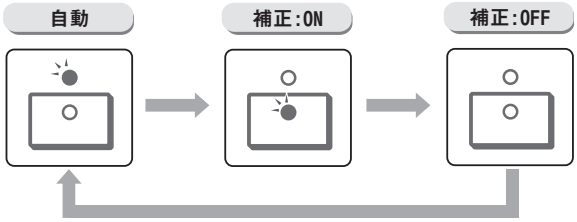
2 カールを補正するボタンが点灯していることを確認します。



補足

- 本体の電源を入れたときは、カールを補正するボタンのモードは［自動］になっています。
- 〈節電〉モードを解除した場合、補正モードは、［自動］になります。

3 カールを補正するボタンを押します。



補足

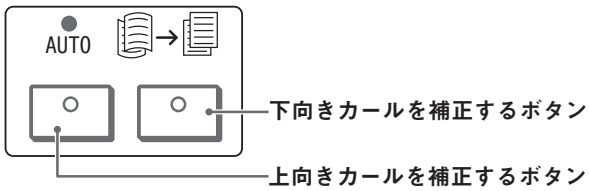
- ボタンを押した回数に応じて、補正モードが切り替わります。

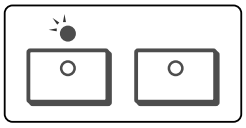
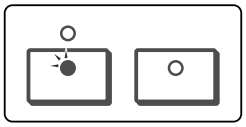
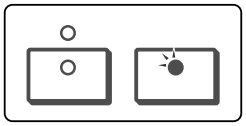
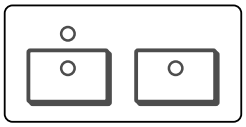
参照

- ボタンの動作と機能については、「カール補正機能の動作と機能について」（P.734）を参照してください。

カール補正機能の動作と機能について

カール補正機能で使用するボタンの動作と機能について説明します。



〈カール補正〉ボタン機能		機能
ランプ表示	モード	
	〈AUTO〉	自動でカール補正をします。 用紙サイズや排出する向きなどに応じて、自動的にもっとも適したカール補正をします。 通常は、〈AUTO〉モードで使用することをお勧めします。 次の場合、〈AUTO〉モードになります。 本機の電源投入後 〈節電〉モード解除時
	上向きカール〈ON〉	すべての用紙に対して、上向きカール補正をします。 排出された用紙が上向きにカールされているときに、補正できます。
	下向きカール〈ON〉	すべての用紙に対して、下向きカール補正をします。 排出された用紙が下向きにカールされているときに、補正できます。
	〈OFF〉	カール補正はしません。

16 付録

本機の主な仕様、オプション製品、保守サービスなどについて説明します。

- 主な仕様 736
- プリント可能領域 760
- 操作パネルで表示できる漢字一覧 761
- 内蔵フォント 766
- オプション製品一覧 768
- 紙折り位置の調整 773
- ESC/P エミュレーションを使用するには 783
- PDF ダイレクトプリントを使用するには 799
- DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには 801
- PC-PR201H エミュレーションを使用するには 803
- PCL エミュレーションを使用するには 821
- HP-GL/2 エミュレーションを使用するには 830
- Google クラウドプリントを使用するには 849
- 注意 / 制限事項について 861
- 拡張機能の設定について 902
- 電話のかけ方 / 取り方 905
- 通信管理レポート 909
- 保守サービスについて 912
- EP システムについて 913

主な仕様

本機の主な仕様を記載します。製品の仕様、および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

基本機能 / コピー機能

■形式

コンソールタイプ

■メモリー容量

4 GB（最大 4 GB）

■ハードディスク容量

160 GB 以上（使用領域 128 GB）

注記
- 表記されたハードディスク容量のすべてをお客様が利用できるわけではありません。

■読み取り解像度

600×600 dpi

■書き込み解像度

2400 dpi 相当 ×600 dpi

■階調 / 表現色

256 階調

■ウオームアップ・タイム

30 秒以下（室温 23 ℃）

主電源が入っている場合は 30 秒以下（室温 23 ℃）

注記
- 画質調整のため記載時間よりも多くかかる場合があります。

■リカバリータイム（スリープ復帰時間）

30 秒以下（室温 23 ℃）

■原稿サイズ

シート、ブック共に最大 297×432 mm（A3、11×17"）

■用紙サイズ

- 最大：A3 、11×17"［手差しトレイでは 12 × 18"（304.8 × 457.2 mm）］
- 最小：A5［ 手差しトレイでは郵便はがき（日本郵便製）］）
- 画像欠け幅：先端 4 mm、後端 4 mm、左 / 右 4 mm

■用紙坪量

トレイ 1 ～ 4：52 ～ 200 g/m^2

トレイ 5(手差しトレイ)：52 ～ 250 g/m^2

注記
- 弊社推奨紙の使用をお勧めします。使用条件によっては正しくコピーできない場合があります。

■ファーストコピー・タイム

注記
- 機器構成によって、数値が変わることがあります。

<ApeosPort-V 7080 N/6080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N>

- 原稿ガラス使用時（A4）
  3.0 秒以下
- 自動原稿送り装置使用時（A4）
  4.8 秒以下

<ApeosPort-V 5080 N、DocuCentre-V 5080 N>

- 原稿ガラス使用時（A4）
  3.1 秒以下
- 自動原稿送り装置使用時（A4）
  4.9 秒以下

■複写倍率

- 等倍：1:1 ± 0.8%
- 固定倍率：50%、70%、81%、86%、115%、122%、141%、200%
- 任意倍率：25 ～ 400% (1% きざみ)

■連続複写速度

注記
- 画質調整のため速度が低下することがあります。
- 用紙種類や用紙トレイによっては生産性が落ちることがあります。

< ApeosPort-V 7080 N、DocuCentre-V 7080 N >

- 用紙トレイ 1 ～ 4: 連続片面コピー / 等倍時：
  B5▯ : 79 枚 / 分
  A4▯、8.5 x 11"▯ : 75 枚 / 分
  B5、A4、8.5 x 11" : 55 枚 / 分
  B4：44 枚 / 分
  A3：37 枚 / 分
- 用紙トレイ 1 ～ 4: 連続両面コピー / 等倍時：
  B5▯ : 79 ページ / 分
  A4▯/8.5 x 11"▯ : 75 ページ / 分
  B5、A4、8.5 x 11" : 50 ページ / 分
  B4：44 ページ / 分

A3：37 ページ / 分

< ApeosPort-V 6080 N、DocuCentre-V 6080 N >

- 用紙トレイ 1 ～ 4: 連続片面コピー / 等倍時：

B5 ▯: 68 枚 / 分

A4▯/8.5 x 11"▯ : 65 枚 / 分

B5、A4、8.5 x 11" : 47 枚 / 分

B4：39 枚 / 分

A3：33 枚 / 分

- 用紙トレイ 1 ～ 4: 連続両面コピー / 等倍時：

B5▯ : 62 ページ / 分

A4▯/8.5 x 11"▯ : 59 ページ / 分

B5、A4、8.5 x 11" : 47 ページ / 分

B4：39 ページ / 分

A3：33 ページ / 分

< ApeosPort-V 5080 N、DocuCentre-V 5080 N >

- 用紙トレイ 1 ～ 4: 連続片面コピー / 等倍時：

B5▯ : 58 枚 / 分

A4▯/8.5 x 11"▯ :55 枚 / 分

B5、A4、8.5 x 11" : 40 枚 / 分

B4：33 枚 / 分

A3：28 枚 / 分

- 用紙トレイ 1 ～ 4: 連続両面コピー / 等倍時：

B5▯ : 53 ページ / 分

A4▯/8.5 x 11"▯ : 50 ページ / 分

B5、A4、8.5 x 11" : 40 ページ / 分

B4：33 ページ / 分

A3：28 ページ / 分

■給紙方式 / 給紙容量

標準：5070 枚（560 枚 × 2 トレイ + 1710 枚 × 1 トレイ +2140 枚 × 1 トレイ + 手差しトレイ 100 枚 ）

オプション：

大容量給紙トレイ（1 段）（トレイ 6）：2300 枚

大容量給紙トレイ（2 段）（トレイ 6、7）：2300 枚 × 2

最大：9820 枚（標準＋大容量給紙トレイ（2 段）＋手差しトレイ）

注記

- 弊社 P 紙の場合です。
- 大容量給紙トレイ（2 段）を装着した場合の手差しトレイの給紙容量は 250 枚になります。

■連続複写枚数

9999 枚

注記
- 画像安定化処理のため、機械の動作を一時的に中断することがあります。

■出力トレイ容量

500 枚（A4□）（シンプルキャッチトレイ）

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■電源

AC100 V ± 10%、15 A、50/60 Hz 共用

■最大消費電力

1.5 kW 以下

低電力時モード時：124 W 以下

スリープモード時：1.0 W 以下

レディー時：174 W 以下

注記
- 工場出荷時に低電力モードは設定されていません。

■エネルギー消費効率

< ApeosPort-V 7080 N、DocuCentre-V 7080 N >

289 kWh/ 年、区分：複合機 d

< ApeosPort-V 6080 N、DocuCentre-V 6080 N >

266 kWh/ 年、区分：複合機 d

< ApeosPort-V 5080 N、DocuCentre-V 5080 N >

236 kWh/ 年、区分：複合機 d

注記
- 省エネ法（平成 25 年 3 月 1 日付）で定められた測定方法による数値。

■大きさ

幅 620× 奥行き 804× 高さ 1154 mm

■質量

195 kg

注記
- トナーカートリッジ、用紙は含まない状態の質量です。

■機械占有寸法

幅 1491× 奥行 804 mm

注記
- 手差しトレイ、シンプルキャッチトレイを最大に伸ばしたときの数値です。

プリント機能

■形式

内蔵型

■連続プリント速度

基本機能 / コピー機能に準ずる

注記
- 画質調整のため速度が低下することがあります。また、ドキュメントによってはプリント速度が低下する場合があります。

■書き込み解像度

- 標準：

  標準：600×600 dpi

  高精細：1200×1200 dpi
- オプション：

  標準：600×600 dpi

  高精細：1200×1200 dpi

■ページ記述言語

標準：ART EX

オプション：Adobe® PostScript® 3™

■対応プロトコル

- Ethernet（標準）：

  TCP/IP（lpd、IPP、Port9100、WSD、BMLinkS®、Thin Print®）

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

■対応 OS

- 標準：

  ［ART EX ドライバー］

  Windows® 10（32 ビット）

  Windows® 10 （64 ビット）

  Windows® 8.1（32 ビット）

  Windows® 8.1（64 ビット）

  Windows® 7（32 ビット）

  Windows® 7（64 ビット）

  Windows Server® 2016（64 ビット）

  Windows Server® 2012 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2012（64 ビット）

  Windows Server® 2008 R2（64 ビット）

  Windows Server® 2008（32 ビット）

Windows Server® 2008（64 ビット）
［Mac OS ドライバー］
macOS 10.13 High Sierra
macOS 10.12 Sierra
OS X 10.11 El Capitan
OS X 10.10 Yosemite
OS X 10.9 Mavericks
オプション：
［Adobe® PostScript® 3™］
Windows® 10（32 ビット）
Windows® 10 （64 ビット）
Windows® 8.1（32 ビット）
Windows® 8.1（64 ビット）
Windows® 7（32 ビット）
Windows® 7（64 ビット）
Windows Server® 2016（64 ビット）
Windows Server® 2012 R2（64 ビット）
Windows Server® 2012（64 ビット）
Windows Server® 2008 R2（64 ビット）
Windows Server® 2008（32 ビット）
Windows Server® 2008（64 ビット）
macOS 10.13 High Sierra
macOS 10.12 Sierra
OS X 10.11 El Capitan
OS X 10.10 Yosemite
OS X 10.9 Mavericks

注記
- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

■内蔵フォント

- 標準：
  アウトラインフォント（平成明朝体 ™ W3、平成角ゴシック体 ™ W5、欧文 19 書体）
- オプション：
  - Adobe® PostScript® 3™：
    平成 3 書体版 ：日本語 3 書体（平成明朝体 ™ W3、平成角ゴシック体 ™ W5、平成丸ゴシック体 ™ W4）、欧文 136 書体
    モリサワ 2 書体版 ：日本語 2 書体（リュウミン L-KL™、中ゴシック BBB™）、欧文 136 書体
  - エミュレーションキット：
    ストロークフォント（日本語書体、欧文書体：HP-GL 用）、欧文 82 書体、シンボル 37 セット

■エミュレーション

- 標準：

  ART IV、ESC/P（VP-1000）、BMLinkS®、PDF、XPS、DocuWorks、TIFF、JPEG

- オプション：

  HP-GL（HP7586B）、HP-GL2/RTL（HP Design Jet 750C Plus）、PC-PR201H、PCL5/PCL6

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■インターフェイス

標準：Ethernet 100BASE-TX/10BASE-T、USB 2.0

オプション：Ethernet 1000BASE-T

スキャン機能

■型式

カラースキャナー

■原稿サイズ

基本機能 / コピー機能に準ずる

■読み取り解像度

600×600 dpi、400×400 dpi、300×300 dpi、200×200 dpi

■原稿読み取り速度

＜当社標準原稿 A4 200dpi の場合、親展ボックスへの読み込み＞

モノクロ：100 枚 / 分

カラー：100 枚 / 分

（1 パス両面読み取り時モノクロ / カラー：200 ページ / 分）

注記
- 原稿によって読み取り速度は異なります。
- ペーパーセキュリティー機能を有効にした場合、自動両面原稿送り装置の片面原稿読み取り速度が低下します。

■インターフェイス

- 標準：Ethernet 100 BASE-TX/10 BASE-T
- オプション：Ethernet 1000 BASE-T

■ボックス保存

- 対応プロトコル：TCP/IP（WebDAV、HTTP）
- 出力フォーマット
  - モノクロ 2 値：TIFF、DocuWorks 文書 *1、PDF*1、XPS*1
  - グレースケール：TIFF、JPEG*2、DocuWorks 文書 *1、PDF*1、XPS*1
  - フルカラー：TIFF、JPEG、DocuWorks 文書 *1、PDF*1、XPS*1、高圧縮 DocuWorks 文書 *1、高圧縮 PDF*1、高圧縮 XPS*1

*1 CentreWare Internet Services を利用して文書を取り出す場合だけ対応しています。

*2 ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を使用してスキャンした場合だけ対応しています。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

- ドライバー：
  TWAIN インターフェイス対応
- ドライバー対応 OS：
  Windows® 10（32 ビット）
  Windows® 10 （64 ビット）
  Windows® 8.1（32 ビット）
  Windows® 8.1（64 ビット）
  Windows® 7（32 ビット）
  Windows® 7（64 ビット）
  Windows Server® 2016（64 ビット）
  Windows Server® 2012 R2（64 ビット）
  Windows Server® 2008 R2（64 ビット）

注記
- 最新の対応 OS については、弊社のホームページをご覧ください。

■PC 保存

対応プロトコル：TCP/IP（SMB、FTP）
対応 OS：
Windows® 10（32 ビット）
Windows® 10 （64 ビット）
Windows® 8.1（32 ビット）
Windows® 8.1（64 ビット）
Windows® 7（32 ビット）
Windows® 7（64 ビット）
Windows Server® 2016（64 ビット）
Windows Server® 2012 R2（64 ビット）
Windows Server® 2008 R2（64 ビット）
macOS 10.13 High Sierra*1
macOS 10.12 Sierra
OS X 10.11 El Capitan
OS X 10.10 Yosemite*2
OS X 10.9 Mavericks

*1 :SMB のみ対応しています。
*2 : FTP のみ対応しています。

注記
- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

- 出力フォーマット
  - モノクロ 2 値：
    TIFF（圧縮方式：MH、MMR）、DocuWorks 文書（圧縮方式：MH、MMR）、PDF（圧縮方式：MH、MMR、JBIG2）、XPS（圧縮方式：MH、MMR）
- グレースケール / フルカラー：
  TIFF（圧縮方式：JPEG）、JPEG、DocuWorks 文書、PDF、XPS、高圧縮 DocuWorks 文書、高圧縮 PDF、高圧縮 XPS、Word 文書*、Excel® 文書*

* 本機能を利用するにはオプションのスキャン機能拡張キットが必要です。本機能は、紙原稿をスキャンして保存後に、変換されたテキストや画像などを適宜編集して再利用することを前提とした、補助機能です。紙原稿上の文字や表、図形、写真を 100% 再現することを保証するものではありません。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■メール送信

- 対応プロトコル：
  TCP/IP（SMTP）
- 出力フォーマット：
  - モノクロ 2 値：
    TIFF（圧縮方式：MH、MMR）、DocuWorks 文書（圧縮方式：MH、MMR）、PDF（圧縮方式：MH、MMR、JBIG2）、XPS（圧縮方式：MH、MMR）
  - グレースケール / フルカラー：
    TIFF（圧縮方式：JPEG）、JPEG、DocuWorks 文書、PDF、XPS、高圧縮 DocuWorks 文書、高圧縮 PDF、高圧縮 XPS、Word 文書*、Excel® 文書*

* 本機能を利用するにはオプションのスキャン機能拡張キットが必要です。本機能は、紙原稿をスキャンして保存後に、変換されたテキストや画像などを適宜編集して再利用することを前提とした、補助機能です。紙原稿上の文字や表、図形、写真を 100% 再現することを保証するものではありません。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

ファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ

最大：A3、11 x 17"、長尺原稿可（最長 600 mm）

■記録紙サイズ

最大：A3、11 x 17"、最小：A5

■電送時間

2 秒台

注記
- A4 判 700 字程度の原稿を、標準画質（8×3.85 本 /mm）、高速モード（28.8 kbps 以上：JBIG）送信時。画像情報のみの伝送時間で、通信の制御時間は含まれておりません。なお、実際の通信時間は原稿の内容、相手機種、回線の状況により異なります。

■通信モード

ITU-T G3

■走査線密度

- 標準：8×3.85 本 /mm、200×100 dpi
- 高画質：8×7.7 本 /mm、200×200 dpi

- 超高画質（400 dpi）：400×400 dpi
- 超高画質（600 dpi）：600×600 dpi

■符号化方式

MH、MR、MMR、JBIG

■通信速度

G3:

33.6/31.2/28.8/26.4/24.0/21.6/19.2/16.8/14.4/12.0/9.6/7.2/4.8/2.4 kbps

■適用回線

G3：加入電話回線、PBX、ファクシミリ通信網（PSTN）、最大 3 ポート*（G3-3 ポート）

* 接続可能な回線数は最大 3 回線です。ポートとは通信可能なチャネル数です。

ダイレクトファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ

最大：A3、B4、A4

■送信画質

ファクス機能の走査線密度に準ずる

■通信速度

ファクス機能に準ずる

■適用回線

ファクス機能に準ずる

■対応 OS

［ART EX ドライバー］

Windows® 10（32 ビット）

Windows® 10 （64 ビット）

Windows® 8.1（32 ビット）

Windows® 8.1（64 ビット）

Windows® 7（32 ビット）

Windows® 7（64 ビット）

Windows Server® 2016（64 ビット）

Windows Server® 2012 R2（64 ビット）

Windows Server® 2012（64 ビット）

Windows Server® 2008 R2（64 ビット）

Windows Server® 2008（32 ビット）

Windows Server® 2008（64 ビット）

［Mac OS ドライバー］

macOS 10.13 High Sierra

macOS 10.12 Sierra
OS X 10.11 El Capitan
OS X 10.10 Yosemite
OS X 10.9 Mavericks

注記
- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

インターネットファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ

A3、B4、A4

■走査線密度

ファクス機能に準ずる

■出力フォーマット

フォーマット：TIFF-FX
圧縮方式：MH、MMR、JBIG

■プロファイル

TIFF-S、TIFF-F、TIFF-J

■対応プロトコル

送信 :SMTP、受信：SMTP、POP3

■インターフェイス

- 標準：Ethernet 100BASE-TX/10BASE-T
- オプション：Ethernet 1000BASE-T

IP ファクス（SIP）機能（オプション）

■送信原稿サイズ

ファクス機能に準ずる

■走査線密度

ファクス機能に準ずる

■対応プロトコル

SIP、JT-T.38

■符号化方式

ファクス機能に準ずる

■インターフェイス

- 標準：Ethernet 100BASE-TX/10BASE-T
- オプション：Ethernet 1000BASE-T

両面出力機能

■自動両面可能用紙サイズ

基本機能 / コピー機能に準ずる

■用紙坪量

52 ～ 200 g/m^2

自動両面原稿送り装置

■原稿送り装置の種類

自動両面原稿送り装置

■原稿サイズ

最大：A3、11×17"

最小：A5*

* 非定形サイズの場合は、139.7×139.7 mm です。

■用紙坪量

38 ～ 200 g/m^2（両面時：50 ～ 200 g/m^2）

■原稿積載枚数

250 枚

注記

- 弊社 P 紙の場合です。

■原稿交換速度

< ApeosPort-V 7080 N 、DocuCentre-V 7080 N >

75 枚 / 分（A4□片面）

< ApeosPort-V 6080 N、DocuCentre-V 6080 N >

65 枚 / 分（A4□片面）

< ApeosPort-V 5080 N、DocuCentre-V 5080 N >

55 枚 / 分（A4□片面）

オフセットキャッチトレイ（オプション）

■用紙サイズ

最大：12×18"

最小：郵便はがき（日本郵便製）

■用紙坪量

52 ～ 250 g/m^2

■トレイ容量

500 枚

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■大きさ / 質量

幅 461 × 奥行 394 × 高さ 184 mm、6 kg

フィニッシャー C3（オプション）

■トレイ形式

- 排出トレイ：ソート / スタック
- フィニッシャートレイ：ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）

■用紙サイズ

- 排出トレイ：
  最大：12×18"（305×457 mm）、A3
  最小：郵便はがき（日本郵便製）
- フィニッシャートレイ：
  最大：12×18"（305×457 mm）、A3
  最小：B5

■用紙坪量

- 排出トレイ：52 ～ 250 g/m^2
- フィニッシャートレイ：52 ～ 250 g/m^2

■トレイ容量

- 排出トレイ：500 枚（A4）
- フィニッシャートレイ
  [ステープルなしの場合]
  A4：3000 枚、B4 以上：1500 枚、ミックススタック：300 枚
  [ステープルありの場合]
  A4：200 部または 3000 枚、B4 以上：100 部または 1500 枚、ミックススタック：70 部または 200 枚

注記
- 弊社 P 紙の場合です。
- ミックススタックは、小さいサイズの上に大きいサイズの用紙が積載された場合です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：50 枚（90 g/m^2 以下）

補足
- オプションのフィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚を装着すると最大 65 枚まで可能です。ただし、用紙の種類によっては、用紙がずれたり、正しくステープルされない場合があります。
- 紙折りユニット CD1 を併用した場合、Z 折りした用紙をステープルできますが、A3、11×17" の用紙を Z 折りすると、1 枚で 10 枚分の厚みになるため、最大ステープル枚数が少なくなります。
  1 枚あたり 10 枚に換算した枚数が最大ステープル枚数となります。同様に、その他のサイズでは、

1 枚あたり 20 枚に換算した枚数になります。
また、印刷された用紙のカールが強いと、正しくステープルできない場合があります。

- ステープル用紙サイズ

  最大：A3、11×17"

  最小：B5

- ステープル位置

  1 か所（手前･奥 / 斜め打ち）

  2 か所（並行打ち）

注記
- 当社 P 紙の場合です。

■パンチ

- パンチ数：2 穴 /4 穴、または 2 穴 /3 穴（US 規格 ）
- パンチ用紙サイズ

  A3、11×17"、B4、A4*、A4、レター（8.5×11"）*、レター(8.5×11")、B5、

  7.25×10.5"、8×10"*、8×10"、十六開、表紙 A4、9×11"、

  215×315 ㎜、8.5×13"*、リーガル（8.5×14"）*、11×15"、八開

* オプションの 3 穴は使用できません。

補足
- オプションのパンチユニット 2/4 穴 CD1 またはパンチユニット US 2/3 穴 CD1 が必要です。
- オプションのパンチユニット 2/4穴 CD1 で2穴または4穴に切り替えが、パンチユニット US 2/3穴 CD1 で 2 穴または 3 穴に切り替え可能です。

用紙坪量：52 ～ 200 g/m^2

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■紙折り

- Z 折り

  用紙サイズ：A3、11 × 17"、B4

  用紙坪量：60 ～ 90 g/m^2

- 三つ折り

  用紙サイズ：A4、レター

  用紙坪量：60 ～ 90 g/m^2

注記
- 紙折り機能は、オプションの紙折りユニット CD1 が必要です。

■電源 *

AC 100 V ± 10%、1 A、50/60 Hz 共用

* オプションの紙折りユニット CD1 の電源です。オプションの紙折りユニット CD1 装着時は、本体とは別に電源が必要になります。

■最大消費電力 *

100 W

* オプションの紙折りユニット CD1 の最大消費電力です。オプションの紙折りユニット CD1 装着時は、本体とは別に電源が必要になります。

■大きさ

幅 789× 奥行 589× 高さ 1056 mm

幅 1024× 奥行き 726× 高さ 1056 mm（紙折りユニット CD1 装着時）

補足

- トランスポートユニット S1 を装着し、延長トレイを最大に伸ばした時の数値です。

■質量

48 kg

100 kg（紙折りユニット CD1 装着時）

補足

- トランスポートユニット S1 の質量を含みます。

■本体接続時の占有寸法

幅 1875 × 奥行 804 mm（本体＋フィニッシャー C3 ）

幅 2110 × 奥行 804 mm（本体＋フィニッシャー C3 ＋紙折りユニット CD1）

補足

- トランスポートユニット S1 を装着し、延長トレイ引き出し時、手差しトレイを最大に伸ばした時の数値です。

中とじフィニッシャー C3（オプション）

■トレイ形式

- 排出トレイ：ソート / スタック
- フィニッシャートレイ：ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）
- 製本トレイ：ソート / スタック

■用紙サイズ

- 排出トレイ
  最大：12×18"（304.8×457.2 mm）、A3
  最小：郵便はがき (日本郵便製)
- フィニッシャートレイ
  最大：12×18"（304.8×457.2 mm）、A3
  最小：B5
- 製本トレイ
  最大：12×18"（304.8×457.2 mm）、A3
  最小：B5

■用紙坪量

- 排出トレイ：52 ～ 250 g/m^2 *1
- フィニッシャートレイ：52 ～ 250 g/m^2 *1
- 製本トレイ：52 ～ 105 g/m^2 *2

*1 52 ～ 55 g/m^2 は、出力紙により正しく収容できない場合があります。

*2 表紙は、250 g/m^2 までです。

■トレイ容量

- 排出トレイ：500 枚（A4）
- フィニッシャートレイ
  - ステープルなしの場合
    A4：1500 枚
    B4 以上：1500 枚
    ミックススタック：300 枚
  - ステープルありの場合
    A4：200 部または 1500 枚
    B4 以上：100 部または 1500 枚
    ミックススタック：70 部または 200 枚
- 製本トレイ：20 部

注記
- 当社 P 紙の場合です。
- ミックススタックは、小さいサイズの上に大きいサイズの用紙が積載された場合です。
- 製本トレイの容量は、同サイズの用紙での出力時です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：50 枚（90 g/m^2 以下）

補足
- オプションのフィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚を装着すると最大 65 枚まで可能です。ただし、用紙の種類によっては、用紙がずれたり、正しくステープルされない場合があります。
- 紙折りユニット CD1 を併用した場合、Z 折りした用紙をステープルできますが、A3、11×17" の用紙を Z 折りすると、1 枚で 10 枚分の厚みになるため、最大ステープル枚数が少なくなります。
  1 枚あたり 10 枚に換算した枚数が最大ステープル枚数となります。同様に、その他のサイズでは、1 枚あたり 20 枚に換算した枚数になります。
  また、印刷された用紙のカールが強いと、正しくステープルできない場合があります。

- ステープル用紙サイズ

  最大：A3、11×17"

  最小：B5

- ステープル位置

  1 か所（手前・奥、斜め打ち）

  2 か所（並行打ち）

注記
- 当社 P 紙の場合です。

■パンチ

- パンチ数：2 穴 /4 穴、または 2 穴 /3 穴（US 規格）
- パンチ用紙サイズ

  A3、11×17"、B4、A4*、A4□、レター（8.5×11"）*、レター□(8.5×11")、B5□、

  7.25×10.5"□、8×10"*、8×10"□、十六開□、表紙 A4□、9×11"□、

  215×315 ㎜、8.5×13"*、リーガル（8.5×14"）*、11×15"、八開

* オプションの 3 穴は使用できません。

補足
- オプションのパンチユニット 2/4 穴 CD1 またはパンチユニット US 2/3 穴 CD1 が必要です。
- パンチユニット 2/4穴 CD1 で2穴または4穴に切り替えが、パンチユニット US 2/3穴 CD1 で2穴または 3 穴に切り替え可能です。

- 用紙坪量：52 ～ 200 g/m^2

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■中とじ / 中折り

- 最大枚数

  中とじ：16 枚 *1*2、二つ折り：5 枚

- 用紙サイズ

  最大：A3、12×18"（305×457 mm）

  最小：B5

- 用紙坪量

  中とじ：60 ～ 105 g/m^2 *3、二つ折り：60 ～ 105 g/m^2

*1 表紙に利用する用紙により本文の枚数は変わります。用紙サイズや用紙種類によっては冊子が開いてしまう場合があります。

*2 用紙坪量 90 g/m^2 以下

*3 プリント時の中とじの表紙は最大 250 g/m^2（厚紙 2）まで選択可能です。

注記
- 当社 P 紙の場合です。

■紙折り

- Z 折り

  用紙サイズ：A3、B4、11×17"

  用紙坪量：60 ～ 90 g/m^2 以下

- 三つ折り：

  用紙サイズ：A4、レター

  用紙坪量：60 ～ 90 g/m^2 以下

注記
- 紙折り機能は、オプションの紙折りユニット CD1 が必要です。

■電源 *

AC 100 V ± 10%、1 A、50/60 Hz 共用

* オプションの紙折りユニット CD1 の電源です。オプションの紙折りユニット CD1 装着時は、本体とは別に電源が必要になります。

■最大消費電力 *

100 W

* オプションの紙折りユニット CD1 の最大消費電力です。オプションの紙折りユニット CD1 装着時は、本体とは別に電源が必要になります。

■大きさ

幅 848× 奥行 589× 高さ 1056 mm

幅 1083× 奥行き 726× 高さ 1056mm（紙折りユニット CD1 装着時）

補足
- トランスポートユニット S1 を装着し、延長トレイを最大に伸ばした時の数値です。

■質量

65 kg

117 kg（紙折りユニット CD1、パンチユニット装着時）

補足

- トランスポートユニット S1 の質量を含みます。

■本体接続時の占有寸法

幅 1934 × 奥行 804 mm（本体＋中とじフィニッシャー C3 ）

幅 2169 × 奥行 804 mm（本体＋中とじフィニッシャー C3 ＋紙折りユニット CD1）

補足

- トランスポートユニット S1 を装着し、延長トレイ引き出し時、手差しトレイを最大に伸ばした時の数値です。

紙折りユニット CD1（オプション）

■用紙サイズ

- Z 折り：A3、11×17"、B4
- 三つ折り：A4、レター

■用紙坪量

- Z 折り：60 ～ 90 g/m^2
- 三つ折り：60 ～ 90 g/m^2

■トレイ容量

- 三つ折り：40 枚

注記

- 当社 P 紙の場合です。
- 用紙の種類によっては、トレイ容量が 40 枚以下になる場合があります。

■電源 / 最大消費電力

AC 100 V±10%、1 A、50/60 Hz 共用、100 W 以下

注記

- 紙折りユニット CD1 装着時は、本体とは別に電源が必要になります。

■大きさ / 質量

幅 232× 奥行 726× 高さ 992 mm、53 kg

フィニッシャー D2（オプション）

■トレイ形式

- 排出トレイ：ソート / スタック
- フィニッシャートレイ：ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）

■用紙サイズ / 用紙坪量

- 排出トレイ：

最大：12×18"

最小：郵便はがき（日本郵便製）

52 ～ 250 g/m^2

- フィニッシャートレイ：

最大：12×18"

最小：B5

52 ～ 200 g/m^2

■トレイ容量

- 排出トレイ：500 枚（A4）
- フィニッシャートレイ

[ステープルなしの場合]

A4：3000 枚、B4 以上：1500 枚、ミックススタック：300 枚

[ステープルした場合]

A4：200 部または 3000 枚、B4 以上：100 部または 1500 枚

注記

- 弊社 P 紙の場合です。
- ミックススタックは、小さいサイズの上に大きいサイズの用紙が積載された場合です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：100 枚 * （52 ～ 80 g/m^2 以下）

* A4、レター（8.5×11"）を超えるサイズの場合は 65 枚になります。
* 用紙の種類など使用条件によっては、針が曲がって留められる場合があります。

- ステープル用紙サイズ：

最大：A3、11×17"

最小：B5

- ステープル位置：

1 か所 *1（手前：斜め打ち、中央 / 奥：並行打ち）

2 か所（並行打ち）

4 か所 *2（並行打ち）

*1 A3、A4 は斜め打ち。

*2 A4、レターのみ

■パンチ

- パンチ数：2 穴、4 穴、または 3 穴
- パンチ用紙サイズ：

A3*、11 × 17"*、B4、A4、A4*、レター、レター*、B5、7.25 × 10.5"*、8 × 10"、8 x10"、十六開*、表紙 A4*、9 × 11"*、215 × 315 ㎜、8.5 × 13"、8.5 × 14"、11 × 15"*、八開 *

* 4 穴パンチ可能サイズ。

- 用紙坪量：52 ～ 200 g/m^2

■紙折り

注記
- 紙折り機能はオプションの紙折りユニット D2 が必要です。

- Z 折り：
  用紙サイズ：A3、11×17"、B4
  用紙種類：60 ～ 90 g/m^2
- 三つ折り：
  用紙サイズ：A4、レター（8.5×11"）
  用紙種類：60 ～ 90 g/m^2

■インターポーザー

注記
- インターポーザーにセットした用紙には、プリントできません。

- 用紙サイズ：
  最大：A3、11×17"
  最小：B5
- 用紙種類：60 ～ 220 g/m^2
- トレイ容量：200 枚

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■電源 / 最大消費電力

注記
- 本体とは別に電源が必要になります。

AC100 V±10%、2 A、50/60 Hz 共用、203 W 以下

■大きさ / 質量

幅 1046× 奥行 725 × 高さ 1165 mm、105 kg
紙折りユニット D2 装着時：幅 1246× 奥行 725 × 高さ 1165 mm、145 kg
※ 本体内に収まる接続部は除く

■本体接続時の占有寸法

幅 2137× 奥行 804 mm
（本体 + フィニッシャー D2、延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸張時）
幅 2337× 奥行 804 mm
（本体 + フィニッシャー D2、紙折りユニット D2、延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸張時）

中とじフィニッシャー D2（オプション）

■トレイ形式

- 排出トレイ：ソート / スタック
- フィニッシャートレイ：ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）
- 製本トレイ：ソート / スタック

■用紙サイズ / 用紙坪量

- 排出トレイ：
  最大：12×18"
  最小：郵便はがき（日本郵便製）
  52 ～ 250 g/m^2
- フィニッシャートレイ：
  最大：12×18"
  最小：B5
  52 ～ 200 g/m^2
- 製本トレイ：
  最大：12×18"
  最小：A4、レター（8.5×11"）
  60 ～ 105 g/m^{2*}

* 表紙は 220 g/m^2 までです。91 ～ 220 g/m^2 の表紙を付けた場合、本文に使用できる用紙は 64 ～ 80 g/m^2 までになります。

■トレイ容量

- 排出トレイ：500 枚（A4）
- フィニッシャートレイ
  [ステープルなしの場合]
  A4：2000 枚、B4 以上：1500 枚、ミックススタック *：300 枚

* 小さいサイズの上に大きいサイズの用紙が積載された場合。

- [ステープルありの場合]
  A4：200 部または 2000 枚、B4 以上：100 部または 1500 枚
- 製本トレイ：20 部 *

* 同サイズ用紙での出力時。

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：100 枚 *（52 ～ 80 g/m^2 以下）

* A4、レター（8.5×11"）を超えるサイズの場合は、65 枚です。
* 用紙の種類など使用条件によっては、針が曲がって留められる場合があります。

- ステープル用紙サイズ：
  最大：A3、11×17"
  最小：B5
- ステープル位置：
  1 か所 *1（手前：斜め打ち、中央 / 奥：並行打ち）

*1 A3、A4 は斜め打ち。

  2 か所（並行打ち）
  4 か所 *2（並行打ち）

*2 A4□、レター□のみ

■パンチ

- パンチ数：2 穴、4 穴
- パンチ用紙サイズ：

  A3*、11 × 17"*、B4、A4、A4□*、レター、レター□*、B5□、7.25 × 10.5"□*、8 × 10"、8 x10"□、十六開□*、表紙 A4□*、9 × 11"*、215 × 315 ㎜、8.5 × 13"、8.5 × 14"、11 × 15"*、八開 *

* 4 穴パンチ可能サイズ。

- 用紙坪量：52 ～ 200 g/m^2

■中とじ / 中折り

- 最大枚数：

  中とじ 15 枚 *1、二つ折り 5 枚
- 用紙サイズ：

  最大：A3、12×18"（305×457 mm）

  最小：A4、レター（8.5×11"）
- 用紙種類

  中とじ：60 ～ 90 g/m^2 *2、二つ折り：60 ～ 105 g/m^2

*1 表紙を付ける場合、14 枚になります。

*2 表紙は 220 g/m^2 までです。91 ～ 220 g/m^2 の表紙を付けた場合、本文に使用できる用紙は 64 ～ 80 g/m^2 までになります。

注記

- 弊社 P 紙の場合です。

■紙折り

注記

- 紙折り機能はオプションの紙折りユニット D2 が必要です。

- Z 折り：

  用紙サイズ：A3、11×17"、B4

  用紙種類：60 ～ 90 g/m^2
- 三つ折り：

  用紙サイズ：A4、レター（8.5×11"）

  用紙種類：60 ～ 90 g/m^2

■インターポーザー

注記

- インターポーザーにセットした用紙には、プリントできません。

- 用紙サイズ：

  最大：A3、11×17"

  最小：B5
- 用紙種類：60 ～ 220 g/m^2
- トレイ容量：200 枚

注記

- 弊社 P 紙の場合です。

■電源 / 最大消費電力

注記
- 本体とは別に電源が必要になります。

AC100 V ± 10%、2 A、50/60 Hz 共用、203 W

■大きさ / 質量

幅 1051 × 奥行 725 × 高さ 1165 mm、135 kg

紙折りユニット D2 装着時：幅 1251 × 奥行 725 × 高さ 1165 mm、175 kg

■本体接続時の占有寸法

幅 2142× 奥行 804 mm

(本体 + 中とじフィニッシャー D2、延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸張時)

幅 2342× 奥行 804 mm

(本体 + 中とじフィニッシャー D2、紙折りユニット D2、延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸張時)

大容量給紙トレイ（1 段）（オプション）

■用紙サイズ / 用紙坪量

定形サイズ：A4、レター（8.5×11"）、B5

52 ～ 200 g/m^2

■給紙容量 / 給紙段数

2300 枚 × 1 段

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■大きさ / 質量

幅 389× 奥行 610× 高さ 383 mm、29 kg

■本体接続時の占有寸法

幅 1491 × 奥行 804 mm

(本体 + 大容量給紙トレイ（1 段）+ 延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸張時)

大容量給紙トレイ（2 段）（オプション）

■用紙サイズ / 用紙坪量

定形サイズ：A4 ノビ（305×210 mm）*1、A4、B5*2、レター（8.5×11"）、7.25×10.5"*1

52 ～ 200 g/m^2

*1 カストマーエンジニアによる用紙ガイド位置の変更とマシン設定が必要です。
*2 カストマーエンジニアによる用紙ガイド位置の変更が必要です。

■給紙容量 / 給紙段数

2300 枚 ×2 段

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■大きさ / 質量

幅 600× 奥行 694× 高さ 990 mm、72 kg

■本体接続時の占有寸法

幅 1829 × 奥行 804 mm
（本体 + 大容量給紙トレイ（2 段）+ 排出トレイ、手差しトレイを最大伸張時）

プリント可能領域

プリントできる領域は、次のとおりです。

標準印字領域

印字できる領域は、標準で用紙の上下左右の端から 4.0mm を除いた領域です。なお、実際の印字領域は、各プリンター（プロッター）制御言語によって異なることがあります。

拡張印字領域

印字領域を拡張する設定にすると、印字可能領域、印字保証領域ともに、プリントの場合は 297.0×449.2 mm、コピーの場合は、297.0×432.0 mm になります。ただし、印字保証領域は用紙 4 辺端より 4 mm を除いた部分となり、用紙サイズによって印字不可領域は異なります。

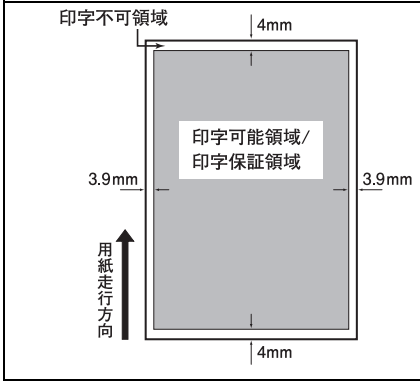
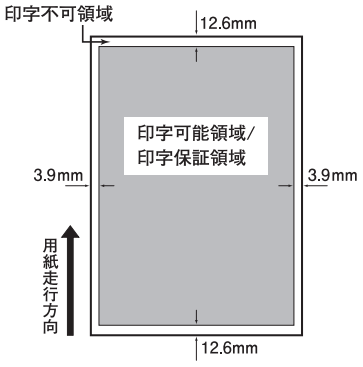
補足

- プリント領域を拡張するには、ART EX プリンタードライバー、または操作パネルの［プリント可能領域］で設定を変更します。

参照

- プリンタードライバーでの設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。操作パネルでの設定方法については、「プリント可能領域」(P.252) を参照してください。

用紙幅が 12 インチ（12 X 18）の場合

プリントの場合	コピーの場合
	

操作パネルで表示できる漢字一覧

部門名やジョブメモリーなどを登録するときに、単漢字変換をする場合、次の一覧表の漢字を使用できます。

使用できる漢字は、JIS の第一水準すべてと第二水準の一部（36 文字）です。第一水準の漢字は、読みがなの 1 文字めで分類しています。第二水準の漢字は、読みがなと漢字を示しています。漢字を登録する場合、対応した読みがなを入力して単漢字変換をしてください。そのほかのアルファベットやひらがな、数字、記号についてはタッチパネルディスプレイに表示されるキーボードをお使いください。

漢字一覧表（第一水準）

あ	亜唖娃阿哀愛挨姶逢 葵茜穐悪握渥旭葦芦鯵 梓圧斡扱宛姐虻飴絢綾 鮎或粟袷安庵按暗案闇 鞍杏
い	以伊位依偉囲夷委 威尉惟意慰易椅為畏異 移維緯胃萎衣謂違遺医 井亥域育郁磯一壱溢逸 稲茨芋鰯允印咽員因姻 引飲淫胤蔭 院陰隠韻吋
う	右宇烏羽 迂雨卯鵜窺丑碓臼渦嘘 唄鬱蔚鰻姥厩浦瓜閏噂 云運雲
え	荏餌叡営嬰影映 曳栄永泳洩瑛盈穎頴英 衛詠鋭液疫益駅悦謁越 閲榎厭円園堰奄宴延怨 掩援沿演炎焔煙燕猿縁 艶苑薗遠鉛鴛塩
お	於汚甥 凹央奥往応 押旺横欧殴王翁襖鴬 鴎黄岡沖荻億屋憶臆桶 牡乙俺卸恩温穏音
か	下化 仮何伽価佳加可嘉夏嫁 家寡科暇果架歌河火珂 禍禾稼箇花苛茄荷華菓 蝦課嘩貨迦過霞蚊俄峨 我牙画臥芽蛾賀雅餓駕 介会解回塊壊廻快怪悔 恢懐戒拐改

か	魁晦械海灰界皆絵芥 蟹開階貝凱劾外咳害崖 慨概涯碍蓋街該鎧骸浬 馨蛙垣柿蛎鈎劃嚇各廓 拡撹格核殻獲確穫覚角 赫較郭閣隔革学岳楽額 顎掛笠樫橿梶鰹潟割喝 恰括活渇滑葛褐轄且鰹 叶椛樺鞄株兜竃蒲釜鎌 噛鴨栢茅萱 粥刈苅瓦乾侃冠寒刊 勘勧巻喚堪姦完官寛干 幹患感慣憾換敢柑桓棺 款歓汗漢澗灌環甘監看 竿管簡緩缶翰肝艦莞観 諌貫還鑑間閑関陥韓館 舘丸含岸巌玩癌眼岩翫 贋雁頑顔願
き	企伎危喜器 基奇嬉寄岐希幾忌揮机 旗既期棋棄 機帰毅気汽畿祈季稀 紀徽規記貴起軌輝飢騎 鬼亀偽儀妓宜戯技擬欺 犠疑祇義蟻誼議掬菊鞠 吉吃喫桔橘詰砧杵黍却 客脚虐逆丘久仇休及吸 宮弓急救朽求汲泣灸球 究窮笈級糾給旧牛去居 巨拒拠挙渠虚許距鋸漁 禦魚亨享京 供侠僑兇競共凶協匡 卿叫喬境峡強彊怯恐恭 挟教橋況狂狭矯胸脅興 蔵郷鏡響饗驚仰凝尭暁

き	業局曲極玉桐粁僅勤均 巾錦斤欣欽琴禁禽筋緊 芹菌衿襟謹近金吟銀
く	九 倶句区狗玖矩苦躯駆駈 駒具愚虞喰空偶寓遇隅 串櫛釧屑屈 掘窟沓靴轡窪熊隈粂 栗繰桑鍬勲君薫訓群軍 郡
け	卦袈祁係傾刑兄啓圭 珪型契形径恵慶慧憩掲 携敬景桂渓畦稽系経継 繋罫茎荊蛍計詣警軽頚 鶏芸迎鯨劇戟撃激隙桁 傑欠決潔穴結血訣月件 倹倦健兼券剣喧圏堅嫌 建憲懸挙捲 検権牽犬献研硯絹県 肩見謙賢軒遣鍵険顕験 鹸元原厳幻弦減源玄現 絃舷言諺限
こ	乎個古呼固 姑孤己庫弧戸故枯湖狐 糊袴股胡菰虎誇跨鈷雇 顧鼓五互伍午呉吾娯後 御悟梧檎瑚碁語誤護醐 乞鯉交佼侯候倖光公功 効勾厚口向 后喉坑垢好孔孝宏工 巧巷幸広庚康弘恒慌抗 拘控攻昂晃更杭校梗構 江洪浩港溝甲皇硬稿糠 紅紘絞綱耕考肯肱腔膏 航荒行衡講貢購郊酵鉱

そ
倉喪壮奏爽宋層匝惣想
捜掃挿掻操早曹巣槍槽
漕燥争痩相窓糟総綜聡
草荘葬蒼藻装走送遭鎗
霜騒像増憎
臓蔵贈造促側則即息
捉束測足速俗属賊族続
卒袖其揃存孫尊損村遜

た
他多太汰詑唾堕妥惰打
柁舵楕陀駄騨体堆対耐
岱帯待怠態戴替泰滞胎
腿苔袋貸退逮隊黛鯛代
台大第醍題鷹滝瀧卓啄
宅托択拓沢濯琢託鐸濁
諾茸凧蛸只
叩但達辰奪脱巽竪辿
棚谷狸鱈樽誰丹単嘆坦
担探旦歎淡湛炭短端箪
綻耽胆蛋誕鍛団壇弾断
暖檀段男談

ち
値知地弛恥
智池痴稚置致蜘遅馳築
畜竹筑蓄逐秩窒茶嫡着
中仲宙忠抽昼柱注虫衷
註酎鋳駐樗瀦猪苧著貯
丁兆凋喋寵
帖帳庁弔張彫徴懲挑
暢朝潮牒町眺聴脹腸蝶
調諜超跳銚長頂鳥勅捗
直朕沈珍賃鎮陳

つ
津墜椎
槌追鎚痛通塚栂掴槻佃
漬柘辻蔦綴鍔椿潰坪壷
嬬紬爪吊釣鶴

て
亭低停偵
剃貞呈堤定帝底庭廷弟
悌抵挺提梯汀碇禎程締
艇訂諦蹄逓
邸鄭釘鼎泥摘擢敵滴
的笛適鏑溺哲徹撤轍迭
鉄典填天展店添纏甜貼
転顛点伝殿澱田電

し
旬楯殉淳準潤盾純巡遵
醇順処初所暑曙渚庶緒
署書薯藷諸助叙女序徐
恕鋤除傷償
勝匠升召哨商唱嘗奨
妾娼宵将小少尚庄床廠
彰承抄招掌捷昇昌昭晶
松梢樟樵沼消渉湘焼焦
照症省硝礁祥称章笑粧
紹肖菖蔣蕉衝裳訟証詔
詳象賞醤鉦鍾鐘障鞘上
丈丞乗冗剰城場壌嬢常
情擾条杖浄状畳穣蒸譲
醸錠嘱埴飾
拭植殖燭織職色触食
蝕辱尻伸信侵唇娠寝審
心慎振新晋森榛浸深申
疹真神秦紳臣芯薪親診
身辛進針震人仁刃塵壬
尋甚尽腎訊迅陣靭

す
筒諏
須酢図厨逗吹垂帥推水
炊睡粋翠衰遂酔錐錘随
瑞髄崇嵩数枢趨雛据形
椙菅頗雀裾
澄摺寸

せ
世瀬畝是凄制
勢姓征性成政整星晴棲
栖正清牲生盛精聖声製
西誠誓請逝醒青静斉税
脆隻席惜戚斥昔析石積
籍績脊責赤跡蹟碩切拙
接摂折設窃節説雪絶舌
蝉仙先千占宣専尖川戦
扇撰栓梅泉浅洗染潜煎
煽旋穿箭線
繊羨腺舛船薦詮賤践
選遷銭銑閃鮮前善漸然
全禅繕膳糎

そ
噌塑岨措曾
曽楚狙疏疎礎祖租粗素
組蘇訴阻遡鼠憎創双叢

こ
砿鋼閣降項香高鴻剛劫
号合壕拷濠豪轟麹克刻
告国穀酷鵠黒獄漉腰甑
忽惚骨狛込
此頃今困坤墾婚恨懇
昏昆根梱混痕紺艮魂

さ
些
佐叉唆嵯左差査沙瑳砂
詐鎖裟坐座挫債催再最
哉塞妻宰彩才採栽歳済
災采犀砕砦祭斎細菜裁
載際剤在材罪財冴坂阪
堺榊肴咲崎埼碕鷺作削
昨搾昨朔柵窄策索錯桜
鮭笹匙冊刷
察拶撮擦札殺薩雑皐
鯖捌錆鮫皿晒三傘参山
惨撒散桟燦珊産算纂蚕
讃賛酸餐斬暫残

し
仕仔伺
使刺司史嗣四士始姉姿
子屍市師志思指支孜斯
施旨枝止死氏獅祉私糸
紙紫肢脂至視詞詩試誌
諮資賜雌飼歯事似侍児
字寺慈持時
次滋治爾璽痔磁示而
耳自蒔辞汐鹿式識鴨竺
軸宍雫七叱執失嫉室悉
湿漆疾質実蔀篠偲柴芝
屡蕊縞舎写射捨赦斜煮
社紗者謝車遮蛇邪借勺
尺杓灼爵酌釈錫若寂弱
惹主取守手朱殊狩珠種
腫趣酒首儒受呪寿授樹
綬需囚収周
宗就州修愁拾洲秀秋
終繍習臭舟蒐衆襲讐蹴
輯週酋酬集醜什住充十
従戎柔汁渋獣縦重銃叔
夙宿淑祝縮粛塾熟出術
述俊峻春瞬竣舜駿准循

と	吐 菟 兎 登 奴 堵 塗 妬 屠 徒 斗 杜 渡 土 套 賭 途 都 鍍 砥 砺 努 度 塘 棟 怒 倒 党 冬 凍 刀 唐 塔 等 宕 島 嶋 悼 投 搭 東 桃 痘 祷 盗 淘 湯 涛 灯 燈 当 透 答 筒 糖 統 到 董 蕩 藤 討 謄 豆 踏 逃 導 鐙 陶 頭 騰 闘 働 動 同 堂 峠 憧 撞 洞 瞳 童 胴 萄 道 銅 毒 鴇 匿 得 徳 涜 特 督 禿 篤 苫 独 読 栃 橡 凸 突 椴 届 鳶 通 寅 酉 滝 噸 屯 惇 敦 沌 豚 遁 頓 呑 曇 鈍
な	奈 那 内 乍 凪 南 楠 謎 灘 捺 鍋 楢 馴 縄 暖 難 汝
に	二 尼 弐 迩 匂 賑 肉 虹 廿 日 乳 入 如 尿 韮 任 妊 忍 認
ぬ	濡
ね	禰 燃 祢 寧 葱 猫 熱 年 念 捻 撚 粘
の	乃 廼 之 埜 嚢 悩 濃 納 能 脳 膿 農 覗 蚤
は	巴 把 播 覇 杷 波 派 琶 破 婆 罵 芭 馬 俳 廃 拝 排 敗 杯 盃 牌 背 肺 輩 配 倍 培 媒 梅 楳 煤 狽 買 売 賠 陪 這 蝿 秤 矧 萩 伯 剝 博 拍 柏 泊 白 箔 粕 舶 薄 迫 曝 漠 爆 縛 莫 駁 麦 函 箱 硲 箸 肇 筈 櫨 幡 肌 畑 畠 八 鉢 溌 発 醗 髪 伐 罰 抜 筏 閥 鳩 噺 塙 蛤 隼 伴 判 半 反 叛 帆 搬 斑 板 氾 汎 版 犯 班 畔 繁 般 藩 販 範 釆 煩 頒 飯 挽 晩 番 盤 磐 蕃 蛮
ひ	匪 斐 卑 否 妃 庇 彼 悲 扉 批 披 肥 被 比 泌 疲 皮 碑 秘 緋 罷

ひ	微 誹 費 避 非 飛 樋 簸 備 尾 枇 毘 琵 眉 美 鼻 柊 稗 匹 疋 髭 彦 膝 菱 肘 弼 必 畢 筆 逼 桧 姫 媛 紐 百 謬 俵 彪 標 氷 漂 瓢 票 表 評 豹 廟 描 病 秒 苗 錨 鋲 蒜 蛭 鰭 品 彬 斌 浜 瀕 貧 賓 頻 敏 瓶
ふ	布 不 付 埠 夫 婦 富 冨 府 怖 扶 敷 斧 普 浮 父 符 腐 膚 芙 譜 負 賦 赴 阜 附 侮 撫 武 舞 葡 蕪 部 封 楓 風 葺 蕗 伏 副 復 幅 服 福 腹 複 覆 淵 弗 払 沸 仏 物 鮒 分 吻 噴 墳 憤 扮 焚 奮 粉 糞 紛 雰 文 聞
へ	丙 併 兵 塀 幣 平 弊 柄 並 蔽 閉 陛 米 頁 僻 壁 癖 碧 別 瞥 蔑 箆 偏 変 片 篇 編 辺 返 遍 便 勉 娩 弁 鞭
ほ	保 舗 鋪 圃 捕 歩 甫 補 輔 穂 募 墓 慕 戊 暮 母 簿 菩 倣 俸 包 呆 報 奉 宝 峰 峯 崩 庖 抱 捧 放 方 朋 法 泡 烹 砲 縫 胞 芳 萌 蓬 蜂 褒 訪 豊 邦 鋒 飽 鳳 鵬 乏 亡 傍 剖 坊 妨 帽 忘 忙 房 暴 望 某 棒 冒 紡 肪 膨 謀 貌 貿 鉾 防 吠 頬 北 僕 卜 墨 撲 朴 牧 睦 穆 釦 勃 没 殆 堀 幌 奔 本 翻 凡 盆
ま	摩 磨 魔 麻 埋 妹 味 枚 毎 哩 槇 幕 膜 枕 鮪 柾 鱒 桝 亦 俣 又 抹 末 沫 迄 侭 繭 麿 万 慢 満 漫 蔓
み	味 未 魅 巳 箕 岬 密 蜜 湊 蓑 稔 脈 妙 粍 民 眠
む	務 夢 無 牟 矛 霧 鵡 椋 婿 娘
め	冥

め	名 命 明 盟 迷 銘 鳴 姪 牝 滅 免 棉 綿 緬 面 麺
も	摸 模 茂 妄 孟 毛 猛 盲 網 耗 蒙 儲 木 黙 目 杢 勿 餅 尤 戻 籾 貰 問 悶 紋 門 匁
や	也 冶 夜 爺 耶 野 弥 矢 厄 役 約 薬 訳 躍 靖 柳 薮 鑓 愉 愈 油 癒
ゆ	諭 輸 唯 佑 優 勇 友 宥 幽 悠 憂 揖 有 柚 湧 涌 猶 猷 由 祐 裕 誘 遊 邑 郵 雄 融 夕
よ	予 余 与 誉 輿 預 傭 幼 妖 容 庸 揚 揺 擁 曜 楊 様 洋 溶 熔 用 窯 羊 耀 葉 蓉 要 謡 踊 遙 陽 養 慾 抑 欲 沃 浴 翌 翼 淀
ら	羅 螺 裸 来 莱 頼 雷 洛 絡 落 酪 乱 卵 嵐 欄 濫 藍 蘭 覧
り	利 吏 履 李 梨 理 璃 痢 裏 裡 里 離 陸 律 率 立 葎 掠 略 劉 流 溜 流 留 硫 粒 隆 竜 龍 侶 慮 旅 虜 了 亮 僚 両 凌 寮 料 梁 涼 猟 療 瞭 稜 糧 良 諒 遼 量 陵 領 力 緑 倫 厘 林 淋 燐 琳 臨 輪 隣 鱗 麟
る	瑠 塁 涙 累 類
れ	令 伶 例 冷 励 嶺 怜 玲 礼 苓 鈴 隷 零 霊 麗 齢 暦 歴 列 劣 烈 裂 廉 恋 憐 漣 煉 簾 練 聯 蓮 連 錬
ろ	呂 魯 櫓 炉 賂 路 露 労 婁 廊 弄 朗 楼 榔 浪 漏 牢 狼 篭 老 聾 蠟 郎 六 麓 禄 肋 録 論
わ	倭 和 語 歪 賄 脇 惑 枠 鷲 互 亘 鰐 詫 藁 蕨 椀 湾 碗 腕

漢字一覧表（第二水準）

読み	漢字
ボウ	眸
キョウ	筐
ショウ	翔
ヨ	與
ホウ	萌
エビ	蛯
ショウ	誦
キュウ	赳
テキ	迪
ハン	飯
ショウ	頌

読み	漢字
サイ	齋
コウ	篁
コウ	肛
マツ	茉
マン	萬
ケン	蜷
ジュン	諄
ケイ	蹊
マイ	邁
テツ	鐵
セン	餞

読み	漢字
リン	凜
キュウ	糺
シュウ	脩
リ	莉
ロ	蘆
フ	訃
ショウ	證
リョウ	輌
ヘン	邉
カン	鑵
キョウ	筐

読み	漢字
リン	稟
ヘン	邊
テツ	鐵

内蔵フォント

標準で次のフォントを使用できます。

参照

- オプションの PostScript フォントについては、Adobe PostScript 3 キットに同梱の CD-ROM に入っているマニュアルを参照してください。HP-GL/2、PC-PR201H、PCL のフォントについては、「PC-PR201H エミュレーションを使用するには」(P.803)、「PCL エミュレーションを使用するには」(P.821)、「HP-GL/2 エミュレーションを使用するには」(P.830) を参照してください。

アウトラインフォント

搭載されているアウトラインフォントと、使用できるページ記述言語、またはエミュレーションモードとの関係は、次のとおりです。

なお、標準で搭載されているアウトラインフォントは、PostScript（オプション）では使用できません。

	書体	ART EX	ART IV	ESC/P	PDF Bridge	Docu-Works Bridge
和文	平成明朝体 W3*	●	●	●	●	●
	平成角ゴシック体 W5*	●	●	●	●	●
欧文	ローマン			●		
	サンセリフ			●		
	Arial	●	●	●	●	●
	Arial Italic	●	●	●	●	●
	Arial Bold	●	●	●	●	●
	Arial Bold Italic	●	●	●	●	●
	Century	●				●
	Courier	●	●	●	●	●
	Courier Italic	●	●	●	●	●
	Courier Bold	●	●	●	●	●
	Courier Bold Italic	●	●	●	●	●
	GoldSEMM				●	
	GoldSAMM				●	
	Symbol	●	●	●	●	●
	Times New Roman	●	●	●	●	●
	Times New Roman Italic	●	●	●	●	●
	Times New Roman Bold	●	●	●	●	●
	Times New Roman Bold Italic	●	●	●	●	●
	ITC Zapf Dingbats				●	
	Wingdings	●				●
	OCRBLetM		●	●		

●：標準装備

* JIS2004 対応フォント

補足

- ART EX では日本語 2 書体の JIS 第一水準、第二水準の文字は JIS2004 の字形で出力されます。
- ART IV では、次の対応で指定します。
  - Arial: CS Triumvirate
  - Arial Bold: CS Triumvirate Bold
  - Arial Italic: CS Triumvirate Italic
  - Arial Bold Italic: CS Triumvirate Bold Italic
  - Courier: CSCourier Medium
  - Courier: CSCourier Bold
  - Courier: CSCourier Oblique
  - Courier: CSCourier Bold Oblique
  - Times New Roman: CSTimes
  - Times New Roman: CSTimes Bold
  - Times New Roman: CSTimes Italic
  - Times New Roman: CSTimes Bold Italic
  - Symbol: CSSymbol

オプション製品一覧

主なオプション製品は、次のとおりです。お買い求めは、販売店までご連絡ください。

商品名	説明
大型カラー操作パネル	大型のカラータッチパネルディスプレイを備えた操作パネルです。
大型カラー操作パネル取り付けキット	大型カラー操作パネルを付けるためのキットです。
大容量給紙トレイ（1 段）	用紙を 2,300 枚（弊社 P 紙）セットできる用紙トレイです。
大容量給紙トレイ（2 段）	用紙トレイ 6、7 それぞれに、用紙を 2,300 枚（弊社 P 紙）セットできる用紙トレイです。
オフセットキャッチトレイ	用紙をオフセット排出できるユニットです。
フィニッシャー C3	プリントやコピーした用紙に、ホチキス留めをして排出できる装置です。
中とじフィニッシャー C3	プリントやコピーした用紙に、ホチキス留めをして排出できる装置です。用紙を二つ折りにしたり、二つ折りしたものにホチキス留めしたりできます。
フィニッシャー C3 パンチユニット 2/4 穴	プリントやコピーした用紙に、2/4 穴のパンチ穴を開けて排出できる装置です。 **補足** • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に使用できます。 • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 をお買い求めの場合、フィニッシャー C3 パンチユニット 2/4 穴もオプションに含まれています。
フィニッシャー C3 パンチユニット 2/3 穴	プリントやコピーした用紙に、2/3 穴のパンチ穴を開けて排出できる装置です。 **補足** • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に使用できます。 • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 をお買い求めの場合、フィニッシャー C3 パンチユニット 2/3 穴もオプションに含まれています。
フィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚	平とじ用のホチキス針です。用紙の種類により、最大 65 枚までホチキス留めができます。 **補足** • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に使用できます。
紙折りユニット CD1	Z 折りや三つ折りをして排出できるようになります。 **補足** • フィニッシャー C3、または中とじフィニッシャー C3 を装着している場合に使用できます。
フィニッシャー D2	プリントやコピーした用紙に、ホチキス留めやパンチ穴を開けて排出できる装置です。 インターポーザーが内蔵されているため、専用の用紙をセットして、表紙や合紙を付けることができます。

商品名	説明
中とじフィニッシャー D2	プリントやコピーした用紙に、ホチキス留めやパンチ穴を開けて排出できる装置です。用紙を二つ折りにしたり、二つ折りしたものにホチキス留めもできます。 また、インターポーザーが内蔵されているため、専用の用紙をセットして、中とじ製本する冊子に表紙や合紙を付けることができます。
紙折りユニット D2	Z 折りや三つ折りをして排出できるようになります。 **補足** • フィニッシャー D2、または中とじフィニッシャー D2 を装着している場合に使用できます。
3 穴パンチユニット D2	プリントやコピーした用紙に、3 穴のパンチ穴を開けて排出できる装置です。 **補足** • フィニッシャー D2、または中とじフィニッシャー D2 を装着している場合に使用できます。
英文キット (標準カラー操作パネル用)	標準カラー操作パネル部分を英語表示に変更できます。
英文キット (大型カラー操作パネル用)	大型カラー操作パネル部分を英語表示に変更できます。
ウイングテーブル	IC Card Gate などの関連商品を載せたり、作業スペースが確保できるキットです。設置する関連商品によって、原稿読み込み部の左側のみ取り付けられるタイプのものと、左右どちらにも取り付けられるタイプのものの 2 種類あります。
ウイングテーブル (内蔵 IC カード、音声ナビ 2)	本体内蔵型 IC カードリーダーおよび音声ナビ 2 キットです。
お知らせライト II	機械の異常、コピーやファクスの受信プリント完了などを、離れたところからでも確認できるライトです。
アシストハンドル	原稿カバーを閉じやすいように補助するハンドルです。
地震対策キット	地震による本機の移動を防止します。
USB 増設キット	USB ポートを増設します。
音声ナビ 2	音声ガイドに従い、数字ボタンを使用して本体を操作できます。 **補足** • USB 増設キットとウイングテーブルが必要です。
セカンダリーイーサネットキット	Ethernet インターフェイスを 2 回線利用できるようになるキットです。
エミュレーションキット	エミュレーションの HP-GL/2、PC-PR201H、PCL でプリントできるキットです。
Adobe PostScript 3 キット (平成 3 書体)	平成 3 書体の PostScript 3 キットです。 本機を PostScript 対応プリンターとして利用できるほか、エミュレーションの HP-GL/2、PC-PR201H、PCL でプリントできるようになります。また、Macintosh からもプリントできるようになります。
Adobe PostScript 3 キット (モリサワ 2 書体)	モリサワ 2 書体の PostScript 3 キットです。 本機を PostScript 対応プリンターとして利用できるほか、エミュレーションの HP-GL/2、PC-PR201H、PCL でプリントできるようになります。また、Macintosh からもプリントできるようになります。

商品名	説明
無線 LAN コンバーター	10/100/1000BASE-T の有線 LAN 対応機器を、無線 LAN 対応機器に変換できます。
多言語フォントキット	SAP 等の基幹システム向け、PCL 言語用の UniCode™ フォントキットです。 **補足** • 「UniCode™」とは、中国語、韓国語、日本語、英語等の多言語を同一の文字コードで扱うために、ゼロックスが提唱した文字コードです。 • エミュレーションキットまたはAdobe PostScript 3キットが必要です。
サーバーレスオンデマンドプリントキット	コンピューターから指示したプリントジョブは、いったん機械に蓄積されます。ジョブを受信した機械が使用中でも、ネットワーク上にある別の機械からジョブを呼び出してプリントできます。ジョブを蓄積するためのサーバーは必要ありません。
USB メモリーキット	スキャンしたデータを USB メモリーに保存できるようになります。また、操作パネルから、USB メモリーに保存されている文書ファイルを読み込んでプリントできるようになります。
スキャナーキット	スキャナー機能が利用できるようになるキットです。 **補足** • DocuCentre のみのオプションです。
スキャン機能拡張キット	スキャナー（メール送信）、スキャナー（PC 保存）、スキャナー（USB メモリー保存）機能を使用する場合に、Word、Excel 文書が作成できます。また、スキャンで文字認識（OCR）を利用できるようになります。
外部アクセスキット	操作パネルから、外部のアプリケーションと連携できるようになります。 **補足** • ApeosPort のみのオプションです。
業務別らくらくスキャンキット	スキャンする文書を分類し、文書の種類ごとにファイル形式や保存先を設定して管理できます。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのスキャナーキットが必要です。 • 文字認識（OCR）機能を利用するには、オプションのスキャン機能拡張キットが必要です。
ファクスキット 2	ファクス機能やインターネットファクス機能が利用できるようになるキットです。
ファクスポート増設キット 2	回線の増設に必要なキットです。 **補足** • ファクスキット 2 が必要です。
G3 増設ポートキット 2	G3 回線を増設します。 **補足** • ファクスキット 2 が必要です。
ハンドセット	通話のときに使用します。 **補足** • ファクスキット 2 が必要です。
IP ファクス（SIP）キット	IP ファクス（SIP）機能や次世代ネットワーク（NGN）機能が利用できるようになるキットです。

商品名	説明
Tel/Fax 切り替えキット	1 本の電話回線に電話機と本機を接続し、電話とファクスを自動で切り替えます。 **補足** • ファクスキット 2 が必要です。
ペーパーレスファクス仕分けキット	本機が受信したファクス文書を、送信者ごとに自動的に親展ボックスに振り分け、保存できます。 **補足** • お使いの機種によっては、オプションのファクスキット2が必要です。
複製管理拡張キット	ページ全体に日時や番号を印字することによって、機密文書などの複写を抑止するためのキットです。
データ上書き消去キット	ハードディスクに書き込まれたデータのセキュリティーを強化するためのキットです。
ペーパーセキュリティキット	文書に複製抑制の情報を埋め込み、文書の複製を制限して、セキュリティー管理をするためのキットです。
本体内蔵型 IC カードリーダー	本体内蔵型で、IC カードの情報を読み込む装置です。 **補足** • USB 増設キットが必要です。 • ワンタッチボタンや大型カラー操作パネルと一緒に設置できません。
本体内蔵型 IC カードリーダー（HID 対応 ）	本体内蔵型で、HID 社製 Proximity Card（125KHz）の情報を読み込む装置です。 **補足** • USB 増設キットが必要です。 • ワンタッチボタンや大型カラー操作パネルと一緒に設置できません。
IC カードリーダー	ウイングテーブル内蔵型で、IC カードの情報を読み込む装置です。 **補足** • USB 増設キットが必要です。
IC カードリーダー（HID 対応）	ウイングテーブル内蔵型で、HID 社製 Proximity Card（125KHz）の情報を読み込む装置です。 **補足** • USB 増設キットが必要です。
サーバーレス認証連携キット	複合機に登録されたユーザー情報を、連携する複数の複合機間で共有できます。最大 31500 ユーザーまで登録できます。
サーバーレス認証連携キット（本体認証版）	複合機に登録されたユーザー情報を、連携する複数の複合機間で共有できます。最大 999 ユーザーまで登録でき、IC Card Gate を設置した複合機と連携して利用することも可能です。
イメージログキット	本機で実行されたジョブの文書のイメージに、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのジョブログを付加して、蓄積 / 管理するためのキットです。 **補足** • ApeosPort のみのオプションです。

商品名	説明
イメージログキット （Adobe PostScript 3）	本機で実行されたジョブの文書のイメージに、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのジョブログを付加して、蓄積 / 管理するためのキットです。 **補足** • ApeosPort のみのオプションです。 • Adobe PostScript 3 キットが必要です。

補足

- 商品の種類は変更されることがあります。
- Adobe PostScript 3 キットとエミュレーションキットは、同時に装着できません。
- 最新の情報については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

紙折り位置の調整

紙折り位置の調整について説明します。

用紙の種類ごとに紙折りの位置を調整し、10 種類のタイプに設定できます。設定したタイプは各トレイに関連付けます。

二つ折り、製本、内三つ折り、外三つ折り、Z 折りの折り位置が調整できます。

紙折り位置の調整

1 トレイに折り位置を調整する用紙をセットします。

2 〈認証〉ボタンを押して、機械管理者モードに入ります。

参照

- 機械管理者モードに入る方法については、「仕様設定の流れ」(P.142) を参照してください。

3 メニュー画面の［仕様設定 / 登録］を押します。

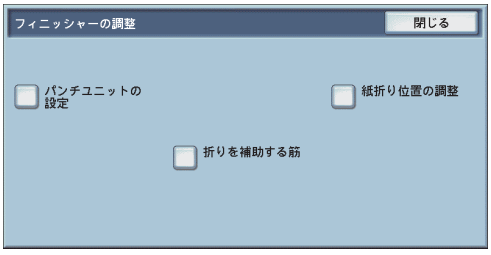
4 ［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を押します。

5 ［フィニッシャーの調整］を選択します。

補足

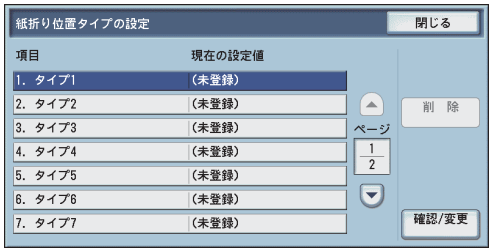
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

6 ［紙折り位置の調整］を選択します。



7 ［紙折り位置タイプの設定］を選択して、［設定 / 変更］を押します。

8 設定または調整したい紙折り位置タイプを選択して、［確認 / 変更］を押します。



9 ［名称］を選択して、［確認 / 変更］を押します。

10 タイプ名を入力して、［決定］を押します。

補足

- 「二つ折り標準」など、内容のわかる名称にすることをお勧めします。

11 折りのタイプを選択して、［確認 / 変更］を押します。

参照

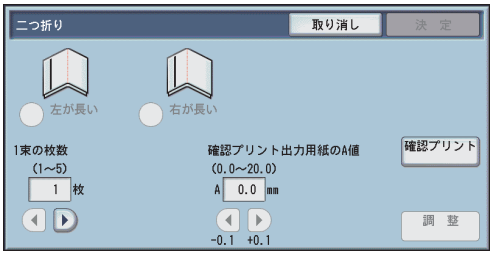
- それぞれの折り調整の詳細は、次を参照してください。
  - 二つ折りについては「二つ折りの位置調整」(P.774)
  - 製本については「製本の位置調整」(P.776)
  - 内三つ折りについては「内三つ折りの位置調整」(P.778)
  - 外三つ折りについては「外三つ折りの位置調整」(P.779)
  - Z 折りについては「Z 折りの位置調整」(P.781)

二つ折りの位置調整

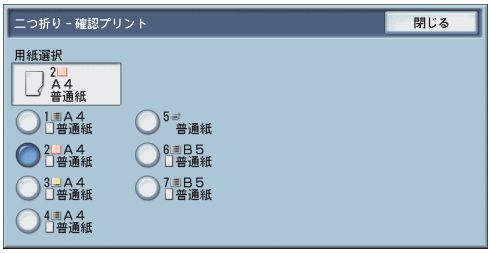
二つ折りの位置を調整します。

1 ［二つ折り］を選択して、［確認 / 変更］を押します。

2 ［1 束の枚数］を指定して、［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

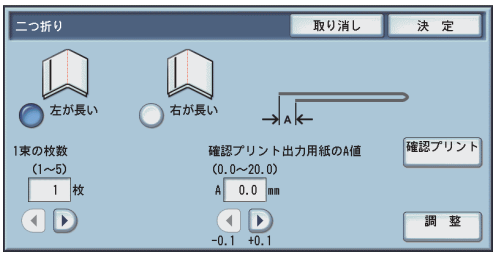


出力サンプルがプリントされます。

4 ［閉じる］を押します。

5 プリントされた出力サンプルを確認して、ずれ量を計測します。

6 ［左が長い］または［右が長い］を選択し、［確認プリント出力用紙の A 値］に、手順 5 で計測した値を入力します。



7 ［調整］を押します。

8 再度［確認プリント］を押します。

9 用紙をセットしたトレイを選択し、<スタート>ボタンを押します。出力サンプルがプリントされます。

10 ［閉じる］を押します。

11 出力サンプルの結果を確認します。

12 必要あれば、再度、調整します。（手順 5 ～ 11）

13 ［決定］を押します。

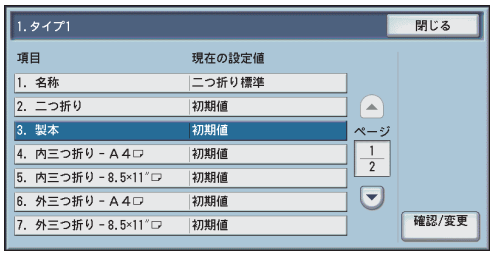
14 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足
- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

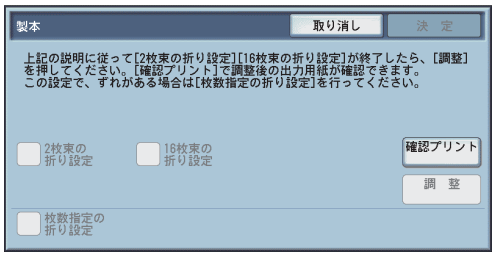
製本の位置調整

製本の位置を調整します。

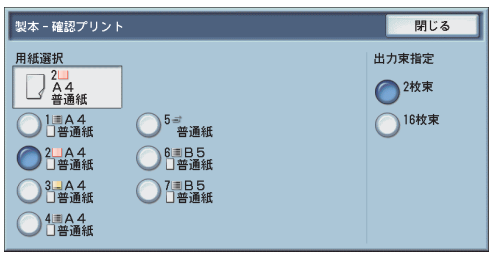
1 ［製本］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



2 ［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択し、［2 枚束］を選択して、〈スタート〉ボタンを押します。



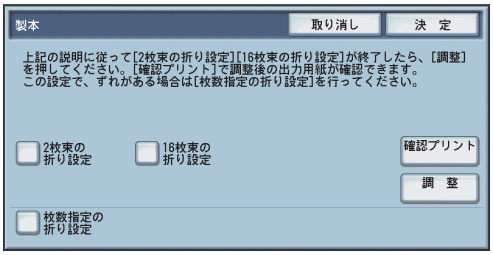
出力サンプルがプリントされます。

4 用紙をセットしたトレイを選択し、［16 枚束］を選択して、〈スタート〉ボタンを押します。
出力サンプルがプリントされます。

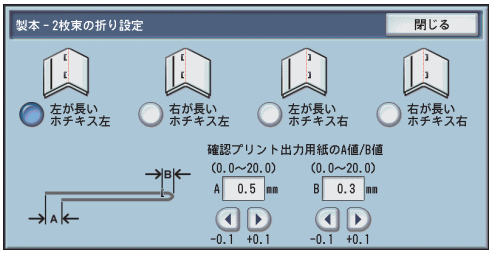
5 ［閉じる］を押します。

6 出力サンプルを確認して、2 枚束、16 枚束の位置のずれ量を計測します。

7 ［2 枚束の折り設定］を押します。

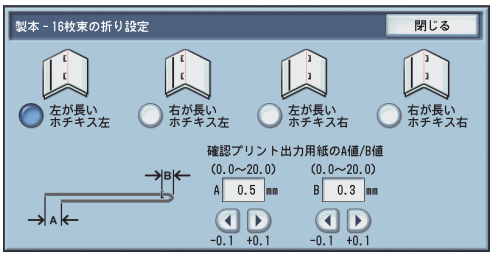


8 出力用紙の折りとホチキスの位置の状態を選択して、[確認プリント出力用紙の A 値 / B 値］に手順 6 で計測した 2 枚束のずれ量を入力ます。

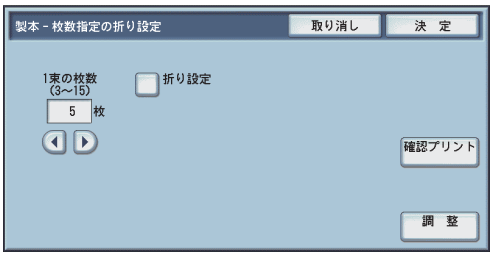


9 ［閉じる］を押します。

10 同様に、［16 枚束の折り設定］を設定し、［閉じる］を押します。



［枚数指定の折り設定］を設定します。



補足

- 2 枚束と 16 枚束の設定で 2 枚束から 16 枚束まで自動的に調整されます。
- 2枚束と16枚束の自動調整で合わない枚数がある場合は、[枚数指定の折り設定]で設定してください。

11 ［調整］を押します。

12 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。出力サンプルがプリントされます。

13 ［閉じる］を押します。

14 出力サンプルの結果を確認します。

15 必要あれば、再度、調整します。（手順 6 ～ 14）

16 ［決定］を押します。

17 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

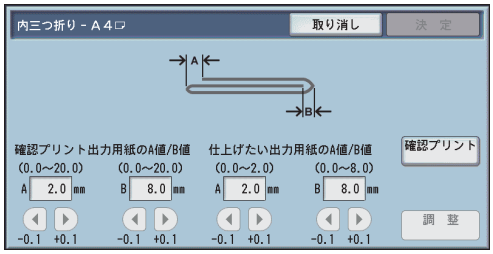
補足
- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

内三つ折りの位置調整

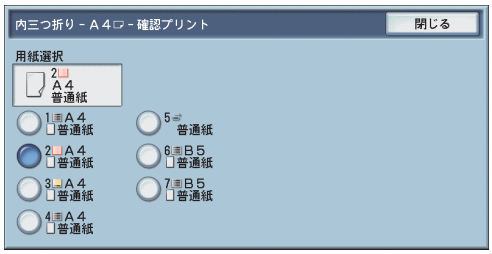
内三つ折りの位置を調整します。

1 ［内三つ折り - A4□］または［内三つ折り - 8.5x11"□］を選択して、［確認 / 変更］を押します。

2 ［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

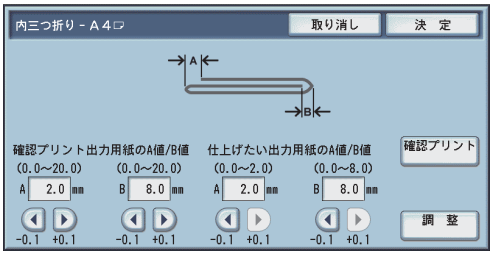


出力サンプルがプリントされます。

4 ［閉じる］を押します。

5 プリントされた出力サンプルを確認して、折り位置移動量 A、B を計測します。

6 ［確認プリント出力用紙の A 値 /B 値］に手順 5 で計測した値を、［仕上げたい出力用紙の A 値 /B 値］に仕上げたい（調整後にほしい）値を入力します。



注記

- 用紙の端が折り位置より外に出ないように A 値、B 値を設定してください。用紙の端が折り位置より外に出ると、紙づまりの原因になることがあります。

7 ［調整］を押します。

8 再度［確認プリント］を押します。

9 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。
出力サンプルがプリントされます。

10 ［閉じる］を押します。

11 出力サンプルの結果を確認します。

12 必要があれば、再度、調整します。

13 ［決定］を押します。

14 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

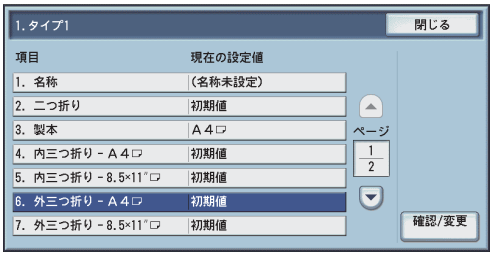
補足

- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

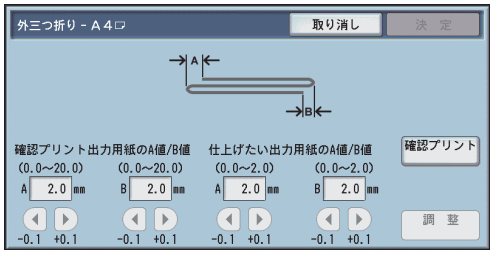
外三つ折りの位置調整

外三つ折りの位置を調整します。

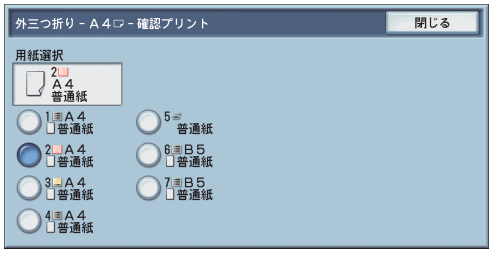
1 ［外三つ折り - A4□］または［外三つ折り - 8.5x11"□］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



2 ［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択して、〈スタート〉ボタンを押します。

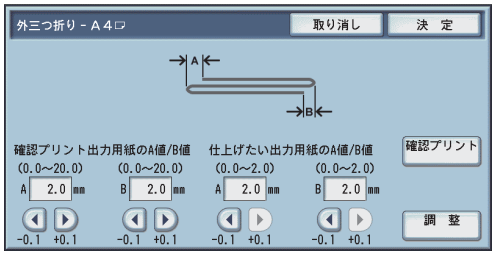


出力サンプルがプリントされます。

4 ［閉じる］を押します。

5 プリントされた出力サンプルを確認して、折り位置移動量 A、B を計測します。

6 ［確認プリント出力用紙の A 値 /B 値］に手順 5 で計測した値を、［仕上げたい出力用紙の A 値 /B 値］に仕上げたい（調整後にほしい）値を入力します。



注記

- 用紙の端が折り位置より外に出ないように A 値、B 値を設定してください。用紙の端が折り位置より外に出ると、紙づまりの原因になることがあります。

7 ［調整］を押します。

8 再度［確認プリント］を押します。

9 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。
出力サンプルがプリントされます。

10 ［閉じる］を押します。

11 出力サンプルの結果を確認します。

12 必要があれば、再度、調整します。（手順 5 ～ 11）

13 ［決定］を押します。

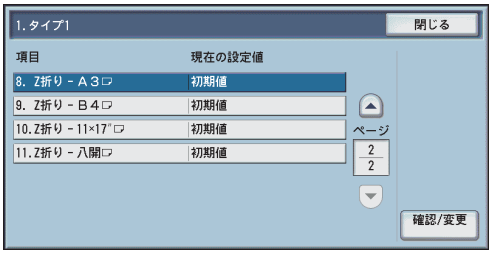
14 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

補足
- ［仕様設定］以降または［登録 / 変更］以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

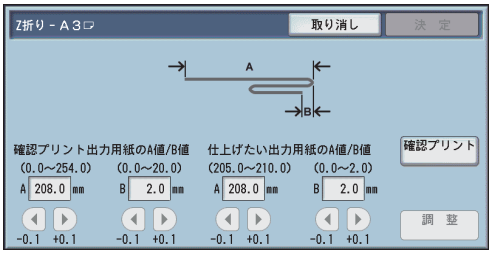
Z 折りの位置調整

Z 折りの位置を調整します。

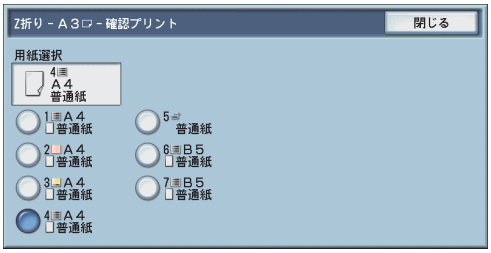
1 ［Z 折り - A3□］、［Z 折り - B4□］、［Z 折り - 11x17"□］または［Z 折り - 八開□］を選択して、［確認 / 変更］を押します。



2 ［確認プリント］を押します。



3 用紙をセットしたトレイを選択し、〈スタート〉ボタンを押します。

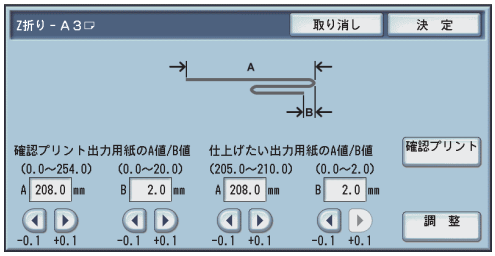


出力サンプルがプリントされます。

4 ［閉じる］を押します。

5 プリントされた出力サンプルを確認して、折り位置移動量 A、B を計測します。

6 [確認プリント出力用紙の A 値 /B 値]に手順 5 で計測した値を、[仕上げたい出力用紙の A 値 /B 値] に、仕上げたい（調整後にほしい）値を入力します。



注記
- 用紙の端が折り位置より外に出ないように B 値を設定してください。用紙の端が折り位置より外に出ると、紙づまりの原因になることがあります。

7 [調整] を押します。

8 再度 [確認プリント] を押します。

9 用紙をセットしたトレイを選択し、< スタート > ボタンを押します。
出力サンプルがプリントされます。

10 [閉じる] を押します。

11 出力サンプルの結果を確認します。

12 必要があれば、再度、調整します。（手順 5 ～ 11）

13 [決定] を押します。

14 メニュー画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

補足
- [仕様設定] 以降または [登録 / 変更] 以降の機能を設定した後で、〈メニュー〉ボタンを押すと 1 回でメニュー画面に戻ります。

ESC/P エミュレーションを使用するには

ESC/P エミュレーションを使用する方法について説明します。

エミュレーションについて

本機で使用できるプリント言語のエミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。本機では、この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類できます。なお、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
ESC/P エミュレーションモード（ESC/P モード）	VP-1000

ホストインターフェイスとエミュレーション

ホストインターフェイスごとに、対応するプリント言語は異なります。プリント言語に対応しているホストインターフェイスは、次のとおりです。

- USB ポート
- NetWare ポート
- LPD ポート
- IPP ポート
- Port 9100 ポート
- WSD ポート

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

■コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

■自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

■インターフェイス従属

CentreWare Internet Services を使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

フォントについて

エミュレーションから使用できるフォントについて説明します。

使用できるフォント

エミュレーションでは、次のフォントが使用できます。

■ESC/P エミュレーション

使用できるアウトラインフォントは、次のとおりです。

- 和文
  - 平成明朝体 W3
  - 平成角ゴシック体 W5
- 欧文
  - 平成明朝体（ローマン）
  - 平成角ゴシック体（サンセリフ）
  - OCR-B

ユーザー定義文字（外字）

本機では、ユーザー定義文字（外字）を使用できます。

ユーザー定義文字を格納するメモリーの容量は、その他のユーザー定義データの容量と合わせた値を、操作パネルから設定できます。この値は、電源を切っても保持されます。

ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録します。ユーザー定義文字は、各プリント言語の間で共有できません。

フォントキャッシュ

高速プリントを実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。

保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったりシステムリセットをしたりすると消えます。

排出機能について

排出について説明します。

プリント待ちジョブの排出

プリンターに受信されているジョブを優先してプリントします。

参照

- プリンター内のジョブを優先してプリントする手順は、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」>「実行中 / 実行待ちのジョブを確認する」を参照してください。

ESC/P エミュレーションモードでのプリント機能

N アップ

N アップは、複数ページを縮小して、1 枚の用紙にプリントする機能です。

N アップは、ESC/P モードのエミュレーションモードで利用できます。ESC/P モードでは、2 アップを利用できます。

フォームオーバーレイ

ESC/P モードでは、あらかじめフォームをプリンターに登録しておき、プリントデータに合成してプリントできます。

操作パネルから、合成するフォームを指定できます。

参照

- フォームの登録については、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。

バーコード

ESC/P モードでは、バーコードを利用できます。利用できるバーコード規格は、次のとおりです。

- JAN コード
- CODE39
- CODABAR
- Industrial 2 of 5
- Matrix 2 of 5
- Interleaved 2 of 5

フォームについて

本機では、ESC/P を使用して定形のフォームを登録できます。フォームは、64 登録できます。

参照

- フォームの登録については、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。

ESC/P エミュレーションモード設定項目

ESC/P のモードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	3	プリントに使用する用紙トレイを設定します。 【0】　　：自動 【1】（初期値）：トレイ 1 【2】　　：トレイ 2 【3】　　：トレイ 3 【4】　　：トレイ 4 【5】　　：トレイ 5（手差し） 【6】　　：トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段 /2 段）） 【7】　　：トレイ 7（大容量給紙トレイ（2 段）） 手差しトレイから給紙する場合は、プリントを指示したあとに本体側の操作でプリントを開始します。設定を解除するには、「トレイ 5 確認表示」の設定を変更してください。 **注記** •「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」、「トレイ 7」を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「自動」を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3 →トレイ 4 →トレイ 6 →トレイ 7 の順に給紙されます。
原稿サイズ	1	クライアントで作成された原稿のサイズを設定します。 【99】（初期値）：用紙 【100】　　：連続紙（10×12”） 【101】　　：連続紙（10×11”） 【102】　　：連続紙（15×12”） 【103】　　：連続紙（15×11”） 【3】　　：A3 【4】　　：A4 【5】　　：A5 【14】　　：B4 【15】　　：B5 【21】　　：8.5×14” 【22】　　：8.5×13” 【23】　　：8.5×11” 【24】　　：11×17” 【0】　　：はがき 印刷保証桁は、連続紙（10×12”）は 80 桁 /72 行、連続紙（10×11”）は 80 桁 /66 行、連続紙（15×12”）は 136 桁 /72 行、連続紙（15×11”）は 136 桁 /66 行です。 **補足** •「原稿サイズ」で連続紙を選択した場合、「用紙位置」の設定はできません。 •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。 • ここで設定する方向は「原稿の向き」です。トレイ内の用紙のセットの方向には影響しません。

設定項目	項目番号	設定値
用紙方向	19	用紙の向きを設定します。 【0】（初期値）：縦 【1】：横
用紙サイズ	2	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14” 【22】：8.5×13” 【23】：8.5×11” 【24】：11×17” 【0】：はがき **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」、「トレイ 7」のどれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
用紙位置	20	用紙位置を設定します。 【0】（初期値）：カットシートフィーダーなし（左） 【1】：カットシートフィーダーあり（中央） **補足** • カットシートフィーダーなしの場合は、FF（改ページコマンド）を受信すると、VFU で設定された値だけ行送りをします。カットシートフィーダーありの場合は、改ページします。 •「原稿サイズ」で連続紙を選択した場合、「用紙位置」の設定はできません。
出力部数	8	プリントする部数を設定します。 【1 ～ 250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • クライアントからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。

設定項目	項目番号	設定値
倍率	54 （倍率モード）	原稿を印字する倍率を設定します。 【0】（初期値）：固定倍率 【1】：任意倍率 【2】：カット紙全面 固定倍率とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字エリアが用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば 100%（等倍）印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。 任意倍率とは、「倍率」>「任意倍率」で設定される倍率のことです。倍率の基準値は印字エリアの左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 カット紙全面領域が印字エリアに印字されます。 カット紙全面とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字エリアに収まるよう印字されます。
	17 （任意倍率 / 縦倍率） 18 （任意倍率 / 横倍率）	原稿を印字するたてまたはよこの倍率を設定します。 【45 ～ 210】（初期値：100）：45 ～ 210% **補足** •「原稿サイズ」で連続紙が設定されている場合、「固定倍率」と「カット紙全面」は同じ印字結果となります。
2UP モード	21	2 アップ印字をするか、1 ページごとに印字するかを設定します。2 アップとは、2 ページ分のデータを 1 ページに印字する機能です。用紙方向によって上下または左右のどちらかに印字されます。 【0】（初期値）：なし 【1】：順方向 【2】：逆方向 **注記** •「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果となります。
排出先	9	プリントした用紙の排出先トレイを設定します。 【0】（初期値）：センタートレイ 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション）
トレイ5確認表示	67	トレイ 5（手差し）から給紙するプリント指示をしたあと、本体側の操作によってプリントを開始します。 【0】（初期値）：なし 【1】：あり
罫線	22	2 バイト系罫線フォントの印字方法を設定します。候補値は次のとおりです。 【0】（初期値）：イメージ 【1】：フォント
両面	12	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き **注記** •「用紙サイズ」に「はがき」が設定されている場合は、「左右開き」と「上下開き」は選択できません。

設定項目	項目番号	設定値
フォント	13 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 【0】（初期値）：明朝 【1】：ゴシック **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	14 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 【0】（初期値）：ローマン 【1】：サンセリフ **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
印字制御	50 （漢字コード）	使用する漢字コード表を設定します。 【0】（初期値）：エプソン 【1】：東芝
	51 （白紙排出）	改ページだけのデータのように、プリントするデータがまったくない場合に、白紙を排出するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **補足** •「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや、白だけのイメージデータのときは白紙が排出されます。 •「しない」が設定され、2 アッププリントまたは両面プリントの指示がされている場合、白紙となるページはスキップして処理します。
	52 （印字桁範囲）	右マージンの位置を拡張できます。 【0】（初期値）：標準 【1】：拡張 **注記** • 印字桁範囲を「拡張」から「標準」に設定変更した場合は、左右マージン値が初期化されます。 • コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端となります。
	53 （イメージエンハンスメント）	イメージエンハンスメントを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスメントとは、白黒の境めを滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON

設定項目	項目番号	設定値
ESCP スイッチ	55 （文字品位）	文字の印字品質モードを高品位かドラフトに設定します。 【0】（初期値）：高品位 【1】：ドラフト **注記** •「文字品位」、「縮小文字」、「文字コード表」、「ページ長」および「1 インチミシン目スキップ」の各設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 **補足** • 設定状態の変更で、実際の印字は変化しません。 • 本設定は、文字品位選択コマンドに影響します。文字品位選択コマンドについては、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。
	56 （縮小文字）	1 バイト系の英数字を印字する場合、文字を縮小して印字できます。縮小するか等倍で印字するかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する
	57 （文字コード表）	1 バイト系の英数字を印字する場合のコード表の種類を設定します。国内版アプリケーションをご使用の場合はカタカナを、海外版アプリケーションをご使用の場合は拡張グラフィックスに設定してください。 【0】（初期値）：カタカナ 【1】：拡張グラフィックス
	58 （ページ長）	1 ページの長さ（印字エリア）を 11 インチまたは 12 インチに設定します。 【0】（初期値）：11 インチ 【1】：12 インチ
	59 （1 インチミシン目スキップ）	ページとページの間を 1 インチ空けるか、空けないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **注記** •「用紙位置」で CSF が「なし」に設定されている場合だけ実行されます。
	60 （給紙位置）	印字開始位置を、用紙の上端から 8.5mm か 22mm に設定します。 【0】（初期値）：8.5mm 【1】：22mm
	61 （CR の機能）	CR コマンド受信時の動作を設定します。 【0】（初期値）：復帰 【1】：復帰改行
位置補正	15 （縦位置補正）	データをプリントする位置をたてまたはよこ方向に移動し、余白の位置を変える機能です。 【0】（初期値）：しない 【1 ～ 500】：-250 ～ +250mm **注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
	16 （横位置補正）	

設定項目	項目番号	設定値
拡張子	62 （拡張子指定）	通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く；（セミコロン＝ 3BH）を指定しています。 ホストコンピューターで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用できます。この拡張子の置き換え機能を有効にするかどうかを設定します。 有効にする場合、項目番号 63 で、拡張子を指定します。 【0】（初期値）：無効 【1】　　：有効 **参照** • 拡張コマンドについては、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。
	63 （拡張子）	テキストコードで制御できるようにする場合は、拡張コマンドの拡張子（先頭 2 バイト）を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。 【&%】（初期値）：0x21 ～ 0x7e
フォーム合成	64	登録されているフォーム名（No.01 ～ 64）を選択することによって、常にフォーム合成を行います。 【0】（初期値）：しない 【1 ～ 64】　：No.1 ～ No.64 **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 • フォームを選択したあと、フォームが削除された場合でも、そのフォーム名が表示されています。なお、上下キーでフォーム選択を行ったあとは、表示されません。この場合は「しない」を選択していることになります。
ホチキス留め	66	ホチキス留めをする位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】　　：左上 1 か所 【2】　　：上辺 2 か所 【3】　　：右上 1 か所 【4】　　：左辺 2 か所 【5】　　：右辺 2 か所 【6】　　：下 1 か所 【7】　　：下辺 2 か所 【8】　　：右下 1 か所
手差し給紙の一時停止	67	手差しトレイから給紙するときに、一時停止するかしないかを設定します。一時停止したあとに本体側の操作によって、プリントを開始します。 【0】　　：しない 【1】（初期値）：する
フォーム種類	68	フォームの種類を設定します。 【0】（初期値）：ESC/P 【1】　　：ART IV
パンチ	69	パンチ穴を開ける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】　　：上辺 【2】　　：下辺 【3】　　：左辺 【4】　　：右辺
パンチ穴数	70	パンチ穴の数を設定します。 【0】（初期値）：2 穴 【1】　　：3 穴 【2】　　：4 穴

設定項目	項目番号	設定値
文字コード	71	文字コードの種類を設定します。 【0】（初期値）：JIS 【1】：ShiftJIS
バイナリーデータの指定文字列	72	16 進表記でコマンドを入力する指定文字列を設定します。 【0】（初期値）：OFF 【1】：&$%$ 【2】：$?!#
0 の字体	73	0 の字体を設定します。 【0】（初期値）：0 【1】：Ø
有効出力部数	74	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】：プロトコル指定 【1】：パネル 【2】（初期値）：コマンド
バーコードモード	75	バーコードモードを設定します。バーコードモードに設定すると、バーコードの輪郭がはっきりと印刷されます。 【0】（初期値）：通常モード 【1】：バーコードモード

倍率値一覧表

固定倍率値

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17”	8.5×14”	8.5×13”	8.5×11”	はがき
A3	長辺	100	70	49	86	60	103	84	78	66	100
	短辺	100	70	48	86	60	94	72	72	72	100
A4	長辺	143	100	70	123	86	147	120	112	94	48
	短辺	143	100	69	123	86	135	103	103	103	45
A5	長辺	204	143	100	177	123	210	172	160	135	69
	短辺	207	145	100	178	124	195	149	149	149	65
B4	長辺	116	81	57	100	70	119	98	90	76	100
	短辺	116	81	56	100	70	109	83	83	83	100
B5	長辺	164	116	81	143	100	171	140	130	109	56
	短辺	164	116	81	143	100	156	120	120	120	53
11×17”	長辺	97	68	48	84	59	100	82	76	64	100
	短辺	106	74	51	92	64	100	77	77	77	100
8.5×14”	長辺	119	83	58	102	72	122	100	93	78	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
8.5×13”	長辺	128	90	63	111	77	132	108	100	84	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
8.5×11”	長辺	152	106	74	131	92	156	128	119	100	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17”	8.5×14”	8.5×13”	8.5×11”	はがき
はがき	長辺	100	100	145	100	178	100	100	100	100	100
	短辺	100	100	153	100	190	100	100	100	100	100
15×11”	長辺	119	83	58	103	72	122	100	93	78	100
	短辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
15×12”	長辺	119	83	58	103	72	122	100	93	78	100
	短辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
10×11”	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×12”	長辺	135	95	66	117	81	139	114	105	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

単位 :[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が 45 ～ 210% を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は 100% となります。

固定倍率値（2 アップ指定時）

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17”/2	8.5×14”/2	8.5×13”/2	8.5×11”/2	はがき/2
A3	長辺	70	49	100	60	100	66	50	50	50	100
	短辺	70	48	100	60	100	72	59	54	45	100
A4	長辺	100	70	48	86	60	94	72	72	72	100
	短辺	100	69	48	86	59	103	84	78	65	100
A5	長辺	143	100	69	123	86	135	103	103	103	45
	短辺	145	100	69	124	86	149	121	112	94	47
B4	長辺	81	57	100	70	49	76	58	58	58	100
	短辺	81	56	100	70	48	83	68	63	53	100
B5	長辺	116	81	56	100	70	109	83	83	83	100
	短辺	116	80	55	100	69	120	98	90	76	100
11×17”	長辺	68	48	100	59	100	64	49	49	49	100
	短辺	74	51	100	64	100	77	62	58	48	100
8.5×14”	長辺	83	58	100	72	50	78	60	60	60	100
	短辺	97	67	100	84	57	100	82	75	63	100
8.5×13”	長辺	90	63	100	77	54	84	64	64	64	100
	短辺	97	67	100	84	57	100	82	75	63	100
8.5×11”	長辺	106	74	51	92	64	100	77	77	77	100
	短辺	97	67	46	84	57	100	82	75	63	100
はがき	長辺	100	145	100	178	124	100	149	149	149	65
	短辺	100	153	105	190	131	100	185	172	144	71

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17”/2	8.5×14”/2	8.5×13”/2	8.5×11”/2	はがき/2
15×11”	長辺	83	58	100	72	100	78	60	60	60	100
	短辺	72	50	100	62	100	74	60	56	47	100
15×12”	長辺	83	58	100	72	100	78	60	60	100	100
	短辺	66	46	100	57	100	68	55	51	100	100
10×11”	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×12”	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

単位 :[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が 45 ～ 210% を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は 100% となります。

カット紙全面倍率値

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17”	8.5×14”	8.5×13”	8.5×11”	はがき
A3	長辺	98	69	48	85	59	101	83	77	64	100
	短辺	97	68	47	84	58	91	70	70	70	100
A4	長辺	138	97	68	120	84	142	117	108	91	100
	短辺	137	96	66	118	82	129	99	99	99	100
A5	長辺	196	137	96	169	118	201	165	153	129	66
	短辺	195	136	94	168	117	183	140	140	140	62
B4	長辺	113	79	55	98	68	116	95	88	74	100
	短辺	112	78	54	97	67	105	81	81	81	100
B5	長辺	160	112	78	138	97	165	135	125	105	54
	短辺	158	110	76	136	95	149	114	114	114	50
11×17”	長辺	95	67	47	82	57	98	80	74	63	100
	短辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
8.5×14”	長辺	116	81	57	100	70	119	98	90	76	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
8.5×13”	長辺	125	87	61	108	75	128	105	97	82	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
8.5×11”	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
はがき	長辺	100	195	136	100	168	100	100	100	183	94
	短辺	100	201	139	100	173	100	100	100	207	91
15×11”	長辺	135	95	66	117	81	139	105	114	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17”	8.5×14”	8.5×13”	8.5×11”	はがき
15×12”	長辺	135	95	66	117	81	139	105	114	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×11”	長辺	147	103	72	127	89	151	115	124	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×12”	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

単位 :[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が 45 ～ 210% を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は 100% となります。

カット紙全面倍率値（2 アップ指定時）

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17”/2	8.5×14”/2	8.5×13”/2	8.5×11”/2	はがき/2
A3	長辺	69	48	100	59	100	64	49	49	100	100
	短辺	68	47	100	58	100	70	57	53	100	100
A4	長辺	97	68	47	84	58	91	70	70	70	100
	短辺	96	66	46	82	57	99	80	74	62	100
A5	長辺	137	96	66	118	82	129	99	99	99	100
	短辺	136	84	65	117	80	140	114	106	88	100
B4	長辺	79	55	100	68	48	74	57	57	57	100
	短辺	78	54	100	67	46	81	66	61	51	100
B5	長辺	112	78	54	97	67	105	81	81	81	100
	短辺	110	76	53	95	65	114	93	86	72	100
11×17”	長辺	67	47	100	57	100	63	48	48	48	100
	短辺	72	50	100	62	100	74	60	56	47	100
8.5×14”	長辺	81	47	100	70	49	76	58	58	58	100
	短辺	93	50	100	80	55	96	78	72	61	100
8.5×13”	長辺	87	61	100	75	52	82	63	63	63	100
	短辺	93	64	100	80	55	96	78	72	61	100
8.5×11”	長辺	103	89	100	89	72	97	74	74	74	100
	短辺	93	80	100	80	55	96	78	72	61	100
はがき	長辺	195	136	94	168	117	183	140	140	140	62
	短辺	201	139	96	173	119	207	169	156	131	65
15×11”	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
15×12”	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17”/2	8.5×14”/2	8.5×13”/2	8.5×11”/2	はがき/2
10×11”	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×12”	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

単位 :[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が 45 ～ 210% を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は 100% となります。

用紙サイズと印字可能桁数

給紙位置 22mm の場合

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
A3	113	92	161	63
B4	97	78	139	53
A4	79	63	113	42
B5	68	53	97	35
A5	54	42	79	27
はがき	35	30	54	19
11×17”	106	94	166	58
8.5×14”	81	76	136	43
8.5×13”	81	70	126	43
8.5×11”	81	58	106	43

給紙位置 8.5mm の場合

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
A3	113	95	161	66
B4	97	82	139	56
A4	79	66	113	45
B5	68	56	97	39
A5	54	45	79	31
はがき	35	30	54	19
11×17”	106	98	166	62
8.5×14”	81	80	136	47
8.5×13”	81	74	126	47
8.5×11”	81	62	106	47

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- たて / よこ倍率はそれぞれ 100% です。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

カット紙全面の場合

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
A3	116	99	165	70
B4	101	85	143	60
A4	82	70	116	49
B5	71	60	101	42
A5	58	49	82	34
はがき	39	34	58	23
11×17”	110	102	170	66
8.5×14”	85	84	140	51
8.5×13”	85	78	130	51
8.5×11”	85	66	110	51

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- ハードウエアの構成により使用できない用紙サイズもあります。

15 インチ連続紙モード（よこ固定 / 左置き）の場合

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
対応する全用紙サイズ	136	66	136	72

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。

10 インチ連続紙モード

用紙サイズ	たて置き		よこ置き	
	印字桁数	印字行数	印字桁数	印字行数
対応する全用紙サイズ	80	66	80	72

PDF ダイレクトプリントを使用するには

PDF ダイレクトプリントとは、PDF ファイルをプリンタードライバーを使わないで、直接 lpr コマンドなどを使ってプリントする機能です。PDF ダイレクトプリントを使ってプリントする場合、次の項目は［プリンターモード］の［PDF エミュレーション設定］の設定に従ってプリントされます。

- 出力部数
- 両面
- 印刷モード
- ソート
- レイアウト
- 用紙サイズ
- プリント処理モード

補足

- PDFファイルのダイレクトプリント機能は、Adobe純正のPDFダイレクトプリントとPostScript非搭載の PDF ダイレクトプリント（PDF Bridge）の 2 種類が可能です。どちらを優先するかは、［プリント処理モード］で設定できます。
- lpr コマンドを使ってプリントする場合、部数の指定は lpr コマンドで行います。［PDF エミュレーション設定］の「部数」の設定は無効になります。なお、lpr コマンドで部数の指定をしない場合は、1 部として処理されます。
- lprコマンドを使ってPDFファイルをプリントする場合は、操作パネルまたはCentreWare Internet Services を使って、本体側の LPD プロトコルを起動しておく必要があります。

PDF ダイレクトプリント機能の設定項目

PDF ダイレクトプリント機能で設定できる項目について、説明します。

弊社ユーティリティの「ContentsBridge」を使用しないで PDF ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

補足

- ContentsBridge Utility を使用して PDF ファイルをプリントする場合は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
出力部数	401	プリントする部数を設定します。 【1 ～ 999】（初期値：1）：1 ～ 999 枚
両面	402	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：長辺とじ 【2】：短辺とじ 長辺とじは、用紙の長い辺でとじた場合に、正しい向きで読めるように両面プリントを行います。 短辺とじは、用紙の短い辺でとじた場合に、正しい向きで読めるように両面プリントを行います。
印刷モード	403	画質を優先するか、速度を優先するかを設定します。 【0】（初期値）：標準 【1】：高速 【2】：高画質 標準は、標準的な速度、画質でプリントします。 高速は、速度を優先してプリントします。 高画質は、プリント速度は遅くなりますが、画質を優先して、よりきれいにプリントします。

設定項目	項目番号	設定値
ソート	404	複数部数を、1 部ごとにソート（1、2、3...1、2、3...）してプリントするかどうかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する
レイアウト	405	プリントするときのレイアウトについて設定します。 **補足** • この項目は、「プリント処理モード」で「PDF Bridge」を選択した場合だけ、設定が有効になります。 【0】（初期値）：自動倍率 【1】：カタログ（製本） 【2】：2 アップ 【3】：4 アップ 【4】：100%（等倍） 自動倍率は、プリントする用紙サイズに対して、最も拡大率が大きくなるように、自動的に倍率が設定されてプリントされます。 カタログ（製本）は、プリントする PDF ファイルのページ構成に応じて、プリント結果がカタログのようにページ割り付けされて両面プリントされます。ただし、ページ構成によっては、カタログ（製本）プリントができない場合があります。その場合は、［0］（自動倍率）でプリントされます。 **補足** •「用紙サイズ」で「A4」を設定している場合は、A4 サイズの用紙にプリントされます。 •「用紙サイズ」で「自動」を設定している場合は、A3 または A4 の用紙にプリントされます。 2 アップは、1 枚の用紙に、2 ページ分の原稿を割り付けてプリントします。2 アップを選択した場合、用紙サイズは、A4 固定になります。 4 アップは、1 枚の用紙に、4 ページ分の原稿を割り付けてプリントします。4 アップを選択した場合、用紙サイズは、A4 固定になります。
用紙サイズ	406	プリントする用紙のサイズを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：A4 自動は、プリントする PDF ファイルの原稿サイズと設定に応じて、自動的に用紙サイズが判別されます。
プリント処理モード	408	PDF エミュレーション機能を使用するとき、プリント処理をするモードを選択します。 【0】（初期値）：PDF Bridge 【1】：PS PDF Bridge は、PDF を弊社製の PDF エミュレーション機能を使用して処理します。 PS は、PDF を Adobe 社製の PostScript の機能を使用して処理します。 **補足** • この項目は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）を装着している場合に表示されます。 •［PDF Bridge］を選択した場合と［PS］を選択した場合では、プリント結果が異なることがあります。 •［PS］を選択した場合は、［レイアウト］での設定は無効になります。

DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには

DocuWorks ダイレクトプリントとは、DocuWorks ファイルをプリンタードライバーを使わないで、直接 lpr コマンドなどを使ってプリントする機能です。DocuWorks ダイレクトプリントを使ってプリントする場合、次の項目は［プリンターモード］の［DocuWorks プリント設定］の設定に従ってプリントされます。

- 出力部数
- 両面
- 印刷モード
- レイアウト
- 用紙サイズ
- ソート

注記

- DocuWorks 文書をダイレクトプリント方式でプリントすると、デバイスフォントに置き換わってプリントされます。DocuWorks 文書をコンピューター上で表示した場合やプリンタードライバー経由でプリントした場合とは、フォントの違いなどから見栄えが異なりますので注意が必要です。
- DocuWorks Desk Ver.7.0 と ContentsBridge の組み合わせた場合だけ、コンピューターの画面表示どおりのフォントでプリントされます。

補足

- lpr コマンドを使ってプリントする場合、部数の指定は lpr コマンドで行います。［DocuWorks プリント設定］の「部数」の設定は無効になります。なお、lpr コマンドで部数の指定をしない場合は、1 部として処理されます。
- lpr コマンドを使って DocuWorks ファイルをプリントする場合は、操作パネルまたは CentreWare Internet Services を使って、本体側の LPD プロトコルを起動しておく必要があります。

DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目

DocuWorks ダイレクトプリント機能で設定できる項目について、説明します。

弊社ユーティリティの「ContentsBridge」を使用しないで DocuWorks ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

補足

- ContentsBridge Utility を使用して DocuWorks ファイルをプリントする場合は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内のマニュアルを参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
出力部数	501	プリントする部数を設定します。 【1 ～ 999】（初期値：1）：1 ～ 999 枚
両面	502	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：長辺とじ 【2】：短辺とじ 長辺とじは、用紙の長い辺でとじた場合に、正しい向きで読めるように両面プリントを行います。 短辺とじは、用紙の短い辺でとじた場合に、正しい向きで読めるように両面プリントを行います。

設定項目	項目番号	設定値
印刷モード	503	画質を優先するか、速度を優先するかを設定します。 【0】（初期値）：標準 【1】：高速 【2】：高画質 標準は、標準的な速度、画質でプリントします。 高速は、速度を優先してプリントします。 高画質は、プリント速度は遅くなりますが、画質を優先して、よりきれいにプリントします。
ソート	504	複数部数を、1 部ごとにソート（1、2、3...1、2、3...）してプリントするかどうかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する
レイアウト	505	プリントするときのレイアウトについて設定します。 【0】（初期値）：自動倍率 【2】：2 アップ 【3】：4 アップ 【4】：100%（等倍） 自動倍率は、プリントする用紙サイズに対して、最も拡大率が大きくなるように、自動的に倍率が設定されてプリントされます。 2 アップは、1 枚の用紙に、2 ページ分の原稿を割り付けてプリントします。2 アップを選択した場合、用紙サイズは、A4 固定になります。 4 アップは、1 枚の用紙に、4 ページ分の原稿を割り付けてプリントします。4 アップを選択した場合、用紙サイズは、A4 固定になります。
用紙サイズ	506	プリントする用紙のサイズを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：A4 自動は、プリントする DocuWorks ファイルの原稿サイズと設定に応じて、自動的に用紙サイズが判別されます。

PC-PR201H エミュレーションを使用するには

エミュレーションについて

本機で使用できるプリント言語のエミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。本機では、この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類することができます。他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。本機には、複数のエミュレーションモードがあります。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
PC-PR201H エミュレーションモード	PC-PR201H2

■プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

■コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

■自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

■インターフェイス従属

CentreWare Internet Services を使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

フォントについて

使用できるフォント

PC-PR201H エミュレーションでは、次のフォントが使用できます。

■和文

- 平成明朝体 W3
- 平成角ゴシック体 W5

■欧文

- 平成明朝体（ローマン）
- 平成角ゴシック体（サンセリフ）

ユーザー定義文字（外字）

PC-PR201H エミュレーションモードでは、ユーザー定義文字（外字）を使用できます。ユーザー定義文字は、メモリーに格納され、電源を切ると消去されます。

ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録します。ユーザー定義文字は、各プリント言語の間で共有できません。

フォントキャッシュ

高速プリントを実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。

保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、再起動したりすると、消えます。

排出機能について

排出について説明します。排出には、次の 2 種類があります。

- プリント待ちジョブの排出
- エミュレーションモードでの強制排出

プリント待ちジョブの排出

プリンターに受信されているジョブを優先してプリントします。

参照
- プリンター内のジョブを優先してプリントする手順は、『ユーザーズガイド』の「12　ジョブ確認」を参照してください。

エミュレーションモードでの強制排出

エミュレーションモードでは、1 ページ分のデータがすべてそろうか、改ページコマンドを受信するまでデータは排出されません。USB インターフェイスの場合、データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちとなります。

強制排出は、このようなときに自動排出時間まで待たず、プリンター内のデータを強制的にプリントする操作です。

参照
- 強制排出の手順は、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」を参照してください。
- 自動排出時間は、「USB での設置」(P.367) を参照してください。

PC-PR201H エミュレーションモードでのプリント機能

PC-PR201H エミュレーションモードで使用できるいくつかのプリント機能について説明します。

N アップ

N アップは、複数ページを縮小して、1 枚の用紙にプリントする機能です。

N アップは、PC-PR201H モードのエミュレーションモードで利用できます。PC-PR201H モードでは、2 アップを利用できます。

フォーム合成

PC-PR201H モードでは、あらかじめフォームをプリンターに登録しておき、プリントデータに合成してプリントできます。

操作パネルから、合成するフォームを指定できます。

参照

- フォームの登録については、『リファレンスマニュアル（201H 対応）』をご覧ください。

バーコード

PC-PR201H モードでは、バーコードを利用できます。利用できるバーコード規格は、次のとおりです。

- JAN コード
- CODE39
- CODABAR
- Industrial 2 of 5
- Matrix 2 of 5
- Interleaved 2 of 5

フォームについて

本機では、PC-PR201H を使用して定形のフォームを登録できます。登録できるフォームは、64 個です。

参照

- フォームの登録については、『リファレンスマニュアル（201H 対応）』をご覧ください。

PC-PR201H エミュレーションのモード設定項目

PC-PR201H のモードメニューで設定できる項目とその操作方法について説明します。

PC-PR201H 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	301	コンピューターで作成された原稿のサイズを設定します。 【0】：はがき 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14” 【22】：8.5×13” 【23】：8.5×11” 【24】：11×17” 【99】（初期値）：用紙 【100】：連続紙（10×12”） 【101】：連続紙（10×11”） 【102】：連続紙（15×12”） 【103】：連続紙（15×11”） プリント保証桁は、連続紙（10×12”）は 80 桁 /72 行、連続紙（10×11”）は 80 桁 /66 行、連続紙（15×12”）は 136 桁 /72 行、連続紙（15×11”）は 136 桁 /66 行です。 **補足** •「原稿サイズ」で連続紙を選択した場合、「用紙位置」の設定はできません。 •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。 • ここで設定する方向は「原稿の向き」です。トレイ内の用紙のセットの方向には影響しません。
用紙サイズ	302	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【0】：はがき 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14” 【22】：8.5×13” 【23】：8.5×11” 【24】：11×17” **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」、「トレイ 7」のいずれかに設定しているときには、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	303	プリントに使用する用紙トレイを設定します。 【0】：自動 【1】（初期値）：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 【6】：トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段 /2 段）） 【7】：トレイ 7（大容量給紙トレイ（2 段）） 手差しトレイから給紙する場合は、プリントを指示したあとに本体側の操作でプリントを開始します。設定を解除するには、「トレイ 5 確認表示」の設定を変更してください。 **注記** • 「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」、「トレイ 7」を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** • 「自動」を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3 →トレイ 4 →トレイ 6 →トレイ 7 の順に給紙されます。
出力部数	305	プリントする部数を設定します。 【1】～【250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。

拡張設定項目

排出先	306	プリントした用紙の排出先トレイを設定します。 【0】（初期値）：センタートレイ 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション）
両面	307	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き **注記** • 「用紙サイズ」に「はがき」が設定されている場合は、「左右開き」と「上下開き」は選択できません。

フォント	308 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 **参照** • フォントについては「フォントについて」(P.803) を参照してください。 【0】（初期値）：明朝 【1】：ゴシック **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	309 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 **参照** • フォントについては「フォントについて」(P.803) を参照してください。 【0】（初期値）：ローマン 【1】：サンセリフ **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
位置補正	310 （縦位置補正） 311 （横位置補正）	データをプリントする位置をたてまたはよこ方向に移動し、余白の位置を変える機能です。 【0】（初期値）：しない 【1】～【250】：-1 ～ 250mm 【251】～【500】：+1 ～ +250mm **注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
倍率	312 （縦倍率） 313 （横倍率）	原稿を印字するたてまたはよこの倍率を設定します。 【45】～【210】（初期値：100）：45 ～ 210%
用紙方向	314	用紙の向きを設定します。 【0】（初期値）：縦 【1】：横
用紙位置	315	用紙位置を設定します。 【0】（初期値）：左置き 【1】：中央置き •「原稿サイズ」で連続紙を選択した場合、「用紙位置」の設定はできません。
2UP モード	316	2 アップ印字をするか、1 ページごとに印字するかを設定します。 2 アップとは、2 ページ分のデータを 1 ページに印字する機能です。用紙方向によって上下または左右のいずれかに印字されます。 【0】（初期値）：なし 【1】：順方向 【2】：逆方向 **注記** •「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果となります。
罫線	317	2 バイト系罫線フォントの印字方法を設定します。 【0】（初期値）：イメージ 【1】：フォント

印字制御	318 （白紙排出）	改ページだけのデータのように、プリントするデータがまったくない場合に、白紙を排出するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **補足** • 「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや、白だけのイメージデータのときは白紙が排出されます。 • 「しない」が設定され、2 アッププリントまたは両面プリントの指示がされている場合、白紙となるページはスキップして処理します。
	319 （印字桁範囲）	右マージンの位置を拡張できます。 【0】（初期値）：標準 【1】：拡張 **注記** • 印字桁範囲を「拡張」から「標準」に設定変更した場合は、左右マージン値が初期化されます。 • コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端となります。
	320 （イメージエンハンス）	イメージエンハンスメントを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスメントとは、画像の境めを滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
	321 （倍率モード）	原稿を印字する倍率を設定します。 【0】（初期値）：固定 【1】：任意 【2】：カット全面 固定倍率とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字エリアが用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば 100%（等倍）印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。 任意倍率とは、「倍率」>「任意倍率」で設定される倍率のことです。倍率の基準値は印字エリアの左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 カット紙全面領域が印字エリアに印字されます。 カット紙全面とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字エリアに収まるよう印字されます。

印字制御 （つづき）	322 （国別文字）	使用する文字を日本語、アメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデンの中から設定します。 【0】（初期値）：日本 【1】：アメリカ 【2】：イギリス 【3】：ドイツ 【4】：スウェーデン **参照** • 国別の文字コードについては、「国別コード表」（P.820）を参照してください。
	323 （自動改行）	右マージン位置を超えたときの自動改行の動作を設定します。 【0】：CR 【1】（初期値）：CR/LF 「CR」は印字復帰だけを行います。「CR/LF」は印字復帰したあと改行します。
	324 （印字指令）	印字指令のコマンドを設定します。 【0】（初期値）：CR 【1】：すべて 「CR」は印字指令のコマンドを CR のみ、「すべて」は印字指令のコマンドを、CR、LF、VT、FF、US、ESC a、ESC b とします。
	325 （CR の機能）	CR コマンド受信時の動作を設定します。 【0】（初期値）：復帰 【1】：復帰改行 **注記** • この設定は、初期値を設定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 **補足** • この設定は、 8 ビットドットイメージ印字コマンドの印字結果に影響します。
	326 （0 の書体）	数字の 0 の字体を設定します。 【0】（初期値）：0 【1】：Ø 「0」は普通の字体、「 Ø 」は斜線のついた字体に設定します。
	327 （グラフィックドット数）	ドット対応のグラフィックドット数の種類を設定します。 【0】（初期値）：ネイティブ 【1】：コピー
	328 （データサイズ）	データのビットサイズを設定します。 【0】：7 ビット 【1】（初期値）：8 ビット
	329 （1 ページ長）	1 ページの長さ（印字エリア）を 11 インチ（初期値）か 12 インチに設定します。 【0】（初期値）：11 インチ 【1】：12 インチ

印字制御 （つづき）	330 （拡張子指定）	通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く；（セミコロン =3BH）を指定しています。 ホストコンピューターで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用することができます。この拡張子の置き換え機能を有効にするかどうかを設定します。 有効にする場合、項目番号 331 で、拡張子を指定します。 【0】（初期値）：無効 【1】：有効 **補足** • 拡張子に 1B3B を使用する時は「無効」、任意の文字列を使用する場合は「有効」を設定してください。
	331 （拡張子）	テキストコードで制御できるようにしたい場合は、拡張コマンドの拡張子（先頭 2 バイト）を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。 【&%】（初期値）：0×21 ～ 0×7e
	332 （フォーム合成）	登録されているフォーム名（No.01 ～ 64）を選択することによって、常にフォーム合成を行います。 【0】（初期値）：しない 【1】～【64】：No．1 ～ No．64 **注記** • 本設定は、初期値を選択する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	336 （フォーム種類）	フォームの種類を選択します。 【0】（初期値）：PC-PR201H 【1】：ART Ⅳ
ホチキスとめ	333	ホチキスとめをする位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：左上 1 か所 【2】：上辺 2 か所 【3】：右上 1 か所 【4】：左辺 2 か所 【5】：右辺 2 か所 【6】：左下 1 か所 【7】：下辺 2 か所 【8】：右下 1 か所
パンチ	334	パンチ穴をあける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：上辺 【2】：下辺 【3】：左辺 【4】：右辺
パンチ穴数	337	パンチ穴の数を設定します。 【0】（初期値）：2 穴 【1】：3 穴 【2】：4 穴
トレイ5確認表示	335	トレイ 5（手差し）から給紙するプリント指示をしたあと、本体側の操作によってプリントを開始します。 【0】（初期値）：なし 【1】：あり

カットシートフィーダー(CSF)	338	カットシートフィーダー機能を設定します。 CSF なしの場合は、改ページコマンドを受信したら、VFU で設定された設定値まで印字ヘッドを移動させ、印字位置は左よりになります。 CSF ありの場合は、改ページコマンドを受信したら、用紙を自動排出後に自動給紙して、印字位置は中央になります。 【0】(初期値):CSF なし 【1】:CSF あり
有効出力部数	339	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】:プロトコル指定 【1】:パネル 【2】(初期値):コマンド

倍率値一覧表

固定倍率値

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17”	8.5×14”	8.5×13”	8.5×11”	ハガキ
A3	長辺	100	70	49	86	60	103	84	78	66	100
	短辺	100	70	48	86	60	94	72	72	72	100
A4	長辺	143	100	70	123	86	147	120	112	94	48
	短辺	143	100	69	123	86	135	103	103	103	45
A5	長辺	204	143	100	177	123	210	172	160	135	69
	短辺	207	145	100	178	124	195	149	149	149	65
B4	長辺	116	81	57	100	70	119	98	90	76	100
	短辺	116	81	56	100	70	109	83	83	83	100
B5	長辺	164	116	81	143	100	171	140	130	109	56
	短辺	164	116	81	143	100	156	120	120	120	53
11×17”	長辺	97	68	48	84	59	100	82	76	64	100
	短辺	106	74	51	92	64	100	77	77	77	100
8.5×14”	長辺	119	83	58	102	72	122	100	93	78	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
8.5×13”	長辺	128	90	63	111	77	132	108	100	84	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
8.5×11”	長辺	152	106	74	131	92	156	128	119	100	100
	短辺	139	97	67	120	84	131	100	100	100	100
ハガキ	長辺	100	100	145	100	178	100	100	100	100	100
	短辺	100	100	153	100	190	100	100	100	100	100
15×11”	長辺	119	83	58	103	72	122	100	93	78	100
	短辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
15×12”	長辺	119	83	58	103	72	122	100	93	78	100
	短辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
10×11”	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×12”	長辺	135	95	66	117	81	139	114	105	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

単位 :[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が 45 ～ 210% を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は 100% となります。

固定倍率値（2 アップ指定時）

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17”/2	8.5×14”/2	8.5×13”/2	8.5×11”/2	ハガキ/2
A3	長辺	70	49	100	60	100	66	50	50	50	100
	短辺	70	48	100	60	100	72	59	54	45	100
A4	長辺	100	70	48	86	60	94	72	72	72	100
	短辺	100	69	48	86	59	103	84	78	65	100
A5	長辺	143	100	69	123	86	135	103	103	103	45
	短辺	145	100	69	124	86	149	121	112	94	47
B4	長辺	81	57	100	70	49	76	58	58	58	100
	短辺	81	56	100	70	48	83	68	63	53	100
B5	長辺	116	81	56	100	70	109	83	83	83	100
	短辺	116	80	55	100	69	120	98	90	76	100
11×17”	長辺	68	48	100	59	100	64	49	49	49	100
	短辺	74	51	100	64	100	77	62	58	48	100
8.5×14”	長辺	83	58	100	72	50	78	60	60	60	100
	短辺	97	67	100	84	57	100	82	75	63	100
8.5×13”	長辺	90	63	100	77	54	84	64	64	64	100
	短辺	97	67	100	84	57	100	82	75	63	100
8.5×11”	長辺	106	74	51	92	64	100	77	77	77	100
	短辺	97	67	46	84	57	100	82	75	63	100
ハガキ	長辺	100	145	100	178	124	100	149	149	149	65
	短辺	100	153	105	190	131	100	185	172	144	71
15×11”	長辺	83	58	100	72	100	78	60	60	60	100
	短辺	72	50	100	62	100	74	60	56	47	100
15×12”	長辺	83	58	100	72	100	78	60	60	100	100
	短辺	66	46	100	57	100	68	55	51	100	100
10×11”	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×12”	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

単位 :[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が 45 ～ 210% を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は 100% となります。

カット紙全面倍率値

原稿サイズ	用紙サイズ	A3	A4	A5	B4	B5	11×17”	8.5×14”	8.5×13”	8.5×11”	ハガキ
A3	長辺	98	69	48	85	59	101	83	77	64	100
	短辺	97	68	47	84	58	91	70	70	70	100
A4	長辺	138	97	68	120	84	142	117	108	91	100
	短辺	137	96	66	118	82	129	99	99	99	100
A5	長辺	196	137	96	169	118	201	165	153	129	66
	短辺	195	136	94	168	117	183	140	140	140	62
B4	長辺	113	79	55	98	68	116	95	88	74	100
	短辺	112	78	54	97	67	105	81	81	81	100
B5	長辺	160	112	78	138	97	165	135	125	105	54
	短辺	158	110	76	136	95	149	114	114	114	50
11×17”	長辺	95	67	47	82	57	98	80	74	63	100
	短辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
8.5×14”	長辺	116	81	57	100	70	119	98	90	76	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
8.5×13”	長辺	125	87	61	108	75	128	105	97	82	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
8.5×11”	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	100
	短辺	133	93	64	115	80	125	96	96	96	100
ハガキ	長辺	100	195	136	100	168	100	100	100	183	94
	短辺	100	201	139	100	173	100	100	100	207	91
15×11”	長辺	135	95	66	117	81	139	105	114	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
15×12”	長辺	135	95	66	117	81	139	105	114	89	46
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×11”	長辺	147	103	72	127	89	151	115	124	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45
10×12”	長辺	147	103	72	127	89	151	124	115	97	50
	短辺	142	99	68	122	85	133	102	102	102	45

単位 :[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が 45 ～ 210% を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は 100% となります。

カット紙全面倍率値（2 アップ指定時）

原稿サイズ	用紙サイズ	A3/2	A4/2	A5/2	B4/2	B5/2	11×17”/2	8.5×14”/2	8.5×13”/2	8.5×11”/2	ハガキ/2
A3	長辺	69	48	100	59	100	64	49	49	100	100
	短辺	68	47	100	58	100	70	57	53	100	100
A4	長辺	97	68	47	84	58	91	70	70	70	100
	短辺	96	66	46	82	57	99	80	74	62	100
A5	長辺	137	96	66	118	82	129	99	99	99	100
	短辺	136	84	65	117	80	140	114	106	88	100
B4	長辺	79	55	100	68	48	74	57	57	57	100
	短辺	78	54	100	67	46	81	66	61	51	100
B5	長辺	112	78	54	97	67	105	81	81	81	100
	短辺	110	76	53	95	65	114	93	86	72	100
11×17”	長辺	67	47	100	57	100	63	48	48	48	100
	短辺	72	50	100	62	100	74	60	56	47	100
8.5×14”	長辺	81	47	100	70	49	76	58	58	58	100
	短辺	93	50	100	80	55	96	78	72	61	100
8.5×13”	長辺	87	61	100	75	52	82	63	63	63	100
	短辺	93	64	100	80	55	96	78	72	61	100
8.5×11”	長辺	103	89	100	89	72	97	74	74	74	100
	短辺	93	80	100	80	55	96	78	72	61	100
ハガキ	長辺	195	136	94	168	117	183	140	140	140	62
	短辺	201	139	96	173	119	207	169	156	131	65
15×11”	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
15×12”	長辺	95	66	46	81	57	89	68	68	68	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×11”	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100
10×12”	長辺	103	72	50	89	62	97	74	74	74	100
	短辺	99	68	47	85	59	102	83	77	64	100

単位 :[%]

補足

- 長辺または短辺の倍率値が 45 ～ 210% を超えた場合には、長辺と短辺の両方の倍率値は 100% となります。

用紙サイズと印字可能桁数

左置き、シートフィーダー設定なしの場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	1	113	89	1	161	60
B4	1	97	76	1	139	51
A4	1	79	60	1	113	40
B5	1	68	51	1	97	33
A5	1	54	40	1	79	25
はがき	1	35	29	1	54	18
11×17”	1	106	92	1	166	56
8.5×14”	1	81	74	1	136	41
8.5×13”	1	81	68	1	126	41
8.5×11”	1	81	56	1	106	41

左置き、シートフィーダー設定ありの場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	1	113	96	1	161	67
B4	1	97	83	1	139	58
A4	1	79	67	1	113	47
B5	1	68	58	1	97	40
A5	1	54	47	1	79	32
はがき	1	35	29	1	54	18
11×17”	1	106	99	1	166	63
8.5×14”	1	81	81	1	136	48
8.5×13”	1	81	75	1	126	48
8.5×11”	1	81	63	1	106	48

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- たて / よこ倍率はそれぞれ 100% です。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

中央置き、シートフィーダー設定なしの場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	13	112	89	1	148	60
B4	21	96	76	1	137	51
A4	30	78	60	13	112	40
B5	35	68	51	21	96	33
A5	42	54	40	30	78	25
はがき	48	35	29	48	54	18
11×17”	16	106	92	1	151	56
8.5×14”	29	80	74	1	136	41
8.5×13”	29	80	68	6	126	41
8.5×11”	29	80	56	16	106	41

中央置き、シートフィーダー設定ありの場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	13	112	96	1	148	67
B4	21	96	83	1	137	58
A4	30	78	67	13	112	47
B5	35	68	58	21	96	40
A5	42	54	47	30	78	32
はがき	48	35	29	48	54	18
11×17”	16	106	99	1	151	63
8.5×14”	29	80	81	1	136	48
8.5×13”	29	80	75	6	126	48
8.5×11”	29	80	63	16	106	48

補足

- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- たて / よこ倍率はそれぞれ 100% です。
- 印字開始桁とは、用紙上のいちばん左に印字される文字の桁位置です。
- 中央置きの場合は、68 桁めと 69 桁めが用紙の中央になります。このため、印字桁数が 136 桁を超える場合（A3 よこ置きなど）、左端が 1 桁めよりも左になります。この場合、開始桁は 1 桁めになります。1 桁めよりも左側（0 桁めや -1 桁めなど）は印字できません。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

左置き、カット紙全面の場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	1	116	99	1	165	70
B4	1	101	85	1	143	60
A4	1	82	70	1	116	49
B5	1	71	60	1	101	42
A5	1	58	49	1	82	34
はがき	1	39	34	1	58	23
11×17”	1	110	102	1	170	66
8.5×14”	1	85	84	1	140	51
8.5×13”	1	85	78	1	130	51
8.5×11”	1	85	66	1	110	51

補足
- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。

中央置き、カット紙全面の場合

用紙サイズ	たて置き			よこ置き		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
A3	11	116	99	1	164	70
B4	19	100	85	1	142	60
A4	28	82	70	11	116	49
B5	34	70	60	19	100	42
A5	40	58	49	28	82	34
はがき	46	39	34	46	58	23
11×17”	14	110	102	1	170	66
8.5×14”	27	84	84	1	140	51
8.5×13”	27	84	78	4	130	51
8.5×11”	27	84	66	14	110	51

補足
- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- 印字開始桁とは、用紙上のいちばん左に印字される文字の桁位置です。
- 中央置きの場合は、68 桁めと 69 桁めが用紙の中央になります。このため、印字桁数が 136 桁を超える場合（A3 よこ置きなど）、左端が 1 桁めよりも左になります。この場合、開始桁は 1 桁めになります。1 桁めよりも左側（0 桁めや -1 桁めなど）は印字できません。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

15 インチ連続紙モード（よこ固定 / 左置き）の場合

用紙サイズ	15×11”			15×12”		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
対応する全用紙サイズ	1	136	66	1	136	72

補足
- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。

10 インチ連続紙モード（たて固定 / 中央置き）

用紙サイズ	10×11”			10×12”		
	印字開始桁	印字桁数	印字行数	印字開始桁	印字桁数	印字行数
対応する全用紙サイズ	29	80	66	29	80	72

補足
- 文字ピッチ 10CPI、行ピッチ 6LPI を基準にした値です。
- 印字開始桁とは、用紙上のいちばん左に印字される文字の桁位置です。
- ハードウエアの構成によって使用できない用紙サイズもあります。

国別コード表

国別コードは以下のとおりです。

	23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
アメリカ	#	$	@	[	\	]	^	`	{	¦	}	~
イギリス	£	$	@	[	\	]	^	`	{	¦	}	~
ドイツ	#	$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
スウェーデン	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
日本	#	$	@	[	¥	]	^	`	{	¦	}	~

PCL エミュレーションを使用するには

エミュレーションについて

本機で使用できるプリント言語のエミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。本機では、この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類することができます。他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。本機には、複数のエミュレーションモードがあります。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
PCL エミュレーションモード（PCL モード）	CLJ5500

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

■コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

■自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

■インターフェイス従属

CentreWare Internet Services を使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

フォントについて

使用できるフォント

PCL エミュレーションでは、次のフォントが使用できます。

■欧文

- CG Times
- CG Times Italic
- CG Times Bold
- CG Times Bold Italic
- Univers Medium
- Univers Medium Italic
- Univers Bold
- Univers Bold Italic
- Univers Medium Condensed
- Univers Medium Condensed Italic
- Garamond Kursiv
- Garamond Halbfett
- Garamond Kursiv Halbfett
- Courier
- Courier Italic
- Courier Bold
- Courier Bold Italic
- Letter Gothic
- Letter Gothic Italic
- Letter Gothic Bold
- Albertus Medium
- Albertus Extra Bold
- Clarendon Condensed
- Coronet
- Marigold
- Arial
- Arial Italic
- Arial Bold
- Arial Bold Italic
- Times New
- Times New Italic
- Times New Bold
- Univers Bold Condensed
- Univers Bold Condensed Italic
- Antique Olive
- Antique Olive Italic
- Antique Olive Bold
- CG Omega
- CG Omega Italic
- CG Omega Bold
- CG Omega Bold Italic
- Garamond Antiqua
- Helvetica Oblique
- Helvetica Bold
- Helvetica Bold Obliqe
- CourierPS
- CourierPS Oblique
- CourierPS Bold
- CourierPS Bold Oblique
- SymbolPS
- Palatino Roman
- Palatino Italic
- Palatino Bold
- Palatino Bold Italic
- ITC Bookman Light
- ITC Bookman Light Italic
- ITC Bookman Demi
- ITC Bookman Demi Italic
- Helvetica Narrow
- Helvetica Narrow Oblique
- Helvetica Narrow Bold
- Helvetica Narrow Bold Oblique
- New Century Schoolbook Roman
- New Century Schoolbook Italic

- Times New Bold Italic
- Symbol
- Wingdings
- Line Printer
- Times Roman
- Times Italic
- Times Bold
- Times Bold Italic
- Helvetica
- New Century Schoolbook Bold
- New Century Schoolbook Bold Italic
- ITC Avant Garde Book
- ITC Avant Garde Book Oblique
- ITC Avant Garde Demi
- ITC Avant Garde Demi Oblique
- ITC Zapf Chancery Medium Italic
- ITC Zapf Dingbats
- OCR-B

フォントキャッシュ

高速プリントを実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。

保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、再起動したりすると、消えます。なお、PCL エミュレーションモードの場合は、ジョブの処理中以外はデータは保存されません。

排出機能について

排出について説明します。排出には、次の 2 種類があります。

- プリント待ちジョブの排出
- エミュレーションモードでの強制排出

プリント待ちジョブの排出

プリンターに受信されているジョブを優先してプリントします。

参照
- プリンター内のジョブを優先してプリントする手順は、『ユーザーズガイド』の「12　ジョブ確認」を参照してください。

エミュレーションモードでの強制排出

エミュレーションモードでは、1 ページ分のデータがすべてそろうまでデータは排出されません。USB インターフェイスの場合、データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちとなります。

強制排出は、このようなときに自動排出時間まで待たず、プリンター内のデータを強制的にプリントする操作です。

参照
- 強制排出の手順は、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」を参照してください。
- 自動排出時間は、「USB での設置」(P.367) を参照してください。

PCL エミュレーションのモード設定項目

PCL のモードメニューで設定できる項目とその操作方法について説明します。

PCL 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について説明します。

給紙トレイ	201	プリントに使用する用紙トレイを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 【6】：トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段 /2 段）） 【7】：トレイ 7（大容量給紙トレイ（2 段）） **注記** •「トレイ 1」～「トレイ 4 」、「トレイ 6」、「トレイ 7」を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「自動」を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3 →トレイ 4 →トレイ 6 →トレイ 7 の順に給紙されます。
用紙サイズ（「給紙トレイ」が「自動」の場合）	202	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「自動」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】（初期値）：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14” 【22】：8.5×13” 【23】：8.5×11” 【24】：11×17” 【25】：ユーザー定義用紙 【30】：8K **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4 」、「トレイ 6」、「トレイ 7」のいずれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。 **補足** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4 」、「トレイ 6」、「トレイ 7」のいずれかに設定すると、選択された給紙トレイの用紙サイズになります。 •「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が「？」となることがあります。この場合、原稿は等倍でプリントされます。

用紙サイズ（「給紙トレイ」が「手差しトレイ」の場合）	203	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「手差し」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】（初期値）：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14” 【22】：8.5×13” 【23】：8.5×11” 【24】：11×17” 【25】：ユーザー定義用紙
排出先	204	プリントした用紙の排出先トレイを設定します。 【0】（初期値）：センタートレイ 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション）
原稿の向き	205	原稿がたて長かよこ長を設定します。 【0】（初期値）：縦 【1】：横
両面	206	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：オフ 【1】：オン

デフォルトフォント	207	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。初期値は「23」で Courier です。 フォントについては「フォントについて」(P.821) を参照してください。 【0】：CG Times 【1】：CG Times Italic 【2】：CG Times Bold 【3】：CG Times Italic Bold 【4】：Univers Medium 【5】：Univers Medium Italic 【6】：Univers Bold 【7】：Univers Bold Italic 【8】：Univers Medium Condensed 【9】：Univers Medium Condensed Italic 【10】：Univers Bold Condensed 【11】：Univers Bold Condensed Italic 【12】：Antique Olive 【13】：Antique Olive Italic 【14】：Antique Olive Bold 【15】：CG Omega 【16】：CG Omega Italic 【17】：CG Omega Bold 【18】：CG Omega Bold Italic 【19】：Garamond Antiqua 【20】：Garamond Kursiv 【21】：Garamond Halbfett 【22】：Garamond Kursiv Halbfett 【23】（初期値）：Courier 【24】：Courier Italic 【25】：Courier Bold 【26】：Courier Bold Italic 【27】：Letter Gothic 【28】：Letter Gothic Italic 【29】：Letter Gothic Bold 【30】：Albertus Medium 【31】：Albertus Extra Bold 【32】：Clarendon Condensed 【33】：Coronet 【34】：Marigold

デフォルトフォント（つづき）	207	【35】：Arial 【36】：Arial Italic 【37】：Arial Bold 【38】：Arial Bold Italic 【39】：Times New 【40】：Times New Italic 【41】：Times New Bold 【42】：Times New Bold Italic 【43】：Symbol 【44】：Wingdings 【45】：Line Printer 【46】：Times Roman 【47】：Times Italic 【48】：Times Bold 【49】：Times Bold Italic 【50】：Helvetica 【51】：Helvetica Oblique 【52】：Helvetica Bold 【53】：Helvetica Bold Oblique 【54】：CourierPS 【55】：CourierPS Oblique 【56】：CourierPS Bold 【57】：CourierPS Bold Oblique 【58】：SymbolPS 【59】：Palatino Roman 【60】：Palatino Italic 【61】：Palatino Bold 【62】：Palatino Bold Italic 【63】：ITC Bookman Light 【64】：ITC Bookman Light Italic 【65】：ITC Bookman Demi 【66】：ITC Bookman Demi Italic 【67】：Helvetica Narrow 【68】：Helvetica Narrow Oblique 【69】：Helvetica Narrow Bold 【70】：Helvetica Narrow Bold Oblique 【71】：New Century Schoolbook Roman 【72】：New Century Schoolbook Italic 【73】：New Century Schoolbook Bold 【74】：New Century Schoolbook Bold Italic 【75】：ITC Avant Garde Book 【76】：ITC Avant Garde Book Oblique 【77】：ITC Avant Garde Demi 【78】：ITC Avant Garde Demi Oblique 【79】：ITC Zapf Chancery Medium Italic 【80】：ITC Zapf Dingbats

デフォルトシンボル	208	シンボルセットの初期値を設定します。 【0】（初期値）：Roman8 【1】：ISO 8859-1 Latin 1 【2】：ISO 8859-2 Latin 2 【3】：ISO 8859-9 Latin 5 【4】：ISO 8859-10 Latin 6 【5】：PC-8 【6】：PC-8 DN 【7】：PC775 【8】：PC-850 【9】：PC852 【10】：PC-1004（OS/2） 【11】：PC Turkish 【12】：Windows 3.1 Latin 1 【13】：Windows 3.1 Latin 2 【14】：Windows 3.1 Latin 5 【15】：DeskTop 【16】：PS Text 【17】：MC Text 【18】：Microsoft Publishing 【19】：Math 8 【20】：PS Math 【21】：Pi font 【22】：Legal 【23】：ISO 4 United Kingdom 【24】：ISO 6 ASCII 【25】：ISO 11 Swedishi:names 【26】：ISO 15 Italian 【27】：ISO 17 Spanish 【28】：ISO 21 German 【29】：ISO 60 Norwegian v1 【30】：ISO 69 French 【31】：Windows 3.0 Latin 1 【32】：Windows Baltic 【33】：Symbol 【34】：Wingdings 【35】：UCS-2
フォントサイズ	209	フォントサイズを設定します。フォントサイズの単位が0.25刻みなので、25刻みで入力します。 【400】～【5000】（初期値：1200）：4.00 ～ 50.00 ポイント
フォントピッチサイズ	210	フォントピッチサイズを設定します。 【600】～【2400】（初期値：1000）：6.00 ～ 24.00 ポイント
フォント行数	211	行数を設定します。 【5】～【128】（初期値：64）：6.00 ～ 24.00 ポイント
プリント部数	212	プリントする部数を設定します。 【1】～【999】（初期値：1）：1 ～ 999 部 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
イメージエンハンス	213	イメージエンハンスを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON

HexDump	214	HexDump を有効にするかどうかを設定します。 【0】（初期値）：OFF 【1】：ON
薄墨印刷	215	白黒でプリントする場合に、黒でプリントされる部分を薄墨色でプリントします。この機能は、原稿全体に対して有効です。 【0】（初期値）：OFF 【1】：ON
両面時のとじ方	217	両面でプリントするときのとじ方を設定します。 両面プリントには、「長辺とじ」と「短辺とじ」があります。とじる辺に合わせて、どちらかを選択します。長辺とじは用紙の長辺、短辺とじは用紙の短辺を軸に、おもてとうらのイメージの上方向が一致するようにプリントされます。 【0】（初期値）：長辺とじ 【1】：短辺とじ
行末処理	218	行末処理を設定します。 「CR-××」は、CR のとき LF を後につけ、LF と FF のとき CR を前につけます。 【0】（初期値）：OFF 【1】：LF を後につける 【2】：CR を前につける 【3】：CR-××
ユーザー定義用紙サイズの初期値	219 （短辺）	ユーザー定義用紙の初期値を設定します。 【2100】（短辺初期値）：210.0mm 【2970】（長辺初期値）：297.0mm 【0】～【9999】：0 ～ 999.9mm
	220 （長辺）	
有効出力部数	221	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】：プロトコル 【1】：パネル 【2】（初期値）：コマンド

HP-GL/2 エミュレーションを使用するには

エミュレーションについて

本機で使用できるプリント言語のエミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。本機では、この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類することができます。他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。本機には、複数のエミュレーションモードがあります。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
HP-G/2 エミュレーションモード （HP-GL/2 モード）	DJ750C Plus

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

■コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

■自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

■インターフェイス従属

CentreWare Internet Services を使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

フォントについて

使用できるフォント

HP-GL/2 エミュレーションでは、次のフォントが使用できます。

■和文

- 平成明朝体 W3
- 平成角ゴシック体 W5

■欧文

- 平成明朝体（ローマン）
- 平成角ゴシック体（サンセリフ）

また、ストロークフォントでは、「欧文 + カタカナ」と日本語が使えます。

フォントキャッシュ

高速プリントを実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。

保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、再起動したりすると、消えます。

排出機能について

排出について説明します。排出には、次の 2 種類があります。

- プリント待ちジョブの排出
- エミュレーションモードでの強制排出

プリント待ちジョブの排出

プリンターに受信されているジョブを優先してプリントします。

参照

- プリンター内のジョブを優先してプリントする手順は、『ユーザーズガイド』の「12　ジョブ確認」を参照してください。

エミュレーションモードでの強制排出

エミュレーションモードでは、1 ページ分のデータがすべてそろうまでデータは排出されません。USB インターフェイスの場合、データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちとなります。

強制排出は、このようなときに自動排出時間まで待たず、プリンター内のデータを強制的にプリントする操作です。

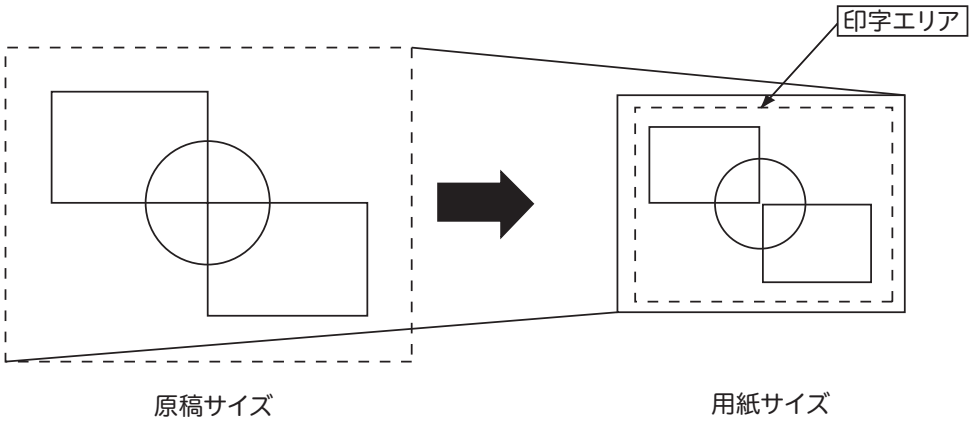
参照

- 強制排出の手順は、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」を参照してください。
- 自動排出時間は、「USB での設置」(P.367) を参照してください。

工場出荷時の設定

工場出荷時の、HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションモードの設定では、以下のように用紙サイズに合わせて、原稿データを縮小拡大してプリント（オートレイアウト）します。

■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON



補足

- 必要に応じて工場出荷時の設定を変更してください。設定変更は、「HP-GL/2 エミュレーションを使用するには」（P.830）を参照してください。

ペーパーマージン

工場出荷時は用紙サイズが A サイズに設定されており、少しでもプリントデータが有効座標エリアからはみ出す場合は、次の大きさの A 系列サイズに（例：A4 サイズの次は A3）プリントされます。

ペーパーマージンを設定すると、エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。指定した用紙サイズより大きいサイズにプリントされるような場合は、本設定を行ってください。0 ～ 99mm の範囲で設定します。初期値は 0mm です。

HP-GL/2 エミュレーションのモード設定項目

HP-GL/2 のモードメニューで設定できる項目とその操作方法について説明します。

HP-GL/2 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

原稿サイズ	101	コンピューターで作成された原稿のサイズを設定します。 【0】：A0 【1】：A1 【2】：A2 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【10】：B0 【11】：B1 【12】：B2 【13】：B3 【14】：B4 【15】：B5 【99】（初期値）：オート 【100】：用紙 「オート」を選択すると、「印字制御」のスケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定が有効になります。 **補足** •「オート」以外を選択すると、拡張設定項目の「オートレイアウト」の設定は「しない」になります。 •「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、原稿は等倍でプリントされます。
用紙サイズ	102	プリントする用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【99】：オート 【101】（初期値）：A サイズ **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」、「トレイ 7」のいずれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。 **補足** •「A サイズ」または「オート」を選択した場合は、次のように設定されます。 •「原稿サイズ」を「オート」以外に設定すると、「A3」になります。 •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」、「トレイ 7」に設定すると、選択された給紙トレイの用紙サイズになります。 •「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が「?」となることがあります。この場合、原稿は等倍でプリントされます。

給紙トレイ	103	プリントに使用する用紙トレイを設定します。 【0】（初期値）：自動 【1】：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） 【6】：トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段 /2 段）） 【7】：トレイ 7（大容量給紙トレイ（2 段）） **注記** •「トレイ 1」～「トレイ 4」、「トレイ 6」、「トレイ 7」を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「自動」を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3 →トレイ 4 →トレイ 6 →トレイ 7 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
座標回転	104	プリントに使用する用紙方向を設定します。 【0】（初期値）：0 度 【1】：90 度

拡張設定項目

オートレイアウト	106	オートレイアウトを使用するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：ON 【1】：OFF
パレット優先指定	107	優先して使用するパレットを設定します。 【0】（初期値）：コマンド 【1】：パネル
プリント部数	108	プリントする部数を設定します。 【1】～【250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
排出先	109	プリントした用紙の排出先トレイを設定します。 【0】（初期値）：センタートレイ 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション）
両面	110	両面プリントを設定します。 【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き
フォント	111 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 **参照** • フォントについては「フォントについて」(P.830) を参照してください。 【0】（初期値）：ストローク 【1】：明朝 【2】：ゴシック
	112 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 **参照** • フォントについては「フォントについて」(P.830) を参照してください。 【0】（初期値）：ストローク 【1】：ローマン 【2】：サンセリフ
位置補正	113 （縦位置補正）	ハードクリップエリアをたてまたはよこ方向に移動させる機能です。-250 ～ 250mm まで 1mm 単位で設定できます。 【0】（初期値）：しない 【1】～【250】：-250 ～ -1mm 【251】～【500】：+1 ～ +250mm **注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
	114 （横位置補正）	
有効出力部数	115	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】（初期値）：プロトコル指定 【1】：パネル 【2】：コマンド

印字制御	150 （HP-GL モード）	グラフィックス言語の変更ができます。この設定は、HP-GL コマンドの IW、OW、UC コマンドに影響します。 【0】（初期値）：HP-GL 【1】：HP-GL/2 **補足** • BP コマンドを含まない HP-GL/2 コマンドを印字する場合は「HP-GL/2」を選択してください。
	151 （ハード クリップ）	ハードクリップエリアの大きさを設定します。 HP-GL モードでは、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて描画することはできません。 【0】：標準 【2】（初期値）：用紙 **参照** • ハードクリップエリアについては「ハードクリップエリア」（P.840）を参照して下さい。

印字制御（つづき）	152（排出コマンド（SP））	描画の終了を示すコマンドを設定します。ここで指定したコマンドを受信すると描画を終了し、用紙が排出されます。 【0】：OFF 【1】：ON 初期値は、SP0 は「ON」、SP0 以外のコマンドは「OFF」に設定されています。 **参照** • 複数のコマンドが指定された場合は、どれか 1 つのコマンドを受信した時点で、描画を終了して用紙が排出されます。
	153（排出コマンド（SP0））	
	154（排出コマンド（NR））	
	155（排出コマンド（FR））	
	156（排出コマンド（PG））	
	157（排出コマンド（AF））	
	158（排出コマンド（AH））	
	159（スケール）	原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大 / 縮小（スケーリング）するかを設定します。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
	160（スケールモード）	オートスケール実行時の原稿サイズを、A 系列の用紙サイズ（SA0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）とするか、エリア判定モードで選択された方法によって求められた有効座標エリアとするかを設定します。 【0】（初期値）：用紙サイズ 【1】：有効座標エリア **補足** •「有効座標エリア」は、「オートレイアウト」が「ON」の場合だけ設定できます。「OFF」の場合は、「用紙サイズ」になります。 • スケールモードの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	161（エリア判定コマンド）	オートスケール実行時、有効座標エリアを求める方法を設定します。 【0】（初期値）：Auto 【1】：PS 【2】：IW 【3】：IP 【4】：Adapted **補足** • エリア判定コマンドの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	162（ペーパーマージン）	オートスケール実行時のペーパーマージンを設定します。 【0】～【99】（初期値：0）：0 ～ 99mm **補足** • ペーパーマージンの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	163（イメージエンハンス）	イメージエンハンスを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON

ホチキスとめ	164	ホチキスとめをする位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：左上 1 か所 【2】：上辺 2 か所 【3】：右上 1 か所 【4】：左辺 2 か所 【5】：右辺 2 か所 【6】：左下 1 か所 【7】：下辺 2 か所 【8】：右下 1 か所
パンチ	166	パンチ穴を開ける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：上辺 【2】：下辺 【3】：左辺 【4】：右辺
パンチ穴数	167	パンチ穴の数を設定します。 【0】（初期値）：2 穴 【1】：3 穴 【2】：4 穴
トレイ5確認表示	165	【0】：なし 【1】（初期値）：あり
対象機	169	エミュレーションする対象機を設定します。 【0】（初期値）：HP750 【1】：FX4036
ペン属性	800 ～ 815（幅）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の幅（太さ）を設定します。ペンの幅は、0.0 ～ 25.5mm の範囲で、0.1mm 刻みに設定できます。No.00 の項目番号が 800 です。 【0】～【255】（初期値：3）：0 ～ 25.5mm **補足** • 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって縮小された場合、ペンの幅も最小 0.1mm まで縮小します。 • 線の幅は線の中心から太くなります。 • 太さが 0.0mm の場合は、何も描画されません。
	850 ～ 865（ペン終端形状）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の先端を設定します。No.00 の項目番号が 850 です。 【0】（初期値）：切断 【1】：丸め 【2】：矩形 「切断」（初期値） ：座標指定位置 「丸め」 ：座標指定位置 「矩形」 ：座標指定位置

<table>
<tr>
<td>ペン属性（つづき）</td>
<td>900 ～ 915
（ペン接続形状）</td>
<td>16 本のペン（No.00 ～ No.15）の、ペンの線を接続した場合の処理を設定します。No.00 の項目番号が 900 です。
【0】（初期値）：なし
【1】：交差
【2】：丸め
【3】：切断
「なし」（初期値）

「交差」

「丸め」

「切断」

補足
• 「なし」は、処理時間がもっとも短く、確認用に適しています。
• シンボルモードコマンドによってシンボルが設定されている場合、連結処理は行われません。シンボルモードコマンドとは、シンボルを指定する HP-GL コマンドです。</td>
</tr>
<tr>
<td>ペン属性（つづき）</td>
<td>950 ～ 965
（ペン濃度）</td>
<td>16 本のペン（No.00 ～ No.15）のペンの濃度を設定します。
0 ～ 100% の範囲で 1% 単位で設定します。初期値は、No.0 は 0、それ以外は 100 となります。
No.00 の項目番号が 950 です。
【0】～【100】：0 ～ 100（濃度）
補足
• ペン属性と、文字書体の関係は次のとおりです。
<table><tr><td>書体
/
ペン属性</td><td>ストローク</td><td>明朝、ゴシック、
ローマン、サンセリフ</td></tr><tr><td>ペン幅</td><td>有効</td><td>無効</td></tr><tr><td>先端処理</td><td>有効</td><td>無効</td></tr><tr><td>連結処理</td><td colspan="2">無効</td></tr></table></td>
</tr>
</table>

ハードクリップエリア

HP-GL モードでは、印字可能エリアとは別に、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて作画することはできません。本機では、次の中からハードクリップエリアを選択します。

- 標準

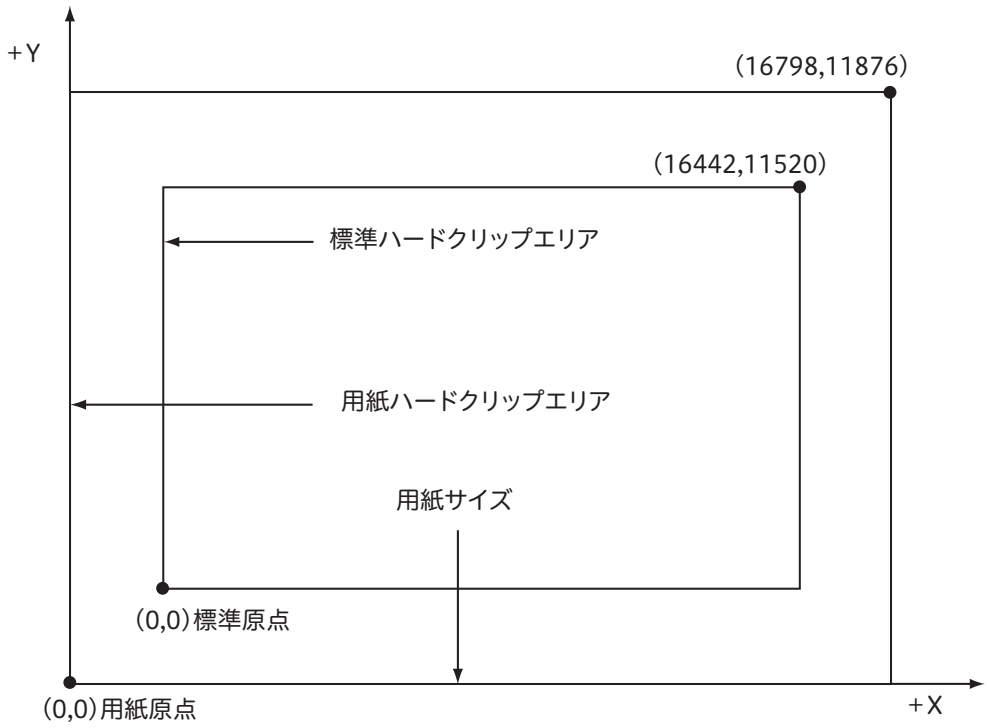
本機の印字可能エリアをハードクリップとして定義します。

- 用紙

用紙と同じサイズをハードクリップエリアとして定義します。しかし、実際にプリントできる領域は印字可能エリア内のみとなります。

ハードクリップエリアの設定は、HP-GL エミュレーションモード設定、またはハードクリップの指定コマンド &I で行うことができます。

下図の座標値は、A3 サイズで原点が左下（HP-GL/2 でオートレイアウト時）に設定されている場合です。



印字可能エリア

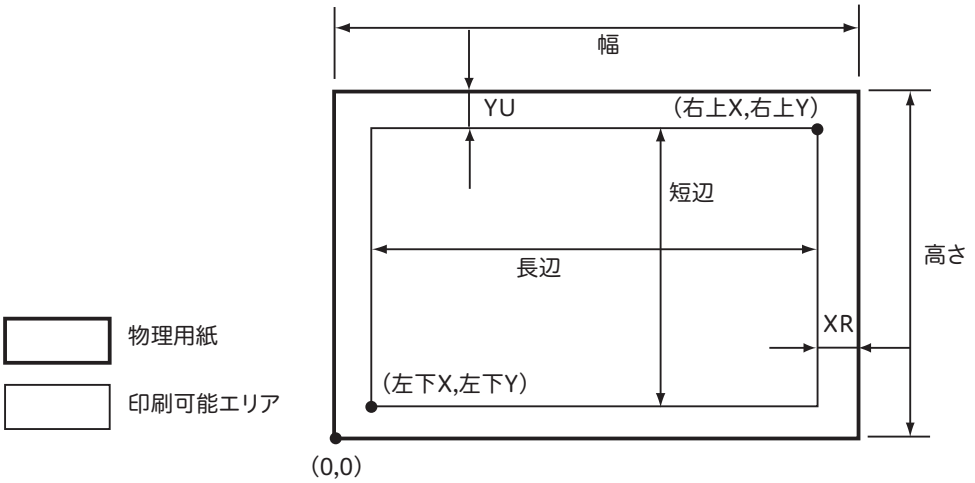
HP-GL モードで印刷できるエリアは、次のとおりです。

用紙サイズと印刷可能エリア

用紙サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	119052	84168	1260	1260	116532	81648	117792	82908	1260	1260
A4	84168	59508	1260	1260	81648	56988	82908	58248	1260	1260
A5	59508	41940	1260	1260	56988	39420	58248	40680	1260	1260
B4	103176	72828	1260	1260	100656	70308	101916	71568	1260	1260
B5	72828	51588	1260	1260	70308	49068	71568	50328	1260	1260

補足

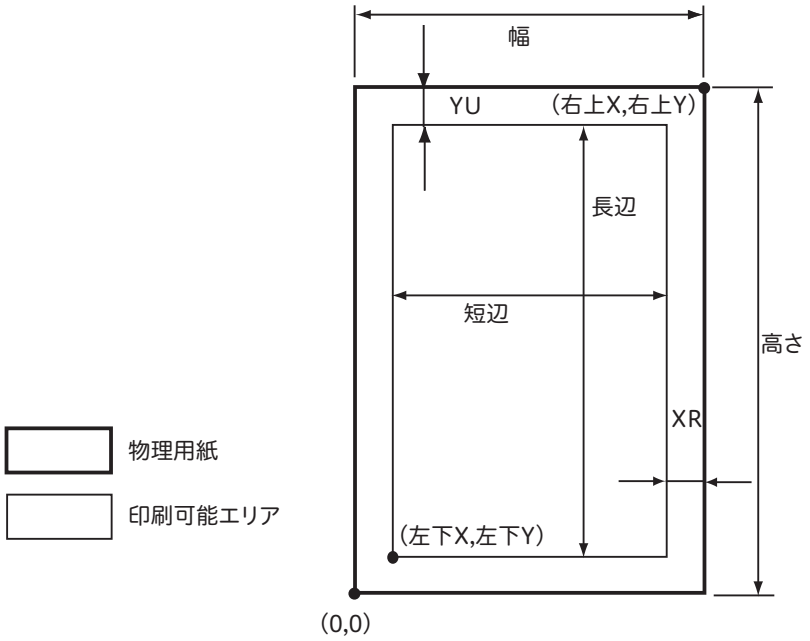
- HP-GL エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5 の 5 種類です。



用紙サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	84168	119052	1260	1260	81648	116532	82908	117792	1260	1260
A4	59508	84168	1260	1260	56988	81648	58248	82908	1260	1260
A5	41940	59508	1260	1260	39420	56988	40680	58248	1260	1260
B4	72828	103176	1260	1260	70308	100656	71568	101916	1260	1260
B5	51588	72828	1260	1260	49068	70308	50328	71568	1260	1260

補足

- HP-GL エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5 の 5 種類です。



オートレイアウト

オートレイアウトとは

オートレイアウトとは、ホスト装置から入力された HP-GL データをもとに原稿サイズを判断し、描画する用紙サイズに合わせて拡大・縮小し、描画データが用紙の中央にくるようにレイアウトする機能のことです。オートスケール・オートレイアウト機能を使用することによって、原稿サイズ、原点位置などを意識することなく、HP-GL モードでプリントできます。

オートレイアウトの指定はすべて操作パネルで行います。拡張コマンドで設定することはできません。

オートレイアウト機能を有効にするためには

オートレイアウト機能を有効にするためには、操作パネルを使って次の項目の設定をします。

- 原稿サイズを「オート」に設定します。初期値は、「オート」です。
- 原点位置を設定するために、オートレイアウトを「ON」に設定します。初期値は、「ON」です。
- スケールを「ON」に設定します。初期値は、「ON」です。
- エリア判定モードで、有効座標エリアを求める方法を選びます。初期値は、「Auto 」です。
- ペーパーマージンでペーパーマージンを設定します。初期値は、「0mm」です。
- スケールモードを設定します。初期値は、「用紙サイズ」です。

設定項目の詳細

各項目の詳細は、次のとおりです。

■原稿サイズ

モードボタンを押し、原稿サイズで「オート」を選択すると、オートレイアウトの設定を「ON」にできるようになります。

■オートレイアウト

オートレイアウトの設定を「ON」に設定します。「ON」に設定すると、スケール、エリア判定モード、ペーパーマージン、スケールモードの設定が有効になります。

■スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大・縮小（スケーリング）するかどうかを設定します。

■エリア判定モード

HP-GL データをもとに有効座標エリアを求める方法には、次のものがあります。

「Auto 」

有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adapted の中から自動的に選択します。このときの優先順位は、PS > IW > IP > Adapted となります。

「IW」

データ中の最後の IW コマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中に IW コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

「IP」

データ中のすべての IP コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に IP コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

「Adapted」

以下の条件から有効座標エリアを決定します。

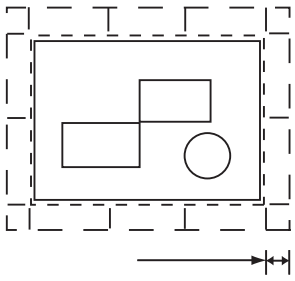
- 描画するコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

「PS」

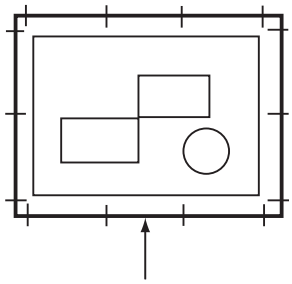
データ中の最初に PS コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に PS コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

■ペーパーマージン

0 ～ 99mm の範囲で設定します。初期値は 0mm です。エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。



ペーパーマージン



ハードクリップを超えるため描画されない

エリア判定モードで求めたエリア

エリア判定モードで求めたエリアからペーパーマージンを差し引いたエリア

■スケールモード

求めた有効座標エリアから、原稿サイズを決定するモードを選択します。また、有効座標エリアからよこ置きまたはたて置きの判断もします。

「有効座標エリア」の場合

エリア判定モードで求めたエリアからページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを原稿サイズとします。

「用紙サイズ」の場合

求めた有効座標エリアと原点位置の設定から、原稿サイズを設定します。原稿サイズは、A 系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）から選択されます。

原稿サイズの決定方法

原稿サイズは、スケールモード、ペーパーマージン、エリア判定モードで求めた有効座標エリアをもとに、各用紙サイズの用紙ハードクリップエリアと比較し、決定されます。

■スケールモードが用紙サイズの場合

1) エリア判定モードに従い、入力された HP-GL データから有効となる座標エリアを求めます。

2) 手順 1 で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。

3) 手順 2 で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。

4) 手順 3 で求めた有効な座標エリアを含む最小のサイズを原稿サイズとします。

■スケールモードが有効座標エリアの場合

1) エリア判定モードに従い、入力された HP-GL データから有効となる座標エリアを求めます。

2) 手順 1 で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。

3) 手順 2 で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。

4) 手順 3 までの処理で求めた座標エリアを原稿サイズとします。

例 :

スケールモード = 用紙サイズ、原点位置 = オート、ペーパーマージン 10mm、エリア判定モード =IP の場合に下記データが入力された場合

ペン幅設定はすべて 0.1mm

下記データでは文字サイズ指定コマンドは存在せず、IP,IW で指定しているエリアは A3 物理サイズ

```
IN;
IP-8399,-5938,8399,5938;
IW-8399,-5938,8399,5938;
```

```
PU;
SP1;
:
:
SP0;
```

1) エリア判定モードが IP のため IP コマンドで指定されたエリア -8399,-5938,8399,5938 を有効座標エリアとします。

2) 上記例では文字サイズ指定コマンドなし、ペン幅はすべて 0.1mm のため A3 サイズのデフォルト文字サイズの高さ /2（75 プロッタユニット）のサイズを手順 1 で求めた有効座標エリアに加えます。

   手順 2 で求めた有効座標エリア　-8474,-6013,8474,6013

3) ペーパーマージンで設定されている値（10mm=400 プロッタユニット）を手順 2 で求めた有効座標エリアから差し引きます。

   手順 3 で求めた有効座標エリア　-8074,-5613,8074,5613

4) 手順 3 で求めた有効座標エリアは A4 サイズを超え A3 サイズのため、原稿サイズは A3 と判断されます。

   また、ペーパーマージンの設定が 0mm だった場合の有効座標エリアは -8474,-6013,8474,6013 なので、A3 サイズを超え A2 サイズ以下のため、原稿サイズは A2 と判断されます。

用紙サイズの決定方法

操作パネルの設定が次の場合、用紙サイズの決定方法は以下のようになります。

- 原稿サイズ : オート
- 給紙トレイ : 自動

用紙サイズの決定方法は、操作パネルの用紙サイズの設定、およびスケールモードの設定によって異なります。

■用紙サイズの設定が「A サイズ」の場合

A3、A4、A5 のの中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A 系列（A3、A4、A5）の用紙がトレイにセットされていない場合は、A3、A4、A5 すべてのサイズを候補とし、操作パネルには、A 系列の用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

■用紙サイズの設定が「オート」の場合

A3、B4、A4、B5、A5 の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A3、B4、A4、B5、A5 の用紙がトレイにセットされていない場合は、このすべてのサイズを候補とし、操作パネルには、用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

■スケールモードの設定が「用紙サイズ」の場合

原稿サイズと同じ用紙サイズがある場合は、原稿サイズと同じサイズの用紙を選択します。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選択します。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選択します。

■スケールモードの設定が「有効座標エリア」の場合

有効座標エリアを含むいちばん小さい用紙サイズを選択します。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選択します。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選択します。

補足

- 原稿サイズが「オート」以外に設定されている場合、用紙サイズは操作パネルの用紙サイズで設定されている用紙サイズとなります。
- 給紙トレイが「自動」に設定されている場合、用紙サイズは各トレイにセットされている用紙サイズとなります。ただし、サポートされていないサイズの用紙がセットされていると、サポートしているサイズの用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

倍率の決定方法

オートスケール実行時、スケーリングの倍率は原稿サイズおよび用紙サイズで決定しますが、スケールモードの設定によって異なります。

補足

- スケーリングを有効にするためには、操作パネルのスケールの設定を「ON」にします。「OFF」の場合は、等倍（100%）で描画されます。

■原稿サイズが「オート」、スケールモードが「用紙サイズ」の場合

ハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に用紙ハードクリップエリアとなります。

- 原稿サイズ＝用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。
- 原稿サイズ＞用紙サイズの場合は、縮小して描画します。
- 原稿サイズ＜用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。

		用紙				
		A3	A4	A5	B4	B5
原稿	A0	35	25	100	31	100
	A1	50	35	25	43	31
	A2	71	50	35	61	43
	A3	100	71	50	87	61
	A4	100	100	71	100	87
	A5	100	100	100	100	100

描画位置は、原点位置がレイアウトの場合、原稿を用紙の中央に配置して描画します。原点位置が左下または中央の場合、原稿、用紙それぞれの原点を合わせて描画します。

■原稿サイズが「オート」、スケールモードが「有効座標エリア」の場合

ハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に拡張ハードクリップエリアとなります。

倍率は、有効座標エリアと用紙サイズによって決定します。各用紙サイズの有効座標範囲は次のとおりです。
単位 :プロッターユニット

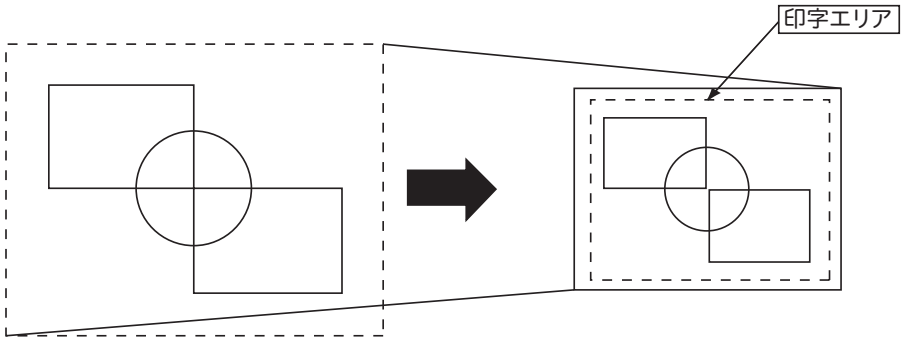
用紙サイズ	0 度				90 度			
	最小値		最大値		最小値		最大値	
	P2x − P1x	P2y − P1y	P2x − P1x	P2y − P1y	P2x − P1x	P2y − P1y	P2x − P1x	P2y − P1y
A3	7829	5485	73075	51200	5485	7829	51200	73075
A4	5485	3828	51200	35733	3828	5485	35733	51200
A5	3828	2648	35733	24720	2648	3828	44088	35733
B4	6762	4723	63120	44088	4723	6762	44088	63120
B5	4723	3297	44088	30773	3297	4723	30773	44088

倍率の最大値は、各用紙サイズの拡張ハードクリップエリアの 210.0%、倍率の最小値は、22.5% となります。

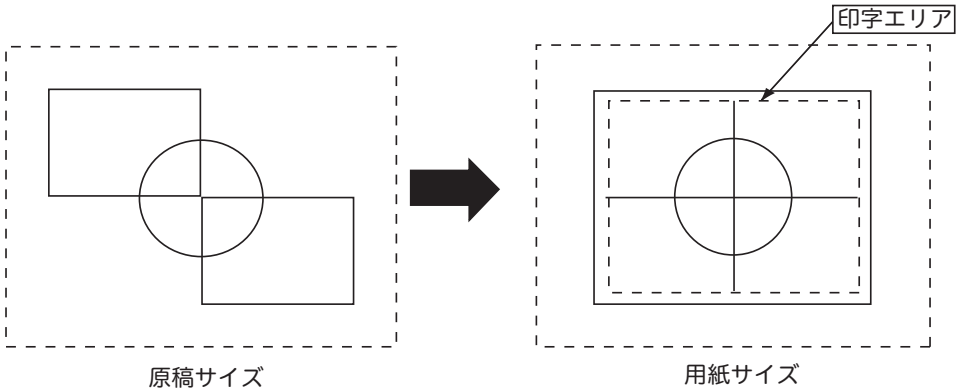
各機能組み合わせ例

以下に各機能の組み合わせによって、どのような印刷結果となるか例を記載します。

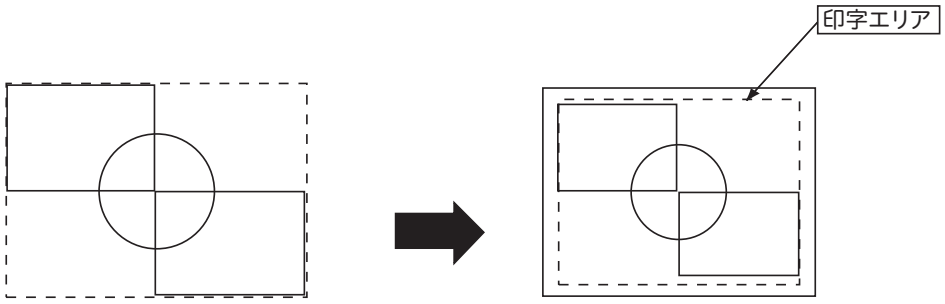
■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON



■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：OFF

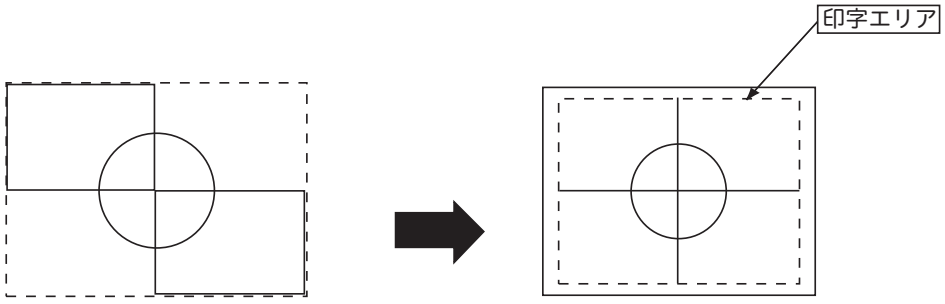


■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：有効座標エリア、スケール：ON



入力データより判断した有効座標エリア　　用紙サイズ

■原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：有効座標エリア、スケール：OFF



入力データより判断した有効座標エリア　　用紙サイズ

Google クラウドプリントを使用するには

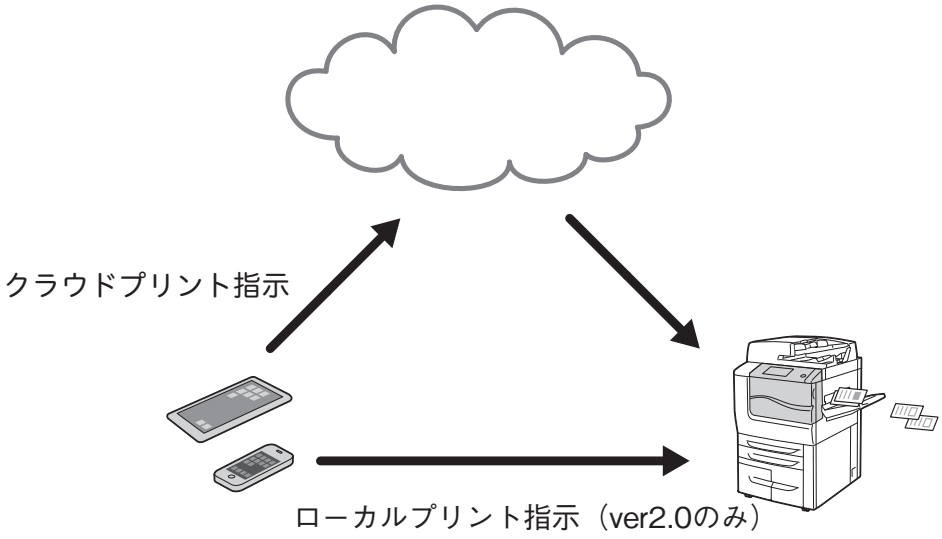
Google クラウドプリントを使用する方法について説明します。

Google クラウドプリントについて

Google クラウドプリントは、Google Inc. が提供するクラウド印刷サービスです。プリンタードライバーや特別なソフトウェアをインストールすることなく、本機を Google クラウドプリント に登録することで、Android™ 端末や iOS 搭載端末等から Gmail™ ウェブメールサービスや Google ドキュメント™ プログラムの文書などをプリントできます。

補足

- 本機は Google クラウドプリント ver1.1 および 2.0 に対応しています。Google クラウドプリント ver2.0 では、プリント指示をクラウドを経由させずに本機に送ることができます。
- 本書に記載されている Google クラウドプリントについての情報は、2014 年 9 月現在のものです。Google クラウドプリントの最新の情報については、Google クラウドプリントのヘルプを参照してください。
- Googleクラウドプリントを利用してお使いの機械からプリントできるクライアント環境（対応OS、対応ブラウザー、対応アプリケーション）については、Google クラウドプリントのヘルプを参照してください。



使用環境の設定

Google クラウドプリントを利用するための設定について説明します。

本体側の設定

Google クラウドプリントを使用するには、本機が IPv4 のネットワークに接続され、インターネットに接続できることが必要です。あらかじめ、本機に次の設定がされていることを確認してください。

IC カードリーダー	設定内容	参照
プロトコル設定	• IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなど、TCP/IP 環境で本機を使用するための設定 • DNS の設定 *	「プロトコル設定」(P.850)

プロキシサーバー設定	• サーバー名、ポート番号、ログイン名、パスワードなど、インターネットに接続するための設定	「プロキシサーバー設定」(P.851)

* お使いの環境に合わせて、必要な場合はこの項目を設定してください。

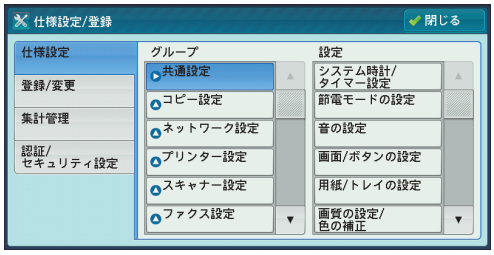
各項目の設定は、[仕様設定 / 登録] 画面で行います。
[仕様設定 / 登録] 画面を表示させる手順は次のとおりです。

1 本機の操作パネルで〈認証〉ボタンを押します。

2 〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、[確定] を押します。

3 メニュー画面で、[仕様設定 / 登録] を押します。

4 任意の項目を設定します。



補足

- 設定値を反映するために再起動が必要な場合があります。画面が表示されたら再起動してください。

■プロトコル設定

1 [仕様設定] > [ネットワーク設定] > [プロトコル設定] で、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスなど、TCP/IP（IPv4）環境で本機を使用するための項目を設定します。

補足

- Google クラウドプリントは、IPv6 環境では動作しません。

2 DNS サーバーを手動で設定する必要がある場合は、［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［TCP/IP - ネットワーク設定］で、［IPv4 - DNS 設定］を選択し、DNS サーバーの設定をします。

3 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

4 他の項目を設定しない場合は、［閉じる］を押します。

■プロキシサーバー設定

補足
- お使いの環境に合わせて、必要な場合はこの項目を設定してください。

1 ［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［プロキシサーバー設定］で、サーバー名、ポート番号、ログイン名、パスワードなど、インターネットに接続するための項目を設定します。

2 ［仕様設定 / 登録］画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

3 他の項目を設定しない場合は、［閉じる］を押します。

Google クラウドプリントへの本機の登録

CentreWare Internet Services を使用して［Google クラウドプリント］ポートを起動し、Google クラウドプリントに本機を登録する手順を説明します。

Google クラウドプリントに本機を登録するには、あらかじめ本機能を利用するユーザーの Google アカウント（メールアドレス）を作成しておく必要があります。

Google クラウドプリント ver1.1 と ver2.0 では、登録の手順が異なります。

手順	Google クラウドプリント ver1.1	Google クラウドプリント ver2.0
1	用紙の準備（ver1.1 のみ）（P.851）	ver2.0 では用紙の準備は不要です。
2	［Google クラウドプリント］ポートの起動（P.852）	［Google クラウドプリント］ポートの起動（P.852）
3	Google クラウドプリント ver1.1 への本機の登録（P.853）	Google クラウドプリント ver 2.0 への本機の登録（P.854）

参照
- アカウントの作成方法について詳しくは、Google Inc. のウェブサイトを参照してください。

■用紙の準備（ver1.1 のみ）

登録の手順では、本機から登録手順書が出力されます。登録作業を始める前に、次の設定をしてください。

補足
- 登録完了後、変更前の設定に戻してください。

1 機械管理者として、本機の認証モードに入ります。

2 メニュー画面で、［仕様設定 / 登録］を押します。

3 ［仕様設定］>［プリンター設定］>［その他の設定］で、［用紙の置き換え］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4 ［近いサイズを選択］を選択し、［決定］を押します。

5 ［閉じる］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

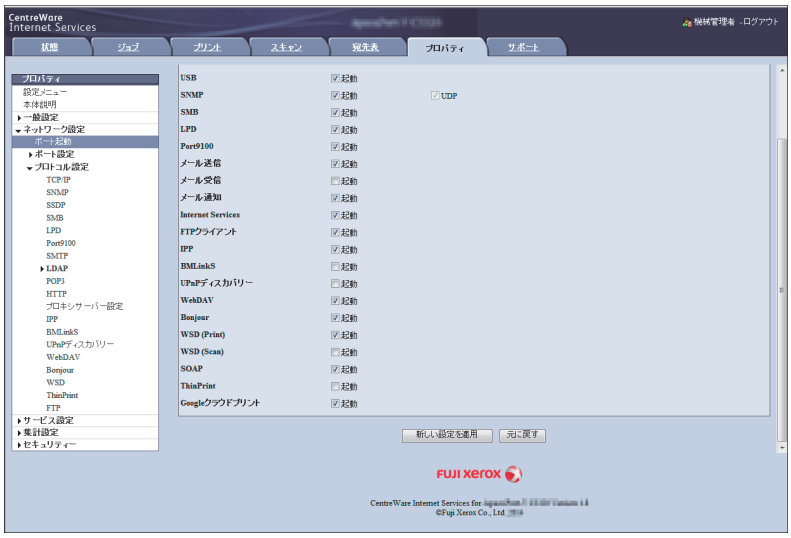
■［Google クラウドプリント］ポートの起動

1 ネットワークに接続されたコンピューターで、Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に本機の IP アドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。
CentreWare Internet Services が起動されます。

補足
- CentreWare Internet Services への接続時、または操作中にユーザー名とパスワードを求める画面が表示された場合は、機械管理者 ID とパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

3 ［プロパティ］タブ>［ネットワーク設定］>［ポート起動］で、［Google クラウドプリント］の［起動］にチェックを付けます。
Google クラウドプリント ver2.0 に本機を登録する場合は、［Bonjour］の［起動］にもチェックを付けます。



補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

4 ［新しい設定を適用］をクリックします。

5 Web ブラウザーに、本機の再起動を指示するメッセージが表示されたら、［再起動］をクリックします。

6 確認画面で［OK］をクリックします。
本機が再起動し、設定した値が反映されます。

■Google クラウドプリント ver1.1 への本機の登録

1 本機が再起動したら、Web ブラウザーの再読み込みを実行します。

2 ［プロパティ］タブ>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［Google クラウドプリント］で［Google クラウドプリントに登録］をクリックします。

3 メッセージが［未登録］から［登録中］に変わり、本機から登録手順書がプリントされることを確認します。
この登録手順書は、次の手順以降で必要です。

補足

- ［登録中］のメッセージは手順 6 で登録処理が完了すると、［登録済み］に変わります。
- ［登録中］が表示されてから、14 分以内に手順 6 までの操作を行ってください。

4 Web ブラウザーのアドレス入力欄に登録手順書に記載されている URL を入力し、〈Enter〉キーを押します。

補足
- 登録手順書に記載されている QR コードからカメラ機能付きスマートフォンを使って、登録ページにアクセスすることもできます。

5 本機能を利用するユーザーの Google アカウント名とパスワードを入力してログインします。

補足
- ここでログインするアカウントは、登録時に本機のオーナーとして設定されます。

6 ［プリンタ登録を完了］をクリックします。
これで Google クラウドプリント ver1.1 への登録は完了です。

7 ［Manage your printers］をクリックします。

8 本機がリストに表示されていることを確認します。
登録が完了すると、オーナーのアカウントでログインすることで、本機からプリントできます。

補足
- 登録に失敗した場合は、手順 2 に戻って［Google クラウドプリントに登録］をクリックし、登録手順書をプリントし直してください。
- オーナー以外のアカウントで本機能を利用したい場合は、共有の設定をしてください。共有の設定については、「複数ユーザーによる本機の共有について」(P.856) を参照してください。

■Google クラウドプリント ver 2.0 への本機の登録

補足
- 本機を Google クラウドプリント ver2.0 に登録するには、お使いのコンピューターに Google Chrome™ がインストールされている必要があります。

1 ネットワークに接続されたコンピューターで、Google Chrome を起動します。

補足
- お使いの Google アカウントにログインしていない場合は、ログインしてください。

2 画面の右上にある［ ☰ ］をクリックします。

3 ドロップダウンメニューの［ 設定 ］をクリックします。

4 ［ 詳細設定を表示 ...］をクリックします。

5 ［Google クラウドプリント ］の下にある［ 管理 ］をクリックします。
プリンター管理画面が表示され、［ 新しいデバイス ］の下に登録できるプリンターの一覧が表示されます。

6 登録できるプリンターの一覧に本機が表示されていることを確認し、右の［登録］をクリックします。

7 確認画面で［ 登録 ］をクリックします。

8 機械管理者として、本機の認証モードに入ります。

9 本機のメニュー画面で、[仕様設定 / 登録] > [仕様設定] > [プリンター設定] > [Google クラウドプリント登録] を選択します。

10 確認画面で [はい（登録する）] を押します。
しばらくすると、Google Chrome のプリンター管理画面の [マイデバイス] に、本機が追加され、Google クラウドプリント ver2.0 への登録が完了します。
登録が完了すると、オーナーのアカウントでログインすることで、本機からプリントできます。

本機の登録状況の確認

本機が Google クラウドプリントに登録されているかどうかは、CentreWare Internet Services で確認できます。

1 ネットワークに接続されたコンピューターで、Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に本機の IP アドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。CentreWare Internet Services が起動されます。

補足
- CentreWare Internet Services への接続時、または操作中にユーザー名とパスワードを求める画面が表示された場合は、機械管理者 ID とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

3 [プロパティ] タブ> [ネットワーク設定] > [プロトコル設定] > [Google クラウドプリント] をクリックします。
登録状況によって、[登録済み] または [未登録] と表示されます。

補足
- ネットワーク環境や混雑具合によっては、Google 側の登録処理が完了するまで時間がかかることがあります。
- [プロトコル設定] で [Google クラウドプリント] が表示されない場合は、Google クラウドプリントポートが起動していない可能性があります。Google クラウドプリントポートについては、「[Google クラウドプリント] ポートの起動」(P.852) を参照してください。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

複数ユーザーによる本機の共有について

本機を共有したいユーザーの Google アカウントを登録しておくことで、オーナー以外のユーザーも Google クラウドプリントを利用して、本機からプリントできるようになります。

参照
- 登録の手順について詳しくは、Google クラウドプリントのヘルプを参照してください。

1 Web ブラウザーを開いて、オーナーのアカウントで Google クラウドプリントにログインします。

2 Google クラウドプリントの管理画面で、［プリンタ］をクリックします。

3 本機を選択して、［共有］をクリックします。

4 表示された画面で、共有するユーザーの Google アカウント（メールアドレス）を入力し、［共有］をクリックします。
［アクセス権のあるユーザー］リストに追加されます。

補足
- リストに追加されたユーザーが Google クラウドプリントにログインすると、オーナーにより共有の設定が行われたことを示すメッセージが表示されます。共有に同意してください。

Google クラウドプリントへの本機の登録の解除

Google クラウドプリントへの登録を解除する手順を説明します。

注記
- Google クラウドプリントのプリンター管理画面からお使いの機械の登録を解除しても、機械側には設定が反映されません。必ず CentreWare Internet Services から、次の手順で登録の解除を行ってください。

1 ネットワークに接続されたコンピューターで、Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄にお使いの機械の IP アドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。
CentreWare Internet Services が起動されます。

補足
- CentreWare Internet Services への接続時、または操作中にユーザー名とパスワードを求める画面が表示された場合は、機械管理者 ID とパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

3 ［プロパティ］タブ>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［Google クラウドプリント］で、［登録を解除］をクリックします。

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

4 メッセージが［登録済み］から［未登録］に変わることを確認します。

補足

- ネットワーク環境や混雑具合によっては、Google 側の解除処理が完了するまで時間がかかることがあります。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

プリントする

Gmail ウェブメールサービスのメールの本文および添付文書（PDF/JPEG）や Google ドキュメントプログラムの文書などをプリントできます。

ここでは、Android 端末から Gmail ウェブメールサービスの本文をプリントする例で、手順を説明します。

1 プリントするメールを表示します。

2 メールの本文をプリントするときは、右上のメニューから［印刷］を選択します。

補足
- メールの添付文書がプリントできる場合は、添付文書のファイル名のあとに「印刷」と表示されます。添付文書をプリントするときは、ファイル名のあとの［印刷］をタップしてください。
- Google ドキュメントのスプレッドシートをプリントするときは、ファイル名のあとの［印刷］をタップしてください。

3 プリンターの選択画面が表示されるので、お使いの機械を選択します。

補足
- Googleクラウドプリントver2.0をお使いの場合､ローカルプリントを行う際はローカルの宛先から機械を選択してください。

4 プリント設定項目を指定し、右上の［印刷］をタップします。

補足
- プリント設定で表示される項目は、プリントする機械の仕様に関係なく常に固定されています。このため、お使いの機械によっては、指示どおりのプリント結果にならない場合があります。

トラブル対処

本機に何らかのトラブルが発生した場合の処置について説明します。

なお、該当する処置をしても正常に作動しないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

登録時のトラブル

症　状	原　因	処　置
CentreWare Internet Services の［プロパティ］タブ >［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［Google クラウドプリント］で［Google クラウドプリントに登録］を押しても、メッセージ表示が［登録済み］に変わらない。	お使いの機械がインターネットに接続できませんでした。	ネットワーク設定を確認してください。 参照 • 詳しくは、「本体側の設定」（P.849）を参照してください。
	ネットワーク環境でプロキシサーバーを使用しています。	［仕様設定］>［ネットワーク設定］で、プロキシサーバーの設定をしてください。 参照 • 詳しくは、「本体側の設定」（P.849）を参照してください。
	ネットワーク環境でプロキシサーバーを使用し、プロキシ認証を行っています。	本機能は、プロキシ認証には対応していません。 プロキシ認証を使用しない設定に変更してください。
	DNS が正しく設定されていません。	［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［プロトコル設定］>［TCP/IP - ネットワーク設定］>［IPv4-DNS 設定］で、DNS の設定が正しいかどうかを確認してください。
	お使いの機械の証明書検証が有効に設定されています。	お使いの機械の証明書検証を無効にするか、正しいルート証明書をインポートしてください。
	ネットワーク通信が混み合っていたため、タイムアウトが発生しました。	しばらく待ってから、もう一度同じ操作を実施してください。
	ネットワーク環境にファイアウォールが設置されています。	"*.google.com" との通信を許可する必要があります。ファイアウォール設定を確認してください。
	お使いの機械でエラーが発生しています。	CentreWare Internet Services の［エラー履歴］で、エラーコードを確認してください。 **1.** コンピューターで、Web ブラウザーを起動します。 **2.** Web ブラウザーのアドレス入力欄に、お使いの機械の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、<Enter> キーを押します。 **3.**［ジョブ］タブの［エラー履歴］から、［日付 / 時刻］と［エラーコード］を確認します。 **4.**「エラーコード」（P.540）を参照し、原因と処置方法を確認してください。
Google クラウドプリントの登録手順書が出力されない。	お使いの機械で認証プリントまたはプライベートプリントが設定されています。	認証プリントやプライベートプリントには対応していません。お使いの機械の設定を変更してください。
	［登録を解除］ボタンを押した直後に、［Google クラウドプリントに登録］ボタンを押しました。	Google 側で、お使いの機械の解除処理が完了していない可能性があります。 Google クラウドプリントのプリンター管理画面を表示し、お使いの機械がリストに表示されていないことを確認した上で、もう一度登録作業を行ってください。

症　状	原　因	処　置
Google クラウドプリントの登録手順書が2枚出力された。	登録操作中に本機の電源を切りました。	印刷処理中に本機の電源を切ると、リカバリー機能により、登録手順書が 2 枚出力されることがあります。

プリント時のトラブル

症　状	原　因	処　置
論理プリンターで設定したとおりに出力されない。	Googleクラウドプリントの仕様により、論理プリンターで設定した内容は無効となり反映されません。Google クラウドプリントのプリント設定で出力されます。	Google クラウドプリントで印刷項目を設定してください。
文字やイメージが崩れて出力される。	Googleクラウドプリントの仕様により、プリント指示文書と出力結果が同一にならない可能性があります。	プリンターの選択画面で、[Google ドキュメントに保存] を選び、保存された PDF 文書の出力結果を確認してください。

注意 / 制限事項について

本機を使用するうえでの注意、および制限について説明します。

本機使用上の注意 / 制限

■電源・主電源を切るときのご注意

電源スイッチを切ったあとも、しばらくの間は本機内部で電源オフ処理をしています。従って、電源スイッチを切った直後に主電源を切らないでください。タッチパネルディスプレイ画面が表示されているとき、または〈節電〉ボタンが点滅しているときは、主電源を切らないでください。ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因になることがあります。また、電源を切ったあと、画面表示が消える前に電源スイッチを入れても、すぐに起動しません。電源を入れる場合は、操作画面の表示が消えたことを確認してから電源スイッチを入れてください。

■リモート操作での電源オフについて

CentreWare Internet Services から電源を切ることはできますが、電源を入れることはできません。なお、CentreWare Internet Services から操作するには、機械管理者モードに入る必要があります。

補足
- ジョブがある場合には、電源オフを受け付けません。

■オプションについて

- DocuCentre シリーズをお使いの場合、ボックス保存プリントを使用するには、スキャナーキット（オプション）が必要です。
- 本機を PostScript 対応プリンターとして使用する場合は、オプションの Adobe PostScript 3 キットの設置が必要です。
- HP-GL/2、PC-PR201H をエミュレートする場合は、オプションのエミュレーションキットまたは Adobe PostScript 3 キットの設置が必要です。
- Adobe PostScript 3 キットとエミュレーションキットは、同時に装着できません。

■本体の設置 / 移動について

- 本体を移動する場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたはカストマーエンジニアにお問い合わせください。
- 本機が作動しているとき、本体に衝撃を与えないでください。
- 原稿カバーを閉じるとき、指のはさみ込みに注意してください。
- 本体外部にあるファンの吸排出口の近くには物を置かないでください。

■文字コードについて

- コンピューターからのデータ送信、USB メモリーなどのメディアからのデータ読み込みでは、フォルダー名やファイル名に本機でサポートしていない文字が使用されていると、本機で正しく表示されないことがあります。

- コンピューター上で、ジョブフローを作成する場合、次の文字を使用してください。
  - S-JIS 20-7E（JIS X0201　ローマ文字）
  - S-JIS 889F-8972（JIS X0208 第一水準漢字）
  -「操作パネルで表示できる漢字一覧」(P.761)のJIS X0208 第2水準の一部の漢字
  - S-JIS 8140-84BE （JIS X0208 非漢字）のうち、8160、8161、817C、8191、8192 81CA を除くもの

なお、半角カナ、①、ローマ数字などの特殊文字は使用できません。

■排出先トレイの設定について

フィニッシャーの接続を変更した場合は、［仕様設定］>［コピー設定］>［コピー機能設定初期値］>［排出先］で排出トレイを設定し直してください。

また、メールプリント、親展ボックスの文書プリント、ファクス受信文書のプリントなども排出先を指定できるので、必要に応じて設定変更してください。

■製品の互換性について

ApeosPort シリーズと DocuCentre シリーズの互換性はありません。どちらかのシリーズを購入いただいた後で、別のシリーズへのアップグレード / ダウングレードはできません。

■宛先指定方法の制限について

- 機械管理者モードで宛先指定方法を制限するように設定されているときには、ファクス / インターネットファクス / メール送信で宛先を指定するときに、［キーボード］と［リダイヤル］ボタンが表示されないことがあります。その場合、〈数字〉ボタンも使用できません。送信先の指定は、宛先表に登録されている宛先だけに制限されます。
  宛先の登録は、CentreWare Internet Services や、Device Setup（ApeosWare Management Suite の無償ツール）から行う必要があります。ただし、宛先指定方法が制限されているときでも、機械管理者は、本機の操作パネルで宛先を登録できます。
- 認証機能の設定で、［宛先指示方法の制限］が［解除する］に設定されている権限グループのユーザーは、ファクスやメールなどの宛先を直接入力できます。

■ワンタッチボタンについて

ワンタッチボタン（ファクス機能搭載機のみ）は、ファクス、インターネットファクス、および IP ファクス（SIP）、スキャナー（メール送信）、スキャナー（ＰＣ保存）の宛先を指定するときに使用します。

ワンタッチボタンへの短縮宛先番号の割り当てには、次の 2 つの方法があります。

- ［タイプ1］:1～70を短縮宛先番号（登録した短縮宛先番号の0001～0070に対応）、71 と 72 をジョブメモリー（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）
- ［タイプ2］:1～60を短縮宛先番号（登録した短縮宛先番号の0001～0060に対応）、61 ～ 72 をジョブメモリー（登録したジョブメモリーの 1 番～ 12 番に対応）

補足
- 工場出荷時は、［タイプ 1］が設定されています。

参照
- 短縮番号の割り当て数の変更方法は、「ワンタッチボタンの割り当て」(P.170)を参照してください。

■ワンタッチボタンの割り当てについて

ワンタッチボタンへの短縮宛先番号とジョブメモリーの割り当て数は、変更できます。割り当て数を変更した場合、短縮宛先番号のボタンがジョブメモリーのボタン

になる場合と、ジョブメモリーのボタンが短縮宛先番号になる場合がありますので、誤操作に注意してください。

■本機の USB インターフェイスコネクターについて

- 操作パネル上のUSBメモリー差込口を使用する場合は、オプションのUSBメモリーキットが必要です。
- 操作パネル上の USB メモリー差込口には、USB メモリーを直接差し込んでください。USB ケーブルを使った接続の動作は保障していません。
- USB ケーブルを使って接続する場合は、USB 増設ポート（オプション）を使用してください。
- メモリーカードリーダーと USB メモリーを同時に本機に接続することはできません。同時に接続した場合は、最初に接続したものだけが認識されます。

■IC カードリーダーについて

- 本機に搭載できるICカードリーダーは内蔵型とウイングテーブル設置型の2種類あります。本機に IC カードリーダーを取り付けることによって、認証機能をプラスすることができます。出力機器の利用制限、ドキュメントのセキュリティー管理強化や利便性の向上などが可能です。
- Dispenser 2（CopyLyzer モード設定）を利用している場合、IC カードリーダーは接続できません。
- ウイングテーブル設置型のICカードリーダーは次のEP関連商品と同時接続できます。
  - Dispenser 2
  - IC Card Cashier
  - Coinkit 8
  - Coinkit 9
  - フットスイッチ
  - Connection BOX 1 for EM
  - e-MoneyCashier 2
  - EPnet-BOX type L
  - EPnet-BOX type W2
  - IC Card Cashier
  - Connection BOX 1 for EM
  - e-MoneyCashier 2

補足

- IC Card Cashier、Connection BOX 1 for EM、または e-MoneyCashier 2 を接続する場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。設定は、カストマーエンジニアが行います。

- ウイングテーブル設置型の IC カードリーダーに接続する EP 関連商品は、次の組み合わせで併設できます。併設の設定は、弊社カストマーエンジニアが行います。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

併設できる EP 関連商品の組み合わせ	
EPnet-BOX type L EPnet-BOX type W2	• フットスイッチ • Dispenser 2 • IC Card Cashier • e-MoneyCashier 2 • Connection BOX 1 for EM • Coinkit 8 • Coinkit 9
フットスイッチ	• EPnet-BOX type L • EPnet-BOX type W2 • Dispenser 2 • IC Card Cashier • e-MoneyCashier 2 • Connection BOX 1 for EM • Coinkit 8 • Coinkit 9

■強制アノテーションで印字される時刻について

機械の状況や設定、出力内容などによっては、お客様が出力を指示した時刻と、機械内部での出力ジョブの開始時刻、実際のプリントの開始時刻がずれる場合があります。強制アノテーションで印字されるのは、出力ジョブの開始時刻となります。

■ジョブメモリーについて

- ジョブメモリーには、次の機能や操作を登録することはできません。
  - ジョブメモリーの登録や実行
  - EP 診断
  - 各仕様の設定
  - メニュー画面の［文書プリント］ボタン
  - メニュー画面の［スキャナー（USB メモリー保存）］ボタン
  - メニュー画面の［ジョブフロー］ボタン、［外部アクセス］ボタン（ApeosPort シリーズのみ）
  - ジョブフロー機能が登録されている〈登録〉ボタン（ApeosPort シリーズのみ）
  - ファクス / インターネットファクス、スキャナー（メール送信）、スキャナー（PC 保存）の宛先表
  - 選択できないボタン
  - メニュー画面の［言語切り替え Language］ボタン
  - メニュー画面の［画面輝度調整］ボタン
  - プレビュー表示時のスクロール操作
  - ドラッグおよびフリック操作
  - スキャナー（PC 保存）の［ネットワーク参照］ボタン
  - BMLinkS の［ネットワーク保存］>［保存先を選択］ボタン
  - スキャナー（メール送信）のアドレス編集操作（[宛先名 / メールアドレス］や［送信者］を選択すると表示されるポップアップメニューの［キーボード］、［削除］、［確認 / 変更］）
  - 〈節電〉ボタン
- ジョブメモリー登録後に、次の操作を実行すると、登録されたジョブメモリーが正しく呼び出せないことがあります。

- ジョブメモリーに複製管理機能が登録されている場合に、複製管理機能の初期値をジョブメモリー登録時から変更した場合
- 親展ボックスを操作するジョブメモリーで、操作の対象となる親展ボックスのパスワードがジョブメモリー登録時と異なる場合
- 操作パネルの設定を変更した場合
- 登録ボタンに登録されている機能を変更した場合
- ［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［コピー設定］>［プリセットボタンの設定］で内容を変更した場合
- 宛先表やジョブフローの一覧から選択する場合
- オプション（フィニッシャーなど）の変更によりボタンが機能しなくなった場合
- ミリ、インチなど単位設定を変更した場合
- ジョブ確認（保存文書）で文書一覧から文書を選択する場合
- スクロールバーによる項目選択

■音声ナビ（オプション）について

- 音声ナビで利用できる機能は限定されています。利用できる機能については、音声ナビに付属の取扱説明書をご確認ください。
- 音声ナビの操作ボタン（電源スイッチや音量調整スライダー）を操作しても、低電力モードおよびスリープモードからは自動復帰しません。

■節電モード中の原稿カバーの開閉について

- 機械が節電状態中に、原稿カバーを開いて、節電状態から復帰した直後に、原稿の読み取りを開始しようとすると、読み取りサイズエラーが発生する場合があります。この場合は、原稿サイズを手動で設定してください。節電状態から復帰したあと、機械が原稿サイズを自動検知できるようになるまでには、数秒かかります。原稿をセットしてから原稿カバーを閉じるまで、数秒待ってから、原稿の読み取りを開始させれば、読み取りサイズエラーは発生しません。

■大型カラー操作パネル（オプション）について

- 大型カラー操作パネルの画面下部には、日時が表示されます（工場出荷時）。日時を非表示にする場合は、カストマーエンジニアにお問い合わせください。
- 日時の表示形式は、機械管理者モードで変更できます。
- 時計は、1 分単位の表示です。実際の時刻とは秒単位で異なる場合があります。
- ジョブ確認画面では、［実行中 / 待ち］、［実行完了］の一覧が画面いっぱいに表示され、日時は表示されません。

■節電状態からの操作について

- 本機では、［節電解除の制御］の初期値が［使用する部分のみ解除する］に設定されています。

参照
- 設定については、「節電解除の制御」（P.167）を参照してください。

- スリープモードから復帰後、仕様設定の操作が可能になるには、数秒がかかります。
- タッチパネルディスプレイの点灯が必要ない操作（コンピューターからのプリント指示など）をした場合、〈節電〉ボタンは点灯したままになります。
- スキャナーを使用するサービスが選択されていない状態などのように、原稿送り装置に通電されていない状態で原稿送り装置の上面カバーを開閉しても、タッチパネルディスプレイにメッセージは表示されません。ただし、上面カバーを開いた状態で、通電する（節電を解除する）とタッチパネルディスプレイに、確認メッセージが表示され、〈エラー〉ランプが点灯します。

- 原稿ガラスでコピーおよびスキャンをするために、節電中に原稿カバーを開けた場合、節電を解除します。
- 節電解除後、原稿読み取り装置が通電されていない状態で原稿カバーを開けた場合、原稿読み取り装置および原稿送り装置に通電されます。ただし、原稿ガラスで原稿検知が可能になるためには、原稿ガラス内の原稿読み取り部が、原稿サイズ検知位置に移動するのを確認してから原稿カバーを閉じて下さい。
- 節電復帰後、コピー、セキュリティプリント出力などの出力装置を使用するサービスが選択されていない状態で次の操作をしても、タッチパネルディスプレイにメッセージは表示されません。
  - 原稿送り装置の上面カバーの開閉
  - フロントカバーの開閉
  - 左側面下部カバーの開閉
  - 用紙トレイの引き出し
  - フィニッシャーの正面カバーの開閉、ボタン押下など、すべての操作

ただし、各カバーを開いたまま、または用紙トレイを引き出したままの状態で通電する（節電を解除する）と、確認メッセージが表示され、〈エラー〉ランプが点灯します。

- 節電解除後、出力装置を利用する機能が実行されていない状態では、トナー残量やドラムの状態、用紙などの消耗品関連の情報と、用紙トレイの状態は、節電状態に入る前に検知した値を表示または通知します。
- 節電解除後、出力装置を利用する機能を実行する前にコピー機能を利用する場合、次の点に注意してください。用紙トレイにセットされている用紙サイズや残量などの情報は、節電に入る前の情報が表示されています。節電中に用紙サイズ、残量を変更した場合、画面に反映されるまでに数秒かかります。
- タッチパネルディスプレイの初期表示画面に、コピー、らくらくコピー、ジョブメモリー、音声ナビを設定している場合は、節電状態が解除されると、本機全体が節電解除されます。
- トレイセット時の用紙変更画面表示が「する」に設定されている場合は、節電状態が解除されると、本機全体が節電解除されます。
- 〈機械確認〉ボタン操作時、機械管理者モード移行時、ジョブメモリー選択時には、本機全体が節電解除されます。
- EP-BB による EP サービス利用時は、スリープモードは解除されません。
- EP 関連商品の初期化中には、本機は節電状態に移行しません。
- ［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［ポート設定］>［USB］>［USB プリントモード指定 ］を［自動］以外に設定しているときは、節電状態が解除されると、本機全体が節電解除されます。
- ContentsBridge Utility のジョブチケットを使って、セキュリティプリント実行した場合、出力装置にも通電されます。

■実行中 / 実行待ちのジョブ数について

複合機の実行中 / 実行待ちジョブの最大数は 114 件です。複合機が最大ジョブ数に達している状態では、コンピューターからのダイレクトファクスの送信指示やプリント指示、複合機本体からのファクス送信、コピー（割り込みを除く）、スキャン指示も受け付けられません。

コピー機能使用上の注意 / 制限

■コピー機能について

本機には、全面コピー機能はありません。

■コピーとらくらくコピーについて

コピー機能とらくらくコピー機能との間で、画面の切り替えはできません。メニュー画面に戻ってから選択し直してください。この場合、どちらかの機能で設定した内容はクリアされます。

■ID カードコピーについて

- IDカードコピーでは、倍率/画像サイズにかかわらずセンター移動は実施しません。
- ID カードコピーの倍率を縮小に設定すると、縮小率によっては、原稿のセット向きと異なる向きにコピーされる場合があります。

プリント機能使用上の注意 / 制限

■PostScript ドライバーについて

PostScript ドライバーでは、［ポスター（拡大連写)］などには対応していません。また、［まとめて 1 枚］の機能では、2/4/6/9/16 アップと、枠線の有無の指定が可能です。

■Macintosh から USB 接続でプリントする場合

USB を使用して PostScript ドライバーからプリントする場合、図形データ（バイナリーデータを含む EPS ファイル）を貼り付けたアプリケーションデータを印刷すると、バイナリーデータ部分をプロトコルデータと誤検知して文字データが数ページにわたってプリントされることがあります。

［仕様設定］>［ネットワーク設定］>［ポート設定］>［USB］>［Adobe 通信プロトコル］を［RAW］に設定すると、バイナリーデータを含む EPS ファイルを使ったデータを正常にプリントできます。

■ContentsBridge について

ContentsBridge を使用すると、DocuWorks 文書、PDF、TIFF、JPEG、XPS をドラッグするだけでプリントできます。

ただし、DocuWorks 文書をプリントする場合、DocuWorks Viewer Light 5.1 以降（無償配布）または DocuWorks 6.0 以降（別売）が必要です。

また、PDF、TIFF は本機に直接ファイル転送しますが、DocuWorks 文書はコンピューター上で内部的にプリント処理をしてから本機にファイルを転送し、プリントします。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■文書プリントについて

文書プリントでは、市販のシングルスロットタイプのメモリーカードリーダーを使用できますが、動作保証はできません。

マルチスロットのメモリーカードリーダーでは、特定の 1 つのスロットだけしか使用できません。どのスロットを使用できるかはリーダーの機種毎に異なり、お客様が使いたいメディア / メモリーカードのスロットを複合機では使えない場合があります。また、動作保証はできません。

■メディアプリントの表示機能について

文書プリントは、サムネール表示およびプレビュー表示ともに対応していません。

■操作パネル操作中のプリントジョブについて

次のときには、プリントジョブの処理・出力速度が遅くなることがあります。

- プリントジョブを実行中に操作パネルを操作した場合
- ［ジョブ確認］画面でプリントジョブの状態を表示している場合

■プリント結果が設定と異なるとき

プリントページバッファの容量不足が原因で、次のように、設定と異なる結果になることがあります。この場合、メモリーの増設をお勧めします。

- 両面の指定が片面でプリントされる
- ジョブが中止される（プリントページバッファに展開できない場合、そのページを含むジョブが中止されます）

■USB Host（USB メモリー）からダイレクトプリントをするとき

本機が「スリープモード」のときに、USB メモリーを接続した場合、コンピューターは本機を検知できません。「スリープモード」を解除してから USB メモリーを接続し、印刷指示を行ってください。

■USB メモリープリントについて

- USB メモリープリントを行うには、USB メモリーキット（オプション）が必要です。
- USB ホストアダプターを利用して、お客様がお持ちの USB メモリーおよび USB ケーブル（必要に応じて）からプリントできますが、動作保証はできません。
- USB2.0 対応のメモリーが対象です。
  次の USB メモリーは対象外です。
  - USB メモリーのコンテンツにアクセスするために別途ユーティリティが必要なメディア、パーティションが複数ある USB メモリー
  - 外付けのハブを介して接続した USB メモリー
- 複数の USB メモリーを同時に装着して使用することはできません。
- USB メモリーにアクセス中の取り出しを回避するためのメニューは提供していません。

■両面プリントでのメーターのカウントについて

両面プリントする場合、使用しているアプリケーションによっては、部数を指定するときの条件などにより、自動的にページ調整の白紙を挿入することがあります。このときにアプリケーションが挿入する白紙出力は、カウントアップの対象となります。

■操作パネル操作時のプリントジョブの速度について

ApeosPort シリーズ、または大型カラー操作パネル（オプション）を接続した DocuCentre シリーズをお使いの場合、プリントジョブを実行中に操作パネルを操作したり、［ジョブ確認］画面でプリントジョブの状態を表示しているときは、プリントジョブの処理・出力速度が遅くなることがあります。

■PDF ダイレクトプリント機能について

PDF ダイレクトプリント機能は、Adobe PDF 1.6 に対応しますが、次の点に注意してください。

- レンダリング処理が複雑になるため、PDF の出力に時間がかかる場合があります。

- Adobe® Acrobat® 7（PDF1.6）の「OpenType フォントを埋め込む」指定には対応していません。
- Adobe Acrobat 7 以降で作成された PDF1.6 の機能に対応していますが、PDF1.7（Adobe Acrobat 8 および 9）の機能には対応していません。
- 本機で提供されている弊社独自の PDF Bridge は、透明オブジェクトなどの PDF1.6 の機能に対応しています。
- PostScript のメモリー設定を最大値（128MB）にしないと、PDF ファイルを正常に印刷できない場合があります。

■まとめて 1 枚（N アップ）機能について

9 アップができるのは、アプリケーションからのプリント指示により受信した印刷ジョブだけです。

■ThinPrint について

- 「ThinPrint .print」を Windows Server 2008 に設定するには、ライセンス「.print Application Server Engine」が必要です。
- ThinPrint は、通信プロトコルが IPv4 で動作しているときだけ利用できます。IPv6 には対応していません。
- 同時に接続できる最大接続数は 3 です。これを超えて接続要求を受け付けた場合、接続要求は待ち状態になります。ただし、待ち状態になる接続数は最大 10 までで、これを超えると接続要求を受け付けられません。すでに開設済みの接続が終了して最大接続数よりも少なくなりしだい、待ち状態になっていた接続要求が順次接続されます。
- ジョブのキャンセル、一時停止などのジョブ制御機能は提供していません。操作パネルでの［ジョブ確認］画面、CentreWare Internet Services からのジョブのキャンセルは可能です。
- プリンターにデータのスプールが終了したジョブから順に印刷されます。印刷指示を受信した順に印刷されない場合があります。
- プリンターの電源が切断された場合、本機能は受信済みジョブのスプール順序とデータを保存します。受信中のジョブは破棄されます。

■サイズ混在原稿をプリントするときの向きについて

- プリンタードライバーからのサイズ混在原稿のプリント可能な組み合わせは、A4 と A3、B5 と B4、8.5×11 インチ（Letter）と 11×17 インチ （Tabloid）、十六開と八開の 4 種類です。
- 使用するアプリケーションによっては、原稿の向き（縦向き、横向き）を正しく判断できないため、サイズ混在原稿の組み合わせによっては、原稿の上下が逆にプリントされる場合があります。
- 親展ボックス内の文書をプリントするとき、原稿の上下が逆にプリントされる場合があります。

■ダイレクトファクスドライバーについて

ダイレクトファクスドライバーは、長形 4 号 、角型 6 号、角型 20 号、洋長形 3 号の封筒に対応していません。

■プレビュー画像の生成について

原稿によっては、プレビュー用画像の生成に時間がかかる場合があります。出力までの時間を早くしたいときや、プレビュー表示の必要がない場合は、プリンタード

ライバー側の設定で、プレビュー用の画像を生成しないでプリントの指示をすることができます。

補足
- プリンタードライバー側の設定が優先されます。

■プリンターフォントを使用してプリントする場合

プリンター搭載フォントに JIS2004 を採用しています。TrueType フォントをプリンターフォントに置き換えてプリントすると、MS 明朝および MS ゴシックの文字が従来の JIS90 と変わる場合があります。

■lpr ポートを使用したプリントについて

lpr ポートを使用してプリントした場合、プリント中画面やショブ確認画面、ジョブ履歴レポートで、ユーザー名やファイル名、ホスト名が文字化けし、正しく表示されないことがあります。

正しく表示したい場合は、lpr 以外のポートを使用してください。

■本機で認証機能を使用している場合

プリンタードライバーで認証情報を設定する場合、User ID は半角 32 文字（全角 16 文字）以内で設定してください。全角で 17 文字以上を設定すると、認証エラーになりプリントできません。

スキャン機能使用上の注意 / 制限

スキャン機能使用時の注意 / 制限事項は、次のとおりです。

参照
- ネットワークスキャナードライバー、および親展ボックスビューワー 3 の注意 / 制限事項については、同梱されているメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っている「Readme」を参照してください。

■親展ボックスからの文書取り出し時

- ［文書取り出し後の削除］が［削除しない］に設定されている場合は、同一の文書に複数のクライアントがアクセスできます。［文書取り出し後の削除］が［削除する］に設定されている場合は、同一の文書にアクセスできるクライアントは 1 台だけです。あるクライアントが読み込みをしている文書は、ほかのクライアントからは見えません。また、どちらの場合でもアクセス中の親展ボックスに対して、文書の追加はできます。
- CentreWare Internet Services によって取り出した場合は、［文書取り出し後の削除］の設定にかかわらず、文書は削除されません。

■ネットワークスキャナードライバーと親展ボックスビューワー 3 の同時使用

1 台のコンピューターから、ネットワークスキャナードライバーと親展ボックスビューワー 3 を同時に使用して、本機に接続することはできません。

複数のコンピューターで、ネットワークスキャナードライバーまたは親展ボックスビューワー 3 を使用して、同時に同じ機械から文書を取り出す場合は、最大で 3 台までです。

■ほかのファクスからの親展ポーリング時

ほかのファクスから、本機に親展ポーリングを指示された場合、スキャン文書は送信されません。

■TIFF ファイル使用時

親展ボックスビューワー 3 を使用して作成された TIFF ファイルは、MMR 、MH、JBIG、または JPEG 圧縮方式で圧縮されています。TIFF ファイルを開く場合は、これらの圧縮方式に対応したアプリケーションソフトウエアを使用してください。

■Microsoft® Office 形式での出力

- 本機能は、Microsoft®Word ファイル形式（doc）および Microsoft®Excel® ファイル形式（xls）を対象としています。
- 本機能を利用するにはオプションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 本機能は、紙原稿をスキャンして保存後に、変換されたテキストや画像などを適宜編集して再利用することを前提とした、補助機能です。紙原稿上の文字や表、図形、写真を 100% 再現することを保証するものではありません。
- ジョブフロー（スキャン起点、ボックス起点）、CentreWare Internet Services からの親展ボックスに保存されている文書の取り込み、およびネットワークスキャナーユーティリティ 3 や EasyOperater からの文書の取り込みでは、本機能を利用できません。
- 次の条件を満たしている場合、Microsoft Office 形式での出力が可能です。
  - カラーモード：自動、フルカラー、グレースケール

補足
- ［白黒（2 階調）］では本機能を利用できません。［フルカラー］を選択しても、印画紙スキャンは利用できません。
  - 読み取りサイズ：50×50mm ～ 297×432mm
  - 読み取り解像度：300dpi のみ
  - 読み取り倍率：100% のみ

補足
- 自動倍率では本機能を利用できません。

- Mac OS版のMicrosoft® OfficeおよびMicrosoft® Word/Excel® 2000での本機能の利用は保証していません。
- Microsoft PowerPoint®、XML 形式の Microsoft® Office 文書（Word/Excel®）、Text、HTML、CSV、一太郎の形式には変換できません。
- BMLinkS は対象外です。
- 画像を確認するために、PDF や XDW 形式でも保存しておくことをお勧めします。

■読み込み容量の制限について

1 ページの最大読み込み容量は、297×432mm です。定形サイズでは、A3 または 11×17 インチです。

■読み込める原稿の枚数（親展ボックス方式）

親展ボックス方式で、1 回の読み取り操作で読み込める原稿の枚数は、999 ページです。読み込める原稿の枚数は、原稿のサイズや解像度によって変化します。

■スキャナー（USB メモリー保存）について

- スキャナー（USB メモリー保存）機能を利用するには、スキャナーキットと USB メモリーキットが必要です。
- ジョブフロー（スキャン起点、ボックス起点とも）には対応しません。
- USB2.0 対応のメモリーが対象です。

- USB メモリー内のファイル名やディレクトリー名などは、操作パネルに表示されません。
- USB メモリー内のファイルやフォルダーの削除は、本機からはできません。
- アクセス中にUSBメモリーの抜き取りを禁止するため、タッチパネルディスプレイに、USB メモリーの抜き取りを禁止するアイコンが表示されます。USB メモリーを抜き取る場合は、「転送が終了しました」のメッセージを確認してから抜き取ってください。
- スキャナー（USB メモリー保存）の実行中に、USB メモリーの容量オーバーになった場合は、実行中のジョブは中止されます。
- スキャナー（USB メモリー保存）の実行中に、文書プリントはできません。文書プリント中の USB メモリー保存もできません。
- スキャナー（USB メモリー保存）機能の有効 / 無効の設定は、CentreWare Internet Services から、機械管理者モードで設定できます。操作パネルでは設定できません。（初期値は［有効］）
- 操作パネルで、メニュー画面の［スキャナー（USB メモリー保存）］機能を非表示に変更にできます。
- デジタルカメラや Windows 標準のフォーマットツール以外でフォーマットした USB メモリーは、認識できない可能性があります。

■USB メモリー挿入時の画面切り替え機能について

- 本機の電源が入っていないときにUSBメモリーを挿入した状態で、電源を入れた場合は、メニュー画面が表示されます。
- 節電中は、USB メモリー差込口にUSB メモリーを差し込んでも、タッチパネルディスプレイは点灯しません。〈節電〉ボタンを押して節電状態を解除してから、USB メモリーを差し込みなおすか、メニュー画面から利用する機能を選択してください。
- USB メモリーを抜いた場合は、画面は切り替わりません。
- 対応フォーマット以外の USB メモリーを挿入した場合にも画面が切り替わりますが、メニュー選択時にエラーが発生します。
- 市販のメモリーカードリーダーにメディアを挿入していない状態で、本機の USB メモリー差込口に差し込んだ場合にも画面が切り替わります。
- 市販のメモリーカードリーダーをお使いで、本機の USB メモリー差込口に常時差し込んである場合、そのメモリーカードリーダーにメディアを挿入しても、画面は切り替わりません。

■SMB 環境でのネットワーク参照について

- Windows OS を使用している場合に、共有フォルダー以外の共有リソース（共有プリンターなど）が 256 個以上設定されていると、共有フォルダーリストに、共有フォルダー以外の共有リソースが表示されることがあります。
- ネットワーク上のワークグループ名、サーバー名、共有名などを一覧表示すると、辞書順に表示されないことがあります。

■スキャン高圧縮機能について

- 本機能を利用するには、スキャナー機能が必要です。
- 本機能は標準で搭載されていますが、オプションのスキャン機能拡張キットを装着した場合と比べ、処理に時間がかかります。そのため、生産性や処理速度を重視する場合、スキャン機能拡張キットの使用をお勧めします。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

- 本機能を利用した場合、オプションのスキャン機能拡張キットと処理結果が一致しない場合ことがあります。
- 選択可能な解像度は、200dpi および 300dpi です。
- 本機能で出力される高圧縮 DocuWorks 文書をコンピューター上で閲覧・印刷するには、次のどれかのソフトウエアが必要です。
  - DocuWorks 6.0 以降
  - DocuWorks Viewer Light 5.1 以降
  - DocuWorks Viewer Light for Web 5.1 以降

補足
- 「DocuWorks 体験版」は使用できません。弊社公式サイトから「DocuWorks Viewer Light」（無償ソフトウエア）をダウンロードしてご利用ください。

- 高圧縮 PDF ファイルは、Adobe Acrobat 4.0（PDF 1.3）以降で開けます。
- イメージ圧縮機能では、圧縮率を向上するための画像処理の特性上、原稿の色を忠実にスキャンできない場合があります。

■スキャン文書の PKI 暗号化、PKI 署名について

- DocuWorks の電子印鑑（スタンプ）による署名には対応していません。
- Acrobat の「文書の証明（承認）」には対応していません。

■PDF、DocuWorks 文書の PKI 暗号化、PKI 署名について

- PDF の PKI（公開鍵暗号基盤）暗号化機能はありません。また、パスワード暗号には証明書は利用しません。
- DocuWorks および PDF のビューアー側で、失効確認ができないというメッセージが表示され、署名検証エラーになった場合は、ビューアー側で証明書の失効確認の設定を確認してください。

■PDF の電子署名について

- 弊社のセキュリティハンドラ（XERX.FX.PPKMS）は提供されていません。
- 本機が署名した PDF 文書を Adobe 社の Acrobat（Adobe Reader®）で表示した場合、署名確認のハンドラが見つからないというメッセージが表示されることがあります。この場合には、「Windows 電子認証セキュリティ」または「 Adobe デフォルトセキュリティ」を選択してください。
- PDF の電子署名に使う証明書は、「S/MIME」項の証明書の条件を満たす必要があります。

■S/MIME 通信について

スキャナー（メール送信）機能とインターネットファクス機能が S/MIME に対応しています。

■サーチャブル PDF について

- 文字認識（OCR）機能利用時は、［読み取り解像度］で［300dpi］を指定することをお勧めします。
- スキャナー（ボックス保存）の場合、［文字認識（OCR）］を［する］に指定することはできません。
- CentreWare Internet Services を使用して、親展ボックス内の文書を取り出すとき、次の条件を満たしている場合、OCR 処理が可能です。
  - 画像サイズ：15 × 15mm ～ 309 × 432mm

- カラーモード：自動、フルカラー、グレースケール、白黒（お使いの機種によっては、白黒のみ）
- 原稿画質：文字 / 写真、文字（ファクス文書の場合は、全画質）
- 色空間：標準色空間
- 読み取り解像度：200dpi、300dpi（ファクス文書の場合は、全解像度）
- 読み取り倍率：100%（ファクス文書の場合は、全倍率）

■スキャン画像の圧縮形式について

- グレースケール画像 / フルカラー画像を非圧縮（Raw 形式）で取り出すことはできません。
- PDF の JBIG2 圧縮形式に対応しています。

■スキャン文書のプレビューについて

- 以下の場合は、プレビュー画面で画像を回転しても出力結果には反映されません。
  - 出力ファイル形式が TIFF または JPEG の場合
  - 親展ボックスへのスキャンの場合
  - ジョブフローを実行してスキャンする場合
- プレビュー表示で、スキャンイメージが希望と異なる場合は、一度ジョブをキャンセルし、設定し直してから再度スキャンしてください。
- 文書をスキャン中に操作パネルの〈ストップ〉ボタン、またはタッチパネルディスプレイの［ストップ］を押して中止した場合は、プレビュー表示をしても、すべてのスキャン済み文書を表示できないことがあります。

■少数色スキャン（少数色で圧縮する）について

- 本機能は標準で搭載されていますが、オプションのスキャン機能拡張キットを装着した場合と比べ、処理に時間がかかります。そのため、生産性や処理速度を重視する場合、スキャン機能拡張キットの使用をお勧めします。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 本機能を利用した場合、オプションのスキャン機能拡張キットと処理結果が一致しない場合ことがあります。
- 少数色スキャン（PDF/DocuWorks）と高圧縮（PDF/DocuWorks）を同時に利用することはできません。
- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 での文書取り出しには、対応していません。
- カラーモードは、［フルカラー］を選択してください。
- この機能は、カラーモードを［フルカラー］、解像度を［200dpi］または［300dpi］、出力ファイル形式を［PDF］または［DocuWorks］に設定した場合に利用できます。
- 少数色の色数は変更できません（上限は 16 色）。
- 少数色を選択した場合でもサムネールを付加できますが、サムネール画像はフルカラーになります。
- 少数色スキャンを利用した白黒画像は、通常の白黒 2 値画質と異なる場合があります。
- グラフや写真が混在するような文書や、多くの色を使っている文書には適しません。これらの文書の場合は、高圧縮を使用してください。

■LDAP サーバーからの宛先取得について

- スキャナー（メール送信）で、LDAP サーバーから取得できる宛先は、メール宛先、インターネットファクス宛先、ファクス宛先、IP ファクス（SIP）です。

- ジョブフローでスキャナー（メール送信）する場合に使用できる宛先表は、本体の宛先表だけです。

■Internet Explorer での制限事項

- メールで送信された URL に、Internet Explorer を使用してアクセスすると、ファイルダウンロードのポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウが表示されてから 3 分以内にダウンロードを開始してください。3 分が経過すると、コンピューター側に不完全なファイルが残ります。
- ［出力ファイル形式］で［DocuWorks］および［1 ページずつ分割する］を選択してスキャナー（URL 送信）をした場合、Internet Explorer の［ツール］>［インターネットオプション］>［セキュリティ］>［レベルのカスタマイズ］>［ダウンロード］>［ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示］が［無効にする］に設定されていると、保存先の URL から正常にファイルを取得できないことがあります。
- Internet Explorer を使用しているときに、スキャナー（URL 送信）の［文書取得］画面中のファイル削除リンク「ファイルを削除する場合はここをクリックしてください」をクリックしても削除できない場合があります。その場合は、ほかのブラウザーを使用して削除してください。

■ファイル分割について

スキャナー（ボックス保存）、ジョブフロー 、BMLinkS ネットワーク保存機能を利用したときは、ファイル分割の指定はできません。

■サムネール表示について

- 次のように、親展ボックスに蓄積保存された文書がサムネールで表示されない場合があります。リスト表示で確認してください。
  - 親展ボックスに保存されているのに、サムネールで表示されない文書がある場合
  - 文字やイメージが正しく表示されない場合（サムネールで表示される画像イメージは、縮小されて表示されるため）
- サムネールで表示される画像イメージの向きは、文書が保存されたときの向きのまま表示されます。
- スキャンした文書を親展ボックスに保存した直後に電源が切れたり、スキャンした文書を親展ボックスに保存し、サムネールを蓄積するときにハードディスクの容量が足りなくなると、親展ボックスに蓄積された文書がサムネールで表示されないことがあります。その場合は、リスト表示で文書を選択してプレビュー表示してください。

■両面同時読み取り時の制限事項

［カラーモード］の［フルカラー］を選択して、［色空間］で［デバイス色空間］を選択した場合、両面同時読み込みはできません。

■スキャナー（PC 保存）の FTP 転送について

- 本機からスキャン画像を FTP 転送する場合の通信モードは、Passive 通信モードです（工場出荷時）。
- FTP の通信モードは、CentreWare Internet Services で切り替えできますが、ジョブ単位、転送先の FTP サーバーごとの切り替えはできません。
- お客様のネットワーク環境によっては、FTP の通信モードを［Passive モード］から［Active モード］に切り替えないと、正しく動作しない場合があります。
- ［受付 IP アドレス制限］を［する］に設定している場合は、FTP の通信モードを必ず［Active モード］に切り替えてください。

［Passive モード］は、接続時にサーバーがクライアントへデータ転送用のポートへの接続を許可し、クライアント側から接続します。［Active モード］よりもセキュリティ上の危険性が少なく、一般的な通信モードです。

［Active モード］は、接続時にクライアントからデータ転送用のポート番号を通知して、サーバー側から接続します。この方法では、第三者によるなりすましなどセキュリティ上の危険性があります。

また、ファイアウォールなどを使った環境では、うまく接続できないことがあります。その場合は、［Passive モード］を選択してください。

■スキャナー（PC 保存）の SMB 転送について

- OS X 10.9 Mavericksを利用する場合は、弊社公式サイトで「OS X 10.9 Mavericks 対応状況」をご確認ください。

■スキャナー（WSD）について

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

- WSD スキャナーポートを起動していない場合、メニュー画面に［スキャナー（WSD）］ボタンは表示されません。本機でスキャナー（WSD）機能を使用するには、WSD スキャナーポートを起動しておく必要があります。
- スキャナー（WSD）機能は、Windows OS に標準で搭載されているスキャナードライバーを使用します。［Windows FAX とスキャン］や、［ペイント］の［カメラまたはスキャナから取り込み］などを使ってスキャン指示ができます。
- スキャナー（WSD）機能を使用する場合は、［次の原稿あり］は表示されません。
- 複数のジョブを同時に処理できません。ジョブの処理中に別のジョブを指示した場合、後から指示したジョブは、受け付けられません。
- スキャナー（WSD）機能を使用する場合は、本機の操作パネルで、読み取り方法の設定を変更できません。Windows 標準のスキャナードライバーを使用して、コンピューターから設定してください。
- 本機で［PC からの指示待ち］を押して、コンピューターからの指示待ち画面を表示しないと、コンピューターから本機を認識できていても、スキャンを開始できません。また、コンピューターからの指示待ち画面が表示されている間は、自動リセットや節電モードへの移行はされません。
- スキャン完了後、原稿を取り出してから［原稿取り出し確認］画面で［確認］を押してください。［確認］を押さないと、次の操作に移れません。
- スキャナー（WSD）機能は、Windows OS に標準で搭載されているスキャナードライバーを使用するため、本機専用のスキャナードライバーと設定項目が異なります。

■Microsoft® Office 形式での出力

- 本機能は、Microsoft®Word ファイル形式（doc）および Microsoft®Excel® ファイル形式（xls）を対象としています。
- 本機能を利用するにはオプションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 本機能は、紙原稿をスキャンして保存後に、変換されたテキストや画像などを適宜編集して再利用することを前提とした、補助機能です。紙原稿上の文字や表、図形、写真を 100% 再現することを保証するものではありません。
- ジョブフロー（スキャン起点、ボックス起点）、CentreWare InternetServices からの親展ボックスに保存されている文書の取り込み、およびネットワークスキャナーユーティリティ 3 からの文書の取り込みでは、本機能を利用できません。

- 次の条件を満たしている場合、Microsoft® Office 形式での出力が可能です。
  - カラーモード：自動、フルカラー、グレースケール

補足
- ［白黒（2 階調）］では本機能を利用できません。［フルカラー］を選択しても、印画紙スキャンは利用できません。
  - 読み取りサイズ：50×50mm ～ 297×432mm
  - 読み取り解像度：300dpi のみ
  - 読み取り倍率：100% のみ

補足
- 自動倍率では本機能を利用できません。

- Mac OS版のMicrosoft® OfficeおよびMicrosoft® Word/Excel® 2000での本機能の利用は保証していません。
- Microsoft® PowerPoint®、XML 形式の Microsoft® Office 文書（Word/Excel®）、Text、HTML、CSV、一太郎の形式には変換できません。
- BMLinkS は対象外です。
- 画像を確認するために、PDF や XDW 形式でも保存しておくことをお勧めします。

ファクス機能使用上の注意 / 制限

■ファクスの手動送信時の設定について

手動送信時の各種設定は、［ファクス機能設定初期値］で設定した値で実行されます。発信動作から通話画面になる前に、ファクス画面で設定を変更した場合には、その設定値で実行されます。

■光回線や IP 電話回線におけるファクス通信について

当社製品は、NTT のアナログ回線規格に準拠しています。お客様が利用している（または、これから利用しようとしている）回線が、光回線や IP 電話回線の場合には、伝送路の回線品質（パケットロス、エコー、遅延など）により、ファクス通信がエラーになることがあります。その場合は、回線事業者にお問い合わせください。

■ファクス通信環境について

ISDN 回線での G4 通信および G3 通信は利用できません。（G4 通信対応の機械は除く。）

■中継同報機能について

本機には、中継指示局の機能はありますが、中継局の機能はありません。

本機は G4 通信に対応していませんが、中継局が G4 通信に対応している場合は、中継同報指示として、中継局が行う G4 通信の機能を選択できます。

（G4 通信対応機械は除く。）

■F コード通信で対応している機能について

F コード通信で対応している機能は、親展送信、親展ポーリング、親展受信、中継同報、リモート中継同報だけです。

■1300Hz 無鳴動受信について

工場出荷時は、ファクシミリ通信網からの着信信号（1300Hz 無鳴動信号）の検知は［しない］に設定されています。現在の契約内容を確認し、必要に応じて［1300Hz 無鳴動受信］を［する］に設定してください。

■ファクス受信時のイミディエト受信について

本機では、ファクス受信時に本機内のメモリー残量が少ないと、自動的にイミディエト受信に切り替わります。イミディエト受信をした場合、1 ページ分の受信を完了した時点で受信文書をプリントしますが、写真のように中間濃度の使用が多く、サイズが A3 などの大きい原稿を受信した場合、1 ページ分の受信が完了してもプリントされない場合があります。このような場合には、〈ストップ〉ボタンを押すか、電源を切り、入れ直すと、受信文書のプリントが開始されます。

■白紙スキップ機能について

使用する原稿によって、白紙かどうかを判定する精度が異なります。たとえば、裏写りする原稿の場合には、白紙の原稿でも白紙として判定されないことがあります。

■ボックスセレクター機能の利用に必要な契約について

NTT が提供している「モデムダイヤルインサービス」、または「発信者番号通知サービス」を利用して、受信ファクスを任意の親展ボックスに振り分けることができます。

ただし、これらのサービスは、NTT との契約（有料）が必要です。

■宛先表登録時のサービス種別の設定

宛先表に登録できるアドレスには複数の種類があります。

ファクス用、IP ファクス（SIP）用、インターネットファクス用、メール用、サーバー（FTP/SMB）保存用

宛先表に登録するときは、使用する機能に合わせて、宛先種別を正しく選択してください。誤った宛先種別で登録されたアドレスは、必要な機能から呼び出すことができませんので、ご注意ください。

■らくらくファクスについて

- ファクスの操作中に、らくらくファクスへの画面切り替えはできません。画面を切り替えるときは、メニュー画面に戻ってください。ただし、メニューに戻ると、設定していた内容はすべて消去されます。
- 誤送信を防止するために、宛先の再入力ができます。
- 同報送信、グループダイヤル、宛先表、ワイルドカードでの短縮宛先指示はできません。

■プリント禁止の設定について

［プリント禁止の設定］で［禁止時間帯を設定する］と［手動で禁止する］の両方が設定されている場合に、本機の電源を切ると、電源を切る前に手動で自動プリントの禁止 / 許可を選択していても、次に電源を入れたとき、手動で選択した禁止 / 許可は取り消され、［禁止時間帯を設定する］の設定が有効となります。

■通信管理レポートについて

- DocuLyzer のカード番号を表示させることができます。
- IC カードの番号は表示できません。
- 旧型の IC カード（IC Card Gate 1.0 for FeliCa / IC Card Gate Pro 1.0 対応）をお使いの場合、カード番号が表示されることがあります。

■ダイレクトファクスについて

- ダイレクトファクス送信をした場合、通信管理レポートやモニターレポート / 未送信レポート、同報レポート、ジョブ履歴レポートには宛先名が表示されます。宛先名ではなく電話番号や SIP URL を表示させたいときは、ドライバー画面の［名前］

ボックスに何も入力しないでください。ただし、この場合、送信シートの［送信先］も空白になります。

- ダイレクトファクスの宛先名が半角･全角あわせて 18 文字を超える場合、ジョブ履歴レポートには 19 文字以降が切り捨てられて表示されます。

■ダイレクトファクスの誤送信抑止機能について

- プロパティ画面の［初期設定］タブで［ファクス宛先の再入力］を［する］に設定しても、短縮宛先番号または宛先表から参照する方法で宛先を指定した場合は、再入力画面が表示されません。
- プロパティ画面の［初期設定］タブで［宛先の指定方法］を［短縮番号のみ］または［宛先表参照のみ］に設定した場合は、ファクス番号を入力する方法で宛先を指定できません。この場合は、短縮宛先番号または宛先表から参照する方法のどちらかで指定します。
- 同報送信時の誤送信を防止するために［同報送信の制限］を［する］に設定した場合、複数の宛先を指定できません。

メール / インターネットファクス機能使用上の注意 / 制限

■メール送信時のご注意

本機の通信確認画面、通信管理レポート、モニターレポートに表示される「送信完了」は、本機に設定したメール送信用の SMTP サーバーまで送信できたことを示します。メール送信では、インターネット網の途中経路の問題により、受信側にメールが到着しない場合があります。このような場合、本機に対しては何も通知がありません。重要な内容を送受信する場合は、電話などによる確認をお勧めします。

■インターネットファクス送信時の機能の組み合わせについて

- ［ファクス / インターネットファクス］画面の［送信画質］

  ［送信オプション］画面の［インターネットファクスプロファイル］で［TIFF-S］を選択しているときは、［超高画質（400dpi）］、［超高画質（600dpi）］は選択できません。

  参照
  - インターネットファクスプロファイルについては、『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」>「送信オプション」>「インターネットファクスプロファイル（インターネットファクスプロファイルを指定する）」を参照してください。

- ［送信オプション］画面の［通信モード］

  ファクスゲートウェイ機能を使って送信するときにだけ通信モードを指定できます。それ以外の場合は、G3 自動で送信されます。

  参照
  - ファクスゲートウェイ機能については、『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」>「インターネットファクスについて」>「便利な機能を使う」>「中継局を介してインターネットファクス を一般のファクスに送信する」を参照してください。

- ［読み取り方法］画面の［読み取りサイズ］

  ［送信オプション］画面の［インターネットファクスプロファイル］で［TIFF-S］を選択しているときは、A4 サイズ以上を指定しても、A4 サイズに縮小されて送信されます。

  参照
  - インターネットファクスプロファイルについては、『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」>「送信オプション」>「インターネットファクスプロファイル（インターネットファクスプロファイルを指定する）」を参照してください。

■インターネットファクスとインターネットファクスダイレクトについて

- 通常のインターネットファクスとインターネットファクスダイレクトは、機械管理者モードで切り替えられます。両方を同時に利用できません。切り替えについては、機械管理者に確認してください。
- インターネットファクスとスキャナー（メール送信）は、両方を同時に利用できます。インターネットファクスダイレクトとスキャナー（メール送信）も同様です。

インターネットファクスダイレクトを使用できる相手機種（ファクス機能搭載機）は、次のとおりです。

- ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N
- DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N
- ApeosPort-V 7080/6080/5080
- DocuCentre-V 7080/6080/5080
- ApeosPort-V C7775/C6675/C5575/C4475/C3375/C2275
- DocuCentre-V C7775/C6675/C5575/C4475/C3375/C2275
- ApeosPort-V C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-V C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-IV 3060/2060
- DocuColor 1450 GA
- ApeosPort-IV C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-IV C7780/C6680/C5580
- ApeosPort-IV C4430
- DocuCentre-IV C4430
- DocuCentre-IV C2260
- ApeosPort-IV C5570/C4470/C3370/C2270
- DocuCentre-IV C5570/C4470/C3370/C2270
- ApeosPort-IV C5575/C4475/C3375/C2275
- DocuCentre-IV C5575/C4475/C3375/C2275
- ApeosPort-III C4405
- DocuCentre-III C4405
- ApeosPort-III C3305/C2205
- DocuCentre-III C3305/C2205
- ApeosPort-III 4000/3010
- DocuCentre-III 4000/3010
- ApeosPort-III 7000/6000/5000
- DocuCentre-III 7000/6000/5000
- ApeosPort-III C7600/C6500/C5500
- DocuCentre-III C7600/C6500/C5500
- ApeosPort-III C4400
- DocuCentre-III C4400
- ApeosPort-III C3300/C2200
- DocuCentre-III C3300/C2200
- DocuCentre-III 4000/3000
- ApeosPort-II 7000/6000/5000
- DocuCentre-II 7000/6000/5000
- ApeosPort-II C7500/C6500/C5400
- DocuCentre-II C7500/C6500/C5400
- DocuCentre-II 4000/3000
- ApeosPort-II 4000/3000
- DocuCentre-II C4300/C3300/C2200

- ApeosPort-II C4300/C3300/C2200
- ApeosPort C7550 I/C6550 I/C5540 I
- ApeosPort 750 I/650 I/550 I
- ApeosPort C4535 I/C3626 I/C2521 I
- ApeosPort 450 I/350 I
- DocuCentre Color f450/f360/f250
- DocuCentre f285/f235

- ［送信失敗時の再送信］を［する］に設定している場合、インターネットファクスダイレクトで送信後に再送信待ちの状態になったとき、それ以降のジョブは、待機中のジョブが終了するまで実行されません。
- インターネットファクスでは、［未送信レポート］または［モニターレポート］で、宛先ごとに通信結果を残すことはできません。ただし、インターネットファクスダイレクトでは、残すことができます。

■インターネットファクスプロファイルについて

- インターネットファクスプロファイルを指定するときは

  相手先によって、処理できるインターネットファクスプロファイルが異なります。インターネットファクスプロファイルを指定する場合は、相手先で処理できるインターネットファクスプロファイルを確認してください。

- 対応していないインターネットファクスプロファイルが指定されると

  インターネットファクスプロファイルの指定が異なると、受信側では、受信した画像を表示 / プリントできません。送信側、受信側で共に処理できるインターネットファクスプロファイルを確認して使用してください。

- 受信時に扱える TIFF ファイルとインターネットファクスプロファイル
  - TIFF ファイル形式：TIFF-FX（RFC2301）
  - インターネットファクスプロファイル：TIFF-S、TIFF-F、TIFF-J、TIFF-C

  対応していないインターネットファクスプロファイルを受信した場合は、ファイルをプリントできないことがあります。また、TIFF-C を受信すると白黒でプリントされます。

  補足
  - image/tiff-fx は、CIAJ（情報通信ネットワーク産業協会）で使用上の問題がないことを確認しています。

- 同報送信時の送信条件について
  - 同報送信をする場合、インターネットファクス送信をする相手先と、通常のファクス送信をする相手先を混在させることもできます。この場合、インターネットファクスで送信する相手先にはメールが、通常のファクス送信をする相手先にはファクスが送信されます。
  - 同報送信する相手先ごとの送信条件が異なるときは、すべての宛先を次の設定にして送信します。
  - 送信モード：G3 自動
  - インターネットファクスプロファイル：TIFF-S
  - 開封 / 配送確認：なし

■メール転送について

ファクス受信した画像が JBIG 圧縮形式の場合で、転送先のインターネットファクスプロファイルを TIFF-F に設定したときは、MH 圧縮方式に変換して転送します。
また、インターネットファクスプロファイルが TIFF-S の場合、サイズと解像度はそのままの設定で転送されます。

■インターネットファクスでの S/MIME 通信について（ApeosPort シリーズのみ）

親展ボックスを指定したインターネットファクスの受信や、インターネットファクス受信したメールのファクス転送では、メールアドレスが特殊なため、S/MIME の暗号化はできません。

■S/MIME の非信頼メール受信の設定について

機械管理者モードで、［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］>［S/MIME 設定］の［信頼できないメール］や［信頼できないインターネットファクス］を［受信しない］に設定すると、［開封確認（MDN）機能の使用］を［許可］に設定しても、確認結果を受信することはできません。

■ファクスゲートウェイ機能について

この機能は、ファクス送信をするインターネットファクス対応機のメール受信方法が SMTP の場合にだけ使用できます。

メールをファクス文書に変換して送信する場合、相手先に正常に送信できなかったときは、受信した元のメールは削除されます。

参照

- ファクスゲートウェイ機能については、『ユーザーズガイド』の「4 ファクス」>「インターネットファクスについて」>「便利な機能を使う」>「中継局を介してインターネットファクス を一般のファクスに送信する」を参照してください。

■インターネットファクス受信時の用紙選択制限について

本機は、メール受信時に添付されている TIFF ファイルが、RFC2301 および RFC3250 に記載された content-type で示されているか判断します。前記仕様と判断した場合は、ファクス受信としてイメージを再現するための用紙選択を行います。

インターネットファクスからの受信であっても、不一致と判断した場合は、用紙選択が正しく行われません。たとえば、送信側が A4 を送っている場合に、B4 にプリントされる現象が発生します。

使用条件によっては改善する場合がありますので、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。

■宛先グループを指定した場合の送信画質

インターネットファクスで宛先グループを指定した場合、グループに登録されている短縮宛先番号の［送信画質］は無視されます。送信時の［ファクス / インターネットファクス］画面の［送信画質］の設定に従って送信されます。

■メールサーバーの制限について

システム環境（メールサーバーの制限など）によって、大きなサイズの電子メールを送受信できない場合があります。送信メールの分割サイズを設定するときは、送信側、受信側のシステム環境をそれぞれ確認してください。

送信メールを分割しても 1 ページ分のサイズが大きい場合は、送信画質や原稿の画質を変更してサイズを小さくしてください。

■ネットワークでの機密保持について

ネットワークでの機密保持については保証できません。

■メールのシステム環境の整備について

メールの送受信には、メールのシステム環境が整備されている必要があります。必要に応じて、SMTP、POP3、DNS サーバーなどの環境を整備してください。

■セキュリティーに関するご注意

メールは、世界中のコンピューターとつながったインターネットを伝送経路として使用します。このため、一般的にインターネットで送信される電子メールなどの信号と同様に、第三者に盗み見られたり、改ざんされたりすることがないよう、セキュリティーに関して注意が必要です。

したがって、重要情報に関しては、セキュリティーが確保されているほかの方法を利用されることをお勧めします。また、不要メールの受信を防止するため、メールアドレスを、不用意に第三者に開示しないことをお勧めします。

■不要メールの受信防止について

本機には、メールアドレスを知る外部の第三者から使用者のメールアドレス宛に送信される迷惑メールを防止する機能があります。

この機能は、受信を許可するドメインを指定することによって、送信元のアドレスを制限できます。

参照

- 送受信ドメインの制限については、「送受信ドメインの制限」(P.247) 参照してください。

■メール受信時のご注意

送られてくるメールのデータによっては、メモリーが不足し、プリントできない場合があります。その場合はメモリーを増設するか、送信元に解像度を下げて送信するよう依頼してください。

■[データサイズ単位で分割] を指定したときのメール受信時のご注意

メールの分割方式を［データサイズ単位で分割］にした場合、デバイスで分割メールを受信しても復元して印刷することはできません。

■[データサイズ単位で分割] を指定したときのメール送信先に関するご注意

［データサイズ単位で分割］を指定した場合、Message Partial 規格に対応したメールソフトでメール受信を行うようにしてください。

■機能別カウンターレポートについて

ビルドジョブ機能を使用して、設定の異なる複数の［まとめて 1 枚（N アップ)］を指定した場合、最後に指定した［まとめて 1 枚（N アップ)］の設定に従って、機能別カウンターレポートに表示される［2 アップ]、［2 アップ以外］のページ数が計算されます。

例 1)

原稿 1（4 ページ）を［2 枚→ 1 枚（2 アップ)］出力、原稿 2（2 ページ）を［しない］と設定してコピーした場合、原稿 1、2 ともに［しない］として、次のようにページ数が計算されます。

- 総ページ数：4
- 2 アップ：0

例 2)

原稿 1（4 ページ）を［しない] 出力、原稿 2（2 ページ）を［2 枚→ 1 枚（2 アップ)］と設定してコピーした場合、原稿 1 、2 ともに［2 枚→ 1 枚（2 アップ)］として、次のようにページ数が計算されます。

- 総ページ数：5
- 2 アップ：5

また、DocuLyzer、および ApeosWare Management Suite で集計される、2in1、4in1、8in1 のページ数も上記の例と同様にページ数を計算します。

なお、［メーター確認］画面のメーターは、［まとめて 1 枚（N アップ）］の設定にかかわらず、プリントされたページ数が正しく計算されます。

■親展ボックスのパスワードについて

- IP ファクス（SIP）では、親展通信時に、宛先で親展ボックスのパスワードを指定する必要がありません。そのため、宛先に「¥」または「/」で囲んで親展ボックスのパスワードを指定しても、一般のファクスのように「*」で置き換えません。一般のファクスやインターネットファクスをする際、誤って、ファクスの種別を IP ファクス（SIP）にし、宛先に親展ボックスのパスワードを指定すると、操作パネル、ジョブ確認、レポートで、パスワードがそのまま表示されます。親展通信をする場合は、ファクスの種別を確認のうえ、行ってください。

補足

- image/tiff-fx は、CIAJ（情報通信ネットワーク産業協会）で使用上の問題がないことを確認しています。

IP ファクス（SIP）の注意 / 制限

IP ファクス（SIP）についての注意 / 制限事項は、次のとおりです。

■IP ファクス（SIP）機能について

- インターネットへの接続はできません。
- IP ファクス（SIP）では、呼接続に SIP、データ通信には T.38 を使用しています。H.323 方式での通信や、みなし音声方式での通信など、その他の IP ファクス通信プロトコルはサポートしていません。
- SSL/TLS 通信では動作しません。
- IP ファクス（SIP）では、本機と SIP サーバーとの間で認証を行います。その認証では、ダイジェスト認証だけをサポートしています。NTLM やその他の認証方式はサポートしていません。
- IP ファクス（SIP）の同時接続数は 1 つです。同時に IP ファクス（SIP）の送受信はできません。ファクス / インターネットファクスとの同時通信は可能です。
- 利用できる SIP サーバーは、レジストラーサーバー、プロキシサーバー、それぞれ 2 台までです。
- SIP サーバーの IP アドレスは、DHCP または DHCPv6 を使用して取得できます（DHCP、DHCPv6 サーバーのオプション番号 120 に SIP サーバーの IP アドレスを設定しておく必要があります）。ただし、次のような注意事項があります。
  - IP アドレスを IPv4 環境で DHCP から自動取得する場合は、［IPv4 - IP アドレス取得方法］を［DHCP から設定］または［DHCP/AutoIP から取得］に設定してください。
  - IP アドレスを DHCP または DHCPv6 から自動取得する場合でも、ポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、サーバー種別は自動取得できません。これらの項目は手動で設定してください。
  - IP アドレスを自動取得した場合は、プロキシサーバーとレジストラーサーバーの両方に同じ自動取得した IP アドレスが設定されます。プロキシサーバーとレジストラーサーバーで異なるアドレスを使用したい場合は、手動で設定してください。
  - 複数のアドレスを自動取得した場合は、1 番めのアドレスをプライマリーのプロキシ / レジストラーサーバーに、2 番めのアドレスをセカンダリーのプロキシ / レジストラーサーバーにそれぞれ設定します。3 番め以降のアドレスは使用されません。

- QoS 制御の方法として ToS（IP Precedence/DSCP）だけをサポートしています。CoS やその他の QoS 制御はサポートしていません。本機では、［IP パケット送信の優先度］で、IP パケットの送信優先度を設定し、QoS 制御を行います。

■通信できる相手機について

- IP ファクス（SIP）機の通信は、イントラネット内に設置された弊社、および株式会社リコーの SIP 対応ファクス搭載複合機間で交信性を確認しています。対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 他社製品との T.38 通信は保証していません。

■SIP サーバーについて

- SIP サーバーは、弊社の推奨品をお使いください。（推奨品以外を使用した場合、通信エラーが発生する可能性があります。）詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 動作を確認している SIP サーバーは、Cisco 社製：MCS7816H3（Cisco Unified Communications Manager　6.1 が動作していること）です。
- Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、T.38 プロトコルとして使用できるのは UDP だけです。
- IPsec 通信では動作しません。
- IPv6 環境では動作しません。
- Cisco 社製 CISCO2801 などで動作する SRST には対応していません。
- Cisco社製CISCO2801などで動作するCisco Call Manager Expressには対応していません。
- Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、本機に設定する［SIP 本体アドレス］では、@ 以降は SIP サーバーの IPv4 アドレス文字列だけが指定できます。IPv6 アドレス文字列、FQDN 文字列、および SIP ドメイン名文字列を指定した場合は、動作しません。
- SIP サーバー上で、本機の SIP 端末として設定した際に、弊社指定以外の設定がされた場合は動作しません。
- Cisco 社製 SIP サーバーでは、アドレス登録を保持する時間は固定（120 秒）です。Timer Register Expires 値を変更しても反映されません（120 秒のままです）。

■VoIP ゲートウェイについて

- VoIP ゲートウェイは、弊社の推奨品をお使いください。（推奨品以外を使用した場合、通信エラーが発生する可能性があります。）詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 動作を確認している VoIP ゲートウェイは、Cisco 社製：CISCO2801-V/K9（IOS 12.4）です。
- お客様の環境によっては、アナログ回線では正しく動作しない場合があります。
- 動作を確認しているデジタル回線は、「INS ネット 64」です。
- Cisco社製のVoIPゲートウェイを使用する場合、T.38プロトコルとして使用できるのは UDP だけです。
- IPsec 通信では動作しません。
- IPv6 環境では動作しません。
- VoIP ゲートウェイ上のダイヤルピア、または Voice Port に弊社指定以外の設定がされた場合は、動作しません。

- ネットワーク上で転送データの一部が失われた場合、画像の一部が欠けたり、詰まったりすることがあります。このような現象を防ぐには、ECM モードが有効です。本機では、いつでも ECM モードを使用できますが、VoIP ゲートウェイの設定によっては、ECM モードを使用できないことがあります。ECM モードが使用可能かどうかをネットワーク管理者に確認してください。

■NAT/NAPT について

- UPnP、TURN、STUN、ICE、UDP ホールパンチングなどの SIP 通信での NAT/NAPT を透過させる通信プロトコルには対応していません。ALG も含め、NAT/NAPT 機器を使用した環境では動作しません。

次世代ネットワーク（NGN）の注意 / 制限

次世代ネットワーク（NGN）についての注意 / 制限事項は、次のとおりです。

■次世代ネットワーク（NGN）を利用した IP ファクス（SIP）機能と設定について

- 次世代ネットワーク（NGN）利用時、［SIP 本体アドレス］は自動取得され、ユーザーによる変更はできません。また、［SIP サーバーの使用］は、［する］に設定されます。
- IPv6 には対応していません。IP 動作モードでは［IPv4 モード］または［デュアルスタック］を選択してください。
- IP アドレスの取得方法は、［DHCP/AutoIP から取得］または［DHCP から取得］を選択してください。
- G3 で自動再送信した場合の通信費は、従来の公衆電話網の料金となります。
- G3 通信で自動再送信した場合、通信管理 / モニターレポートには「正常終了（G3）」のログだけが記載されます。
- 送信相手に IP ファクス（SIP）機能がなく、G3 通信が利用できる場合、自動的に G3 通信で再送信できます。［ファクスによる自動再送信］を［する］に設定してください。
- リダイヤルを 0 回に設定すると、G3 ファクス機への自動再送信は動作しません（初期値は 5 回です）。
- 送信相手がひかり電話付加サービスの「ダブルチャネル」を契約して、ひかり対応ゲートウェイに同一の着信番号で IP ファクスと G3 ファクスを接続している場合、送信相手の IP ファクスが通信中に、IP ファクスを送信すると、送信に失敗したままになります。IP ファクスへの送信が失敗した場合は、自動的に G3 ファクスへ再送信できるように、［ファクスによる自動再送信］を［する］に設定してください。

■通信できる相手機について

- NGN 通信ができる対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。送信相手が NGN 通信に対応していない場合は、G3 ファクス通信することもできます。

インターネットサービスプロバイダーに接続する場合の注意 / 制限

本機で、インターネットサービスプロバイダー（以下、ISP とします。）に接続し、メールまたはインターネットファクスに関連する機能を利用する場合に必要な情報について説明します。

本機のメールに関連する機能は、次のとおりです。

- スキャナー（メール送信）
- メール通知サービス

- メールプリント
- インターネットファクス

■ISP 接続に関する注意 / 制限事項

本機を ISP に接続する場合、次のような注意 / 制限事項があります。

- ダイアルアップ接続はサポート対象外です。常時接続がサポートの前提になります。
- 本機は、IP マスカレードを使用した環境で接続してください。本機へグローバル IP アドレスを割り当てて接続する場合は、サポート対象外となります。
- POP 受信を行う場合には、必ず専用のメールアカウントの申請を行ってください。他のユーザーとの共用を行うとトラブルの原因になります。
- メール送信時には、必ず送信サイズ制限の設定を行ってください。適用可能なサイズは ISP によって異なりますが、小さめの値の設定をお勧めします。
- ADSL やケーブル接続でない常時接続も可能ですが、画像データの送受信は非常に負荷がかかります。
- SMTP 受信はサポート対象外です。本機の運用は POP 受信だけになります。
- プライベートセグメントに、MTA（Mail Transfer Agent）を立てて運用している環境で設置する場合は、運用形態に合わせてください。
- 動作を保証している ISP については、弊社営業にお問い合わせください。
- POP 受信を行った場合、ファクスゲートウェイ機能を使用したファクス送信はできません。POP 受信の場合、メールで受信したインターネットファクス文書をファクス機へ転送する処理が行えないためです。

■機能詳細

メール関連機能の詳細は、次のとおりです。

- 送信機能

  対応プロトコル：SMTP

  ポート番号：25（初期値）

- 送信時認証機能

  SMTP 認証機能：AUTH GSSAPI（Kerberos 指定時のみ）、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTH LOGIN、AUTH CRAM-MD5 に対応

  POP before SMTP：Plain と APOP に対応

  POP 認証後の待ち時間：変更できません。

  暗号化通信（SSL）：対応しています。

- 受信機能

  対応プロトコル：POP3

  POP3 ポート番号：110（初期値）

  POP3 の認証方式：Plain と APOP に対応

  POP3 受信後のメール処理：受信後は必ず、受信したメールをサーバーから削除します。サーバーにメールを残すように設定することはできません。

  通信路の暗号化（SSL）：対応していません。

補足

- IMAP4 には対応していません。

■IP アドレスの設定

本機は、グローバル IP アドレスでの運用は保証していません。必ず IP マスカレードを使用した環境でご利用ください。

- 固定アドレスで運用する場合

  お使いのルーター、またはドメイン管理サーバーなどのIPアドレスを管理するサーバーに、本機で使う IP アドレスを登録します。

- DHCP で運用する場合

  設定は特に不要ですが、ルーターや DHCP サーバーの設定によっては登録が必要になる場合があります。お使いのルーターや DHCP サーバーの運用ルールをご確認ください。特に、MAC アドレスによる利用制限を行っている場合には、DHCP サーバー側への登録が必要になることがあります。

■操作パネルからの設定

スキャナー（メール送信）を利用する場合は、本機の操作パネルから、メール送信の上限データサイズを設定してください。上限値は、ISP のガイドラインを参照してください。推奨値は 1MB または 2MB です。

設定は機械管理者モードに入り、［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［メール / インターネットファクス設定］を選択し、［メール送信動作制御］の［合計データサイズ上限］で行います。

参照

- 設定方法は、「合計データサイズ上限」（P.286）を参照してください。

画像のサイズは次のサイズを目安にしてください。

- A4 白黒 200dpi （文字原稿）：約 25KB
- A4 白黒 200dpi （文字写真混在原稿）：約 200KB

補足

- 上記サイズはメール送信時のサイズです。実際のファイルサイズとは異なります。

■CentreWare Internet Services からの設定

参照

- CentreWare Internet Services から行う設定については、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示される、ヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。
- ISP に接続する場合、［POP3 サーバー確認間隔］は 10 分以上に設定してください。

割り込み時の注意 / 制限

出力中に〈割り込み〉ボタンを押すと、出力を一時中断して割り込み状態に入ります。

補足

- 出力中であっても、読み込み中のジョブがある場合は、割り込みできません。

割り込み中に実行できる / できないジョブは、次のとおりです。

ジョブ		操作パネルからの指示 *1	ジョブの実行
コピー		あり	○
プリント	クライアントから指示した文書 *2 のプリント	あり *3	○
	操作パネルの［ジョブ確認］>［保存文書］から指示した文書 *4 のプリント	あり	○
ファクス	ファクス送信、同報送信	あり	○
	ファクスポーリング予約	あり	○
	ファクス受信プリント	あり *3	○
	ポーリング予約ボックス（操作パネルの〈ジョブ確認〉ボタン>［保存文書］）の文書のプリント	あり	○
ダイレクトファクス	ダイレクトファクス送信	なし	△
インターネットファクス	インターネットファクス送信	あり	○
	インターネットファクス受信プリント	あり *3	○
	インターネットファクス受信、インターネットファクス親展受信	なし	△
	インターネットファクス受信文書を一般ファクス機に転送	なし	△
	ファクス受信文書をインターネットファクス転送	なし	×
スキャン	ボックス保存、PC 保存、メール送信、URL 送信、USB メモリー保存	あり	○
レポート / リスト	ジョブ履歴レポート以外の自動プリント	なし	×
	ジョブ履歴レポートの自動プリント	なし	○
	操作パネルの〈機械確認（メーター確認）〉ボタン>［レポート / リストの出力］から指示したレポート / リストのプリント	あり	○
親展ボックス	蓄積文書の自動ファイル転送、自動ファクス / インターネットファクス送信	なし	×
	蓄積文書（ファクス親展ポーリング予約文書 / ファクス親展受信文書 / インターネットファクス親展受信文書）の操作パネルから指示したプリント	あり	○
	蓄積文書（スキャン文書 / プリント文書）の操作パネルから指示したプリント	あり	×
	蓄積文書の自動プリント	あり *3	○

ジョブフロー	操作パネルの［ボックス操作］または［ジョブフロー］から指示したジョブフローの実行	あり	○

○ 割り込み操作中に実行できる
× 割り込み操作中に実行できない
△ クライアントまたはほかのマシンからの要求は受け付けるが、割り込み操作中は実行しない
*1 ジョブを実行するために、本機のタッチパネルディプスレイからの指示あり / なし
*2 通常プリント、サンプルプリントの最初の 1 部、時刻指定プリント（自動プリント）
*3 割り込み時に、［ジョブ確認］画面の実行待ちジョブに表示されている文書は、［優先］を押すことによってプリントできます。なお、割り込み中に優先プリントを指示した場合、指示したジョブのプリントが終了するまで、次の優先プリントの指示はできません。
*4 セキュリティープリント、プライベートプリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、認証プリント

補足

- 次のジョブは、割り込み操作とは関係なく実行されます。
  - ファクス自動送信（親展送信）
  - ファクス受信

親展ボックスの注意 / 制限

■スキャン文書のプリントについて

親展ボックス内の次のような文書をプリントする場合、1 ページめが排出されるまでに時間がかかることがあります。

- 複数ページものの文書
- カラーや高解像度で保存された文書

■CentreWare Internet Services からの文書取り出しについて

- 親展ボックス内の文書を取り出す場合、DocuWorks、PDF のファイル形式で取り出すことはできますが、取り出すときに DocuWorks、PDF ファイルを暗号化、または署名することはできません。
- 親展ボックス内の文書をPDFファイル形式で取り出すときに、Web表示用に最適化することはできません。

■ボックスに親展受信したファクス文書のメール送信、FTP 送信、SMB 送信について

- ApeosPort シリーズをお使いの場合、本機能を利用するには、ファクスキット 2 または IP ファクス（SIP）キットのどちらかが必要です。
- DocuCentre シリーズをお使いの場合、本機能を利用するには、スキャナーキットに加え、ファクスキット 2 または IP ファクス（SIP）キットのどちらかが必要です。
- DocuCentre シリーズをお使いの場合、本機能を使用するジョブフローを［ジョブフロー］画面から選択して実行することはできません。

■親展ボックスビューワー 3 でのドラッグ＆ドロップ文書取り出しについて

- ドラッグ＆ドロップによって取り出された文書は、コピー操作となるため、ドロップした文書は親展ボックス内に残ります。親展ボックス内の文書を削除するには、ツールバーの［削除］ボタンをクリックします。
- ドラッグ＆ドロップでは、文書の一時保存先のパス名が 107 文字以上の場合、文書の取り出しができません。

  パス名の初期値は、次のとおりです。

  ユーザー名が 39 文字以上の場合、107 文字を超えることがあります。

- Windows 7 の場合
  <SYSTEMDRIVE>￥Users￥ユーザー名￥Documents￥Fuji Xerox￥Network Scan3

文書の一時保存先は、［ファイル］メニュー>［詳細設定］>「その他の設定」タブ>「文書の一時保存先」で変更できます。

インターネット / イントラネット接続の注意 / 制限

■イントラネット / インターネット接続について

接続先の Web サーバーや、使用しているサーバーアプリケーション、プロキシサーバー、ファイアウォールの種類によっては、イントラネットやインターネットに接続できないことがあります。

他社から提供されているサーバーアプリケーションソフトウエア、プロキシ、ファイアウォールを使用して、イントラネット / インターネットに接続する場合は、次の条件が必要です。

- 本機でサポートしている Windows OS 上で動作していること

参照
- 対応 OS について詳しくは、「主な仕様」(P.736) を参照してください。

- 次の条件に準拠していること
  - RFC2616: Hypertext Transfer Protocol HTTP/1.1
    (通常接続 /SSL 接続 /Proxy 認証)
  - RFC2617: HTTP Authentication: Basic and Digest Access Authentication
    (Basic 認証だけサポート、その他の認証はサポートしない)
  - RFC2817: Upgrading to TLS Within HTTP/1.1
  - RFC2818: HTTP Over TLS
- HTTP/HTTPS スキームに対応していること
- GET/CONNECT/POST メソッドに対応していること

コンピューターから操作する場合の注意 / 制限

■対象 OS について

Windows OS のドライバーに関しては、注意・制限事項があります。弊社公式サイトのダウンロードページで、「重要なお知らせ」を確認してからご使用ください。

参照
- 対応 OS について詳しくは、「主な仕様」(P.736) を参照してください。

■Macintosh について（標準）

Macintosh 環境において、ダイレクトファクス機能、TWAIN スキャナードライバーを使用したスキャナー機能は使用できません。

- Mac OS 用プリンタードライバーは、Plugin ドライバーを採用しているため、認証情報の設定、セキュリティープリントなどが使用できます。

■Macintosh について（Adobe PostScript 3 キット（オプション））

- PostScript で印刷をご希望の方は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）が必要です。

- Mac OS 用のプリンタードライバーは、Plug-in を採用しているため、認証情報の設定、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントなどが使用できます。

■Mac OS X 用プリンタードライバーについて

参照
- 対応 OS について詳しくは、「主な仕様」(P.736) を参照してください。

- ダイレクトファクスには対応していません。
- 画質調整やトナー節約機能はありません。また、用紙サイズ設定や用紙種類の一部だけをサポートしているなど、機能制限があります。プリント機能を十分に利用される場合は、Adobe PostScript 3 キット（オプション）を追加してください。

■Mac OS からのダイレクトファクスについて

- サイズが混在した原稿のファクス送信はサポートしていません。
- 向きが混在した原稿をファクス送信した場合、アプリケーションによってはページの向きごとに独立したファクスジョブとして送信される場合があります。
- 表紙を付けたファクス送信には対応していません。
- Mac OS で提供している機能を利用して表紙を付けた場合、表紙のみがファクス送信されます。複数部数を指定した場合も、1 部しかファクス送信されません。
- 丁合い機能は利用できません。

■CentreWare Internet Services について

- CentreWare Internet Services の［CSRF 対策］を有効にすると、お使いの Web ブラウザーや、Web　ブラウザーの利用状況、ネットワーク環境によっては、CentreWare Internet Services にアクセスできなくなることがあります。その場合は、アクセス可能なコンピューターからアクセスしてください。［CSRF 対策］を無効にする場合は、機械管理者にお問い合わせください。アクセス可能なコンピューターがない場合は、カストマーエンジニアにお問い合わせください。CSRF とは、悪意のある Web サイトが、そこにアクセスしてきたコンピューターを介して、ほかの Web サイト上で操作を実行させる攻撃手法のことです。本機能は、お客様が悪意のあるWebサイトにアクセスしてしまった際に、CentreWare Internet Services へ意図しない操作が実行され、本機の設定等が変更されることを防ぐための機能です。
- CentreWare Internet Services を使用して取り出した CSV フォーマットのファイル（宛先表のデータ）は Excel などのソフトウエアを使用して編集 / 変更しないでください。取り出した機種によっては、登録時に警告メッセージが表示されずに本機に登録できてしまい、その結果、既存データが損なわれたり、改変されたデータによって意図しない送信先にファクスが送信されてしまうおそれがあります。
- CentreWare Internet Services の［宛先表］タブで［データのインポート］をした場合、取り込んだ宛先は本機に追加登録されます。上書き登録する場合は、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- CentreWare Internet Services の［宛先表］タブの［データのインポート］で登録できる宛先表は、［宛先表］タブの［データのエクスポート］で取りだした宛先のみです。
- 本機で認証機能を使用している場合、User ID に英数文字以外が設定されていると、CentreWare Internet Services を使用できません。

ジョブフローの注意 / 制限

■ジョブフローについて（ApeosPort シリーズのみ）

- ファクスまたはインターネットファクス文書を、SMB、FTP、またはメールで転送する場合、定形サイズ（A4、A3 など）に変換して出力されます。
- 次の設定でジョブフローを行った場合は、干渉縞（モアレ）が発生する可能性があります。
  - 原稿の画質：［文字 / 写真］、［写真］
  - 読み取り解像度：［400dpi］、［600dpi］
  - インターネットファクス送信のインターネットファクスプロファイル：［TIFF-S］
- 干渉縞（モアレ）が発生する場合は、次の設定に変更してください。
  - 読み取り解像度：［200dpi］、［300dpi］
  - インターネットファクス送信のインターネットファクスプロファイル：［TIFF-F］、［TIFF-J］

■外部アクセス機能について（ApeosPort シリーズのみ）

- 外部サーバーに格納してあるファイルをプリントする場合には、次の条件や制限があります。
  - ［排出先］の指定はできますが、ホチキスやパンチなどの指定はできません。
  - ［まとめて 1 枚（N アップ）］の機能は、PDF ファイルをプリントする場合だけ使用できます。
  - 本機と外部サーバーとの通信には、HTTP または HTTPS が使用できます。
  - プリント可能なファイル形式は、［TIFF］、［PDF］、［XPS］、［DocuWorks］です。
  - 印刷データは、本機のハードディスクに一度スプールされたあとに、ジョブとしてプリントを開始します。したがって、ハードディスクへのスプール中は、ジョブとしては認識されません。
  - セキュリティープリントは使用できません。
  - ［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］で［プリント起動］が［する］に設定されているときでも、プリントできます。
  - ジョブ確認の画面表示は、「外部アクセスプリント」になります。
  - 印刷データのスプール中は、〈データ〉ランプは点灯しません。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■ジョブフローの高圧縮対応について

- スキャン機能の［出力ファイル形式］の［高圧縮（MRC）］を［する］に設定する場合は、次のように設定してください。
  - カラーモード：［自動］、［フルカラー］、［グレースケール（256 階調）］
  - 読み取り解像度：［200dpi］、［300dpi］
  - 読み取り倍率：［100%］
  - 出力ファイル形式（サムネール指定なし）：［PDF］、［DocuWorks］、［XPS］
  - 出力ファイル形式（サムネール指定あり）：［DocuWorks］、［XPS］

注記
- 上記以外の設定の場合には、高圧縮設定が解除されてジョブフローが実行されます。ただし、PDF でサムネール指定した場合には、サムネール指定の解除のみ実行されます。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■ジョブフローの宛先について

本機でジョブフローを作成するとき、宛先表に登録された短縮番号や宛先で指定した場合、ジョブフロー作成後に、宛先表の短縮番号や宛先を変更しても、ジョブフローに変更内容は反映されず、変更前の宛先に送られます。変更後の宛先に送りたい場合は、ジョブフローの宛先も変更してください。

セキュリティー機能使用上の注意 / 制限

■暗号化通信について

HTTP の通信を暗号化することによって、IPP でプリントするときに通信データを暗号化（SSL 暗号化通信）できます。ここで暗号化されるのは、ネットワーク上だけです。送信されるデータ自体を暗号化するわけではありません。

■ペーパーセキュリティキット（オプション）について

- ペーパーセキュリティーキットを装着し、[ペーパーセキュリティーの検出] を [する] に設定している場合、スキャン機能を次の読み取り設定にしたときは、原稿読み取り速度が遅くなります。
  - カラーモード：[白黒（2 階調）]
  - 読み取り解像度：[200dpi]
  - 両面原稿送り：[両面左右開き]、[両面上下開き]

■強制印字の一時解除について

通常のプリントは一時解除の対象外です。コピー、セキュリティープリント、プライベートプリント、ボックスプリント、文書プリントなど、機械にジョブを蓄積し、操作パネルから出力指示するジョブが一時解除の対象となります。

認証 / 集計管理機能使用上の注意 / 制限

■外部認証について（ApeosPort シリーズのみ）

- Kerberos サーバーを利用してプリントまたはダイレクトファクスをする場合、本機で認証中のユーザー情報で Kerberos サーバーに認証しようとすると認証エラーになります。
- 外部認証に変更する場合、または外部認証からほかの認証モードに変更する場合、本機に登録されたユーザー情報、個人の親展ボックス、およびジョブフローが削除されます。
- ApeosWare Management Suite は、認証ユーザーの証明書をサーバーから自動で取得する機能には対応していません。

■デバイス証明書取得ユーティリティ2 for Apeosについて（ApeosPortシリーズのみ）

- デバイス証明書取得ユーティリティ2 for Apeos を利用する場合、機械の IP アドレスは、固定アドレスで運用してください。DHCP は使用できません。また、本証明書をインポートする機械のメールアドレスが設定されていない場合は、S/MIME メールは使用できません。
- デバイス証明書取得ユーティリティ2 for Apeos をインポートし、S/MIME 通信または HTTP 通信の暗号化機能を使用している環境で、本機のソフトウエア（Controller ROM）をバージョンアップした場合、証明書が消える可能性があります。証明書が消えた場合は、デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos を使用して、証明書を本機にインポートし直してください。最後にインポートされた証明書が自動的に有効になります。

- 次のような場合で、証明書を継続して利用するには、デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos の再発行が必要になります。
  - 機械側のメールアドレスが変更になった場合
  - 機械側の IP アドレスが変更になった場合
  - 証明書の利用目的が変更（追加を含む）になった場合
  - 機械から証明書が消失、および証明書のバックアップファイルを紛失した場合
  - 証明書の有効期限が切れた場合
- デバイス証明書取得ユーティリティ 2 for Apeos の有効期限は 3 年間です。継続して利用する場合は、有効期限前に更新が必要です。なお、更新・再発行した新しい証明書を取得後、古い証明書（有効期限が切れていない証明書）で S/MIME メールを受信した場合、新しい証明書をインポートした機械では、暗号化されたデータを復元できずにエラーになります。証明書の更新・再発行を実施したあとは、S/MIME メール送信側に、古い証明書を使用して送信しないこと、および、新しい証明書をインポートすることを知らせてください。

■外部認証と ApeosWare Management Suite について

ApeosWare Management Suite が使用できる外部認証サーバーは、Active Directory だけです。枚数制限はできません。

■IC カードを利用した外部認証について

- 外部認証は、「ApeosWare Management Suite」、「Active Directory」、「ApeosWare Management Suite + Active Directory」の環境で使用できます。
- レルム名には初期値が設定されています。初期値と異なるレルム名を使用する場合だけ、設定を変更してください。

関連商品に関する注意 / 制限

■DocuLyzer と関連商品設置に関する注意 / 制限事項

DocuLyzer と減算型関連商品との連携で使用する場合は、弊社の営業担当者、または販売店にお問い合わせください。

■DocuLyzer 使用時の操作と機能に関する制限事項

- DocuLyzer 使用時は、本機の操作パネルで操作中にカードを抜くと、操作が中断されたことを示すメッセージが表示され、操作中のジョブがキャンセルされます。
- DocuLyzer を減算型で使用する場合、次の制限があります。
  - 読み取った原稿のコピーが終了するまでは、次のコピーの設定または新たな原稿の読み取りはできません。
  - 割り込みはできません。
  - 本体認証は使用できません。認証しないモードに設定してください。
  - カード認証で親展ボックスやジョブフローの個人認証 (個人管理) はできません。

■関連商品装着時のご注意

DocuLyzer NW 経由で、Dispenser 2 または Coinkit 5 を併設する場合は、弊社の営業担当者、または販売店にお問い合わせください。

■Coinkit 8 についての注意 / 制限事項

- 次の場合は、Coinkit 8 での課金ファクス送信ができません。
  - ファクスポートを増設している場合
  - ファクス送信課金用の単価テーブルの設定がない場合

- 「標準画質の単価」が、「高画質の単価」より高い場合
- 単価 × 枚数が、Coinkit 8 の最大投入可能金額（￥15,120）を超えている場合

- 次のファクス機能は使用できません。
  - 手動送受信
  - イミディエト送信
  - ダイレクトファクス送信
  - 親展ボックス文書のファクス送信（ジョブフロー）
  - インターネットファクス受信した文書のファクス転送
  - 短縮ダイヤルからのファクス送信
  - 同報送信、中継局による同報送信
  - 通信管理レポート、未送信レポート、親展受信レポート、同報レポート、集信レポートの自動プリント
  - 未送信文書の再送信
  - 両面白紙スキップ
- ファクス送信中に電源が切れたなどにより、ファクス送信が途中で中断した場合は、再度電源を入れ直しても中断されたファクス送信を再開できません。
- ファクス送信ジョブの動作中に、他の課金対象となるジョブを実行できません。
- 課金対象となるジョブの動作中に、新たなファクス送信ジョブを実行できません。（例：ファクス送信動作中に、新たなファクス送信ジョブを実行できません。）
- リダイヤルはできません。
- 操作パネルに、［オンフック］ボタン、［オフフック］ボタンは表示されません。
- 機械管理者だけが〈ジョブ確認〉ボタン、〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを操作できます。
- ファクス送信中の実行画面を閉じることはできません。
- インターネットファクス送信は、課金できません。
- Coinkit 8 以外の EP 関連商品（EPnet-BOX を除く）と併設することはできません。

SMB の注意 / 制限

SMB の注意 / 制限事項は、次のとおりです。

■本機側の設定

- IP アドレスはシステム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
- ネットワーク環境によっては、サブネットマスクやゲートウェイの設定が必要になります。ネットワーク管理者に相談のうえ、必要な項目を設定してください。

■コンピューター側の設定

- IP アドレスはシステム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
- NIS（Network Information Service）の管理下で使用されているホストで、ネットワーク（IP アドレスなど）の設定を行う場合は、NIS の管理者に相談してください。

■SMB での認証について

認証サーバーを、IP アドレスまたはホスト名で指定して SMB 認証を行うと、ドメイン名は一致しなくても、ユーザー名とパスワードが一致しているだけで、認証に成功します。

TCP/IP の注意 / 制限

TCP/IP（LPD）での注意 / 制限事項は、次のとおりです。

■本機側の設定

- IP アドレスはシステム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
- ネットワーク環境によっては、サブネットマスクやゲートウェイの設定が必要になります。ネットワーク管理者に相談のうえ、必要な項目を設定してください。
- ポート状態を［起動］に設定したとき、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に［停止］に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートを［停止］にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。
- 使用環境に応じて、受信バッファ容量［受信バッファ -LPD］のサイズを設定してください。送信されたデータより、受信バッファ容量［受信バッファ -LPD］のサイズが小さい場合、受信できないことがあります。

■コンピューター側の設定

- IP アドレスはシステム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
- NIS（Network Information Service）の管理下で使用されているホストで、ネットワーク（IP アドレスなど）の設定を行う場合は、NIS の管理者に相談してください。

■電源を切るとき

本機の電源を切るときは、次の点に注意してください。

- ［受信バッファ -LPD］の設定が［メモリースプール］のとき

  プリント中のデータを含め、本機のメモリーにスプールされたプリントデータはすべて削除されます。再び電源を入れたときは、プリントデータはありません。

  ただし、プリント指示の直後に電源を切った場合、プリントデータがコンピューター上に保存されることがあります。この場合、再び電源を入れたときに、新しくプリント指示が行われても、保存されているプリントデータから順にプリントされます。

- ［受信バッファ -LPD］の設定が［ハードディスクスプール］のとき

  プリント中のデータを含め、本機のハードディスクにスプールされたプリントデータはすべて保存されます。再び電源を入れたときに、新しくプリント指示が行われても、保存されているプリントデータから順にプリントされます。

- ［受信バッファ -LPD］の設定が［スプールしない］のとき

  プリント中のデータを含め、本機の受信バッファにスプールされたプリントデータはすべて削除されます。再び電源を入れたときは、プリントデータはありません。

  ただし、プリント指示の直後に電源を切った場合、プリントデータがコンピューター上に保存されることがあります。この場合、再び電源を入れたときに、新しくプリント指示が行われても、保存されているプリントデータから順にプリントされます。

■プリント時

- ［受信バッファ -LPD］の設定が、［ハードディスクスプール］または［メモリースプール］のとき

  プリントデータの受信を開始したときに、プリントデータのサイズがハードディスク、またはメモリーの残り容量より大きい場合、そのプリントデータは受信できません。

補足
- プリントデータが受信容量を超えた場合、コンピューターによってはすぐに再送信することがあります。このときコンピューターが停止したように見えます。対処として、コンピューター側でそのプリントデータの送信を中止してください。

- ［受信バッファ -LPD］の設定が［スプールしない］のとき

  あるコンピューターからプリント要求を受け付けていた場合、別のコンピューターからのプリント要求の受け付けができません。

- コンピューターの IP アドレスやコンピューター名を変更した場合

  コンピューターの IP アドレスやコンピューター名を変更した場合、本機側からの問い合わせ処理や取り消し処理が正常に行われなくなります。本機の受信バッファにプリントデータがない状態で、電源を切って入れ直してください。

補足
- 本機の受信バッファにあるプリントデータのプリント中止/強制排出は、本機の操作パネルから操作できます。操作方法は、『ユーザーズガイド』の「12 ジョブ確認」を参照してください。

Bonjour の注意 / 制限

Bonjour を使用したときの注意制限事項について説明します。

■Bonjour を使用できる環境について

Bonjour は、Mac OS のプリンターセットアップツール（Print Center、Printer Setup Utility）、または Safari を使用している Macintosh コンピューターで使用できます。また、Bonjour のディスカバリー機能は、同一のサブネット内でだけ有効です。

■プリンター名について

- 設定されているプリンター名、またはホスト名を変更すると、指定したプリンターとは別のプリンターからプリントされることがあります。
- プリンター名やホスト名が同一ネットワーク上で重複している場合、片方の名前の最後に数字を付け加えるなどして、名前が重複しないように自動的に変更します。
- プリンター名やホスト名を変更する場合、文字数や使用する文字の種類の制限から、指定した名前と別の名前で登録されることがあります。プリンター名やホスト名は変更しないことをお勧めします。

IPv6 接続の注意 / 制限

IPv6 接続時の注意 / 制限事項は、次のとおりです。

- IPv6 での印刷は、次の環境でだけ動作します。
  - 本機でサポートしている Windows OS
  - Common Unix Printing System が IPv6 対応で印刷可能な Linux distribution
- 以下の機能は、IPv6 に対応していません。IPv4 で運用してください。
  - UPnP Discovery
  - BMLinkS

- FTP Server

- SMBの一部機能には対応していません。(NetBIOS名を使ってサービスを利用しようとした場合に、通信できない環境があります。)
- 機械自体による IPv6 in IPv4 トンネル機能には対応していません。

注記
- 機械の［IP 動作モード］を［IPv6 モード］に設定した場合、IPv6 に未対応の上記サービスは起動されません。

- 同一サブネットに複数のルーターが存在する場合、通信に問題が発生する可能性があります。
- デュアルスタック環境では、DNSサーバーや複合機から利用するサーバーの運用状況により各種サービスを利用する上で、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
- マルチプレフィックス環境（IPv6 グローバルアドレスを複数扱う環境）では、本機から外部ネットワークへの送信に失敗する可能性があります。
- マルチプレフィックス環境（IPv6 グローバルアドレスを複数扱う環境）では、登録されていないアドレスで通信されることがあります。
- 自動設定する IPv6 アドレス（IPv6 自動設定アドレス、IPv6 DNS サーバーアドレス）には、取得した IPv6 アドレスが運用上使用できないアドレスが設定されることがあります。運用上使用できない IPv6 アドレスとは、サイトローカルアドレス（fec0::）や文書作成用アドレス空間（2001:db8::/32）のアドレスのことです。
- IP 動作モードがデュアルスタックで、IPv4/IPv6 ともに DNS 情報が設定されていて、FQDN で指定されている装置と通信するとき、本機の起動直後には、IPv4 の DNS 情報が使用されることがあります。
- 本機の IP アドレスとして表示されるアドレスが変わることがあります。たとえば、デュアルスタックモードで IPv4 アドレスと IPv6 アドレスのどちらか一方が表示されない、IPv6 アドレスの内容が変わるなどです。
- IPv6ネットワークを使用して印刷した場合、ペーパーセキュリティーが正しく動作しません。
- IPv6 環境では、時刻サーバーとの同期はできません。IPv4 環境で時刻サーバーにアドレスを直接指定してください。
- WINS は IPv6 ネットワークでは通信できません。
- SSL 通信に自己生成証明書を使用する場合、プリンターURL の指定方法に、次の制限事項があります。
  - FQDN で指定する場合（IPv4、IPv6 共通）
    自己証明書作成前に、デバイスのホスト名とドメイン名を正しく指定しておく必要があります。
    例：FQDN が csw.ipv6.domain.local の場合、ホスト名に csw、ドメイン名に ipv6.domain.local を指定する
  - IPv4 アドレスで指定する場合
    IPv4 モードまたはデュアルモードで作成した自己証明書をインポートしておく必要があります。
  - IPv6 アドレスで指定する場合
    Secure IPP（IPP-S）で通信ができません。
- 本機で「IPv6 有効」かつ「IPv4 無効」が設定されている場合、スキャナー（PC 保存）の SMB 転送のネットワーク参照機能による格納先指定が使用できません。
- スキャンの FTP 転送時のファイル名には ASCII だけが使用できます。

- 次のような場合、同一機器のアドレスとして判断できないことがあるため、ユーザーが LPD でプリント指示をした印刷ジョブの状態確認（lpq）やキャンセル（lprm）を実施できないことがあります。

  - 同一ホストで IPv4 と IPv6 を同時に動作させている場合
  - 同一ホストで複数の IPv6 アドレスを同時に動作させている場合

- ジョブログに IPv6 アドレスが正しく記載されないことがあります。IPv4 で運用してください。
- SMBを使った検索でルーターを超える場合、宛先のアドレスを直接入力してください。マルチキャストに応答するのは、ローカルリンク内でのマルチキャスト（FF02::1）だけです。
- DNSサーバーが存在しないIPv6ネットワーク環境で、SMB認証のSMBサーバー設定にコンピューター名を指定すると認証に失敗します。認証サーバーのコンピューター名は、IPv6 アドレスを直接指定してください。
- DocuShareなどの外部アクセスサービスで、接続先URLにIPv6アドレスを指定すると正しく動作しません。IPv6 環境では DNS サーバーを運用し、接続先 URL を FQDN で指定してください。

GS1-128（旧 UCC/EAN128）バーコード（コンビニバーコード）出力についての注意 / 制限

本機のプリンタードライバーから［バーコードモード］を［する］を選択してプリントした場合、または操作パネルや CentreWare Internet Services から、PostScript, ESC/P エミュレーションの論理プリンター設定で［バーコードモード］を有効にしてプリントした場合、GS1-128 バーコード出力に適した条件でプリントされます。ご使用にあたっては、以下の事項にご注意ください。

- バーコードの読み取り品質は、お客様の使用される環境、用紙、バーコード生成アプリケーションソフトウエア、バーコードリーダーの性能などにより、大きく左右されるため、本機が正常な状態で印字されたバーコードであっても、バーコードの読み取りが保証されるものではありません。
- 本機能をご使用になる場合、事前に弊社担当営業にお客様の使用環境の検証を依頼することをお勧めします。またバーコードの印字品質を維持するため、本機の定期的な検査をお勧めします。
- バーコードモードを選択している状態で、バーコード以外のデータや文字などをプリントした場合、通常のプリントモードで印字した場合と比べ、画質が劣る場合があります。
- バーコードの印字品質を保持するため、本機の印字スピードが通常より低下する場合があります。
- 適切なバーコードの印字品質を維持するため、早めにドラムカートリッジ / トナーカートリッジ交換することをお勧めします。
- 黒色以外で印字されたバーコードは、想定された印字品質を満たさないことがあります。バーコード生成アプリケーションソフトウエアなど、ご使用環境の設定の変更が必要になる場合がありますので、ご注意ください。

メールプリント機能使用上の注意 / 制限

■メールプリントについて

- ハードディスクの空き領域が少ない状態でメールを受信すると、受信動作を中止してもエラーコードは表示されません。

Google クラウドプリントの注意 / 制限

■機械使用上の注意 / 制限

- 本機能は、認証プリントおよびプライベートプリントに対応していません。
- 本機能を利用する場合、認証が必要な HTTP/HTTPS プロキシサーバーは使用できません。
- 本機能を利用する環境にファイアウォールが設置されている場合、"*.google.com" との通信を許可しなければなりません。

■プリント機能使用上の注意 / 制限

- Google クラウドプリント ver2.0 の仕様により、プリントする文書の白黒印刷、両面印刷、部数の設定などは無効になります。詳細な設定をして文書をプリントする場合は、Google クラウドプリント ver1.1 を利用して出力するか、弊社提供のプリンタードライバーやプリントユーティリティなどの別な手段を利用して出力してください。
- Google クラウドプリント ver2.0 の仕様により、文字やイメージが崩れた状態で出力される場合があります。
- プリント時に設定できる項目は、お使いのアプリケーションによって異なります。表示される設定項目は機械の仕様によらないため、お使いの機械によっては、設定が有効にならない場合があります。
- 本機能では、日本語および英語以外の言語を含んだ文書のプリントを保証していません。
- 本機能を利用する場合、プリント指示の順序と文書の出力順序が前後する場合があります。また、長時間機械を起動していない状態で、ユーザーが多数のプリント指示を行った場合は、出力順序が著しく異なる場合があります。
- 本機能を利用して出力された文書のユーザー名は、ジョブ履歴レポートで「Google Cloud Print」と記載されます。
- 本機能を利用して出力された文書名は、ジョブ履歴レポートで「Google　Cloud Print Job」と記載されます。
- 1台のコンピューター上で、Googleクラウドプリントver1.1とver2.0の両方にプリンターを登録することはできません。

拡張機能の設定について

本機には、パスワードを設定しないとご利用できない拡張機能があります。

利用できる拡張機能とパスワード

拡張機能	パスワード
組み込みプラグイン機能 *：従来のオプション商品「カスタマイズ拡張キット」と同等の機能です。	MEAHWDFBAWVS@

注記

- パスワードを設定し、拡張機能オプションを利用できるようにすると、機械のウォームアップ時間が通常よりも数秒長くかかります。

パスワードの設定手順は次のとおりです。

1 操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。

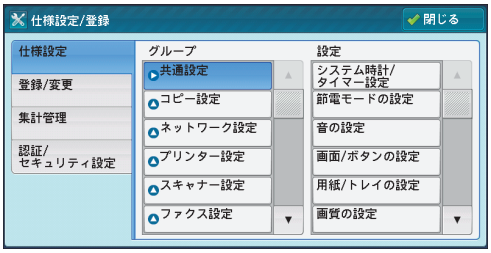
2 操作パネルの〈数字〉ボタン、または表示されるキーボードを使って、機械管理者の User ID を入力し、［確定］を押します。

補足

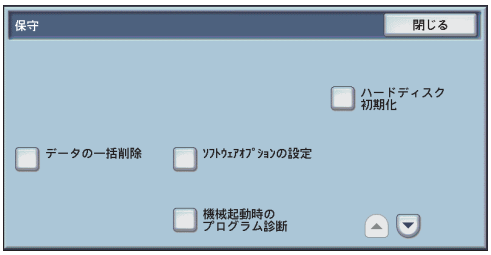
- パスワードの入力が必要な場合は、機械管理者の User ID を入力したあと、［次へ］を押し、パスワードを入力します。

3 メニュー画面で、［仕様設定 / 登録］を押します。

4 ［仕様設定］>［共通設定］>［保守］を選択します。



5 ［ソフトウェアオプションの設定］を選択します。



6 キーボードを使用して、利用する拡張機能のパスワードを入力します。

7 ［再起動］を押します。
「タッチパネルディスプレイの文字化け対応フォント」の設定は完了です。
「組み込みプラグイン機能」をご利用になる場合は、手順 8 以降も実施します。

8 機械の再起動が完了したら、CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- CentreWare Internet Services の起動方法については、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.358) を参照してください。

9 ［プロパティ］タブ >［セキュリティー］>［プラグイン / カスタムサービス設定］>［組み込みプラグイン機能］を開きます。

10 ［有効］のチェックボックスにチェックを付けて、［新しい設定を適用］をクリックします。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

11 ［再起動］をクリックします。
機械が再起動して、設定が完了します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

電話のかけ方 / 取り方

ファクス機能が利用できる場合の電話のかけ方 / 取り方について説明します。

電話のかけ方

オプションの受話器（ハンドセット）を使って、電話をかける方法について説明します。

電話のかけ方には、次の 2 つの方法があります。

- 受話器を上げてダイヤルする（オフフックダイヤル）
- 受話器を置いたままダイヤルする（オンフックダイヤル）

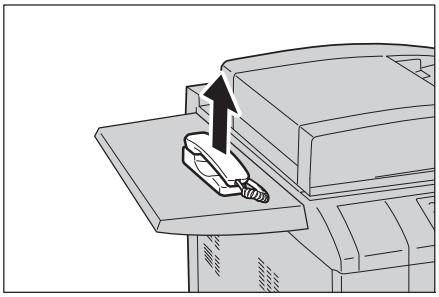
補足

- 受話器の代わりに、お手持ちの電話を使用できます。ただし、留守番電話の機能は使用できません。

オフフックダイヤル

受話器を上げてダイヤルする、オフフックダイヤルの方法について説明します。

1 受話器を上げます。
お手持ちの電話を使用している場合は、その受話器を上げます。



注記

- 節電中は、受話器を使って電話をかけられません。電話をかけるときは、〈節電〉ボタンを押して節電を解除してください。

2 宛先を指定します。

- 〈数字〉ボタン、短縮宛先番号、ワンタッチボタンなどで指定します。宛先表は使用できません。
- ［英 / 数］または［記号］を押して表示されるキーボードも使用できます。

補足

- 操作を終了する場合は、[閉じる（操作終了）]を押します。
- 回線種別がプッシュ回線に設定されているときは、[トーン（：）]は表示されません。
- ダイヤル回線を使用している場合に、トーンを送出するとき（プッシュ回線用のサービスを受けるとき）は、[トーン（：）]を押します。
- サービスの種類によっては、トーン送出を設定しても、サービスが受けられないことがあります。

3 相手に電話がかかったら、通話します。

4 通話終了後、受話器を戻します。

注記

- 受話器はきちんと戻してください。きちんと戻さないと受話器が外れたまま「話し中」の状態が続きます。

5 [閉じる（操作終了）]を押します。

オンフックダイヤル

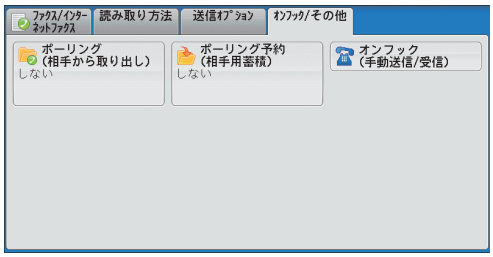
受話器を置いたままダイヤルする、オンフックダイヤルの方法について説明します。
ラインモニターの音量は、お客様の聞き取りやすい大きさに設定してください。

参照

- ラインモニターの音量は、仕様設定で変更できます。変更方法は、「ラインモニター音」(P.169)を参照してください。工場出荷時は、[小]に設定されています。

1 メニュー画面で[ファクス / インターネットファクス]を選択します。.

2 [オンフック / その他]タブを選択し、[オンフック（手動送信 / 受信）]を押します。



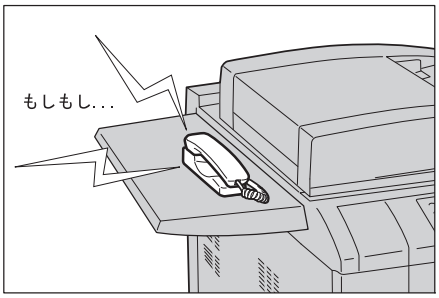
3 宛先を指定します。

- 〈数字〉ボタン、短縮宛先番号、ワンタッチボタンなどで指定します。宛先表は使用できません。
- ［英 / 数］または［記号］を押して表示されるキーボードも使用できます。

補足

- 操作を終了する場合は、［終了（回線切断）］を押します。
- 回線種別がプッシュ回線に設定されているときは、［トーン（：）］は表示されません。
- ダイヤル回線を使用している場合に、トーンを送出するとき（プッシュ回線用のサービスを受けるとき）は、［トーン（：）］を押します。
- サービスの種類によっては、トーン送出を設定しても、サービスが受けられないことがあります。

4 相手に電話がかかったら受話器を上げ、通話します。



5 通話終了後、受話器を戻します。

注記

- 受話器はきちんと戻してください。きちんと戻さないと受話器が外れたまま「話し中」の状態が続きます。

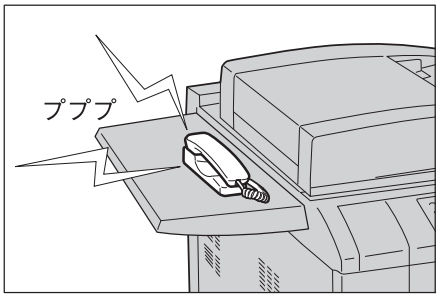
電話の取り方

オプションの受話器（ハンドセット）を使って電話を受ける方法について説明します。

補足

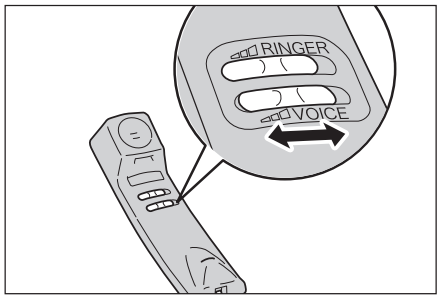
- 工場出荷時は、着信後すぐにファクスに切り替わるように設定されているため、電話の着信ベルが鳴りません。呼び出し音を鳴らす時間（ファクス切り替え時間）は、仕様設定で変更できます。変更方法は、「ファクス自動受信時の受信方式」(P.272) を参照してください。工場出荷時は、［指定時間後に受信］の時間が［0 秒］に設定されています。また、受話器の有無に関係なく、［指定時間後に受信］で呼び出し音が鳴るように設定できます。呼び出し音を鳴らす設定にすると、設定した時間の間、着信ベルが鳴るので、電話を取ることができます。

1 呼び出し音が鳴ったら受話器を上げ、通話をします。



補足

- 受話器から「ポー、ポー、ポー」などの発信音が聞こえた場合は、手動で受信してください。手動受信方法は、「ファクス受信モード」(P.134) を参照してください。



補足

- 受話器から聞こえる音量は、受話器の内側にある VOICE スイッチで調整します。

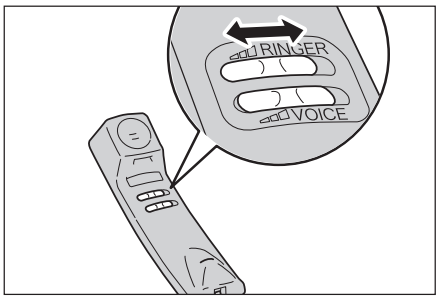
2 通話終了後、受話器を戻します。

注記

- 受話器はきちんと戻してください。きちんと戻さないと受話器が外れたまま「話し中」の状態が続きます。

呼び出しベル音量の調整

1 受話器の呼び出しベル音量は、受話器の内側にある RINGER スイッチで調整します。



通信管理レポート

通信管理レポートとは、送受信が正常に終了したかどうかを確認するためのレポートです。相手局名や通信結果 / 状態が発信と着信に分けて記録されます。

補足

- 通信管理レポートの着信時の相手先には、「ナンバー・ディスプレイ」で通知される番号を表示させることはできません。
- ApeosWare Management Suite（別売）を使用すると、通信管理レポートの内容をコンピューターに取り込めます。ApeosWare Management Suite については、ソフトウエアに付属のマニュアルを参照してください。

参照

- 通信管理レポートのプリント方法は、「レポート / リストの出力」(P.117) を参照してください。

項　目	内　容
No	発信、着信の連番がそれぞれ記録されます。
文書番号	通信を受け付けたときに、自動的に付けられる文書の番号が記録されます。
相手	通信した相手の情報が次の優先順位で記録されます。 ■発信時（短縮宛先使用時） ①宛先名 ②相手局名 ③ G3ID（スペース含む） ④電話番号 ⑤通信モード「ECM（または G3、SG3)」 IP ファクス（SIP）の場合 ④ SIP アドレス ⑤通信モード「IP Fax」、「IP Fax-ECM」、「IP Fax-SG3」 ■発信時（フルダイヤル使用時） ①相手局名 ② G3ID（スペース含む） ③電話番号 ④通信モード「ECM（または G3、SG3)」 IP ファクス（SIP）の場合 ③ SIP アドレス ④通信モード「IP Fax」、「IP Fax-ECM」、「IP Fax-SG3」 ■着信時 ①相手局名 ② G3ID（スペース含む） ③通信モード「ECM（または G3、SG3)」 IP ファクス（SIP）の場合 ③通信モード「IP Fax」、「IP Fax-ECM」、「IP Fax-SG3」 「相手」に印字される情報を、先端から 40 桁まで表示するか後端から 40 桁まで表示するかを設定できます。設定方法は、「通信管理レポート - 相手表示」(P.180) を参照してください。工場出荷時は、先端 40 桁を表示するように設定されています。
開始時刻	通信が開始された時刻が記録されます。 一括送信は、各文書の送信開始時刻が記録されます。
所要時間	通信が開始されてから終了するまでに要した時間、一括送信の場合は各文書の時間が記録されます。

項　目	内　容
ページ数	0 の場合は「-」で記録されます。 ■送信時 「/」より左は正常に送信完了した枚数、右は読み取った総ページ数が記録されます。手動送信の場合、総ページ数は記録されません。 ■受信 / ポーリング時 通信完了枚数だけが記録されます。 **補足** • 相手側の送信状況や、本機の設定によっては、［ページ数］が実際の出力枚数と異なることがあります。
モード	通信したときのモードが記録されます。 G3、ECM、SG3（Super G3）（左記以外の通信モードの場合表示されません。） IP ファクス（SIP）の場合 「IP Fax」または「IP Fax-ECM」
通信内容	以下の優先順位で通信の内容が記録されます。内容は重複して記録される場合もあります。 ■発信時 ①リモートサービス　②再送信　③親展 XXX ④同報 / 集信　⑤ポーリング　⑥中継同報指示 ⑦ファクス転送 ボックス XXX IP ファクス（SIP）の場合 ■発信時 ①再送信　②親展 XXX　③同報 / 集信　④ポーリング ■着信時 ①親展 XXX　②ポーリング　③ダイヤルイン ボックス XXX ④発信ファクス番号 ボックス XXX ⑤受信ライン ボックス XXX　⑥リモートメンテナンス IP ファクス（SIP）の場合 ■着信時 ①親展 XXX　②ポーリング　③受信ライン ボックス XXX XXX は、親展ボックス番号です。

項　目	内　容
通信結果	通信結果の内容が記録されます。 良好　　：正常終了したもの 話中　　：相手先が話し中で通信ができない、または応答がなかったもの 自動再送　：再送扱いになっていて再送回数を超えていないもの 中断　　：通信を中止したもの 要相手確認：通信中に相手方または回線網が原因と考えられるエラーが発生したもの 要再送信　：送信時のエラーにより、自動再送回数を超えているため、再度送信が必要なもの 要再受信　：ポーリング受信時のエラーにより、再度ポーリングの指示が必要なものまたは、受信中のエラーにより、相手側からの再送信を依頼する必要があるもの 要ケーブル確認： 回線が正しく接続されているか確認してください。 IP ファクス（SIP）の場合は、ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。 XXX-XXX：エラーコード 参照 • XXX-XXX（エラーコード）については、「エラーコード」（P.540）を参照してください。 •ネットワークケーブルの接続については、「Ethernet インターフェイスでの接続」（P.26）を参照してください。
合計ページ数	送受信の総ページ数が記録されます。

保守サービスについて

本機を安心してお使いいただくために、トータルサービス契約とスポット保守サービス方式の 2 種類の保守サービス方式があります。

トータルサービス契約

ドラムカートリッジ、トナーカートリッジなどの消耗品および保守サービス料金が含まれている保守サービス契約です。ただし、用紙代・ホチキス針代は含まれておりません。トータルサービス契約の有効期間は 5 年間です。

■機械の修理と点検

機械が故障した場合は、お客様のご要請により当社技術員が訪問し修理をいたします。また、必要に応じて故障箇所以外の点検・調整を実施いたします。

■トナーカートリッジなどの配送

機械をいつも正常な状態でご使用いただくために必要な、トナーカートリッジなどをお届けいたします。(用紙は除く)

■部品の交換

修理や点検で、部品の交換が必要な場合には、これを交換いたします。

スポット保守サービス方式

お客様のご要請の都度、当社営業時間内に保守サービスを有料でお引き受けする方式です。ドラムカートリッジ、トナーカートリッジなどの消耗品は、機械本体とは別にお買い上げいただきます。

補修用性能部品の保有期間について

弊社は本製品の補修用性能部品（機械の機能を維持するために必要な部品）を機械本体の製造終了後 7 年間保有しています。

EP システムについて

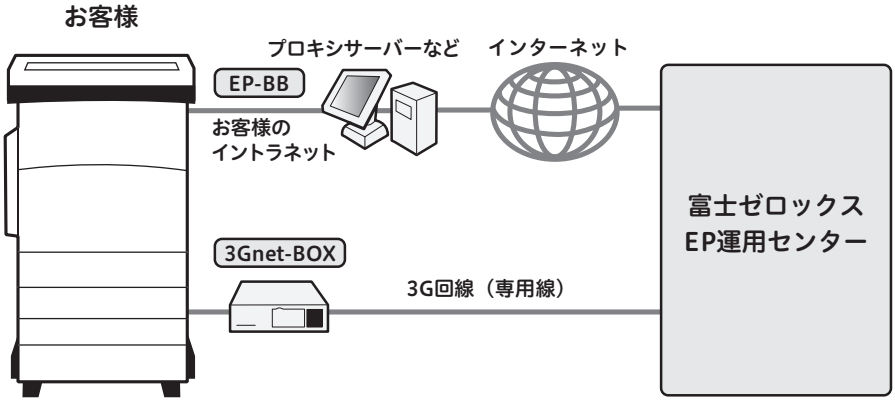
EP（エレクトロニック・パートナーシップ）とは、本機と弊社の EP 運用センターを結ぶことで、機械の管理業務を自動化するシステムです。

公衆回線を使用する場合と、インターネットを使用する場合があります。

本機で EP システムを使用する場合の操作について説明しています。

補足

- EP システムのサービスは、機械の電源が切られている状態ではご利用できません。
- EP システムは、一部の地域でご利用できない場合があります。適用については、担当の営業、または販売店にお問い合わせください。



EP システムで利用できるサービスは、次のとおりです。

■メーターカウントの自動検針

毎月、設定した日時に、メーターのカウントを機械が自動的に弊社に通知します。この締め時カウントは、メーター確認ボタンを押すとディスプレイで確認できます。

補足

- ［締め時カウント］を表示するには、カストマーエンジニアの設定が必要です。詳しくは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

■機械の点検 / 修理依頼

機械の点検や修理が必要になった場合、点検 / 修理の依頼を行うと、機械から弊社のカストマーコンタクトセンターに点検 / 修理依頼の連絡をします。連絡を受けると、必要に応じてカストマーエンジニアが訪問します。この操作は、機械を管理する機械担当者が行ってください。

■機械異常時の自動通報

機械に異常が発生した場合、機械は自己診断をして、自動的に弊社のカストマーコンタクトセンターに異常発生の通報をします。

通報を受けると、カストマーエンジニアが訪問します。

■機械消耗品の適時配送

トナーカートリッジなど、機械消耗品の使用数量を弊社に通知します。お客様の使用実績に基づき、機械消耗品を配送します。

■各種設定のリモート変更

機械の各種設定を、ご要望に応じて弊社からリモートで変更できます。設定内容の詳細については、弊社のカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

■ソフトウェアの更新

本機のソフトウエアのバージョンアップが必要になったときは、お客様ご自身の操作で、新しいソフトウエアをダウンロードして、ソフトウエアバージョンアップを行うことができます。

参照

- ソフトウエアバージョンアップについては、「ソフトウェアバージョンアップ」（P.182）を参照してください。

索引　※ →【　】のカッコ内はマニュアル中の用語です

記号・英数

1300Hz 無鳴動受信 276
1 通ごとのデータサイズ上限 286
1 度数の金額 338
8.5×11" 原稿の A4 縮小（仕様設定）.....273
Account ID の代替表記 337
Account ID の入力表示 337
ART EX フォーム登録リスト 120
ART EX フォームメモリー 249
ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー 249
ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト 121
ART IV ユーザー定義用メモリー 249
BMLinkS 設定 304
BMLinkS ネットワーク保存 389
BMLinkS プリント 365, 408
BMLinkS ポート 218
Bonjour ポート 215
BOOTP から取得 222
CentreWare Internet Services 356
CLJ5500 821
Cookie の使用 302
DHCP から取得 222
DHCP/AutoIP 222
DHCP/AutoIP から取得 222
DJ750C Plus 830
DocuWorks 署名 456
DocuWorks ダイレクトプリント 801
DocuWorks プリント設定リスト 122
EP システム 913
EP 診断 / 修理依頼 181
EP プロキシサーバー設定 228
ESC/P エミュレーションを使用する 783
ESC/P 設定リスト 121
ESC/P メモリー登録リスト 121
Ethernet インターフェイスでの接続 26
Ethernet 設定 220
FTP 392
FTP クライアントポート 216, 393
FTP 時のユーザー名 262
F コード通信（仕様設定）.....326
G3 ID（ファクス番号）（仕様設定）.....280
G3 回線種別（仕様設定）.....280
G3 ダイヤル種別（仕様設定）.....280
G3-ID の送出 -IP ファクス（SIP）（仕様設定）.270
G3-ID の送出 - ファクス（仕様設定）.....270
HDD の上書き消去 130
HP-GL/2 エミュレーション 830
HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー 249
HP-GL/2 設定項目一覧 833
HP-GL/2 設定リスト 121
HP-GL/2 メモリー登録リスト 121
HTTPS 441
HTTP プロキシサーバー 227
IC カード情報の確認 182
ID 印字 254
ID カードコピー選択時の倍率 210
IEEE802.1x 設定 245
IPP ポート 215, 373
IPsec 設定 244
IPv4-DNS 設定 223
IPv4-IP アドレス 223
IPv4-IP アドレス取得方法 222
IPv4- 受付 IP アドレス制限 223
IPv4- ゲートウェイアドレス 223
IPv4- サブネットマスク 223
IPv6-DNS 設定 224
IPv6- 受付 IP アドレス制限 225
IPv6- 自動設定アドレス 224
IPv6- 手動 IP アドレスプレフィクス 224
IPv6- 手動ゲートウェイ 224
IPv6- 手動設定 IP アドレス 224
IP アドレス 115
Kerberos サーバー設定 236
LDAP サーバー /
　ディレクトリサービス設定 236
LPD 369
LPD のプリント順序 256
LPD ポート 214, 369
OCR フォントのグリフ 256
OHP トレイ - 1 ～ 3 段目 204
PCL エミュレーション 821
PCL 設定項目一覧 824
PCL 設定リスト 120
PCL マクロ登録リスト 120
PC-PR201H2 803

PC-PR201H エミュレーション 803
PC-PR201H 設定項目一覧 805
PC-PR201H 設定リスト 121
PC-PR201H メモリー登録リスト 121
PDF/DocuWorks/XPS の署名設定 243
PDF 署名 456
PDF 設定リスト 120
POP3 .....384, 434
POP3 サーバー設定 234
Port9100 369
Port9100 ポート 216, 369
PostScript 使用メモリー 248
PostScript のフォント置き換え 255
PostScript の用紙選択 255
PostScript フォントリスト 122
PostScript 論理プリンター登録リスト 121
PS フォント未搭載時の処理 255
RARP から取得 222
S/MIME 384, 434
S/MIME 設定 242
S/MIME 用証明書 322
SIP 設定 229
SMB 392
SMB サーバー設定 241
SMB ポート 215, 393, 395
SMTP 384, 434
SMTP サーバー設定 234
SNMP ポート 216, 401
SNMP ポートの設定 402
SOAP ポート 219, 401, 443, 451, 459
SSL/TLS 設定 241
SSL3.0 の使用 303
SSL 証明書検証失敗時の動作 303
T.38 設定 233
TCP/IP 369
TCP/IP- 動作モード 221
ThinPrint - ポート 219
TIFF 設定リスト 120
TIFF の形式 264
TIFF 論理プリンター登録リスト 121
TLS1.0 の使用 302
UPnP ディスカバリーポート 217
URL 送信 378
URL 送信の URL 生成方法 265
URL 送信の件名（初期値）.....260
URL 送信の最大蓄積サイズ 265
URL 送信の文書保存期間 265
USB 367
USB インターフェイスでの接続 24
USB ポート 214, 367
User ID 認証 467
User ID の代替表記 336, 345
User ID の入力表示 337, 345
UUID 印字 190
VoIP ゲートウェイ登録リスト 124
WebDAV ポート 219
Web ブラウザー 356
Web ブラウザー設定 302
WSD- ポート 217
XPS PrintTicket 処理 255
XPS 署名 456

ア

合紙 / 配布用トレイ - 1 ～ 3 段目 204
合紙挿入（初期値）.....209
アウトラインフォント 766
アクセス制限 / パスワード 306
アップダウンボタンの操作 172
宛先確認 - ファクス / インターネットファクス .....
.....171
宛先確認 - メール 171
宛先グループ登録（仕様設定）.....328
宛先指示方法の制限 201
宛先種別（仕様設定）.....321
宛先の再入力 269
宛先表（本体）を登録する
　→【宛先表登録】.....318
宛先表登録 / 変更の制限 201
宛先表登録（短縮宛先登録）（仕様設定）.....318
宛先表によるファクス転送制限（仕様設定）....283
宛先（メールアドレス）（仕様設定）.....321
宛先名（仕様設定）.....321
アノテーション（初期値）.....208
アノテーション - スタンプ位置微調整 211
アノテーションスタンプ登録 212
アノテーション - スタンプの透過度 211
アノテーション - 日付位置微調整 211
アノテーション - ページ位置微調整 211
アノテーション - 文字付ページ位置微調整 211
暗号化 439
暗証番号（パネル）

→【機械管理者パスワード】.....340

イ

異サイズ原稿の裏面コピー 210
異常警告音 169
異常終了音 168
異常終了後のプリント処理 253
異常入力音 168
イメージエンハンス 178
イメージログ管理 190, 192
イメージログ作成 192
イメージログ作成対象 192
イメージログ転送 193
色 175
色空間機能の表示 264
色空間（仕様設定）.....259
印刷の濃度（複製管理）.....184
印字位置（UUID 印字）.....190
印字位置の微調整（UUID 印字）.....190
印字する日付の形式（アノテーション）.....183
印字する日付の形式（複製管理）.....183
印字品質のトラブル→【画質のトラブル】.....501
インターネット印刷 373
インターネットサービスポート 218, 401
インターネットファクス 378
インターネットファクス受信文書転送 -1 290
インターネットファクス動作制御
（仕様設定）.....281
インターネットファクスプロファイル
（仕様設定）..... 268, 327
インターフェイス従属 803

ウ

裏写り防止（仕様設定）.....259
裏写り防止レベル 263
うら表紙トレイ - 1 ～ 3 段目 204
うら面の印字位置（UUID 印字）.....190

エ

エミュレーションについて 783, 803, 821, 830
エミュレーションモード 783
エラーコード 540
エラー情報 135
エラー通知メールの自動プリント 285
エラー履歴レポート 118, 135
エリア判定モード 843
延長トレイ 66

オ

オートレイアウト 842, 843
音の設定 168
オフセット排出 194
オフフックダイヤル 905
おもて表紙トレイ - 1 ～ 3 段目 204
折り目あり分割製本のオフセット 195
オンデマンド印刷の有効時間 166
オンフックダイヤル 906

カ

カード認証 467
カード番号 333
解析パスワード 186
回線 SIP G3 ID 281
回線 SIP 発信元名 280
回線種別 280
外部アクセス設定 297
外部アクセスバージョンの選択 302
開封確認（MDN）機能の使用 285
開封確認（MDN）要求への応答 285
外部取り出し後の文書削除 289
外部認証 467
カウンタ表示切り替え 211
課金情報 - 深夜料金（仕様設定）.....327
課金情報 - 昼間料金（仕様設定）.....327
課金情報 - 夜間料金（仕様設定）.....327
課金データリスト 125
各機能の集計 336
隠し印刷初期値（複製管理）.....183
隠し印字の設定 187
拡張機能設定リスト 122, 124
画質 / ファイルサイズ 260
画質が悪い 501
画質の設定（仕様設定）.....178
画質のトラブル 501
カストマーエンジニアの操作制限 199
カット紙全面倍率値 815
紙づまり→【用紙が詰まった場合】.....670

紙づまり発生時のプリント処理 253
画面輝度調整 171
画面 / ボタンの設定 169

キ

キーボード入力制限 172
機械確認 114
機械管理者 ID 339
機械管理者情報の設定 339
機械管理者のコピー集計確認 335
機械管理者パスワード 340
機械管理者モード 142
機械管理ユーザーの認証失敗による
　アクセス拒否 347
機械構成 116
機械本体のトラブル 494
奇数ページ文書の画面処理 195
基点音 168
機能コード 303
機能制限 332
機能設定リスト（共通項目）
.....119, 120, 122, 123
機能別カウンターのリセット 139
機能別カウンターレポート 126
基本スキャン画面 257
キャッシュの使用 302
強制アノテーション 188
強制印字の一時解除 351
強制排出 804, 823, 831
強制複製管理 - クライアントプリント 185
強制複製管理 - コピー 184
強制複製管理 - ボックスプリント 185
強制複製管理 - メディアプリント 185
強制ペーパーセキュリティー 186
共通設定 163
共有名（SMB のみ）.....323

ケ

ゲストの送信者アドレス 286
権限グループ登録 344
原稿送りトレイの上昇 200
原稿ガイド位置の確認 200
原稿サイズ 842
原稿サイズボタン 211
原稿セット向き指定（初期値）.....207, 259
原稿の画質 258
原稿の画質 - うす紙原稿 211
原稿の画質（仕様設定）.....267
原稿の画質（初期値）.....205, 258
言語切り替え 171
検索時間の上限 304
検索パケット有効期限（TTL）.....304

コ

合計データサイズ上限 286
固定倍率値 813
固定倍率ボタン 212, 263, 278
コピー位置（初期値）.....207
コピー機能設定初期値 204
コピー集計管理レポート 127
コピー設定 119, 203
コピーできない 507
コピー動作制御 209
コピー濃度（初期値）.....205
コピー部数の制限 211
コピー利用時のトラブル 507
コマンド切り替え 803
コメント登録（仕様設定）.....329
コメント登録リスト 124
コントラスト（仕様設定）.....259

サ

サービスへのアクセス 342
サイズ検知切り替え 196
最大蓄積サイズ（仕様設定）.....325
最大蓄積ページ数 210, 263
最大蓄積ページ数（仕様設定）.....275
彩度 263
索引文字（仕様設定）.....324
サマータイム 166
サムネール（初期値）.....258
左右わく消し量（仕様設定）.....273
サンプルコピー 208
サンプルリストの出力（複製管理）.....185
サンプルリストの出力
　（ペーパーセキュリティー）.....188

シ

地色除去（初期値）..... 205, 259
地色除去方式（白黒コピー）（仕様設定）.....178
地色除去方式（スキャナー）（仕様設定）.....178
地色除去レベル 263
自局情報（仕様設定）.....279
自局名（仕様設定）.....279
仕切り合紙用トレイ（初期値）.....207
時刻 164
時刻サーバー（NTP）と同期 164
時刻サーバーの接続間隔 164
時刻指定（仕様設定）.....325
システム時計 / タイマー設定 163
システムのバージョン情報 115
次世代ネットワーク（NGN）設定 229
実行完了画面のジョブ表示 171
指定可能な最大送信先数 284
自動解除時のトレイ 210
自動回転送信（仕様設定）.....270
自動画像回転（初期値）.....207
自動切り替え 803
自動縮小受信（仕様設定）.....272
自動受信 134
手動送受信初期値 271
自動的にプリントするリスト 129
自動的にプリントするレポート 129
自動トレイ選択 60
自動トレイ動作制御 177
自動リセット 165
自動リセット後の画面 170
自動リセット事前通知音 168
シャープネス（初期値）..... 205, 259
写真画質の擬似階調方式（仕様設定）.....273
集計管理 330
集計管理機能の運用 335
集計管理できる情報 469
集信レポート 130
終了時の永続 Cookie 削除 302
終了時のキャッシュ削除 302
受信回線別排出先（仕様設定）.....278
受信回線別ボックスセレクター
（仕様設定）..... 274, 277
受信紙宣言（仕様設定）.....272
受信時の PJL 命令制御 348
受信する用紙を 1 枚にする
→【受信紙宣言（仕様設定）】.....272
受信する用紙を 1 枚にする
→【ページ分割しきい値（仕様設定）】.....272
受信制御 349
受信制限番号 275
受信できない 519
受信パスワード（仕様設定）.....280
受信バッファ -IPP 250
受信バッファ -LPD 249
受信バッファ -Port9100 250
受信バッファ -USB 249
受信バッファ - パラレル 249
受信プロトコル 383, 433
受信文書の排出先（仕様設定）.....282
受信文書の排出先変更
→【受信回線別排出先（仕様設定）】.....278
受信文書の保存先 / 排出先（仕様設定）.....276
受信メールシートのプリント 284
受信メールシートのプリント（仕様設定）.....282
出力サイズボタン 262
出力時の PJL 命令制御 348
出力ファイル形式（初期値）.....258
手動受信 134
取得失敗時の送信者アドレス 286
取得成功時の送信者アドレス 286
受話器→【ハンドセット】.....905
準備完了音 168
省エネ→【節電機能について】.....28
使用可能用紙 53
上下わく消し量（仕様設定）.....273
上限ページ数 332
上限ページ数の変更 332
使用済み製品回収情報シート 128
仕様設定メニュー一覧 147
使用できない用紙 58
証明書 440
証明書失効確認の設定 246
証明書の一括削除 / 初期化 183
消耗品 84
消耗品情報画面の表示 172
消耗品等の状態通知 378
初期表示画面 169
初期表示言語 171
ジョブ確認 / 通信管理レポート 118
ジョブ自動解除 165
ジョブ終了時のメール通知設定 193

ジョブ操作の設定 352
ジョブチケット用メモリー 249
ジョブの追い越し許可 195
ジョブの終了通知 379
ジョブの排出 804, 831
ジョブフローエラーレポート 130, 180
ジョブフロー検索キーワード登録 318
ジョブフロースキャン 389
ジョブフロー設定 291
ジョブフロー登録 308
ジョブフローの関連付け 307
ジョブフローの削除 318
ジョブフローの新規作成 311
ジョブフローの複製 318
ジョブフローの変更 318
ジョブメモリー登録音 169
ジョブメモリー呼び出し完了音 169
ジョブ履歴レポート 118, 179
シリアル番号 115
仕分け（初期値） 207
親展受信情報の表示優先順（仕様設定） 275
親展受信レポート 129
親展受信レポート（仕様設定） 179
親展通信（仕様設定） 325
親展ボックス登録リスト 125

ス

スキャナー（マイフォルダ保存） 388
スキャナー（PC 保存） 388
スキャナー（URL 送信） 389
スキャナー（USB メモリー保存） 389
スキャナー機能設定初期値 258
スキャナー集計管理レポート 128
スキャナー設定 122, 257
スキャナー（ボックス保存） 388
スキャナー（マイフォルダ保存） 388
スキャナー（メール送信） 388
スキャナー（メディア保存） 389
スキャナー利用時のトラブル 524
スケール 843
スケールモード 844
すべての登録内容を削除 333
スリープモード 28

セ

制限紙 57
正常終了音 168
正常入力音 168
清掃 105
製本（初期値） 209
セキュリティ設定 241
接続先の登録 299
設定復元ツール 111
節電機能について 28
節電モード移行時間 166
全文書選択時のプリント順 296

ソ

送受信ドメイン制限リスト 122, 124
送信画質（仕様設定） 267, 324
送信経路 281
送信シート（仕様設定） 324
送信者アドレスを CC に追加 286
送信者アドレスを宛先に追加 286
送信中画面表示（仕様設定） 267
送信できない 514
送信濃度（仕様設定） 267
送達確認方式（仕様設定） 282
送達確認メールの自動プリント 285
ソフトウェアオプションの設定 181
ソフトウェアダウンロード 200
ソフトウェアバージョン 117
ソフトウェアバージョンアップ 182

タ

タイムゾーン 165
ダイヤル種別 280
大容量給紙トレイの用紙サイズを変更する 74
立ち上げメモリー 133
短縮宛先登録 318
短縮番号入力の自動確定 201

チ

蓄積時の暗証番号最小桁数 296
蓄積プリント文書の保存設定 294
蓄積文書リスト 119

注意 / 制限事項 861
中継同報（仕様設定）.....326

ツ

通信インターバル（仕様設定）.....271
通信管理レポート 118, 909
通信管理レポート - 相手表示 180
通信管理レポート - カード番号 180
通信管理レポート（仕様設定）.....179
通信モード（仕様設定）..... 268, 324

テ

データの暗号化 198
データの一括削除 181
データランプの点灯パターン 201
定期交換部品 84
定形化時のサイズしきい値 289
低電力モード 28
デジタルコードの設定 186
デジタル署名 448
デバイス証明書 440
デバイスへのアクセス 342
点検 / 修理依頼 180
転送プロトコル 261, 323
転送モニターレポート 179
電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター
（仕様設定）..... 274, 276

ト

同一宛先一括送信（仕様設定）.....271
等倍微調整 210
同報時の通信モード（仕様設定）.....282
同報時のプロファイル 281
同報 / 集信レポート（仕様設定）.....179
同報レポート 129
同報レポートの出力→【同報レポート】.....129
同報レポートの出力中止→【同報レポート】....129
登録 1 ～ 3 ボタン 170
登録宛先リスト 123, 124
登録内容の削除 / 集計リセット 334, 343
登録 / 変更 305
登録 / 変更画面からのトレイ設定変更 176
特殊用紙 54
トナーカートリッジ 84, 86
トナー回収ボトル 84, 89
トナー残量警告音 169
トラブル 492
トラブル対処 491
ドラムカートリッジ 84
取消し文書の未送信レポート（仕様設定）.....179
取り出し時の画質 / ファイルサイズ 290
トレイ 5（手差し）定形サイズボタン 177
トレイセット時の用紙変更画面表示 176

ナ

内線設定 269
中とじホチキスカートリッジ 99

ニ

入力情報の照合 336
認証画面の自動表示 170
認証システム 235
認証失敗の記録 345
認証情報の設定 344
認証 / セキュリティ設定 339
認証送信時の確認画面 301
認証登録ユーザー 464
認証の種類 466
認証の設定 341
認証 / プライベートプリントの設定 348
認証プリントに保存 351
認証方式 341
認証未登録ユーザー 464
認証ユーザー名の記載（PDF）.....265
認証ユーザー名へのドメイン付加 247

ネ

ネット集計管理 335, 468
ネットワーク設定 213

ハ

バーコード 805
ハードクリップエリア 840
ハードディスク初期化 181
ハードディスクの上書き消去 352

背景パターン（複製管理）.....184
背景パターン（ペーパーセキュリティー）.....188
排出面 208
排出面 - 逆順排出の表示 211
排出面 - 自動（1 枚）の設定 211
配送 / 開封確認（仕様設定）.....268
倍率選択（初期値）.....205
倍率値一覧表 813
倍率ボタン - 3、4 段目 204
白紙スキップ（仕様設定）.....268
発信元記録（仕様設定）.....268
発信元名（仕様設定）.....279, 280
バナーシート出力 254
バナーシートトレイ 255
バナーシートのオフセット出力 254
針がつまった 722
パンチダストボックス 102
ハンドセット 905

ヒ

非通知番号の受信制限 275
日付 163
非定形文書転送時の定形化 289
秘密情報の暗号化キー 199
表示する機能 203
表示するジョブフロー 310
表示するファイルの種類 304
表紙付け（初期値）.....209
表示できる漢字 761
標準紙 52

フ

プールサーバーの使用 291
プールサーバーのログイン方法 291
ファクス課金データ設定（仕様設定）.....338
ファクス自動受信時の受信方式 272
ファクス集計管理レポート 128
ファクス受信時の音→【呼び出しベル音量】....908
ファクス受信制限リスト 124
ファクス受信モード 134
ファクス受信モード（仕様設定）.....272
ファクス初期表示画面（仕様設定）.....266
ファクス設定 123
ファクス設定（仕様設定）.....266
ファクス送信強制終了時の文書（仕様設定）....271
ファクス転送時の上限データサイズ
（仕様設定）.....283
ファクス転送時の発信元記録（仕様設定）.....283
ファクス保存文書の自動削除（仕様設定）.....271
ファクス未送信時の文書保存（仕様設定）.....271
フィニッシャーの調整 182
フォーム合成 805
フォーム削除 251
フォントリスト 122
複製管理 183
複製制限コードを埋め込む 187
プッシュホン回線
→【G3 ダイヤル種別（仕様設定）】.....280
プライベートプリントに保存 350
プラグイン設定 194
プリセットボタンの設定 204
プリンター集計管理レポート 128
プリンター設定 119, 248
プリンターモード 130
プリンター利用時のトラブル 511
プリント可能領域 252
プリント起動 165
プリント禁止の設定 165
プリント時の確認画面表示 295
プリント時の削除確認画面表示 289
プリントジョブの追い越し 195
プリントできない 511
プリントの認証に従う 349
プリントファイル機能の使用 303
プリント待ちジョブの排出 823
プリント用紙サイズ初期値 195
プロキシサーバー指定方法 227
プロキシサーバー設定 226
プロキシサーバーの使用 226
プロキシサーバーを使用しないアドレス 227
プロトコル設定 220
分割送信時の分割数上限 286
文書取り出し後の削除 307
文書の保存期間 294
文書プリント画面 293

ヘ

ページ合成受信（仕様設定）.....273
ページ分割しきい値（仕様設定）.....272

ペーパーセキュリティー 185
ペーパーセキュリティーの検出 186
ペーパーセキュリティーの初期値 187
ペーパーマージン 843

ホ

ポート設定 213
ポーリング予約の発信元記録（仕様設定）.....270
ポーリング予約文書の自動削除（仕様設定）....270
保守 180
保守サービス 912
保存期間経過文書の削除 307
保存時の認証ユーザー 261
保存場所 323
保存文書設定 294
ホチキスカートリッジ 99
ホチキスカートリッジが外れたら 731
ホチキスがうまく留められない 720
ホチキス針が詰まった 722, 726, 728
ホチキス針 84
ボックス削除 308
ボックスセレクター優先度（仕様設定）.....274
ボックスセレクターリスト 124
ボックス登録 305
ボックス名称 306
本体集計管理 468
本体認証 466
本体パネルのパスワードの使用 347
本体メールアドレス 226

マ

まとめて 1 枚（N アップ）（初期値）.....207

ミ

未送信レポート 129
未送信レポート（仕様設定）.....179
ミックスサイズ原稿送り（初期値）..... 205, 259
ミックスサイズ原稿読み取りモード
（仕様設定）.....275
未登録フォーム指定時の処理 253
未認証者の送信者アドレス 286
ミリ / インチ切り替え 197

メ

メーター確認 137
メール 378
メール / インターネットファクス設定 284
メール / インターネットファクス
送信動作制御 284
メールアドレス 383, 433
メール受信 432
メール受信プロトコル 246
メール受信 - ポート 216
メール送受信設定 234
メール送信 432
メール送信先の編集 287
メール送信 - ポート 217
メール通知 378
メール通知サービス - ポート 217
メールの宛先を制限する 201
メールの暗号化 448
メールの件名（初期値）.....260
メールの分割方式 285
メールプリント 378
メールプリントの排出先 247
メディアプリント設定 293
メニュー画面の機能配列 170
メニュー画面の補助機能配列 170
メモリーオーバーフローの処理 209, 263
メモリー設定 248
メモリー呼び出し 131
メモリオーバフローの処理 274

モ

文字 / 写真分離レベル 178
文字認識（OCR）（初期値）.....260
文字認識時の文字部分圧縮 261
文字認識する言語 261
文字認識のページ向き 265
文字の入力方法 48
文字 / 背景コントラスト（複製管理）.....184
文字 / 背景コントラスト
（ペーパーセキュリティー）.....188
文字列初期値（複製管理）.....184
文字列初期値（ペーパーセキュリティー）.....187
文字列登録（ペーパーセキュリティー）.....188
文字列の大きさ（複製管理）.....184

文字列の登録（強制アノテーション）.....189
モニターレポート 129
モニターレポート（仕様設定）.....268

ユ

ユーザー登録 / 集計確認 330, 343
ユーザー入力項目 336
ユーザーの利用制限 332
ユーザー別集計管理 126
ユーザー別メーター確認 138
ユーザー用紙属性の名称設定 175

ヨ

用紙ガイドの位置を移動する 74
用紙が詰まった場合 670
用紙切れ警告音 169
用紙サイズ 175
用紙サイズを変更する 73
用紙種類 175
用紙種類の優先順位 176
用紙種類不一致時の処理 252
用紙種類を変更する 80
用紙選択画面の補助属性表示 176
用紙選択（初期値）.....205
用紙トレイ 3 に用紙をセットする 63
用紙トレイ 4 に用紙をセットする 64
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする 66
用紙トレイ 6 の用紙サイズを変更する 74
用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定 175
用紙トレイの状態を確認する 117
用紙 / トレイの設定 175
用紙トレイの優先順位 176
用紙トレイボタン - 2 ～ 5 段目 204
用紙について 50
用紙の置き換え 252
用紙をセットする 60
呼び出しベル音（仕様設定）.....169
呼び出しベル音量 908
読み込み終了後の画面表示 264
読み込み濃度（初期値）.....259
読み取り解像度（初期値）.....259
読み取りサイズボタン 262
読み取りサイズボタン（仕様設定）.....279

ラ

ラインモニター音（仕様設定）.....169

リ

リストをプリントする 109, 117
リダイヤル回数（仕様設定）.....271
リダイヤル間隔（仕様設定）.....271
両面 / 片面選択（初期値）.....205
両面プリント（仕様設定）.....273

ル

累積ページ数のリセット 334

レ

レイアウトテンプレートの関連付け 189
レイアウトテンプレートの削除 189
レポート出力ボタンの表示（仕様設定）.....178
レポート設定 178
レポートの両面プリント 180
レポートをプリントする 109, 117

ロ

ログ管理サーバー 193

ワ

わく消し（初期値）.....260
わく消し量（初期値）.....260

「困った！」が解決しないときは

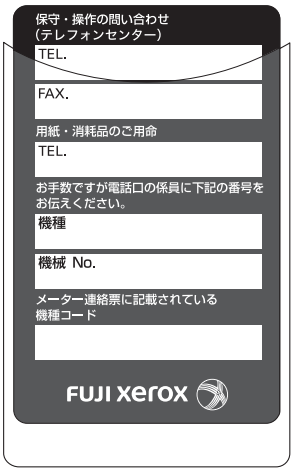
保守・操作・修理（内容・期間・費用など）のお問い合わせ、消耗品のご注文は、カストマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。

電話番号は、機械本体に貼付のカードやシールに書かれています。

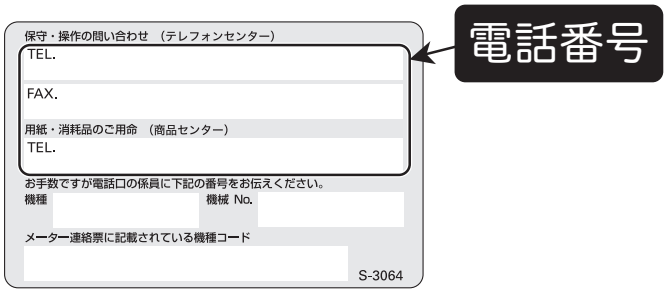
受付時間　土曜、日曜、祝日を除く **9時 ～ 17時30分**（一部の地域では異なります）

電話番号　機械本体の「貼付カード」をご確認ください。

カードの例 ❶



ここに書いてあります



カードの例 ❷

- カードは、名刺くらいの大きさです。
- 色やイメージが、イラストと異なる場合もあります。
- 問い合わせ先がわからない場合は、お客様相談センターで電話番号を確認してください。

- 本機を廃棄する場合は、弊社の営業担当者にご連絡ください。

ご意見やご相談の受付窓口

お客様相談センター　電話：0120-27-4100（通話料無料）
FAX：0120-05-5035（通話料無料）

- フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。

土、日、祝日および弊社指定休業日を除く　9時～12時、13時～17時
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

商品全般に関する情報

公式サイト　URL https://www.fujifilm.com/fb/

- 商品全般に関する情報、最新ソフトウェアなどを提供しています。

◎ この取扱説明書は、再生紙を使用しリサイクルに配慮して製本されています。不要となった際は回収、リサイクルに出しましょう。

2025年 7月　帳票番号：ME7131J1-6　1版
富士フイルムビジネスイノベーション株式会社